第 5 章 発掘調査の成果（検 2・3 面）古墳時代後期～古代

第 1 節　概要と表土等の出土遺物

（1）概要

本章では、検 2・3 面で確認された古墳時代後期～古代（奈良・平安時代）の遺構・遺物について記述する。検 2・3 面の認識については、第 3 章第 2 節について述べたように調査範囲中央を南北に貫流する旧河道跡（00900NR・01700NR など）の右岸（東半部）と左岸（西半部）で差異がある。旧河道跡は、検 1 面においては完全に埋没した存在であったが、検 2・3 面ではそれが機能していた段階であり、その周囲における人間活動に影響を与えている。

名城公園遺跡における古墳時代後期～古代の遺構は、基本的に集落のものである。その内容は、建物として竪穴建物を中心に若干の掘立柱建物があり、その周囲の溝、さらに旧河道に対して食生活の残滓を廃棄したとみられる貝層がある。そして集落の最末期となる奈良時代初め頃には、旧河道から分岐する大溝が開削される。また廃絶した建物が埋没した後に開墾された耕作地（畝溝）が確認されている。

本章ではまず、表土掘削時から各検出面において確認された遺物の様相から提示し、ついで集落の最末期に掘削された大溝についてその時期を検討する。その後、①集落の建物跡、②集落を取り巻く溝、③貝層についてそれぞれ遺構番号順に提示する。したがって建物遺構については旧河道の右岸と左岸を交錯したかたちで報告することをあらかじめ断っておく。なお、耕作地については、該当位置の竪穴建物跡において順次ふれていくことにする。

当該期における遺物の構成は、須恵器と土師器がほとんどを占める。須恵器は窖窯で焼成することから陶器に分類することができるが、中世以降の陶器と時期や性格が異なる焼きものであることから本書では土師器とともに土器として一括する。この土器に対してわずかに金属製品（耳環）や石製品（砥石）、木製品がみられる。第 6 章で示す古墳時代中期より古い段階の須恵器や土師器との峻別は難しいが、名城公園遺跡で出土した須恵器の総重量は約 793.0kg、土師器は約 1142.8kg である。なお、第 5 章・第 6 章の遺物番号は E1001 ～を付与している。

（2）表土および各検出面における出土遺物

表土・撹乱出土の土器　表土掘削時であるから近世の遺物などとともに出土したものである（図 108）。したがって本来埋蔵されていた遺構からかなり移動している可能性が高い。1001 は須恵器の台付鉢の鉢部になるとみられる。直立しわずかに外反する口縁部は長く、その下の膨らみがある胴部には波状文が施される。焼成は硬質で色調は灰色である。全形は推測するしかないが胴部の下に台部が付くものと思われる。焼成具合などから猿投窯産と考えられるが具体的な生産窯は不明である。そのため時期も特定しがたいが 5 世紀末～ 6 世紀中葉と考えておきたい。1002 は須恵器の器台、1003 は須恵器鍋。1006 は須恵器鉢の底部に別の杯などが釉着している。

1007 は須恵器の短頸壺で底部に回転糸切痕があり、8 世紀後半代か。1008 は土師質の土製品で、移動式カマドの裾部とみられる。裾を若干地面から持ち上げる突起状の脚の部分で全体的に土手状となっている。1012 は須恵器瓶類の底部で 8 世紀代。1017 は土師器ハケ甕で外面にハケメ調整、内面はナデ調整、口縁部はくの字からやや外反する形態。1018 は古墳時代前期の土師器高杯脚部。1021 は須恵器の壺、無台で底部も丸くリンゴ形にロクロ成形している。上部からの降灰による自然釉が濃く掛かっている。

検 1 面出土の須恵器・土師器　検 1 面であることから中・近世に相当する標高や包含層から出土した土器群である（図 109・110）。須恵器が大半を占めるが、その時期幅は古墳時代中期～平安時代初頭と広い。1024 ～ 1027 は須恵器の杯蓋で H-10 号窯式期が主体である。1024 は本来正円形のものが焼成段階で横方向からの圧力で一部が直線的になるほど歪んでいる。全形が不明ではあるが、片口状あるいは舟形になるように意図的に

歪ませている可能性がある。こういった資料は旧河道跡 00900NR からの出土品に顕著である（第 6 章で後述）。1030 ～ 1033 は杯身で、小口径（直径 9 ～ 12cm）から大口径（直径 15cm 以上）までさまざまである。前者は概ね H-10 号窯式期、後者は H-61 号窯式期である。ただし小口径の中には口縁が内傾するもの（1034）があるが、こちらは 7 世紀代まで下るものである。ちなみに 1034 は口縁に釉着があり蓋などを重ねた状態で焼成したと考えられる。1035・1036 は高杯の蓋、1037 ～ 1045 は高杯である。脚部の大半は透かしがないが 1041 のように縦長の透かしのあるものも含まれる。1046 は無蓋の台付鉢。1048・1049 は須恵器蓋で陣笠形をした型式で 8 世紀後半、1050 は 8 世紀前半。1051・1052 は有台の杯、1053・1054 は直線的な立ち上がりの杯で無台、これらも 8 世紀代である。1055 は瓶の口縁部で 6 世紀代。1056 は小型の長頸瓶で胴部の張り具合から 8 世紀半ばとみられる。1057 は浄瓶で仏具の一種である。浄瓶は 8 世紀後葉～ 9 世紀代に生産されるが、9 世紀代は灰釉陶器での生産となるため比較的初期段階（O-10 号窯式期）と考えられる。1060 はミニチュアの瓶類、1062 は面

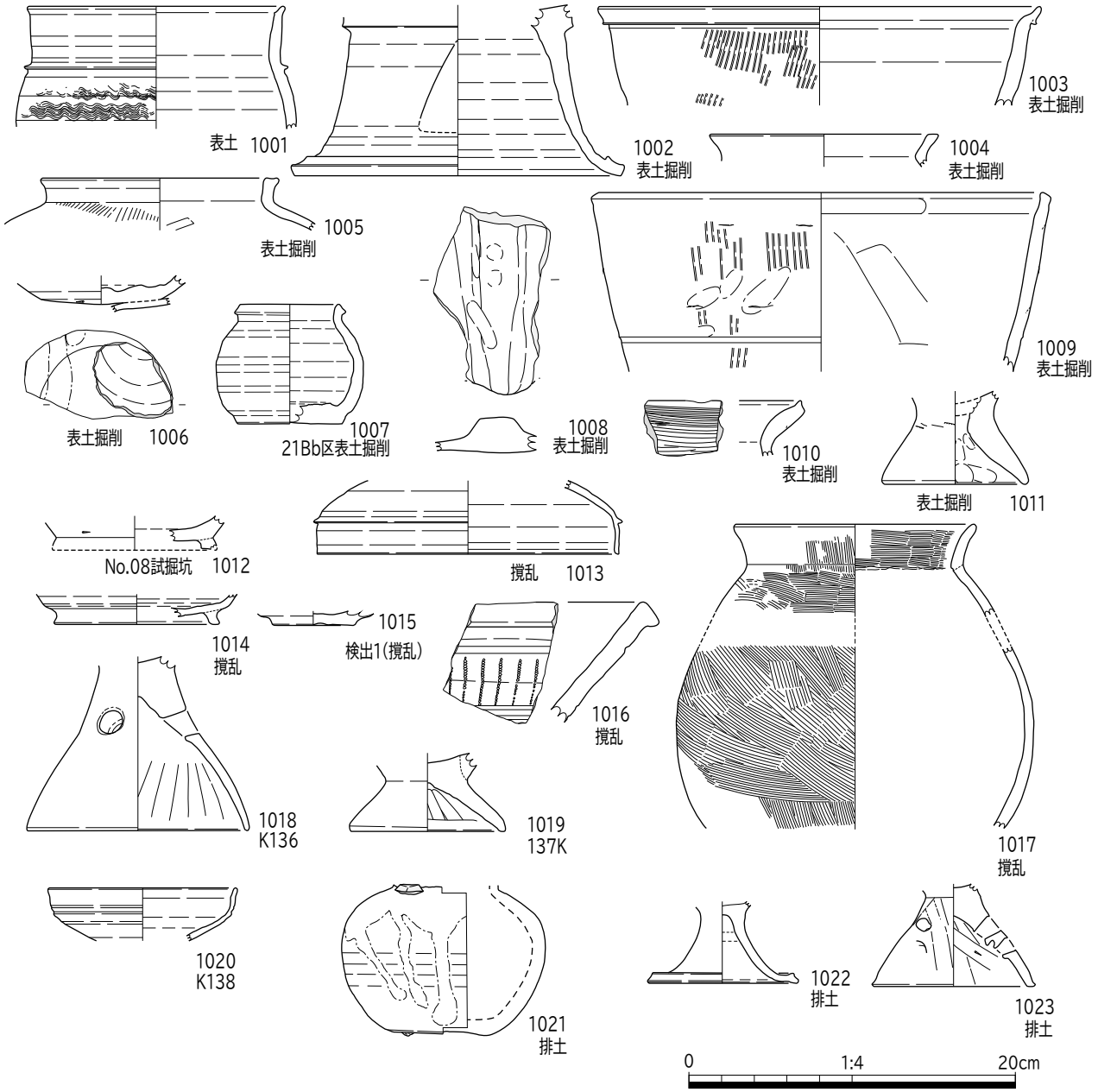


図 108 表土・攪乱出土遺物実測図

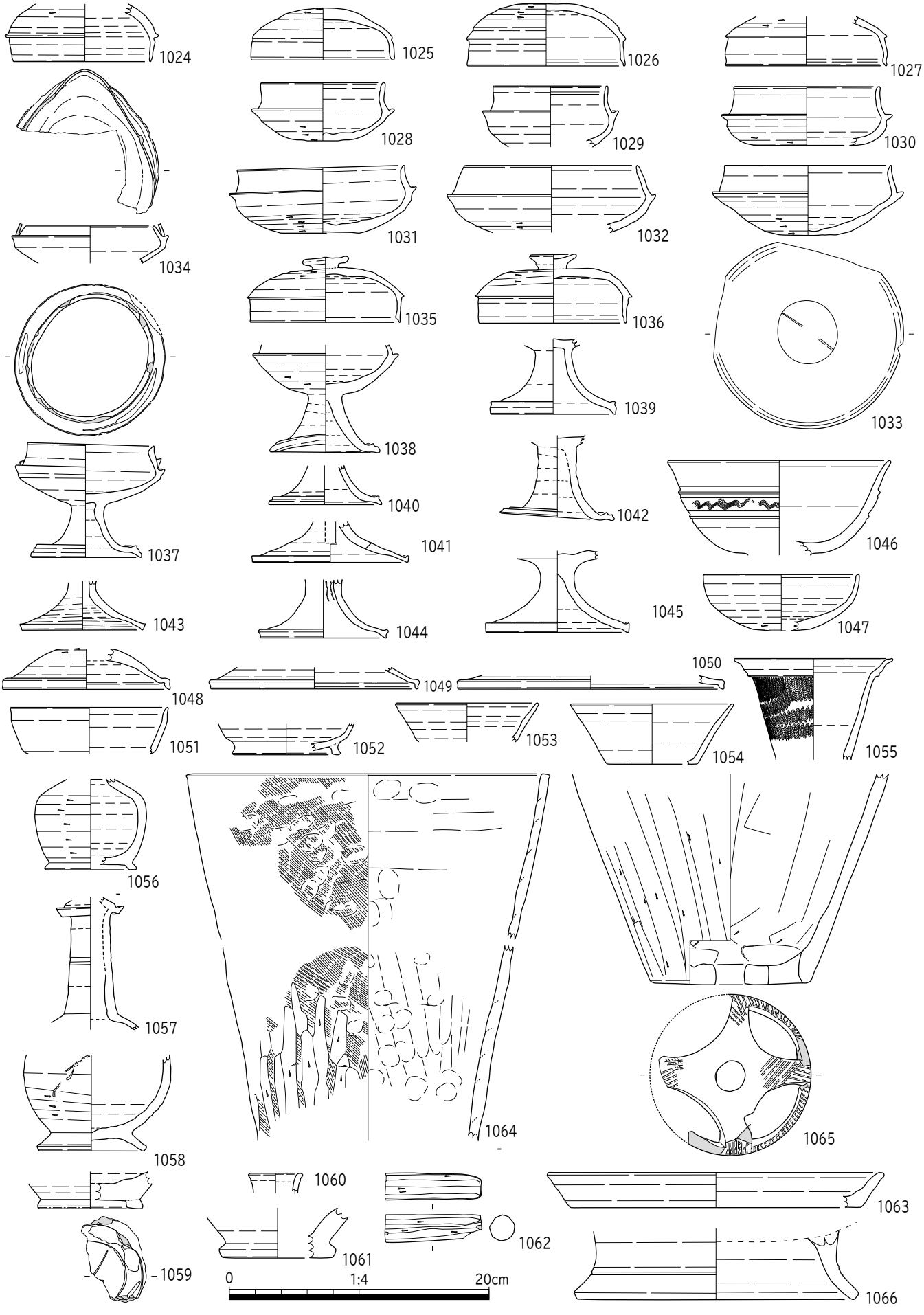


図 109 検 1 面出土遺物実測図 (1)

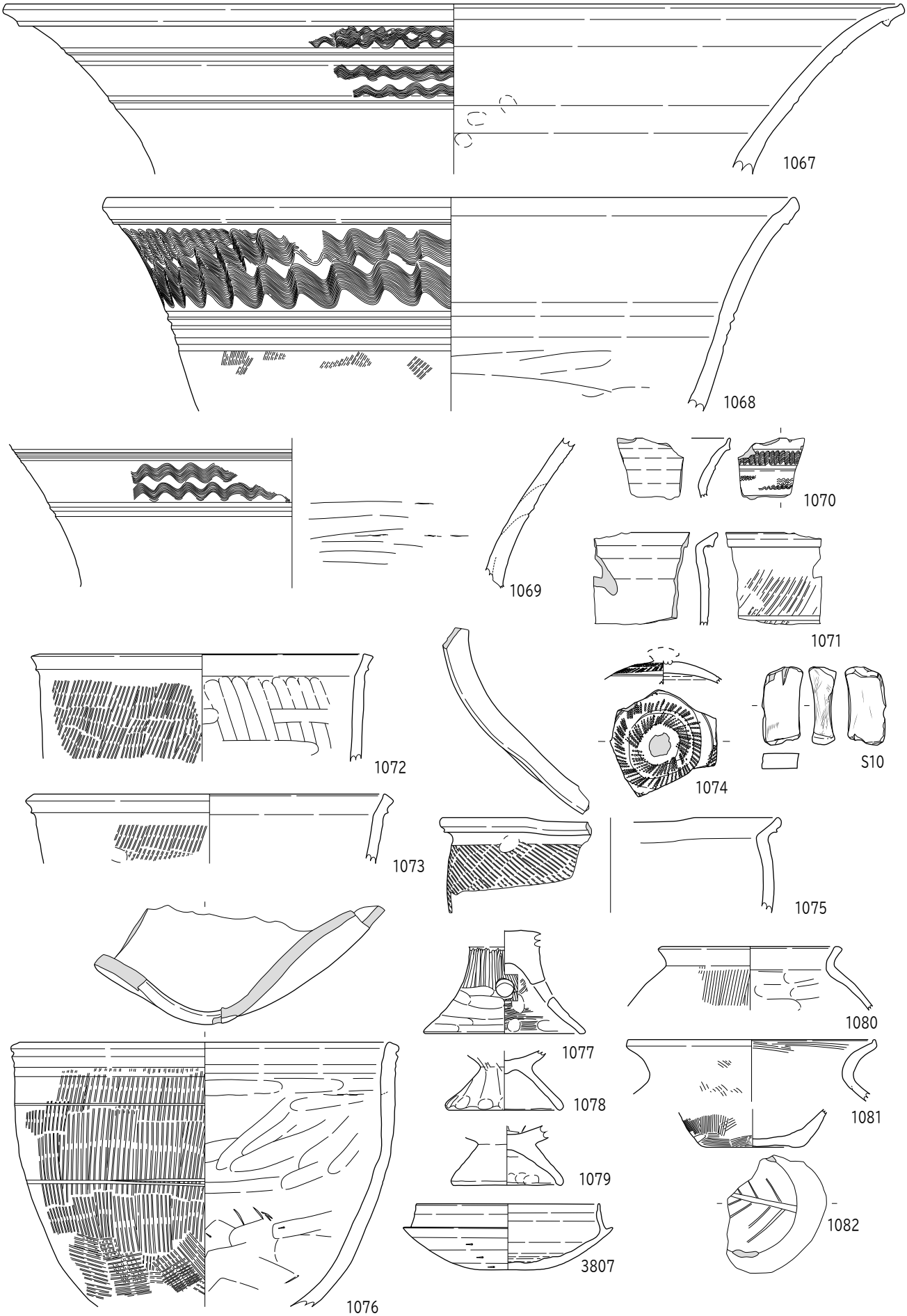


図 110 検 1 面出土遺物実測図 (2)

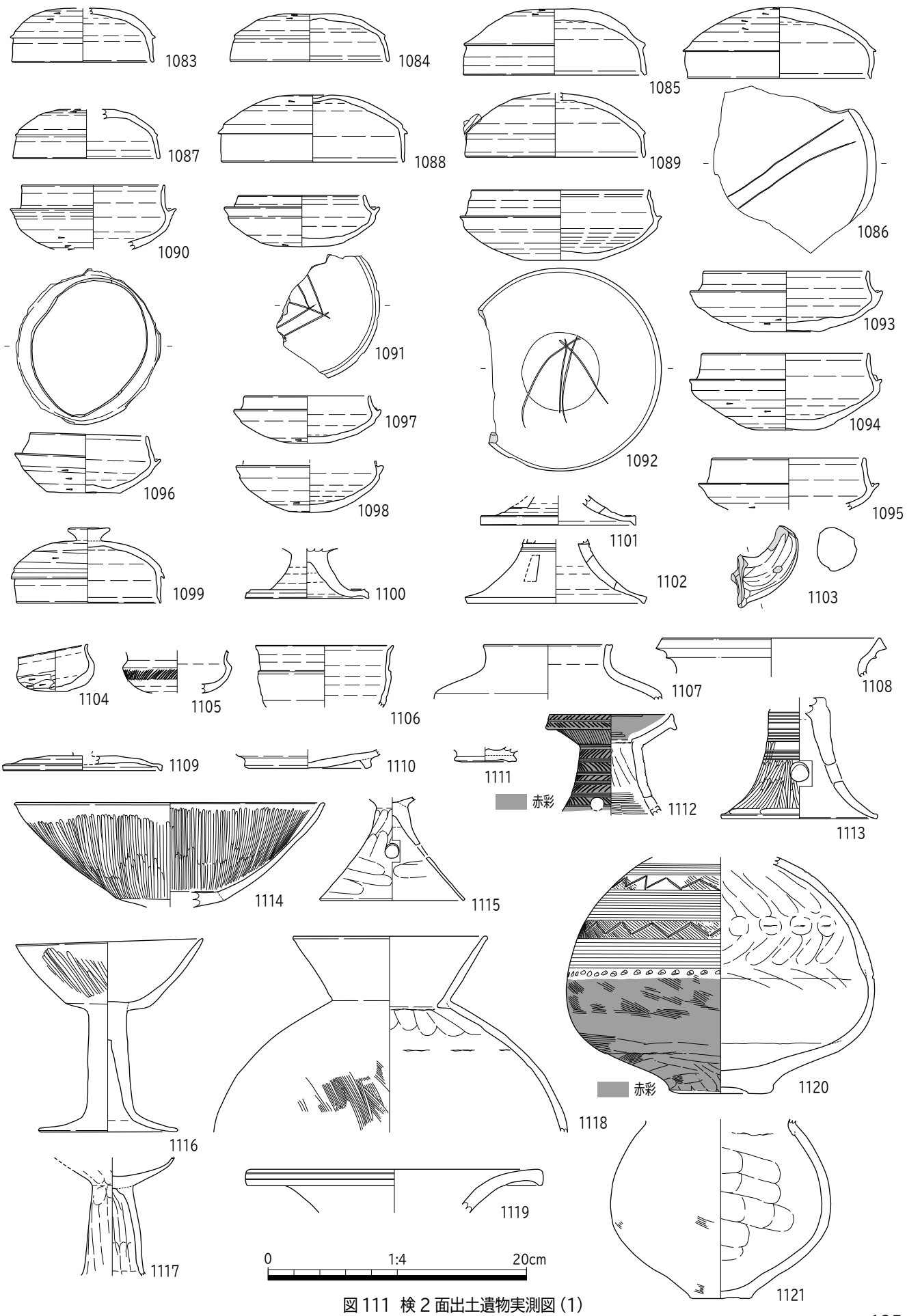


図 111 検 2 面出土遺物実測図 (1)

取のある棒状の把手。1064・1065 は甑でタタキと下部の削りを併用。1063・1066 は盤で 7 世紀後半か。1067 ～ 1069 は大甕の口縁部、6 ～ 7 世紀代。鍋（1070 ～ 1073・1075・1076）は口縁が屈曲するものと緩く外傾するものの 2 種類がある。1076 のように口縁を意図的に歪ませて片口状にしたものもある。1074 は奈良時代の須恵器蓋であるが外面に連続刺突文がある。色調が赤褐色をしており、特殊な用途向けか。検 1 面における土師器の中で器種や型式の判明するものは少なく、後世の攪拌による影響も考えられる。1081 は長胴甕でつまみ上げ口縁が特徴である。これに対して 1082 も長胴甕であるが、平底の底部でいわゆる木葉痕がみえるが線刻で描いたものと考えられる。

検 2 面出土の須恵器と土師器　検 2 面は、古墳時代後期～古代の集落遺構を検出した遺構面であるから、それらに直結する可能性の高いものといえる。また旧河道跡右岸では古墳時代前期の遺構面でもあるから、土師器の時期相もそこまでさかのぼる。

1083 ～ 1089 は須恵器杯蓋で H-10 号窯式期～ H-61 号窯式期だが 1087 はやや下る時期か。1090 ～ 1098 は杯身で 6 ～ 7 世紀代。杯蓋・杯身ともに線刻がありいわゆる窯印とされるものである。1100 ～ 1102 は高杯の脚部で 1102 は長脚 2 段透かしである。1103 は甑の把手で枘で胴部に接合する方式、断面は円形。1104 ～ 1107 は広口壺で時期は 6 ～ 7 世紀代。1109・1110 は 8 世紀初頭～前葉の蓋と（有台）杯である。

1112 は土師器の器台で外面全面と内面の一部に赤彩が施されるだけでなく、連続刺突文で飾り立てられている。1114・1115 は古墳時代前期前半の土師器高杯、これに対して 1116・1117 はやや時期が降って直線的な脚部の下端部が広く接地するタイプである。1120 は加飾壺で鋸歯文＋条線文＋刺突文に下半部は赤彩、胴部の最大径が比較的下方にある。1122 は S 字状口縁台付甕で口縁部の外反が著しい C 類。1126・1127 は同一個体と考えられる宇田型甕で縦長な胴部が特徴である。1130 は管状土錘でこのような細いタイプは川漁用とみられる。S11 は 21Bb 区のグリッド 8902 で出土した滑石製紡錘車で中央が滑らかに盛り上がる形状、S12 は 21Ba 区のグリッド 8807 で出土した滑石製の臼玉である。

検 3 面出土の須恵器と土師器　検 3 面は旧河道左岸では古墳時代後期集落から中期に遡る時期の竪穴建物が検出されている。一方、右岸では古墳時代前期から弥生時代後期に遡る時期の土器が出土する包含層に相当する。後者の状況については第 7 章で後述することとして、ここでは須恵器とそれに共伴して出土した土師器を主に提示する。1131 ～ 1143 は須恵器杯蓋で 1133 ～ 1141 はいずれも大口径とそれに近いもので占められる。H-61 号窯式期を中心に存在するとみられる。1144 ～ 1156 は

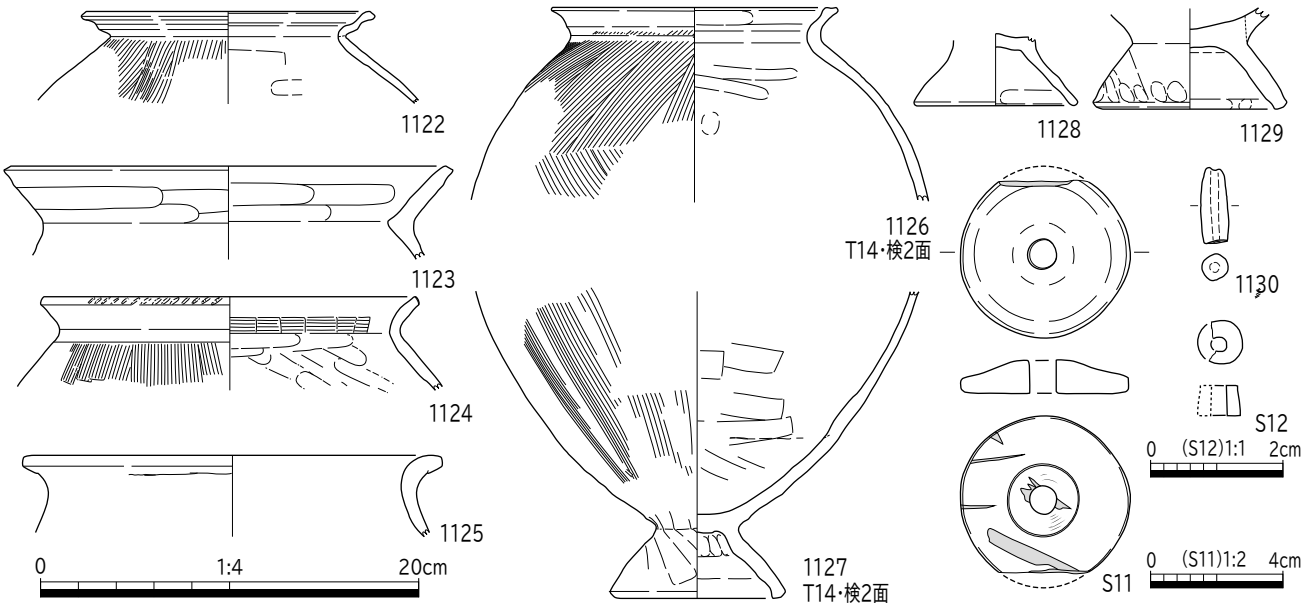


図 112　検 2 面出土遺物実測図（2）

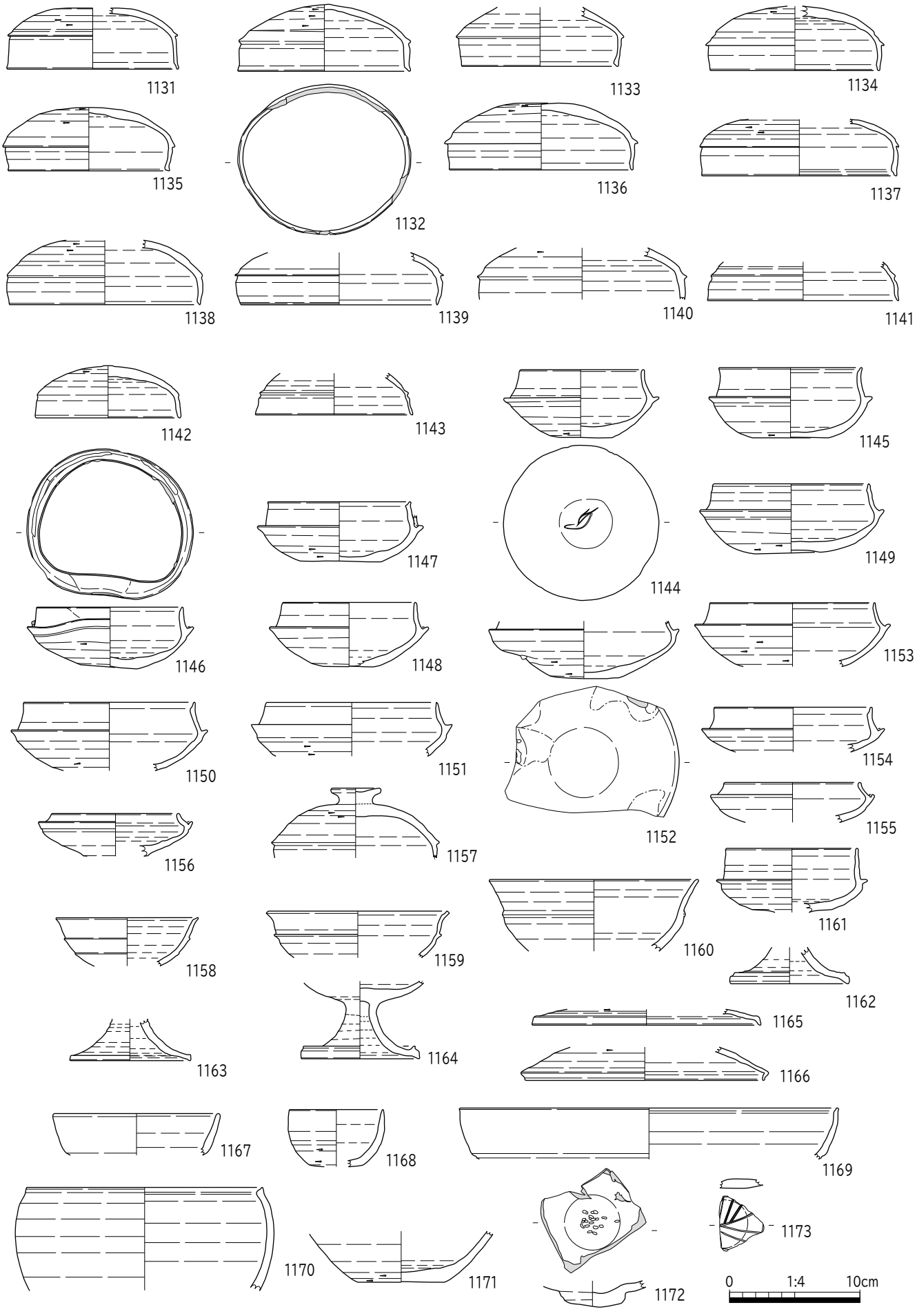


図 113 検 3 面出土遺物実測図 (1)

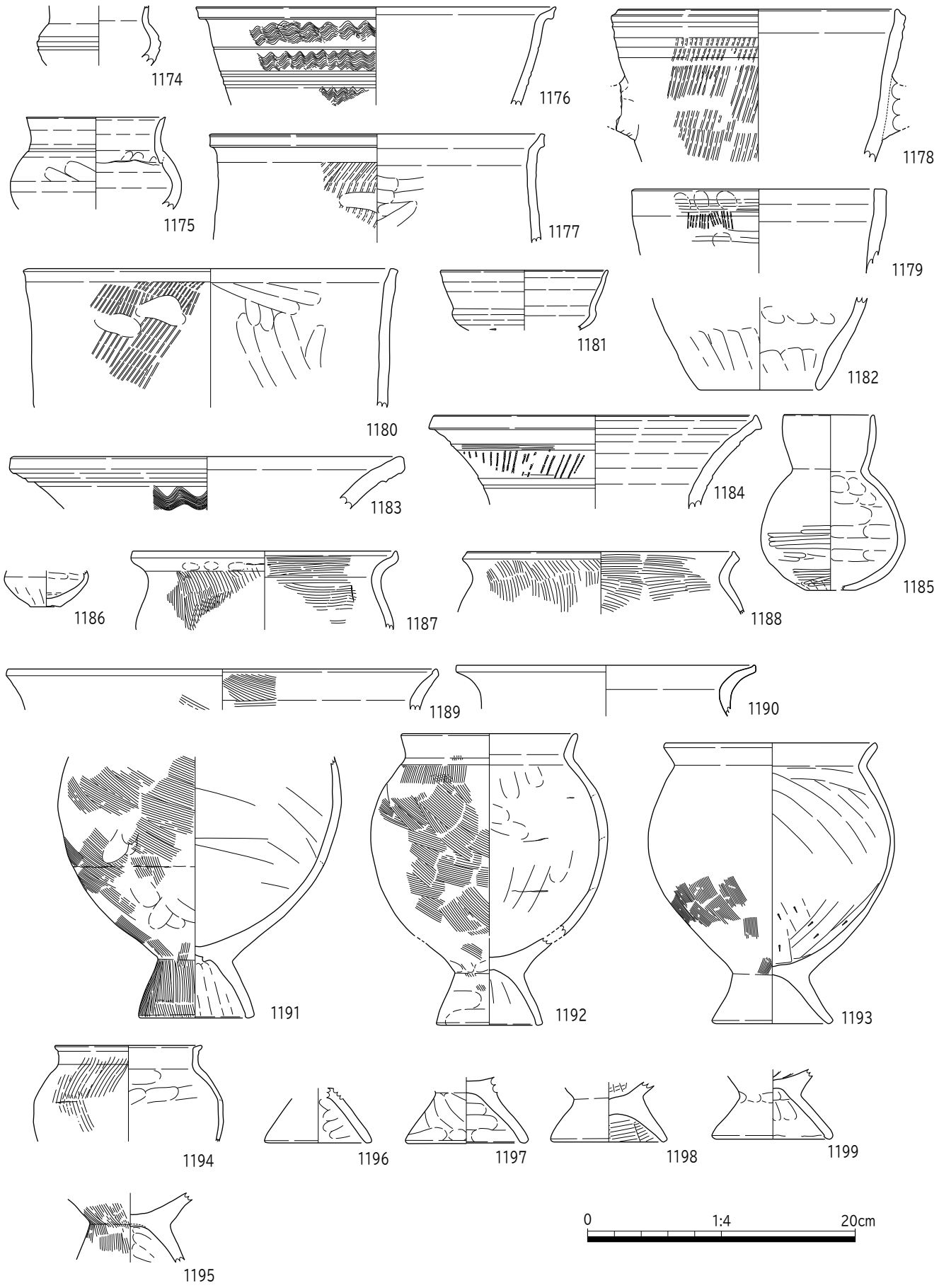


図 114 検 3 面出土遺物実測図 (2)

杯身でこちらは特に大口径に偏ることはない。1144 の底部に線刻あり。1146 は口縁部を横からの指圧によって歪ませてある。1147 は杯蓋の端部が釉着している。1152 も釉着と焼成時の傾きによて一部が凹んでいる。1156 は下端の形状から高杯の可能性もある。1157 は高杯の蓋、1158 ～ 1164 は高杯、1158・1159 は無蓋、1161 が有蓋である。1165・1166 は 8 世紀代の蓋、1167 は同時期の杯。1170 は鉄鉢形と呼ばれる器種で僧侶のもつ金属製の仏鉢を模したもの。1172 は器種不明だが、一部を分厚く突出させた底部に多数の刺突があり、こね鉢の底部に施す技法でもあることから鉢形の一種とみられる。1173 も器種不明ながら綾杉形の線刻がある。1176 ～ 1180・1182 は、鍋・甑である。いずれもタタキによって成形し指ナデで整えている。1185 は土師器のヒサゴ壺、1187 ～ 1190 は摘み上げ口縁の土師器甕で概ね 7 世紀代。1191 ～ 1195 は台付甕だが弥生時代後期から古墳時代前期の宇田型までを含む。1200 は胴部が縦長でヘラ削りで成形した後に指ナデ調整がなされている。1201 は器壁が厚く指ナデの仕上げが甘く粘土紐積上げ痕が明瞭に残っている。他に特徴が少なく時期不明。1204 は知多式製塩土器の脚部で直径 2.1cm を測る太い棒状の下端が若干尖らせてある。製作技法は指ナデ成形である。出土地点はグリッド 8807（21Ba 区）で旧河道右岸に相当する。この形状は知多式製塩土器編年の 3B 期に相当し、7 世紀代と考えられる（立松彰 2010「第 4 章　特論 第 5 節　塩生産」『愛知県史　資料編 4 考古 4　飛鳥～平安』愛知県）。ちなみに型式は特定しにくいが製塩土器の杯部がグリッド 8600 の溝 00785SD から出土している。

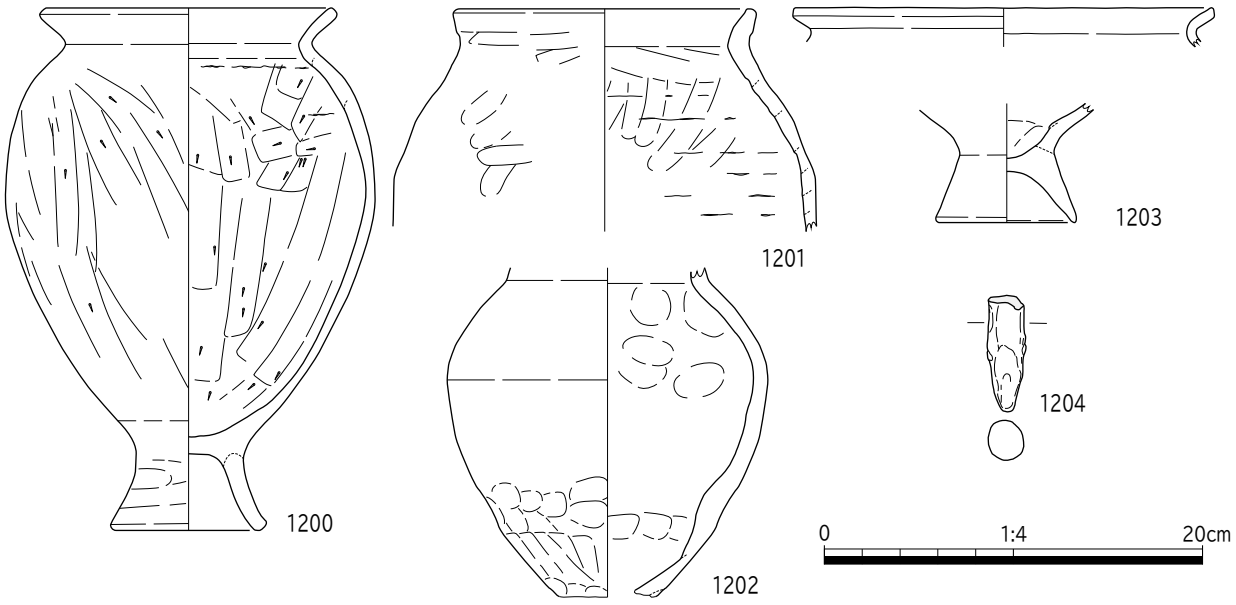


図 115　検 3 面出土遺物実測図（3）

第 2 節　古墳時代後期～古代の集落の遺構と遺物

(1) 大溝

00001SD　旧河道左岸、21Aa 区・21Ba 区に位置する運河状の大溝である。発掘調査時には規模の大きさと旧河道の方位とほぼ同じであることからこれも旧河道と認識して調査を行った（00001NR)。しかし調査期間後半になって旧河道からの分岐点（中央ベルト）の位置が明らかになったことから、旧河道からの水を引き込んで機能していた人工河川（大溝）と考えられる。分岐点から旧河道は北から北西方向へ屈曲しながら伸びているのに対して、00001SD はほぼ直線的に北西方向に伸び、そのまま調査区北西壁から外部へ抜けて続いている。遺構検出面における幅約 13.3m、深さ約 1.6m で、断面形（図 15）は皿状をしている。ただし底面は、基盤層となる標高 2.0m 以下の灰白色細粒砂層（図 15 の 58 層）まで掘り込んでおり、埋土（図 15 の 44 層）とはラミナの有無くらいしか区別がつかない。側壁も立ち上がりについても同様で、明瞭な差異はない。したがって発掘調査時は一部重機を用いて掘削したが、土層断面で把握できる側壁より切り立った形状で掘削している。このように基盤の砂層に近い砂層が厚く堆積しておりラミナが観察されることから水流があったことは確実である。したがって 00001SD は旧河道 00900NR から水を引き込み下流方向へ流す機能のある大溝であり、灌漑ないしは運河と評価される。

00001SD からの出土遺物は、遺構の規模に比べて少ない印象である。しかも大溝機能時に相当するものはほとんどなく、大半は先行する時期の集落遺構の土器が混入したものであろう。1205 ～ 1208 は須恵器杯蓋で H-10 号窯式期以降、1209 ～ 1214 は杯身で H-10 号窯式期～ H-61 号窯式期を主体とする時期である。

六稜皿（鉢）00001SD 出土遺物で注目されるのは 1218 で浅い皿形でしかも平面形は六角形である。この六角形の辺は直線とはならずに緩い弧線状となっており、角が強調され「六稜皿（鉢)」とでも呼称すべき形状となっている。一方、底部は無台でそこから体部下半まで回転ヘラ削りで整えられている。そして体部半ばに 2 条の凹線が一周し、さらにその上位に須恵器甕などと同一の波状文が施されている。この順に成形と施文がなされた後に、口縁端部をヘラで弧線状に削り落とすという特異な製作工程を経て先述の六角形を作り出している。口縁部はその際、波状文の上部が一部削られている。ただし全体に薄く自然釉が掛かっているのに対して口縁端部の削り部分には釉が掛かっておらず、焼成後に砥石などで口縁を加工した可能性も考えられる。当該資料の製作時期は、明るい灰色系で薄く釉の掛かる焼成具合からすると 7 世紀代や灰釉陶器の印象があるが、細かい波状文や凹線の存在が H-61 号窯式期の碗などと共通している点に着目すれば、6 世紀前～中葉に位置づけられるであろう。

1219 は 8 世紀初頭の須恵器蓋、1220 も同じ頃の杯で 00001SD 機能時に一番近い時期であると思われる。1230 は土師器長胴甕で平底の型式である濃尾型に分類される。一旦皿形の底部を作り、そこから粘土紐を積み上げて胴部を成形する技法である。外面は縦方向のハケ調整痕。1231 はヒサゴ壺で古墳時代前期、1232・1233 は古墳時代土師器の屈折脚高杯。1233 のように明瞭な屈曲で立ち上がる杯部は若干外反するもので尾張地域の松河戸式の段階である。ただし名城公園遺跡では当該期の屈折脚高杯は比較的少数である。1234・1235 は古墳時代前期の台付甕。1236 は土師質の管状土錘で川漁用。S13 は砥石で石材は泥質凝灰岩。S14 は片刃の磨製石斧で石材はホルンフェルス。1237・1238 は奈良時代の須恵器でそれぞれ有台杯と蓋である。1237 は比較的口径のある大型品で、底部内面に焼成前になされた線刻群が特徴である。線刻群の全体像やその意図は全く不明ながら、そもそも内面にこのような線刻をすることがまれである。1238 は丸みのある雨傘形をした蓋で、端部の折り返しは小さい。1237・1238 は 00001SD と 00900NR 分岐点近くの底付近から出土していることから、当該遺構の開削時期に最も近いと考えられる。その形態的特徴からともに C-2 号窯式期で 7 世紀末～ 8 世紀初頭の製作時期が想定されることから、00001SD の開削は 8 世紀初頭～前葉と推測される。

00035SD　調査範囲中央部に位置する。大溝 00001SD と旧河道 00900NR の分岐点より南側で、埋まりつつあった 00900NR 左岸堆積層を掘り込んで形成された河道内の大溝である。幅約 11.7m、深さ約 2.8m で長さは確定しがたいが調査範囲南端までは存在したと思

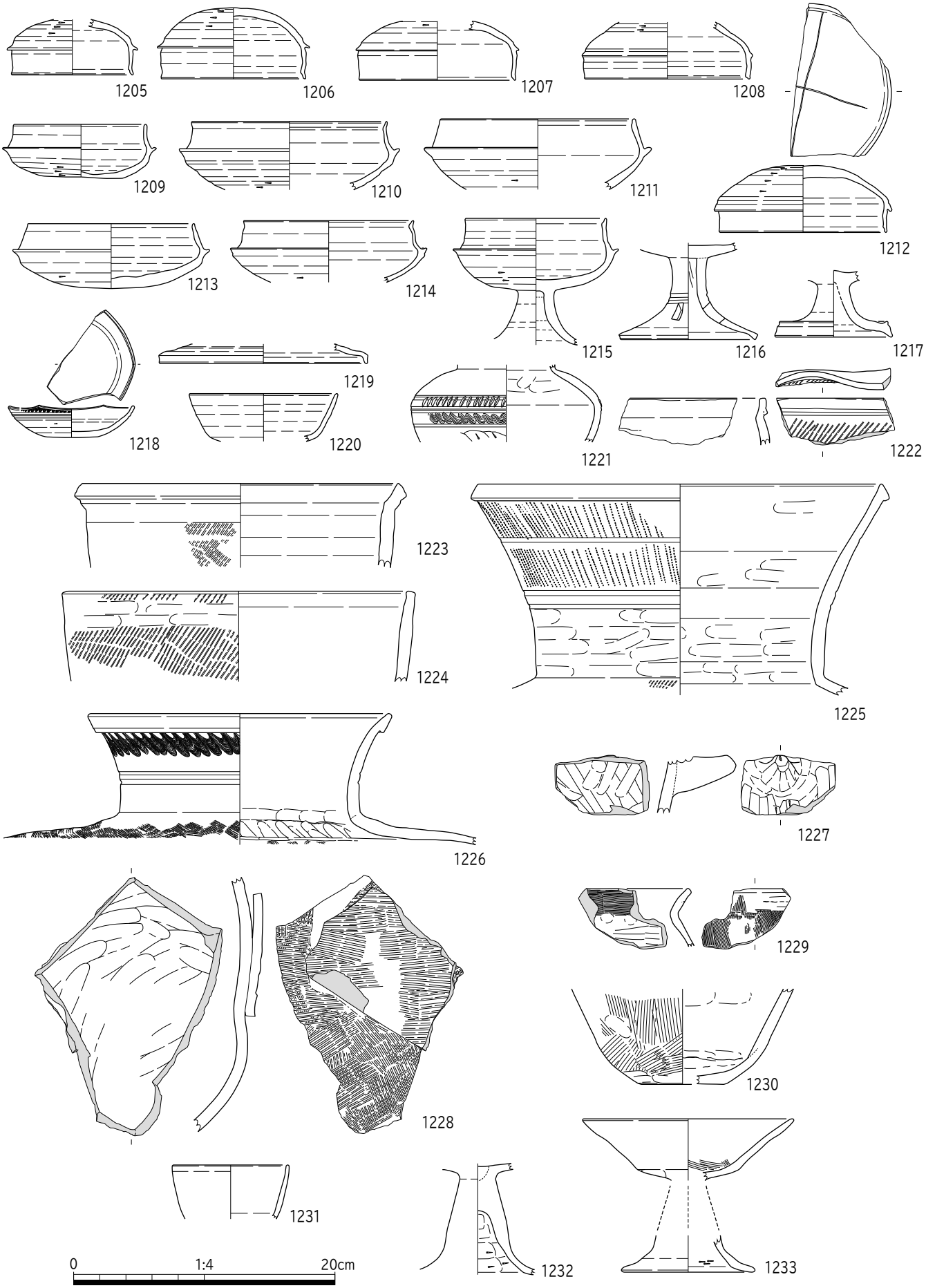


図 116　00001SD　出土遺物実測図 (1)

われ、それに基けば約 76m 以上となる。埋土については 00900NR で記述する。

出土遺物は、大溝の機能時期に直接関わらない古墳時代中～後期のものが大半である。00001SD の底部から C-2 号窯式期の須恵器が出土していることから、その開削時期は旧河道左岸の集落よりも後の時期と考えられ、したがって 00035SD の埋土に当該集落の遺物が混入することになる。須恵器は 7 世紀代の杯身･高杯が多い(1248･1249・1251 など)。注目されるのは 1270 で、いわゆる直口壺の器形をしているが、肩の張った胴部の下半は手持ちヘラ削りで荒々しく成形され全体的に厚みがある。重量は 535.2g を測る。胴部の施文は櫛歯状工具の連続刺突文であるがあまり徹底されていない。また口縁部外面は波状文が密に施されているがこれも通常の施文パターンとは言い難い。同様に 1271 は丸底の壺であるがこれも器壁が全体に厚くなっており､重量は 440.g を測る。これに対して通常の製作技法によって器壁を薄くなるように作られている 1269 は重量が 376.4g である。1272 は土師質の管状土錘で河川の下流域で比較的みられる太い型式である。さらに端部の丸みも強い。1274 は須恵器の大型鉢でタタキ技法で成形して下半部をヘラ削り、残存部上端に凹線を巡らせる。1275 は須恵質の土製品であるがきわめて厚みがある平底という以外は不明である。鍋（1278 ～ 1283）は口縁断面形がさまざまで 6 ～ 7 世紀代のものが混在していると思われる。1281 は意図的に口縁を曲げて片口としたもの。1285 ～ 1287 は大甕で 1286 はその底部付近で釉着状態にある破片。おそらく焼台に転用された破片が窯の底などとの間に置かれたものであろう。1288 は弥生土器の器台か。1289 ～ 1299 は古墳時代前期の加飾壺や台付甕、高杯（1293）。1300 ～ 1308 は 6 世紀後葉～ 7 世紀代の土師器煮炊具で大半は長胴甕。1304 はやや小型の筒形容器、1306 は口径からみて鍋でありしかも器壁がきわめて薄い。長胴甕は比較的古い段階に位置付けられるのが 1307 で、口縁端部の摘み上げがなく器壁も比較的厚い。これに対して新しい時期を想定される 1300 ～ 1305 は器壁を薄く成形するのが基本である。なお、1302 と 1307 は付着する炭化物を試料に放射性炭素年代測定を行い、1302（測定番号 PLD-52445）は 541-601 cal AD（95.45%）、1307（測定番号 PLD-52447）は 543-601 cal AD（95.45%）という数値年代（いずれも 2 σ暦年代較正）の結果を得た。およそ 6 世紀後半ということになる。

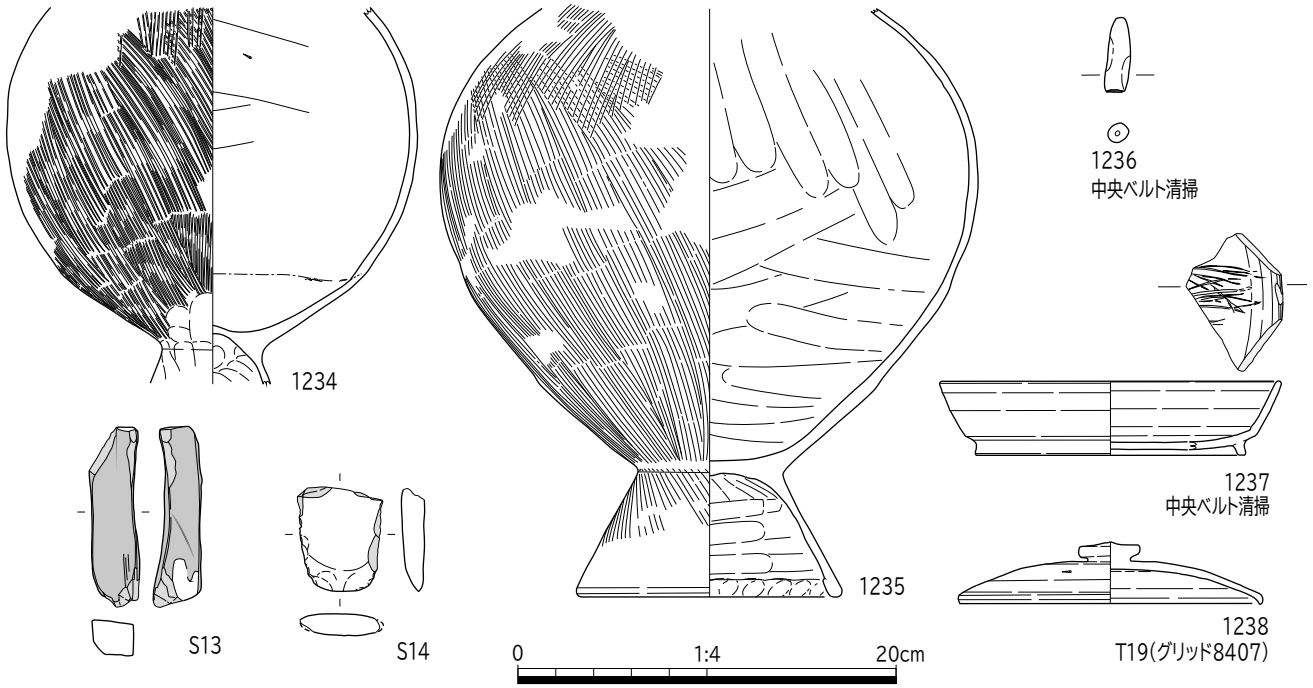


図 117　00001SD　出土遺物実測図 (2)

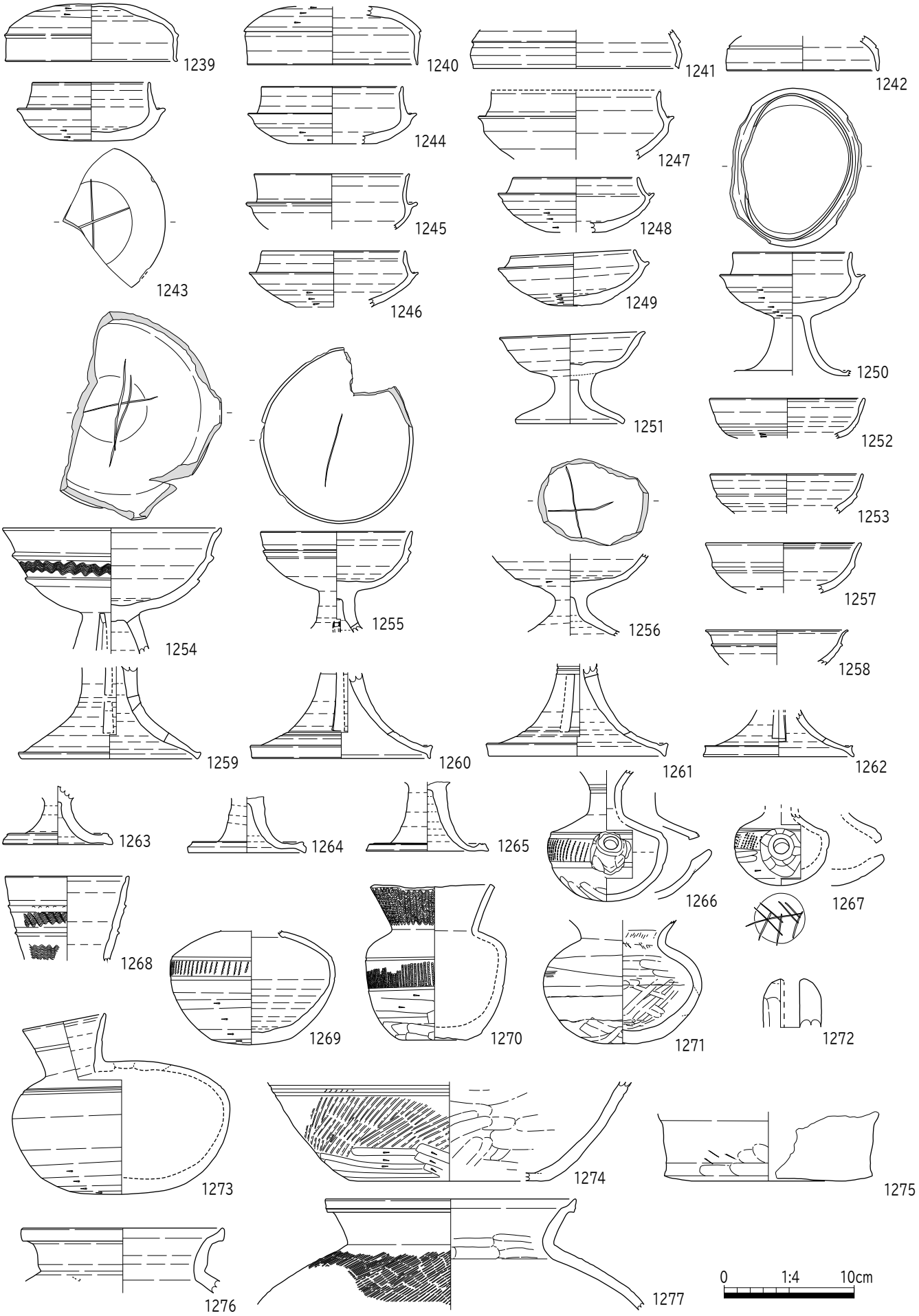


図 118 00035SD 出土遺物実測図 (1)

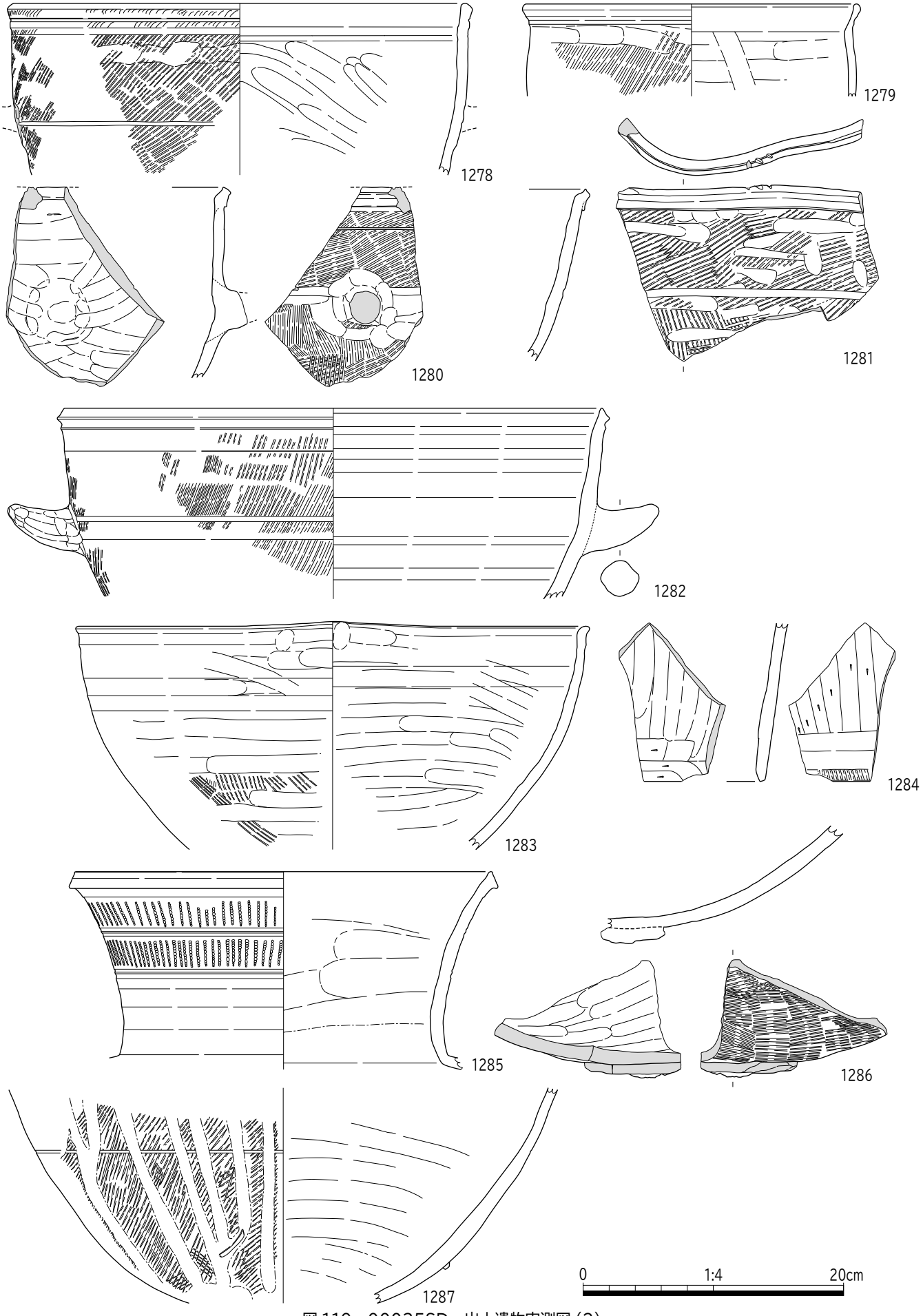


図 119　00035SD　出土遺物実測図 (2)

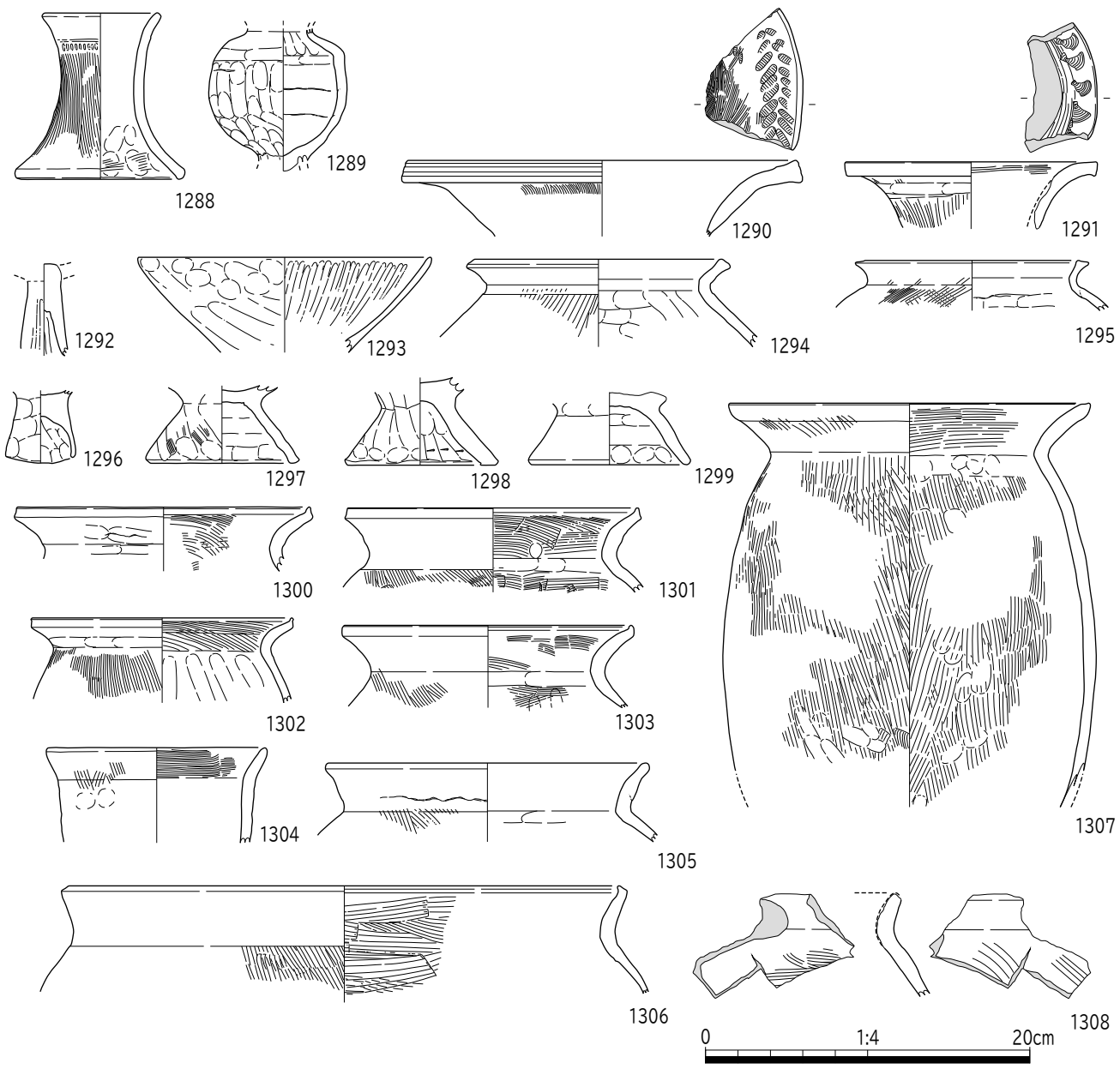


図 120　00035SD　出土遺物実測図 (3)

(2) 中近世遺構出土の古墳時代・古代の遺物

00100SG・00300SD・00301SD・00315SK・00360SD 出土土器　ここに提示する土器群は 00300SD など江戸時代の池や溝から出土したものである。00100SD などの遺構は、古墳時代後期～古代の集落跡に重複する位置に掘られており、当該期の遺物が多数混入している。その大半が小片化していることから、もとの埋蔵位置から大きく移動していると思われる。6 ～ 7 世紀の須恵器が主体である。1309 は須恵器広口壺で 7 世紀中葉～後葉。1310 は古墳時代前期の土師器直口壺。1311 は土師器宇田型甕。00300SD からは 6 世紀前～中葉の土器が目立つ。須恵器杯蓋は口径の復元がやや難しいが大口径のものは H-61 号窯式期となる（1320 ～ 1322）。一方、1315・1324・1325・1332 のように 8 世紀代の須恵器蓋・杯がある。後述するように 00300SD 周辺では、時期が 8 世紀まで下る竪穴建物跡は見受けられない一方で若干数ながら掘立柱建物跡が確認されている。このことからこれらの須恵器が掘立柱建物の時期を示すか、あるいは 01540SI・01545SI などやや離れたところから移動してきたかのいずれかと考えられる。

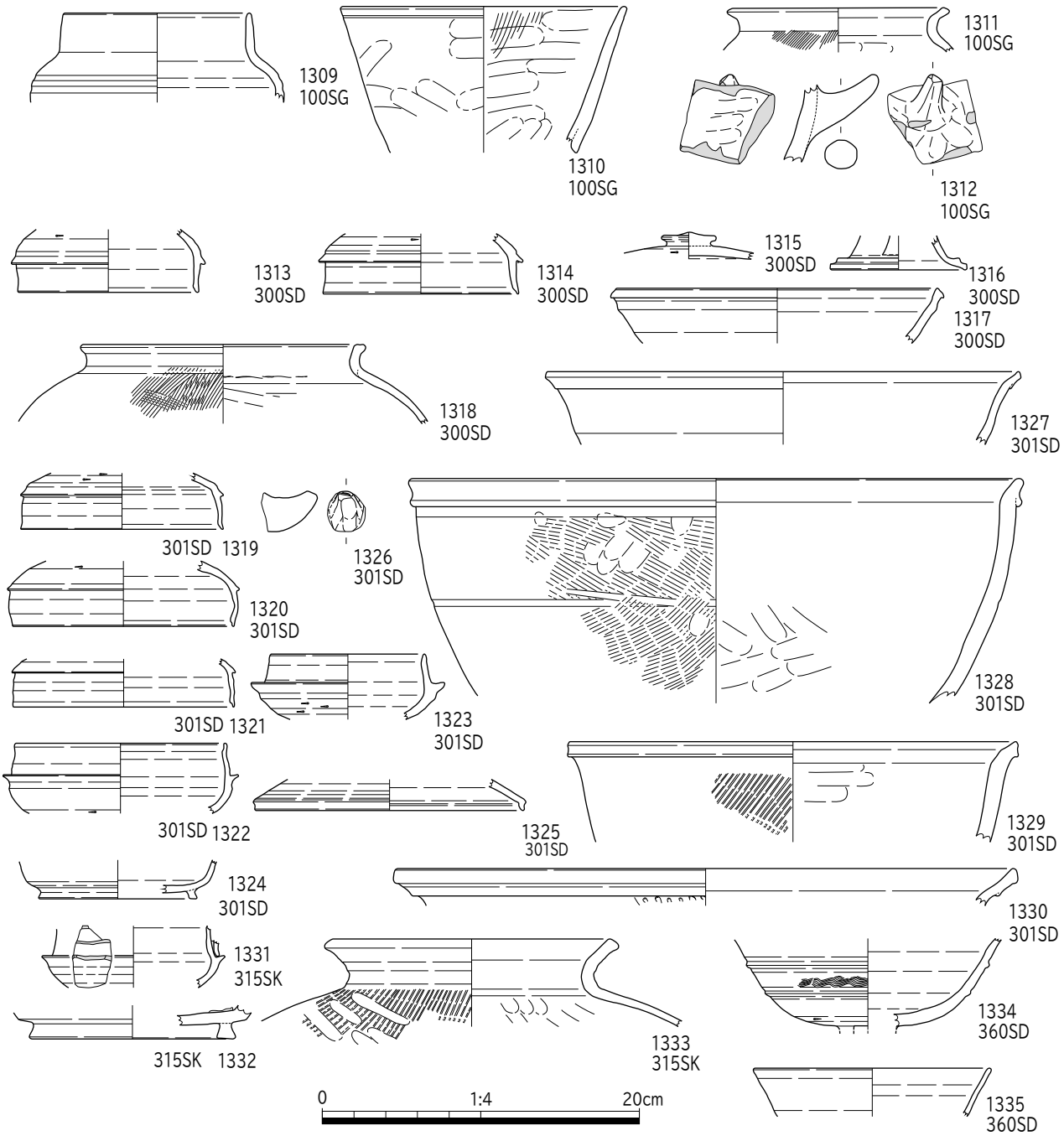
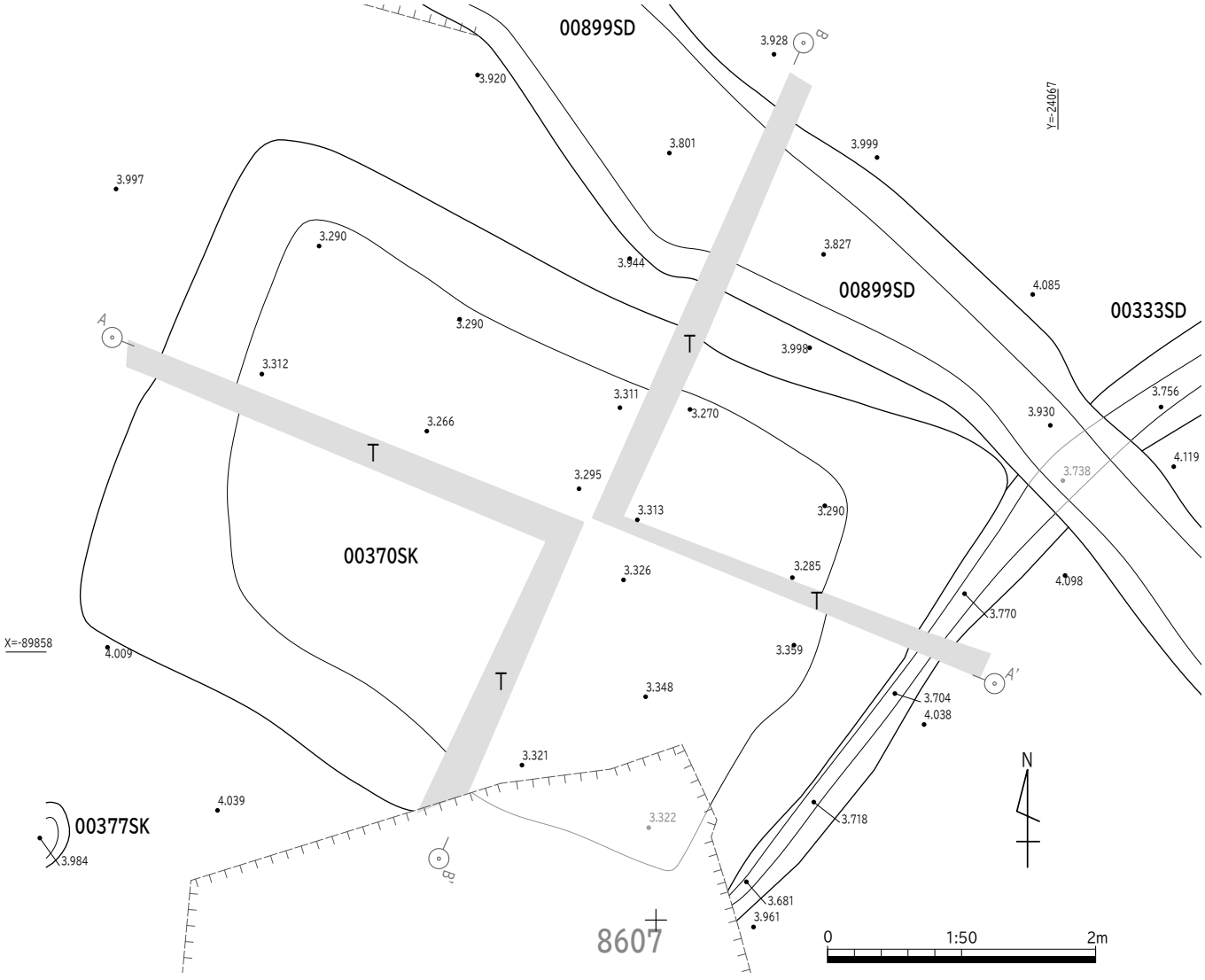
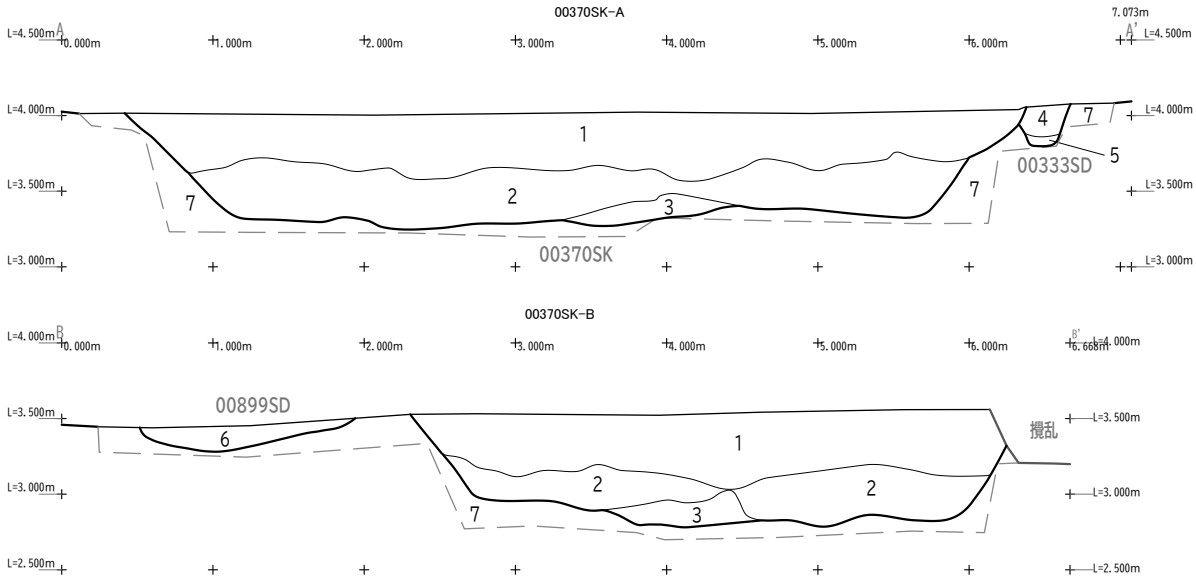


図 121 00300SD・00301SD・00315SK・00317SK 出土遺物実測図

00370SK 旧河道左岸、00900NR（00035SD 含む）の左岸上端から西へ約 4.5m に位置する（21Ba 区）。平面形は整った長方形で、長軸約 6.0m、短軸約 4.2m、深さ約 0.8m の方形土坑である。断面は整った逆台形で底面は平らとなっている。他の遺構と重複関係が少ないため位置づけが難しい。南東隅でわずかに 00330SD と重複しこれより新しい時期と判断されるのみである。平面形や他の竪穴建物よりはるかに深い点が特徴的であることから、竪穴建物ではない性格不明の土坑と評価される。

00370SK の出土遺物は、中世まで時期が下るものはない。周辺に展開する古墳時代後期～古代の集落に関わる 6 ～ 7 世紀の須恵器・土師器である。1343 は大型の須恵器鉢で底部から滑らかに立ち上がる体部には凹線が数条めぐり、口縁部は三角形となる。1349 は甑でタタキ技法の後下半部は縦方向のヘラ削り、その範囲は削り後に凹線によって区切られている。底部は横桟 1 本か。1350





1. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層(10YR3/2黒褐色シルトブロックを含む。10YR6/1褐灰色細粒砂ブロックを含む。細礫含む。00370SK)
2. 10YR4/1褐灰色極細粒砂質シルト層(10YR3/1黒褐色シルトブロックを含む。10YR6/1褐灰色極細粒砂ブロックを含む。細礫含む。00370SK)
3. 10YR4/1褐灰色粘土質シルト層
4. 10YR4/1褐灰色粘土質シルト層(10YR4/1黒褐色シルト小ブロックを少量含む。炭化物を極少量含む。00333SD)
5. 10YR3/1黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色細粒砂小ブロックを少量含む。炭化物を極少量含む。00333SD)
6. 10YR4/2灰黄褐色極細粒砂質細粒砂層(10YR3/2黒褐色シルト小ブロックを含む。00899SD)
7. 10YR4/2灰黄褐色極細粒砂質シルト層(地山)

図 122　00370SK 遺構図

は土師器長胴甕で摘み上げ口縁の系譜にあるがその摘み上げが略され細く尖る程度である。一方胴部に目を転ずると器壁が急速に薄くなっていることがわかる。7 世紀後葉以降に広まる器壁の薄い型式への移行期にあるとみられる。

00626SD・00627SD・00645SD 出土の土器

00626SD ほかの溝群も 00300SD などに続く同じく江戸時代の溝である。したがって当該遺構から出土する古墳時代～古代の土器も遺構には直接関わらない混入である。概ね 6 ～ 7 世紀のもので、1363 のような須恵器器台も含まれる。三角形透かしがある。1359 は須恵器こね鉢。1367 は古墳時代の土師器小型甕、1368 は摘み上げ口縁の土師器長胴甕、1369 は土師器宇田型甕。これに対して 00300SD などやや南西に位置する溝群では目立たなかった 7 世紀後葉～ 8 世紀代の須恵器蓋･杯がみられる。1370 ～ 1372 は蓋で、1372 では直線的な形態で端部の返しは小さいことから C-2 号窯式期、1371・1372 のように陣笠形に移行段階にあるものもあり、8 世紀第 2 四半期までの時期幅でみておきたい。1373 ～ 1378 は杯だが 1374 は無蓋高杯の可能性もある。1375 は無台で回転ヘラ削り痕がある。1376・1377 は高台の形状から 8 世紀前葉段階まで下るものか。興味深い点としては、これら 8 世紀代の須恵器に釉着や歪みのあるものが見られないことが挙げられる。

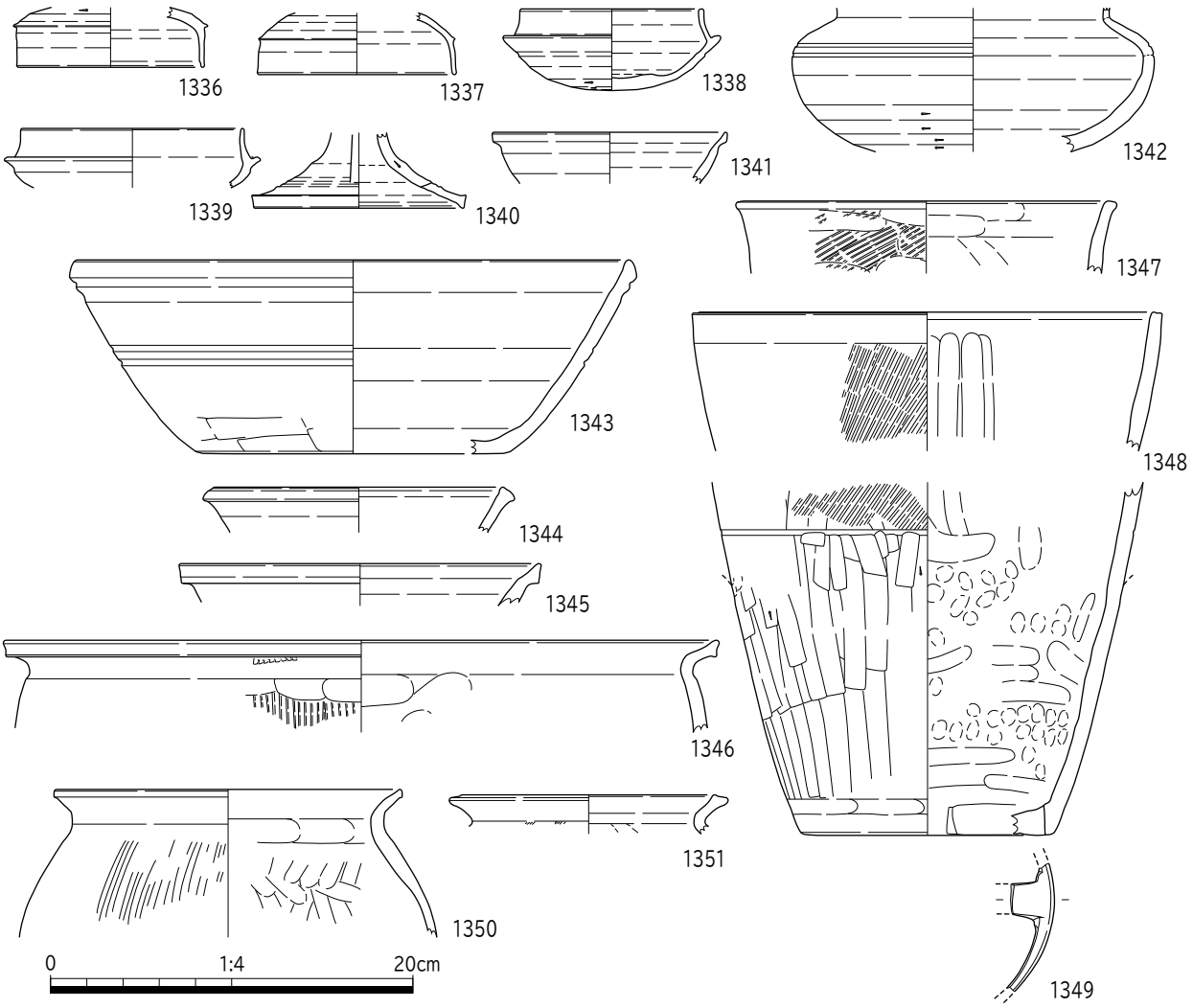


図 123 00370SK 出土遺物実測図

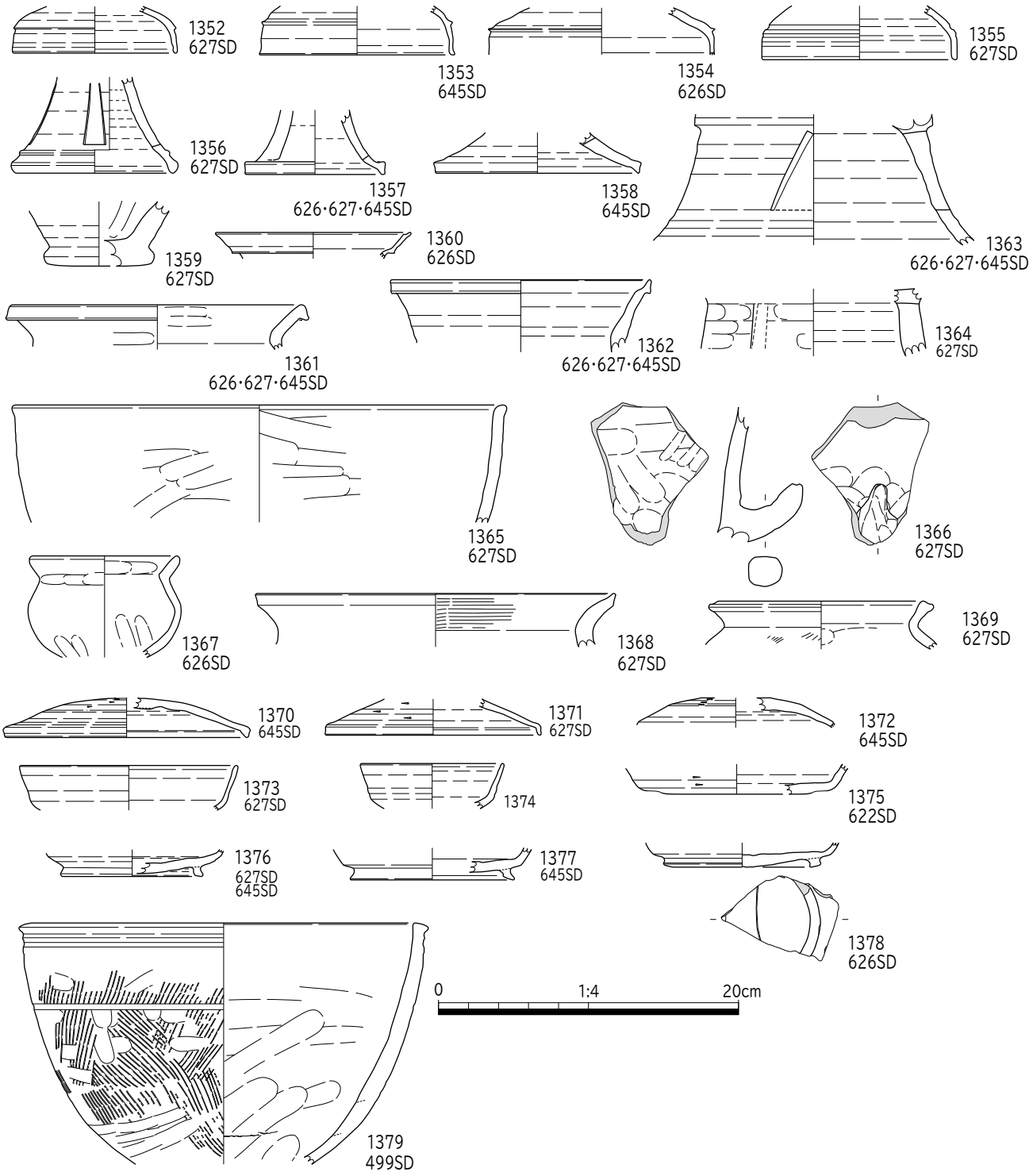


図 124　00626SD・00627SD・00645SD 出土遺物実測図

（3）竪穴建物跡

00115SI　旧河道左岸、調査範囲西端（21Aa 区）に位置する竪穴建物跡である。全形が検出されており、平面形はやや歪んだ長方形で長軸約 3.6m、短軸約 3.2m、深さ約 0.1m である。他の遺構との重複関係はわずかずつであるが 00125SK と重なりそれより新しく、西側から掘り込まれる 00048SK より古い。長軸を主軸とするとその方位はグリッド北から東へ 28° 振れている。カマドなど火処は不明､底面における柱穴も確認できなかった。なお、底面中央部が凸状に高まりになっているが、これは掘方部分で、したがって床面は検出面よりも高い位置にあってすでに削平されていたものと思われる。

遺構の埋土が掘り方に相当するものであるから、出土遺物も竪穴建物構築以前のものが大半ということになる。須恵器（1380 ～ 1386・1390）はほとんどが 6 世紀代のもので杯蓋・杯身・𤭯・甕である。1384 は H-44 号窯式期で 6 世紀末～ 7 世紀初頭の時期で、おそらく竪穴建物の構築はそれ以降であったと考えられる。1387 は古墳時代前期の屈折脚高杯、1389 は宇田型甕。

00332SI・01251SI　旧河道左岸、調査範囲南西部（21Ba 区）に位置する竪穴建物跡である。当該遺構

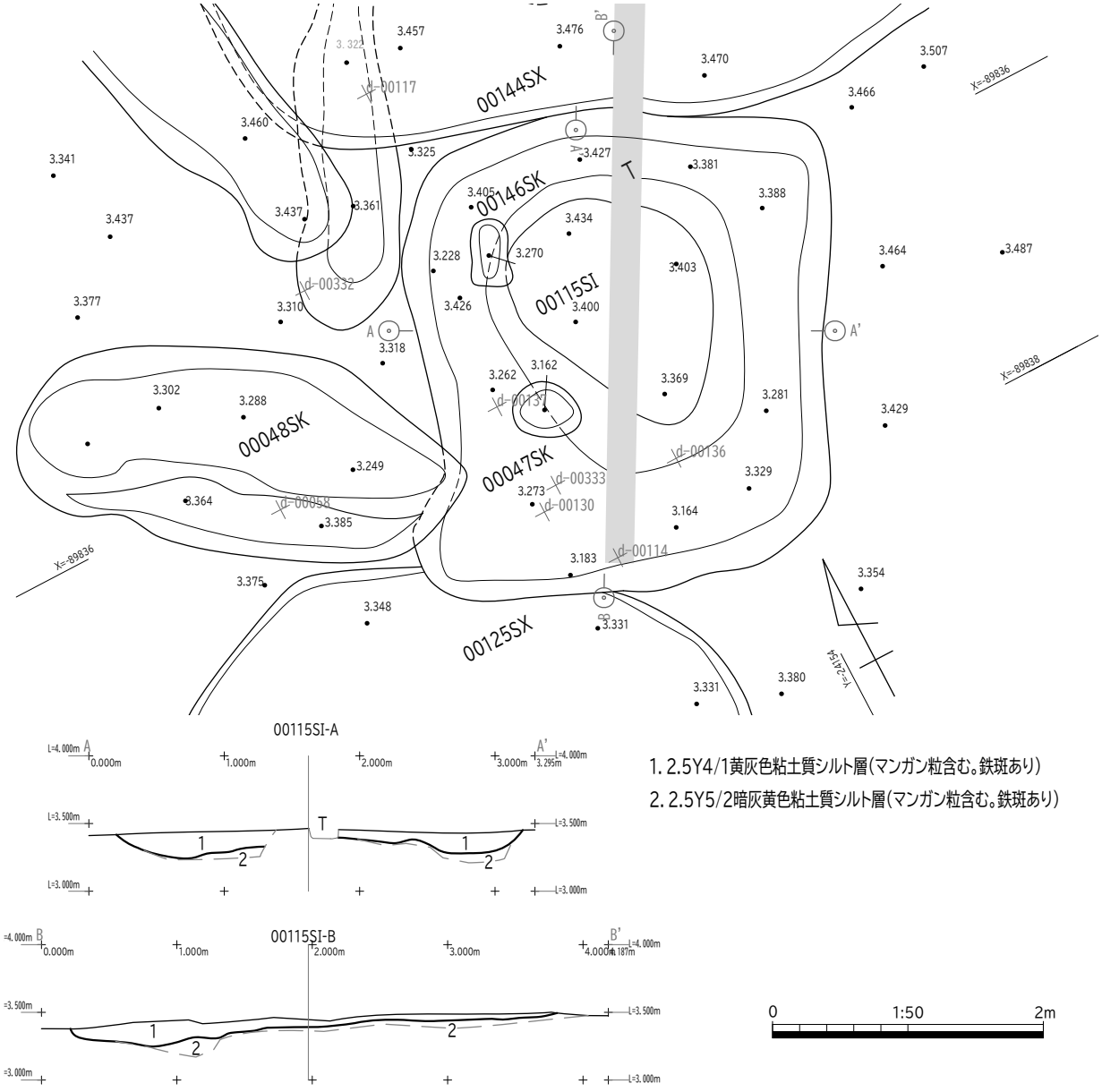


図 125　00115SI 遺構図

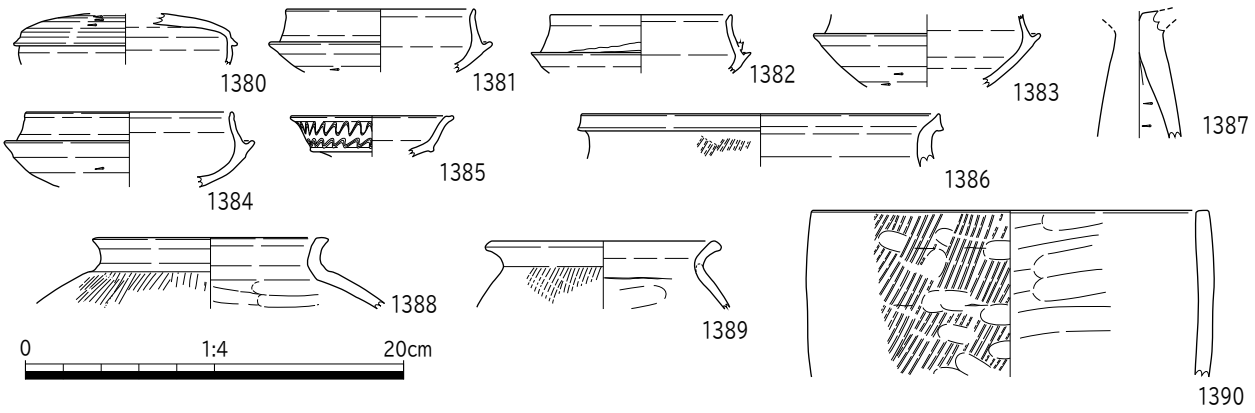


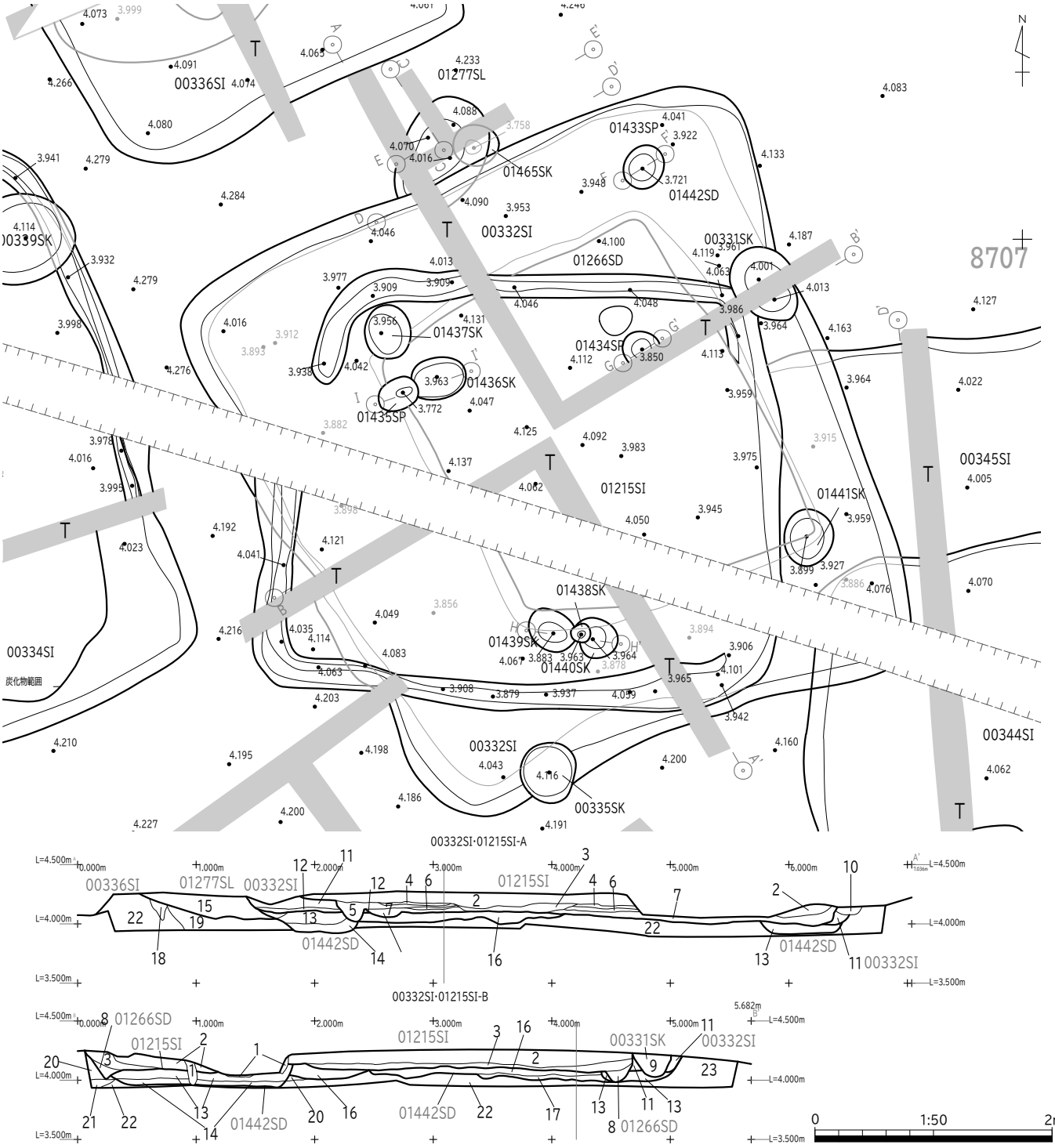
図 126 00115SI 出土遺物実測図

の上位に 01215SI が重複しており、それによって中央部の床面を中心に削平されているが、西辺の一部を除く各辺が残存している。平面形はほぼ正方形で、長軸約 5.1m、短軸約 4.9m、深さ約 0.3m である。01215SI 以外にも 00331SK・00335SK と重複しそれらに先行する時期である。東辺を主軸方位とすればグリッド北から西へ 20° 振れている。北辺中央にカマド 01277SL がある。底面ではいくつかのピットが確認されているが、01436SP・01435SP が西隅、01434SP・01439SK が南隅、のそれぞれ柱穴に相当すると考えられる。いずれも 2 基の重複で提示した順に掘り込まれている。よって同一地点で 2 時期存在したことになる。一方、東・北隅に相当する柱穴は検出されておらず、若干歪な場所に 01441SK などがあり、これが相当するかそれともきわめて浅い掘り込みで柱を立てていた可能性もある。いずれにせよ南西辺から確認された 2 つの柱穴までの距離は約 1.2m でやや間延びした感がある。このことから、0332SI の 2 時期変遷の間に南西辺側への拡張があった可能性も考えられる。ただしこの状況は土層断面 B-B’ でも明らかにすることはできなかった。ところでその土層断面によれば、01215SI によって 00332SI の床面は削平されていることから基盤層が凸形に削り出された状況のみが残存し、さらに平面的には凸形部分を溝 01420SI が幅広周溝状に取り巻いていることが確認される。この一連の痕跡は床面下の掘り方の状態とみなせる。したがって床面から掘り込まれる壁溝は検出されていない。

カマド跡 01277SL は解体された状態であり、その基部（袖）も残存していなかった。北西壁面から約 1.0m 突出する深さ約 0.2m の土坑状の掘り込みである。焼土や炭化物を少量含む埋土から、土師器長胴甕の破片も数点出土している。このことから、カマド解体にともない据えられていた甕も破砕されたが、その残滓は持ち出されたものと考えられる。

01215SI は、00332SI の調査が進むと、その底面から壁溝が周溝状に検出されたことによりその存在が判明した。次いでその延長線上にある 00332SI 南西辺を再度検出したところそこからはみ出した 01215SI の上端ラインを確認することができた。このような経緯であるから、埋土としては 00332SI と峻別されておらず出土遺物は 00332SI として取り上げられている。その規模であるが、東西方向に長い長方形で、長軸約 4.4m、短軸約 3.7m、深さ約 0.2m でその主軸方位はほぼグリッド北になる。壁溝 01266SD は深さ約 0.1m の小溝で東辺以外をほぼ全周する。01215SI に属するカマドはなく、また柱穴も北西隅に位置する 01437SK 以外には見出しにくい。しかし、隅に柱穴を設置する標準より小さい規模の竪穴建物跡ではまま見られることから、01437SK が柱穴である可能性が高いと考えられる。01215SI の埋土は、土層断面 A-A’ において 4・6 層の炭化物・焼土層が機能時の床面でその下位の 7 層が貼床に相当する。このように 00332SI 埋土の掘り返しだけでなく丁寧な床面施工を行なっていたことがわかった。また 4・6 層の状況から廃絶時には建屋の焼損などがあったとも考えられる。ただしこれらの状況も 2・3 層によって埋め戻されて封印された状態にある。

00332SI・01215SI の出土遺物は、先述した経緯により 00332SI として取り上げられている。したがって両者の構築時期を特定することは難しいが、埋土の大半が 01251SI に相当することや比較的新しい時期の遺物を抽出することによって 01215SI の時期は導き出せると



1. 攪乱
2. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色シルト小ブロックを少量含む。炭化物を極少量含む。01215SI)
3. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/1褐灰色シルトブロックを多く含む。01215SI)
4. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(炭化物を含む。01215SI)
5. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/1褐灰色シルト小ブロックを含む。炭化物を含む。01215SI)
6. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(炭化物を含む。焼土を多く含む。01215SI)
7. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/1褐灰色極細粒砂大ブロックを少量含む。炭化物を極少量含む。焼土を極少量含む。01215SI)
8. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/1褐灰色シルト小ブロックを少量含む。01266SD)
9. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/1褐灰色シルトブロックを多く含む。00331SK)
10. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層
11. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/1褐灰色シルト小ブロックを少量含む。00332SI)
12. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(炭化物を多く含む。焼土を極少量含む。00332SI)
13. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/1褐灰色シルト小ブロックを少量含む。01442SD)
14. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/1褐灰色極細粒砂ブロックを含む。炭化物を少量含む。01442SD)
15. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色シルトブロックを含む。炭化物を少量含む。焼土を少量含む。01277SL)
16. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色シルト小ブロックを少量含み、褐灰色シルト小ブロックを少量含む。00332SI掘方)
17. 10YR4/2灰黄褐色極細粒砂質シルト層(10YR3/2黒褐色シルトブロックを含む。00332SI掘方)
18. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/1褐灰色極細粒砂小ブロックを含む)
19. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/1褐灰色極細粒砂小ブロックを少量含む。炭化物を極少量含む)
20. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(炭化物を極少量含む)
21. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂ブロックを少量含む)
22. 10YR4/2灰黄褐色極細粒砂質シルト層(地山)

図 127　00322SI・01215SI 遺構図

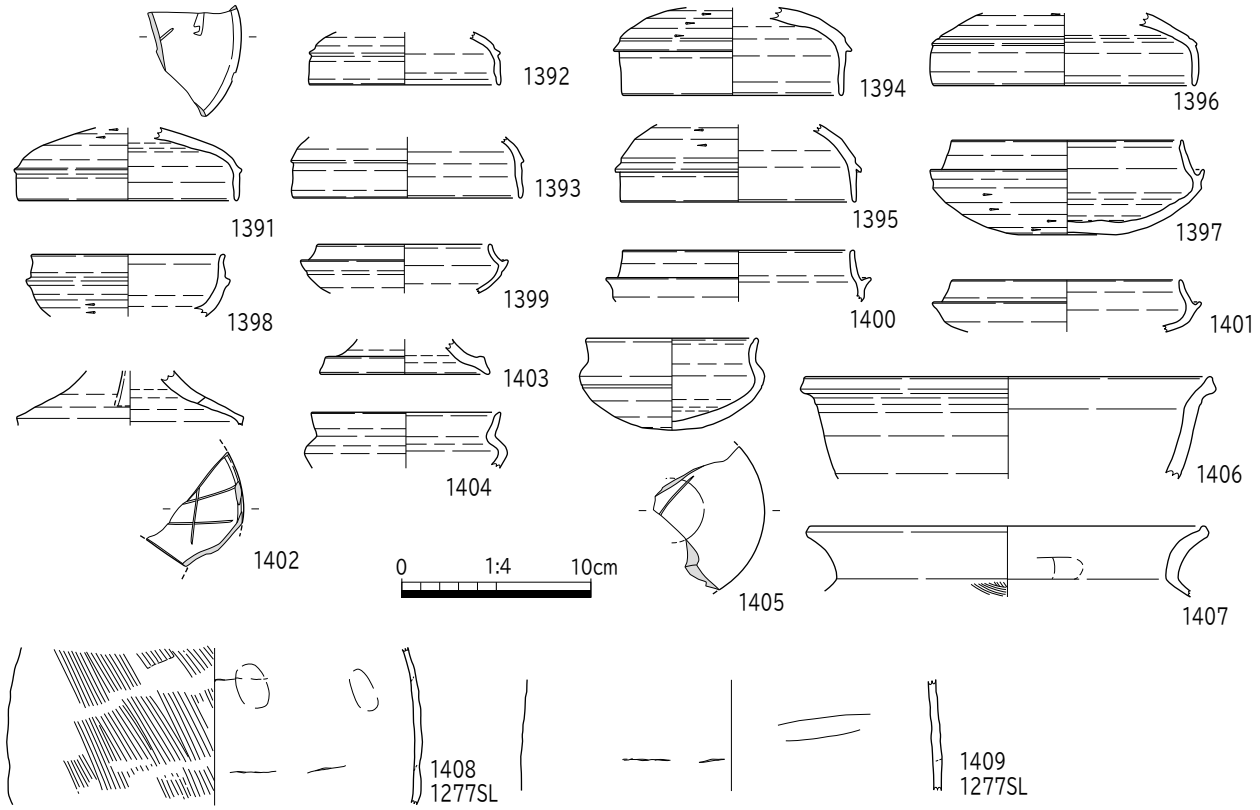
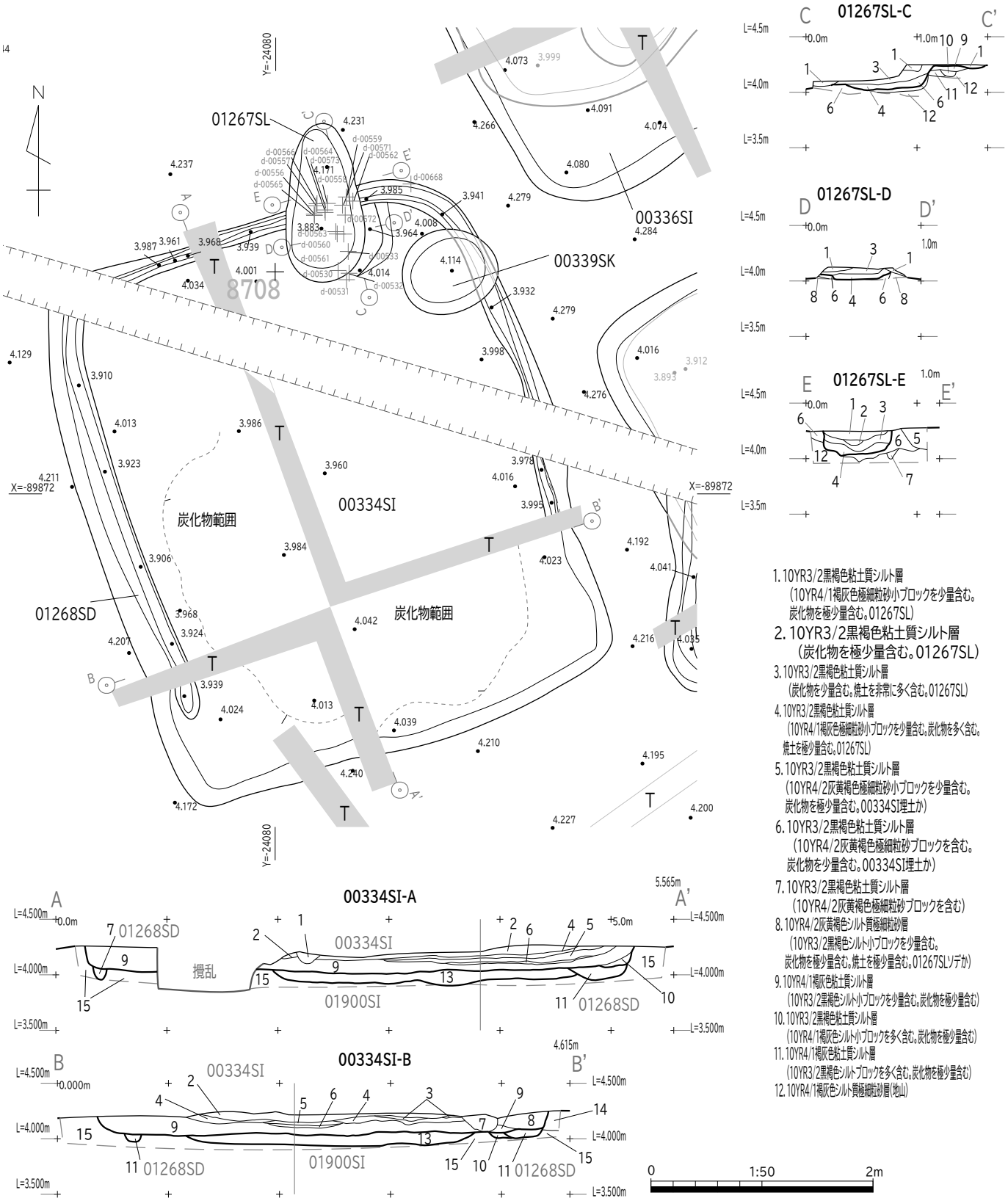


図 128 00332SI・01277SL 出土遺物実測図

思われる。それに基けば須恵器杯身（1399）や広口壺（1404・1405）が該当する可能性が高い。逆にそれ以外は 6 世紀代全般にわたるので 00332SI やそれに先行する時期の遺物とみられる。1394 は H-10 号窯式期、1396・1397 は H-61 号窯式期であるのに対して 1391 は 6 世紀後葉以降で、00332SI の時期に限定しうるカマド 1277SL 出土の土師器長胴甕はいずれも器壁が 4mm 以下と薄いことから、7 世紀半ば頃まで下る可能性が高い。以上から 00332SI を 7 世紀中葉、01215SI を 7 世紀後葉に位置づけられる。

00334SI　調査範囲南西部（21Ba 区）に位置する竪穴建物跡である。00332SI の西側 1m 以内に近接する。00332SI とはほぼ同じ方位である。他の遺構との重複関係は少なく、00339SK より古い時期で下位の検 3 面で検出された竪穴建物跡 1900SI より新しい。ほぼ全形が残存しており、平面形は南北にやや長い長方形となっている。その規模は長軸約 5.0m、短軸約 4.3m、深さ約 0.3m で、比較的深さのある形状の明瞭な遺構である。北辺中央からやや東寄りにカマドがあり（01267SL）、壁面より外へ約 0.6m 突出している。カマド内の埋土はブロック状の土が混じることからこれらは埋め戻しによるもので、ほぼ全体で解体されていると考えられるが、その一部は袖状（土手状）に 00334SI の床面で検出されている。壁溝（01286SD）は南辺で途切れているが壁面に沿って周回する。底面で柱穴は検出されなかった。底面の深さからみてもともと存在しなかった可能性が高い。埋土は上層で 2 ～ 6 層が薄く堆積する一方で下層（9 層）が厚くシルトブロックが含まれることから廃絶時に埋め戻されたと考えられる。

出土遺物は遺構の深さに比べてあまり多くない。須恵器の杯身（1411・1412）は 7 世紀中葉であるが、蓋（1413 ～ 1415）は C-2 号窯式で暦年代は 7 世紀末～ 8 世紀初頭になる。また 8 世紀後半に出てくる平底の須恵器甕（1416）があることも留意すればこれらが 8 世紀代まで下る可能性は高い。一方土師器は長胴甕（1419 ～ 1421）がありいずれもハケメ調整痕のある摘み上げ口縁の型式（いわゆる伊勢型）である。ただしその摘み上げは小さい。次にカマドから出土した土器であるが、7 世



1. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層
（10YR4/1褐灰色極細粒砂小ブロックを少量含む。炭化物を極少量含む。01267SL）
2. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層
（炭化物を極少量含む。01267SL）
3. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層
（炭化物を少量含む。焼土を非常に多く含む。01267SL）
4. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層
（10YR4/1褐灰色極細粒砂小ブロックを少量含む。炭化物を多く含む。焼土を極少量含む。01267SL）
5. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層
（10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを少量含む。炭化物を極少量含む。00334SI埋土か）
6. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層
（10YR4/2灰黄褐色極細粒砂ブロックを含む。炭化物を少量含む。00334SI埋土か）
7. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層
（10YR4/2灰黄褐色極細粒砂ブロックを含む）
8. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層
（10YR3/2黒褐色シルト小ブロックを少量含む。炭化物を極少量含む。焼土を極少量含む。01267SLソデか）
9. 10YR4/1褐灰色粘土質シルト層
（10YR3/2黒褐色シルト小ブロックを少量含む。炭化物を極少量含む）
10. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層
（10YR4/1褐灰色シルト小ブロックを多く含む。炭化物を極少量含む）
11. 10YR4/1褐灰色粘土質シルト層
（10YR3/2黒褐色シルトブロックを多く含む。炭化物を極少量含む）
12. 10YR4/1褐灰色シルト質極細粒砂層（地山）

1. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層（00334SI）
2. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層（10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを少量含む。炭化物を少量含む。00334SI）
3. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層（炭化物を少量含む。焼土を含む。000334SI）
4. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層（炭化物・灰を非常に多く含む。焼土を含むラミナ状堆積。00334SI炭化物）
5. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層（炭化物を極少量含む。焼土を少量含む。00334SI）
6. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層（炭化物を含む。焼土を極少量含む。00334SI）
7. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層（10YR4/2灰黄褐色極細粒砂ブロックを少量含む。炭化物を極少量含む。01268SD）
8. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層（10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを少量含む。00334SI）
9. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層（10YR2/2黒褐色シルトブロックを含む。炭化物を極少量含む。00334SI）
10. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層（10YR4/1褐灰色シルトブロックを含む。00334SI）
11. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層（10YR4/1褐灰色極細粒砂ブロックを含む。炭化物を極少量含む。01268SD）
12. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層（10YR4/1褐灰色極細粒砂ブロックを多く含む。01268SD）
13. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層（10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを少量含み、10YR4/1褐灰色極細粒砂小ブロックを少量含む。炭化物を極少量含む。01900SIか）
14. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層（10YR4/1褐灰色極細粒砂ブロックを含む。炭化物を極少量含む）
15. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層（地山）

図 129　00334SI・01267SL 遺構図

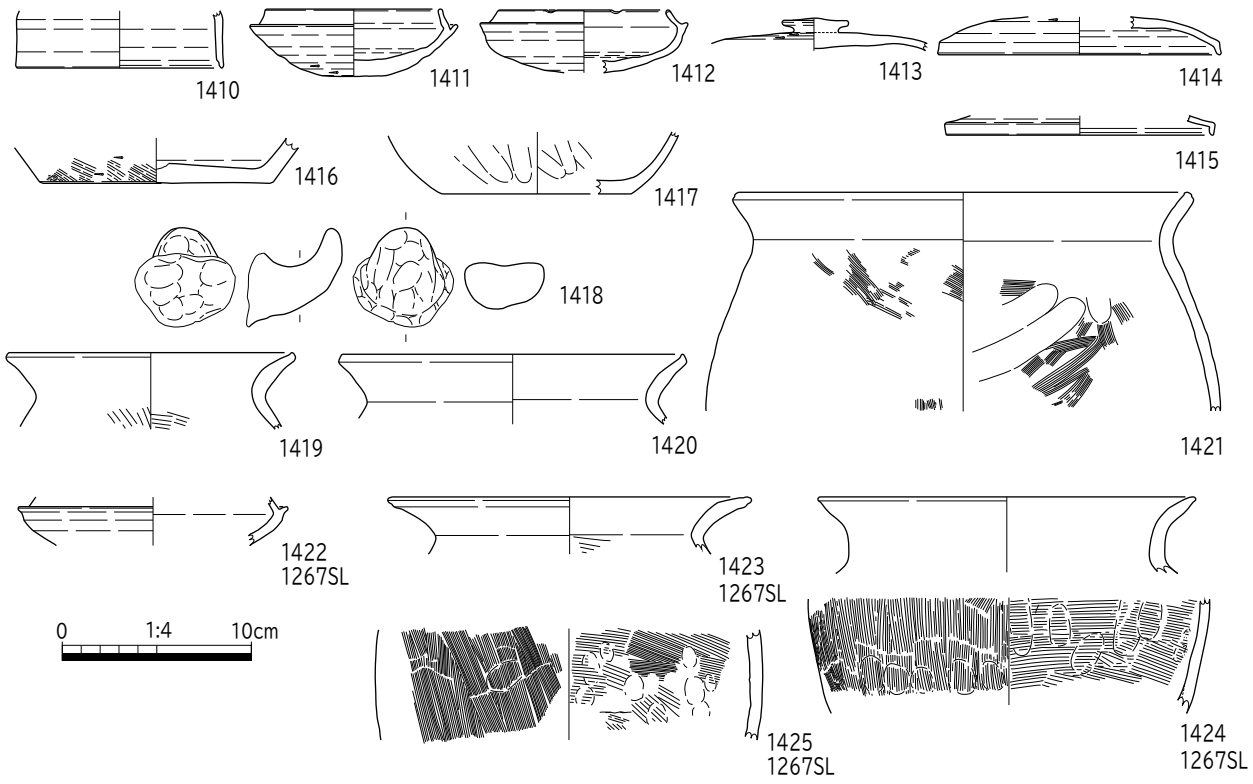


図 130 00334SI・01267SL 出土遺物実測図

紀前～中葉の須恵器杯身と土師器長胴甕（1423 ～ 1425）がある。後者は器壁はさほど薄くないが大きく外反する口縁部の先が細く尖ることなどから、7 世紀後半～ 8 世紀初頭とみられる。なお 1424 については付着する炭化物を試料として放射性炭素年代測定を行っており（測定番号 PLD-54959）、581-648 cal AD（95.45%）という数値年代を得た（2 σ暦年代較正）。概ね 7 世紀前半であり、器壁が薄くなる前という型式学的な評価と照合しても当該資料の年代としては疑問点がない。しかし建物本体から出土する須恵器の示す年代よりも古く、一部は隔たりが大きい。土師器甕が胴部の破片のみで出土していることから、煮沸以外に構築材など別の用途でカマドに使われた可能性、あるいは須恵器が廃絶後に混入した可能性も考えておく必要がある。以上の遺物の時期から 00334SI は 7 世紀後半～ 8 世紀初頭に機能・埋没したと推定される。

00336SI・00333SD　調査範囲南西部（21Ba 区）に位置する竪穴建物跡である。00332SI の北西側に近接するが、00332SI・00334SI との重複関係はない。しかし 00336SI 北西辺は東西方向の溝 00333SD に大きく切り込まれているほか、下位に竪穴状の土坑 01426SK が存在する。よって北西辺以外は全て残存しており、仮に北東辺を主軸とすればその方位はグリッド北から西へ 25° 振れている。平面形は北西辺の位置を類推すれば南北に長い長方形と推定され、その規模は長軸 3.5m 以上、短軸（南東辺）約 3.3m、深さ約 0.2m である。カマドや壁溝、柱穴は確認されていない。

埋土はほぼ単層（図 133、土層断面 A-A’ の 3 層）であるが、その下位にある 7 層上面が床面になっていたと考えられ壁溝（16 層）も 7 層を掘り込んでいることから床面検出時に認識できていなかった可能性が高い。一方 7 層以下にある下位遺構 01426SK は断面では平らな底面のある竪穴状遺構であるが、その平面形は円形部分も含む長軸約 3.4m の歪な形状をしている。こちらも壁溝のような落ち込みが周縁に存在することから竪穴建物の可能性も考えられるが、ここでは保留にしておきたい。さらに 00334SI を切り込む 00333SD は、確認された長さは約 30m である。その東端で方形土坑 00370SK に重なりこれより古い。その断面は V 字形で埋土はほぼ単層である。当該遺構は出土遺物が多いことで注目され、いくつ

かは 00336SI 出土遺物と接合関係にあるが、奈良時代以降に下るものはほとんどない。一方でその下層から瀬戸・美濃窯産陶器の灯明皿（978）が出土しているので、その開削時期も中世後半の大窯期まで下るものと考えられる。

以上のように 00333SD は 00336SI との時間的間隔が大きいことからその出土遺物も各種混在しているといえる。須恵器が圧倒的に多く土師器は宇田型台付甕(1455・1457）程度と少ない。1428 は須恵器杯蓋で蝮ヶ池窯式期で 6 世紀後葉、1429 は大口径であるから H-61 号窯式期である。1433 ～ 1437 は杯身で、1434 は口縁部に指圧をかけて強く内傾させた部分のあるもの。1436 は I-17 号窯式期の最末期の状態と時期幅が大きい。1445 は広口壺で 7 世紀前半、底部外面に多数の細い線刻群がある。1447 はこね鉢の底部で 1446 は外傾具合からその口縁部かもしれない。大甕の破片はみられないが鍋・甑はある。1451 は鍋で口縁部は片口に作ってある。1454 は古墳時代前期の屈折脚高杯。

00336SI の出土遺物は以下のとおりである。図化できるのが須恵器に限られ、杯身（1458 ～ 1465・1471）は

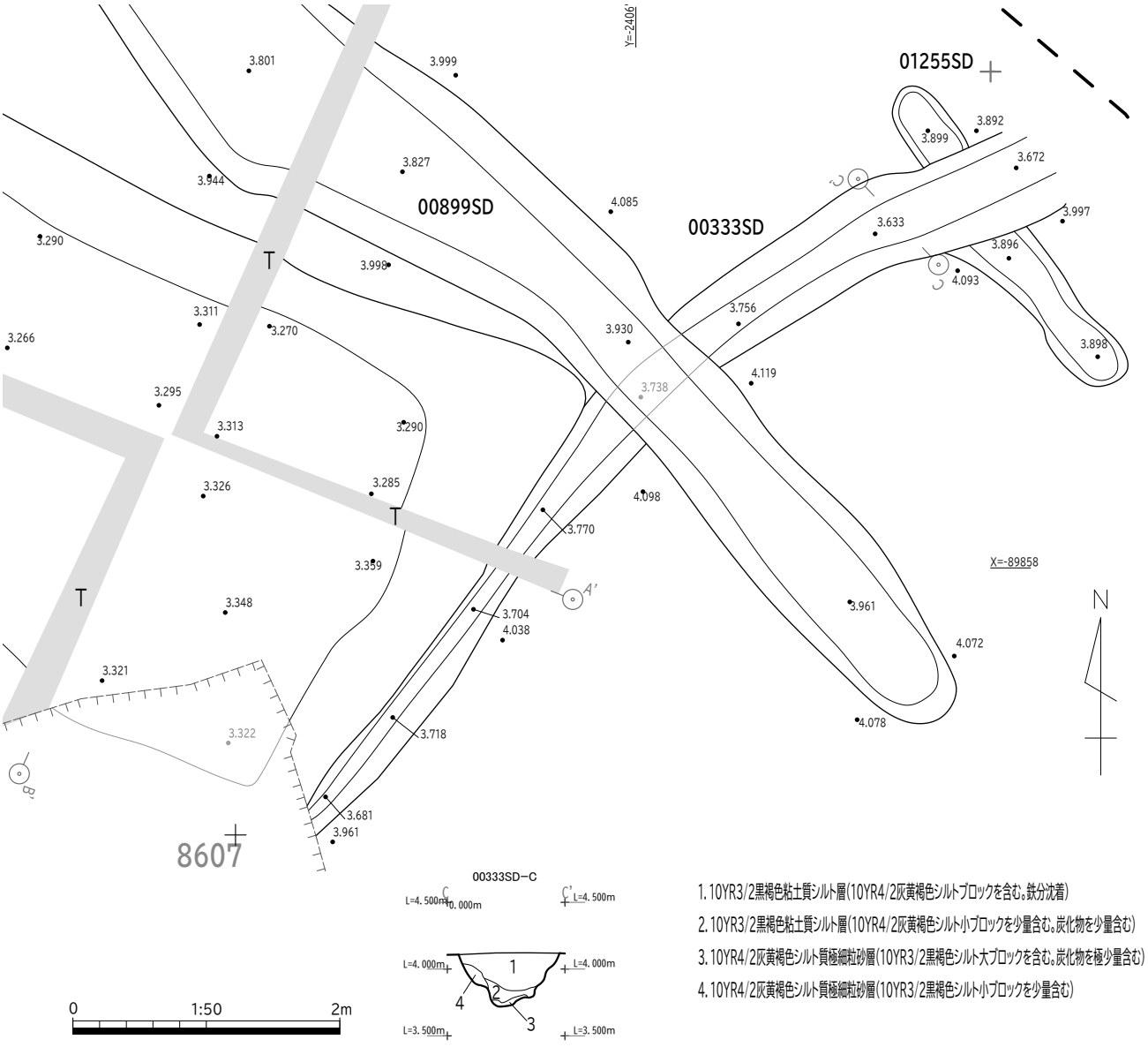


図 131　00333SD 遺構図

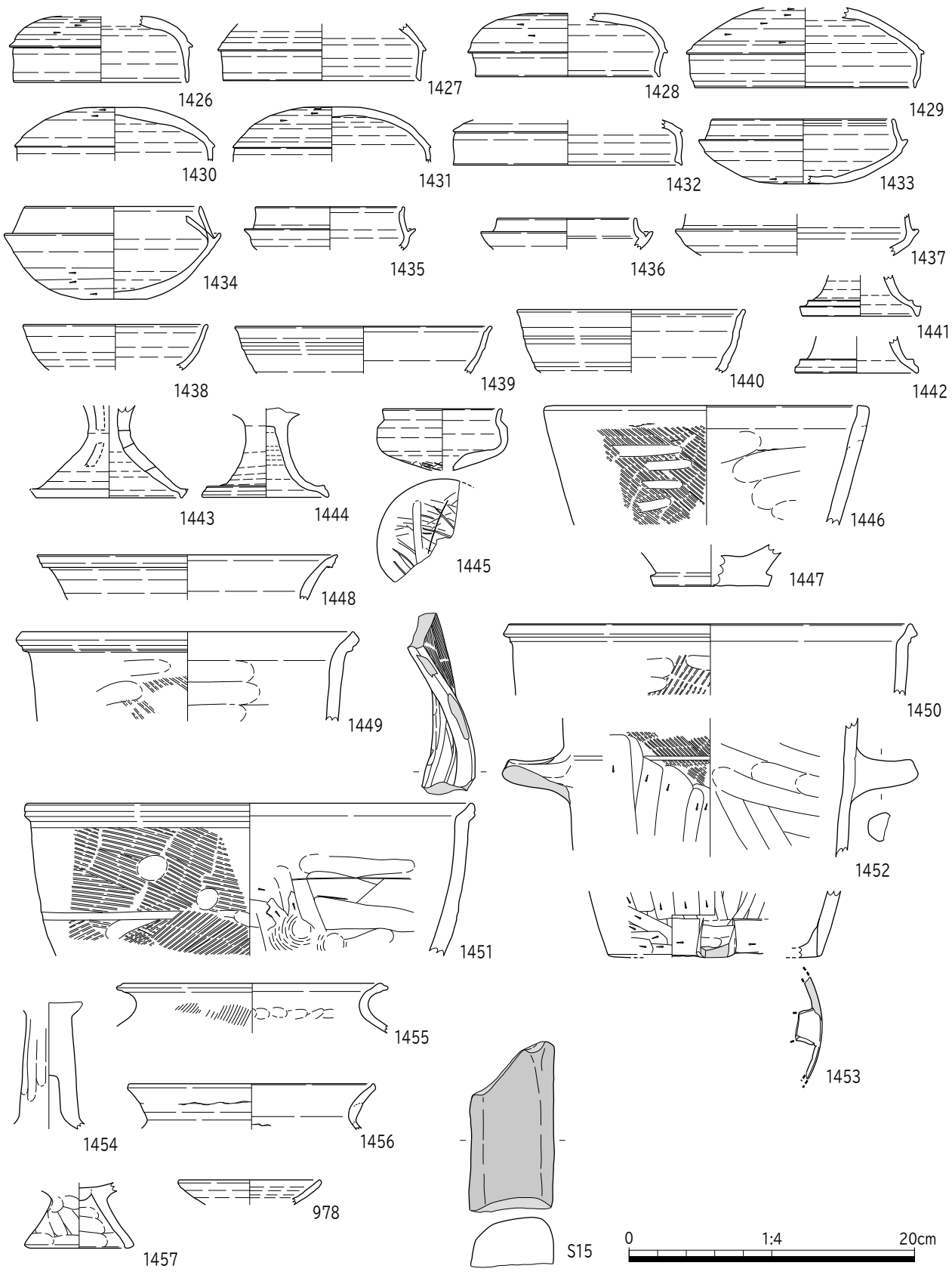
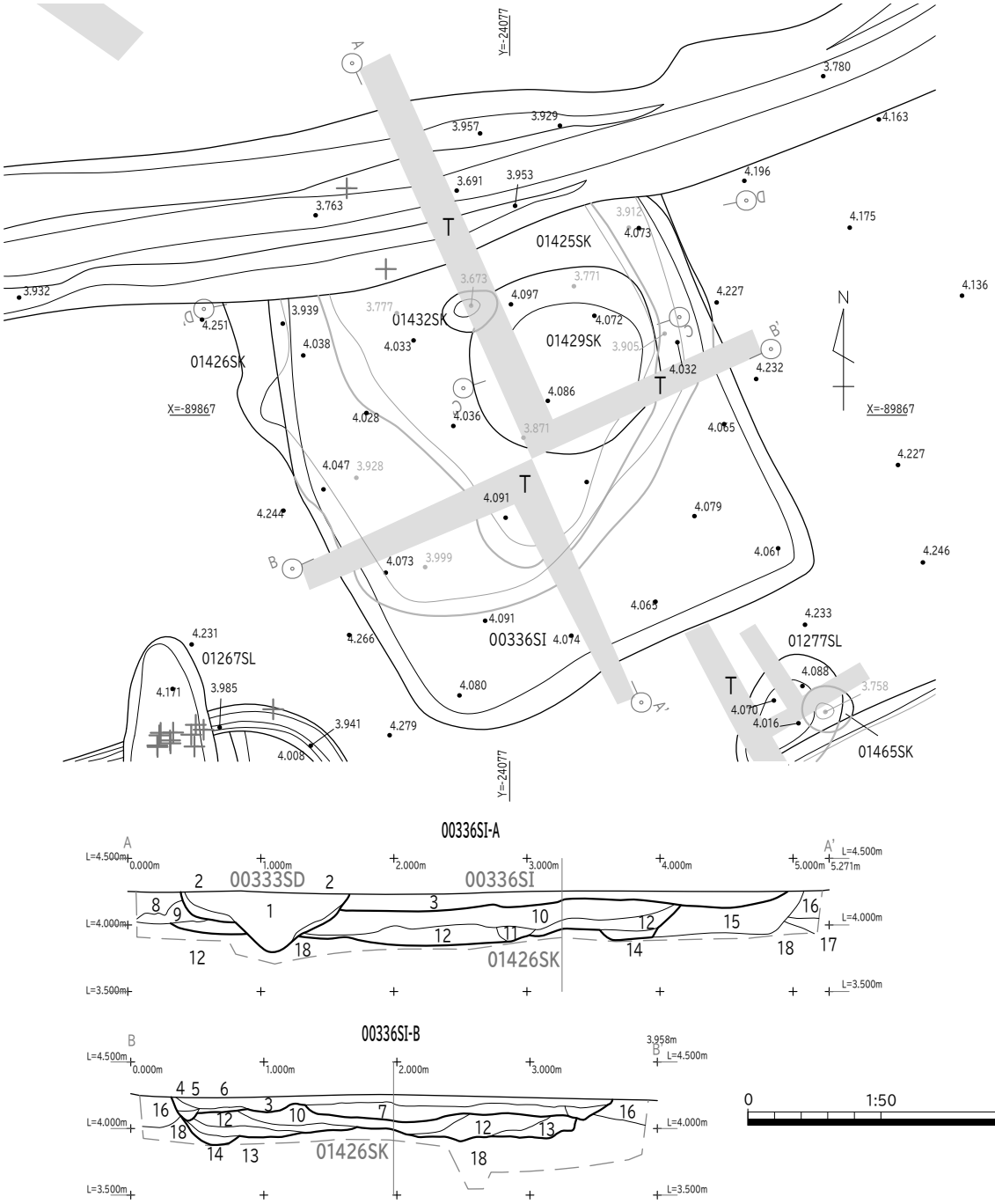
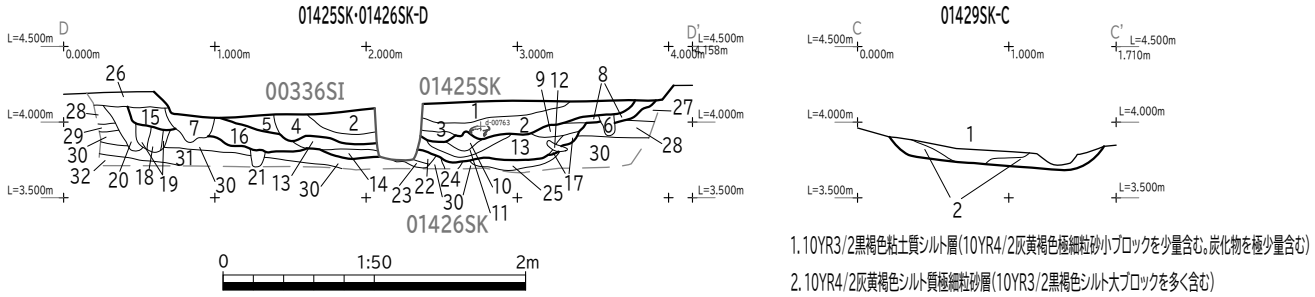


図 132　00333SD 出土遺物実測図



1. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを少量含み、細礫含む。炭化物を極少量含む。00333SD)
2. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂ブロックを多く含む。00333SD)
3. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色シルトブロックを少量含む。鉄分沈着。00336SI)
4. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(00336SI)
5. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(炭化物を少量含む。00336SI壁溝か)
6. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(炭化物を少量含む。焼土を少量含む。00336SI掘方と東壁溝)
7. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/1褐灰色シルトブロックを含む。00336SI)
8. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/1褐灰色シルトブロックを多く含む。炭化物を極少量含む)
9. 10YR4/2灰黄褐色粘土質シルト層(10YR3/2黒褐色シルト小ブロックを少量含む。鉄分沈着顕著)
10. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色シルト大ブロックを多く含む。炭化物を少量含む。01426SK)
11. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色シルト大ブロックを含む。01426SK)
12. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色シルトブロックを多く含む。炭化物を少量含む。01426SK)
13. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色シルトブロックを含む。01426SK)
14. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色シルトブロックを少量含む。01426SK)
15. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂大ブロックを含む。炭化物を少量含む)
16. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色シルト小ブロックを含む。炭化物を極少量含む)
17. 10YR4/2灰黄褐色極細粒砂質シルト層(10YR3/2黒褐色シルトブロックを含む。炭化物を極少量含む)
18. 10YR4/2灰黄褐色極細粒砂質シルト層(地山)

図 133　00336SI 遺構図



1. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを少量含む。炭化物を極少量含む)
2. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層(10YR3/2黒褐色シルト大ブロックを多く含む)

1. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを少量含む。01425SK)
2. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂ブロックを含む。炭化物を少量含む。須恵器杯身含む。01425SK)
3. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを少量含む。炭化物を極少量含む。01425SK)
4. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂大ブロックを多く含む。炭化物を含む。01425SK)
5. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂ブロックを含む。炭化物を少量含む。01425SK)
6. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを含む。炭化物を極少量含む)
7. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層(10YR3/2黒褐色シルト小ブロックを少量含む)
8. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂ブロックを少量含む。炭化物を極少量含む。01426SK)
9. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂大ブロックを含む。01426SK)
10. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを含む。01426SK)
11. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層(10YR3/2黒褐色シルト大ブロックを含む。炭化物を極少量含む。01426SK)
12. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを少量含む。01426SK)
13. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層(10YR3/2黒褐色シルト大ブロックを非常に多く含む。炭化物を少量含む。01426SK)
14. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層(10YR3/2黒褐色シルトブロックを含む。01426SK)
15. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを多く含む。01426SK)
16. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層(10YR3/2黒褐色シルト大ブロックを含む。炭化物を少量含む。01426SK)
17. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層(10YR3/2黒褐色シルト小ブロックを少量含む。01426SK)
18. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを少量含む。炭化物を少量含む。柱痕か)
19. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層(10YR3/2黒褐色シルトブロックを含む。掘り方か)
20. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層(10YR3/2黒褐色シルト小ブロックを少量含む)
21. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層(10YR3/2黒褐色シルト小ブロックを少量含む)
22. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂ブロックを多く含む)
23. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを少量含む。炭化物を極少量含む)
24. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂ブロックを含む)
25. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層(10YR3/2黒褐色シルトブロックを少量含む。炭化物を極少量含む)
26. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを含む。鉄分沈着)
27. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層(鉄分沈着。地山)
28. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層(鉄分少量沈着。地山)
29. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを少量含む)
30. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層(地山)
31. 10YR4/1褐灰色シルト質極細粒砂層(地山)
32. 10YR5/1褐灰色シルト質極細粒砂層(地山)

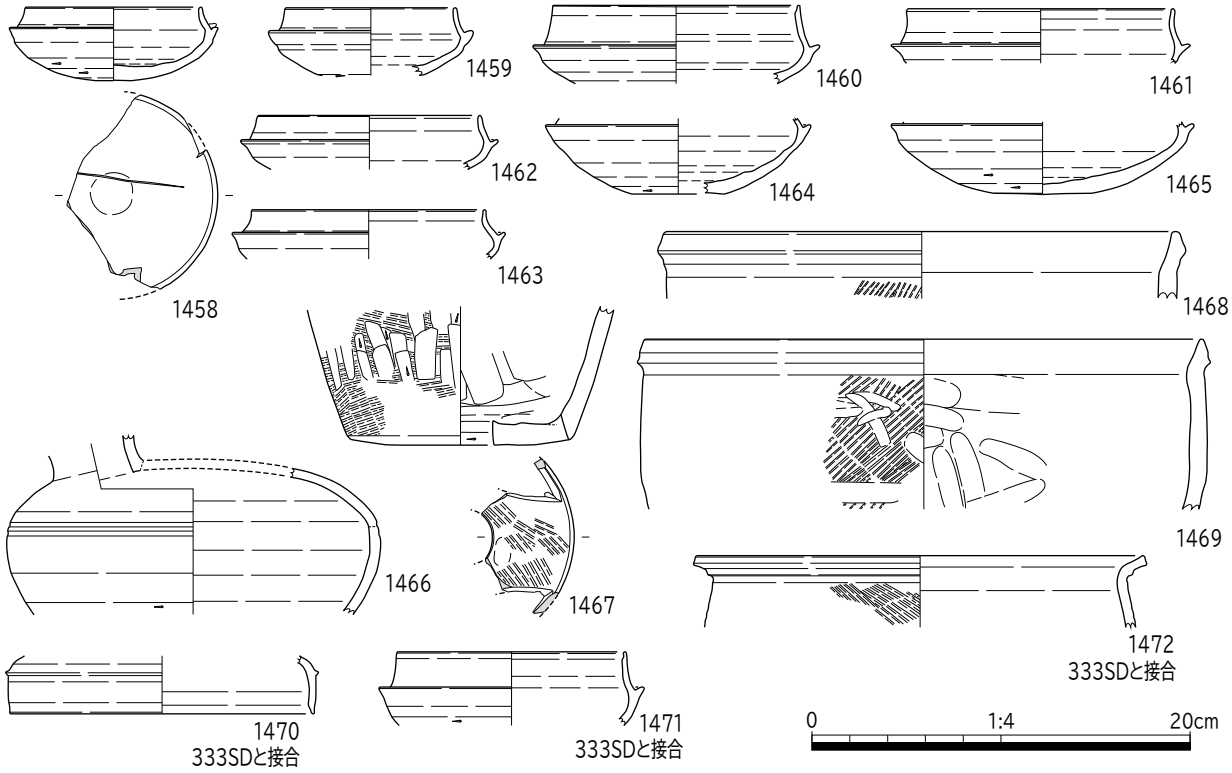


図 134　00336SI・01425SK・01426SK 遺構図・出土遺物実測図

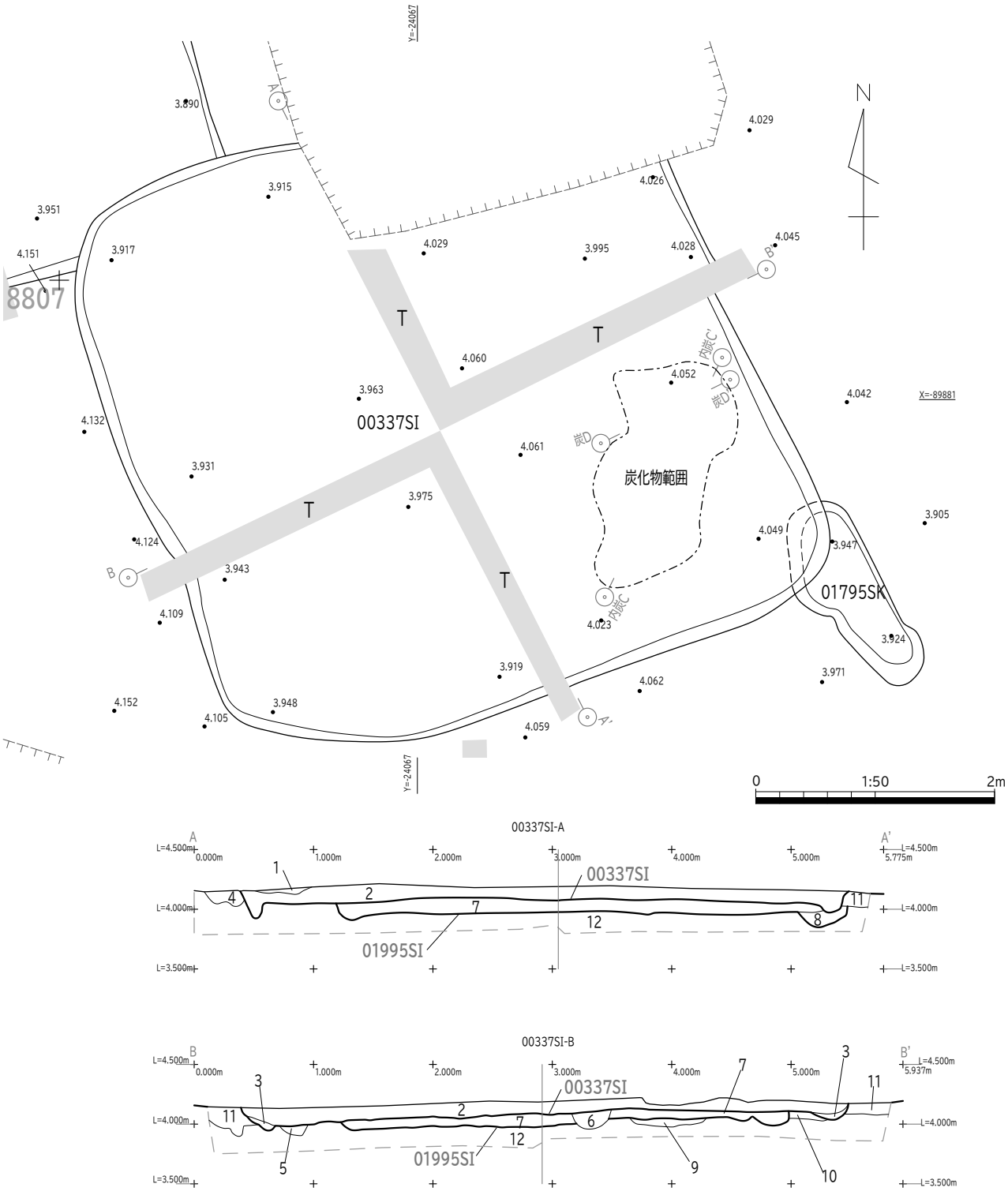
6 世紀中葉～ 7 世紀中葉まで幅広い。1458 は I-101 号窯式期で 7 世紀中葉、丸みのある底部外面に刻書「-」がある。1462・1466 はそこからやや古く H-44 号窯式期、1460・1461・1464・1465 は大口径の大型品で H-61 号窯式期。1466 は平瓶で全体に丸く稜線のない型式で I-101 号窯式期になるだろう。1467 は甑の底部だが、7 世紀代は細い桟で蒸気孔とするのに対しこちらはタタキ痕のある底面を切り欠いて 5 か所の蒸気孔としている。底面が滑らかに張り出している点にも注目される。鍋（1468・1469）は口縁端部が上方に三角形となる型式である。

以上より、00336SI が機能した時期は 7 世紀中葉になると考えられる。

00337SI　調査範囲南西部（21Ba 区）に位置する竪穴建物跡である。00336SI から南東約 7m の位置にある。北西隅で竪穴建物 00338SI と重複、さらに検 3 面で下位に竪穴建物 01995SI にも重複しこれらより新しい関係にある。一方で北東隅部を撹乱で削平されている。しかしその規模は明らかで平面形は一辺約 5.2m の正方形、深さ約 0.2m である。カマドはなく、柱穴が想定できるピットもない。ただし南東部に長軸約 2m の炭化物の集積がみられる。これはほとんど厚みがなく後述する埋め戻しによる埋土の下で広がっていることから、00337SI 廃絶時の状況とみてよいだろう。さらにその下位には「土器埋設」とされる土師器甕（図 137-1483）が出土している。ほぼこれらが撹乱を受けていない状況であるから、土師器甕はこの場に据えられていた可能性が高く、おそらくこの場所で移動式カマドを設置してそれに掛ける甕の支脚にしていたものと思われる。土層断面（図 136）によ



図 135　旧河道左岸の古墳時代後期～古代の建物跡分布図（1）



1. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(炭化物を多く含む。00337SI)
2. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂ブロックを多く含む。炭化物を極少量含む。00337SI)
3. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを多く含む。00337SI壁溝か)
4. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(炭化物を極少量含む)
5. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層(10YR3/2黒褐色シルトブロックを含む)
6. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂大ブロックを多く含む)
7. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂ブロックを含む。炭化物を極少量含む。01995SI)
8. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを少量含む。01995SI壁溝か)
9. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層(10YR3/2黒褐色シルト小ブロックを少量含む)
10. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR3/2黒褐色シルト小ブロックを少量含む)
11. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(鉄分沈着顕著。地山)
12. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層(鉄分少量沈着。地山)

図 136　00337SI 遺構図

れば、埋土は単層で、壁溝に相当する凹みが存在する（ただし平面的には検出できていない）。ブロック状の土を多く含むことから廃絶後に埋め戻されれたと考えられる。

00337SI の出土遺物は須恵器の小片が大半である。1473 は須恵器の杯蓋で色調は灰白色、硬質で端部が尖らせてある。蝮ヶ池窯式期で 6 世紀後葉である。1476 は杯身で H-44 号窯式期。1477 ～ 1481 は高杯である。1483 は炭化物集中地点で出土した土師器小型甕である。ほぼ設置時の状態となっており底部はない。口縁部は短く外傾し、胴部は口径とほぼ同じくらいの最大径である。細かいハケメ調整と口縁部の指オサエの痕跡がある。小型甕は摘み上げ口縁の長胴甕とは異なり在地系であることから比較的古い要素が残りやすい。例えば西三河地域の豊田市・水入遺跡ではこの型式の小型甕が 7 世紀半ばの須恵器と共伴する（愛知県埋蔵文化財センター 2005『水入遺跡』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第 108 集）。このことから、00337SI の機能していた時期は 7 世紀初頭～中葉の幅で考えられる。

00338SI　調査範囲南西部（21Ba 区）に位置する竪穴建物跡である。00337SI と北西隅で重複し、それより古い関係にある。一方北東隅では 00344SI と重複しそれより新しい時期である。それ以外はあまり削平を受けていないのでほぼ全形が判明しており、平面形は南北に長い長方形で、規模は長軸約 5.0m、短軸約 4.2m、深さ約 0.2m であるが、やや東辺が斜めに検出されており台形状でもある。その西辺を主軸とすれば方位はグリッド北から西へ 16° 振れている。カマドは確認されず、壁溝（01404SD）は北西隅で若干みられるのみである。また柱穴は北東柱に相当する場所で 01405SP で確認されたが、底面で 1 か所しかないことと、01405SP の東方約 1.8m の場所で同規模の土坑 01406SK があることの 2 点を踏まえると、01405SP が 00338SI の一部とするには躊躇される。とはいえ掘立柱建物の柱列としても十分な数ではないことから、単独の柱穴遺構として扱っておく。さて、01405SP の付近には長軸約 0.75m、深さ約 0.2m の楕円形をした土坑があり、位置関係からこれは 00338SI に伴う貯蔵穴である可能性が高い。通常、貯蔵穴はカマドの脇

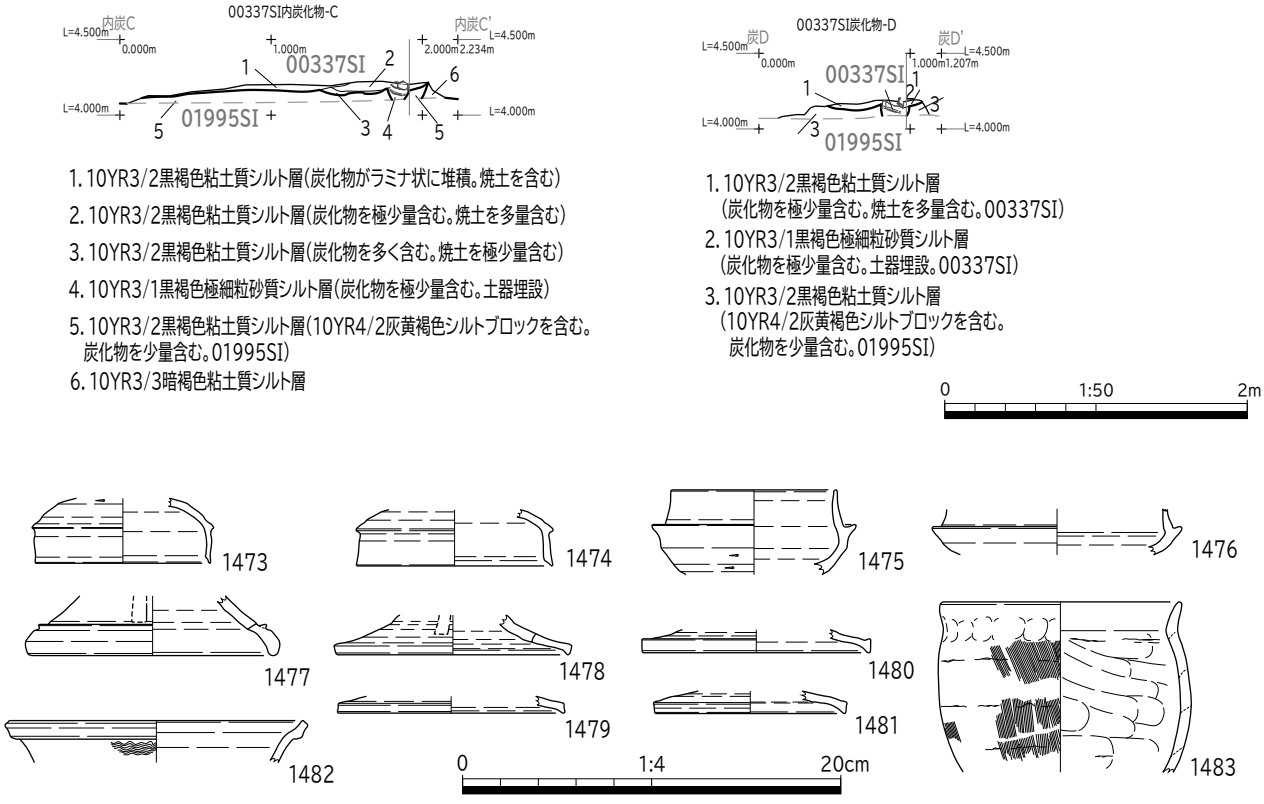


図 137　00337SI 遺構図・出土遺物実測図

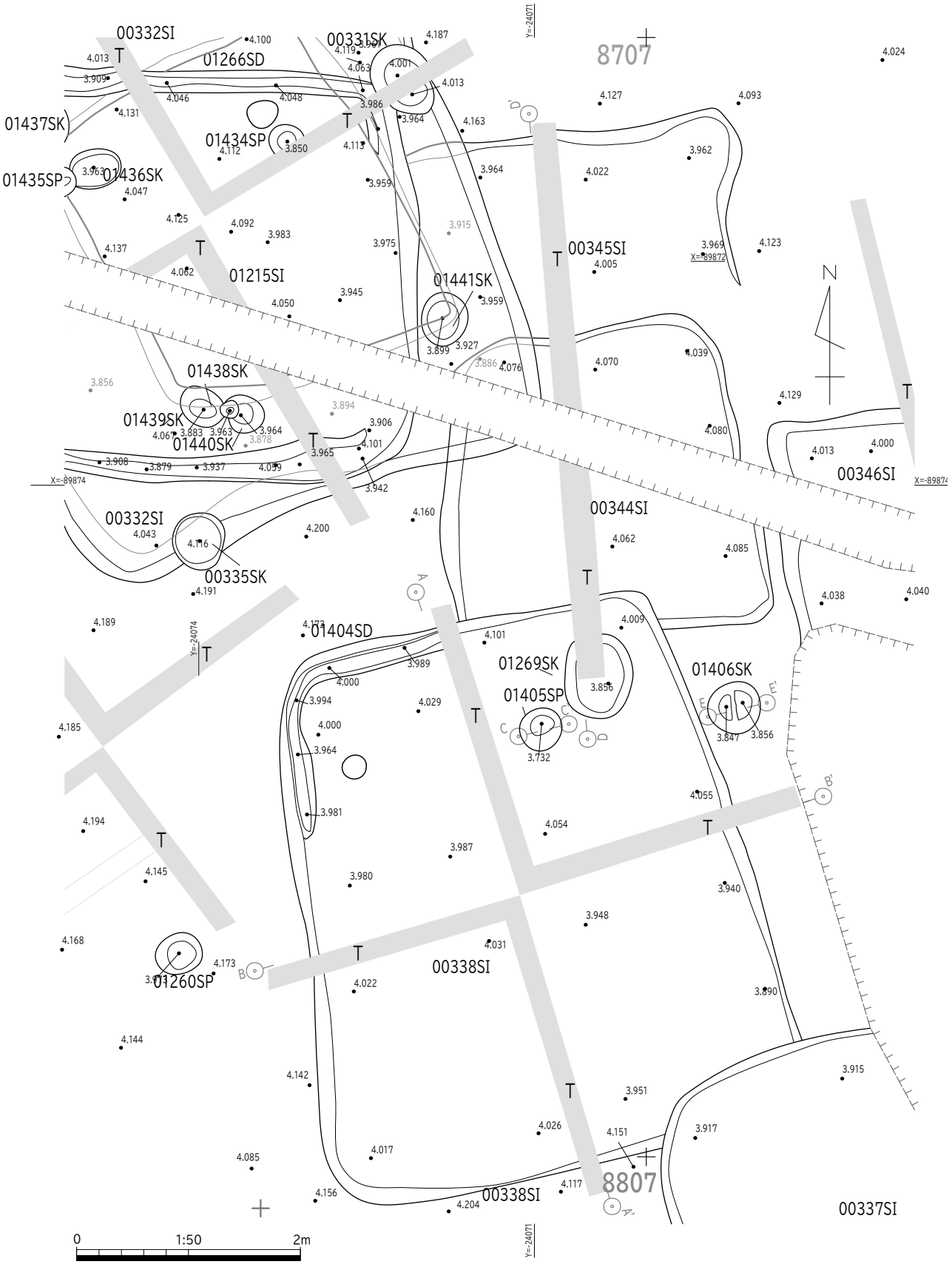
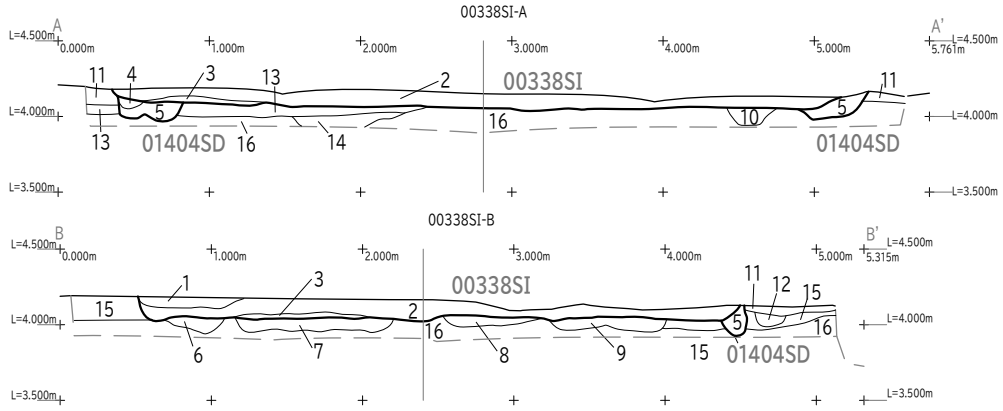
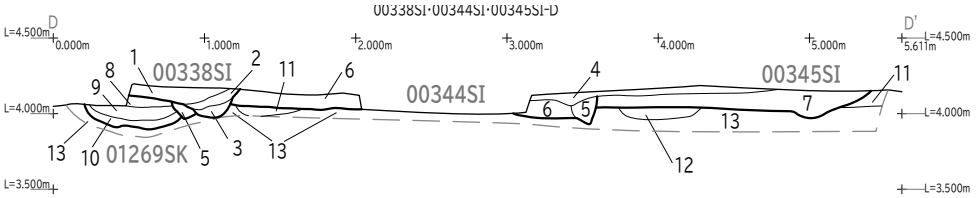


図 138　00338SI 遺構図 (1)



1. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR7/1灰白色細粒砂小ブロックを含む。00338SI)
2. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂ブロックを含む。炭化物を少量含む。00338SI)
3. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(炭化物を非常に多く含む。焼土を少量含む。00338SI)
4. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂ブロックを含む。01404SD)
5. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを含む。炭化物を極少量含む。01404SD)
6. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂ブロックを含む)
7. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層(10YR3/2黒褐色シルトブロックを多く含む。炭化物を極少量含む)
8. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂大ブロックを多く含む)
9. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層(10YR3/2黒褐色シルト大ブロックを多く含む。炭化物を極少量含む)
10. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを少量含む。下位竪穴建物の壁溝)
11. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(鉄分沈着。地山)
12. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを少量含む)
13. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層(10YR3/2黒褐色シルト大ブロックを多く含む。下位の竪穴建物の埋土)
14. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂大ブロックを含む。炭化物を極少量含む)
15. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層(10YR3/2黒褐色シルトブロックを含む。下位の竪穴建物の埋土か)
16. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層(地山)



1. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色シルト小ブロックを含む。炭化物を極少量含む。鉄分少量沈着。00338SI)
2. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色シルトブロックを含む。炭化物を極少量含む。00338SI)
3. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/1褐灰色極細粒砂小ブロックを少量含む。00338SI壁溝か)
4. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(炭化物を少量含む)
5. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色シルト小ブロックを含む。炭化物を極少量含む。00344SI壁溝か)
6. 10YR4/2灰黄褐色極細粒砂質シルト層(10YR3/2黒褐色シルトブロックを多く含む。炭化物を極少量含む。00344SI)
7. 10YR4/2灰黄褐色極細粒砂質シルト層(10YR3/2黒褐色シルト大ブロックを多く含む。00345SI)
8. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂ブロックを含む。炭化物を極少量含む。1269SK)
9. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(炭化物を非常に多く含む。焼土を多量含む。1269SK)
10. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂ブロックを少量含む。炭化物を極少量含む。1269SK)
11. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色シルト大ブロックを多く含む)
12. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色シルトブロックを含む)
13. 10YR4/2灰黄褐色極細粒砂質シルト層(地山)

0 1:50 2m

図 139 00338SI 遺構図 (2)

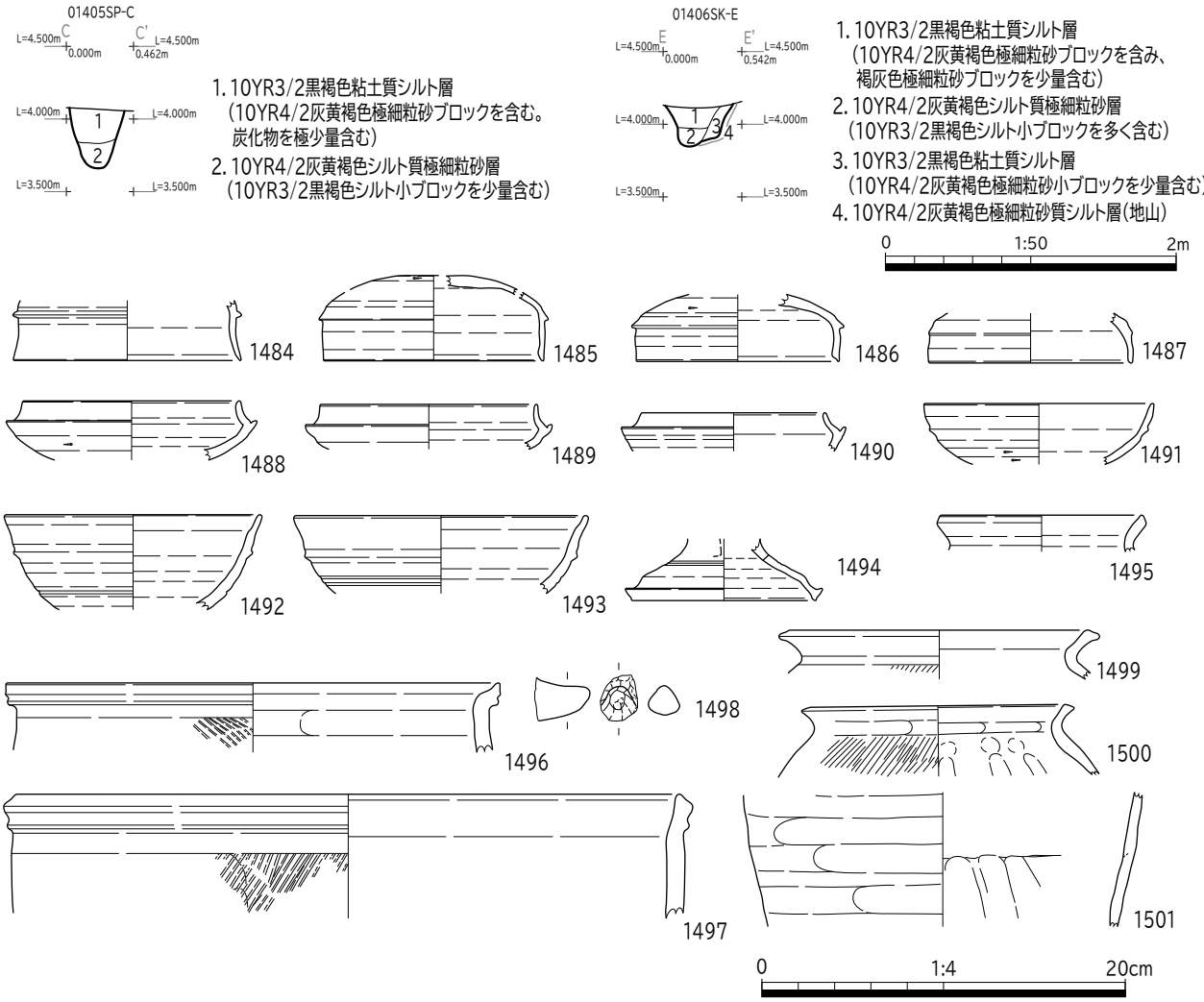


図 140　01405SP・01406SK 遺構図・00338SI 出土遺物実測図

に設けられることが多いが、その明確な痕跡がないことから 00337SI のような移動式カマドがあった可能性もある。埋土はほぼ単層でブロック状の土を含むことから廃絶後に埋め戻されたと考えられる。

00338SI からの出土遺物は須恵器の小片が主体である。土師器の宇田型台付甕（1499・1500）などの古い時期の土器は混入と考えられ、須恵器杯蓋（1487）は H-15 号窯式期、杯身（1489）は H-44 号窯式期に相当、同（1490）は H-15 号窯式期、無蓋高杯（1451）は H-15 号窯式期～ H-101 号窯式期である。よって、遺物の時期と後続する 00337SI の年代から以上の須恵器は廃絶時に混入したとみなされ、00338SI は 7 世紀中葉に廃絶したものと考えられる。

00340SI・01444SI　調査範囲南西部（21Ba 区）に位置する竪穴建物跡である。00340SI は 00337SI の南側約 3m、01444SI はさらに 1m 以内とほぼ接する位置にある。00340SI と 01444SI は重複関係にあり、前者が後者より新しい関係にある。

00340SI の平面形は南北に長い長方形で規模は長軸約 4.8m、短軸 4.3m、深さ 0.15m である。東辺が他の辺に対してやや斜めとなっている。そこで西辺を主軸としてその方位をみるとグリッド北から西へ 10° 振れている。カマドは確認されず、壁溝も平面では確認できず土層断面（図 142）の B-B’ で 6 層としてみられるのみである。柱穴も確定できるものはなく、位置的にふさわしい 01971SP や 01948SK は下層の 01444SI の底面で確認されたもので当該遺構との関係はないとみられる。このように顕著な付属遺構がみられない点は検 2 面の遺構のなかでも比較的上位（後続）の遺構の特徴でもある。

00340SI としての出土遺物はほとんどが須恵器の小片

である。1502 ～ 1505 は杯蓋で 1503 ～ 1505 は 7 世紀前半代。1512 は当該遺構の土器群のなかで半分以下（40%）ではあるが比較的残存部分が多いこね鉢である。この状態での重量は 545.6g を計る。内面に降灰による自然釉が付着し、底部には窯滓の釉着もあることからどれだけ本来の擦り潰しの用途に耐えられたものか疑わしい。1513 は土師器小型甕で、外反する口縁部を摘み出すように尖らせている。これらを総括すると概ね 7 世紀中葉となろう。

01444SI の平面形は、北辺と南辺の向きが整合的とはいえないが、東辺と西辺の平行関係からすると、それは東西方向に長い長方形～台形とみてよい。その規模は長軸約 6.2m、短軸約 5.1m、深さ約 0.25m である。したがって遺構面からの深さでは 00340SI より 2 倍深い。壁溝は平面・土層断面（図 141・142）とも確認できていない。

01444SI に関して、カマド跡と推定される炭化物・焼土の集積が 2 か所で確認されている。01443SL は北辺の中央よりやや西側で壁面から約 0.3m 突出する土坑状の

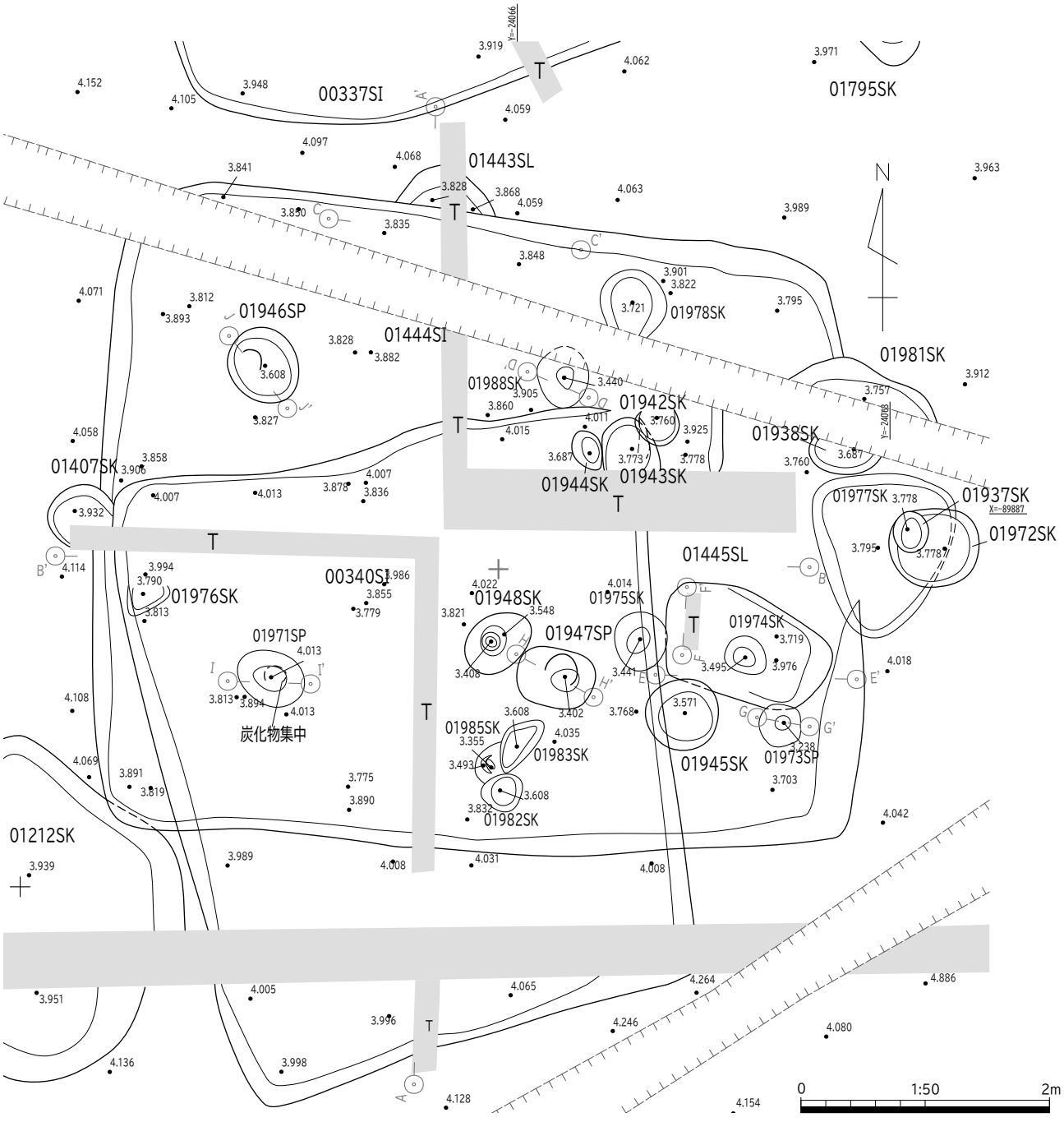
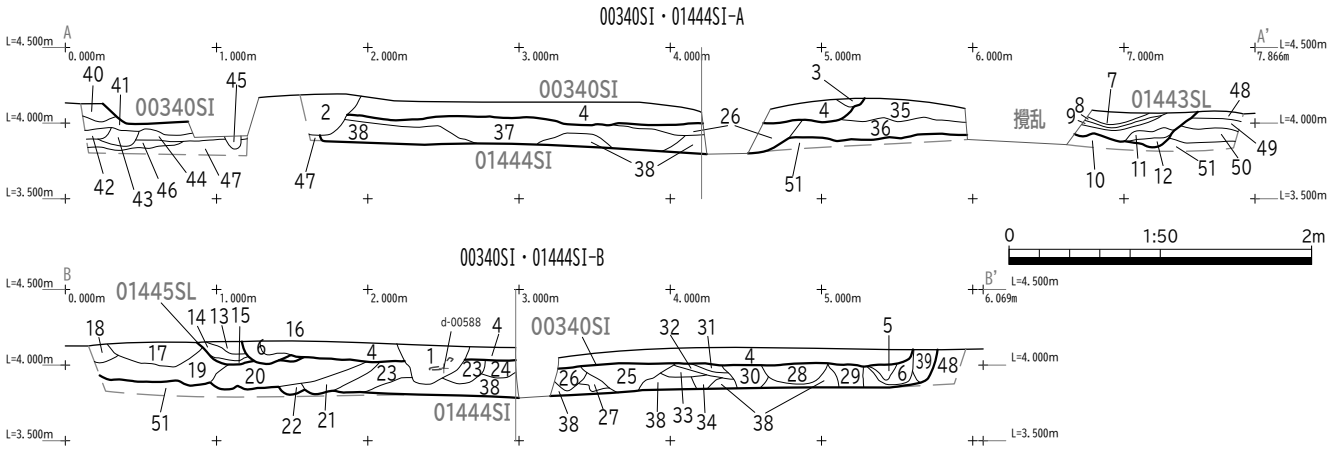
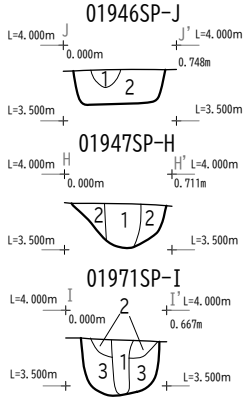


図 141　00340SI 遺構図（1）



1. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを少量含み、10YR7/1灰白色細粒砂小ブロックを少量含む。炭化物を極少量含む)
2. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを多く含む。炭化物を極少量含む。鉄分少量沈着)
3. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(00340SI)
4. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを非常に多く含む。炭化物を含む。鉄分沈着顕著。00340SI)
5. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR7/1灰白色細粒砂小ブロックを少量含む。00340SI壁溝か)
6. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを含む。00340SI壁溝か)
7. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂ブロックを含む。炭化物を少量含む。01443SL)
8. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(炭化物を極少量含む。焼土を多量含む。01443SL)
9. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(炭化物を非常に多く含む。焼土を少量含む。01443SL)
10. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層(10YR3/2黒褐色シルト大ブロックを多く含む。炭化物を極少量含む。01443SL)
11. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層(10YR7/1灰白色シルトブロックを多く含む。炭化物を極少量含む。01443SL)
12. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層(10YR7/1灰白色シルト小ブロックを少量含む。01443SL)
13. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(炭化物を極少量含む。01445SL)
14. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(炭化物を少量含む。焼土を非常に多く含む。01445SL)
15. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(炭化物・灰を非常に多く含む。01445SL)
16. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(炭化物・灰を多く含む。焼土を極少量含む。01445SL)
17. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR7/1灰白色細粒砂小ブロックを含む。鉄分沈着。01444SI)
18. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR7/1灰白色細粒砂ブロックを多く含む。鉄分少量沈着。01444SI)
19. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを少量含む。炭化物を少量含む。焼土を極少量含む。01444SI)
20. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを含む。炭化物を少量含む。焼土を含む。01444SI)
21. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを少量含む。炭化物を少量含む。焼土を極少量含む。01444SI)
22. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを多く含む。01444SI)
23. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂ブロックを多く含む。炭化物を少量含む。焼土を極少量含む。01444SI)
24. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂ブロックを含む。炭化物を含む。01444SI)
25. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを少量含む。炭化物を多く含む。
26. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂ブロックを含む。炭化物を含む。01444SI)
27. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(炭化物を少量含む。01444SI)
28. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂ブロックを多く含む。炭化物を極少量含む。01444SI)
29. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを少量含む。炭化物を極少量含む。01444SI)
30. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを多く含む。炭化物を少量含む。01444SI)
31. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを多く含む。炭化物を少量含む。鉄分少量沈着。01444SI)
32. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(炭化物を非常に多く含む。焼土を含む。01444SI)
33. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを含む。炭化物を含む。焼土を極少量含む。01444SI)
34. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを含む。炭化物を少量含む。01444SI)
35. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR7/1灰白色細粒砂ブロックを含み、灰黄褐色極細粒砂ブロックを含む。鉄分沈着顕著。01444SI)
36. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層(10YR3/2黒褐色シルト小ブロックを多く含む。鉄分少量沈着。01444SI)
37. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを含む。炭化物を少量含む。焼土を極少量含む。鉄分少量沈着。01444SI)
38. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層(10YR3/2黒褐色シルト小ブロックを含む。鉄分少量沈着。01444SI)
39. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂ブロックを少量含む。炭化物を極少量含む。01444SI)
40. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR7/1灰白色細粒砂ブロックを含む。炭化物を極少量含む。鉄分沈着。02175SIか)
41. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂ブロックを多く含む。炭化物を少量含む。鉄分少量沈着。02175SIか)
42. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを少量含む。炭化物を極少量含む。02175SIか)
43. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを少量含む。炭化物を少量含む。02175SIか)
44. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層(10YR3/2黒褐色シルトブロックを非常に多く含む。炭化物を少量含む。02175SIか)
45. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層(10YR3/2黒褐色シルト大ブロックを非常に多く含む。02175SIか)
46. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層(10YR3/2黒褐色シルトブロックを含む。炭化物を含む。02175SIか)
47. 10YR4/1褐灰色シルト質極細粒砂層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂ブロックを含み、10YR3/2黒褐色シルト小ブロックを含む。炭化物を極少量含む。02175SIか
48. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(鉄分沈着顕著。2面包含層)
49. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂ブロックを少量含む。炭化物を少量含む。2面地山)
50. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層(10YR3/2黒褐色シルトブロックを含む。鉄分少量沈着。3面包含層)
51. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層(鉄分少量沈着。3面地山)



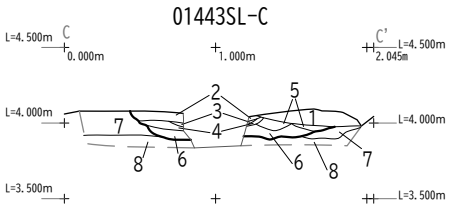
01946SP-J
1. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを含む)
2. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層(10YR3/2黒褐色シルトブロックを含む)

01947SP-H
1. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを少量含む。柱痕)
2. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂ブロックを多く含む。掘方)

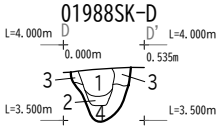
01971SP-I
1. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを少量含む。柱痕)
2. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂大ブロックを非常に多く含む。掘方)
3. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂ブロックを含む。掘方)

0 1:50 2m

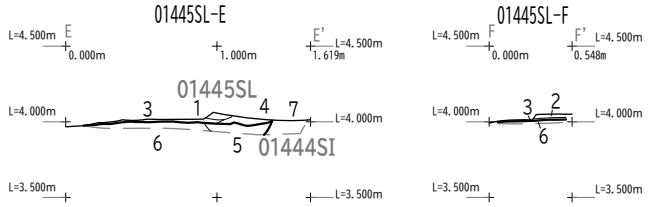
図 142　00340SI 遺構図 (2)



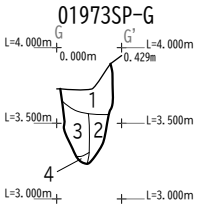
1. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを少量含む。炭化物を極少量含む。鉄分沈着顕著)
2. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂ブロックを含む。炭化物を少量含む。01443SL)
3. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(炭化物を極少量含む。焼土を多量含む。01443SL)
4. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(炭化物・灰をを非常に多く含む。焼土を少量含む。01443SL)
5. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(炭化物を極少量含む。01443SL)
6. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層(10YR3/2黒褐色シルト大ブロックを多く含む。炭化物を極少量含む。01443SL)
7. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを少量含む)
8. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層(地山)



1. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂大ブロックを多く含む。柱痕)
2. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層(10YR3/2黒褐色シルト小ブロックを含む)
3. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂ブロックを少量含む。掘方)
4. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層(10YR3/2黒褐色シルト小ブロックを少量含む。掘方)



1. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(炭化物を極少量含む。01445SL)
2. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(炭化物を極少量含む。焼土を多量含む。01445SL)
3. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(炭化物を非常に多く含む。焼土を極少量含む。01445SL)
4. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを少量含む。炭化物を極少量含む。01445SL)
5. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂ブロックを多く含む。炭化物を極少量含む。01444SI)
6. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを少量含む。炭化物を極少量含む。01444SI)
7. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを多く含む)



1. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂大ブロックを非常に多く含む)
2. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂ブロックを少量含む)
3. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂ブロックを含む。炭化物を含む。焼土を極少量
4. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを少量含む)

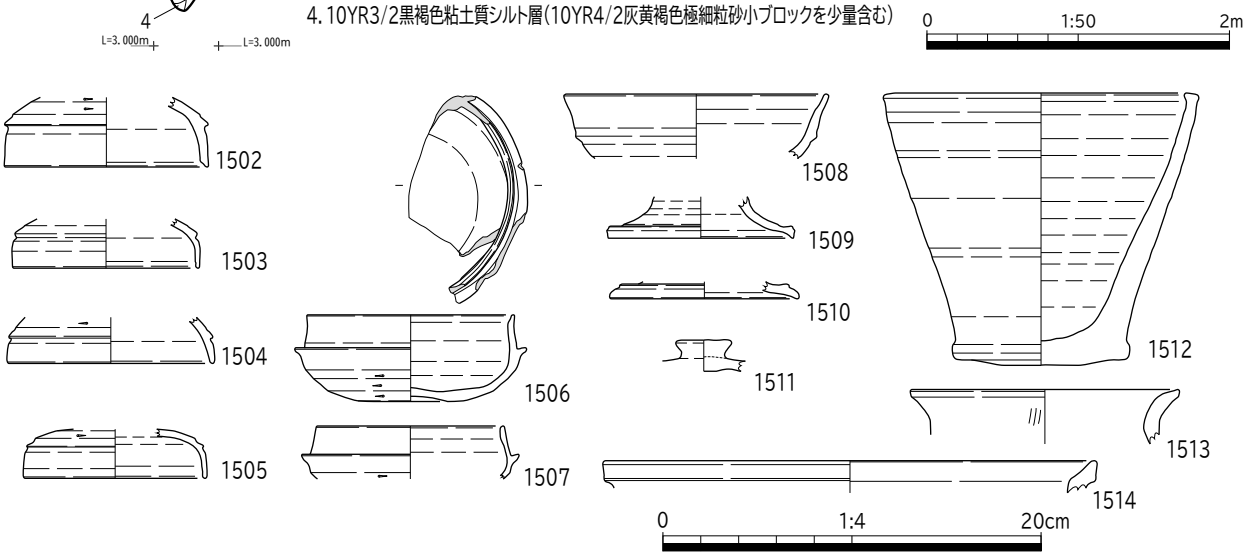


図 143　00340SI 遺構図・出土遺物実測図

平面形である。焼土・炭化物を多く含む層が順次堆積していることからほぼ使用時のまま遺構になっていると思われる。しかしながら撹乱を挟んだ南側の土層断面（図 142）ではカマドから流出したと思われる焼土・炭化物の堆積がみられない点は不審で、01443SL が 01444SI と直接関わらない可能性がある。一方、01445SL は 01444SI の南東底面で確認された炭化物・焼土の集積で、範囲は長軸約 0.7m の楕円形をしているが厚みはほとんどない。この形態は 00337SI で確認された移動式カマドの痕跡と類似し、当該遺構も移動式カマドの痕跡と考えられる。

柱穴は 01946SP・01947SP・01971SP・01988SK が正方形の配置でいわゆる主柱穴の位置に相当する。西側の 2 基は造り替えがなさそうであるのに対して、東側の 2 基については 01942SK・01975SK がより東側にそれぞれ対応するように位置している点は注意される。このことは、検出された東辺と主柱穴からの距離が他辺よりもやや長いこととも符合しており、東側への拡張があった可能性が想定されよう。

01444SI と関連遺構の出土遺物は以下のとおりである。01444SI からは須恵器・土師器が出土している。1672・1673 は須恵器杯蓋で H-15 号窯式期、1674 は H-61 号窯式期、1675・1676 は須恵器杯身で H-15 号窯式期。1675 は外面に焼成前にヘラで切り込んだ痕跡がある。いわゆるヘラ記号を逸脱していると思われ意図は不明である。01445SL からは小片が主体であるが須恵器の練鉢（1686）、線刻のある広口壺の底部（1687）、鍋

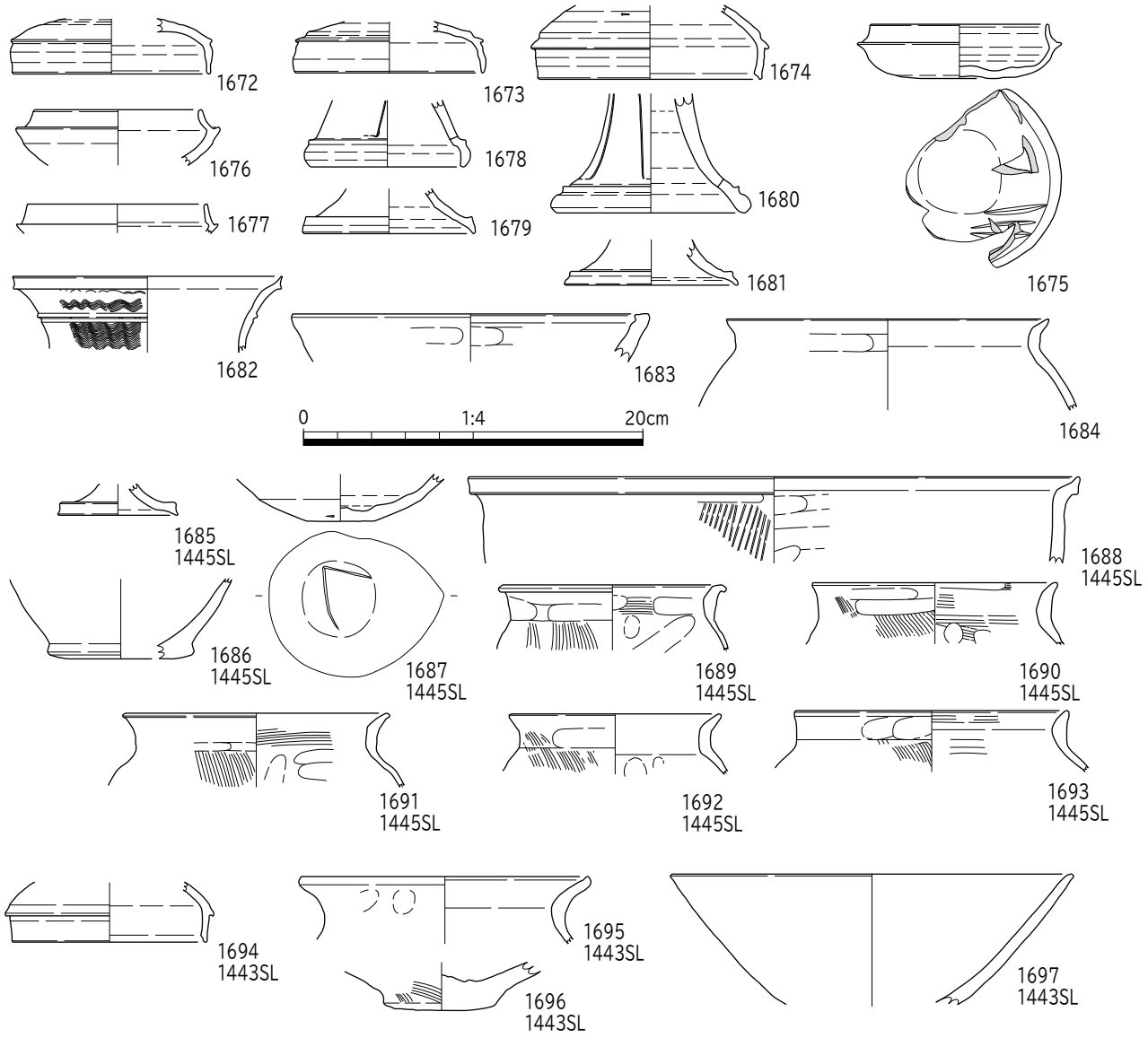
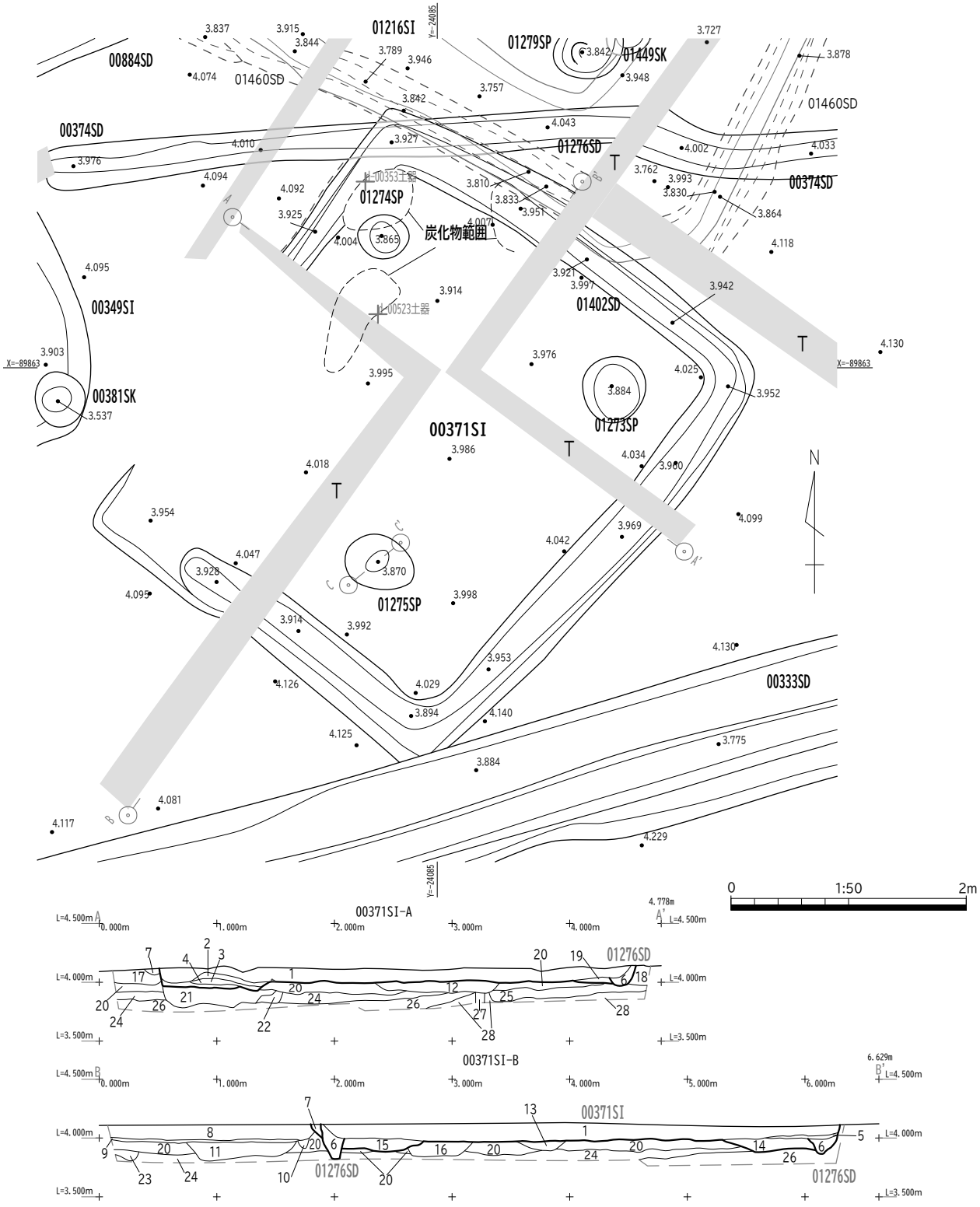


図 144　01444SI・01445SL 出土遺物実測図



1. 10YR3/1黒褐色粘土質シルト層(10YR4/1褐灰色シルトブロックを含む。炭化物を少量含む。鉄分沈着。00371SI)
2. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(炭化物を含む。焼土を多量含む。00371SIカマド)
3. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(炭化物・灰ぉを非常に多く含む。焼土を少量含む。00371SIカマド)
4. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(炭化物を極少量含む。焼土を極少量含む。00371SIカマド)
5. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(褐灰色シルト小ブロックを少量含む。炭化物を含む。00371SI)
6. 10YR4/2灰黄褐色粘土質シルト層(10YR3/2黒褐色シルトブロックを含む。01276SD)
7. 10YR4/2灰黄褐色粘土質シルト層(10YR3/2黒褐色シルト小ブロックを少量含む。00371SI掘方)
8. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色シルトブロックを含む。炭化物を少量含む)
9. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色シルト小ブロックを少量含む。炭化物を極少量含む)
10. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色シルトブロックを含む)
11. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色シルトブロックを多く含む。炭化物を含む)
12. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色シルト大ブロックを多く含む)
13. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色シルト小ブロックを少量含む)
14. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色シルト大ブロックを含む。00371SI掘方)
15. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色シルト大ブロックを含む)
16. 10YR4/2灰黄褐色粘土質シルト層(10YR3/2黒褐色シルト大ブロックを含む)
17. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(地山)
18. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色シルトブロックを含む。焼土を極少量含む)
19. 10YR4/2灰黄褐色粘土質シルト層(10YR3/2黒褐色シルトブロックを含む。00371SI掘方)
20. 10YR4/2灰黄褐色粘土質シルト層(地山)
21. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/1褐灰色極細粒砂ブロックを多く含む。炭化物を少量含む)
22. 10YR4/1褐灰色シルト質極細粒砂層(10YR3/2黒褐色シルトブロックを少量含む)
23. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/1褐灰色極細粒砂小ブロックを少量含む。炭化物を極少量含む)
24. 10YR4/1褐灰色シルト質極細粒砂層(地山)
25. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層(10YR3/2黒褐色シルト小ブロックを含む)
26. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/1褐灰色極細粒砂小ブロックを少量含む。炭化物を少量含む)
27. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(根攪乱か)
28. 10YR4/1褐灰色シルト質極細粒砂層(地山)

図 145　00371SI 遺構図

（1688）がある。一方土師器は形状の似た甕の口縁部がある（1689 ～ 1693）。いずれも口縁部の半ばに直立する部分を有し端部が外反する形状で、胴部の器壁は薄い。以上により時期は 7 世紀中葉とみられる。01443SL の出土遺物は須恵器・土師器ともに 7 世紀前半であろう。これに 01444SI は 00340SI の先後関係を加えると 7 世紀中葉でも比較的古段階と想定される。

00371SI 旧河道の左岸、調査範囲南西部（21Ba 区）に位置する竪穴建物跡である。竪穴建物跡 01261SI（下位は 01420SI）と北東辺で重複関係にあり、00371SI の方が新しい。また南隅で東西溝 00333SD ともわずかに重複関係にあり、ここでは 00333SD の方が新しい。それ以外は大きく削平されていない。平面形は南東辺がやや斜めになる以外は整った長方形で、北東～南西方向が長軸となる。その規模は長軸約 4.5m、短軸約 4.0m、深さ 0.2m である。カマドは壁面からの突出部が認められなかったが、北西辺近くの底面から炭化物が面的に広がっている状況が検出され、土層断面での観察では焼土も多く混じっていることから、北西辺の壁に造り付けもしくは床面に設置した移動式カマドのいずれかが存在したものと考えられる。よってカマドの位置から北西～南東方向を主軸とすると、その方位はグリッド北から西へ 54° 振れていることになる。壁溝（01402SD）は、西隅付近以外でほぼ全周している。柱穴は底面で検出された 01273SP・01274SP・01275SP の 3 基のピットが該当する。残りの 1 か所は撹乱にかかっており不明である。柱穴径は 0.5 ～ 0.6m、深さ 0.1 ～ 0.2m である。

土層断面によれば（図 145）、1 層はブロック状の土が含まれており廃絶後の埋め戻しが考えられる。その下層で先述のように北西辺近くの 2 ～ 4 層がカマドの痕跡、6 層が壁溝となり、土層断面 B-B’ にみられる 6 層の内側にある 14･15 層に若干の貼床が認められる。したがって当該遺構では、貼床はほとんどなく掘り方がそのまま床面であったことになるが、掘り方は部分的に幅広周溝状になっていたと評価される。

出土遺物は須恵器と土師器の小片である。1515 は須恵器杯蓋で H-44 号窯式期。ただし後続の H-15 号窯式期の近い要素もうかがえるので 7 世紀初頭～前葉に比定される。1516 も杯蓋でこちらは端部を尖らせつつ丸みのある立ち上がりとなっているから蟹ヶ池窯式期であ

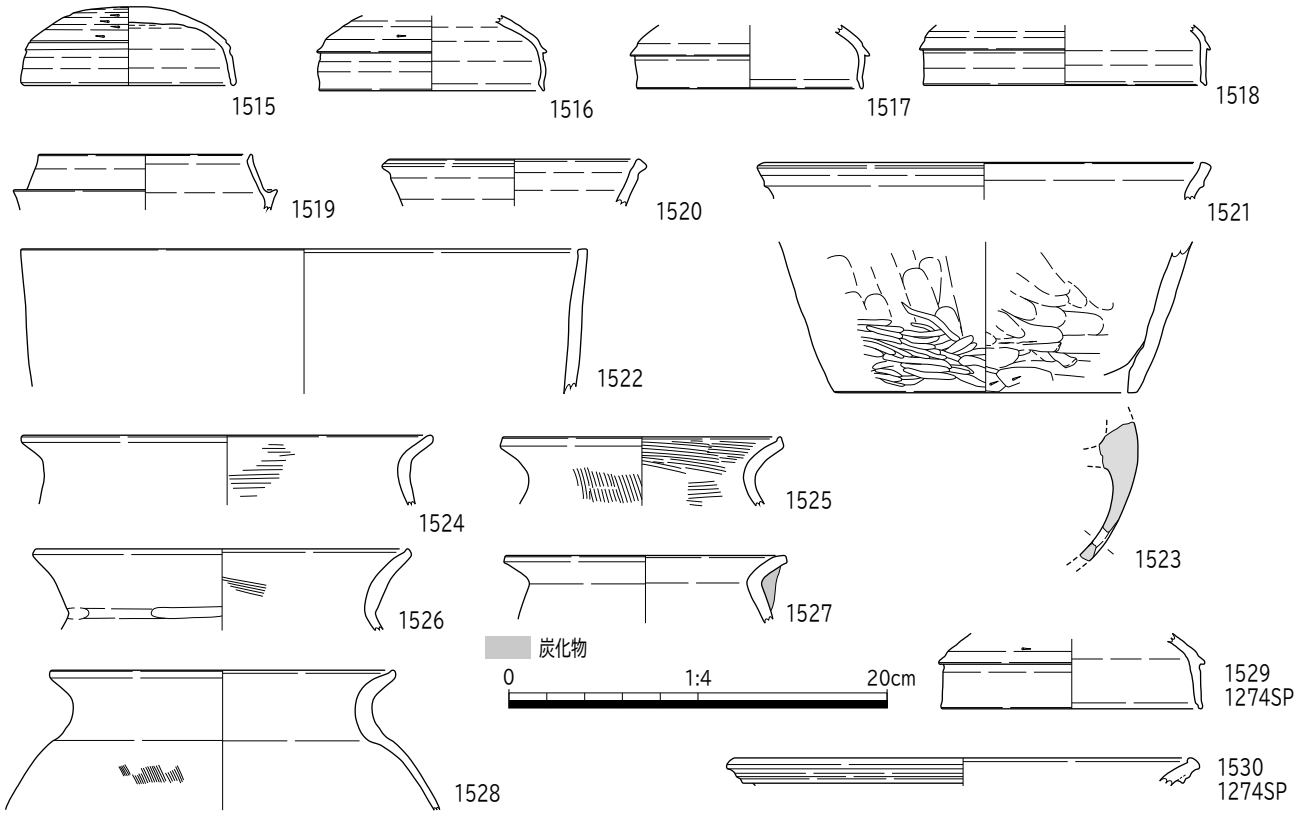


図 146 00371SI 出土遺物実測図

ろう。他の杯蓋・杯身も同じ頃であるがいずれも小片。1522・1523 は甑の口縁部と底部で、底部は指ナデの後に横方向のミガキを入れるなどの技法がみられる。1524 ～ 1528 は土師器の甕でカマドで使用されたと考えられる。いすれもハケ目調整痕があり、1527 以外は口縁端部が摘み上げられている。口径からみて 1524・1526・1528 が長胴甕、1525・1527 小型甕、1525 はいわゆる伊勢型と分類され 6 世紀後葉～ 7 世紀前半。1527 は口縁部から頸部の凹んだところに炭化物が厚く付着しているが、これは炭化物層内から出土したためである。1528 は胴部上端まで残存しているが、器壁が薄く、7 世紀半ば以降の形態といえる。以上の遺物の年代には 7 世紀前葉が中心がありそうであるが、00371SI に先行する 01216SI より新しい時期と限定されることから 7 世紀第 2 四半期頃～ 7 世紀半ばと想定しておきたい。

00790SI　旧河道右岸、調査範囲南東部（21Bb 区）に位置する竪穴建物跡である。周囲約 10m 以内に近接する他の建物跡はなく、単独で存在している。遺構の西側およそ 4 分の 1 は旧河道（00786NR）による削剥や堆積によって滅失している。一方で東辺は完存しており、その長さは約 6.4m である。これに対して東西径は、カマドや柱穴の位置を加味すれば全体像を推測することは可

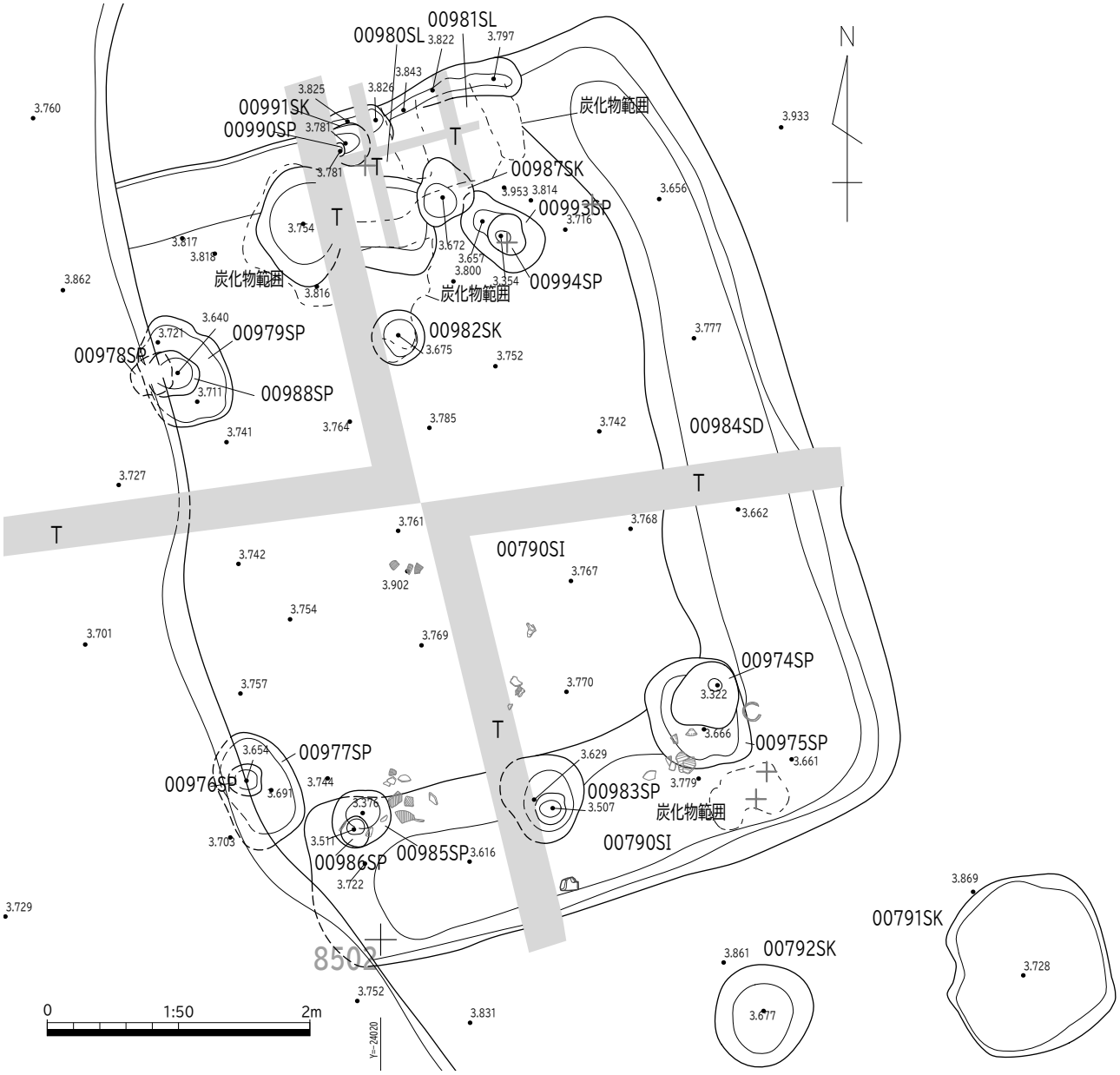
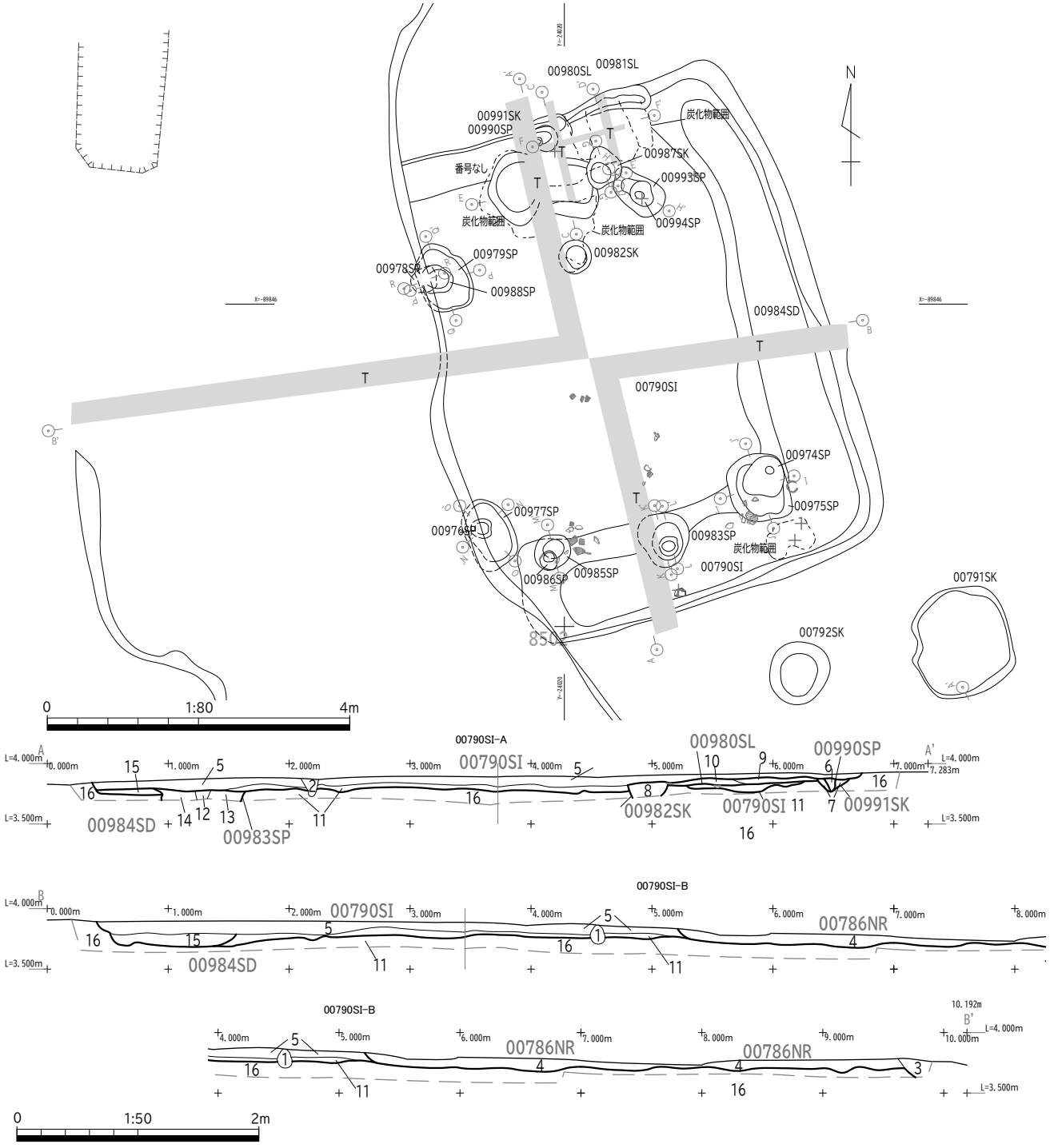
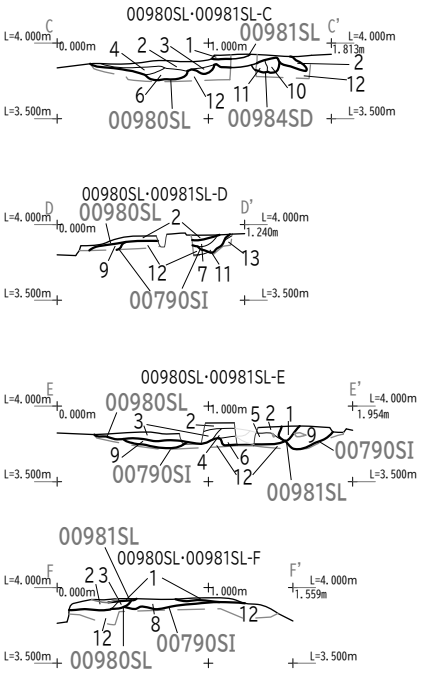


図 147　00790SI 遺構図 (1)



1. 撹乱
2. 撹乱
3. 2.5Y4/3オリーブ褐色粗砂質シルト層(明黄褐色中粒砂を含む。鉄斑少ない。00786NR)
4. 2.5Y4/1灰色極細粒砂質シルト層(灰オリーブ極細粒砂と明褐色極細粒砂を含む。鉄斑あり。細礫の円礫を含む。00786NR)
5. 2.5YR4/2暗灰黄色極細粒砂質シルト層(暗褐色極細粒砂をブロック状に含む。鉄斑あり。炭化物わずかに含む。00790SI)
6. 7.5YR4/3褐色極細粒砂質シルト層(灰黄褐色極細粒砂を含む。鉄斑あり。炭化物多い。00990SP)
7. 7.5YR6/2にぶい黄褐色極細粒砂質シルト層(鉄斑あり。炭化粒が多い。00991SK)
8. 10YR2/3黒褐色極細粒砂質シルト層(鉄斑少ない。炭化物や焼土を含む。00982SK)
9. 7.5YR4/3褐灰色極細粒砂質シルト層(鉄斑あり。炭化粒少ない。00980SL)
10. 7.5YR3/3暗褐色極細粒砂質シルト層(炭化物や焼土が多い。00980SL)
11. 10YR4/2灰黄褐色極細粒砂質シルト層(暗褐色極細粒砂を含む。鉄斑あり。00790SI床土)
12. 7.5YR4/2灰褐色極細粒砂質シルト層(黒褐色極細粒砂を含む。鉄斑多い。00983SP。個別断面図には無し)
13. 7.5YR4/2灰褐色極細粒砂質シルト層(層上部に黒褐色極細粒砂を含む。鉄斑あり。00983SP)
14. 7.5YR4/2灰褐色極細粒砂質シルト層(黒褐色極細粒砂を含む。鉄斑あり。00983SP。南側のみ堆積が見られる)
15. 10YR4/3にぶい黄褐色極細粒砂質シルト層(暗褐色極細粒砂を含む。鉄斑あり。00984SD)
16. 10YR4/1褐灰色極細粒砂質シルト層(灰黄褐色極細砂を含む。鉄斑あり。2面目基盤層)

図 148 00790SI 遺構図 (2)



1. 7.5YR4/3褐色極細粒砂質シルト層(小角礫を少し含む。竈の部材＜浅黄橙色極細粒砂シルト＞・炭化物・焼土を含む。00981SL)
2. 7.5YR4/3褐灰色極細粒砂質シルト層(鉄斑あり。炭化粒が少ない。00980SL。00790SI_9層相当)
3. 10YR3/3暗褐色極細粒砂質シルト層(鉄斑あり。ブロック状の焼土を含む。炭化物を多く含む。00980SL)
4. 7.5YR3/3暗褐色極細粒砂質シルト層(炭化物や焼土が多い。00980SL。00790SI_10層相当)
5. 7.5YR4/1褐灰色極細粒砂質シルト層(鉄斑あり。炭化物が多い。00980SL)
6. 10YR4/2灰黄褐色極細粒砂質シルト層(暗褐色極細粒砂を含む。鉄斑あり。00980SL)
7. 7.5YR6/2にぶい黄褐色極細粒砂質シルト層(鉄斑あり。炭化物少ない。00790SI壁溝か)
8. 10YR4/3にぶい黄褐色極細粒砂質シルト層(鉄斑少ない。炭化物をわずかに含む。00790SI床土)
9. 10YR4/2灰黄褐色極細粒砂質シルト層(暗褐色極細粒砂を含む。鉄斑あり。00790SI床土。00790SI_11層相当)
10. 10YR4/3にぶい黄褐色極細粒砂質シルト層(暗褐色極細粒砂を含む。鉄斑あり。00984SD。00790SI_15層相当)
11. 10YR5/4にぶい黄褐色極細粒砂質シルト層(暗褐色極細粒砂をわずかに含む。鉄斑少ない。00984SD)
12. 10YR4/2灰黄褐色極細粒砂質シルト層(暗褐色極細粒砂を含む。鉄斑あり。2面目基盤層)
13. 10YR4/1褐灰色極細粒砂質シルト層(灰黄褐色極細砂を含む。鉄斑あり。2面目基盤層。00790SI_16層相当)

1. 10YR4/2灰黄褐色極細粒砂質シルト層(暗褐色極細粒砂を含む。鉄斑あり。00790SI床土)
2. 7.5YR4/3褐色極細粒砂質シルト層(鉄斑少ない。炭化物わずかに含む。00987SK)
3. 10YR4/2灰黄褐色極細粒砂質シルト層(褐灰色極細粒砂を含む。鉄斑多い。炭化物粒少量含む。2面目基盤層)

1. 10YR4/3にぶい黄褐色極細粒砂質シルト層(鉄斑あり。炭化物少量含む。00993SP)
2. 7.5YR3/3暗褐色極細粒砂シルト層(灰黄褐色極細粒砂を含む。鉄斑あり。炭化物少量含む。00994SP)
3. 10YR4/2灰黄褐色極細粒砂質シルト層(暗褐色極細粒砂含む。鉄斑あり。00994SP)
4. 10YR4/1褐灰色極細粒砂質シルト層(鉄斑少ない。炭化物含む。00994SP)

1. 10YR4/3にぶい黄褐色極細粒砂質シルト層(黒褐色極細粒砂を多く含む。鉄斑あり。炭化物含む。柱痕。00974SP)
2. 7.5YR4/3褐色極細粒砂質シルト層(にぶい黄褐色極細粒砂を多く含む。鉄斑多い。小円礫を含む。柱堀方。00975SP)
3. 10YR4/2灰黄褐色極細粒砂質シルト層(褐灰色極細粒砂を含む。鉄斑多い。炭化物粒少量含む。2面目基盤層)

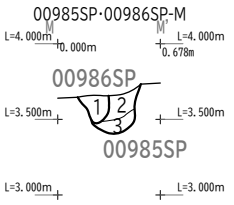
1. 7.5YR4/2灰褐色極細粒砂質シルト層(層上部に黒褐色極細粒砂を含む。鉄斑あり)
2. 10YR4/3にぶい黄褐色極細粒砂質シルト層(鉄斑少ない)
3. 10YR4/2灰褐色極細粒砂質シルト層(黒褐色極細粒砂少し含む。鉄斑少ない。柱抜き取り痕か)

0 1:50 2m

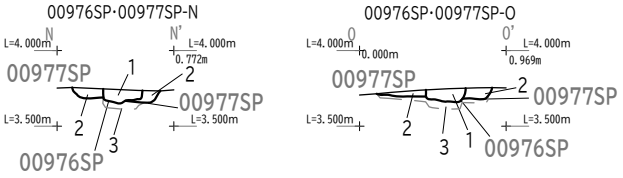
図 149 00790SI 関連・00980SL・00981SL 遺構図 (1)

能で、北壁に造りつけられたカマドの中心と南辺を直交する線（00980SL の土層断面 C-C’）を主軸とすると、東辺からそこまでの長さを倍にしたものが東西径となる。これに基づくと東西径は約 5.0m と推測され平面形は南北に長い長方形と考えられる。なおその主軸の方位はグリッド北から西へ 12° 振れている。以上の規模は、名城公園遺跡の竪穴建物跡の中では比較的大型に分類される。

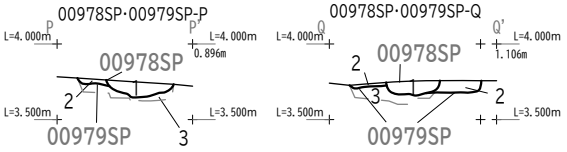
カマドは北辺にあり、北壁からほとんど突出部のないのが特徴である。調査着手時はその中央にある炭化物・焼土の集積範囲が該当すると見込まれてたが(00980SL)、それを精査するにつれさらにその東隣にも同様の集積が検出されたことからこれもカマド跡とみた（00981SL)。00981SL の場所は、炭化物層の下に造り付けカマドの基部と思われる土手状の高まりが南側へ張り出していることから、これが 00981SL に関わる遺構と推定した。それに対して東西方向に断ち割る土層断面を観察したところ（図 149 土層断面 F-F’)、その土手状の高まりから西側方向へ 00980SL の堆積と共通する炭化物などを含む土層を確認し、それに対して 000981SL に相当するとみた土層（F-F’ の 1 層）はさらにその上位に薄く広がるだけであった。以上の観察から、00790SI のカマド跡としては北壁中央に造り付けられた 00980SL のみで、00981SL は 00980SL の廃絶後にその上層部分を東方に攪拌させたものと評価した。しかしここではカマドの堆積に関わる人為的な所作の痕跡として遺構番号は 00981SL のままで



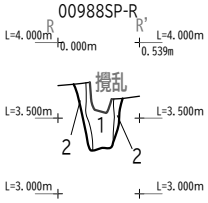
1. 10YR4/2灰黄褐色極細粒砂質シルト層(黒褐色極細粒砂を含む。鉄斑少ない。00986SP)
2. 7.5YR4/2灰褐色極細粒砂質シルト層(にぶい黄褐色極細粒砂を含む。鉄斑少ない。00985SP)
3. 10YR4/3にぶい黄褐色極細粒砂質シルト層(暗褐色極細粒砂をブロック状に含む。炭化粒を含む。00985SP)



1. 10YR4/3にぶい黄褐色極細粒砂質シルト層(層上部に褐灰色極細粒砂が多い。鉄斑あり。柱痕。00976SP)
2. 7.5YR4/3褐色極細粒砂質シルト層(灰褐色極細粒砂を多く含む。鉄斑多い。炭化物粒を含む。柱堀方。00977SP)
3. 10YR4/2灰黄褐色極細粒砂質シルト層(褐灰色極細粒砂を含む。鉄斑多い。炭化物粒少量含む。2面目基盤層)



1. 7.5YR4/2灰褐色極細粒砂質シルト層(北側で黒褐色極細粒砂を含む。鉄斑あり。3mm程度の焼土を少し含む。柱痕あるいは抜き取り穴。00978SP)
2. 7.5YR4/3褐色極細粒砂質シルト層(層上部に黒褐色極細粒砂を含む。鉄斑あり。炭化物粒を含む。柱堀方。00979SP)
3. 10YR4/2灰黄褐色極細粒砂質シルト層(褐灰色極細粒砂を含む。鉄斑多い。炭化物粒少量含む。2面目基盤層)



1. 10YR4/3にぶい黄褐色極細粒砂シルト層(鉄斑少ない。木質含む。炭化物少量含む。柱痕)
2. 10YR4/2灰黄褐色極細粒砂質シルト層(暗褐色極細粒砂を含む。鉄斑あり。柱堀方)

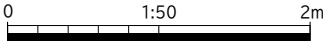


図 150 00790SI 関連・00980SL・00981SL 遺構図 (2)

その最上層のみを扱っている（遺物についても同じ）。

柱穴は、北西に 00978SP・00979SP・00989SP、北東に 00987SK・00993SP・00994SP、南東に 00974SP・00975SP、南西に 00976SP・00977SP・00985SP・00986SP が該当する。このうち北西と南東の 2 基は、ほぼ同一地点での検出であるから掘り返したもので掘り方と柱抜き取りの関係にある可能性もある。一方、北東と南西の 2 基はやや離れた場所で複数のピットが重複して検出されている。よって少なくとも 1 回の建屋の造り替えがあったと見ることができる。しかしながらその柱穴の土層断面（図 149・150）によれば、北西柱の 00988SP が深さ約 0.6m ある程度で、他は約 0.2m の深さにさえ達していない。00988SP は、検出順からすると同位置の 00978SP・00979SP に先行するとみられ、柱痕も残存していることから、改築時に上部を切断して除去した痕跡とみることができる。一方、南西柱の 00985SP は深さ約 0.4m で深い。以上から、00790SI における建屋構造は、4 本構成の柱のうち基点となる 1 本以外は浅い掘り込みで、その上部の構造で結束させていた可能性がある。

このほか、00790SI では東辺から南辺にかけて周溝状の凹み(00984SD)があり、土層断面によればこれは床面(5 層）より下にあることから掘り方に相当すると考えられる。しかし 00984SD は南西隅に端部が確認されているので、全周しない逆Ｌ字形に伸びていると考えられる。

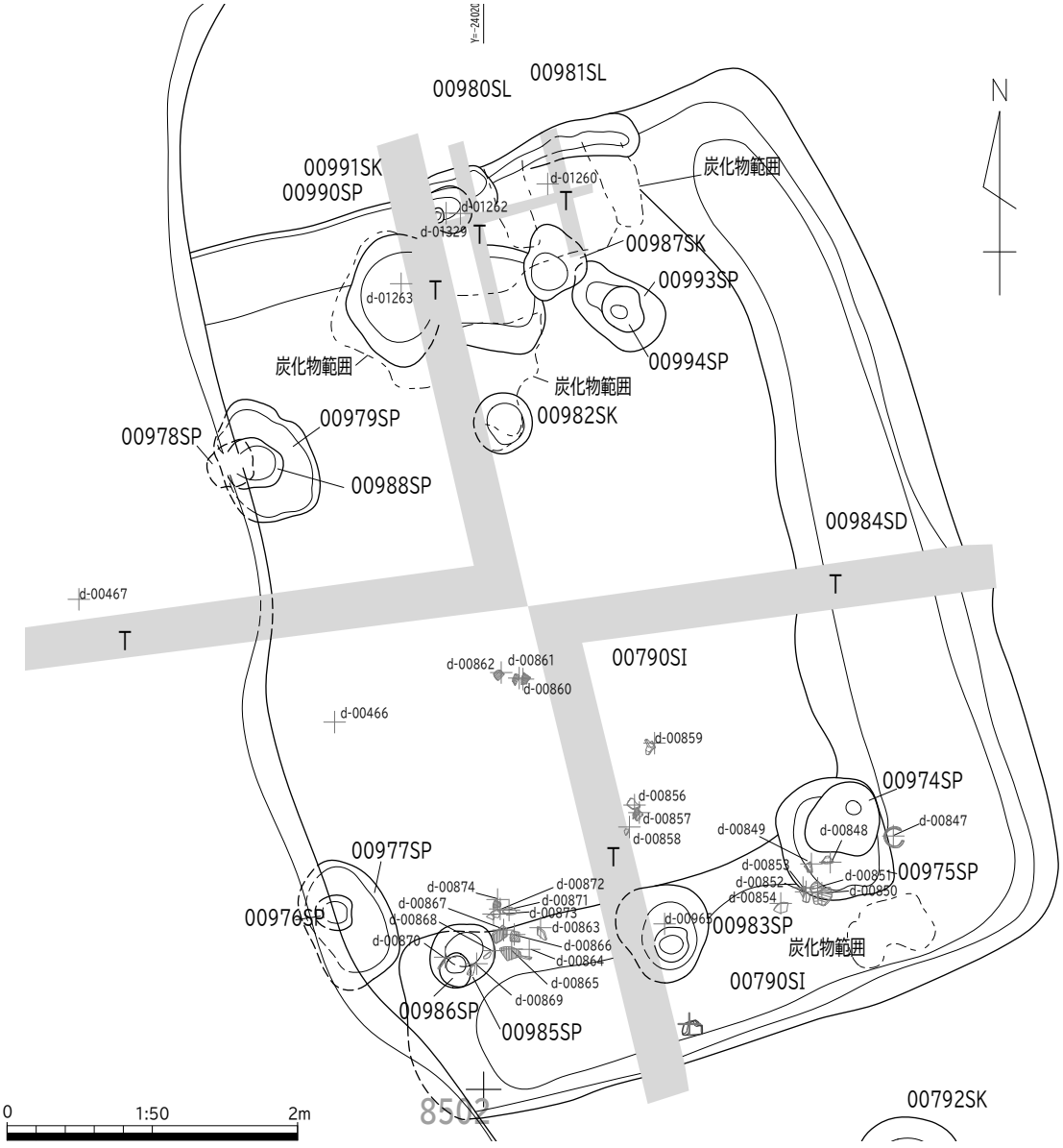


図 151　00790SI・00980SL・00981SL 遺物出土地点分布図

00790SI の出土遺物は、遺構の規模に比べて多くない。須恵器が大半で土師器は 00981SL から出土した長胴甕の胴部片である。1531 は須恵器杯蓋で H-15 号窯式期、1532 も杯蓋であるがこちらは大口径（15cm 以上）で H-61 号窯式期、1533・1534 は瓶類の口縁部で端部の折り返しなどはなく下部に浅い凹線が 2 条巡っている。7 世紀前～中葉の平瓶などが考えられる。1535・1537 は鍋、1536・1538 は大甕である。カマド跡 00980SL からは無蓋高杯（1540）や土師器甕（1542）が出土しているがいずれも小片である。遺構の位置関係から他の遺構からの混入は廃絶後の廃棄土坑への転用も考えにくいことから、00790SI の機能から廃絶までの時期は須恵器から想定される 7 世紀前葉と考えることができよう。

この他に、石製品 2 点が出土している。S16 は全体が研磨された紡錘形をしたもので、途中で破断している。敲打痕もないのでどのような用途であったのか不明である。石材は泥岩。S17 は円礫を用いた金床石と思われる。側面の一部に擦痕があるほか、被熱によって黒く変色している。石材は濃飛流紋岩である。

なお、00790SI の埋土から採取した炭化物を試料として放射性炭素年代測定を行ったところ（測定番号 PLD-57214)、2 σ暦年代較正で 424-541 al AD(95.45%、）という数値年代を得ている。5 世紀中葉～ 6 世紀前半とあり、建物の機能時期が古くなる可能性がある。

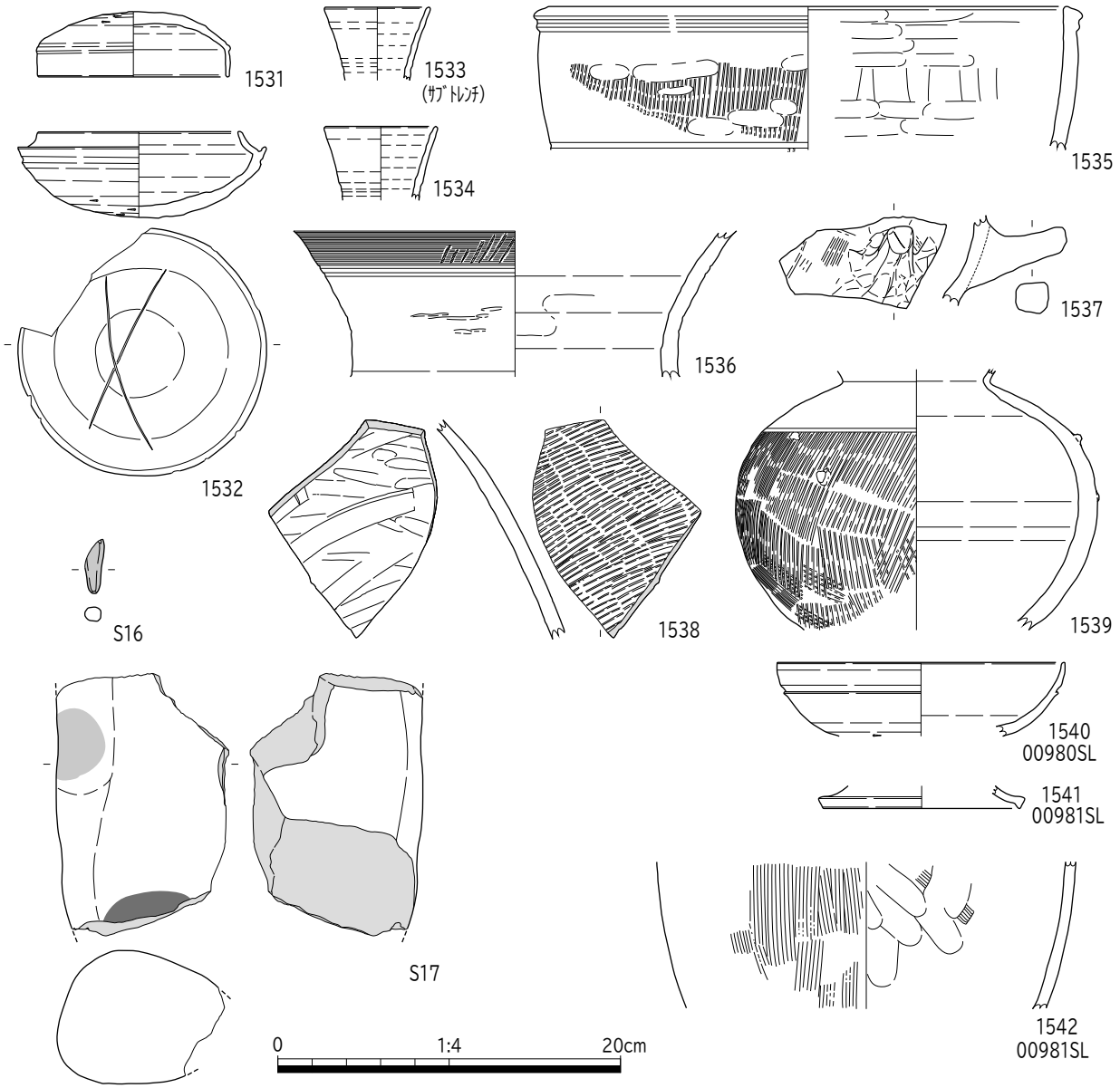


図 152 00790SI 出土遺物実測図

0818SI・00820SI・01291SI 旧河道左岸、調査範囲南端（21Ba 区）に位置する竪穴建物跡である。当該区域は江戸時代の遺構が集中しており、一部は検 2 面まで開削されていることからその残存状況は良くない。さらに小型の遺構が比較的密集していることもあって、遺構の検出がごく一部に限られているものが多い。また遺構面からの深さも 0.1m 未満が多い。

00818SI は江戸時代の池跡 00202SG の底面で検出された竪穴建物跡である。北西隅部を中心に北辺と西辺のごく一部であるが、遺構の上端線が直線的であることから竪穴建物跡として確認した。遺物は弥生時代後期～古墳時代前期の土器（壺）の底部のみ（1543）で、時期の特定が難しいが検出面の高さからすると古墳時代後期の可能性もある。

00820SI は 00818SI と東辺で重複関係にある竪穴建物跡である。00818SI より 008220SI の方が新しい時期に位置づけられる、これも池跡 00202SG の直下に位置しており部分的な検出である。南北に長い長方形で南北方向の長軸約 2.9m 以上、東西方向の短軸約 2.7m、深さ約 0.2m である。東西辺長からするときわめて規模が小さいと評価され、作業小屋などの小型建物に分類される。出土遺物は少なく、須恵器高杯の脚部（1544）がある。古墳時代中期～後期と推定される。

001291SI は 00818SI の東側に位置する。北東隅のごく一部が検出されたにすぎない。ただし遺構の底面は平らであることから竪穴建物跡の可能性が高い。出土遺物

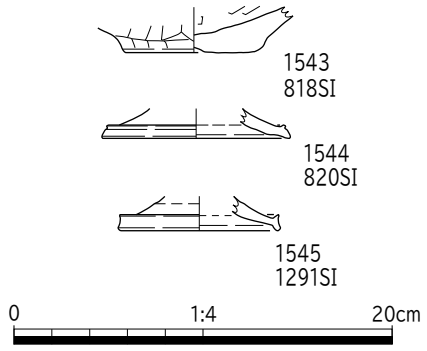


図 153 00818SI 出土遺物実測図

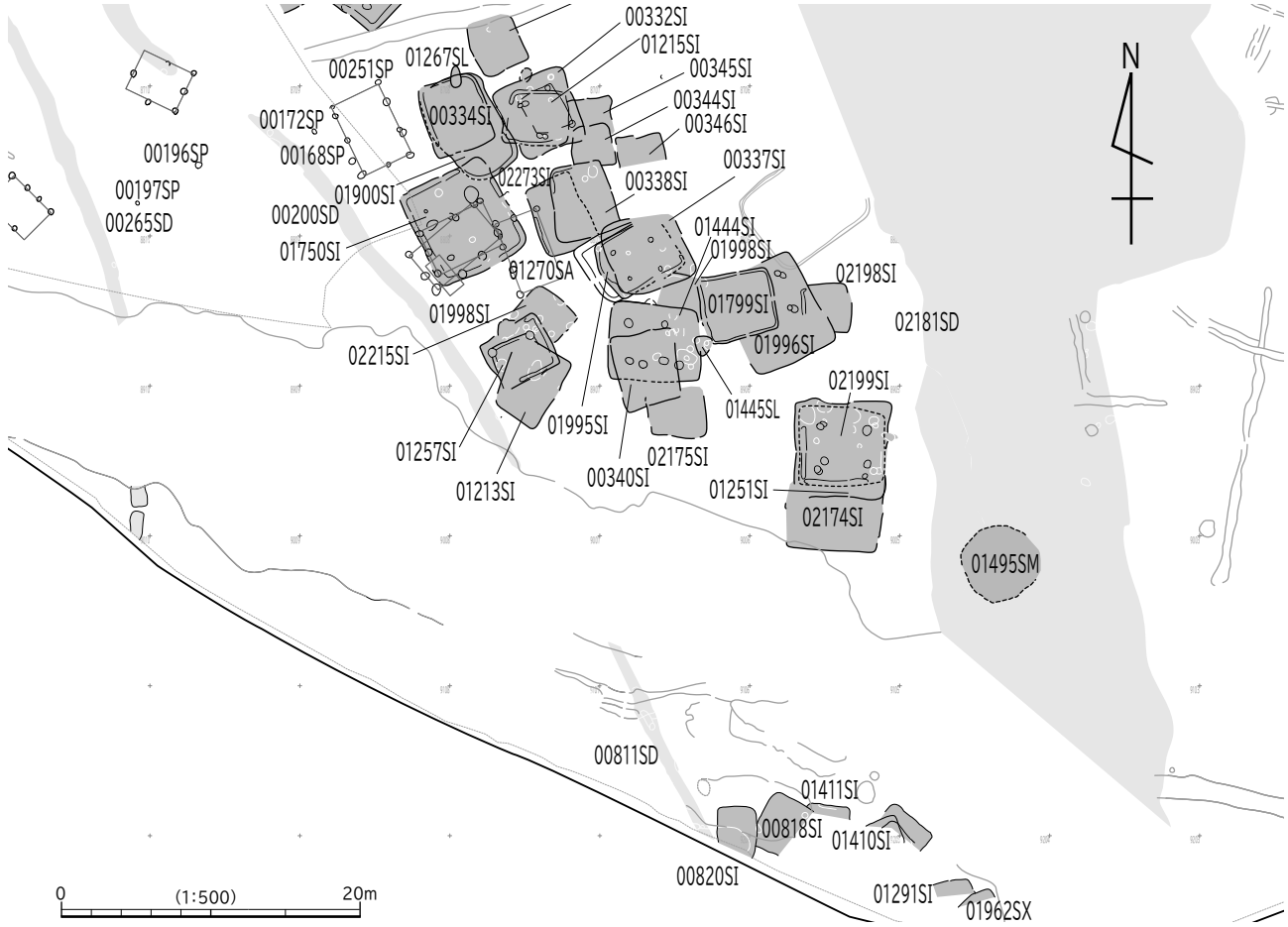


図 154 旧河道左岸の古墳時代後期～古代の建物跡分布図（2）

も若干で、須恵器の高杯脚部（1545）である。これも 00820SI と同様に古墳時代中期～後期と推定され、規模が小さい点と著しい重複関係が特徴と評価される。

01061SL・1062SX 旧河道右岸、調査範囲北東部（22C 区）に位置する炉跡の可能性のある遺構（01061SL）とそれを内包する竪穴状遺構（01602SX）である。平面形は撹乱などで削平されながらも正方形になるであろう。主軸方向を南西辺とするとグリッド北から西へ 16°振れることになる。残存部の規模は、長軸約 7.9m 以上、短軸約 6.7m 以上、深さ 0.05m である。すなわち平面的には確認できても遺構の深さがほとんどない状態であり、竪穴建物の評価をするだけの根拠に乏しい。01061SL からは古墳時代前期の加飾壺の口縁部、01062SX からは小型の台付甕に加えて 7 世紀代の須恵器杯身（1549）が出土している。このことから遺構埋土の形成は 7 世紀以降と推測できるが、遺構の性格の特定は難しい。

01010SD・01069SL 旧河道右岸、調査範囲北東部（22C 区）に位置する竪穴状遺構である。01062SI などとともに逆Ｌ字形に延びる溝（01010SD）が検出され、それに接して炉跡の可能性のある火処遺構（01069SL）も検出された。これらが竪穴建物を構成する要素と想

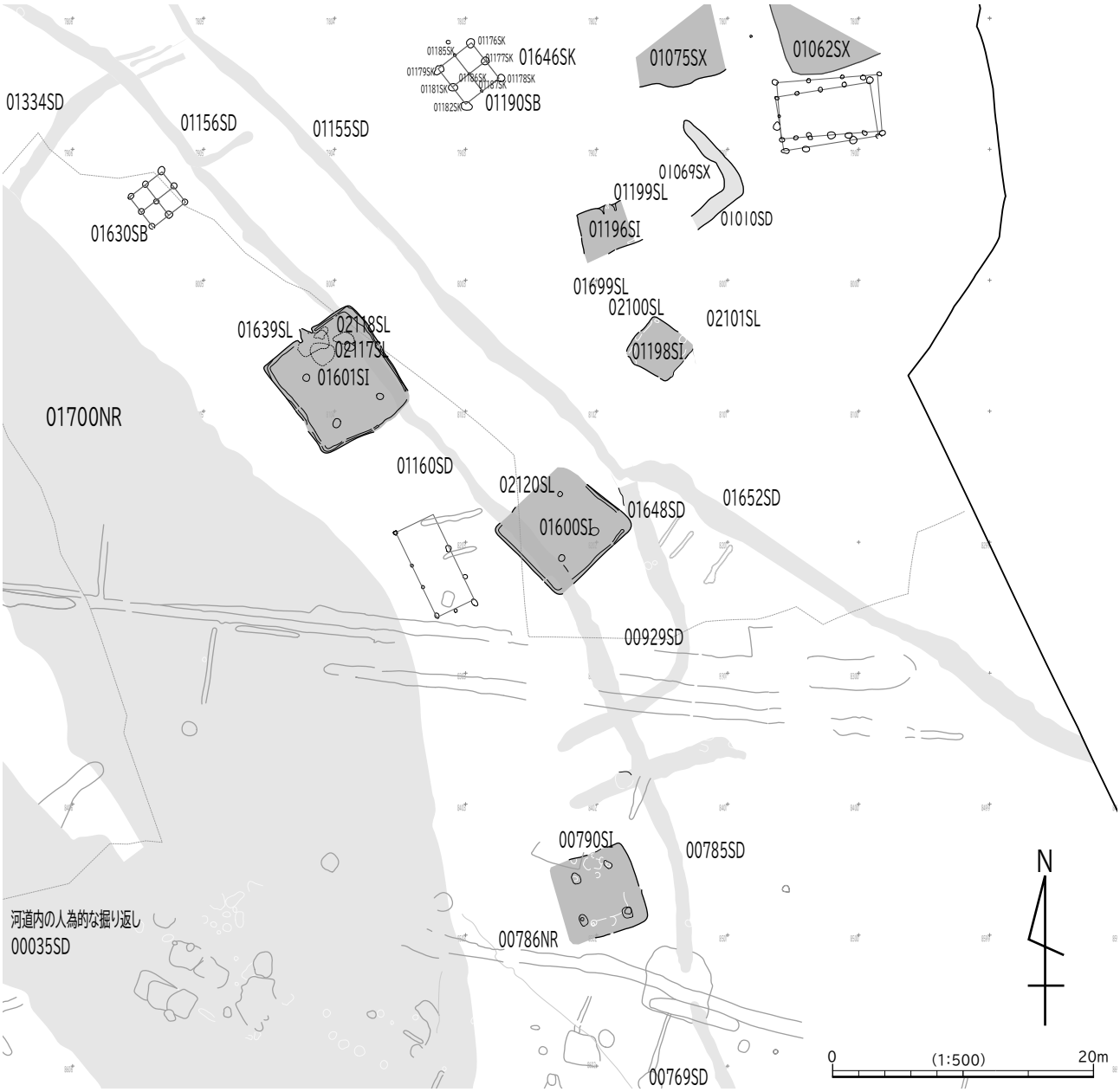


図 155 旧河道右岸の古墳時代後期～古代の集落の建物跡分布図

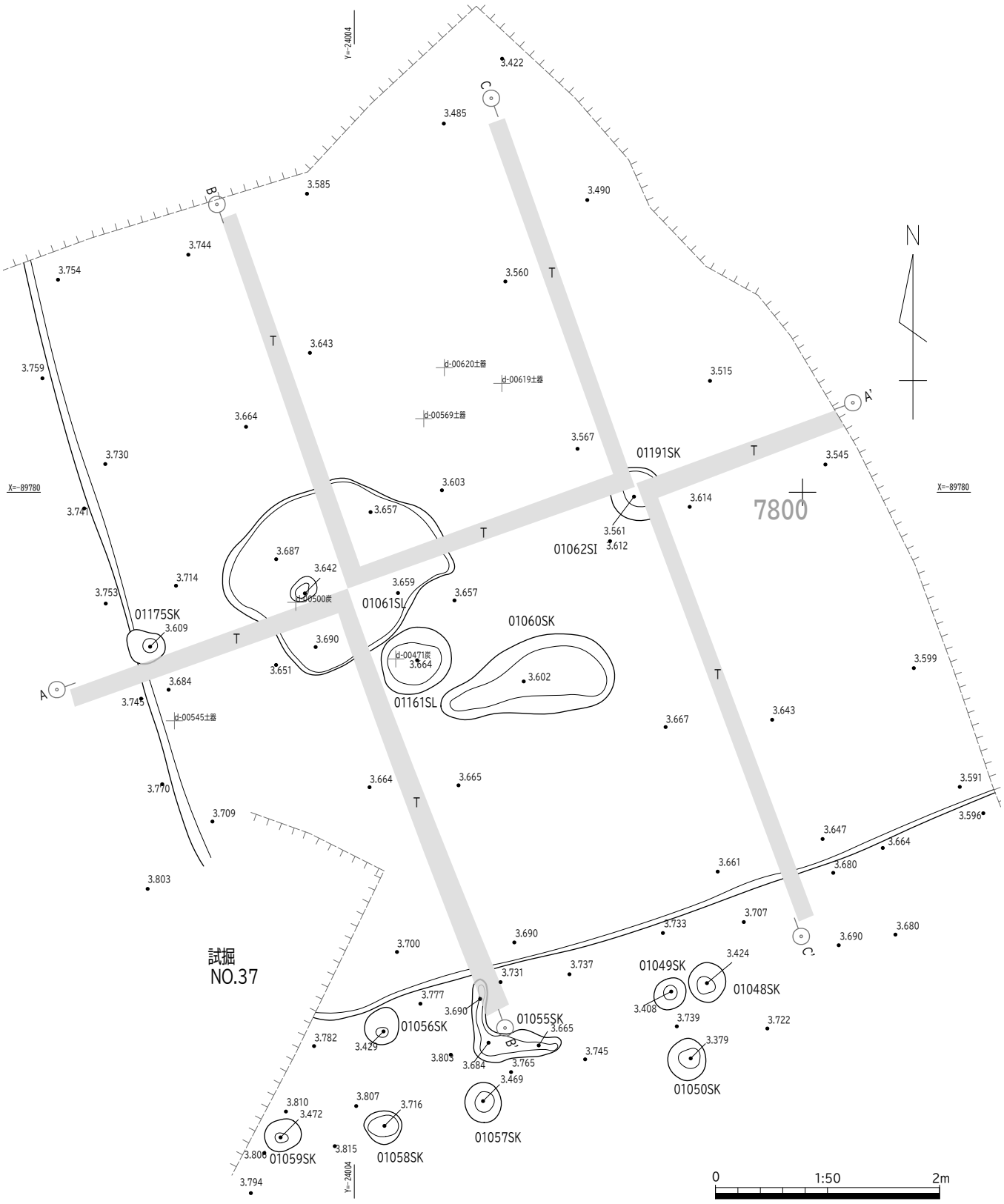
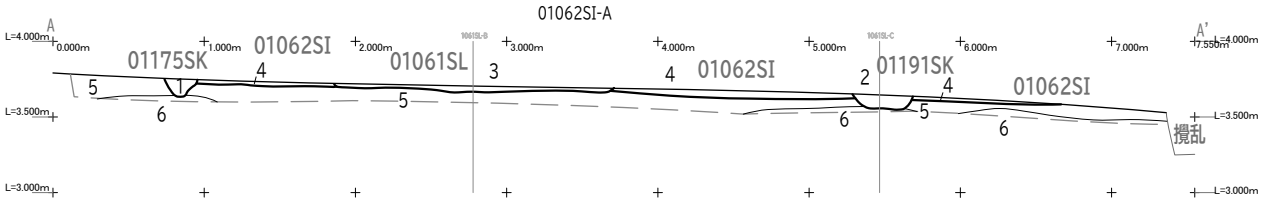
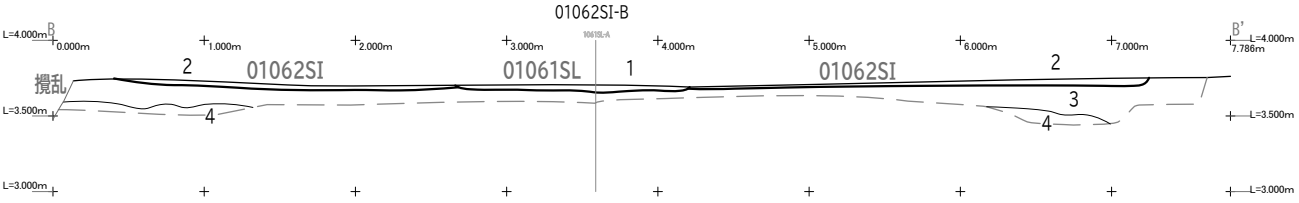


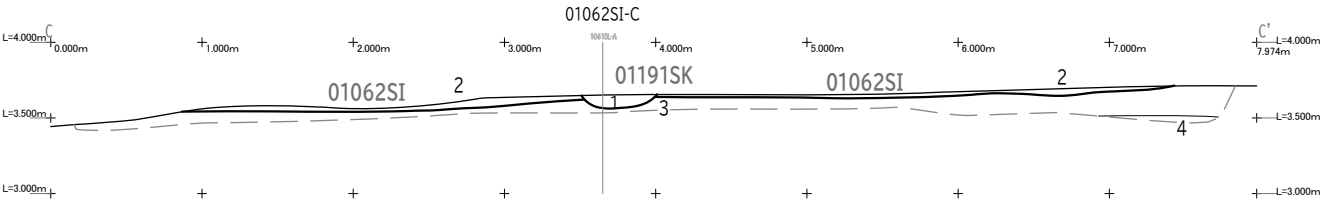
図 156 01061SL・01062SI 遺構図



1. 2.5Y5/1黄灰色粘土質シルト層(2.5Y4/1黄灰色シルトブロック混入。鉄斑少ない。01175SK)
2. 2.5Y5/1黄灰色粘土質シルト層(2.5Y4/1黄灰色シルトブロック混入。鉄斑少ない。01191SK)
3. 2.5Y4/1黄灰色シルト層(2.5Y5/2暗灰黄色細粒砂ブロック混入。炭化物・焼土粒を少量含む。鉄斑少ない。01061SL)
4. 2.5Y5/2暗灰黄色シルト層(2.5Y4/1黄灰色粘土質シルトブロック混入。炭化物を少量含む。鉄斑少ない。01062SI)
5. 2.5Y4/2暗灰黄色細粒砂と2.5Y4/1黄灰色シルトの混層(鉄斑少ない。地山)
6. 2.5Y5/2暗灰黄色シルト質細粒砂(2.5Y6/3にぶい黄色細粒砂ブロック混入。鉄斑少ない。地山)



1. 2.5Y4/1黄灰色シルト層(2.5Y5/2暗灰黄色細粒砂ブロック混入。炭化物・焼土粒を少量含む。鉄斑少ない。01061SL)
2. 2.5Y5/2暗灰黄色シルト層(2.5Y4/1黄灰色粘土質シルトブロック混入。炭化物を少量含む。鉄斑少ない。01062SI)
3. 2.5Y4/2暗灰黄色細粒砂と2.5Y4/1黄灰色シルトの混層(鉄斑少ない。地山)
4. 2.5Y5/2暗灰黄色シルト質細粒砂(2.5Y6/3にぶい黄色細粒砂ブロック混入。鉄斑少ない。地山)



1. 2.5Y5/1黄灰色粘土質シルト層(2.5Y4/1黄灰色シルトブロック混入。鉄斑少ない。01191SK)
2. 2.5Y5/2暗灰黄色シルト層(2.5Y4/1黄灰色粘土質シルトブロック混入。炭化物を少量含む。鉄斑少ない。01062SI)
3. 2.5Y4/2暗灰黄色細粒砂と2.5Y4/1黄灰色シルトの混層(鉄斑少ない。地山)
4. 2.5Y5/2暗灰黄色シルト質細粒砂(2.5Y6/3にぶい黄色細粒砂ブロック混入。鉄斑少ない。地山)

0 1:50 2m

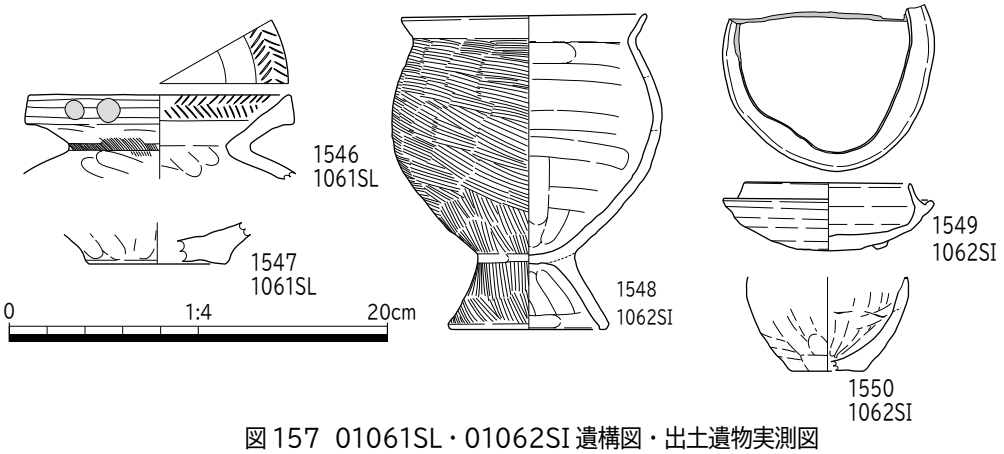


図 157 01061SL・01062SI 遺構図・出土遺物実測図

定されたが、01010SDの北端から屈曲点までの長さが約7.0m、深さ約0.2mもあり竪穴建物と判断するだけの要素に乏しい。むしろ北西に位置する掘立柱建物01190SBと方位が同じであることからこれを区画する溝の一部の可能性が高い。

01075SX 旧河道右岸、調査範囲北東部（22C区）に位置する竪穴状遺構である。やや蛇行する遺構の線が竪穴建物の南辺の可能性を思わせる。さらに遺構の内側には01071SL・01074SLなどの炉跡の可能性のある火処遺構が検出されている。このことから竪穴建物跡の可能性がある遺構としている。しかしながら想定される東西方向に長軸約7.1mの平面規模に対して深さ0.1mに満たない。よって竪穴建物と特定することは難しい。

01196SI 旧河道右岸、調査範囲北東部（22C区）に位置する竪穴建物跡である。周囲は撹乱が多く、また01062SXや01175SXなどの竪穴状遺構3基が検出されているがいずれも竪穴建物跡と認定する要素の多くが欠けている。これに対して01196SIは北辺に造り付けのカマドがあるなど､竪穴建物跡としての要件を満たしている。

01196SIは南西隅で東西方向に延びる溝01151SDと重複関係にあり、これより古い時期である。01151SDは重複地点付近で弧線状に延びる溝で、7世紀中葉以降の時期と考えられる。したがって01196SIはその時期よりも古いことになる。平面形は、西辺の大半が残存していることとカマドが北辺の中央に位置していると想定すると、東西方向に長い長方形と考えられ、その規模は東西方向に長軸約4.2m､南北方向に短軸約3.5m､深さ約0.1mである。北辺のカマド跡（01196SL）は壁面から若干突出させて構築されている。その基部は中央の焚口部分に相当する凹みを取り巻くように土手状に残存している。焚口部分は焼土･炭化物ともに少ない。また土層断面（図160）によれば、これら焼土・炭化物層は遺構埋土の比較的上層に存在しており、このことから01196SIの埋土の大半は掘り方内に充填された貼床と考えられる。床面より上は5層が相当する。壁溝は西辺と南東隅部(01688SD)で部分的にみられる。その北辺はカマド跡の目前で止まっている。底面で検出された遺構は少なく、01640SKと02114SKが検出されているのみだが両者が柱穴に当たる。これに対して南辺近くの柱穴は確認できていない。

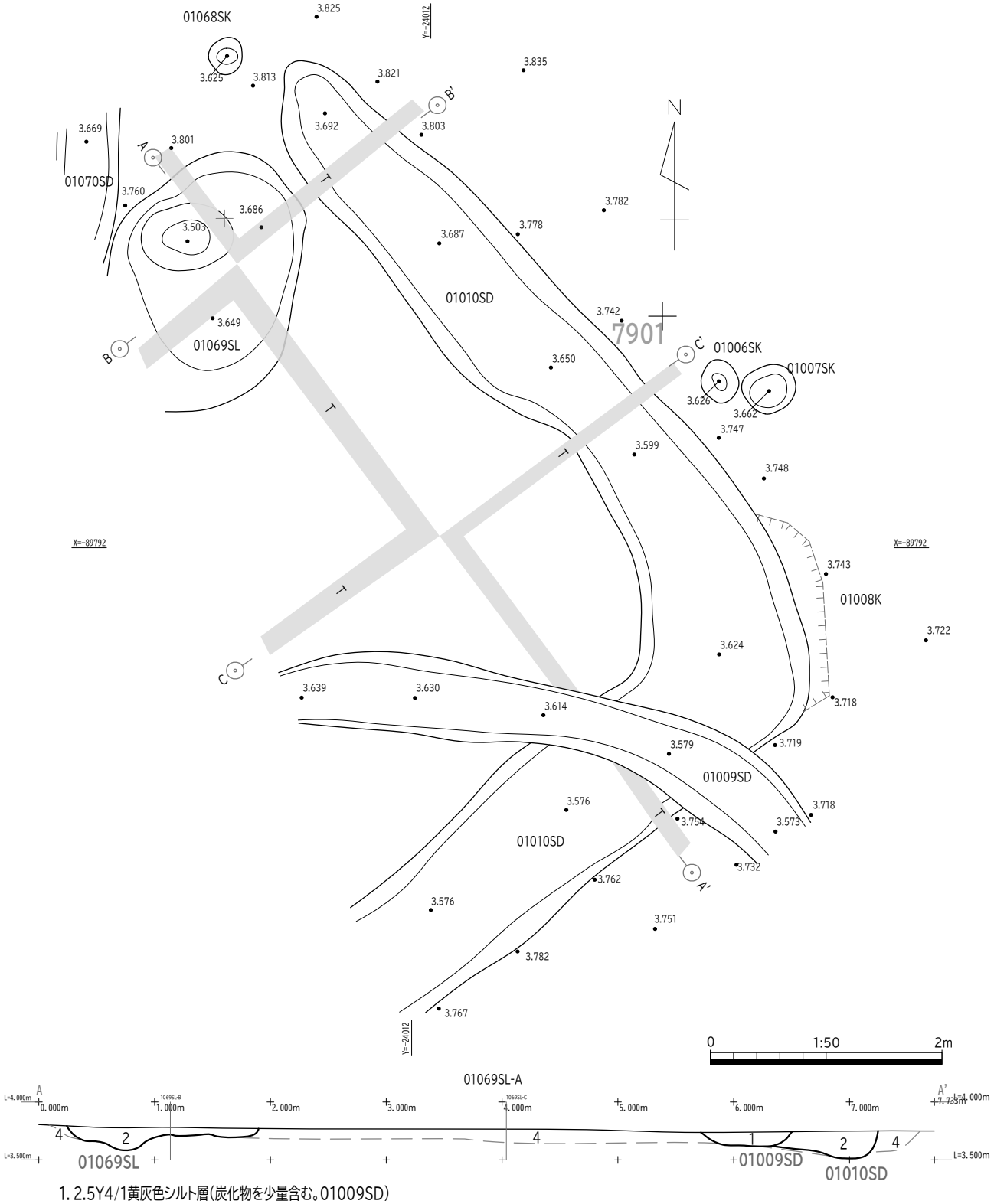
出土遺物で01196SIに限定できるものはほとんどなく、古墳時代前期の高杯脚部1点のみである。したがって遺物から時期特定はできないが、先述のように遺構の重複関係で01151SDに先行するのであるから、7世紀前葉以前と推定される。

01198SI・撹乱（旧01197SI） 旧河道右岸、調査範囲北東部に位置する竪穴建物跡である。01196SIの北側約5mには竪穴建物跡01196SIがある。周囲は撹乱や溝が多い。01198SIは北東隅で南北方向の溝01341SDと重複関係にありこれより古い時期にある。また、その北側ではカマド跡02100SLを伴う竪穴状遺構02103SXとも重複し、これよりも新しい時期である。平面形は西辺や南辺が全体が残っていることからやや東西に長い長方形であり、規模は長軸4.2m、短軸約3.8m、深さ約0.1mである。西辺を主軸とするとそれはグリッド北から東へ30°振れている。付属の施設としてカマドはなく、東辺（01343SD）と西辺の一部に壁溝が確認される。柱穴としうる遺構は底面で検出されなかった。土層断面（図162）によれば、3・4層が床面より上に相当し、それ以外の凹凸の多い掘り込みが掘り方に当たると考えられる。

なお、01198SIと同じグリッド8001において当初01197SIという遺構が検出されていたが、最終的に遺構ではなく撹乱と評価された（01197K）。しかしながら遺物は周囲よりも多く出土しており、付近での状況からすると竪穴建物跡の可能性も考慮したい。出土土器（図163-1552～1558）を示すと、1552は須恵器杯蓋でI-101号窯式期、1555は土師器長胴甕で摘み上げ口縁の型式。1556は細かいハケメ調整痕のある外反する口縁の端部が下方に折り曲げられている。6世紀後半か。以上の遺物は隣接する01198SIに類似する。

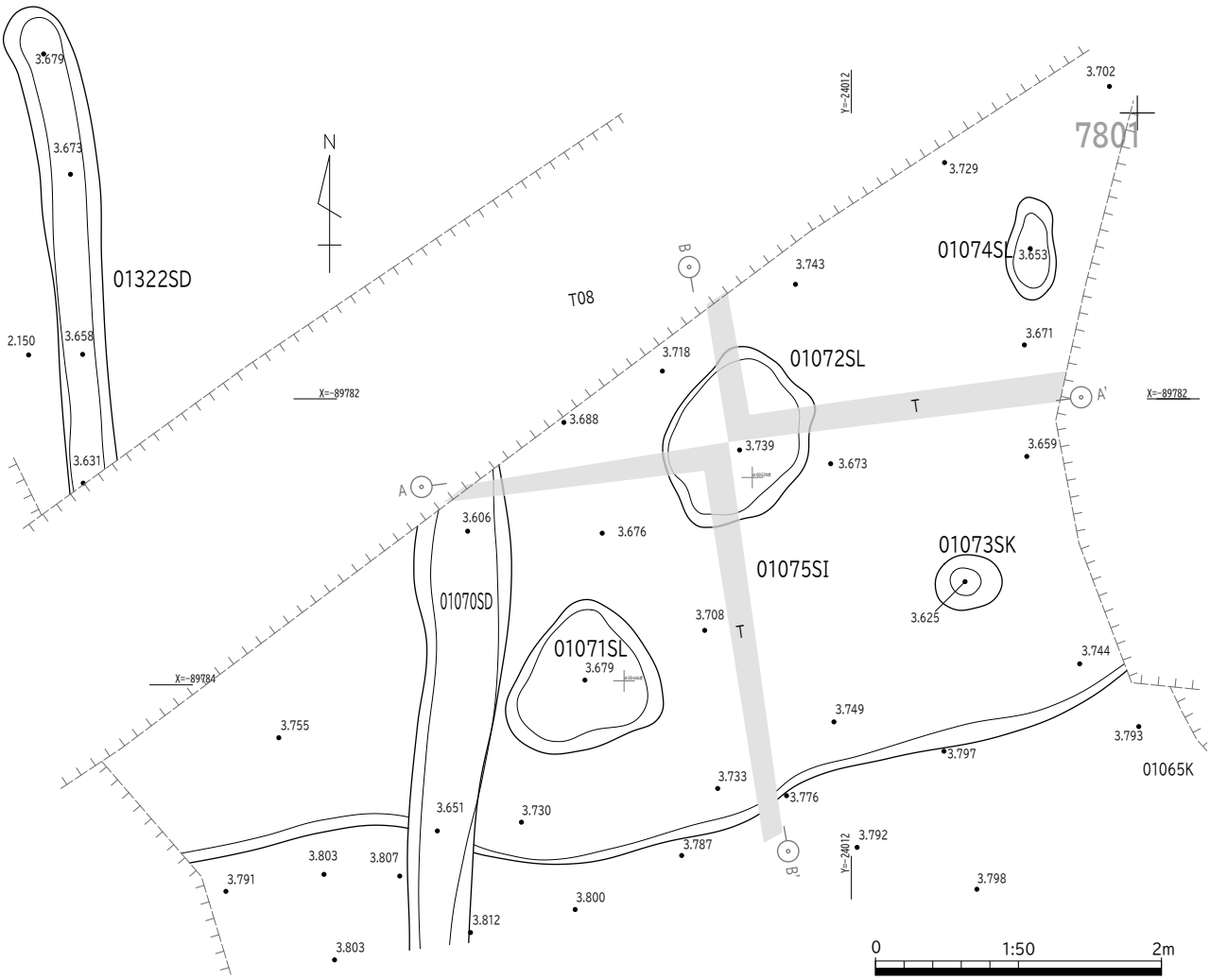
なお、01197Kに関連する火処遺構として炭化物集積の土坑01699SLがあり、そこから出土した土師器甕1569に付着した炭化物を試料に放射性炭素年代測定を行った（測定番号PLD-54973）。2σ暦年代較正で、562-643 al AD（95.45%）という数値年代を得た。6世紀後半～7世紀前半である。

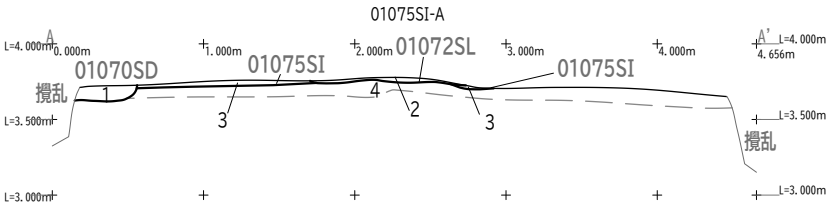
次に01198SI出土遺物を提示する（図163-1559～1566）。1559は須恵器の杯蓋でI-101号窯式期、1560は蓋としたが無蓋高杯の口縁部の可能性もある。1198は甑の底部で外面は全面ヘラ削り、内面は縦方向の指ナデ蒸気孔の桟はケラ削りで成形。1563は摘み上げ口縁の土師器甕で6世紀後半か。以上から01198SIの時期は7世紀中葉と考えられる。



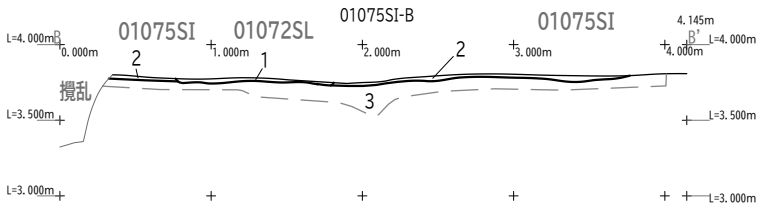
1. 2.5Y4/1黄灰色シルト層(炭化物を少量含む。01009SD)
2. 2.5Y3/1黒褐色シルト層(炭化物・マンガン粒を少量含む。鉄斑少ない。01010SD)
3. 10YR3/1黒褐色シルトと2.5Y4/1黄灰色シルトの混層(炭化物を含む。焼土粒を少量含む。鉄斑少ない。01069SL)
4. 2.5Y4/2暗灰黄色細粒砂と2.5Y4/1黄灰色シルトの混層(鉄斑少ない。地山)

図 158 01010SD・01069SL 遺構図



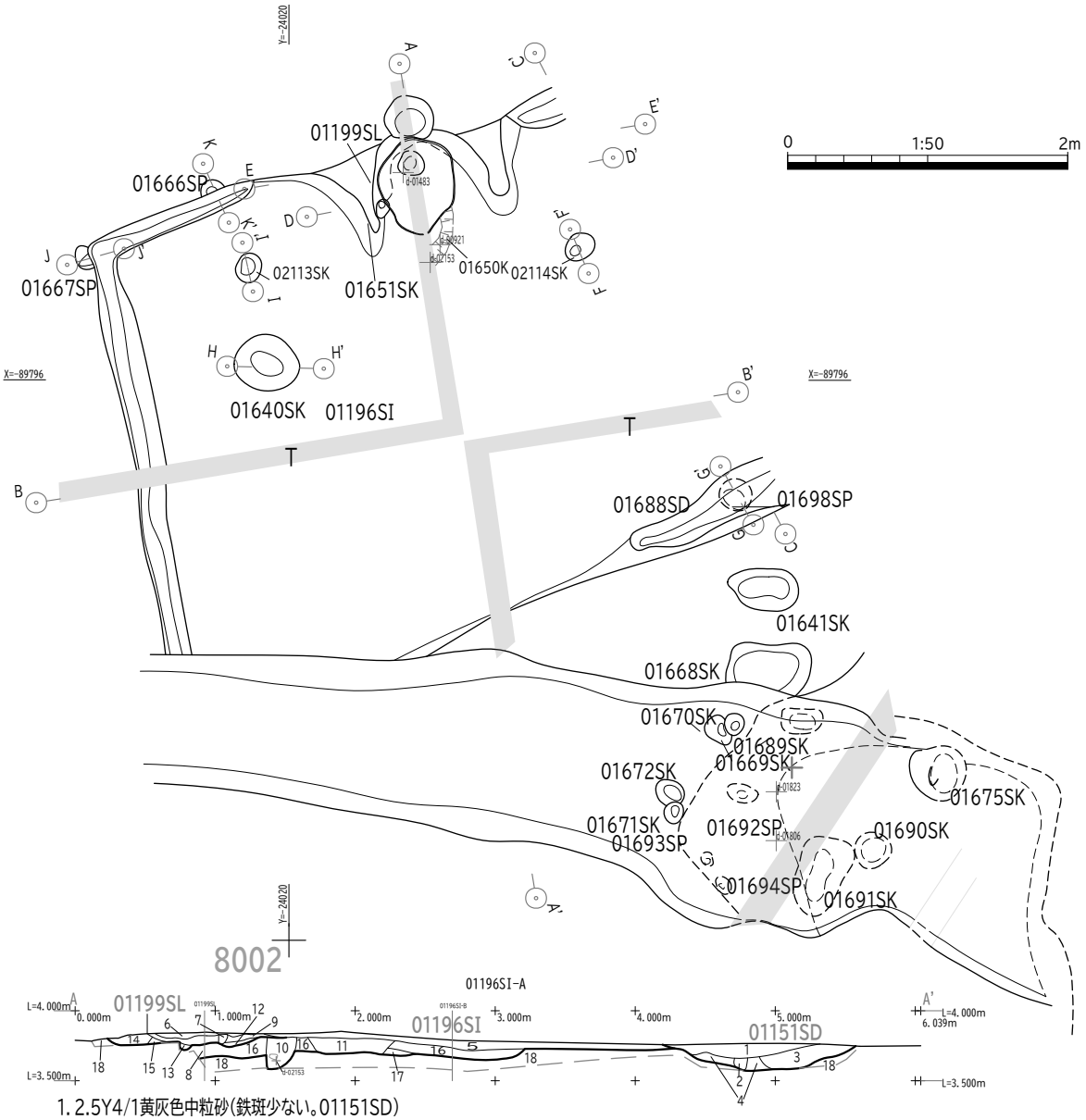


1. 2.5Y4/1黄灰色シルトと10YR4/1褐灰色粘土質シルトの混層(鉄斑少ない。炭化物を少量含む。01070SD)
2. 2.5Y5/2暗灰黄色シルト層(2.5Y4/1黄灰色粘土質シルトブロック混入。細礫少量含む。炭化物を少量含む。鉄斑少ない。01072SL)
3. 10YR4/2灰黄褐色シルト層(炭化物・焼土粒を少量含む。鉄斑少ない。01075SI)
4. 2.5Y4/2暗灰黄色細粒砂と2.5Y4/1黄灰色シルトの混層(鉄斑少ない。地山)



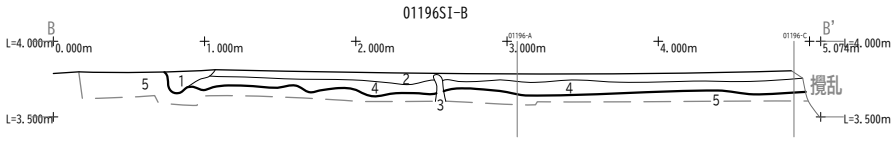
1. 2.5Y5/2暗灰黄色シルト層(2.5Y4/1黄灰色粘土質シルトブロック混入。細礫少量含む。炭化物を少量含む。鉄斑少ない。01072SL)
2. 10YR4/2灰黄褐色シルト層(炭化物・焼土粒を少量含む。鉄斑少ない。01075SI)
3. 2.5Y4/2暗灰黄色細粒砂と2.5Y4/1黄灰色シルトの混層(鉄斑少ない。地山)

図 159 01075SI 遺構図

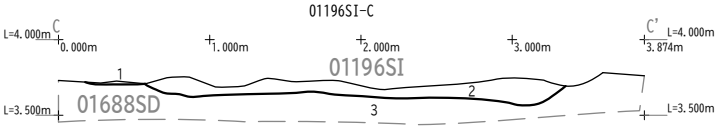


1. 2.5Y4/1黄灰色中粒砂(鉄斑少ない。01151SD)
2. 2.5Y5/2暗灰黄色シルト質中粒砂(細礫少量含む。鉄斑少ない。01151SD)
3. 2.5Y5/2暗灰黄色シルト質中粒砂と2.5Y4/2暗灰黄色砂質シルトの混層(2.5Y5/4黄褐色細粒砂ブロック混入。細礫少量含む。鉄斑少ない。01151SD)
4. 2.5Y6/1黄灰色砂質シルト(10YR6/1褐灰色シルトブロック少量混入。鉄斑あり。01151SD)
5. 2.5Y5/2暗灰黄色シルト層(10YR3/1黒褐色粘土質シルトブロック混入。鉄斑少ない。01196SI)
6. 2.5Y4/2暗灰黄色粘土質シルトと2.5Y3/1黒褐色シルトの混層(炭化物・焼土粒を少量含む。鉄斑少ない。01199SL)
7. 2.5Y5/2暗灰黄色粘土質シルト層(鉄斑少ない。01199SL)
8. 2.5Y3/1黒褐色粘土質シルトと10YR3/1黒褐色シルトの混層(2.5Y6/1黄灰色シルトブロック混入。炭化物を含む。焼土粒を少量含む。鉄斑少ない。01199SL)
9. 2.5Y3/1黒褐色シルト層(10YR4/1褐灰色粘土質シルトブロック混入。鉄斑少ない。炭化物を多く含む。焼土粒を少量含む。01199SL)
10. 2.5Y4/1黄灰色シルト層(10YR3/1黒褐色粘土質シルトブロックと10YR5/2灰黄褐色粘土質シルトブロック混入。鉄斑少ない。01196SI内土坑?)
11. 2.5Y5/1黄灰色シルト層(10YR3/1黒褐色粘土質シルトブロック混入。鉄斑少ない。01196SI内土坑?)
12. 2.5Y3/1黒褐色粘土質シルトと2.5Y4/2暗灰黄色シルトの混層(炭化物を少量含む。鉄斑少ない。01199SL炭化物層)
13. 2.5Y3/2黒褐色粘土質シルトと2.5Y4/2暗灰黄色シルトの混層(炭化物を少量含む。鉄斑少ない。01199SL内ピット?)
14. 10Y3/1黒褐色粘土質シルトと2.5Y4/2暗灰黄色シルトの混層(炭化物を少量含む。鉄斑少ない。01199SL)
15. 2.5Y4/2暗灰黄色シルト層(2.5Y3/2黒褐色シルトブロック少量混入。鉄斑少ない。01199SL)
16. 10YR4/1褐灰色粘土質シルトと2.5Y5/2暗灰黄色シルトの混層(10YR3/1黒褐色粘土質シルトブロック混入。鉄斑少ない。01196SI掘方)
17. 2.5Y4/2暗灰黄色粘土質シルト層(鉄斑少ない。01196SI掘方)
18. 2.5Y4/2暗灰黄色シルト層(鉄斑少ない。地山)

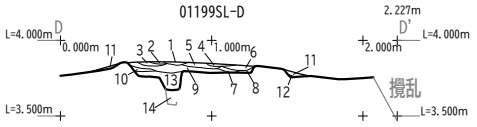
図 160 01196SI 遺構図 (1)



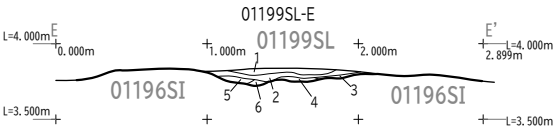
1. 2.5Y4/1黄灰色シルト層(2.5Y3/1黒褐色粘土質シルトブロック混入。鉄斑少ない。01196SI周溝)
2. 2.5Y5/2暗灰黄色シルト層(10YR3/1黒褐色粘土質シルトブロック混入。鉄斑少ない。01196SI)
3. 噴砂
4. 10YR4/1褐灰色粘土質シルトと2.5Y5/2暗灰黄色シルトの混層(10YR3/1黒褐色粘土質シルトブロック混入。鉄斑少ない。01196SI掘方)
5. 2.5Y4/2暗灰黄色細粒砂と2.5Y4/1黄灰色シルトの混層(鉄斑少ない。地山)

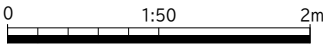


1. 10YR4/2灰黄色粘土質シルトと2.5Y5/2暗灰黄色シルトの混層(10YR3/1黒褐色粘土質シルトブロック混入。鉄斑少ない。01688SD)
2. 2.5Y4/2暗灰黄色粘土質シルト層(鉄斑少ない。01196SI掘方)
3. 2.5Y4/2暗灰黄色細粒砂と2.5Y4/1黄灰色シルトの混層(鉄斑少ない。地山)



1. 2.5Y4/1黄灰色粘土質シルト層(7.5YR4/2灰褐色シルトブロック混入。炭化物・焼土粒を少量含む。鉄斑少ない)
2. 2.5Y3/1黒褐色シルト層(2.5Y6/1黄灰色シルトブロック混入。炭化物を多く含む。焼土粒を少量含む。鉄斑少ない)
3. 2.5Y4/1黄灰色シルト層(10YR4/2灰黄褐色粘土質シルトブロック混入。炭化物を少量含む。鉄斑少ない)
4. 2.5Y3/1黒褐色シルト層(2.5Y6/1黄灰色シルトブロック混入。炭化物を多く含む。焼土粒を少量含む。鉄斑少ない)
5. 2.5Y3/1黒褐色シルトと10YR3/2黒褐色粘土質シルトの混層(10YR6/3にぶい黄橙色シルトブロック混入。炭化物を含む。焼土粒を少量含む。鉄斑少ない)
6. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(炭化物・焼土粒を少量含む。鉄斑少ない)
7. 2.5Y6/2灰黄色シルトと2.5Y3/1黒褐色シルトの混層(2.5Y8/1灰白色シルトブロック混入。炭化物・焼土粒を少量含む。鉄斑少ない)
8. 10YR4/2灰黄褐色粘土質シルト層(10YR5/6黄褐色シルトブロック混入。鉄斑少ない)
9. 2.5Y3/1黒褐色シルト層(2.5Y6/1黄灰色シルトブロック混入。炭化物を多く含む。焼土粒を少量含む。鉄斑少ない)
10. 2.5Y3/1黒褐色粘土質シルトと2.5Y4/2暗灰黄色シルトの混層(炭化物を少量含む。鉄斑少ない)
11. 2.5Y4/2暗灰黄色粘土質シルト層(2.5Y5/1黄灰色シルトブロック混入。鉄斑少ない)
12. 10YR4/1褐灰色シルト層(鉄斑少ない)
13. 2.5Y4/2暗灰黄色粘土質シルト層(鉄斑少ない)
14. 2.5Y4/2暗灰黄色細粒砂と2.5Y4/1黄灰色シルトの混層(鉄斑少ない。地山)





1. 2.5Y4/2暗灰黄色粘土質シルトと2.5Y3/1黒褐色シルトの混層(炭化物・焼土粒少量含む。鉄斑少ない。01199SL)
2. 2.5Y3/1黒褐色粘土質シルトと10YR3/1黒褐色シルトの混層(2.5Y6/1黄灰色シルトブロック混入。炭化物多く含む。焼土粒少量含む。鉄斑少ない。01199SL)
3. 10YR4/2灰黄褐色シルト層(10YR5/3にぶい黄褐色シルトブロック少量混入。鉄斑少ない01199SL)
4. 2.5Y4/2暗灰黄色シルト層(2.5Y3/2黒褐色シルトブロック少量混入。鉄斑少ない。01199SL)
5. 2.5Y4/2暗灰黄色シルト層と2.5Y5/1黄灰色シルトの混層(鉄斑少ない。01199SL)
6. 2.5Y4/2暗灰黄色粘土質シルトと10YR4/2灰黄褐色シルトの混層(5Y6/1灰色シルトブロック混入。炭化物少量含む。鉄斑少ない。01199SL)

図 161　01196SI 遺構図 (2)

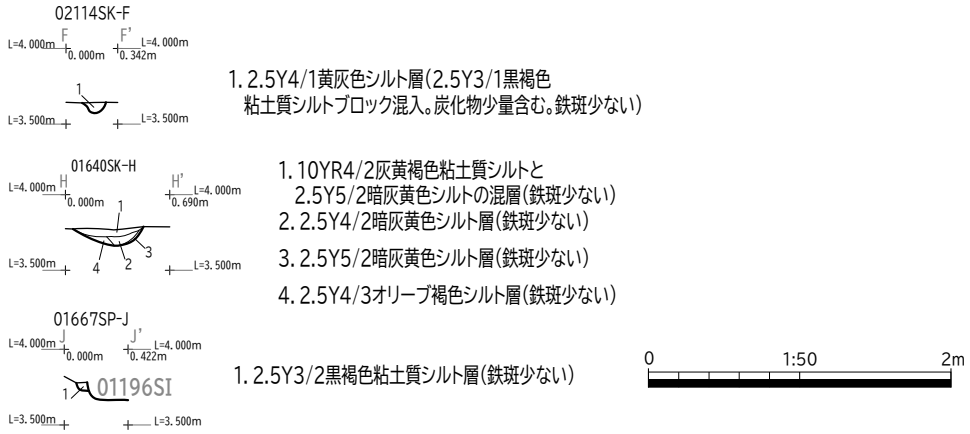


図 162 01196SI 関連遺構図

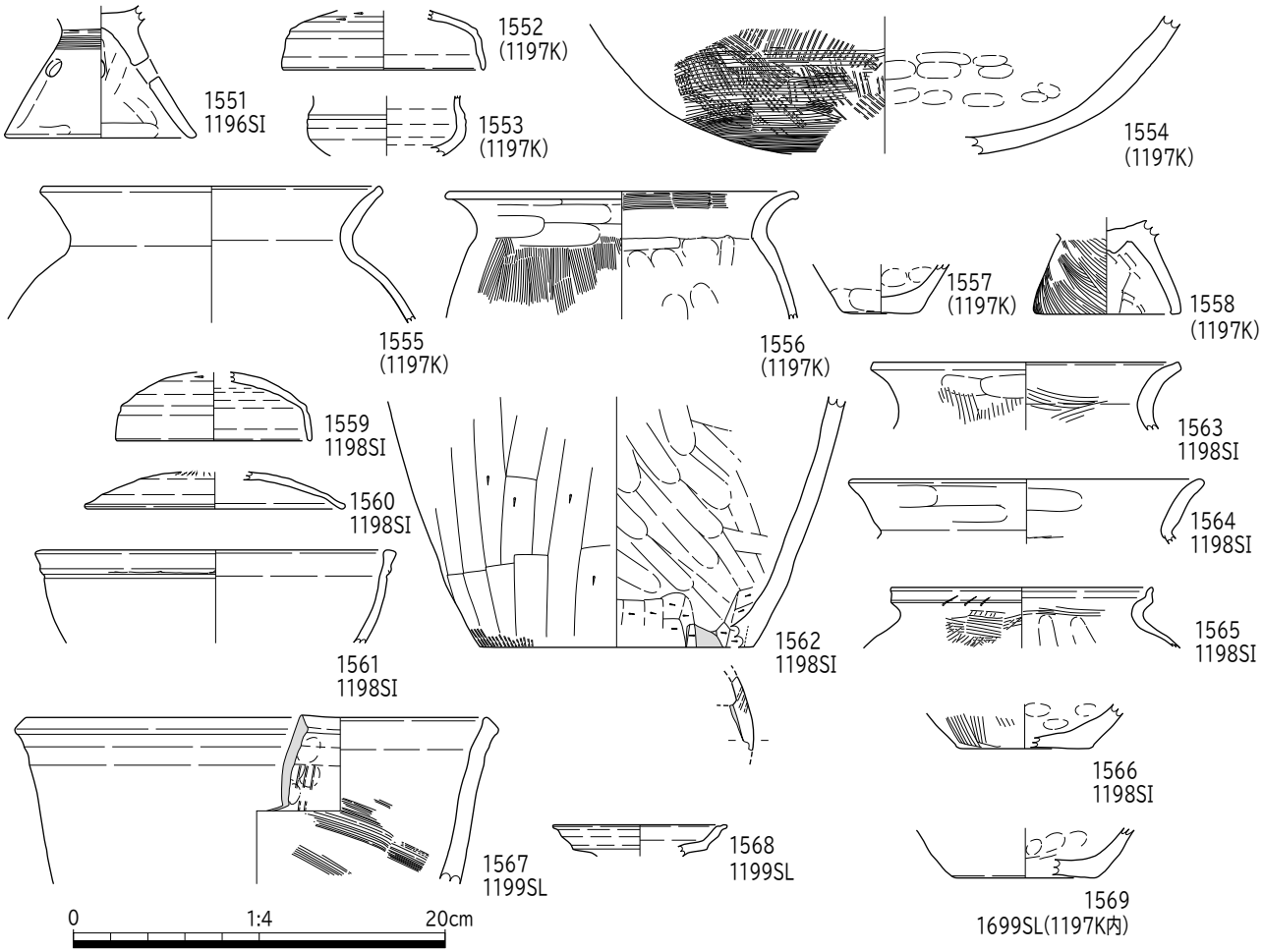
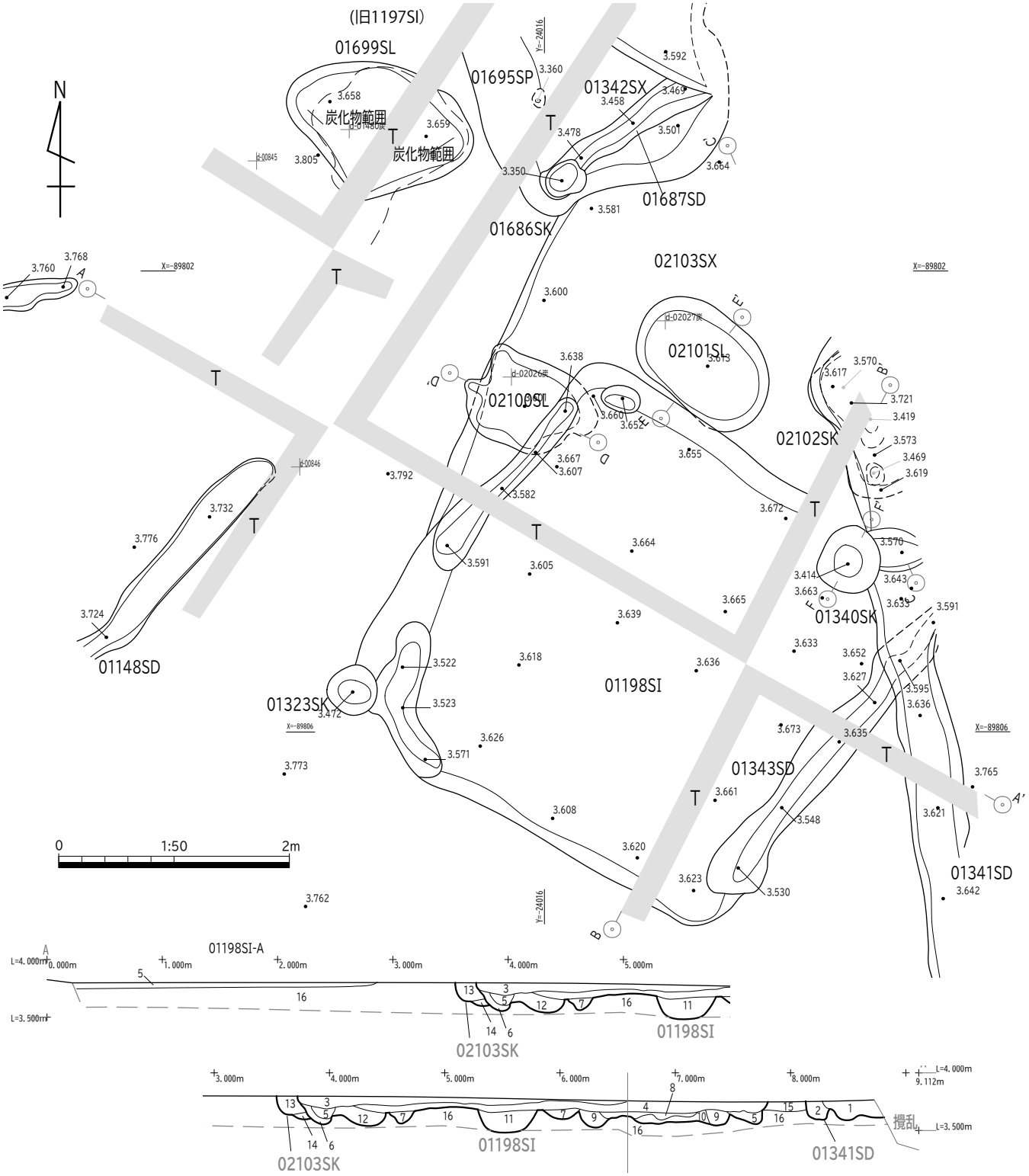
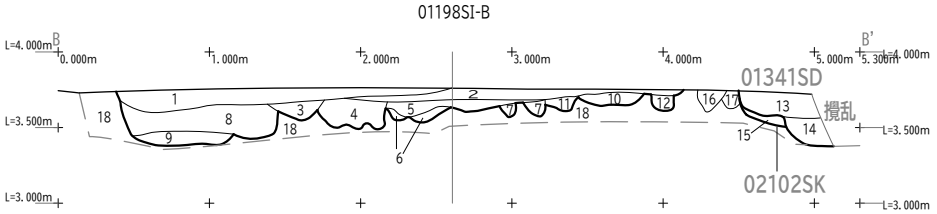


図 163 01196SI・撹乱（01197K）・01198SI 出土遺物実測図

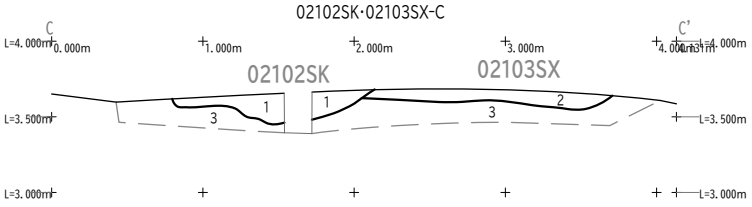


1. 2.5Y3/2黒褐色シルトと2.5Y5/2暗灰黄色砂質シルトの混層(鉄斑少ない。01341SD)
2. 2.5Y4/1黄灰色砂質シルト層(炭化物を少量含む。鉄斑少ない。01341SD)
3. 2.5Y4/1黄灰色砂質シルト層(10YR4/1褐灰色砂質シルトブロック混入。炭化物を少量含む。鉄斑少ない。01198SI)
4. 10YR3/1黒褐色砂質シルトと10YR3/1黒褐色シルトの混層(炭化物を少量含む。鉄斑少ない。01198SI)
5. 2.5Y4/1黄灰色砂質シルト層(鉄斑少ない。01198SI周溝)
6. 2.5Y4/2暗灰黄色砂質シルト層(鉄斑少ない。01198SI周溝)
7. 2.5Y5/1黄灰色砂質シルト層(鉄斑少ない。01198SI掘方)
8. 2.5Y3/2黒褐色シルトと2.5Y4/2暗灰黄色砂質シルトの混層(炭化物を少量含む。鉄斑少ない。01198SI掘方)
9. 2.5Y5/3黄褐色細粒砂(2.5Y4/2暗灰黄色砂質シルトブロック混入。炭化物を少量含む。鉄斑少ない。01198SI掘方)
10. 2.5Y4/2暗灰黄色砂質シルト層(2.5Y8/2灰白色細粒砂ブロック混入。鉄斑少ない。01198SI掘方)
11. 2.5Y4/1黄灰色シルト層(炭化物を少量含む。鉄斑少ない。01198SI掘方)
12. 2.5Y5/3黄褐色細粒砂(鉄斑少ない。01198SI掘方)
13. 10YR4/1褐灰色シルト層(鉄斑少ない。02103SX)
14. 10YR4/2灰黄褐色シルト層(鉄斑少ない。02103SX)
15. 2.5Y4/1黄灰色砂質シルト層(鉄斑少ない。地山)
16. 2.5Y5/2暗灰黄色シルト質細粒砂(2.5Y6/3にぶい黄色細粒砂ブロック混入。鉄斑少ない。地山)

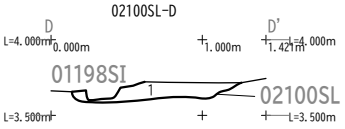
図 164　01198SI 遺構図 (1)



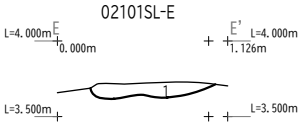
1. 2.5Y4/1黄灰色砂質シルト層(10YR4/1褐灰色砂質シルトブロック混入。炭化物を少量含む。鉄斑少ない。01198SI)
2. 10YR3/1黒褐色砂質シルトと10YR3/1黒褐色シルトの混層(炭化物を少量含む。鉄斑少ない。01198SI)
3. 2.5Y4/1黄灰色砂質シルト層(鉄斑少ない。01198SI掘方)
4. 2.5Y3/2黒褐色シルトと2.5Y5/2暗灰黄色砂質シルトの混層(鉄斑少ない。01198SI掘方)
5. 10YR5/1褐灰色シルト層(鉄斑少ない。01198SI掘方)
6. 2.5Y5/1黄灰色砂質シルト層(鉄斑少ない。01198SI掘方)
7. 2.5Y5/2暗灰黄色砂質シルトと2.5Y4/2暗灰黄色シルトの混層(鉄斑少ない。01198SI掘方)
8. 2.5Y4/1黄灰色砂質シルトと10YR4/2灰黄褐色シルトの混層(鉄斑少ない。01198SI掘方)
9. 10YR6/1褐灰色砂質シルトと2.5Y8/2灰白色極細粒砂の混層(鉄斑少ない。01198SI掘方)
10. 2.5Y5/2暗灰黄色砂質シルトと2.5Y4/2暗灰黄色シルトの混層(鉄斑少ない。01198SI掘方)
11. 2.5Y4/2暗灰黄色砂質シルト層(鉄斑少ない。01198SI掘方)
12. 2.5Y4/1黄灰色砂質シルト層(鉄斑少ない。01198SI掘方)
13. 2.5Y4/1黄灰色砂質シルトと2.5Y4/2暗灰黄色細粒砂の混層(10YR4/1褐灰色シルトブロック混入。鉄斑少ない。01341SD)
14. 10YR4/2灰黄褐色シルト層(細礫少量含む。鉄斑少ない。01341SD)
15. 2.5Y4/2暗灰黄色砂質シルト層(鉄斑少ない。02102SK)
16. 10YR4/1褐灰色シルトと2.5Y4/1黄灰色砂質シルトの混層(鉄斑少ない)
17. 2.5Y4/1黄灰色砂質シルトと2.5Y5/1黄灰色細粒砂の混層(鉄斑少ない)
18. 2.5Y5/2暗灰黄色シルト質細粒砂(2.5Y6/3にぶい黄色細粒砂ブロック混入。鉄斑少ない。地山)



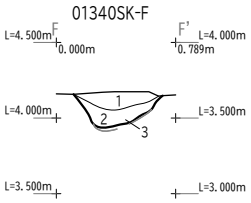
1. 2.5Y4/1黄灰色粘土質シルトと2.5Y5/2暗灰黄色シルトの混層
(2.5Y6/4にぶい黄色細粒砂混じる。鉄斑少ない。02102SK)
2. 2.5Y3/2黒褐色シルトと2.5Y4/2暗灰黄色砂質シルトの混層(鉄斑少ない。02103SX)
3. 2.5Y5/2暗灰黄色と2.5Y6/4にぶい黄色中粒砂の混層(鉄斑少ない。地山)



1. 10YR5/2灰黄褐色粘土質シルトと
10YR4/1褐灰色シルトの混層(N8/0灰白色
シルトブロック混入。炭化物を含む。
焼土粒を少量含む。鉄斑少ない)



1. 10YR5/2灰黄褐色粘土質シルトと
10YR4/1褐灰色シルトの混層
(炭化物を含む。焼土粒を少量含む。
鉄斑少ない)



1. 2.5Y4/1黄灰色シルト層
(炭化物を少量含む。鉄斑少ない)
2. 10YR3/1黒褐色粘土質シルト層
(2.5Y5/1黄灰色細粒砂ブロック混入。
鉄斑少ない)
3. 2.5Y5/2暗灰黄色シルト質細粒砂
(2.5Y6/3にぶい黄色細粒砂ブロック混入。
鉄斑少ない。地山)

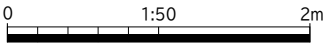


図 165　01198SI 遺構図 (2)

01213SI・01257SI 旧河道左岸、調査範囲南西部に位置する竪穴建物跡である。旧河道左岸の細長い微高地上に分布する竪穴建物跡群のなかで最も南西隅に位置しており、地形的には微高地の頂部からやや西へ傾斜する場所でもあり、すぐ西側には概ね 6 世紀代に機能した溝（00200SD）が並行して存在する。01257SI と 01213SI は重複関係にあって前者から後者へと変遷している。具体的には、01257SI に対してその南辺から中央部にかけて 01213SI の北隅部が食い込むような位置関係にある。01213SI の平面形は、北東～南西方向に長い長方形をしており、規模は長軸約 5.1m、短軸約 4.0m、深さ約 0.3m である。各辺の掘り込みは明瞭で、壁面は底面に対して直立している。直線的な北西辺を主軸方向とするとその方位はグリッド北から東へ 30° 振れている。付属施設としては、カマドや壁溝は検出されず、底面で土坑 2 基（01210SK・01214SK）が検出されているが、柱穴は確認できていない。このことからきわめてシンプルな構造の竪穴部であることがわかる。

01257SI の平面形は、北東～南西方向にやや長い長方形をしており、規模は長軸約 4.4m、短軸約 3.8m、深さ約 0.1m である。南西辺以外は直線的で整っているが、南西辺は途中で屈曲しており、後述するように底面で検出された先行する竪穴建物跡の壁溝との関係が考えられる。カマドは北西辺に突出部をともなって造り付けられており、これによって主軸方向は北西～南東方向とみなされる。その方位は東辺を基準にすればグリッド北から西へ 30° 振れている。

01257SI のカマドは 00864SL である。北西壁面から掘り広げて約 0.5m 外部へ突出する土坑状の遺構として検出されている。その横断面（図 167、土層断面 D-D’）によれば、若干の焼土が混じる掘り方に入った土層（3 層）の上層（2 層）は上部からの被熱によって赤色に変色している。したがって 2 層の上面がカマドの機能面であったと考えられる。壁溝（01406SD）は北東辺から南東辺にかけて明瞭にみられる。一方でカマドを挟んだ西側にはない。

01257SI の底面からは 18 基もの土坑・ピット・溝が検出されている。このうち 01257SI にともなう壁溝 01406SD とは別に方形状の周溝（01927SD）が検出されている。01927SD によって区画される方形は北東～南西方向に約 3.2m あり、小型竪穴建物の規模に相当する。01927SD の南東側への続きは不明であるが、01257SI の南東辺と壁溝がこれに相当するとすれば、区画の北西～南東の長さは約 2.9m ということになる。よって 01257SI に先行する 3.2m × 2.9m 規模の小型竪穴建物があったことになる（遺構名なし）。そこでまずこれに付属する柱穴を抽出すると、区画溝の隅に 01467SP と 01790SK（下位に 01430SK）が挙げられる。さらに南西隅近くに 01466SP が位置する。いずれも長軸約 0.5m 以上の掘り方であり、01466SP では柱痕も確認されている（土層断面 H-H’）。また同断面によれば、01466SP の上端は 01257SI の上端よりも外側にはみ出しており、このことから両者が一連のものでなかったことが明らかとなる。このように 01257SI に先行する小型竪穴建物跡の柱穴として以上の 3 基を抽出すると、01257SI の柱穴に相応しいものがなくなる。しかし一方で、01257SI の南

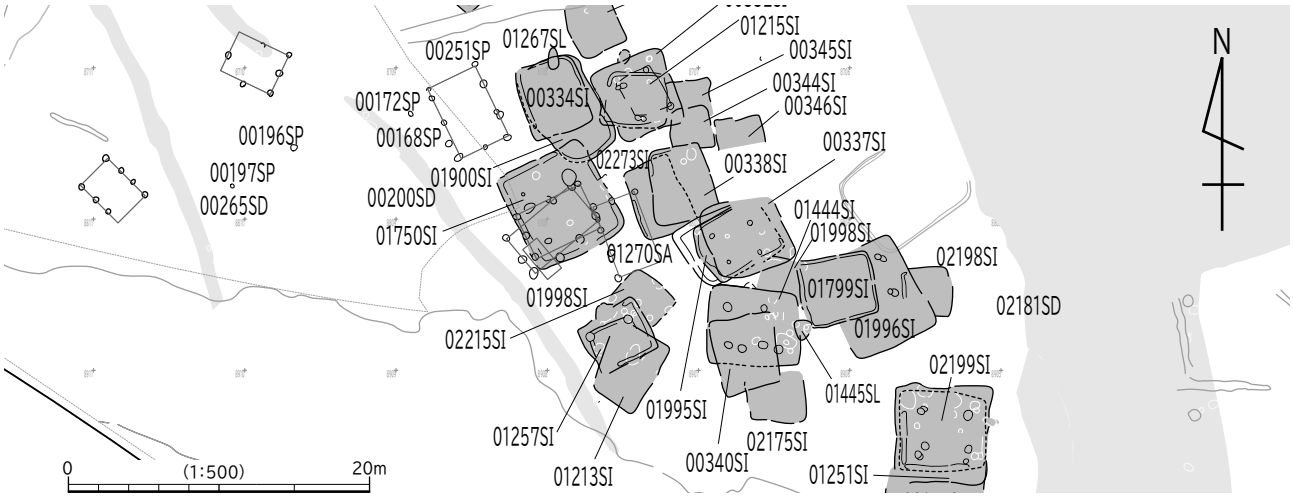
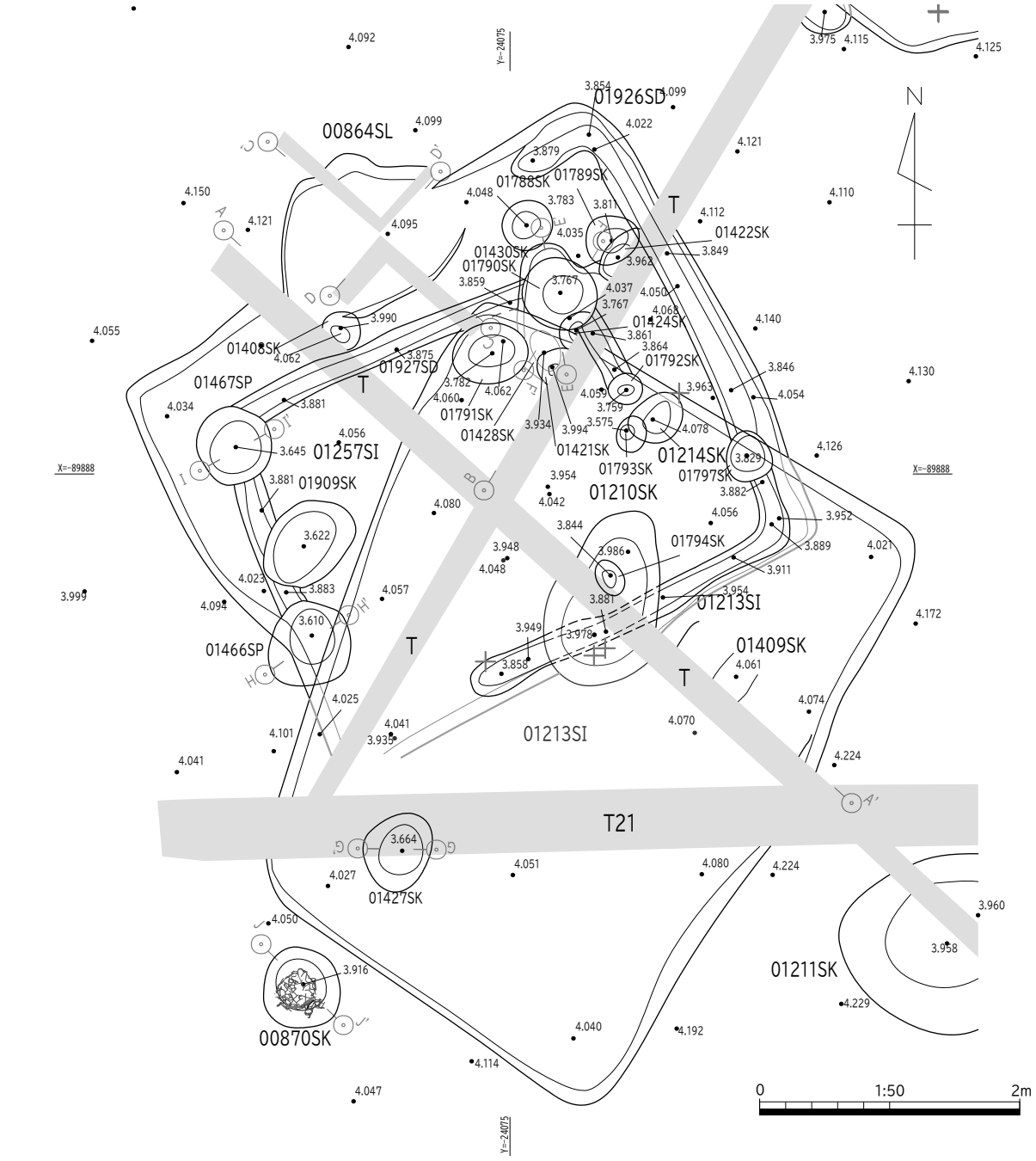
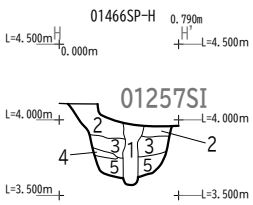
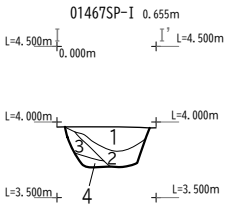


図 166 旧河道左岸の古墳時代後期～古代の建物跡分布図（3）

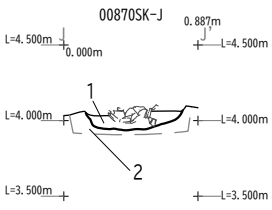




1. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR7/1灰白色細粒砂ブロックを多く含む。柱痕)
2. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/1褐灰色極細粒砂ブロックを含み、灰白色細粒砂ブロックを含む。炭化物を極少量含む。掘り方)
3. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/1褐灰色極細粒砂ブロックを多く含む。掘り方)
4. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層(10YR3/2黒褐色シルト小ブロックを少量含む。掘り方)
5. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂ブロックを含む。掘り方)

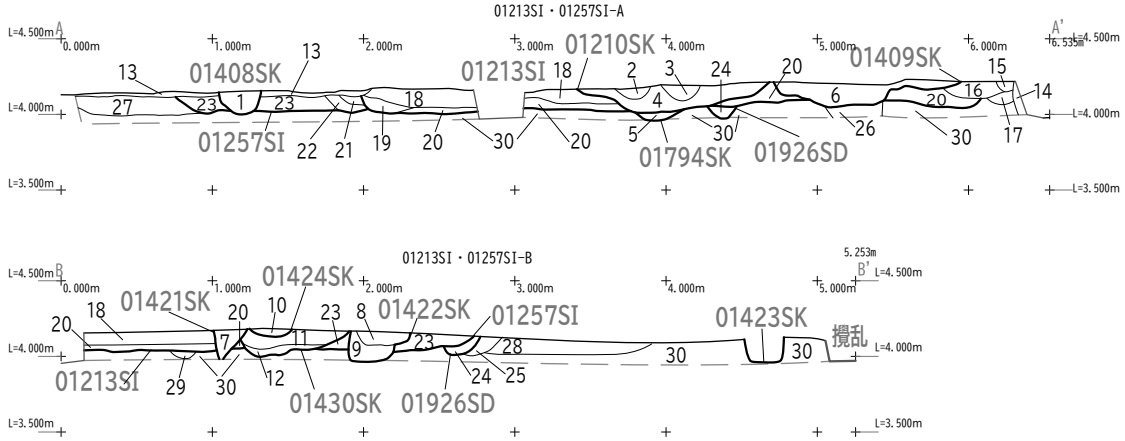


1. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂ブロックを多く含む。鉄分沈着顕著)
2. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂ブロックを含む)
3. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂大ブロックを多く含む)
4. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂大ブロックを含む)

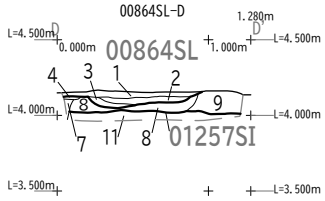


1. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂ブロックを多く含む。炭化物を極少量含む)
2. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層(地山)

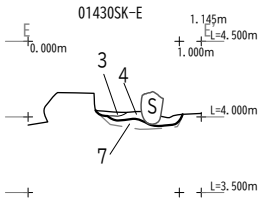
図 167 00864SL・01213SI・01257SI 遺構図 (1)



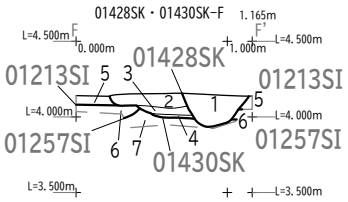
1. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂ブロックを多く含む。01408SK)
2. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂ブロックを少量含む。01210SK)
3. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂ブロックを少量含む。01210SK)
4. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを多く含む。炭化物を少量含む。01210SK)
5. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層(10YR3/2黒褐色シルト小ブロックを含む。01794SK)
6. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを少量含む。炭化物を極少量含む。01409SK)
7. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR7/1灰白色細粒砂小ブロックを少量含み、10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを少量含む。01421SK)
8. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR7/1灰白色細粒砂小ブロックを少量含む。炭化物を極少量含む。焼土を極少量含む。01422SK)
9. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂ブロックを含む。炭化物を少量含む。01422SK)
10. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR7/1灰白色細粒砂ブロックを含む。炭化物を極少量含む。焼土を少量含む。01424SK)
11. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂ブロックを多く含む。炭化物を極少量含む。焼土を極少量含む。01430SK)
12. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂ブロックを含む。炭化物を多く含む。焼土を少量含む。01430SK)
13. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR7/1灰白色細粒砂ブロックを含む。炭化物を極少量含む。鉄分沈着顕著。2面包含層)
14. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを多く含む)
15. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを含む)
16. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂ブロックを少量含む)
17. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂ブロックを多く含む)
18. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂大ブロックを多く含む。炭化物を極少量含む。01213SI)
19. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを少量含む。炭化物を少量含む。01213SI壁溝か)
20. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂大ブロックを含む。炭化物を少量含む。01213SI掘方)
21. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを少量含む。01257SI)
22. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを含み、灰白色細粒砂小ブロックを含む。01257SI)
23. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂ブロックを含む。01257SI)
24. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを含む。01926SD)
25. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを含む。炭化物を少量含む)
26. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを少量含む)
27. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを多く含み、灰白色細粒砂小ブロックを少量含む。3面包含層)
28. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層(10YR3/2黒褐色シルトブロックを含む。鉄分沈着。3面包含層)
29. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層
30. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層(鉄分少量沈着。3面地山)

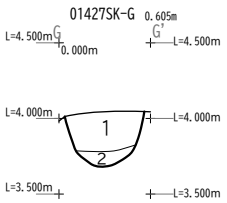


1. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを少量含む。炭化物を少量含む。焼土を含む。鉄分少量沈着。00864SL)
2. 10YR4/3にぶい黄褐色粘土質シルト層(炭化物を極少量含む。被熱により変色)
3. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層(10YR3/2黒褐色シルト大ブロックを少量含む。炭化物を極少量含む。焼土を極少量含む。00864SL掘方か)
4. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR7/1灰白色細粒砂ブロックを含む。鉄分沈着。2面包含層)
5. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを少量含む。鉄分少量沈着。01213SI)
6. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂ブロックを含む。01213SI壁溝か)
7. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(炭化物を極少量含む)
8. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層(10YR3/2黒褐色シルトブロックを多く含む。炭化物を極少量含む。焼土を極少量含む。01257SI)
9. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層(10YR3/2黒褐色シルト大ブロックを多く含む。炭化物を少量含む。焼土を極少量含む。鉄分少量沈着。01257SI)



1. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂ブロックを含む。炭化物を極少量含む。01428SK)
2. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(炭化物を少量含む。焼土を少量含む。01430SK)
3. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(炭化物を非常に多く含む。焼土を非常に多く含む。01430SK)
4. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(被熱により赤褐色に変色。01430SK)
5. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂ブロックを含む。01213SI)
6. 10YR3/2 黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを少量含む。01257SI)
7. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層(地山)





1. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/1褐灰色極細粒砂小ブロックを含む。炭化物を極少量含む。焼土を極少量含む)
2. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層(10YR3/2黒褐色シルトブロックを多く含む)

0 1:50 2m

図 168 00864SL・01213SI・01257SI 遺構図 (2)

西辺が屈曲しその南側で先行する竪穴建物跡の区画溝に沿ってくることを考慮すると、両者に拡張という関係があった可能性も指摘しうる。その場合、先行する建物の柱穴を再利用したことも考えられる。

01213SI の出土遺物は須恵器の小片が主体である。よって、これらは埋め戻しの際に混入したものと思われる。須恵器の杯蓋（1570 ～ 1576）は立ち上がりと端部の面取が明瞭な小口径のものがあり、これらは H-10 号窯式期までさかのぼるであろう。一方で杯身には 1578 のように 7 世紀前半とみられるものも含まれる。以上から 01213SI の機能から廃絶の時期が 7 世紀前半以降とみることができる。

01257SI も同様で、当該遺構で使用されたものと確定できるものはない。土師器は宇田型甕（1670）とハケ目調整痕の長胴甕（1671）がある。後者は 00864SL の出土であるから、構築材としても含めてカマド機能時には存在したことになる。6 世紀後半～ 7 世紀前半。1667 は管状土錘で縦方向の強い指ナデで面取りするように製作されたもので重量 33.1g、長さ 7.5cm を測る。須恵器杯身には 1659・1660 のように推定口径が 10.0cm となるものもあり、7 世紀前葉まで下る可能性が高い。以上の遺物の時期と 01213SI との重複関係から 01257SI は 7 世紀前葉に機能したと考えられる。

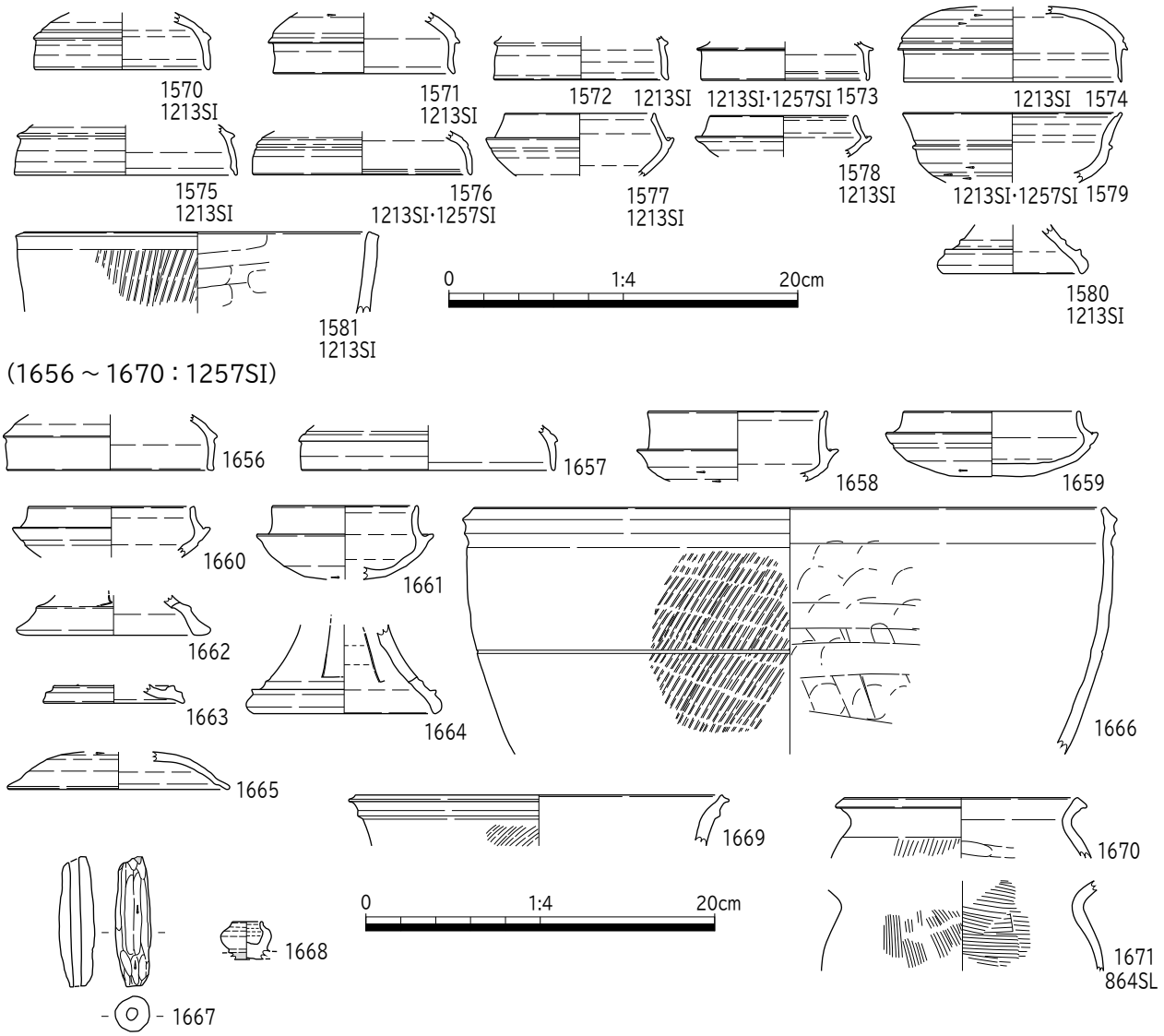


図 169　01213SI・01257SI 出土遺物実測図

01216SI・01420SI 旧河道左岸、調査範囲南西部に位置する竪穴建物跡である。当初、01216SIとして検2面で遺構を検出し、その底面に至って2基分の床面施設等を確認したことから、先行する（下位にある）方を01420SIとした。当該遺構の立地は旧河道左岸の微高地頂部にあり、なかでも南東方向から北西方向に向かってわずかに高まる地形にあたる。このことから域内でも特に好立地にあるといえる。01216SIの南西辺を共有するように竪穴建物跡00337SIが所在し、こちらの方が後から構築されている。また01216SIの位置で注目されるのは、その廃絶・埋没後に掘削された並行する小溝群の存在である。この小溝群については後述する。

01216SIの平面形は、北東～南西方向に若干長くなる整った正方形である。その規模は長軸約6.5m、短軸約6.3m、深さ0.25mである。古墳時代～古代における竪穴建物の平面規模からするとやや大型に分類される。カマドの位置からすると北西～南東方向に主軸があると考えられることから、直線的な南西辺をもとにするとその方位はグリッド北から西へ57°振れている。

カマドは北西辺に突出部をともなって造り付けられる（01413SL）。形状は、01216SIの北西壁面中央の幅約1.0m分を外部へ約0.4m掘り広げた土坑状である。土層断面（図170、土層断面A-A'）によれば、01413SLは溝01406SDを埋めた上に位置し、8層に焼土粒が少量混じっている。その上層にあたる7層によって8層は若干凹んだ箇所があることからその場所に甕を支えるための支脚が設置されていたと考えられる。よって8層の上面がカマド機能面となるのだが被熱による著しい赤色化や硬化がみられないことから、その使用頻度はさほど高くなかったのではないかと思われる。先述のように、01216SIの上位には小溝群が所在することから、その埋土も上半部は攪拌を受けている（2層）。よって01216SIをブロック状の土で埋め立てた4層が本来の埋土といってよい。そして4層の下面が床面ということになる。さらにその床面下層の15層が先行する竪穴建物跡01420SIの埋土となる。15層も大きめのブロック状の土で埋め立てられているが、状況からみて安定した床面を作るための貼床とは異なる。よって01216SIは貼床を行っていないと考える。このことは先行する01420SIも周縁部のみで貼床を行っていることとも共通する。

壁溝は01276SDが相当する。カマドの位置を除くほぼ全辺で確認されることから、01216SI構築時においてカマドの造り付けと同時に壁溝も掘削されたとみることができる。次に柱穴であるが、各壁面から約1.0mずつ内側にある四隅を頂点とする正方形の位置に01464SP（01463SKと重複）・01416SP・01462SP・01279SP（01449SKと重複）の4基のピットがある。これらは01216SIの調査段階では確定的にはならず、下層の01420SIの調査時に掘り方まで掘り下げた時点で明確になったものである。しかしその位置関係から01216SIでも引き続き使用された可能性は高く、これらを01216SIの柱穴と考える。

01420SIは、01216SIの床面下の掘り方を検出する際に明らかになった。その規模は01216SIとほぼ重なる同じもので、北東辺で01216SIの方が約0.5m外側へ張り出した関係にある。また西隅でもやや歪な張り出しがあり両者の形態は全く同一とはなっていない。01420SIは幅広周溝状の掘り方を伴っていることから、その外周から建物規模を想定することができる。それによれば北東～南西方向に約5.8m、北西～南東方向に約5.9mのほぼ正方形となる。周溝状掘り方の01460SDは幅約1.0mで均一で深さも約0.2mである。これによって囲まれた約3.5m × 3.5mの範囲は、基盤層を削り出した状態の「島」の状態となっており、その四隅で柱穴に相当するピットが確認されていることは先述したとおりである。このことから、幅広周溝状の掘り方を伴う竪穴建物の構築にあたって、4本の柱の位置がきわめて重要で、それを決めたうえでそこから外周までの距離を定めて最終的な竪穴部の規模を確定したものと考えられる。逆に壁面側から掘削を開始して内側に進んでから柱位置を出すと、掘り方の内辺と柱の位置にずれが生じてしまうと思われる。01216SI・01420SIの出土遺物は埋め戻しに入った小片が主体である。したがって直接的にその機能時期を特定できる遺物を見出すのは困難である。また柱穴01279SP出土の須恵器甕口縁部（3680）や掘り方01460SD出土の杯身（3693）も含めると6世紀中葉以前のものが主体となる。しかし埋土中には7世紀前半まで時期が下る杯身（1587）や01420SIにおいてもH-44号窯式期まで下る高杯脚部（1603）もみられることから、遺物群から下限の時期を策定する必要がある。以上の遺物の時期と01420SIの機能および廃絶と01216SIへの再構築が近いと想定される遺構の状況からみて、これらの機能時期は概ねH-44号窯式期で7世紀初頭と考えられる。

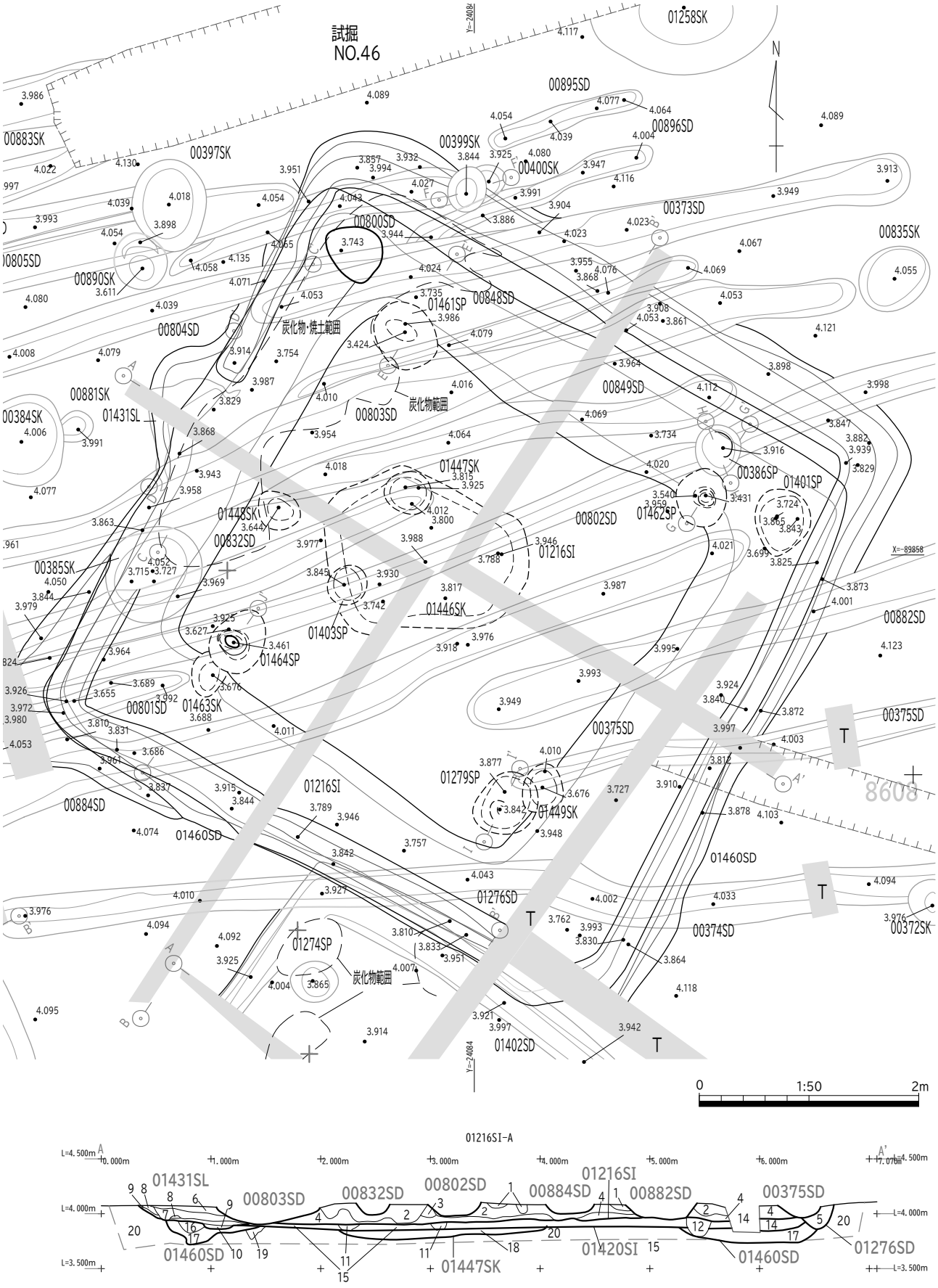
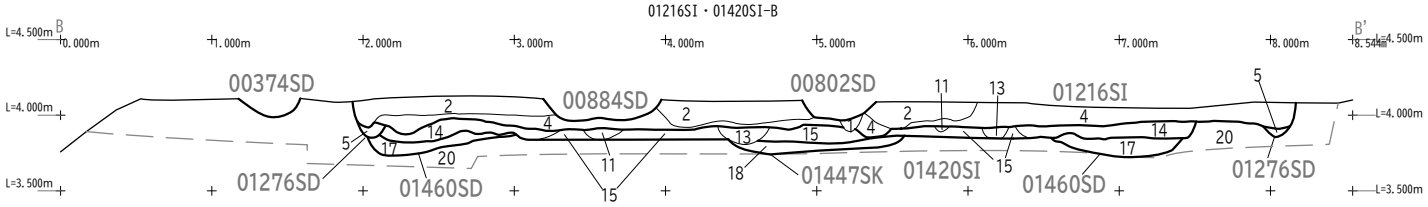
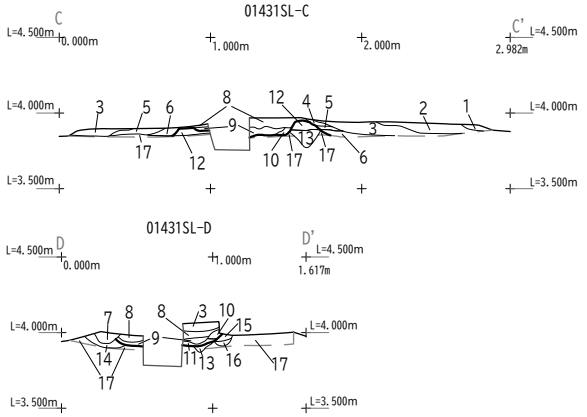


図 170　01216SI・01420SI 遺構図 (1)

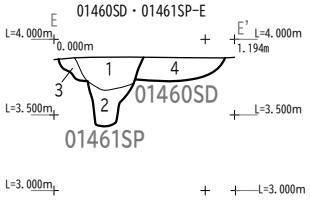


1. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを含む。炭化物を極少量含む。耕作土)
2. 10YR3/2黒褐色粘土質シルトと10YR4/2灰黄褐色極細粒砂の斑土層(炭化物を含む。鉄分沈着顕著。耕作土)
3. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層(10YR3/2黒褐色シルト小ブロックを含む。耕作土)
4. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂大ブロックを多く含む。炭化物を含む。01216SI)
5. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを含む。炭化物を少量含む。鉄分沈着。01276SD)
6. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR7/1灰白色細粒砂ブロックを含む。炭化物を少量含む。鉄分沈着顕著。01431SL)
7. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを少量含む。
炭化物を少量含む。焼土を多量含む。01431SL)
8. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(炭化物・灰を非常に多く含む。焼土を極少量含む。01431SL)
9. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを多く含む。
炭化物を含む。焼土を含む。01431SL)
10. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(被熱により赤褐色に変色。01431SL)
11. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂ブロックを少量含む。01420SI)
12. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層(10YR3/2黒褐色シルト小ブロックを含む。炭化物を極少量含む。
焼土を極少量含む。01216SI床面遺構か)
13. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂ブロックを含む。炭化物を少量含む。01216SI床面遺構か)
14. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを非常に多く含む。
炭化物を少量含む。鉄分少量沈着。01460SDか)
15. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層(10YR3/2黒褐色シルト大ブロックを多く含む。炭化物を含む。01420SI)
16. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層(10YR3/2黒褐色シルト小ブロックを多く含む。
炭化物を極少量含む。鉄分少量沈着。01460SD)
17. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層(10YR3/2黒褐色シルトブロックを多く含む。炭化物を極少量含む。01460SD)
18. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層(10YR3/2黒褐色シルト小ブロックを含む。01447SK)
19. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層(10YR3/2黒褐色シルト小ブロックを少量含む)
20. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層(鉄分少量沈着。3面地山)

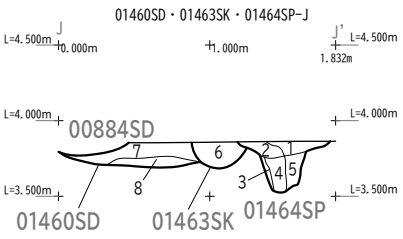
0 1:50 2m



1. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層(10YR3/2黒褐色シルト小ブロックを少量含む)
2. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層(10YR3/2黒褐色シルト小ブロックを含む)
3. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層(10YR3/2黒褐色シルトブロックを多く含む。炭化物を少量含む)
4. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(炭化物を含む。焼土を含む)
5. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(炭化物を含む)
6. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(焼土を多量含む)
7. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを多く含む。炭化物を極少量含む)
8. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(焼土を多量含む)
9. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(炭化物・灰を多く含む)
10. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層(10YR3/2黒褐色シルトブロックを含む。炭化物を極少量含む)
11. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(被熱により5YR3/6暗赤褐色に変色)
12. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを少量含む。炭化物を極少量含む)
13. 10YR4/2灰黄褐色粘土質シルト層(10YR3/2黒褐色シルト大ブロックを多く含む)
14. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層(10YR3/2黒褐色シルトブロックを多く含む)
15. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを含む。炭化物を極少量含む)
16. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層(10YR3/2黒褐色シルト小ブロックを多く含む)
17. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層(地山)



1. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層(10YR3/2黒褐色シルトブロックを非常に多く含む。
炭化物を含む。焼土を少量含む。柱痕。01461SP)
2. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層(10YR3/2黒褐色シルト小ブロックを含む。柱痕。01461SP)
3. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層(10YR3/2黒褐色シルト小ブロックを少量含む。掘り方。01461SP)
4. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層(10YR3/2黒褐色シルト大ブロックを少量含む。01460SD)
3. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層(10YR3/2黒褐色シルト小ブロックを少量含む。掘り方。01461SP)
4. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層(10YR3/2黒褐色シルト大ブロックを少量含む。01460SD)



1. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂ブロックを多く含む。
炭化物を少量含む。01464SP)
2. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂ブロックを含む。
炭化物を極少量含む。01464SP)
3. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂ブロックを少量含む。01464SP)
4. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂大ブロックを含む。01464SP)
5. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂ブロックを含む。01464SP)
6. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層(10YR3/2黒褐色シルト小ブロックを含む。01463SK)
7. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層(10YR3/2黒褐色シルト大ブロックを少量含む。01460SD)

図 171 01216SI・01420SI 遺構図 (2)

01216SI などと重複する小溝群　01216SI の項で述べたように、それと重複するかたちで概ね東西方向に延びる互いに並行関係にある小溝群がある。この小溝群はまず検 2 面で確認され（00373SD ～ 00375SD など）、その重複の度合いが多いため、それらを調査後に段下げしたうえで再度遺構検出を行ったところさらに多くの小溝群の存在を確認した（00802SD ～の 00800 番台の SD）。トレンチで断割り調査をしたところ小溝群の間にもさらに小溝が検出されると見込まれ（図 171、B-B’の 2 層）、この状況から小溝群が耕作にともなう畝溝の可能性があると判断した。したがって図化したもの（図 173・174）はその状況の一端である。

小溝群の分布範囲は、東端がグリッド 8407 や 8507 の西半部から始まる一方、西はグリッド 8509・8609 まで濃密な範囲（約 600 ㎡）。しかしながらそこで撹乱などで断ち切られていて西端は不明である。そして北端はグリッド 8408 まで濃密だがその先も少しずつ検出されており、最北端はグリッド 8211 である。最南端は

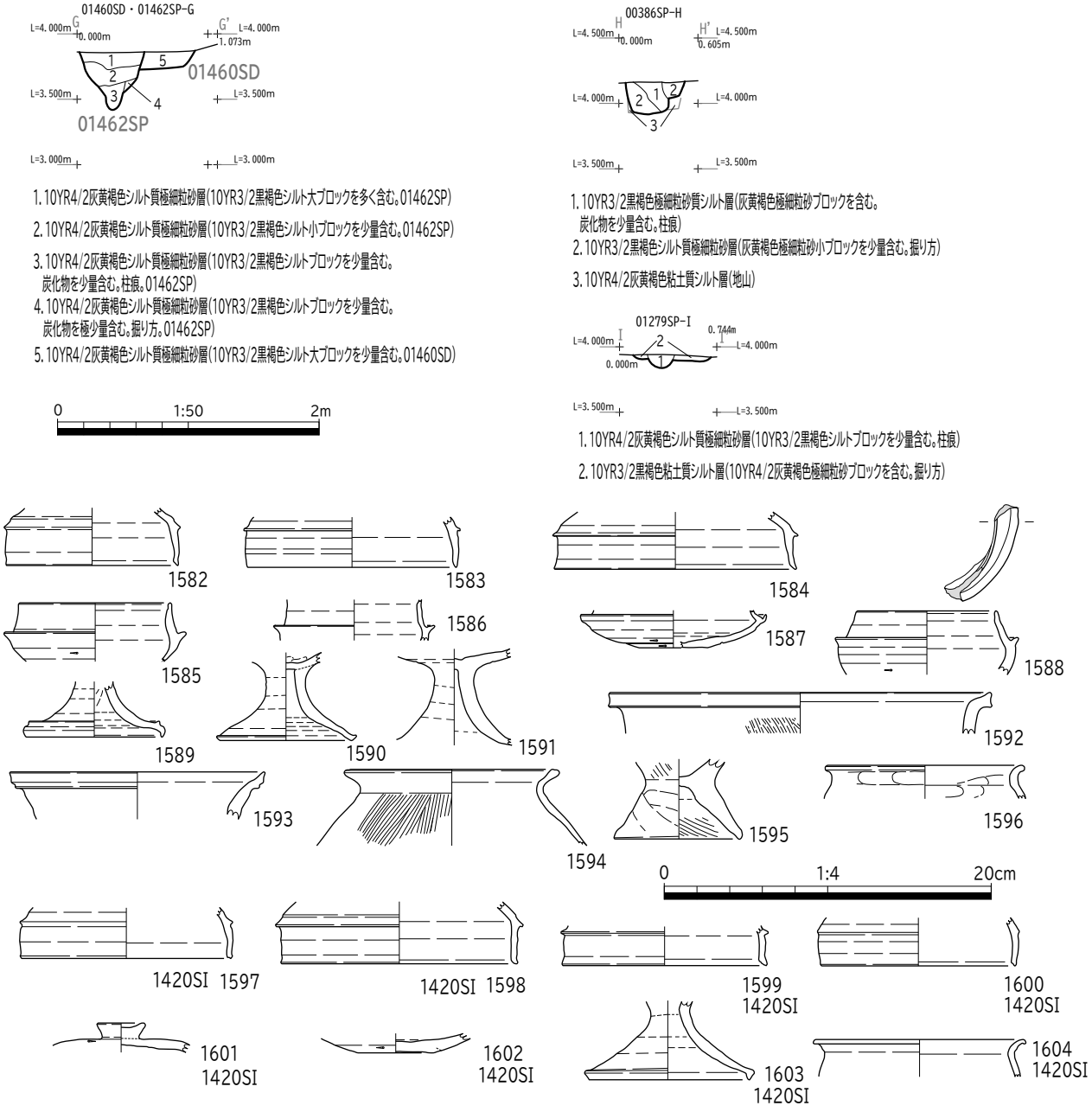


図 172　01216SI・01420SI 出土遺物実測図

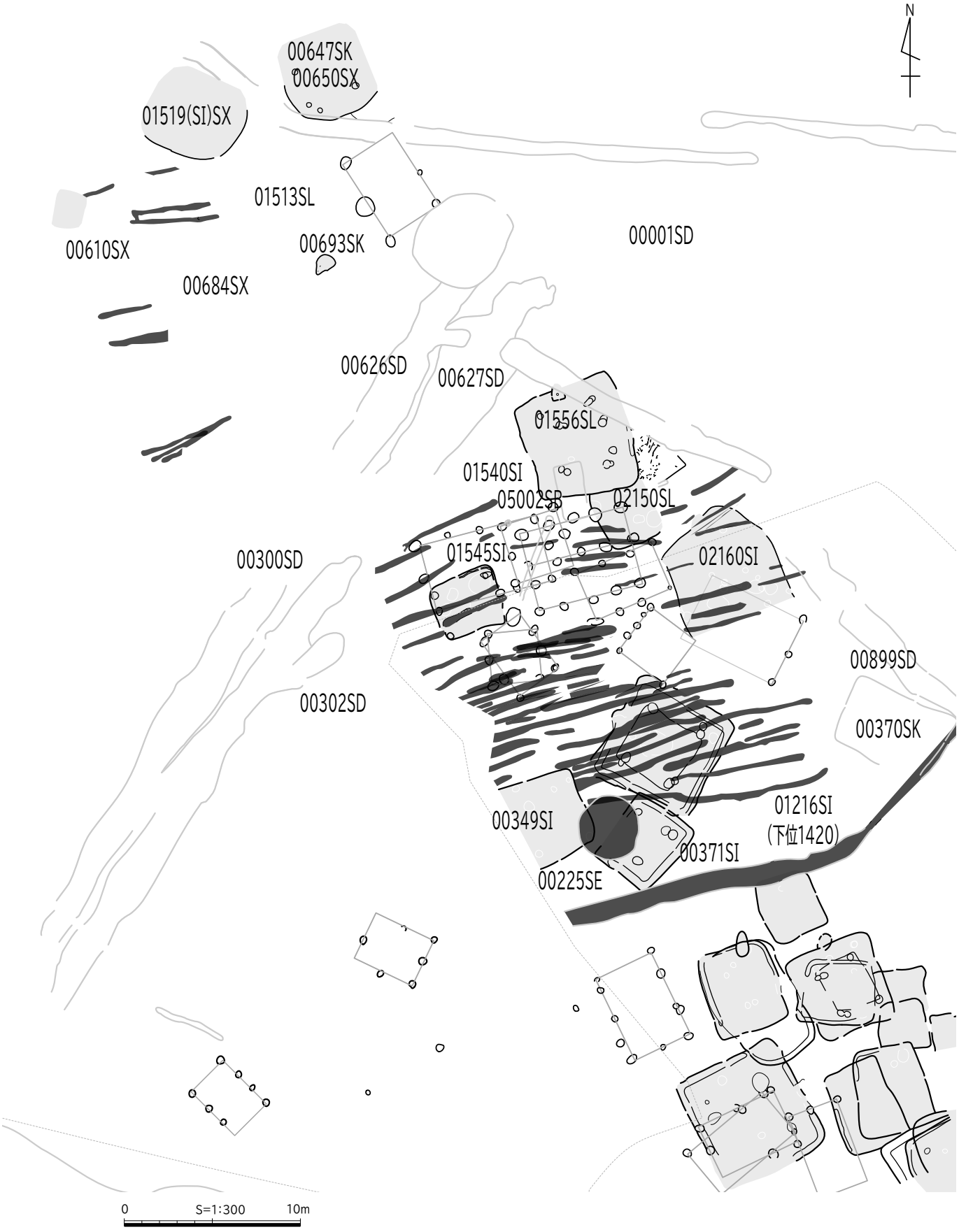


図 173　旧河道左岸の微高地上における小溝群の分布図

01216SI の南隅であるが、さらに南に 00333SD が並行して伸び、そこから南側で検出されていない。このことから 00333SD を耕作地の南限とし東は旧河道近くまで、西と北は微高地頂部の端まで展開していたものと推定される。出土遺物は須恵器・土師器の小片であり、下位の埋没した竪穴建物跡に関わるものであろう。00333SD では大窯期の灯明皿が出土していることから中世後半まで下る可能性もあるが、中世前半の井戸 00225SE との関連も踏まえると中世全般で継続して営まれた痕跡と評価される。

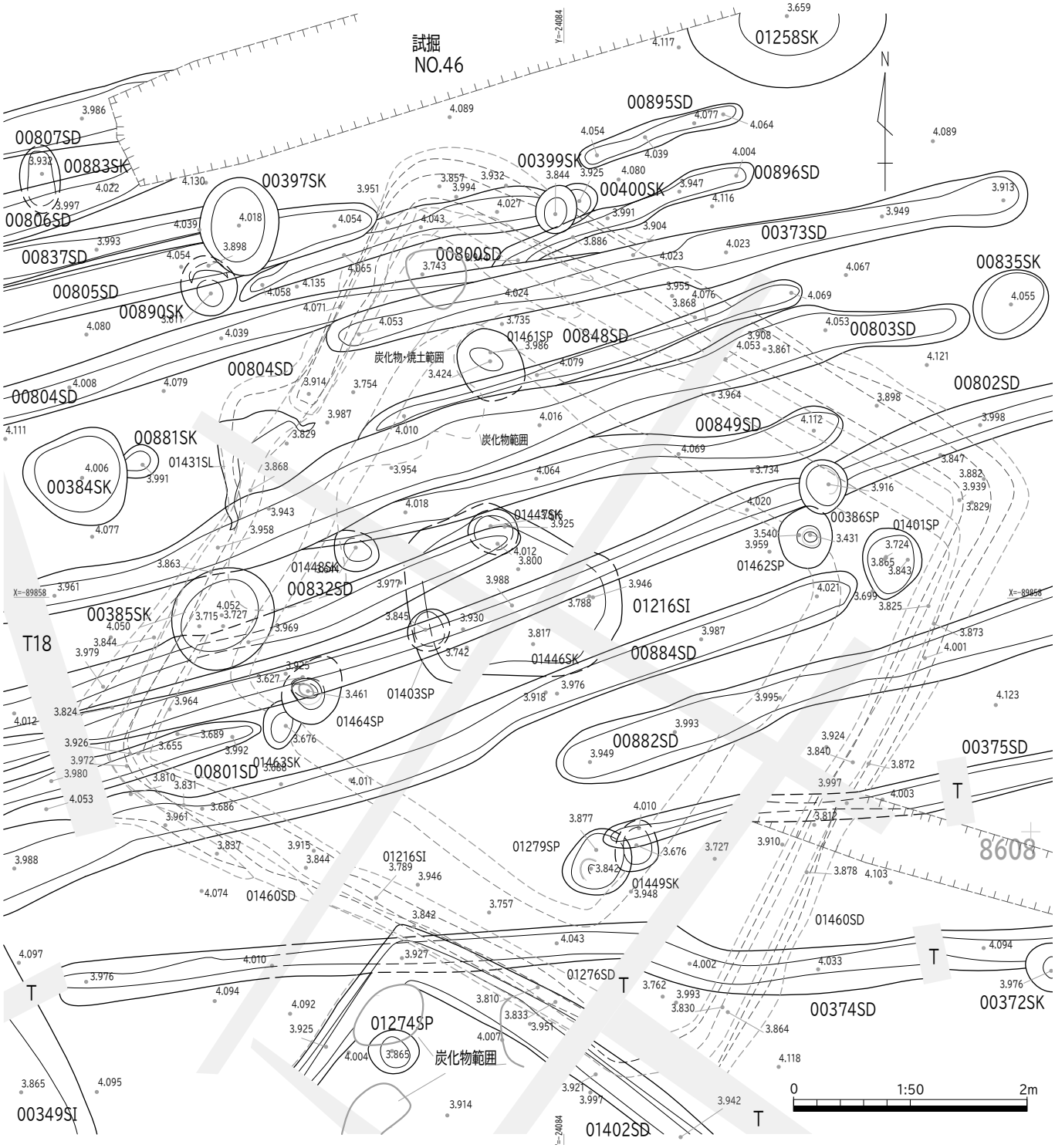


図 174　01216SI・01420SI と重複する小溝群遺構図

01251SI・01274SI 旧河道左岸、調査範囲南西部（21Ba区）に位置する竪穴建物跡である。微高地上に分布する竪穴建物跡群の中では比較的南側である。01251SIは01274SIの北辺付近で重複関係にあるが、01274SIが検出されたのが0125SIの掘削後あったことから両者の先後関係は明らかではない。しかし0125SIの廃絶状況などから、01274SIがそれに切り込む立地をとることは考えにくく、01251SIの方が新しいと仮定する。両者は主軸方位が同じで、01251SIの西辺を軸にするとグリッド北に対して0°で北方位を指向している。この方位の建物は遺跡内では少なく、その点で他の建物と異なっている。

01251SIの平面形は、ほぼ正方形でその規模は長軸約6.4m、短軸6.3m、深さ約0.7mである。平面規模ではやや大型に分類される。カマド（01278SL）は、北辺の中央からやや西側にて壁面から外部に約0.2m突出させて造り付けられている。なお壁面におけるカマド跡の幅は約1.0mあり、形状は土坑状である。土層断面によれば、焼土・炭化物が流れ込むようにして堆積しているので、建物の廃絶時にカマドも解体されてほとんど原形をとどめていないと考えられる。壁溝は、平面的には東辺の一部が検出されたのみであるが、土層断面によれば微細な凹みで確認できることからほぼ全周しているものと思われる。柱穴は、底面の4か所で土坑やピットのまとまりがみられ、そのうち北東隅の一群（01923SK～01925SP）に長軸が0.5m以上で柱痕のある01925SPを含むことから、最重要な柱だったと考えられる。これらの柱穴群はいずれも2基ずつ存在していることから、01251SIは竪穴部の形状変更は行わないで少なくとも1回の再構築を行ったと考えられる。ただし、北西隅の柱の位置がカマド跡01278SKの正面にあることは、火処と柱が接近しておりやや不審であることを付記しておく。

次に土層断面から床面から埋没までの状況をみる（図176、土層断面A-A・B-B'）。先述した壁溝（01920SD）はわずかな凹みで認められ、その上端から01251SIの底面が平らに続いている。この底面は基盤層を掘り込んだままのいわば掘り方であるが、4層にみられる濃密な炭化物の集積をみると、4層の形成時に、それまで機能していた建物が廃絶し、さらに焼失した経過を想定することができる。よって掘り方がそのまま床面であったことが判明する。その上層（2層）も炭化物を多く含有しており4層と同じ過程だがブロック状の土が含まれることから、攪拌や埋め戻しがなされた可能性がある。そして最上層（1層）は炭化物の含有は少なく、2層とは別に用意された土で埋め戻されたものと考えられる。

以上のように、01251SIの廃絶から埋め戻しまでの過程で多量の炭化物が発生する段階があることから、上記したように建物の焼失（失火・自焼）を経ていることが注目される。焼失の痕跡は床面近くにおける炭化材の出土分布からもうかがうことができる（図178）。炭化材は層位的には2・4層に相当し、その形状が把握できるものは比較的竪穴部の周縁近くでみられる。一部で極端に折り重なるような状態ではないことから、屋根ないしは壁の材が片付けられることなく機能時に近い状態で燃焼した可能性がある。炭化材は幅5～10cmの棒状で、見かけでは角棒（板）状であった。その輪郭が視認できるものを選んで計測した。発掘調査ではこれらの取り上げも試みたが芯材が残らないレベルまで焼けており、サンプルを採取して樹種同定と放射性炭素年代測定を行った。その結果（測定番号PLD-57215）、樹種はシイ属と同定され、2δ暦年代較正で594-651 cal AD（95.45%）という数値年代を得た。概ね7世紀前半である。もちろんこれは焼失年代ではなく建築部材が取得された年代を示しているが、竪穴建物の場合、両者があまりかけ離れることはないと考えられる。

遺物は、完形品を含む須恵器が多く出土している。須恵器は甕や鍋などの大型の器種は少なく、杯蓋・杯身・高杯・台付鉢・広口壺が主体となっている。杯蓋（1605～1611）は屈曲箇所の稜線が省略傾向、杯身（1612～1619）は口縁部は全体的に内傾するがその端部は真上へ曲げるものとそのまま斜めに内傾させるものとがほぼ同数である。これらの口径は8.0～11.0cmの範囲に収まり、平均すると9.8cmで、小口径化が進んだ時期のものである。1610は一部を歪ませた形状で内面に釉着がある。I-101号窯式期。1617も歪みがあり楕円形に近い。さらに口縁部の端部を敲打して細かい破面ができている。釉着を削ぎ取ろうとしたものか。1618も破片だが隅丸方形に近い。1619は底部外面に刻書がある。高杯の杯部（1620～1624）は全て無蓋で椀形である。1625は口縁が内傾する鋺（かなまり）形で金属製品を模したものだろう。1626～1629は鉢形でいずれも台（脚）がつく台付鉢。広口壺は1639が一回り大型で口縁部に凸帯が

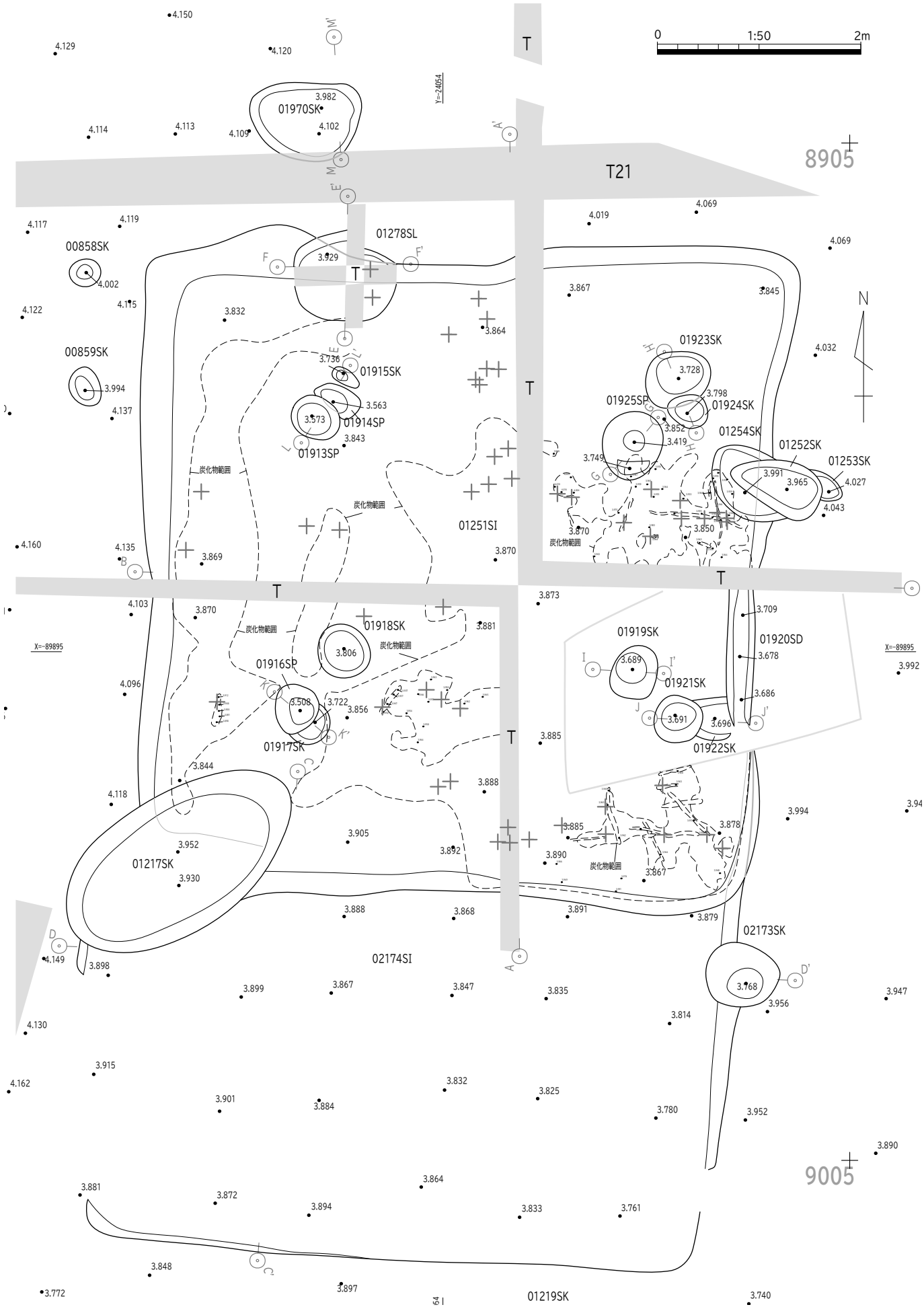
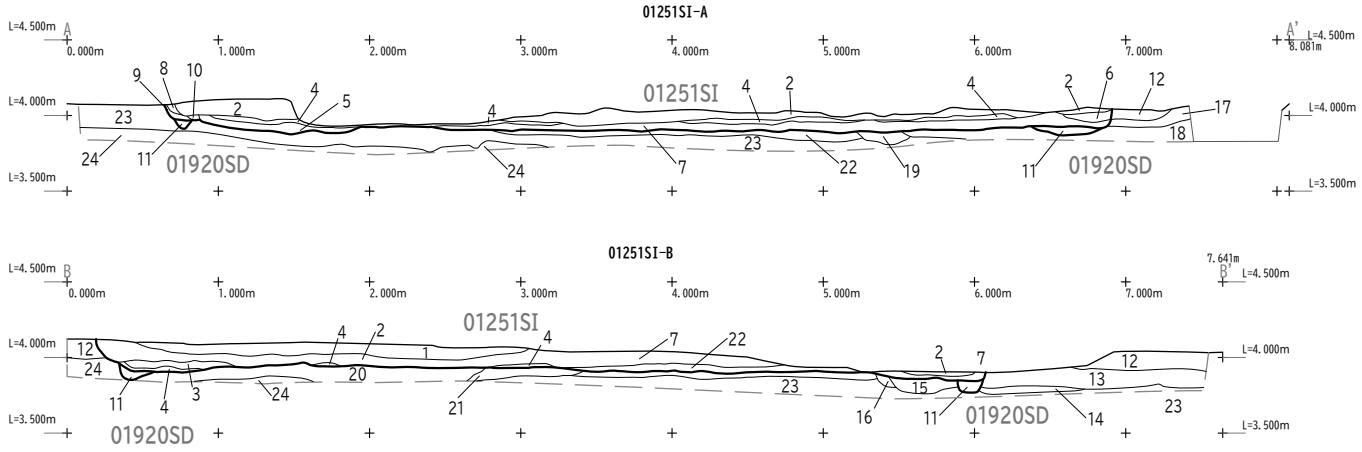
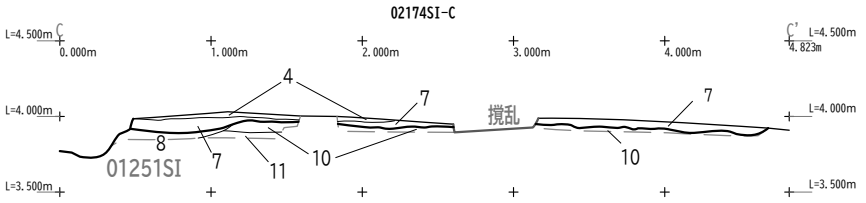
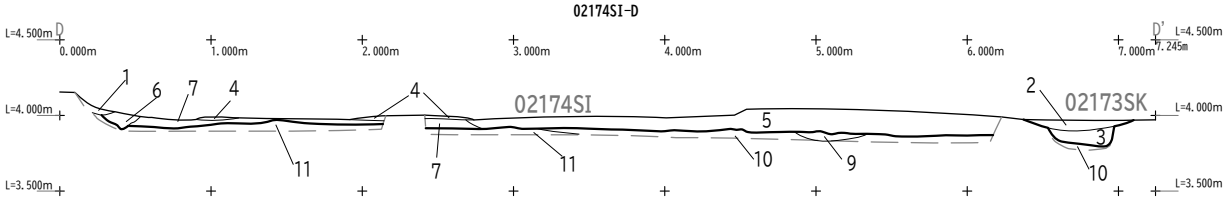


図 175　01251SI・01274SI 遺構図 (1)



1. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂ブロックを少量含む。炭化物を極少量含む。鉄分少量沈着。01251SI)
2. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂ブロックを含む。炭化物を含む。01251SI)
3. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(炭化物を含む。01251SI)
4. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(炭化物を非常に多く含む。01251SI焼失面)
5. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(炭化物を多く含む。焼土を少量含む。02174SIカマドか)
6. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを少量含み、灰白色細粒砂小ブロックを少量含む。鉄分沈着。01251SI)
7. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを少量含む。炭化物を少量含む。01251SI)
8. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR7/1灰白色細粒砂小ブロックを少量含む。鉄分沈着顕著。02174SIカマドか)
9. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR7/1灰白色細粒砂ブロックを含む。炭化物を含む。鉄分沈着。02174SIカマドか)
10. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(炭化物を少量含む。02174SIカマドか)
11. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを少量含む。01920SD)
12. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR7/1灰白色細粒砂小ブロックを少量含む。鉄分沈着。地山)
13. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(地山)
14. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層(地山)
15. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂ブロックを少量含む。炭化物を極少量含む)
16. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを少量含む)
17. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR7/1灰白色細粒砂小ブロックを少量含む。地山)
18. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR7/1灰黄褐色極細粒砂ブロックを含む。鉄分沈着。地山)
19. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを少量含む。炭化物を少量含む)
20. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層(10YR3/2黒褐色シルトブロックを多く含む。炭化物を少量含む)
21. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂ブロックを含む。炭化物を少量含む。鉄分沈着)
22. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(炭化物を極少量含む。鉄分沈着顕著)
23. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層(10YR3/2黒褐色シルトブロックを含む。炭化物を少量含む)
24. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層(鉄分沈着。地山)





1. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを少量含む。鉄分少量沈着)
2. 10YR6/1褐灰色粗粒砂層(10YR3/2黒褐色シルトブロックを含む。炭化物を多く含む。02173SK)
3. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/1褐灰色粗粒砂ブロックを含む。炭化物を少量含む。02173SK)
4. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(炭化物を多く含む。焼土を極少量含む。02174SI)
5. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂ブロックを多く含む。鉄分沈着顕著。02174SI)
6. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層(10YR3/2黒褐色シルトブロックを含む。炭化物を極少量含む。鉄分沈着。02174SI壁溝か)
7. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを少量含む。02174SI掘方)
8. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを少量含む。鉄分少量沈着。02174SIか)
9. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを少量含む。炭化物を極少量含む)
10. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR7/1灰白色細粒砂小ブロックを少量含む。鉄分沈着。地山)
11. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層(鉄分沈着。地山)

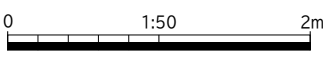
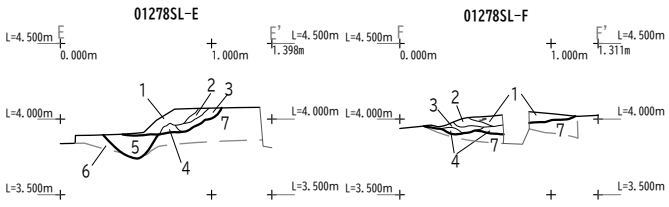
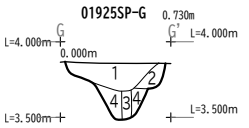


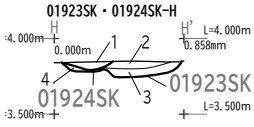
図 176 01251SI・01274SI 遺構図 (2)



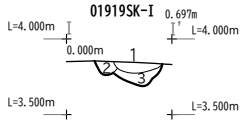
1. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR7/1灰白色細粒砂小ブロックを少量含む。炭化物を含む。焼土を極少量含む。01278SL)
2. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを少量含む。炭化物を少量含む。焼土を多く含む。鉄分沈着。01278SL)
3. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(炭化物を非常に多く含む。焼土を少量含む。01278SL)
4. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(炭化物を含む。鉄分沈着。01278SL)
5. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂ブロックを含む。炭化物を含む。焼土を含む。鉄分沈着。02265SD)
6. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂ブロックを含む。炭化物を極少量含む。鉄分沈着。01251SI)
7. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(鉄分沈着。地山)



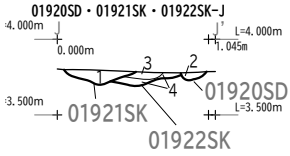
1. 7.5YR4/1褐灰色シルト質極細粒砂層(10YR7/1灰白色極細粒砂ブロックを含み、10YR4/2灰黄褐色極細粒砂直径3cmのブロックを少量含む。炭化物塊を含む)
2. 7.5YR4/1褐灰色シルト質極細粒砂層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを多く含む。炭化物を極少量含む)
3. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層(7.5YR4/1褐灰色極細粒砂ブロックを含む。柱痕)
4. 7.5YR4/1褐灰色シルト質極細粒砂層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂ブロックを少量含む。炭化物を極少量含む。柱掘方)



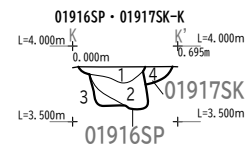
1. 7.5YR4/1褐灰色シルト質極細粒砂層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを含む。炭化物を含む。01923SK)
2. 7.5YR4/1褐灰色シルト質極細粒砂層(炭化物を非常に多く含む。焼土を少量含む。01924SK)
3. 7.5YR4/1褐灰色シルト質極細粒砂層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを少量含む。炭化物・焼土を極少量含む。01924SK)
4. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層



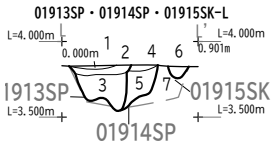
1. 7.5YR4/1褐灰色シルト質極細粒砂層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂ブロックを含む)
2. 7.5YR4/1褐灰色シルト質極細粒砂層
3. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層(7.5YR4/1褐灰色極細粒砂ブロックを含む。炭化物を極少量含む)



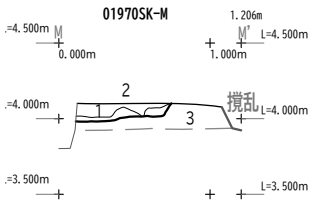
1. 7.5YR4/1褐灰色シルト質極細粒砂層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂大ブロックを多く含む。01921SK)
2. 7.5YR4/1褐灰色シルト質極細粒砂層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂ブロックを少量含む。01920SD)
3. 7.5YR4/1褐灰色シルト質極細粒砂層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを少量含む。01922SK)
4. 7.5YR4/1褐灰色シルト質極細粒砂層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂ブロックを含む。01922SK)



1. 7.5YR4/1褐灰色シルト質極細粒砂層(10YR7/1灰白色細粒砂小ブロックを少量含む。炭化物塊を少量含む。鉄分沈着顕著。01916SP)
2. 7.5YR4/1褐灰色シルト質極細粒砂層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂ブロックを少量含む。炭化物を多く含む。01916SP)
3. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層(7.5YR4/1褐灰色極細粒砂ブロックを含む。01916SP)
4. 7.5YR4/1褐灰色シルト質極細粒砂層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを含む。炭化物を少量含む。01917SK)



1. 7.5YR4/1褐灰色シルト質極細粒砂層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを少量含む。炭化物を含む。鉄分少量沈着。01913SP)
2. 7.5YR4/1褐灰色シルト質極細粒砂層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを少量含む。炭化物を少量含む。鉄分沈着顕著。01913SP)
3. 7.5YR4/1褐灰色シルト質極細粒砂層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを少量含む。炭化物を非常に多く含む。01913SP)
4. 7.5YR4/1褐灰色シルト質極細粒砂層(炭化物を極少量含む。鉄分沈着顕著。01914SP)
5. 7.5YR4/1褐灰色シルト質極細粒砂層(10YR7/1灰白色細粒砂小ブロックを少量含む。炭化物を極少量含む。01914SP)
6. 7.5YR4/1褐灰色シルト質極細粒砂層(10YR7/1灰白色細粒砂小ブロックを少量含む。01915SK)
7. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層(地山)



1. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(炭化物を少量含む。焼土を多量含む)
2. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(炭化物を多く含む。焼土を少量含む)
3. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(鉄分沈着顕著。地山)

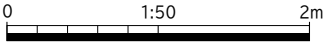


図 177　01251SI・01274SI 関連（01278SL・01913SP・01914SP・01915SK・01916SP・01917SK・01919SK・01920SD・01921SK・01922SK・01923SK・01924SK・01925SP）遺構図

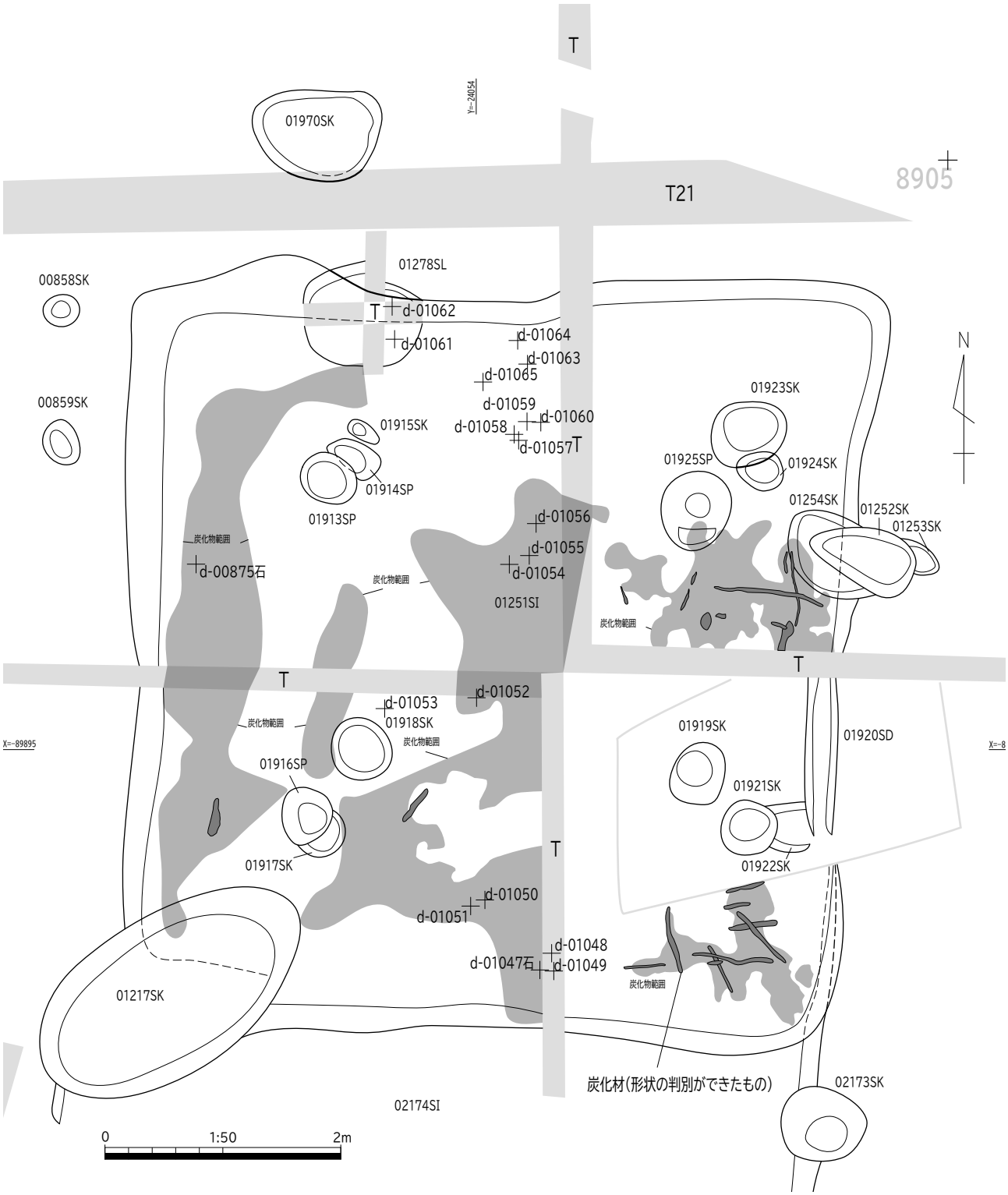


図 178　01251SI 遺物出土分布図

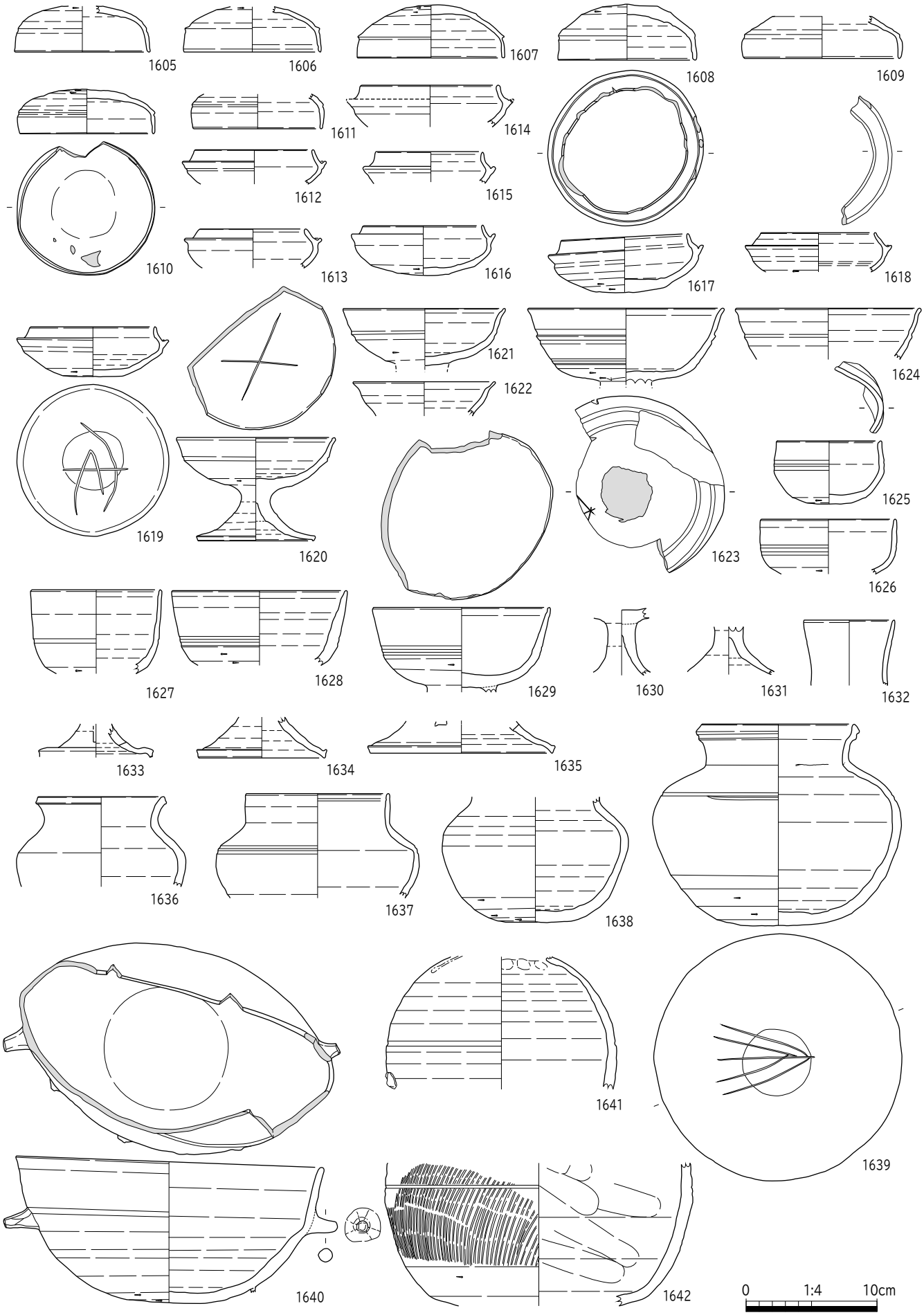


図 179　01251SI 出土遺物実測図

ある。その底部外面には松葉のような形の刻書がある。1640 は耳（把手）が付く鉢である。器種そのものも希少だが、上方からみるとラグビーボール形に歪ませてある点が特異である。特に口縁部を外側から押さえつけて袋状に閉じたような形に変形させてある。結果的に 2 方向に片口が生じているが、耳の位置とは微妙にずれている。さらに内面は底部を中心に濃い釉が掛かっている。1643 は鍋、1644 は横瓶である。以下は土師器で、1645 は下半部に丸みのある甑。外面全面に縦方向のハケ目調整痕がみえる。1646 はその底部の可能性がある破片。1648 ～ 1652 は小型甕や長胴甕の口縁部で摘み上げ口縁が主体である。1653 は若干外傾する直線的な口縁部のある鍋。S19 は平らな底面のある丸玉で破砕したごく一部である。表面は黒色で磨かれて光沢が生じている。石材は滑石。S-20 は灰白色の砥石で石材は凝灰岩、1,232g。以上の出土地点の分布をみると（図 177、取り上げ番号は遺物一覧を参照）、南辺近くと北辺近くの 2 か所に集中がみられる。

以上の遺物の年代観などから、7 世紀前半に機能していた 01251SI が同半ば頃に廃絶したと考えられる。

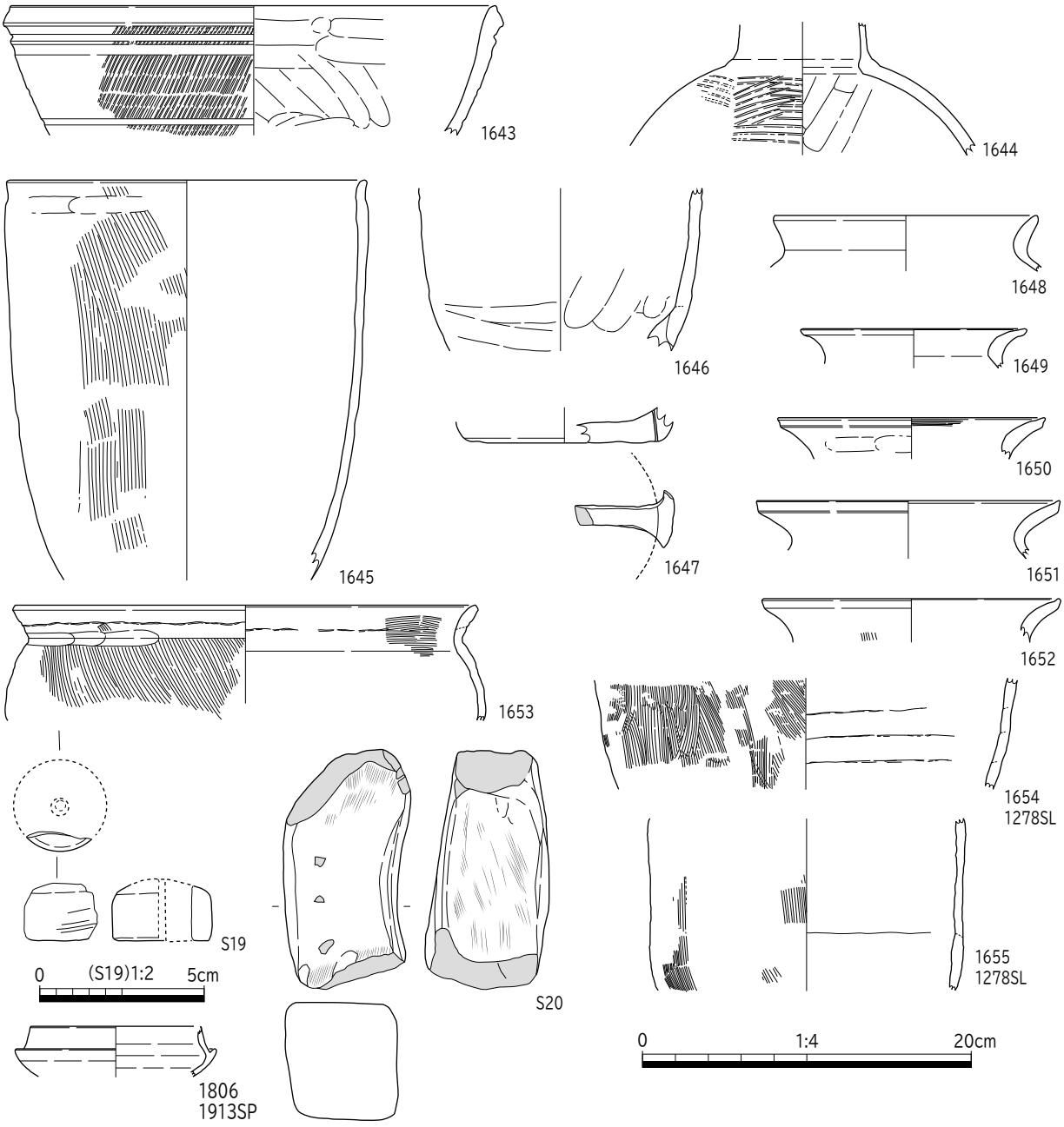


図 180 01251SI・01278SL 出土遺物実測図

01540SI　旧河道左岸、調査範囲中央部（21Ca 区）に位置する竪穴建物跡である。旧河道左岸の微高地の稜線は調査範囲南端から北西方向へ連なり、21Ba 区と 21Ca 区の境付近で頂部となる。この頂部には 01216SI（01420SI）のようなやや大型に分類される竪穴建物跡が所在している。01540SI は 01216SI から北へ約 15m の距離に位置する。その間には竪穴建物跡は分布せず、01540SI の東側には古墳時代中期の竪穴建物跡（02150SI・02160SI）、南西側には並行する時期にある 01545SI が存在する。特に後者は 01540SI と同時存在していたとみられる。また、掘立柱建物跡が分布していることが注目される。そして 01540SI からさらに北側には、古墳時代中期までさかのぼる竪穴状遺構（00650SX など）など数基が分布するのみで、古墳時代後期～古代に属する建物は分布していない。このことから 01540SI の立地の特徴として、①建物の周囲に空間地があって掘立柱建物が構築されることもある点、②当該期における集落の北限の 2 点が指摘される。

01540SI の平面形は、南辺と北辺が平行関係にないためやや歪な方形である。その規模は、長軸約 6.0m、短軸約 6.0m、深さ約 0.2m である。歪な形状は 2 時期の竪穴建物跡が重複しているためと考えられ、01540SI として確認された遺構平面の北半部は、主軸の方位がグリッド北から西へ 22° 振れているのに対し、南半部ではグリッド北から西へ 9° 振れている。

カマド（01556SL）は北辺のほぼ中央に位置し、外側に約 0.3m 突出して造り付けられている。その一方で内側へも約 0.6m 突出し、全体として土坑状の凹みとして検出された。その中央に、土師器の小型甕（1712）が正位で置かれた状態で出土している。土坑状の凹みの周囲で基部の残存などは確認できなかったことから、カマドは徹底的に解体されており、いわゆる「カマド封じ」の行事として甕を据え置いたものと考えられる。

壁溝は東辺の一部で確認されている。それ以外では土

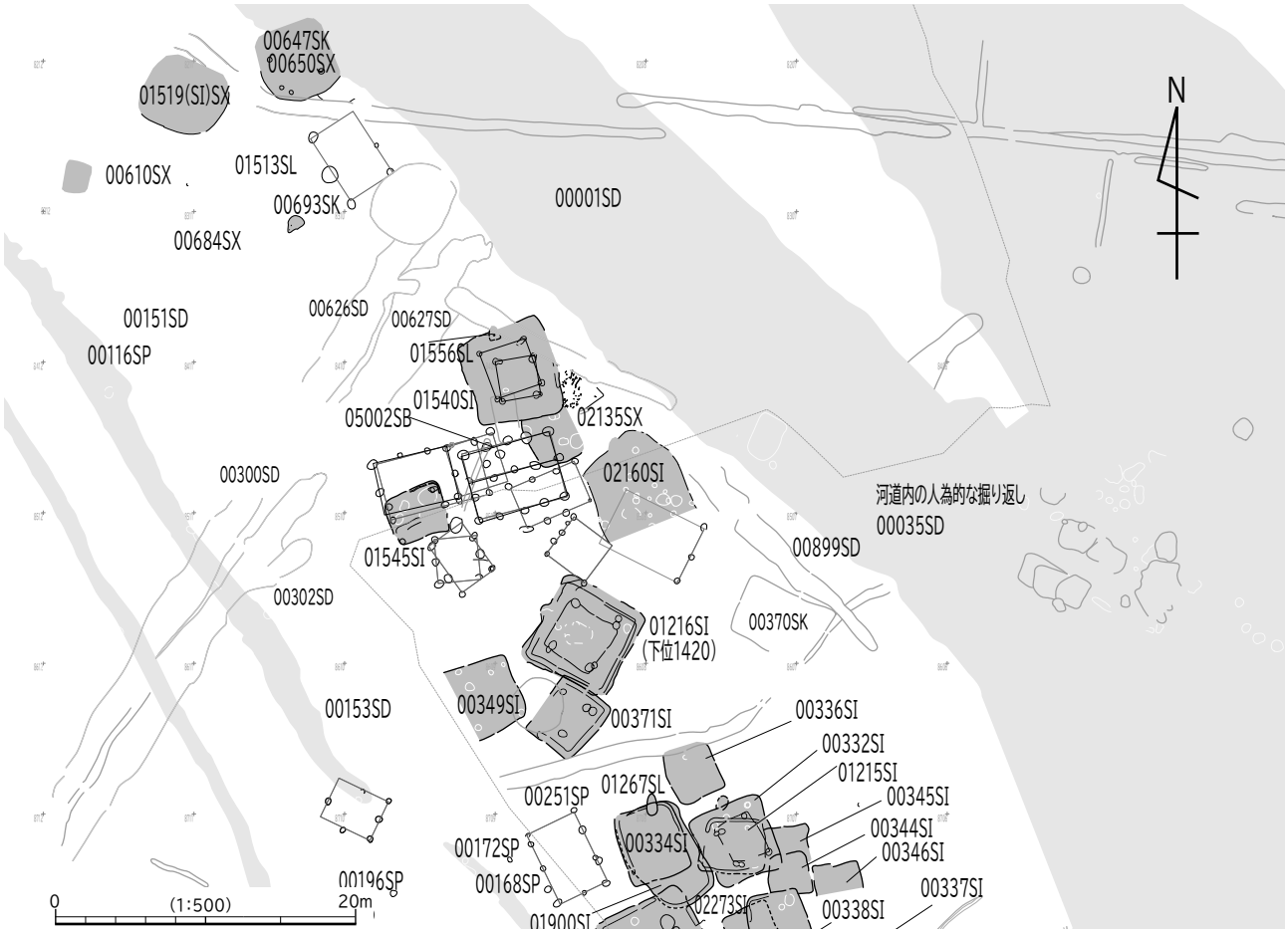


図 181　旧河道左岸の古墳時代後期～古代の建物跡分布図（4）

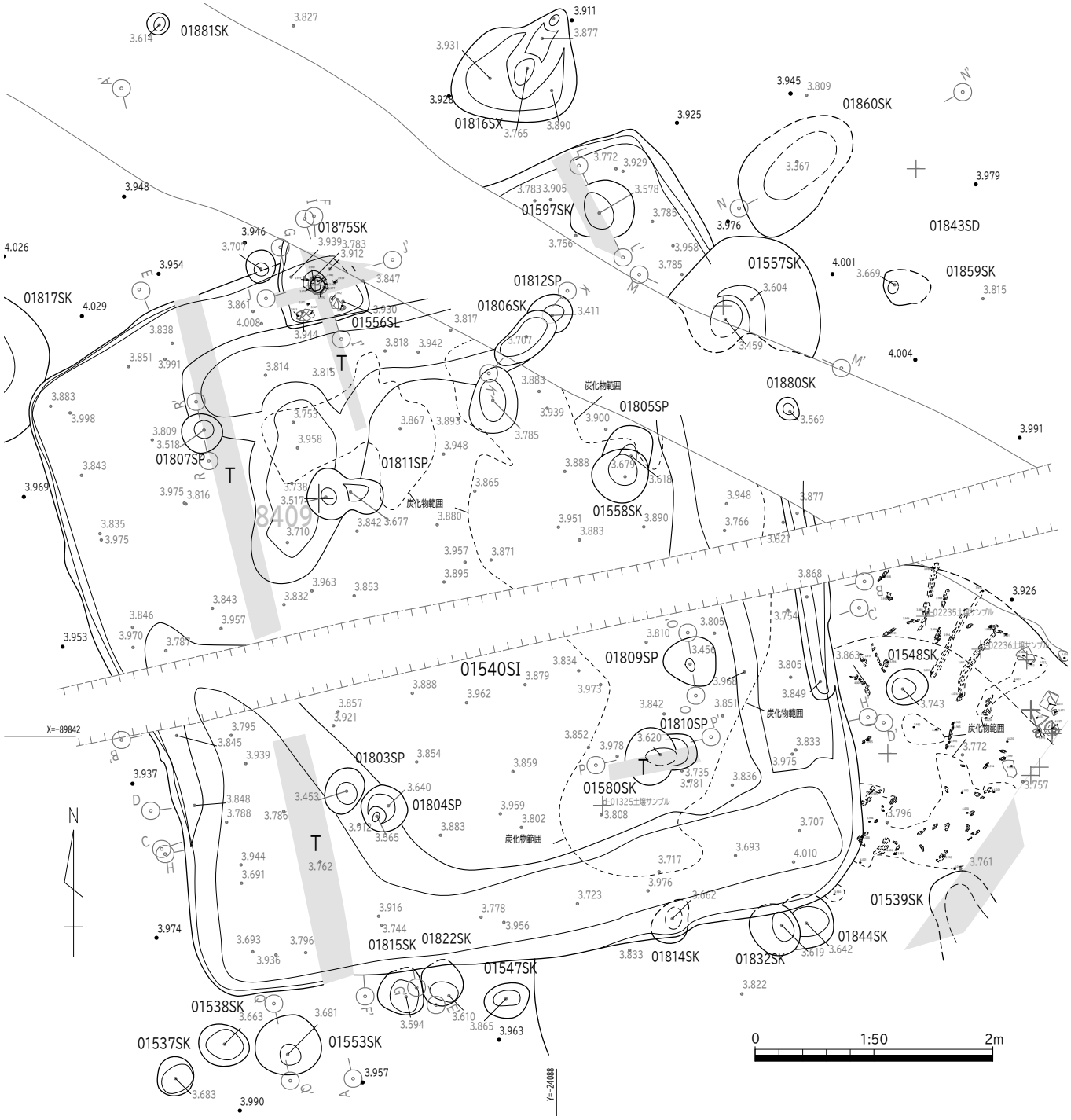
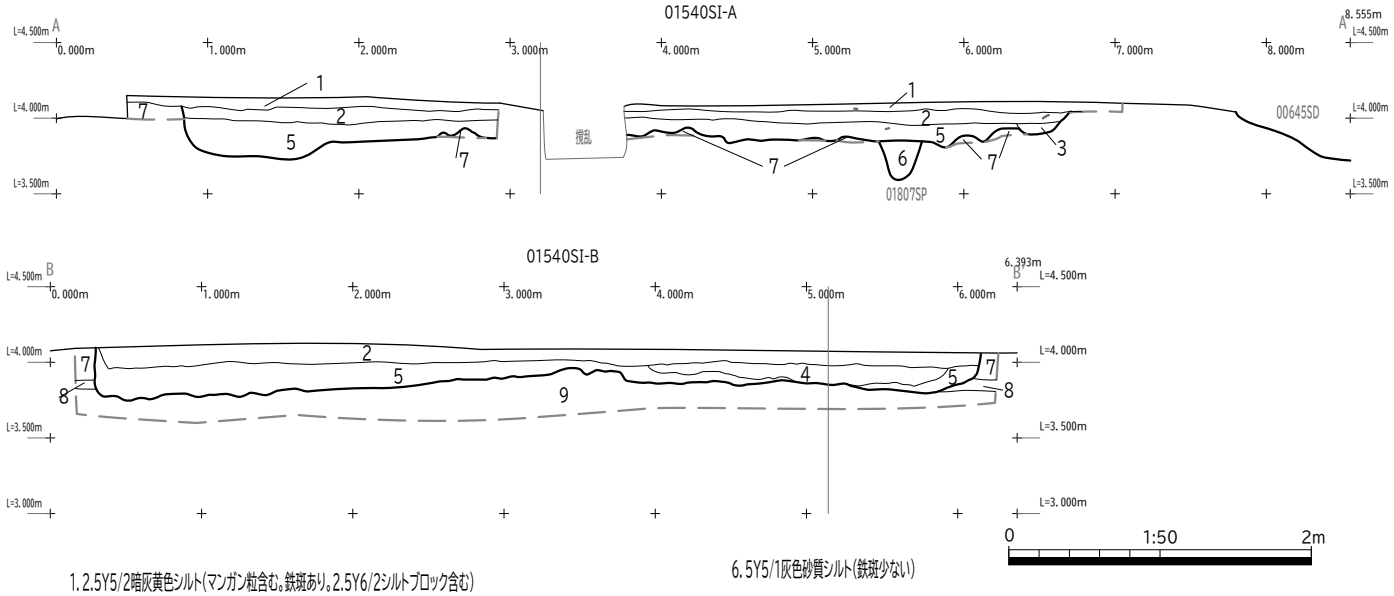
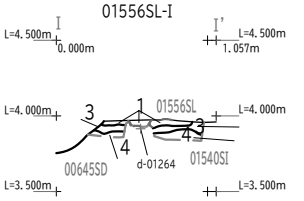


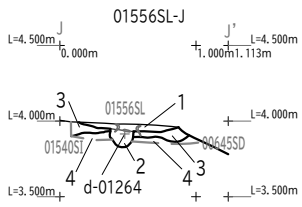
図 182 01540SI 遺構図 (1)

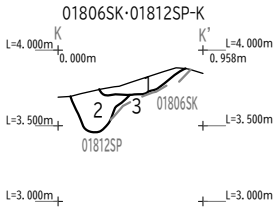


1. 2.5Y5/2暗灰黄色シルト(マンガン粒含む。鉄斑あり。2.5Y6/2シルトブロック含む)
2. 10YR5/2灰黄褐色粘土質シルトと2.5Y7/2灰黄色シルトの混層(マンガン粒含む。鉄斑あり。炭化物少し含む)
3. 2.5Y4/2暗灰黄色シルト(マンガン粒含む。鉄斑少ない。炭化物少し含む)
4. 2.5Y3/1黒褐色粘土質シルト(マンガン粒含む。鉄斑あり。炭化物少し含む。2.5Y6/2シルトブロック含む)
5. 5Y4/2灰オリーブ色シルトと2.5Y7/2灰黄色シルトの混層(マンガン粒含む。鉄斑あり。炭化物わずかに含む。掘方埋土)
6. 5Y5/1灰色砂質シルト(鉄斑少ない)
7. 2.5Y6/2灰黄色シルト(マンガン粒含む。鉄斑あり。炭化物少し含む。古墳時代中期以前の包含層)
8. 5Y4/2灰オリーブ色シルト(鉄斑少ない。古墳時代中期以前の包含層)
9. 5Y6/2灰オリーブ色砂質シルト(マンガン粒少し含む。鉄斑あり。古墳時代中期以前の包含層)

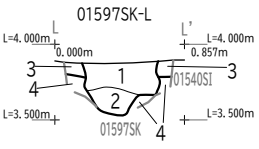


1. 炭化物と灰の互層(焼土粒多く含む。01556SL)
2. 2.5Y5/1黄灰色シルトと2.5Y7/2灰黄色シルトの混層(マンガン粒含む。鉄斑あり。炭化物含む。01556SL)
3. 5Y4/2灰オリーブ色シルトと2.5Y7/2灰黄色シルトの混層(マンガン粒含む。鉄斑あり。炭化物わずかに含む。01540SI掘方)
4. 2.5Y7/3灰黄色粘土質シルト(マンガン粒含む。鉄斑あり。包含層)



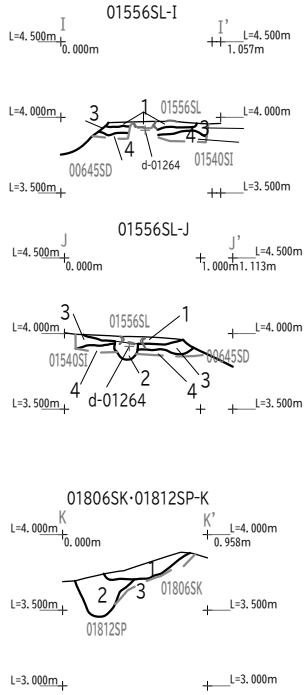


1. 2.5Y5/3黄褐色シルトと2.5Y6/2灰黄色シルトの混層(マンガン粒含む。鉄斑あり。2.5Y3/1黒褐色粘土質シルトブロック少し含む。01806SK)
2. 5Y5/2灰オリーブ色砂質シルトと2.5Y6/2灰黄色シルトの混層(マンガン粒少し含む。鉄斑あり。01812SP)
3. 2.5Y6/2灰黄色シルト(マンガン粒含む。鉄斑あり。包含層)



1. 2.5Y3/1黒褐色粘土質シルトと2.5Y6/2灰黄色シルトの混層(マンガン粒含む。鉄斑あり。炭化物少し含む)
2. 2.5Y4/2暗灰黄色シルトと2.5Y6/2灰黄色シルトの混層(鉄斑少ない)
3. 5Y4/2灰オリーブ色シルトと2.5Y7/2灰黄色シルトの混層(マンガン粒含む。鉄斑あり。炭化物わずかに含む。01540SI掘方)
4. 2.5Y6/2灰黄色シルト(マンガン粒少し含む。鉄斑少ない。古墳時代包含層)

図 183　01540SI・01540SI 関連（01540SI・01556SL・01597SK・01806SK・01817SK）遺構図



1. 炭化物と灰の互層(焼土粒多く含む。01556SL)
2. 2.5Y5/1黄灰色シルトと2.5Y7/2灰黄色シルトの混層(マンガン粒含む。鉄斑あり。炭化物含む。01556SL)
3. 5Y4/2灰オリーブ色シルトと2.5Y7/2灰黄色シルトの混層(マンガン粒含む。鉄斑あり。炭化物わずかに含む。01540SI掘方)
4. 2.5Y7/3灰黄色粘土質シルト(マンガン粒含む。鉄斑あり。包含層)

1. 2.5Y5/3黄褐色シルトと2.5Y6/2灰黄色シルトの混層(マンガン粒含む。鉄斑あり。2.5Y3/1黒褐色粘土質シルトブロック少し含む。01806SK)
2. 5Y5/2灰オリーブ色砂質シルトと2.5Y6/2灰黄色シルトの混層(マンガン粒少し含む。鉄斑あり。01812SP)
3. 2.5Y6/2灰黄色シルト(マンガン粒含む。鉄斑あり。包含層)

1. 2.5Y3/1黒褐色粘土質シルトと2.5Y6/2灰黄色シルトの混層(マンガン粒含む。鉄斑あり。炭化物少し含む)
2. 2.5Y4/2暗灰黄色シルトと2.5Y6/2灰黄色シルトの混層(鉄斑少ない)
3. 5Y4/2灰オリーブ色シルトと2.5Y7/2灰黄色シルトの混層(マンガン粒含む。鉄斑あり。炭化物わずかに含む。01540SI掘方)
4. 2.5Y6/2灰黄色シルト(マンガン粒少し含む。鉄斑少ない。古墳時代包含層)

1. 2.5Y4/2暗灰黄色シルト(マンガン粒含む。鉄斑あり。炭化物わずかに含む。2.5Y7/2灰黄色シルトブロック含む)
2. 5Y4/2灰オリーブ色シルトと2.5Y7/2灰黄色シルトの混層(鉄斑少ない)
3. 炭化物と灰の互層
4. 5Y4/2灰オリーブ色シルトと2.5Y7/2灰黄色シルトの混層(鉄斑少ない)
5. 10YR5/2灰黄褐色粘土質シルトと2.5Y7/2灰黄色シルトの混層(マンガン粒含む。鉄斑あり。炭化物少し含む。01540SI)
6. 5Y4/2灰オリーブ色シルトと2.5Y7/2灰黄色シルトの混層(マンガン粒含む。鉄斑あり。炭化物わずかに含む。01540SI)
7. 2.5Y6/2灰黄色シルト(マンガン粒含む。鉄斑あり。古墳時代包含層)

1. 10YR4/2灰黄褐色粘土質シルト層(2.5Y5/1黄灰色中粒砂~粗粒砂・2.5Y7/2灰黄色細粒砂~中粒砂を斑状に含む。極粗粒砂~細礫少し含む。炭粒わずかに含む。00001NR)
2. 10YR7/2にぶい黄橙色シルト質砂層(局所的に粗粒砂~細粒の中礫。00001NR)
3. 2.5Y4/1黄灰色シルト層(細礫少し含む。00001NR)
4. 2.5Y7/2灰黄色細礫混じる粗粒砂~極粗粒砂層(00001NR)
5. 10YR3/1黒褐色粘土質シルト層(2.5Y5/2暗灰黄色極細粒砂混じるシルト小~中ブロック・2.5Y3/1黒褐色シルト小ブロック含む。炭粒わずかに含む。00001NR)
6. 2.5Y6/2灰黄色シルトと2.5Y5/2暗灰黄色シルトの混層(10YR3/1黒褐色粘土質シルト小ブロック少し含む。炭粒わずかに含む。01860SK)
7. 2.5Y4/2暗灰黄色シルトと2.5Y5/2暗灰黄色シルトと2.5Y6/2灰黄色極細粒砂混じるシルトの混層(2.5Y3/1黒褐色粘土質シルト・2.5Y2/1黒色粘土質シルトの葉層・薄層を含む。炭粒・焼土粒わずかに含む。01860SK)
8. 2.5Y6/2灰黄色極細粒砂混じるシルト中~大ブロック主体(2.5Y5/2暗灰黄色シルト中ブロック含む。炭粒わずかに含む。01860SK)
9. 2.5Y5/2暗灰黄色シルト層(3面目の基盤層)
10. 2.5Y6/2灰黄色極細粒砂混じるシルト層(3面目の基盤層)
11. 2.5Y7/2灰黄色シルト質極細粒~細粒砂層(3面目の基盤層)

図 184　01540SI 関連（01556SL・01557SK・01597SK・01806SK・01812SP・01860SK）遺構図

層断面にも現れることがなく、竪穴部を掘削する際に意識的に壁溝を掘り込むことがなかったものと思われる。その一方で各辺の壁面から 0.8 ～ 1.5m の範囲が不規則ながら溝状に窪んでおり、これは幅広周溝状の掘り方である。しかし、例えば 01216SI のような規則的な形状で掘削されておらず、内辺が柱穴の位置とも関係なく曲がっている点も異なる。この掘り方は、土層断面（図 183）によればシルト主体の混合土（4・5 層）で埋められているが、底面形状が一定していない。その上、凸形に掘り残した基盤層も含めて全て埋められており、基盤層を床面に使わず掘削範囲の土は全て入れ替えるようにして貼床を行っている。

柱穴は、底面で検出された 01803SP・01804SP・01805SP・01807SP・01809SP・01810SP・01811SP・01812SP の各ピットが相当する。柱間間隔から類推すると、まず北西から 01811SP・01805SP（01558SK）・01810SP（01580SK）・01803SP の 4 基が平面形南半部の主軸方位と符合し、次に再び北西から 01807SP・01812SP（01806SK）・01809SP・01804SP の 4 基が平面形北半部の主軸方位に付合する。カマド跡のある北半部北辺の状況が最終状況となることから、それと方位で符合する後者の柱並びが後期の段階で、これに対して前者の柱並びが前期の段階とみることができる。以上 2 時期の結果が当該遺構の形状に表れている。

出土遺物は少なく、須恵器の小片が主体である。杯蓋（1698・1699）、杯身（1700 ～ 1703）は 6 ～ 7 世紀代の幅でばらつきがあることから貼床や埋め戻し時の混入とみられる。高杯も同様で 1708 は H-44 号窯式期以降、1709 は 6 世紀代と時期幅がある。これに対して杯の口縁部（1706）や有台杯の底部（1710・1711）は 7 世紀末から 8 世紀前葉の比較的新しくかつまとまった時期であることから 01540SI の機能～廃絶時期を示しているであろう。さらにカマド跡に置かれた甕の口縁部は、ハケ目調整の後から横方向の指ナデがなされ、外反する口縁の端部は斜め横方向に摘み出されて玉縁状の断面となっている。器壁は薄いことから 7 世紀後半以降に位置づけ

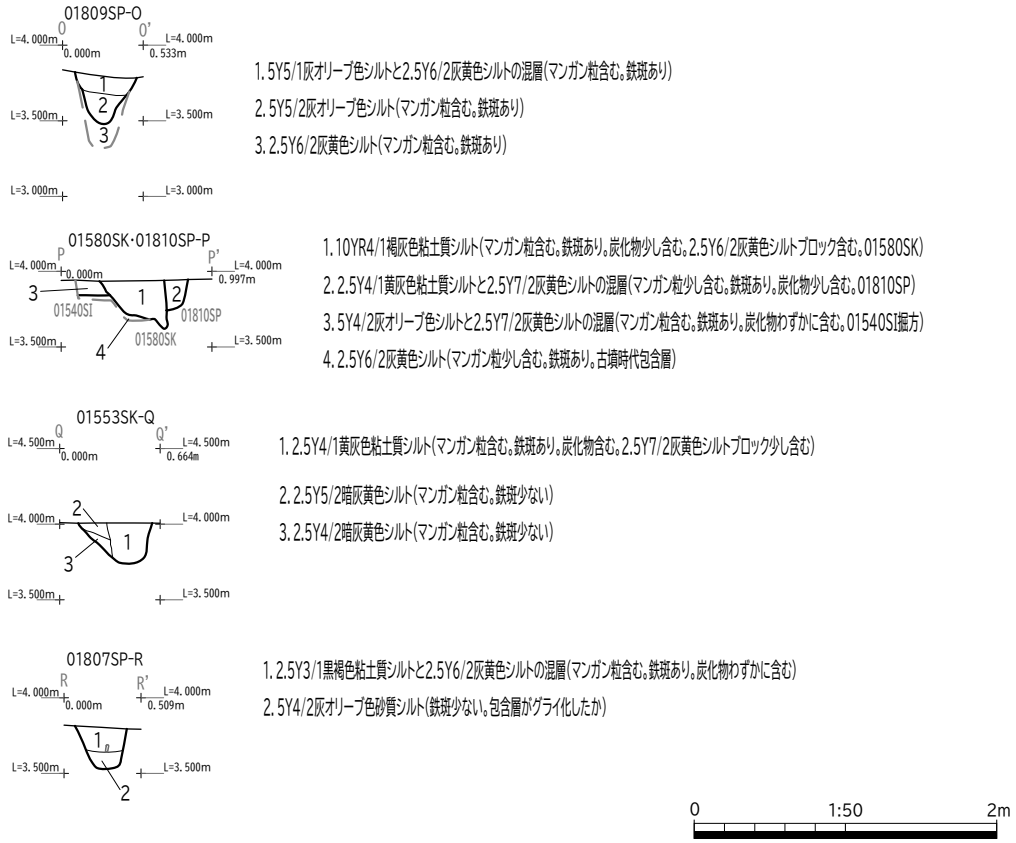


図 185　01540SI 関連（01553SK・01580SK・01807SP・01809SP・01810SP）遺構図

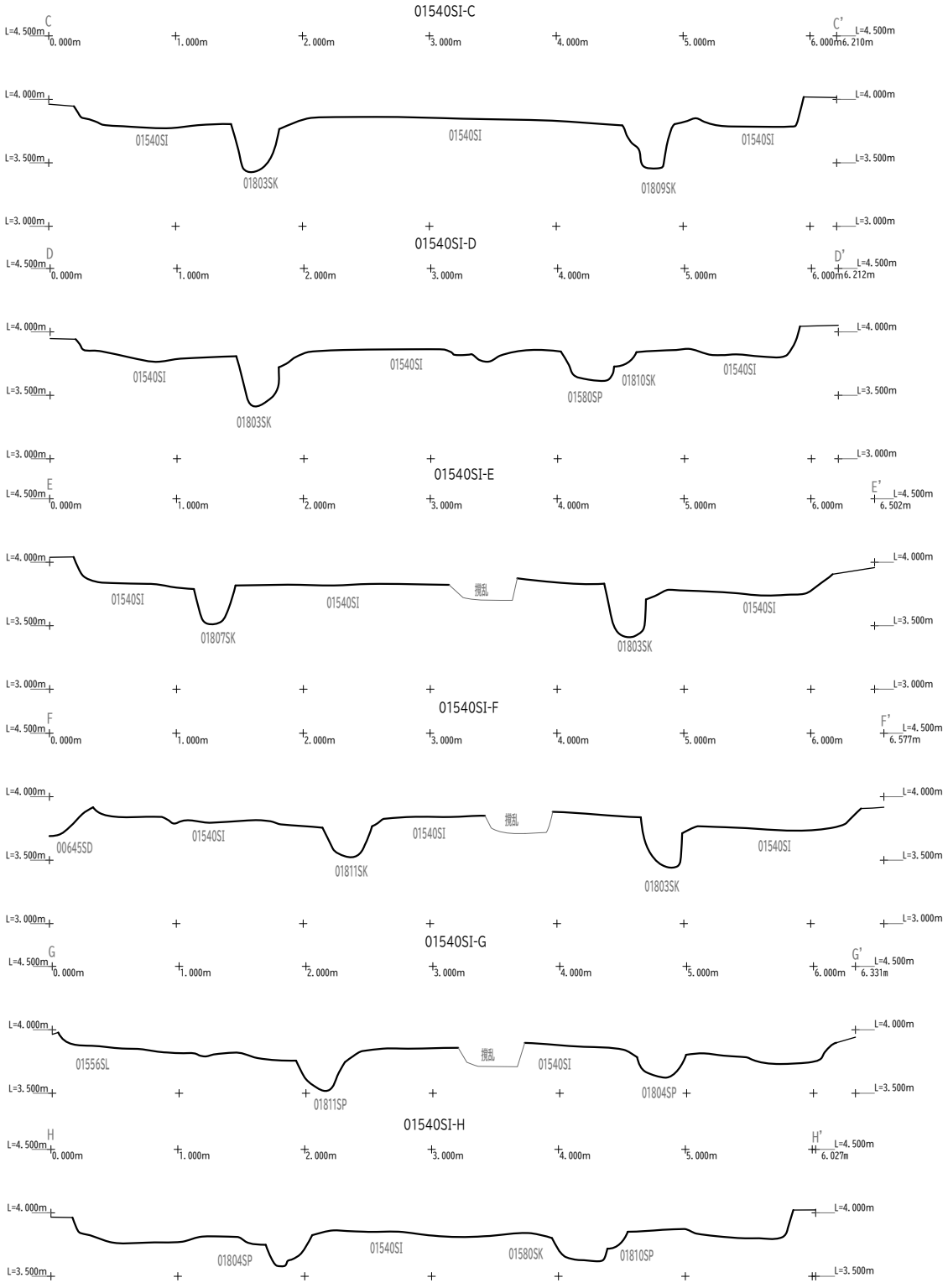
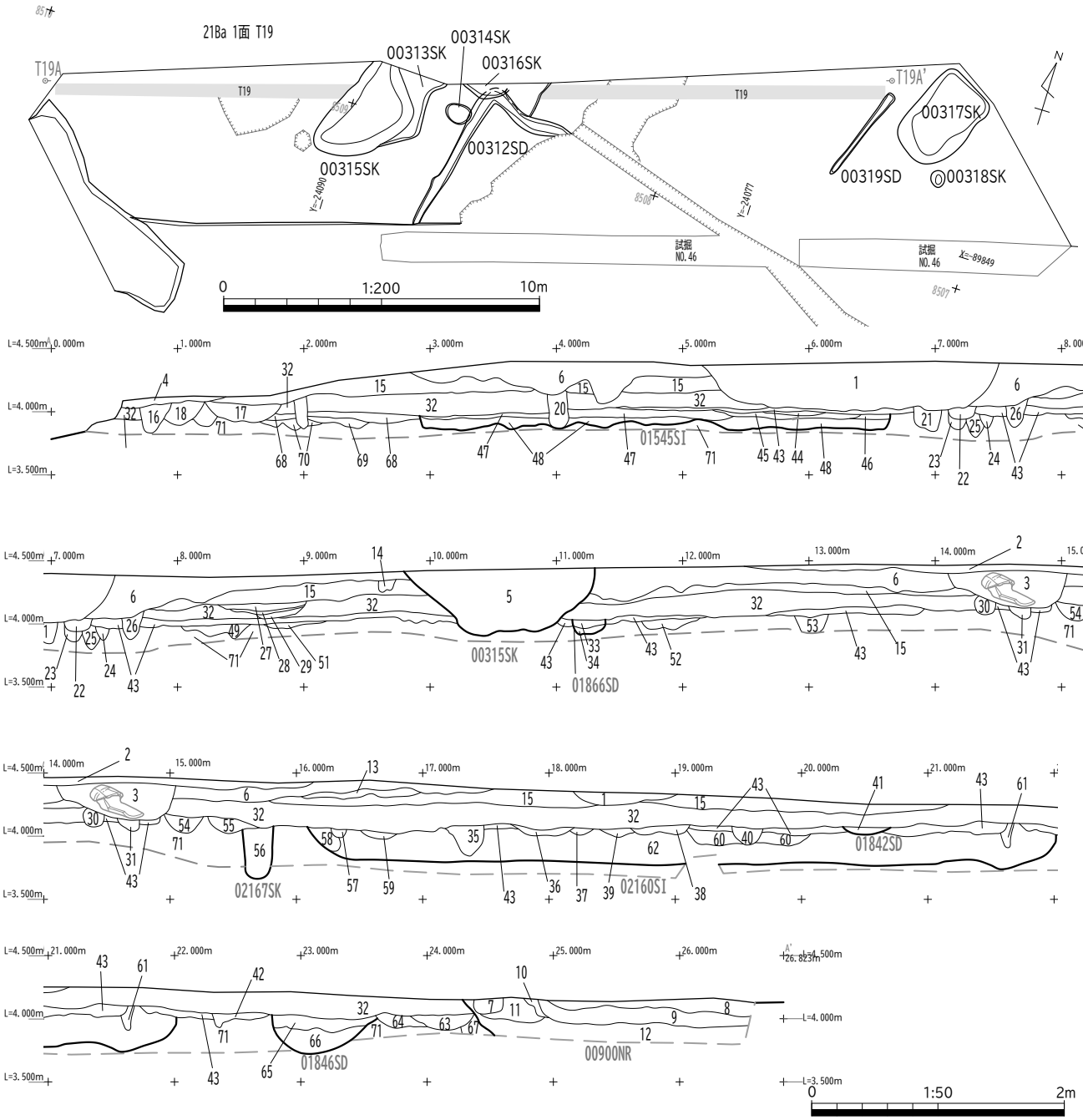


図186 01540SI 遺構図 (2)

0 1:50 2m



1. 攪乱
2. 表土
3. 攪乱
4. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層（10YR4/2灰黄褐色粗粒砂ブロックを含む）
5. 10YR5/2灰黄褐色粗粒砂層（10YR3/2黒褐色シルト大ブロックを非常に多く含む。00315SK）
6. 10YR5/2灰黄褐色粗粒砂層（10YR3/2黒褐色シルト小ブロックを多く含む。洪水砂か）
7. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層（10YR7/1灰白色細粒砂ブロックを含む。鉄分少量沈着。00900NR）
8. 10YR5/2灰黄褐色粗粒砂層（10YR7/1灰白色細粒砂ブロックを含む。鉄分沈着顕著。ラミナ状堆積。00900NR上からの掘り込み）
9. 10YR4/1褐灰色シルト質極細粒砂と10YR7/1灰白色細粒砂のラミナ層（鉄分少量沈着。00900NR上からの掘り込み）
10. 10YR4/2灰黄褐色細粒砂層（00900NR）
11. 10YR7/1灰白色細粒砂層（10YR4/1褐灰色極細粒砂大ブロックを多く含む。鉄分少量沈着。00900NR）
12. 10YR4/1褐灰色シルト質極細粒砂と10YR7/1灰白色細粒砂と 10YR4/2灰黄褐色細粒砂の水平なラミナ層（鉄分少量沈着。00900NR）
13. 10YR5/2灰黄褐色粗粒砂層
14. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層（10YR4/2灰黄褐色粗粒砂小ブロックを含む）
15. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層（10YR7/1灰白色細粒砂ブロックを含む。灰黄褐色粗粒砂ブロックを含む。2面包含層）
16. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層（10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを少量含む）
17. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層（10YR7/1灰白色細粒砂ブロックを含む）
18. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層（10YR7/1灰白色細粒砂小ブロックを少量含む）
19. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層（10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを少量含む）
20. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層（10YR7/1灰白色細粒砂ブロックを含む）
21. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層（10YR3/2黒褐色シルト小ブロックを多く含む）
22. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層（10YR4/2灰黄褐色極細粒砂ブロックを含む）
23. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層（10YR3/2黒褐色シルト大ブロックを多く含む）
24. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層（10YR3/2黒褐色シルトブロックを多く含む）
25. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層（10YR3/2黒褐色シルト小ブロックを少量含む）
26. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層（10YR3/2黒褐色シルト大ブロックを非常に多く含む。炭化物を極少量含む）
27. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層（10YR7/1灰白色細粒砂ブロックを含む）

図 187 T19（01540SI・01556SL）土層断面図 (1)

28. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層（炭化物を含む）
29. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層（10YR4/2灰黄褐色極細粒砂ブロックを含む。炭化物を少量含む）
30. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層（10YR7/1灰白色細粒砂ブロックを含む）
31. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層（10YR7/1灰白色細粒砂小ブロックを少量含む）
32. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層（10YR7/1灰白色細粒砂ブロックを含む。２面地山）
33. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層（10YR4/2灰黄褐色極細粒砂ブロックを含む。炭化物を少量含む。01866SD）
34. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層（10YR3/2黒褐色シルトブロックを多く含む。01866SD）
35. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層（10YR3/2黒褐色黒褐色シルトブロックを少量含む。鉄分沈着）
36. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層（10YR3/2黒褐色黒褐色シルトブロックを多く含む。２面耕作土か）
37. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層（炭化物を極少量含む。鉄分少量沈着。２面耕作土か）
38. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層（10YR3/2黒褐色シルトブロックを多く含む。２面耕作土か）
39. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層（炭化物を極少量含む。鉄分少量沈着。２面耕作土か）
40. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層（10YR3/2黒褐色シルトブロックを含む。２面耕作土か）
41. 10YR4/2灰黄褐色シルトと2.5Y6/2灰黄色シルトの混層（炭粒少し含む。01842SD）
42. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層（10YR7/1灰白色細粒砂ブロックを含む。２面耕作土か）
43. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層（炭化物を含む。鉄分少量沈着。３面包含層）
44. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層（炭化物を極少量含む。焼土を極少量含む。01545SI）
45. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層（炭化物・灰を非常に多く含む。焼土を含む。01545SI）
46. 10YR4/1褐灰色シルト質極細粒砂層（10YR3/2黒褐色シルト小ブロックを含む。炭化物を極少量含む。焼土を極少量含む。01545SI）
47. 10YR4/1褐灰色粘土質シルトと10YR3/2黒褐色粘土質シルトの混層（マンガン粒含む。鉄斑あり。炭化物少し含む。01545SI掘方）
48. 10YR4/1褐灰色粘土質シルトと2.5Y6/2灰黄色シルトの混層（マンガン粒含む。鉄斑あり。炭化物少し含む。01545SI掘方）
49. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層（10YR3/2黒褐色シルト大ブロックを非常に多く含む）
50. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層（10YR3/2黒褐色シルトブロックを多く含む）
51. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層（炭化物を極少量含む）
52. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層（10YR3/2黒褐色シルトブロックを含む）
53. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層（10YR4/2灰黄褐色極細粒砂ブロックを多く含む）
54. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層（10YR3/2黒褐色シルト小ブロックを少量含む）
55. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層（10YR3/2黒褐色シルト小ブロックを少量含む）
56. 2.5Y6/2灰黄色極細粒砂混じるシルトと10YR4/1褐灰色シルトと2.5Y4/2暗灰黄色粘土質シルトの混層（下部は2.5Y4/2暗灰黄色粘土質シルト小ブロック主体。02167SK）
57. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層（10YR3/2黒褐色シルトブロックを含む。02160SI壁溝か）
58. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層（10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを含む。02160SI壁溝か）
59. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層（10YR3/2黒褐色シルト小ブロックを少量含む）
60. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層（10YR3/2黒褐色シルト小ブロックを少量含む。炭化物を含む）
61. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層（10YR3/2黒褐色シルト小ブロックを含む）
62. 2.5Y5/2暗灰黄色極細粒砂混じるシルト層（2.5Y4/2暗灰黄色極細粒砂質シルト・2.5Y6/2灰黄色極細粒砂質シルト小ブロック含む。2.5Y3/2黒褐色極細粒砂混じるシルト小ブロック少し含む。02160SI）
63. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層（10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを多く含む。炭化物を極少量含む）
64. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層（10YR7/1灰白色細粒砂ブロックを多く含み、黒褐色シルト小ブロックを少量含む）
65. 10YR4/2灰黄褐色シルト層（2.5Y6/3にぶい黄色シルト質細粒～中粒砂小・中ブロック少し含む。炭粒わずかに含む。01846SD）
66. 2.5Y3/1黒褐色粘土質シルトと2.5Y5/2暗灰黄色シルトと2.5Y6/2灰黄色シルト質極細粒砂の混層（01846SD）
67. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層（10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを少量含む。00900NRか）
68. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層（10YR4/2灰黄褐色極細粒砂ブロックを含む。鉄分少量沈着。３面包含層か）
69. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層（10YR3/2黒褐色シルト大ブロックを少量含む）
70. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層（10YR3/2黒褐色シルト大ブロックを多く含む）
71. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層（鉄分沈着。３面地山）

図 188 T19（01540SI・01556SL）土層断面図（2）土層解説

られ、須恵器で示される年代観とも近い。このように 01540SI は 8 世紀前葉に廃絶したがその 2 時期ある変遷によって構築時期は 7 世紀後半まで遡ると考えられる。

01540SI の性格を示す遺物としては、耳環（M11）がある。1 点のみで、検 1 面のグリッド 8409 で取り上げられているが、その後 01540SI の遺構内であることが判明した。蛍光 X 線分析装置で解析したところ、芯は銅製で表面の一部に鍍金が残存していることが確認された。出土位置からすると耳環は建物の廃絶時に入り込んだものと考えられるが、その際にどのような使われ方をしたのかは不明である。居住者が所有していたものである可能性が高く、01540SI が集落内の有力者または首長の居宅であったことを示している。

01545SI　旧河道左岸、調査範囲中央部（21Ca 区）に位置する竪穴建物跡である。他の竪穴建物跡との重複関係はないが、上位に畦溝と考えられる小溝群(01523SD・01524SD）が重複する。竪穴建物跡 01540SI に近く、その南西約 6m に位置する。01540SI とは建物の方位がほぼ同じで、東辺を基準にするとグリッド北から西へ 13° 振れている。ただし 01545SI では東辺にカマドが造り付けられているのでその主軸方位は東へ 90° 振れてグリッド北から東へ 77° 振れていることになる。平面形は東西方向にやや長い長方形で、規模は長径約 3.9m、短径約 3.3m、深さ約 0.1m である。

先述のようにカマドは東辺の壁面から外側に突出部をともなって造り付けられている（01820SL）。ただし平面的に遺構として確認できたのは直径約 0.3m の円形土坑で、その上にはほぼ同規模の土坑 01819SK が重複している。一方、01545SI の検出面では厚さ約 0.1m もある炭化物層の広がりが確認され、その範囲は約 2.5m ×約 2.0m に及んでいる。これは 01545SI の北東部 4 分の 1 以上を占めている（図 190）。その炭化物層は、カマド跡とした 01820SL を取り巻くようにして広がっており、土層断面によれば東壁の突出部まで連続している（図 190、土層断面 C-C’・D-D’）。このことから、炭化物層はカマド解体にともなって流出・散布したものであり、カマドの本体はほとんど失われていると考えられる。当該層からの出土遺物は土師器長胴甕がある（1726）。なお、発掘調査工程中に同炭化物層断面の一部を剥ぎ取って資料化した。

炭化物層は、土層断面 C-C’・D-D’ では 01545SI の埋土である 5 層上面の水平面上に広がっている。このことから 5 層上面が床面に相当していることがわかる。同様に土層断面 A-A’・B-B’ の 3・4 層も 5 層上面にあって、これらは建物廃絶後の堆積ということになる。加えてそれらの側縁部をみても溝状の凹みはない。したがって、埋土の主体となる 5 層は掘り方内に充填された貼床であり、01545SI には壁溝がないと評価される。遺構の掘り

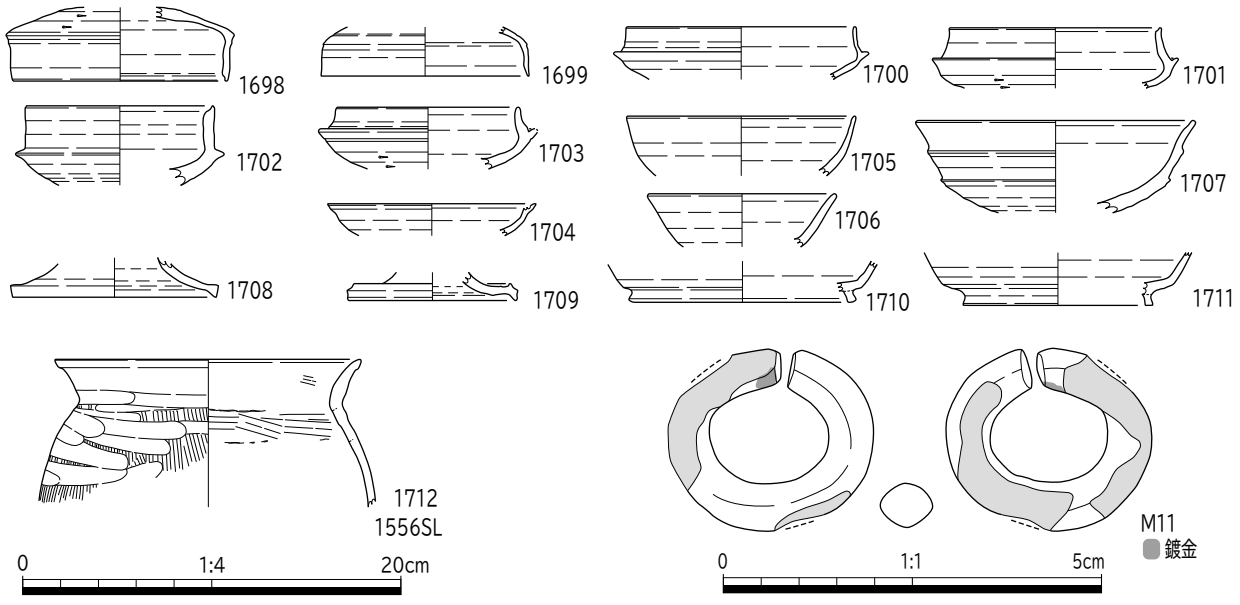
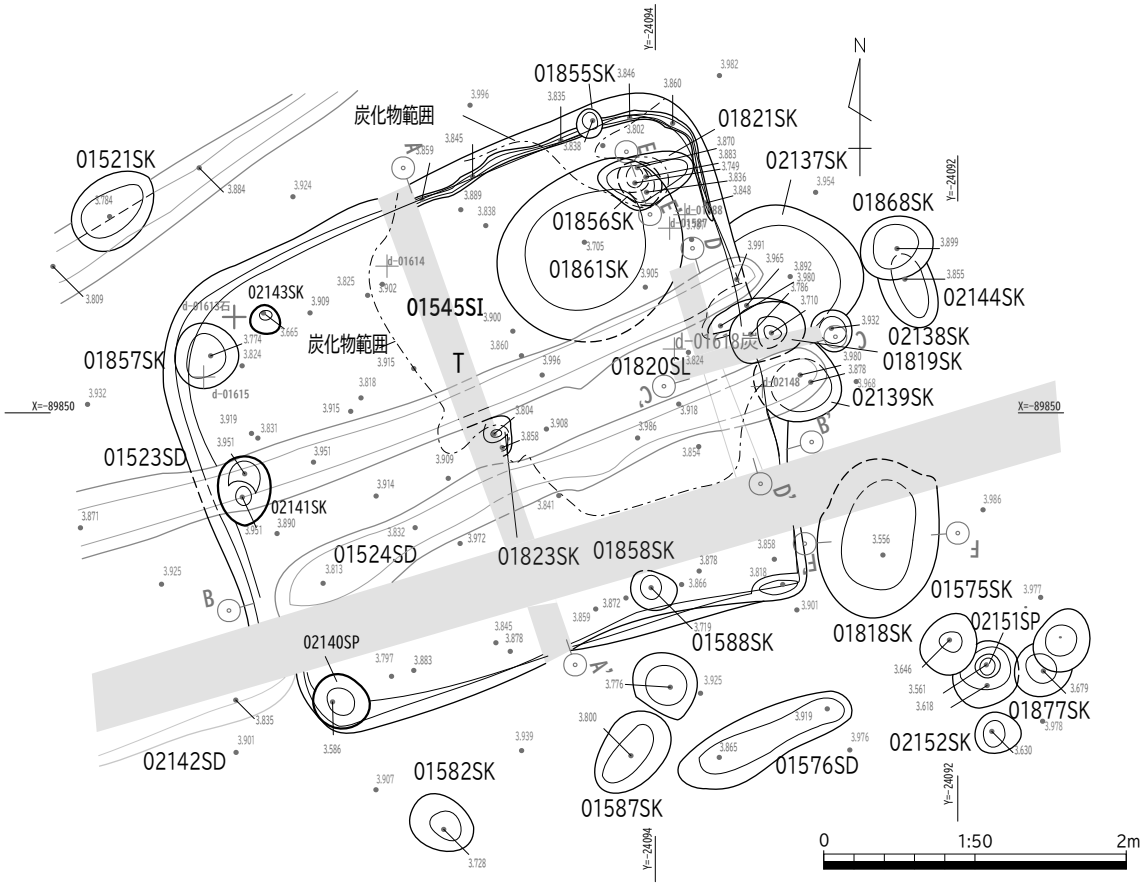
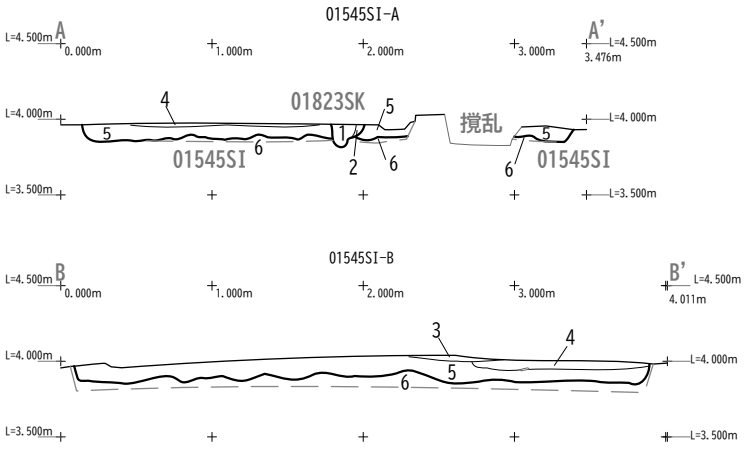
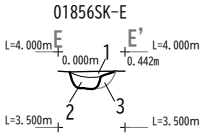


図 189　01540SI・01556SL 出土遺物実測図

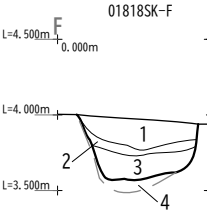




1. 5Y5/2灰オリーブ色シルト（鉄斑少ない。炭化物わずかに含む。01823SK）
2. 2.5Y4/2暗灰黄色シルト（鉄斑あり。01823SK）
3. 10YR5/2灰黄褐色シルト（マンガン粒含む。鉄斑あり。炭化物少し含む。包含層）
4. 炭と灰の互層（01545SI床面直上層）
5. 10YR4/1褐灰色粘土質シルトと2.5Y6/2灰黄色シルトの混層（マンガン粒含む。鉄斑あり。炭化物少し含む。01545SI掘方）
6. 2.5Y6/2灰黄色シルト（マンガン粒含む。鉄斑あり。包含層）



1. 2.5Y3/1黒褐色シルト（10YR3/1黒褐色粘土質シルト小ブロック少し含む。炭粒・炭片含む。焼土粒わずかに含む。01856SK）
2. 10YR4/1褐灰色シルトと2.5Y3/1黒褐色シルトの混層（2.5Y6/2灰黄色シルト小ブロック少し含む。01856SK）
3. 10YR4/1褐灰色シルト層（2.5Y6/2灰黄色シルト小ブロック少し含む。01861SK）



1. 10YR4/1褐灰色粘土質シルト（マンガン粒含む。鉄斑あり。炭化物少し含む）
2. 2.5Y5/1黄灰色シルトと2.5Y6/2灰黄色シルトの混層（マンガン粒少し含む。鉄斑あり。炭化物少し含む。焼土粒わずかに含む）
3. 2.5Y3/1黒褐色粘土質シルト（鉄斑少ない。炭化物少し含む。2.5Y6/2灰黄色シルトブロック多く含む）
4. 2.5Y6/2灰黄色シルト（鉄斑あり。包含層）

1. 2.5Y7/4浅黄色粘土質シルト（マンガン粒少し含む。炭化物含む。焼土粒・焼土塊多く含む。01820SL。火焼面か）
2. 炭と灰の互層（焼土粒含む。2.5Y6/2灰黄色小ブロック含む。01820SL）
3. 10YR4/2灰黄褐色粘土質シルト（マンガン粒含む。鉄斑あり。炭化物少し含む。01820SL掘方）
4. 2.5Y6/2灰黄色粘土質シルト（マンガン粒含む。鉄斑あり。炭化物少し含む。01820SL袖部か）
5. 2.5Y4/1黄灰色シルトと2.5Y6/2灰黄色シルトの混層（マンガン粒含む。鉄斑あり。炭化物わずかに含む。01545SI掘方）
6. 2.5Y6/2灰黄色シルト（マンガン粒少し含む。鉄斑あり。炭化物わずかに含む。包含層）

図 190　01545SI・01820SL 遺構図

方底面は細かい凹凸のある平坦面で、方形に掘り込んだ範囲の土を全て入れ替えることで床面を形成する構築方法をとっており、幅広周溝状の掘り方とは対照的である。

柱穴は、掘り方の底面で確認された 8 基のピット・土坑のうちのいくつかが該当すると考えられる。特に西辺の北西隅に 01875SK、南西隅に 02140SP があり、両者の中間地点には 02141SK がある。これをもとに四隅に注目すると北東隅には 0185SK がある。これらは直径約 0.3 ～ 0.4m、深さ約 0.2m である。南東隅は検出されていないが、掘り方の四隅に柱穴を構築する手法であったと考えられる。

出土遺物は、遺構検出段階でカマド解体痕とみられる炭化物層と建物床面が露出した状態であったことから、周辺遺構からの混入も含まれる。その多くは 6 世紀中葉～ 7 世紀前葉の須恵器小片である。1715 は H-61 号窯式期の杯蓋、1722・1723 は甕、1717 は H-44 号窯式期～ H-15 号窯式期、1719 は H-44 号窯式期の杯身である。1725 は広口壺で胴部に平行タタキ痕がナデ消しされずに残っている。1726 は 1820SL 出土の土師器長胴甕の口縁部で、全体に曲線で外反する口縁部に器壁の薄い胴部が取り付く。口縁端部は丸く、摘み上げ部分は全くない。ハケ目調整痕もみられず指ナデが顕著である。これらの特徴は 8 世紀前葉～中葉の、特に三河地域の長胴甕にみられる。このように 01545SI の機能～廃絶年代は、出土須恵器の時期幅があるため根拠が弱い。しかし土師器甕や後述する円面硯の時期に依拠すれば、8 世紀前葉頃の廃絶である可能性が高く、隣接する 01540SI と共存する時期があったものと考えられる。

円面硯 1724 は須恵器の円面硯の破片である。ただし硯面に顕著な摩滅がないことから、硯として使用された頻度は低かったと思われる。とはいえ名城公園遺跡を通じて唯一の円面硯であり、旧河道や土坑へ廃棄された須恵器群中には含まれていない点も踏まえると、集落内の識字層が所有・使用するために集落内にもたらされたものであり、01540SI を母屋とする首長や有力者の中に識字層がいた可能性が高いと考えられる。

01600SI 旧河道右岸、調査範囲北東部（22A 区）に位置する竪穴建物跡である。周囲には、北東側に竪穴建物 01198SI や竪穴状遺構 01196SX などが密集し、北西側には平面形がほぼ同規模となる大型竪穴建物跡 01601 SI がある。よって竪穴建物跡との重複関係はないが、遺構の南西辺で南東～北西に抜ける溝 01160SD が重複し、01600SI の方が古いことが確認されている。一方、北隅～北西辺を中心に撹乱によって削平されているため全形は不明であるが、南東辺および南西辺が残っていたことから、平面形はほぼ正方形と考えられる。その規模は長軸約 7.8m、短軸約 7.3m、深さ約 0.4m である。やや大型に分類される。北西辺の撹乱で削平された付近で炭化物・焼土の集中する範囲が確認できたことから（02105SL）、付近にカマドがあった可能性が高い。建物の主軸方向は北西～南東方向ということになる。完存する南西辺を基準にすると、主軸の方位はグリッド北から西へ 43° 振れている。

焼土・炭化物が集積する 02105SL は、01600SI の北西

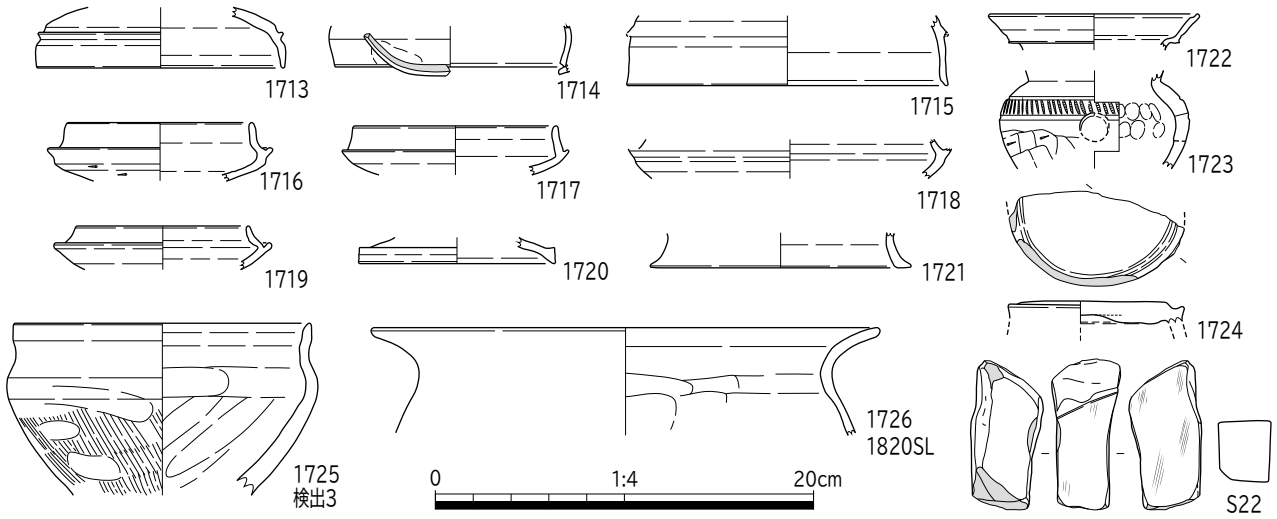
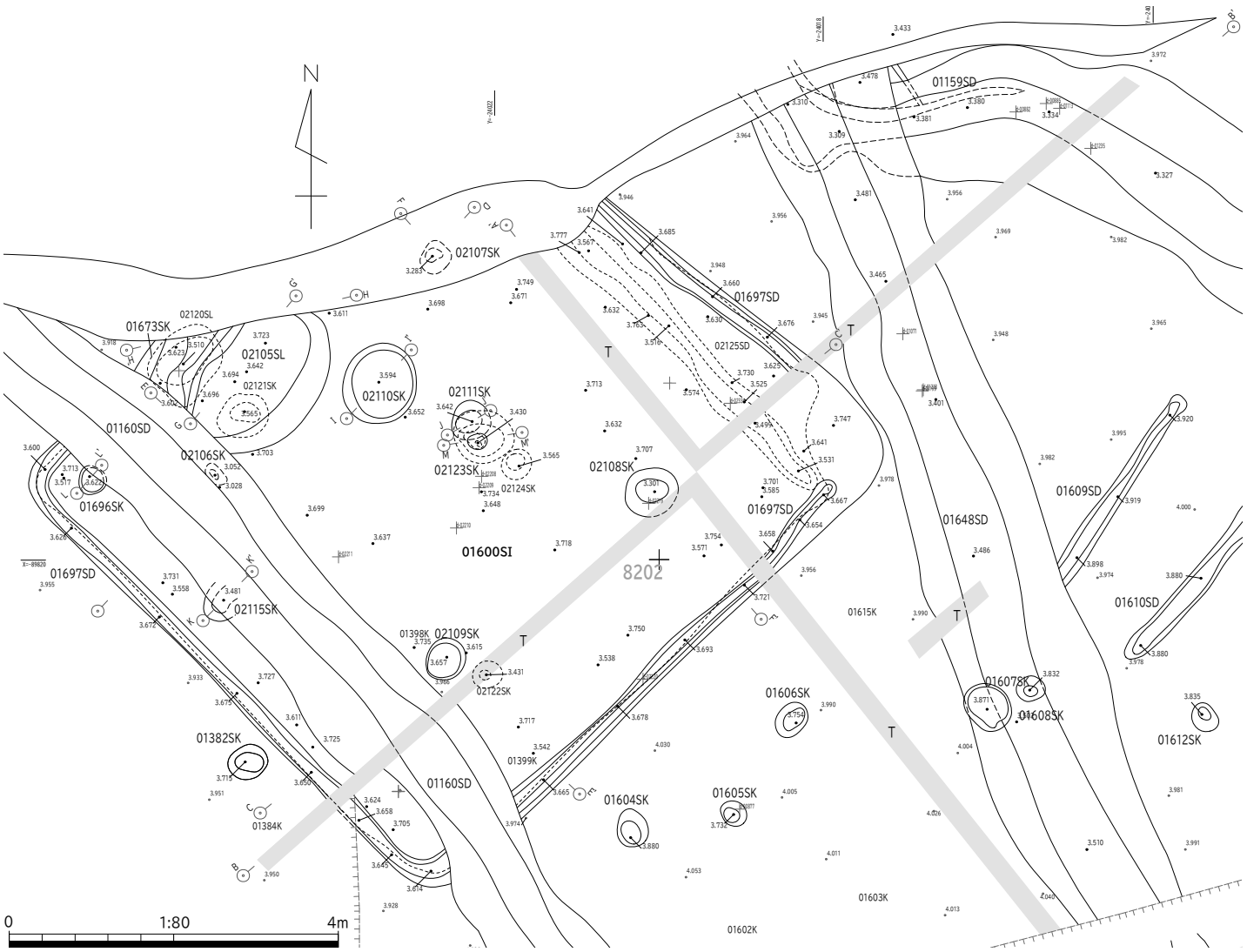
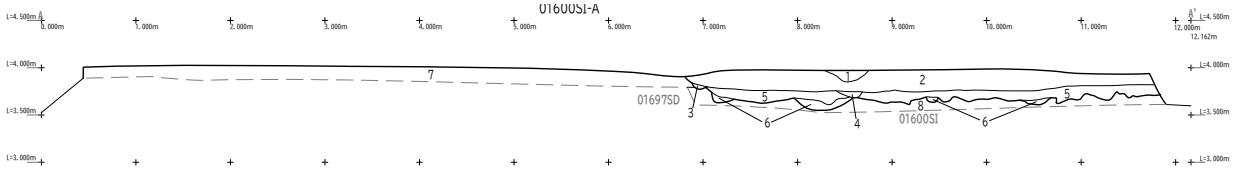
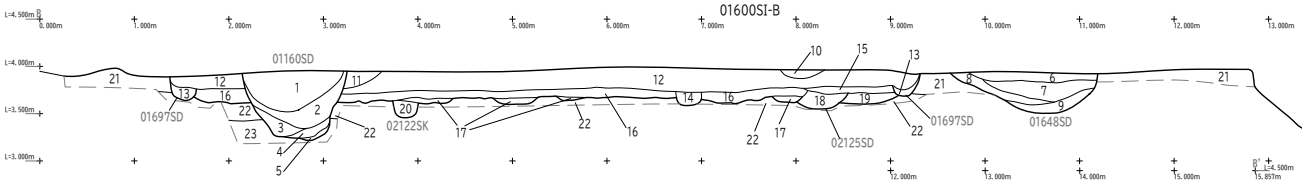


図 191 01545SI 出土遺物実測図



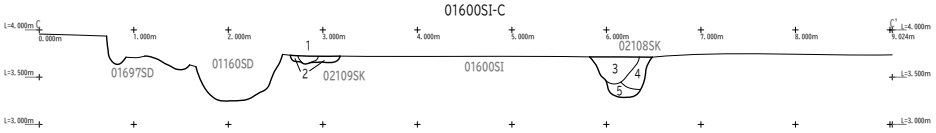


1. 10YR7/2にぶい黄橙色シルト層(鉄斑あり。01600SI埋土)
2. 10YR6/2灰黄褐色砂質シルト層(10YR8/3浅黄橙色シルトブロック混入。鉄斑あり。01600SI埋土)
3. 10YR4/1褐灰色シルト層(マンガン粒含む。鉄斑あり。01697SD埋土)
4. 10YR4/1褐灰色砂質シルト層(2.5GY4/1暗オリーブ灰色シルトブロック混入。鉄斑あり。01601SI掘方)
5. 2.5Y5/2暗灰黄色シルト層(10YR4/2灰黄褐色シルトブロック混入。鉄斑あり。01601SI掘方)
6. 2.5Y4/1黄灰色シルト層(10YR7/2にぶい黄橙色シルトブロック混入。鉄斑なし。01601SI掘方)
7. 5Y4/2灰オリーブ色粘土質シルト層(鉄斑あり。地山)
8. 2.54GY4/1暗オリーブ灰色粘土質シルト層(鉄斑あり。地山)

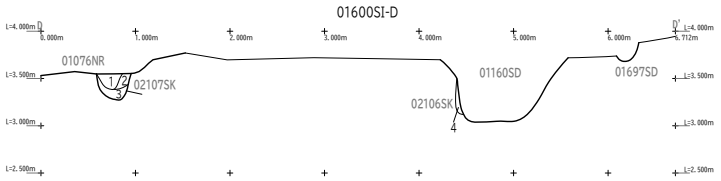


1. 10YR5/2灰黄褐色シルト層(10YR6/2灰黄褐色シルトブロック多く混入。鉄斑あり。01160SD)
2. 10YR4/1褐灰色シルト層(マンガン粒少量含む。鉄斑あり。01160SD)
3. 10YR5/1褐灰色粘土質シルト層(10YR6/2灰黄褐色シルトブロック多く混入。鉄斑あり。01160SD)
4. 10YR4/3にぶい黄褐色粘土質シルト層(鉄斑少ない。01160SD)
5. 10YR6/2灰黄褐色粘土質シルト層(鉄斑あり。01160SD)
6. 10YR7/2にぶい黄橙色砂質シルト(鉄斑あり。01648SD)
7. 10YR5/2灰黄褐色シルト層(炭化物含む。鉄斑あり。01648SD)
8. 10YR4/1褐灰色砂質シルト層(鉄斑あり。01648SD)
9. 10YR4/2灰黄褐色砂質シルト層(10YR5/1褐灰色シルトブロック少量含む。鉄斑あり。01648SD)
10. 10YR7/2にぶい黄橙色シルト層(鉄斑あり。01600SI)
11. 10YR5/1褐灰色シルト層(鉄斑あり。01600SI)
12. 10YR6/2灰黄褐色砂質シルト層(10YR8/3浅黄橙色シルトブロック混入。鉄斑あり。01600SI)
13. 10YR4/1褐灰色シルト層(10YR7/2にぶい黄橙色シルトブロック少量混入。炭化物少量含む。01697SD)
14. 10YR4/2灰黄褐色粘土質シルト層(10YR6/2灰黄褐色シルトブロック混入。鉄斑あり。01600SI掘方)
15. 10YR6/2灰黄褐色シルト層(7.5Y7/2灰白色シルトブロック混入。鉄斑あり。01601SI掘方)
16. 2.5Y5/2暗灰黄色シルト層(10YR4/2灰黄褐色シルトブロック混入。鉄斑あり。01601SI掘方)
17. 2.5Y4/1黄灰色シルト層(10YR7/2にぶい黄橙色シルトブロック混入。鉄斑なし。01601SI掘方)
18. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(2.5GY4/1暗オリーブ灰色シルトブロック混入。鉄斑あり。02125SD)
19. 10YR5/2灰黄褐色砂質シルト層(10YR5/1褐灰色シルトブロック少量混入。鉄斑あり。01601SI掘方)
20. 2.5Y5/2暗灰黄色シルト層(2.5Y3/1黒褐色シルトブロック混入。鉄斑少ない。02122SK)
21. 5Y4/2灰オリーブ色粘土質シルト層(鉄斑あり。地山)
22. 2.54GY4/1暗オリーブ灰色粘土質シルト層(鉄斑あり。地山)
23. 2.5GY6/1オリーブ灰色粘土質シルト層(鉄斑あり。地山)

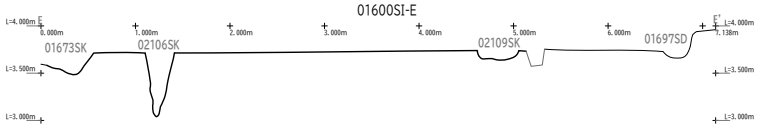
図 192　01600SI 遺構図

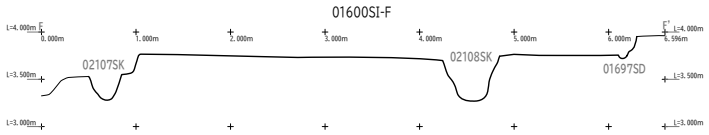


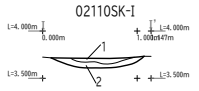
1. 10YR6/2灰黄褐色シルト層(10YR7/2にぶい黄橙色シルトブロック混入。鉄斑あり。02109SK)
2. 10YR6/3にぶい黄橙色シルト層(10YR7/2にぶい黄橙色シルト少量混入。鉄斑あり。02109SK)
3. 10YR6/2灰黄褐色シルト層(10YR7/2にぶい黄橙色シルトブロック混入。炭化物を少量含む。鉄斑あり。02108SK)
4. 10YR7/3にぶい黄橙色シルト層(10YR5/1褐灰色シルトブロック混入。鉄斑少ない。02108SK)
5. 2.5Y7/2灰黄色シルト層(鉄斑少ない。02108SK)



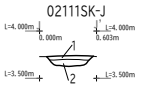
1. 10YR6/2灰黄褐色シルト層(10YR8/3浅黄橙色シルトブロック混入。鉄斑あり。02107SK)
2. 10YR7/2にぶい黄橙色シルト層(10YR6/1褐灰色シルトブロック混入。鉄斑あり。02107SK)
3. 2.5Y7/2灰黄色粘土質シルト層(10YR6/1褐灰色シルトブロック混入。鉄斑あり。02107SK)
4. 10YR7/2にぶい黄橙色シルト層(10YR6/2灰黄褐色シルトブロック混入。鉄斑あり。02106SK)



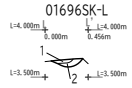




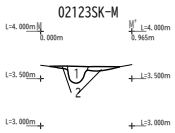
1. 10YR8/3浅黄橙色シルト層
(10YR6/2灰黄褐色シルトブロック混入。焼土粒含む。鉄斑あり)
2. 10YR5/1褐灰色シルト層
(10YR6/2灰黄褐色シルトブロック混入。鉄斑あり)



1. 10YR5/2灰黄褐色シルト層
(10YR7/2にぶい黄橙色シルトブロック混入。鉄斑あり)
2. 10YR7/3にぶい黄橙色シルト層
(10YR5/1褐色シルトブロック混入。鉄斑あり)



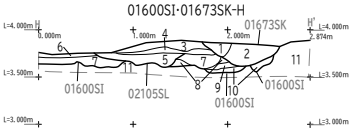
1. 10YR6/2灰黄褐色シルト層
(炭化物を含む。鉄斑あり)
2. 10YR6/3にぶい黄橙色シルト層
(炭化物を多く含む。鉄斑あり)



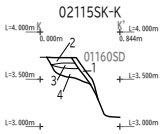
1. 2.5Y3/1黒褐色シルト層(2.5Y5/2暗灰黄色シルトブロック混入。炭化物を少量含む。鉄斑少ない)
2. 2.5Y5/2暗灰黄色シルト層(2.5Y3/1黒褐色シルトブロック混入。鉄斑少ない)



1. 10YR5/3にぶい黄褐色シルト層(炭化物少量含む。焼土粒を多く含む。鉄斑少ない)
2. 10YR4/1褐灰色砂質シルトと10YR7/1灰白色砂質シルトの互層
(炭化物を多く含む。焼土粒を多く含む。灰を数度に分けて掻き捨てた痕跡か。鉄斑少ない)

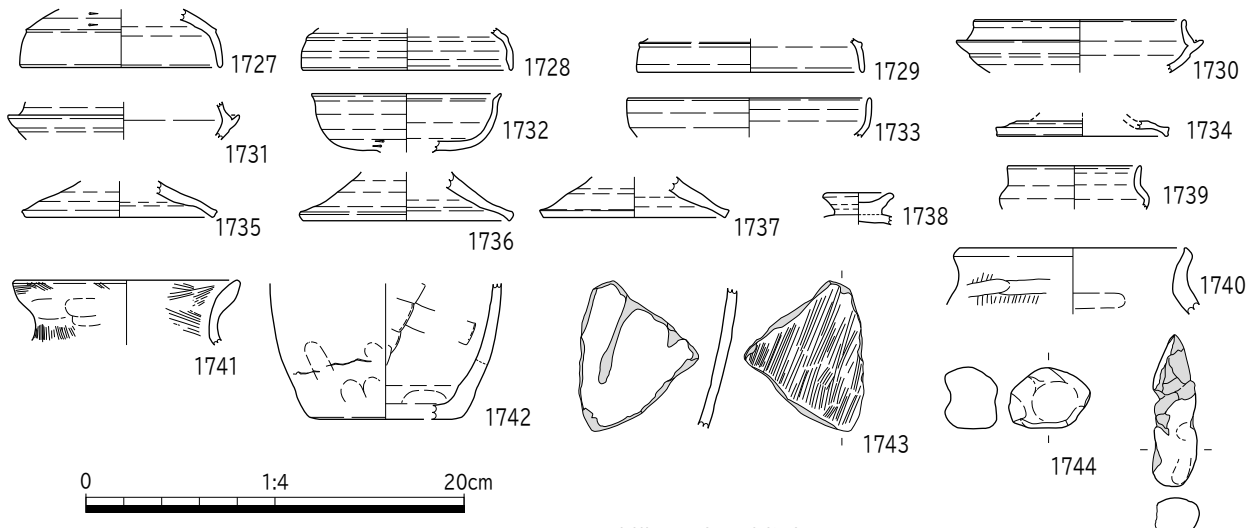


1. 2.5Y4/2暗灰黄色粘土質シルト層(10YR3/1黒褐色シルトブロック混入。炭化物を少量含む。鉄斑少ない。01673SK)
2. 2.5Y3/1黒褐色粘土質シルト層(2.5Y4/2暗灰黄色シルトブロック混入。炭化物·焼土粒を少量含む。鉄斑少ない。01673SK)
3. 2.5Y4/2暗灰黄色シルト層(10YR3/1黒褐色シルトと2.5Y6/1黄灰色シルトブロックを含む。10YR6/6明黄褐色シルトブロック(竈の一部か?)を少量含む。炭化物を多く含む。焼土粒を含む。鉄斑あり。01600SI)
4. 2.5Y3/1黒褐色シルト層(2.5Y6/1黄灰色シルトと2.5Y7/1灰白色シルトブロック混入。炭化物·焼土粒を少量含む。鉄斑少ない。01600SI)
5. 10YR4/1褐灰色粘土質シルトと10YR7/1灰白色砂質シルトの混層
(炭化物·焼土粒を多く含む。鉄斑少ない。02105SL)
6. 10YR4/2灰黄褐色粘土質シルト層(10YR6/2灰黄褐色シルトブロック混入。鉄斑あり。01600SI掘方)
7. 10YR6/2灰黄褐色シルト層(7.5Y7/2灰白色シルトブロック混入。鉄斑あり。01600SI掘方)
8. 2.5Y5/2暗灰黄色シルト層(10YR4/2灰黄褐色シルトブロック混入。鉄斑あり。01600SI掘方)
9. 2.5Y4/1黄灰色シルト層(10YR7/2にぶい黄橙色シルトブロック混入。鉄斑なし。01600SI掘方)
10. 10YR5/2灰黄褐色砂質シルト層(10YR5/1褐灰色シルトブロック少量混入。鉄斑あり。01600SI掘方)
11. 2.5GY4/1暗オリーブ灰色粘土質シルト層(鉄斑あり。地山)



1. 10YR5/1褐灰色粘土質シルト層(2.5GY6/1オリーブ灰色シルトブロック混入。鉄斑あり。01160SD)
2. 10YR5/2灰黄褐色シルト層(10YR7/2にぶい黄橙色シルトブロック混入。鉄斑あり。02115SK)
3. 10YR6/3にぶい黄橙色シルト層(10YR5/1褐灰色シルトブロック混入。鉄斑あり。02115SK)
4. 7.5Y6/1灰色シルト層(10YR5/1褐灰色シルトブロック混入。鉄斑あり。02115SK)

0 1:80 4m



0 1:4 20cm

図 193 01600SI 遺構図・出土遺物実測図

辺の中央からやや西寄りに存在する。長軸約1.9m、短軸約1.4mの楕円形の範囲に焼土・炭化物の2層からなる堆積層であるが、土層断面によれば（図193、土層断面G-G'）、01600SIの底面に対してほとんど掘り込まれておらず、何らかの構築物の痕跡とは言いがたい。その上層は焼土粒を多く含む一方、下層は数回にわたって炭化物の堆積が繰り返された状況が確認されている。この状況から02105SLそのものをカマド跡とすることはやや躊躇されるが、土製の移動式カマドを設置したか、造り付けカマドの焚口前に相当する場所だった可能性が考えられる。なお､炭化物層中からは炭化したモモ核（種実）が出土しており、これを試料として放射性炭素年代測定を行った（測定番号PLD-57216)。その結果、2σ暦年代較正で602-655 cal AD（95.45%）という数値年代が得られている。

床面は、土層断面（図192、土層断面B-B'）によれば、竪穴部を均一に掘り下げてその全体に対してシルトブロックの混じる土（15・16層）を敷いて貼床としている。なお床面より上は単一層（12層）で、ブロック土が混じることから埋め戻されたと考えられる｡壁溝は、東隅以外の各辺で検出されている。柱穴は、02108SK・02109SKの2基が南東辺近くにあり、各辺からの距離もほぼ一定であることから柱穴として確定できる。一方、北側は撹乱下で02107SK、01606SDの下で02106SKがそれぞれ検出されている。この2基も位置関係から柱穴と考えらえる。それぞれ直径が0.3～0.4mの円形で、02108SKでは深さ約0.4mである。

01600SIの出土遺物は少なく、しかも小片が主体である。須恵器杯蓋（1727～1729）はH-15号窯式期～I-101号窯式期、杯身（1730・1731）も同様、1732～737は高杯でH-44号窯式期以降である。1739は小型の広口壺、1740～1743は土師器の甕で小型のものか。1742は平底で内・外面に指ナデ調整が施されている。1744は粘土塊であるが用途は不明。

以上の遺物の時期と、カマド跡から出土した種実の放射性炭素年代を参照すると、01600SIは7世紀前葉～中葉に機能し廃絶したものと考えられ、01601SIより先行する時期に位置づけられる。

01601SI　旧河道右岸、調査範囲北東部（22A区）に位置する竪穴建物跡である。他の建物遺構とは重複関係になく、東方約20mに01198SIなどの竪穴建物群、南東約12mに大型竪穴建物跡01600SIが位置する。一方、2条の溝との重複関係があり、ひとつは016001SIの南東辺近くで西～東方向に延びる溝01616SDが埋土上から掘り込まれており、01616SDの方が新しい。二つめは、016001SIの北東辺付近で北西～南東方向に延びる溝01160SDとの重複関係であるが、こちらは016001SIの掘り方底面で検出されたことから、01160SDの方が古い。また南東隅は撹乱で削平されているが、平面形は北西～南東方向にやや長い長方形となる。その規模は長軸約8.9m、短軸約8.2m、深さ約0.35mである。その北西辺にカマドがあるので北西～南東方向に主軸方向があり、北西辺と直角に交わる南西辺を基準にすると主軸の方位はグリッド北から37°西に振れている。

カマドは、約0.4mの突出部をともなって造り付けられている(01639SL)｡突出部は三角形状で最奥部に向かって斜めに立ち上がっており、最奥部から手前の焚口に向かって炭化物や焼土を含む層が3～4層にわたって流れ込むようにして堆積しており、各層から土師器長胴甕の小片が出土している。一方、その反対方向（竪穴部中心部方向）には約1.1mの楕円形の土坑部分があり、遺構検出面からは深さ約0.34m、床面からは深さ約0.12mである。その東西両脇には、北西辺の壁から竪穴部の内側に向かって土手状に突出させた部分があり（図194～197)、これは基盤層のシルトを土手状に積み上げたもので、カマドの基部に相当する（図196、土層断面I-I'の8～10層)。また､壁溝がカマド基部の両外側で止まっていることから、壁溝掘削をともなう竪穴部の掘削は、カマドの（基部）掘削と同時進行でなされたと考えられる。

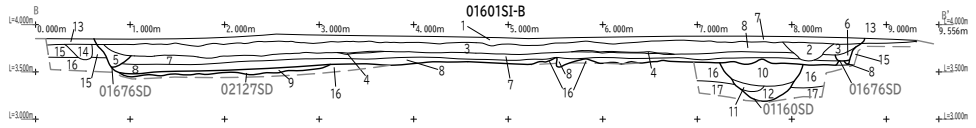
カマド跡の手前には皿状の凹みが2基ある。一つは02126SKで、平面形は01639SLから手前に約1.3m、横幅約2.5mの隅丸方形を呈する。深さ約0.15mである。当該遺構は01639SLと一部が重複し、その上から掘り込まれている（図198、土層断面A-A'の13層)。そして02126SKからさらに手前に浅い皿状の02117SLが位置する（図198、土層断面A-A'の12層)。当該遺構の平面形は直径約1.8mの円形で、深さ約0.1mである。いずれも炭化物を多く含んでおり、カマド由来の堆積層であることは明らかで、01639SLから掻き出した炭化物を溜めた場所であったと考えられる。

016001SIの掘り方底面は概ね平らであるが、細か

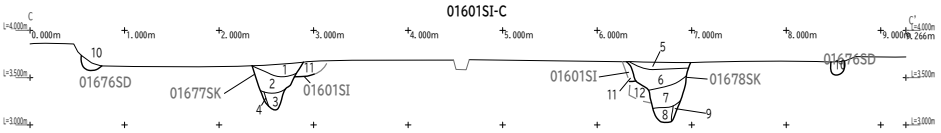


1. 10YR5/2灰黄褐色シルト層(鉄斑あり。01616SD)
2. 10YR4/1褐灰色粘土質シルト層(鉄斑あり。01616SD)
3. 10YR5/3にぶい黄褐色シルト層(鉄斑あり。01601SI)
4. 10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルト層(鉄斑あり。01601SI)
5. 10YR4/1褐灰色シルト層(鉄斑あり。01601SI)
6. 10YR5/2灰黄褐色砂質シルト層(炭化物少量含む。鉄斑あり。01601SI)
7. 10YR3/2黒褐色シルト層(炭化物多く含む。焼土粒少量含む。鉄斑少ない。01601SI埋土。竈由来の炭化物か)
8. 10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルト層(鉄斑あり。01601SI)
9. 10YR6/4にぶい黄橙色シルト層(鉄斑多い。01601SI)
10. 2.5Y4/2暗灰黄色シルト層(10YR7/2にぶい黄橙色砂質シルトブロック少量混入。鉄斑あり。01601SI)
11. 2.5Y5/1黄灰色砂質シルト層(炭化物・焼土粒少量含む。鉄斑少ない。01601SI)
12. 2.5Y5/2暗灰黄色粘土質シルトと10YR6/1褐灰色シルトの混層(炭化物・焼土粒含む。鉄斑あり。02117SL埋土。竈由来の炭化物か)
13. 10YR6/2灰黄褐色砂質シルト層(炭化物多く含む。鉄斑あり。02126SK埋土。竈由来の炭化物か、02117SLより下層)
14. 2.5Y5/1黄灰色砂質シルト層(焼土粒含む。鉄斑あり。02126SK埋土。竈由来の炭化物か、02117SLより下層)
15. 2.5Y4/1黄灰色砂質シルト層(炭化物少量含む。鉄斑あり。01639SL)
16. 10YR4/1褐灰色砂質シルト層(炭化物多く含む。焼土粒含む。鉄斑少ない。01639SL埋土。竈稼働時の炭化物層か)
17. 2.5Y6/2灰黄色砂質シルト層(炭化物・焼土粒含む。鉄斑少ない。01639SL)
18. 10YR6/2灰黄褐色砂質シルト層(鉄斑少ない。01639SL)
19. 7.5Y6/1灰色砂質シルト層(鉄斑あり。01639SL)
20. 2.5Y6/2灰黄色砂質シルト層(鉄斑あり。01639SL)
21. 2.5Y6/1黄灰色砂質シルト層(炭化物・焼土粒多く含む。鉄斑なし。01639SL埋土。竈稼働時の炭化物層か。16層より古い)
22. 2.5Y4/2暗灰黄色砂質シルト層(2.5Y5/1黄灰色シルトブロック少量含む。炭化物・焼土粒を含む。鉄斑あり。01639SL)
23. 2.5Y4/1黄灰色砂質シルトと2.5Y6/1黄灰色シルトの混層(炭化物少量含む。鉄斑あり。01639SL掘方?)
24. 2.5Y6/2灰黄色砂質シルト層(10YR5/2灰黄褐色シルトブロック混入。鉄斑あり。01639SL掘方?)
25. 10YR4/1褐灰色粘土質シルト層(炭化物・焼土粒多く含む。鉄斑あり。01639SL掘方?竈構築時の一次焼成?)
26. 2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルト層(2.5GY4/1暗オリーブ灰色シルトブロック少量含む。鉄斑あり。01639SL掘方?)
27. 10YR3/2黒褐色シルト層(2.5GY7/1明オリーブ灰色シルトブロック混入。鉄斑あり。01601SI掘方)
28. 10YR5/2灰黄褐色粘土質シルト層(炭化物少量含む。鉄斑あり。01601SI掘方)
29. 10YR5/2灰黄褐色シルト層(鉄斑あり。01601SI掘方)
30. 10YR3/3暗褐色シルト層(鉄斑あり。01601SI掘方)
31. 2.5Y5/2暗灰黄色粘土質シルト層(鉄斑あり。01601SI掘方)
32. 10YR5/1褐灰色シルト層(10YR8/3浅黄橙色シルトブロック少量混入。鉄斑少ない。02121SD)
33. 10YR5/2灰黄褐色粘土質シルト層(2.5GY6/1オリーブ灰色シルトブロック多く混入。鉄斑あり。02121SD)
34. 10YR4/2灰黄褐色シルト層(2.5GY6/1オリーブ灰色シルトブロック多く混入。鉄斑あり。02121SD)
35. 5Y4/2灰オリーブ色粘土質シルト層(鉄斑あり。地山)
36. 2.54GY4/1暗オリーブ灰色粘土質シルト層(鉄斑あり。地山)
37. 2.5GY6/1オリーブ灰色粘土質シルト層(鉄斑あり。地山)

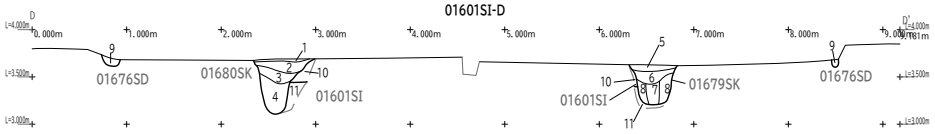
図 194　01601SI 遺構図 (1)



1. 10YR5/3にぶい黄褐色シルト層(鉄斑あり。01601SI)
2. 10YR5/2灰黄褐色シルト層(10YR7/2にぶい黄橙色シルトブロック混入。鉄斑あり。01601SI)
3. 10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルト層(鉄斑あり。01601SI)
4. 10YR4/1褐灰色シルト層(鉄斑あり。01601SI)
5. 10YR4/2灰黄褐色粘土質シルト層(鉄斑あり。01676SD)
6. 10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルト層(鉄斑あり。01676SD)
7. 10YR5/2灰黄褐色シルト層(鉄斑あり。01601SI掘方)
8. 10YR3/3暗褐色シルト層(鉄斑あり。01601SI掘方)
10. 10YR5/1褐灰色粘土質シルト層(鉄斑あり。マンガン粒少量含む。01160SD)
11. 10YR4/1褐灰色粘土質シルト層(鉄斑少ない。01160SD)
12. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR6/2灰黄褐色シルトブロック混入。鉄斑少ない。01160SD)
13. 10YR7/2にぶい黄橙色粘土質シルトと10YR5/2灰黄褐色シルトの混層(鉄斑あり。地山)
14. 2.5Y4/2暗灰黄色粘土質シルト層(炭化物少量含む。鉄斑あり。)
15. 5Y4/2灰オリーブ色粘土質シルト層(鉄斑あり。地山)
16. 2.54GY4/1暗オリーブ灰色粘土質シルト層(鉄斑あり。地山)
17. 2.5GY6/1オリーブ灰色粘土質シルト層(鉄斑あり。地山)



1. 10YR4/2灰黄褐色シルト層(鉄斑あり。01677SK)
2. 10YR5/2灰黄褐色シルト層(鉄斑少ない。01677SK)
3. 10YR4/1褐灰色粘土質シルト層(鉄斑あり。01677SK)
4. 2.5Y4/3オリーブ褐色シルト層(鉄斑あり。01677SK)
5. 10YR4/2灰黄褐色シルト層(鉄斑あり。01678SK)
6. 10YR5/2灰黄褐色シルト層(炭化物少量含む。鉄斑少ない。01678SK)
7. 2.5Y4/2暗黄色粘土質シルト層(炭化物含む。鉄斑あり。01678SK)
8. 10YR4/1褐灰色粘土質シルト層(炭化物少量含む。鉄斑あり。01678SK)
9. 2.5Y4/3オリーブ褐色シルト層(鉄斑あり。01678SK)
10. 10YR4/2灰黄褐色粘土質シルト層(鉄斑あり。01676SD)
11. 10YR4/3にぶい黄褐色シルト層(2.5GY6/1オリーブ灰色シルトブロック多く混入。鉄斑あり。01601SI掘方)
12. 2.5GY4/1暗オリーブ灰色粘土質シルト層(鉄斑あり。地山)



1. 2.5Y4/1黄灰色シルト層(鉄斑あり。01680SK)
2. 10YR4/2灰黄褐色シルト層(鉄斑あり。01680SK)
3. 10YR5/2灰黄褐色シルト層(鉄斑あり。01680SK)
4. 2.5Y4/3オリーブ褐色シルト層(7.5Y6/2灰オリーブ色シルトブロック少量混入。鉄斑あり。01680SK)
5. 10YR4/2灰黄褐色シルト層(鉄斑あり。01679SK)
6. 10YR5/2灰黄褐色シルト層(マンガン粒含む。鉄斑少ない。01679SK)
7. 10YR4/1褐灰色粘土質シルト層(鉄斑あり。01679SK柱痕)
8. 2.5Y4/3オリーブ褐色シルト層(鉄斑あり。01679SK)
9. 10YR4/2灰黄褐色粘土質シルト層(鉄斑あり。01676SD)
10. 10YR4/3にぶい黄褐色シルト層(2.5GY6/1オリーブ灰色シルトブロック多く混入。鉄斑あり。01601SI掘方)
11. 2.5GY4/1暗オリーブ灰色粘土質シルト層(鉄斑あり。地山)

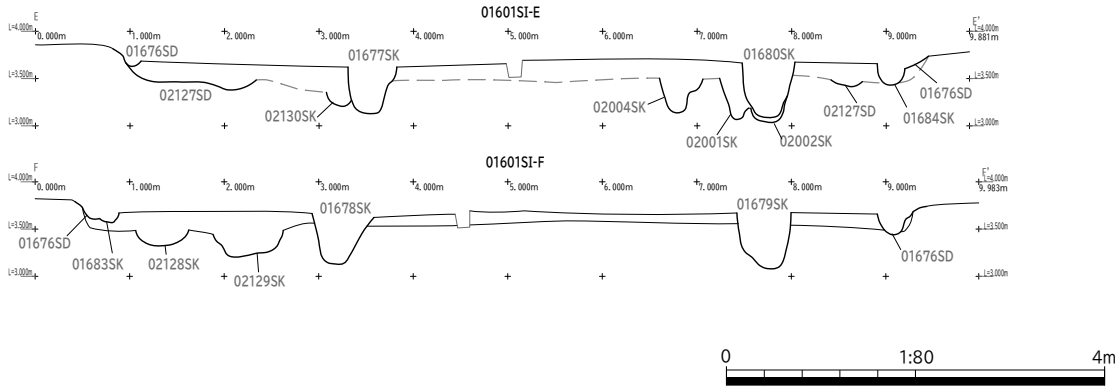
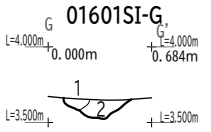
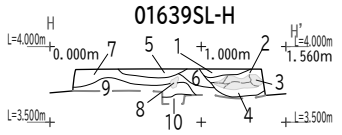


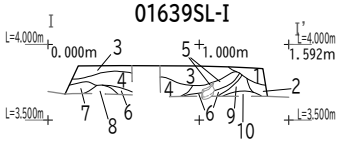
図 195 01601SI 遺構図 (2)



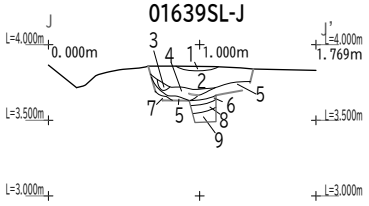
1. 10YR6/2灰黄褐色シルト層
（炭化物・焼土粒多く含む。鉄斑多い。01639SL）
2. 10YR5/2灰黄褐色シルト層
（炭化物・焼土粒多く含む。鉄斑あり。01639SL）



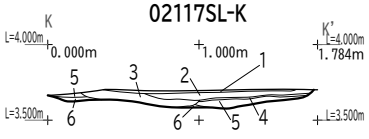
1. 2.5Y4/3オリーブ褐色砂質シルト層（鉄斑あり。01639SL）
2. 2.5Y5/3黄褐色砂質シルト層（焼土粒少量含む。鉄斑あり。01639SL）
3. 10YR4/4褐色シルト層（鉄斑あり。焼土塊。01639SL）
4. 10YR4/2灰褐色シルト層（鉄斑あり。01639SL）
5. 10YR5/3にぶい黄褐色シルト層（炭化物少量含む。鉄斑あり。01601SI）
6. 10YR6/4にぶい黄橙色シルト層（鉄斑多い。01601SI）
7. 2.5Y4/2暗灰黄色シルト層（10YR7/2にぶい黄橙色
砂質シルトブロック少量混入。鉄斑あり。01601SI）
8. 7.5YR8/3浅黄橙色砂質シルト層（鉄斑なし。焼土塊。01601SI）
9. 2.5Y5/1黄灰色砂質シルト層（炭化物・焼土粒少量含む。
鉄斑少ない。01601SI）
10. 2.5Y6/2灰黄色砂質シルト層（10YR5/2灰黄褐色シルトブロック混入。
鉄斑あり。01639SL掘方？）



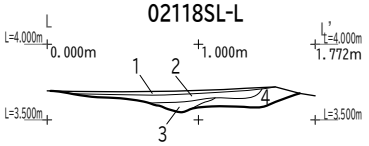
1. 2.5Y4/3オリーブ褐色砂質シルト層（鉄斑あり。01639SL）
2. 2.5Y5/3黄褐色砂質シルト層（焼土粒少量含む。鉄斑あり。01639SL）
3. 10YR6/4にぶい黄橙色シルト層（鉄斑多い。01601SI）
4. 2.5Y4/1黄灰色砂質シルト層（炭化物少量含む。鉄斑あり。01639SL）
5. 5YR5/2灰褐色砂質シルト層（焼土粒多く含む。鉄斑なし。01639SL）
6. 10YR6/1褐灰色砂質シルト層（炭化物多く含む。鉄斑あり。01639SL）
7. 10YR4/1褐灰色砂質シルト層（鉄斑あり。01639SL）
8. 7.5Y5/2灰オリーブ色粘土質シルト層（鉄斑少ない。01639SL竈の袖？）
9. 7.5Y4/2灰オリーブ色砂質シルト層（鉄斑少ない。01639SL竈の袖？）
10. 7.5Y5/1灰色粘土質シルト層（鉄斑少ない。01639SL竈の袖？）



1. 10YR6/4にぶい黄橙色シルト層（鉄斑多い。01601SI）
2. 2.5Y4/1黄灰色砂質シルト層（炭化物少量含む。
鉄斑あり。01639SL）
3. 2.5Y6/2灰黄色砂質シルト層（炭化物少量含む。
鉄斑あり。01639SL）
4. 2.5Y6/2黄灰色砂質シルト層（炭化物・焼土粒含む。
鉄斑少ない。01639SL）
5. 2.5Y6/2灰黄色砂質シルト層（鉄斑あり。01639SL）
6. 2.5Y6/1黄灰色砂質シルト層（炭化物・焼土粒多く含む。
鉄斑なし。01639SL。竈稼働時の炭化物層か）
7. 2.5Y6/2灰黄色粘土質シルト層（01639SL。袖の一部？）
8. 10YR4/1褐灰色粘土質シルト層（炭化物・焼土粒多く含む。
鉄斑あり。01639SL掘方？竈構築時の一次焼成？）



1. 10YR6/2灰黄褐色砂質シルト層（炭化物・焼土粒多く含む。鉄斑少ない）
2. 2.5Y6/2灰黄色シルト層（炭化物・焼土粒含む。鉄斑あり）
3. 2.5Y5/2暗灰黄色粘土質シルトと
10YR6/1褐灰色シルトの混層（炭化物・焼土粒含む。鉄斑あり）
4. 2.5Y5/1黄灰色砂質シルト層（炭化物含む。鉄斑あり）
5. 2.5Y6/1黄灰色砂質シルト層（炭化物含む。鉄斑あり）
6. 2.5Y6/2灰黄色砂質シルト層（炭化物含む。鉄斑あり）



1. 5YR6/2灰黄褐色中粒砂と2.5Y7/2灰黄色
砂質シルトの混層（炭化物多く含む。鉄斑あり）
2. 10YR7/2にぶい黄橙色シルトと10YR6/1褐灰色
シルトの混層（炭化物含む。鉄斑あり）
3. 2.5Y6/1黄灰色シルト層（炭化物少量含む。焼土粒含む。鉄斑あり）
4. 2.5Y5/1黄灰色砂質シルト層（炭化物含む。鉄斑あり）

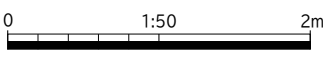
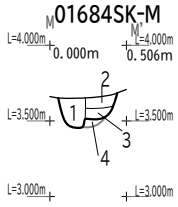
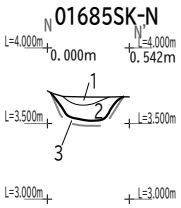


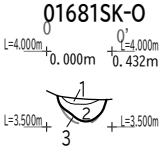
図 196　01601SI 関連（01601SI・01639SL・02117SL・02118SL）遺構図



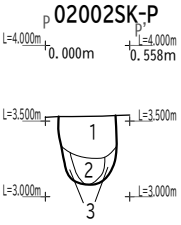
1. 10YR4/1褐灰色シルト層
(7.5Y6/2灰オリーブ色シルトブロック
多く混入。鉄斑あり)
2. 10YR5/1褐灰色シルト層(鉄斑あり)
3. 10YR4/2灰黄褐色シルト層
(7.5Y6/2灰オリーブ色シルトブロック
少量混入。鉄斑あり)



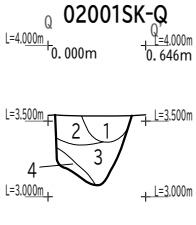
1. 10YR5/1褐灰色シルト層(鉄斑あり)
2. 10YR5/2灰黄褐色シルト層
(10YR7/2にぶい黄橙色シルトブロック
混入。鉄斑あり)
3. 10YR4/3にぶい黄褐色シルト層
(2.5GY6/1オリーブ灰色シルトブロック



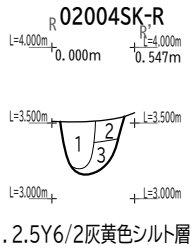
1. 10YR5/2灰黄褐色シルト層
(7.5Y6/2灰オリーブ色シルト
ブロック少量混入。鉄斑あり)
2. 10YR5/1褐灰色シルト層
(7.5Y6/2灰オリーブ色シルト
ブロック少量混入。鉄斑あり)
3. 10YR4/3にぶい黄褐色シルト層
(2.5GY6/1オリーブ灰色シルト
ブロック多く混入。鉄斑あり。
01601SI掘方)



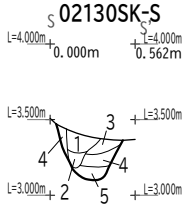
1. 10YR6/2灰黄褐色シルト層
(2.5GY6/1オリーブ灰色シルト
ブロック少量混入。鉄斑あり)
2. 10YR7/2にぶい黄橙色粘土質シルト層
(鉄斑少ない)
3. 2.5Y7/2灰黄色シルト層
(2.5Y6/1黄灰色シルトブロック少量混入。
鉄斑あり)



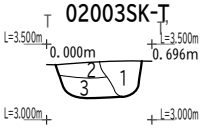
1. 2.5Y4/1黄灰色粘土質シルト層
(2.5Y5/2暗灰黄色シルトブロック少量含む。鉄斑あり)
2. 10YR7/2にぶい黄橙色シルト層
(2.5Y7/2灰黄色シルトブロック多量に含む。鉄斑あり)
3. 10YR6/1褐灰色シルト層
(2.5GY6/1オリーブ灰色シルトブロック多量に含む。鉄斑あり)
4. 2.5Y7/1褐灰色シルト層(炭化物少量含む。鉄斑少ない)



1. 2.5Y6/2灰黄色シルト層
(10Y6/1褐灰色シルトブロック混入。鉄斑少ない)
2. 10YR6/2灰黄褐色シルト層(鉄斑少ない)
3. 2.5Y5/2暗灰黄色粘土質シルト層(鉄斑少ない)



1. 2.5Y4/1黄灰色粘土質シルト層(鉄斑少ない)
2. 2.5Y4/2暗灰色シルト層(鉄斑少ない)
3. 10YR5/2灰黄褐色シルト層(鉄斑あり)
4. 10YR4/2灰黄褐色シルト層(鉄斑少ない)
5. 2.5Y5/2暗灰黄色粘土質シルト層(鉄斑少ない)



1. 2.5Y6/2灰黄色シルト層
(10Y6/1褐灰色シルトブロック混入。
鉄斑少ない)
2. 10YR6/2灰黄褐色シルト層(鉄斑少ない)
3. 2.5Y5/2暗灰黄色粘土質シルト層(鉄斑少ない)

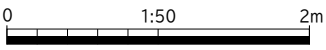


図 197 01601SI 関連（01648SD・01655SK・01681SK・02001SK・02002SK・02003SK・02004SK・02130SK）遺構図

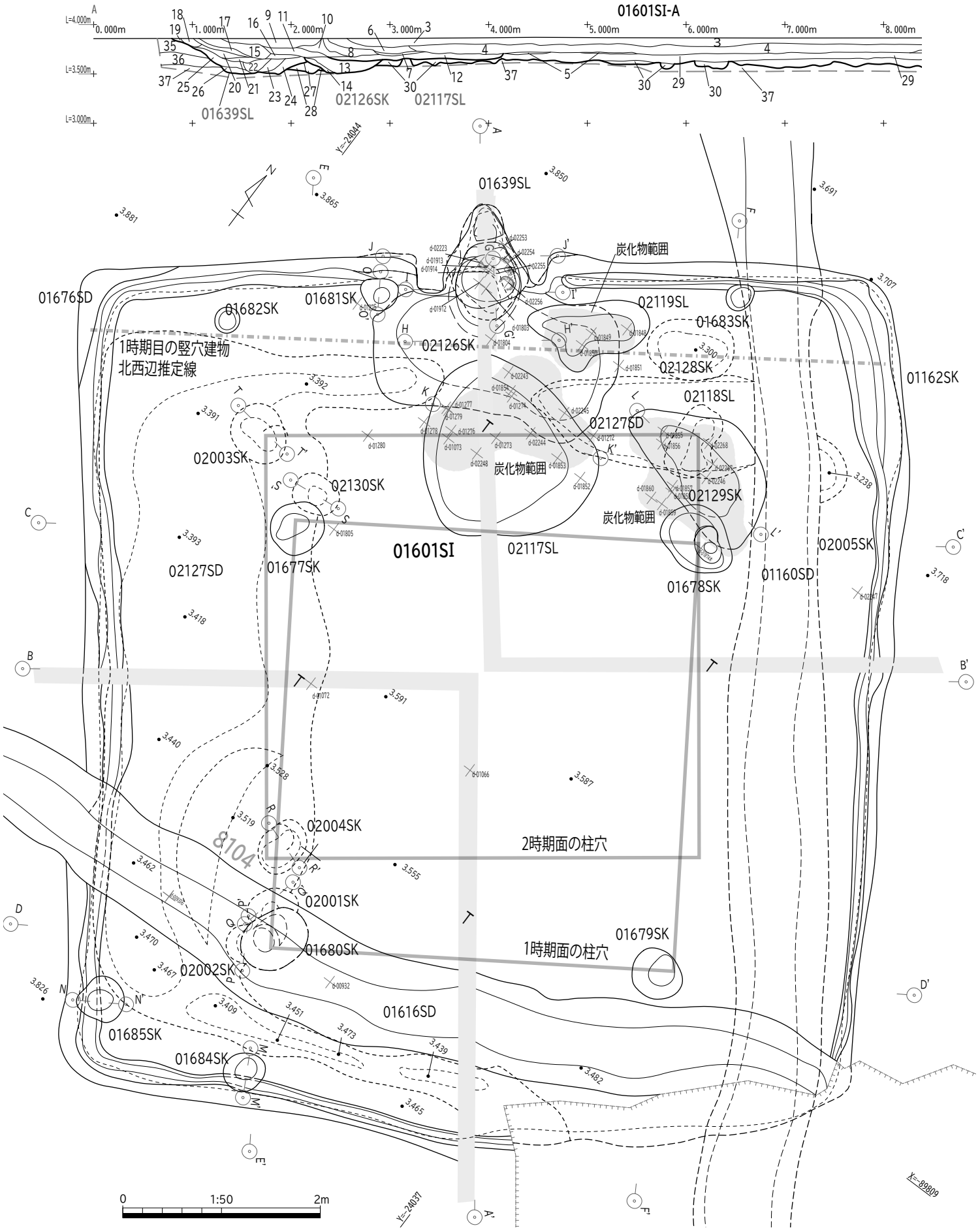


図 198 01601SI 遺構図 (3)

い凹凸がいくつもみられる（図 194・195、土層断面 A-A’・B-B’）。また同周縁部の一部は幅広周溝状になっており（02127SD）、南西辺に沿った約 2.0m 幅と北西辺・南東辺のそれぞれ半分まで広がっている。02127SD の埋土はその上層（A-A’ の 29・30 層と B-B’ の 7・8 層）に削平され、最終的にこの上層が貼床になったと考えられる。その上面では炭化物層の分布が部分的にみられることから、床面として機能していたことも確認される。

柱穴は、01601SI の底面で検出されたピットのほとんどが該当するとみられる。それらを 4 か所でそれぞれまとめると、西隅から右回りに① 02003SK と 02130SK・01677SK の重複、②北隅の掘り方で検出された土坑 02129SK（上位に炭化物集積遺構　02118SL）と 01678SK、③東隅の 01679SK、④南隅の 02004SK と 02001SK・01680SK の重複、となる。このうち③以外では、ぞれぞれで北西寄りと南東寄りの 2 つに分布が分かれることから、2 時期の柱穴が存在すると考えてよいだろう。そしてそれらの柱並びを検討すると、南東寄りの① 02130SK・01670SK、② 01678SK、③ 01679SK、④ 02001SK・01680SK の 4 基と、北西寄りの① 02003SK、② 02129SK、③不明、④ 01680SK の 4 基の組み合わせが想定される。次にこれらの構築順であるが、北西辺に沿う周溝状掘り方 02127SD の上端ラインが、北西辺から約 1.0m 離れていることに注目したい。この上端から①・②の北西寄り柱穴までの距離約 1.5m は、③・④から南東辺までの距離にほぼ等しい。このことから 02127SD の掘削をともなう 1 時期目の柱穴の組み合わせは南東寄りの 4 基が該当し、その後カマド 01639SL の構築をともなって北西方向へ約 1.0m 拡張した 2 時期目には、北西寄りの 4 基の柱穴が使われたと考えられる（図 198）。

以上のように 016001SI は前後 2 時期の変遷が想定され、カマド跡やそれに付属する炭化物堆積層は 2 時期目に該当すると考えられる。一方、1 時期目のカマド痕跡は北西辺の再構築によってほぼ滅失したと考えられ、土層断面 A-A’ の 27・28 層の炭化物層にわずかな痕跡があるに過ぎない。

出土遺物は、須恵器が小片が大半であるのに対して土師器は甕の大型破片が含まれている。須恵器杯蓋(1746・1747）は H-101 号窯式期が下限、杯身のうち 1749 は I-17 号窯式期、無蓋高杯（1752）は I-101 号窯式期、1756 は 8 世紀代の蓋、小型の広口壺（1758）の底部外面には線刻、1759・1762 は口縁端部が直立または若干内傾する甑、1760 はこね鉢である。土師器の甕は小型甕（1764・1767・1768・1779）と長胴甕（1765・1766・

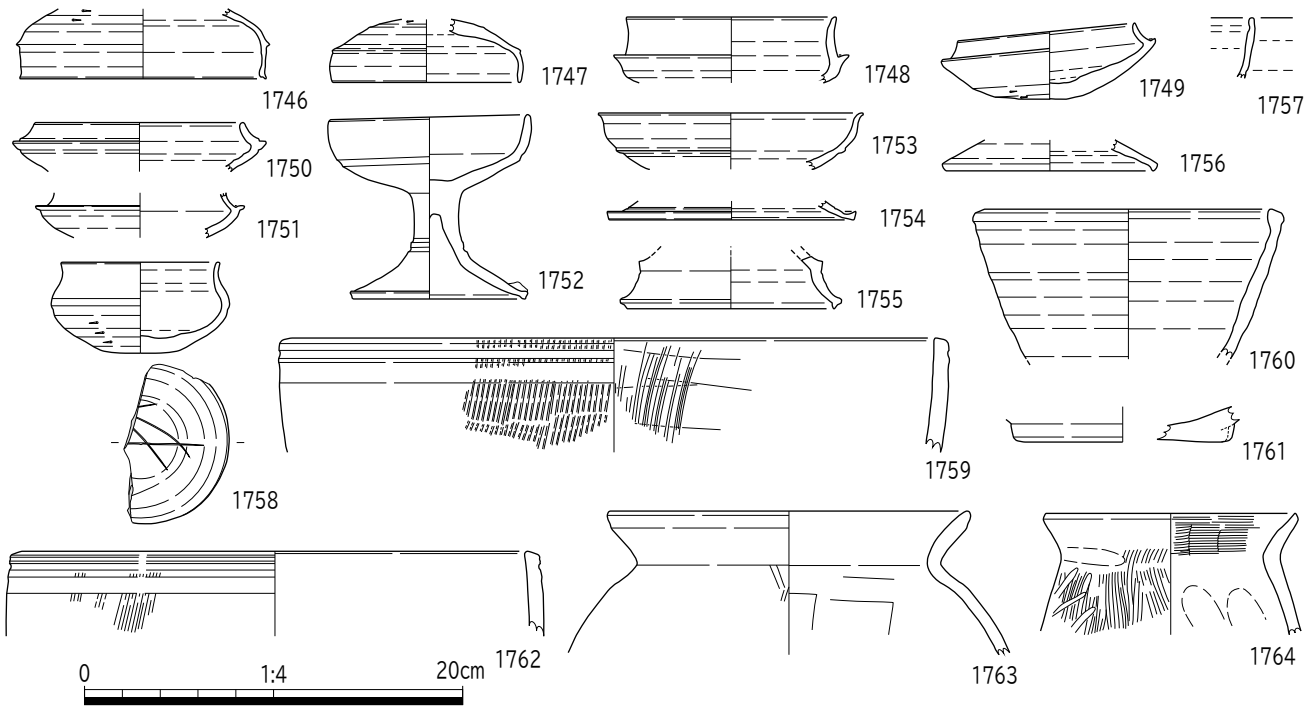


図 199　01601SI・01639SL 出土遺物実測図

1771 ～ 1773・1778）に区分され、1769・17770 のように平底の底部もある。1770 の底部外面には木葉状の線刻がある。甕の口縁部は、端部を摘み上げる型式いわゆる伊勢型甕の系譜にあるものがほとんどであるが、その摘み上げも比較的省略傾向にあるので、時期は 7 世紀半ば以降であろう。ただし胴部の器壁は 4 ～ 5㎜ と比較的厚く、時期は 8 世紀代までは下らないと考えられる。

2 時期目のカマドに関連すると考えられる炭化物堆積層 02117SL・02118SL からも土師器甕（1782・1785）や H-15 号窯式期の須恵器杯蓋（1783）、H-15 号窯式期～

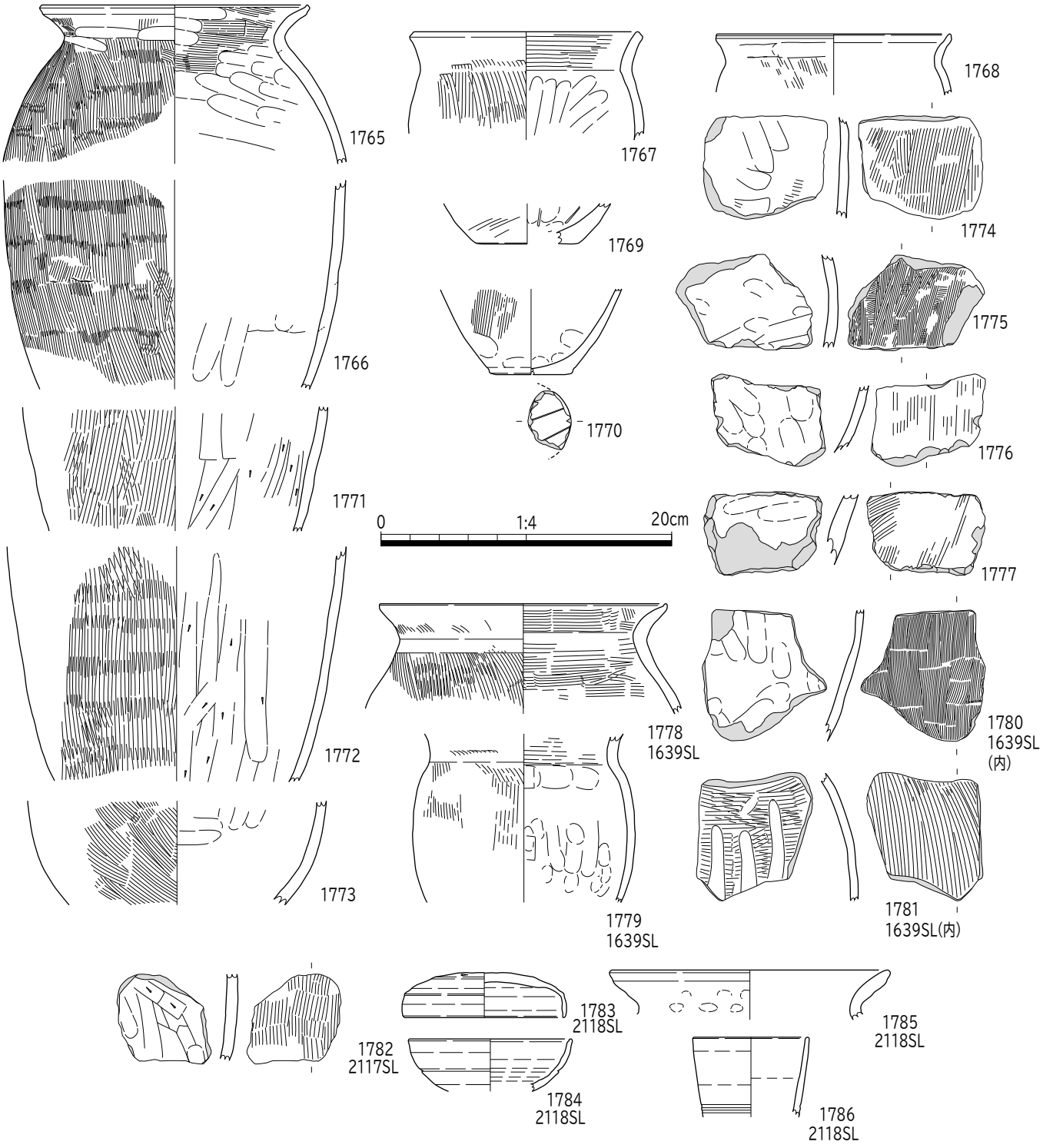


図 200　01601SI・02117SL・02118SL 出土遺物実測図

I-101 号窯式期の須恵器無蓋高杯（1784）、7 世紀前半の須恵器瓶類口縁部（1786）が出土している。

以上から、01601SI の機能～廃絶の年代は 7 世紀後半代と推定される。

01750SI 旧河道左岸、調査範囲南西部（21Ba 区）に位置する竪穴建物跡である。旧河道左岸の微高地上に展開する建物群のなかでも特に南西辺にあり、01750SI の南西辺から約 1.7m の距離には集落域の西辺を北西～南東方向に延びる溝 00200SD がある。01750SI は、その北隅で竪穴建物跡 01900SI と重複し、その壁溝が 01750SI の底面を掘り込むように検出されている（図 201）。ただしこの重複関係が判明した時点で 01750SI の北隅は完掘してそのわずかな痕跡のみであったことから、この先後関係の根拠は弱いことを付記しておく（01750SI 底面の標高は約 3.9m ～ 4.1m に対し、01900SI の壁溝～底面の標高は約 3.8 ～ 3.9m）。

01750SI の平面形は北西～南東方向にやや長い長方形をしており、その規模は長軸約 7.0m、短軸約 6.3m、深さ約 0.1m である。北東辺にカマド跡 01903SL が約 0.4m の突出部をともなって造り付けられていることから、建物の主軸方向は北東～南西方向であり、その主軸方向はグリッド北から東へ 55° 振れている。

カマド跡（01903SL）は平面形が楕円形の皿状土坑であり、炭化物の混じる堆積の単一層である（図 202、土層断面 D-D'）。それは長軸約 0.6m、短軸約 0.6m と小型であり竪穴部中心に向かってはさほど突出していない。後述するように 01750SI の床面より上の状況があまり残存していなかったことから、炭化物の分布のようなカマド機能時の状況を示す痕跡は少ない。

土層断面（図 202、土層断面 A-A'・B-B'）によると、01750SI の掘り方は 15 層の下面が相当し、黒褐色のシルトがブロック状になって多く含まれている。当該層は人為的に一度に埋められていることから、貼床に相当すると考えられるが、北東辺近く（土層断面 B-B'）では 15 層の下位に浅い凹みに 18 層の堆積が確認されていることから、部分的に幅広周溝状の掘り方で掘削されたものと考えられる。床面（15 層上面）はほぼ遺構検出面で、その上位層（1・4 層）はわずかにみられるのみである。また、壁溝（1941SD）が 15 層を掘り込んでいることからも 15 層が貼床であることが示される。このことから 01750SI の貼床は厚さ約 0.1 ～ 0.2m と比較的厚い。

柱穴は、01750SI の底面で検出された多数のピットのなかから絞り込む必要がある。壁溝や貼床の状況から複数回の再構築は考えにくく、4 本柱を想定すると、北隅の 01786SK・01787SK、東隅の 01980SK・01979SK、南隅の 01986SK、西隅の 01766SK・01765SK が候補として考えられる。しかしこの案では柱穴列は南東辺にやや偏ることになる。北西辺方向への拡張の痕跡は見出せていないが、創建期の柱構築後に、掘り方を計画（見込み）より広い範囲で掘削した可能性も考えられる。

出土遺物は小片が主体で量は多くない。しかも検出された部分の大半が貼床（掘り方の埋土）であることから、ほとんどが 01750SI 構築時に混入した土器ということになる。須恵器杯蓋（1787・1788）は H-10 号窯式期、杯身（1789・1790）も直立する口縁部や平らな底面のある比較的小口径であることから同様の時期、高杯の脚部（1791・1792）も端部に凸帯があることから 6 世紀代と考えられる。唯一須恵器長頸瓶の口縁部（1793）は、端部がラッパ状に開き三角形の摘み上げと内面の凹み、頸部外面に 2 条の凹線などから H-44 号窯式期以降の 7 世紀代と考えられる。1793 については詳細な出土位置情報はないものの 15 層中から出土した可能性が高く、よって 01750SI の構築時期は 7 世紀まで下ると考えられる。

01799SI・01996SI 旧河道左岸、調査範囲南西部（21Ba 区）に位置する竪穴建物跡である。旧河道左岸の微高地上に展開する建物群の南部にあり、竪穴建物跡 01996SI と大半が重複関係にあって、それより新しい時期である。ただし当該地点では、遺構面からの深さが 0.1m 未満と浅い箇所があって 01799SI・01996SI ともに上部は大きく削平されている

01799SI は平面形が東西方向にやや長い長方形で、その規模は長軸約 5.0m、短軸約 4.4m、深さ約 0.1m である。カマド跡など火処が不明であるため、主軸方向も特定しがたいが、仮に南北方向であると仮定すると、それはグリッド北から西へ 13° 振れている。

01799SI ではカマド跡と柱穴は検出されず、全周する壁溝（02204SD）のみ確認されている。その土層断面（図 205、A-A'・B-B'）によれば、掘り方の全面に貼床（21 層）が施された上から壁溝（5・6 層）掘り込まれてれている。したがってこれらの上面が床面（機能面）ということになる。そして廃絶後、床面を覆う 1 層はブロック状の土を含んでいることから埋め戻された可能性が高い。

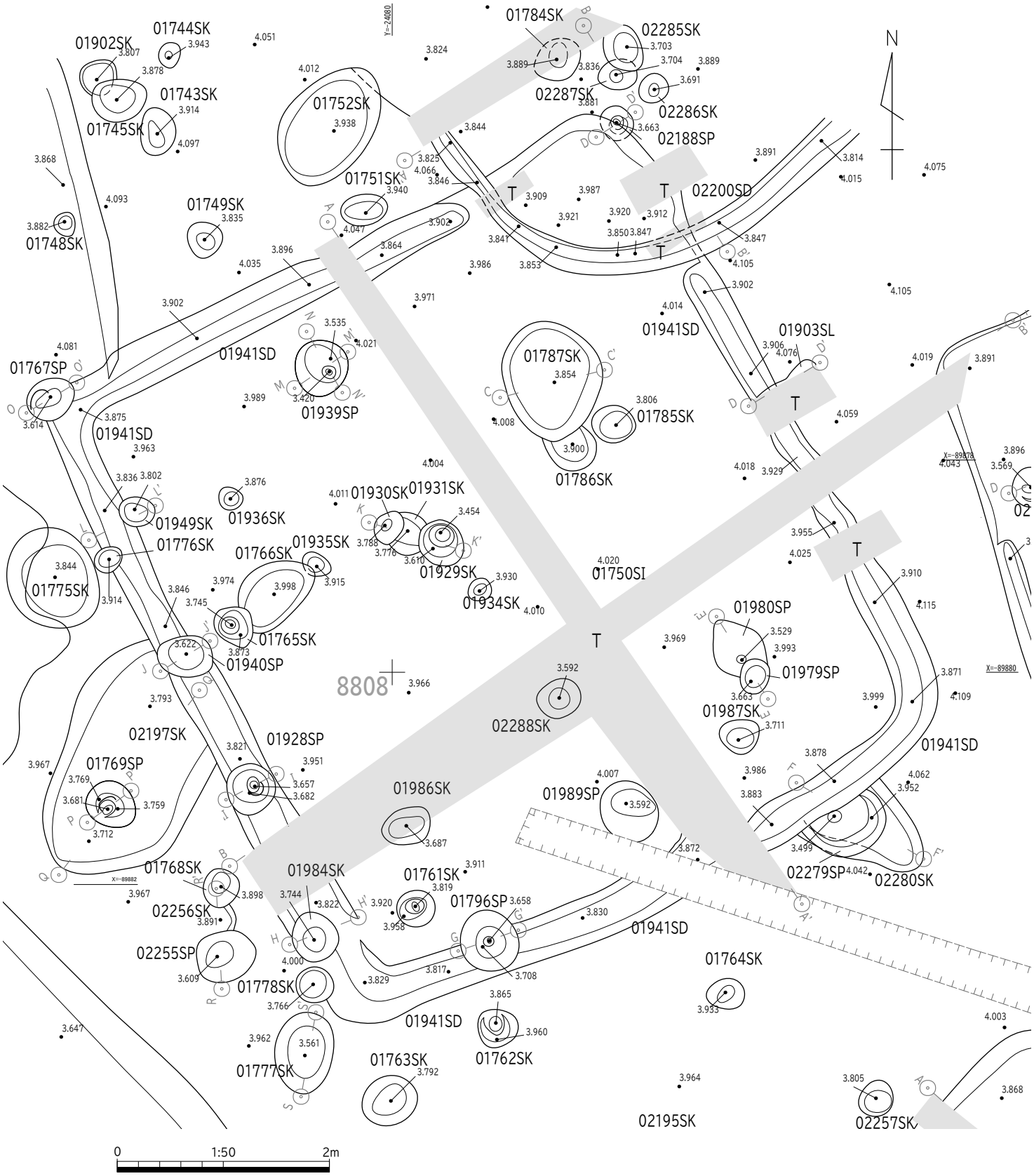
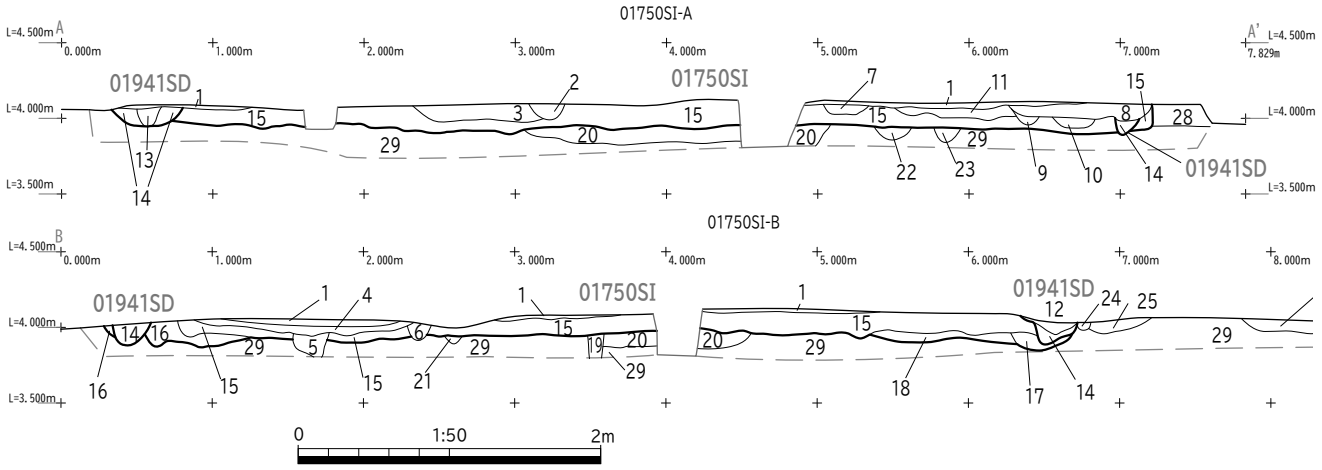
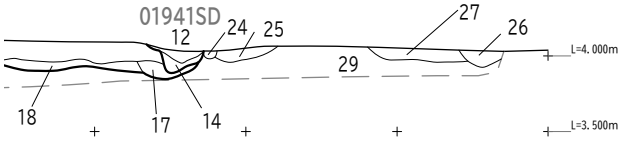
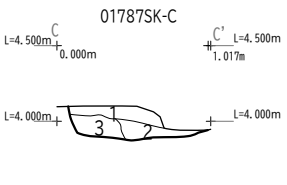


図 201 01750SI 遺構図

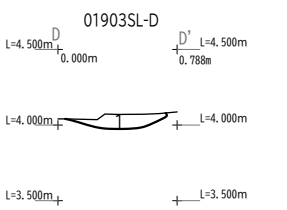




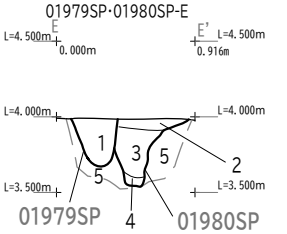
1. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(炭化物を含む。01750SI)
2. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを少量含む。炭化物を極少量含む。01750SI)
3. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂ブロックを含む。01750SI)
4. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂ブロックを多く含む。炭化物を極少量含む。01750SI)
5. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂ブロックを含む。炭化物を極少量含む。01750SI)
6. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂ブロックを含む。01750SI)
7. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂ブロックを非常に多く含む。炭化物を極少量含む。01750SI)
8. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを含む。炭化物を極少量含む。01750SI)
9. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを少量含む。01750SI)
10. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを少量含む。炭化物を極少量含む。01750SI)
11. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂大ブロックを多く含む。炭化物を極少量含む。01750SI)
12. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを少量含む。01941SD)
13. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを含む。01941SD)
14. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層(10YR3/2黒褐色シルト大ブロックを多く含む。01941SD)
15. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層(10YR3/2黒褐色シルトブロックを多く含む。炭化物を極少量含む。01750SI掘方か)
16. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂ブロックを多く含む。炭化物を極少量含む。01750SI掘方か)
17. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層(10YR3/2黒褐色シルト小ブロックを少量含む。01750SI掘方か)
18. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層(10YR4/3にぶい黄褐色極細粒砂ブロックを含む。01750SI掘方か)
19. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層(10YR3/2黒褐色シルトブロックを少量含む。鉄分沈着)
20. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層(10YR3/2黒褐色シルトブロックを含み、にぶい黄褐色極細粒砂小ブロックを少量含む。炭化物を少量含む)
21. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層(10YR3/2黒褐色シルト小ブロックを少量含む)
22. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層(10YR3/2黒褐色シルト小ブロックを少量含む。炭化物を極少量含む)
23. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層(10YR3/2黒褐色シルト小ブロックを少量含む)
24. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層
25. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを少量含む)
26. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを少量含む。炭化物を極少量含む)
27. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層(10YR3/2黒褐色シルト小ブロックを少量含む)
28. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層(10YR3/2黒褐色シルト小ブロックを少量含む。炭化物を少量含む)
29. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層(地山)



1. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂ブロックを含む。炭化物を極少量含む)
2. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂大ブロックを少量含む。炭化物を極少量含む)
3. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを多く含む)

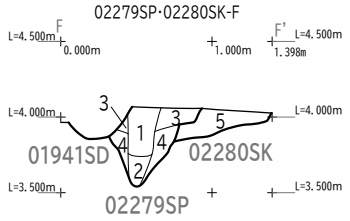


1. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂ブロックを少量含む。炭化物を含む)

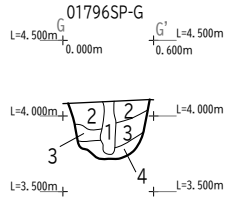


1. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを多く含む。炭化物を極少量含む。01979SP)
2. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂ブロックを多く含む。炭化物を少量含む。01980SP)
3. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂ブロックを含む。01980SP)
4. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを少量含む。01980SP)
5. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層(地山)

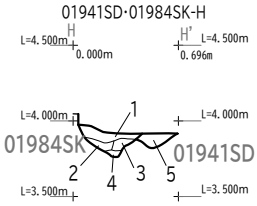
図 202 01750SI 関連（01787SK・01903SL・01979SP・01980SP）遺構図（1）



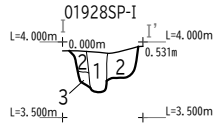
1. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを少量含む。炭化物を少量含む。鉄分沈着。柱痕。02279SP)
2. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを少量含む。炭化物を極少量含む。鉄分沈着顕著。柱痕。02279SP)
3. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層(10YR3/2黒褐色シルトブロックを含む。掘方。02279SP)
4. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層(10YR3/2黒褐色シルト小ブロックを少量含む。炭化物を極少量含む。掘方。02279SP)
5. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層(10YR3/2黒褐色シルトブロックを少量含む。02280SK)



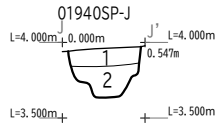
1. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR7/1灰白色細粒砂ブロックを多く含む。炭化物を極少量含む。柱痕)
2. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR7/1灰白色細粒砂小ブロックを含み、灰黄褐色極細粒砂小ブロックを少量含む。炭化物を極少量含む。掘方)
3. 10YR4/2灰黄褐色粘土質シルト層(10YR3/2黒褐色シルト大ブロックを非常に多く含む。掘方)
4. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層(10YR3/2黒褐色シルトブロックを多く含む。掘方)



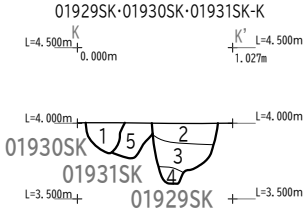
1. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを含む。01984SK)
2. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂大ブロックを含む。01984SK)
3. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層(10YR3/2黒褐色シルト大ブロックを少量含む。01984SK)
4. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層(10YR3/2黒褐色シルトブロックを含む。01949SK)
5. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層(10YR3/2黒褐色シルト小ブロックを非常に多く含む。01941SD)



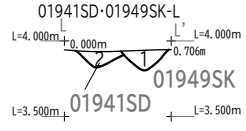
1. 7.5YR4/1褐灰色シルト質極細粒砂層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを含む。炭化物を少量含む。柱痕)
2. 7.5YR4/1褐灰色シルト質極細粒砂層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂大ブロックを多く含む。炭化物を極少量含む。掘方)
3. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層(7.5YR4/1褐灰色極細粒砂小ブロックを含む。炭化物を極少量含む。掘方)



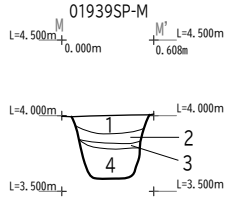
1. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを多く含む)
2. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂ブロックを多く含む)

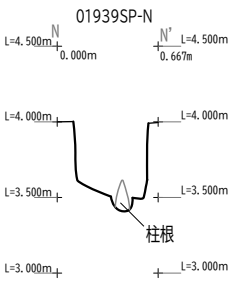


1. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを含む。01930SK)
2. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂ブロックを含む。01929SK)
3. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを少量含む。01929SK)
4. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層(10YR3/2黒褐色シルトブロックを含む。炭化物を極少量含む。01929SK)
5. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂ブロックを多く含む。炭化物を極少量含む。01931SK)



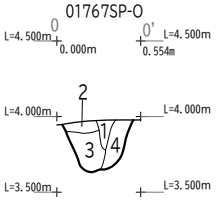
1. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR7/1灰白色細粒砂ブロックを少量含み、10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを少量含む。炭化物を極少量含む。01949SK)
2. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層(10YR3/82黒褐色シルトブロックを含む。01941SD)



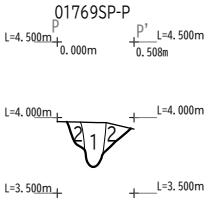


1. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂ブロックを含む。炭化物を極少量含む)
2. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂ブロックを多く含む)
3. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層(10YR3/2黒褐色シルト小ブロックを少量含む)
4. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを含む。炭化物を少量含む)

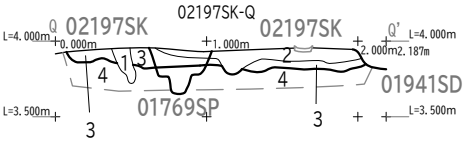
図 203　01750SI 関連（01787SK・01903SL・01979SP・01980SP）遺構図（2）



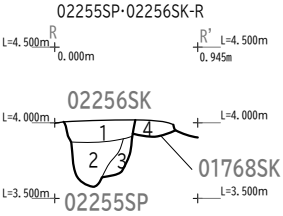
1. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(炭化物を極少量含む。鉄分沈着)
2. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂ブロックを含む。炭化物を極少量含む)
3. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂ブロックを多く含む。炭化物を少量含む)
4. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層(10YR3/2黒褐色シルトブロックを含む)



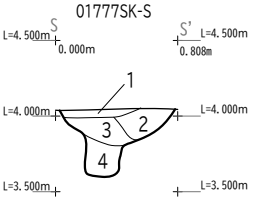
1. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂ブロックを少量含み、細礫含む。鉄分沈着。柱痕)
2. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを多く含む。掘方)



1. 植生痕
2. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを多く含む。02197SK)
3. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層(10YR3/2黒褐色シルトブロックを多く含む。02197SK)
4. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層(地山)



1. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを多く含む。02255SP)
2. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂ブロックを含む。炭化物を含む。02255SP)
3. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂ブロックを多く含む。炭化物を少量含む。02255SP)
4. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層(10YR3/2黒褐色シルトブロックを含む。002256SK)



1. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR7/1灰白色細粒砂小ブロックを少量含む。炭化物を極少量含む)
2. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを含む。炭化物を少量含む)
3. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂ブロックを多く含む。炭化物を少量含む)
4. 10YR4/2灰黄褐色粘土質シルト層(10YR3/2黒褐色シルト小ブロックを少量含む。炭化物を多く含む。柱痕)

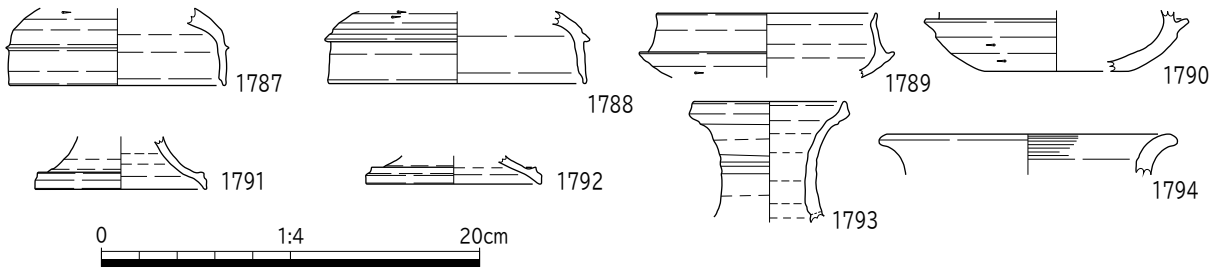
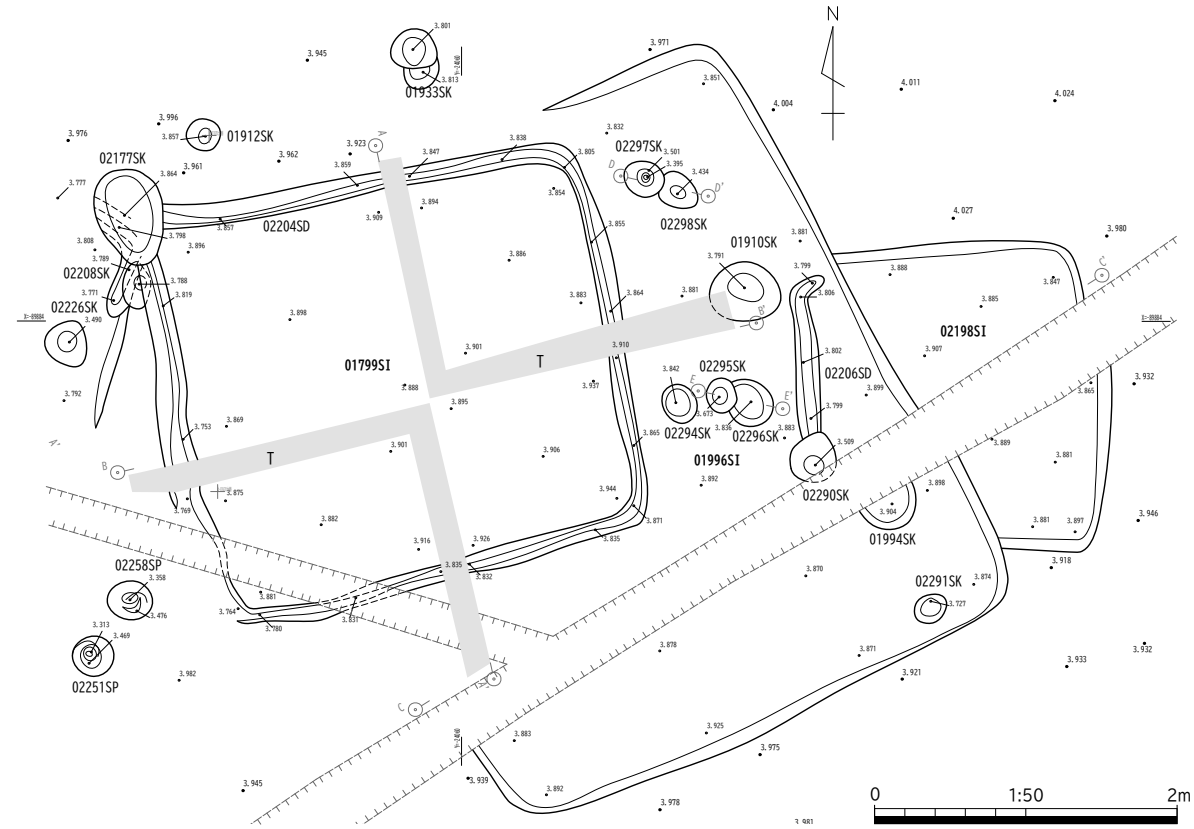
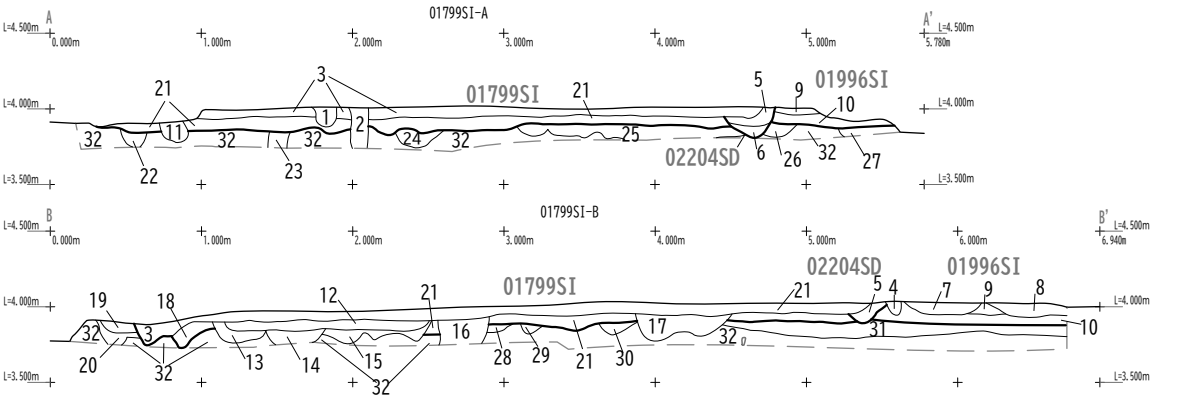


図 204 01750SI 関連（01787SK・01903SL・01979SP・01980SP）遺構図（3）・出土遺物実測図



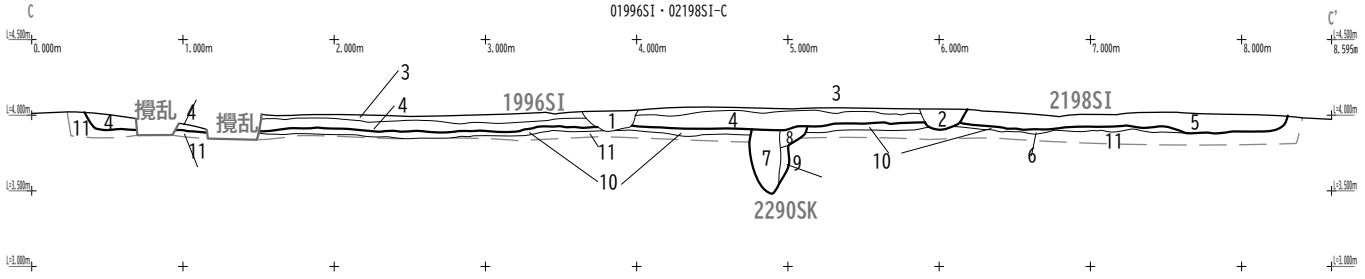


1. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層（10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを少量含む。鉄分少量沈着）
2. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層（10YR4/1褐灰色極細粒砂ブロックを含む。炭化物を極少量含む）
3. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層（10YR4/2灰黄褐色極細粒砂ブロックを含む。炭化物を含む。鉄分沈着顕著。01799SI）
4. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層（鉄分少量沈着）
5. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層（10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを少量含む。鉄分少量沈着。02204SD）
6. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層（10YR3/2黒褐色シルトブロックを多く含む。02204SD）
7. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層（炭化物を極少量含む。01996SI）
8. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層（10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを少量含む。炭化物を少量含む。01996SI）
9. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層（10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを少量含む。鉄分少量沈着。01996SI）
10. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層（炭化物を少量含む。鉄分沈着顕著。01996SI）
11. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層（10YR3/2黒褐色シルト大ブロックを含む。炭化物を少量含む）
12. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層（10YR4/2灰黄褐色極細粒砂ブロックを含む。鉄分沈着）
13. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層（10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを含む。炭化物を少量含む）
14. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層（10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを少量含む。炭化物を少量含む）
15. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層（10YR3/2黒褐色シルトブロックを多く含む。炭化物を極少量含む）
16. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層（10YR4/2灰黄褐色極細粒砂ブロックを多く含む。炭化物を多く含む。鉄分沈着）
17. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層（10YR4/2灰黄褐色極細粒砂ブロックを含む。炭化物を少量含む。鉄分沈着）
18. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層（10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを少量含む。01799SI）
19. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層（炭化物を極少量含む）
20. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層（10YR3/2黒褐色シルトブロックを含む。炭化物を極少量含む）
21. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層（10YR7/1灰白色細粒砂小ブロックを少量含む。鉄分沈着顕著。01799SI）
22. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層（10YR3/2黒褐色シルトブロックを少量含む。炭化物を極少量含む）
23. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層（10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを含む）
24. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層（10YR3/2黒褐色シルト小ブロックを少量含む）
25. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層（10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを多く含む。鉄分少量沈着）
26. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層（10YR4/2灰黄褐色極細粒砂ブロックを少量含む）
27. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層（10YR4/2灰黄褐色極細粒砂ブロックを含む。鉄分沈着）
28. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層
29. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層（10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを少量含む）
30. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層（10YR3/2黒褐色シルト大ブロックを多く含む）
31. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層（鉄分沈着。地山）
32. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層（鉄分少量沈着。地山）

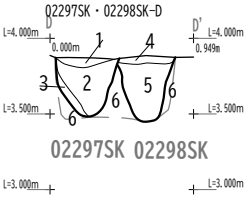
図 205　01799SI 遺構図

01996SI は北西部を中心に 01799SI に削平されているのでその下位ではほとんど残存していない。カマド跡は検出されていない。北東辺と南東辺が残存しており、それらを基準にすると、平面形はやや南北に長い長方形となる。その規模は長軸約 7.0m、短軸約 6.9m、深さ約 0.1m とやや大型に分類される。その南北方向を主軸とすると、その方位はグリッド北から西へ 27° 振れている。

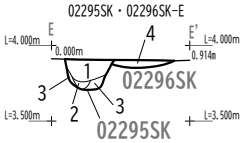
土層断面（図 206C-C'）によれば東側で 02198SI と重複し、壁溝（2 層）が掘り込まれる。よって 01996SI 埋土の主体を占める 3・4 層は、床面下の貼床に相当する。柱穴は北側に 02297SK・02298SK、南側に 02295SK・02296SK が想定されるが、後者と南東辺の距離が開きすぎているように思われる。図示した平面形よりも南東辺や南西辺が内側にあった可能性があろう。



1. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層（10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを少量含む。炭化物を極少量含む）
2. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層（10YR4/2灰黄褐色極細粒砂ブロックを少量含む。鉄分少量沈着。01996SI壁溝か）
3. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層（10YR4/2灰黄褐色極細粒砂ブロックを含む。炭化物を極少量含む。01996SI）
4. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層（10YR4/2灰黄褐色極細粒砂ブロックを含む。炭化物を含む。焼土を極少量含む。01996SI）
5. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層（10YR4/2灰黄褐色極細粒砂大ブロックを多く含む。炭化物を極少量含む。02198SI）
6. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層（10YR4/2灰黄褐色極細粒砂ブロックを含む。鉄分沈着顕著）
7. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層（10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを少量含む。炭化物を含む。02290SK）
8. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層（10YR4/2灰黄褐色極細粒砂ブロックを多く含む。02290SK）
9. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層（10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを少量含む。02290SK）
10. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層（10YR7/1灰白色細粒砂小ブロックを少量含む。鉄分沈着顕著。地山）
11. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層（鉄分沈着。地山）



1. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層（10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを少量含む。鉄分沈着。02297SK）
2. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層（10YR4/2灰黄褐色極細粒砂ブロックを多く含む。焼土を極少量含む。02297SK）
3. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層（10YR3/2黒褐色シルトブロックを含む。02297SK）
4. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層（10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを含む。鉄分沈着。02298SK）
5. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層（10YR4/2灰黄褐色極細粒砂大ブロックを含む。02298SK）
6. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層（地山）



1. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層（10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを少量含む。02295SK）
2. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層（10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを含む。02295SK）
3. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層（10YR3/2黒褐色シルトブロックを含む。02295SK）
4. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層（鉄分沈着顕著。02296SK）

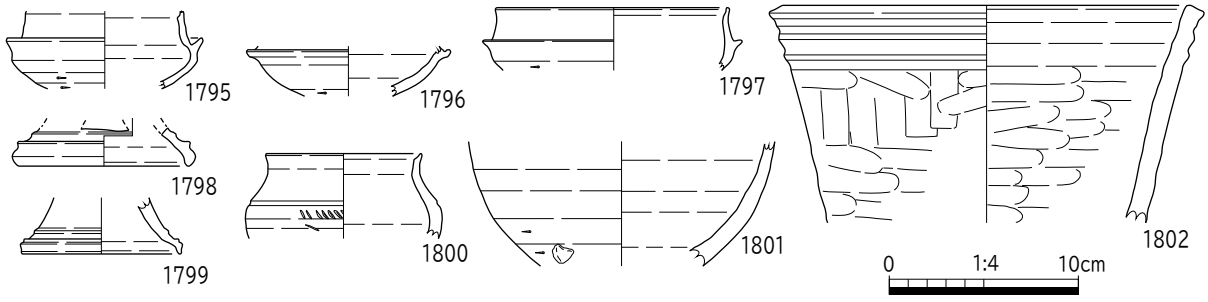


図 206 01799SI 遺構図・出土遺物実測図

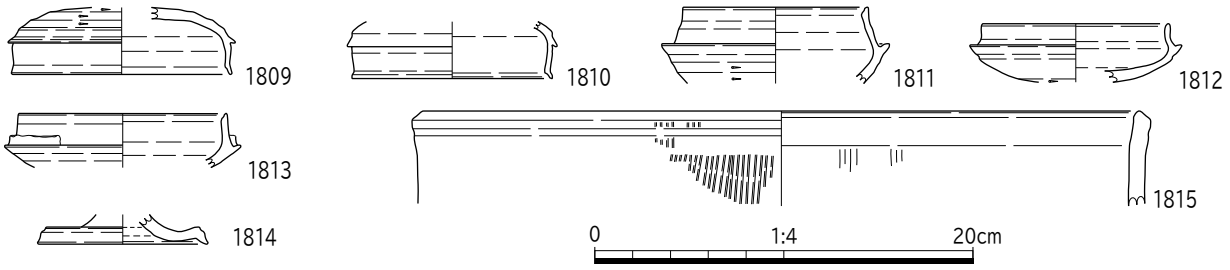


図 207 01996SI 出土遺物実測図

出土遺物は少なく、小片が大半である。須恵器杯身（1795 ～ 1797）は H-10 号窯式期以降で 6 ～ 7 世紀、1798・1799 は高杯の脚部で 6 世紀代、1800 の広口壺は、胴部最大径のところに凹線と櫛歯状工具による連続刺突文がみられるので 7 世紀代まで下るか。1801 長頸瓶の胴部、1802 は大甕の口縁部で 6 世紀代か。以上をまとめると 6 世紀代が主体であり、建物遺構の重複関係からうかがえる比較的新しい時期を示す遺物はない。遺構の重複関係から 01996SI は 7 世紀前半と想定される。

01996SI の土器は須恵器の小片がほとんどで、その埋土が貼床であることから、いずれも構築以前の土器ということになる。大半は 6 世紀代とみられ、杯身（1812）が蝮ヶ池窯式期～ H-44 号窯式期とみられることから、01996SI は 6 世紀後葉～ 7 世紀初頭以降に構築されたと推定される。

01900SI　旧河道左岸、調査範囲南西部（21Ba 区）に位置する竪穴建物跡である。旧河道左岸の微高地上に展開する建物群のなかでも南部に属し、最も複雑な竪穴建物跡の重複関係において比較的下位で確認されたものである。01900SI より上位には北半部で 00334SI、南隅で 01750SI、東辺で 01215SI が所在し、それぞれの遺構によって埋土を掘り込まれていることが明らかとなっている。ただし、それらの遺構調査後の検 3 面においてあらためて検出されていることから、遺構重複関係を示す土層断面の記録はない。

遺構の平面形は、隅部の丸みが強い北西～南東方向に長い隅丸長方形である。その規模は長軸約 7.2m、短軸約 4.6m、深さ約 0.3m である。しかしこの規模では短軸に対して長軸が長すぎる印象があり、複数時期の竪穴部が重複している可能性を考えておく必要がある。その検出された状態をもとに、カマド跡も不明であることから北西～南東方向に主軸を想定すると、その方位はグリッド北から西へ 27° 振れている。

壁溝は南東部のみで検出されている。それは、土層断面（図 208、土層断面 A-A’）によると、壁溝（12 層）は貼床（19 層）の上面から掘り込まれているからで、土層断面観察のトレンチ（T）より北側では、掘り方まで下げてから再度遺構検出を行なっているので壁溝は検出できていない。なお、北西～南東方向の土層断面はトレンチより北側では設定できておらず、先述した複数の竪穴部重複については確認できていない。

柱穴は、掘り方底面まで下げたところで検出を行い、19 基のピットが確認されている。このうち柱穴の可能性が高いものとして、01757SP・01758SK・01784SK・02188SP・02190SK が挙げられる。さらにこのなかでも 01757SP・01784SK・02188SP は、土層断面で柱痕跡を確認しており、柱穴と確定できる（図 208）。とりわけ 01784SK は床面（土層断面 A-A’、19 層）の上面から掘り込まれていることも確認されており 01900SI の柱穴であることは間違いない。それ以外の 2 基については、掘り方のみであるが、柱穴である可能性が高いと考えられる。しかし、これらの柱穴の配置は先述した 01900SI の平面形と方向やバランスが揃っているとは言い難く、また北西辺付近では柱穴に該当するピットが検出されていない。このことから、結論として 01900SI の柱穴で特定できるのは 01784SK のみである。

出土遺物は少なく小片が主体である。1803 は須恵器杯蓋で H-61 号窯式期、1804 は杯身で同時期か、1805 は土師器の台付甕で宇田型か。いずれも 6 世紀前～中葉である。また、遺構の重複関係では 01750SI が確実に確認できていないが 7 世紀まで下り、他の竪穴建物跡の時期も 7 世紀後半以降とみられることから、01900SI はそれ以前の 6 世紀中～後葉に構築された可能性がある。

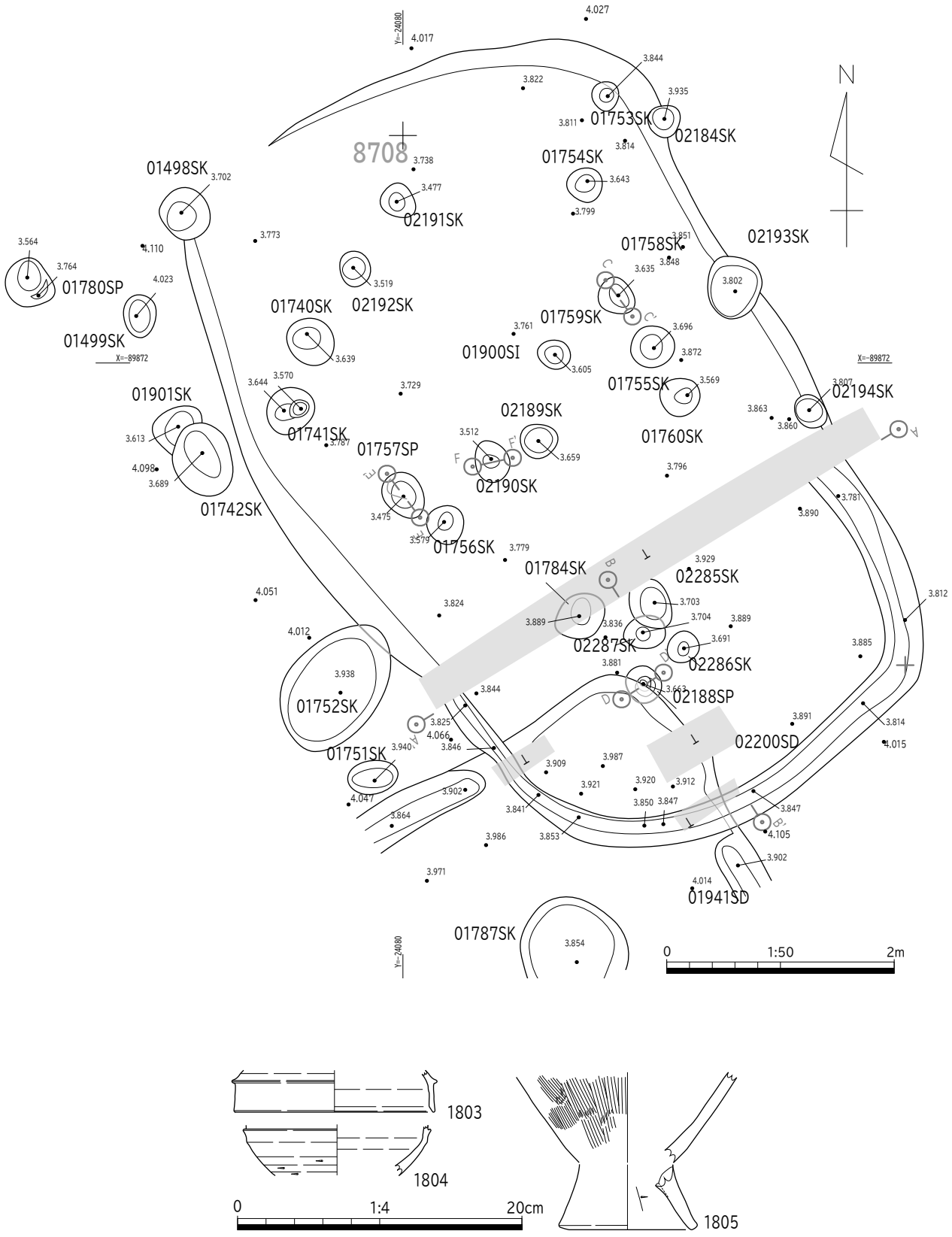
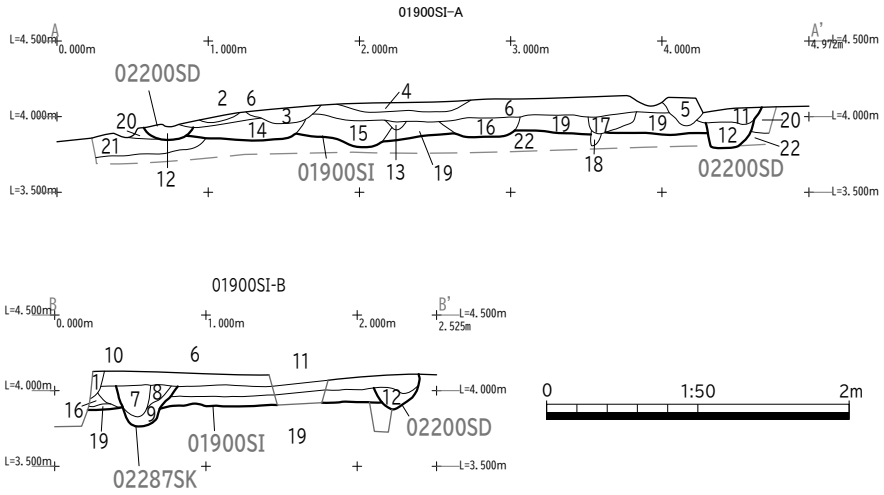
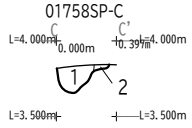


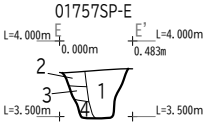
図 208 01900SI 遺構図・出土遺物実測図



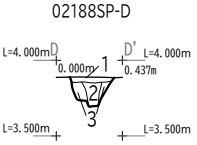
1. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層(10YR4/2黒褐色シルトブロックを少量含む。01900SI)
2. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂ブロックを含む。炭化物を極少量含む。01900SI)
3. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂ブロックを含む。炭化物を極少量含む。01900SI)
4. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂ブロック少量を含む。01900SIか00334SI)
5. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを多く含む。炭化物を含む。鉄分沈着。01900SI)
6. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂ブロックを多く含む。炭化物を含む。01900SIか00334SI)
7. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを少量含む。炭化物を極少量含む。鉄分少量沈着。02287SK)
8. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂ブロックを含む。02287SK)
9. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層(10YR3/2黒褐色シルトブロックを多く含む。02287SK)
10. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを含む。鉄分沈着顕著。01900SI)
11. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを含む。炭化物を極少量含む。01900SI)
12. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを含む。炭化物を極少量含む。02200SD)
13. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層(10YR3/2黒褐色シルト大ブロックを少量含む。01900SI)
14. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂ブロックを含む。炭化物を極少量含む。01900SI掘方か)
15. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層(10YR3/2黒褐色シルト小ブロックを含む。炭化物を極少量含む。01900SI掘方か)
16. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂ブロックを多く含む。炭化物を極少量含む。鉄分沈着。01900SI掘方か)
17. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを多く含む。01900SI)
18. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層(10YR3/2黒褐色シルトブロックを少量含む。01900SI)
19. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層(10YR3/2黒褐色シルト小ブロックを多く含む。炭化物を少量含む。01900SI掘方)
20. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層(10YR3/2黒褐色シルト小ブロックを少量含む)
21. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層(10YR3/2黒褐色シルト小ブロックを含む。炭化物を極少量含む)
22. 10YR4/1褐灰色シルト質極細粒砂層(地山)



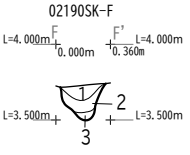
1. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層
(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを含む。炭化物を極少量含む)
2. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層
(10YR3/2黒褐色シルト小ブロックを含む)



1. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層
(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂ブロックを少量含む。炭化物を極少量含む。柱痕)
2. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層
(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂大ブロックを多く含む。掘方)
3. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層
(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを少量含む。掘方)
4. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層
(10YR3/2黒褐色シルト小ブロックを含む。掘方)



1. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層
(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを含む。鉄分沈着)
2. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層
(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを少量含む。炭化物を極少量含む。柱痕)
3. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層
(10YR3/2黒褐色シルト小ブロックを含む。掘方)



1. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層
(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを多く含む。炭化物を少量含む。鉄分少量沈着)
2. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層
(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂ブロックを多く含む。炭化物を極少量含む。鉄分少量沈着)
3. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層
(10YR3/2黒褐色シルト小ブロックを少量含む。炭化物を極少量含む)

図 209 01900SI・01757SP・01758SP・02185SP・02190SK 遺構図

01995SI・01998SI　旧河道左岸、調査範囲南西部（21Ba 区）に位置する竪穴建物跡である。旧河道左岸の微高地上に展開する建物群の南部に属する。ほぼ真上には 00337SI が重複し、01995SI は検 3 面において検出された遺構である。そのため 00337SI との関係については土層断面においては表示されない。一方、検 3 面における遺構の重複関係では、その南東辺において竪穴建物跡 01998SI と重複し、これより新しい時期であることが確認されている。また、北西辺では、再度精査した結果、壁溝状の溝 02202SD とも重複していることも判明している。具体的な先後関係の記録はできていないが、02202SD より 01995SI の方が新しいと考えられる。

01995SI の平面形は北東～南西方向にやや長い長方形で、規模は長軸約 6.1m、短軸約 4.6m、深さ約 0.1m である。ただし南西辺では壁溝がくの字に屈曲している箇所があるなど、長方形というより五角形に近い平面形をしている点が他に例がなく特徴的である。カマド跡は検出されなかったが、長軸方向を主軸とするとその方位はグリッド北から東へ 35° 振れている。壁溝（02201SD）は、先述したように五角形に全周している。土層断面（図 211、土層断面 B-B'）によれば 02201SD は東辺中央でも確認されている。

柱穴は壁溝と重複しつつ西隅に 02185SP、南隅に 02183SP がある。同様に南西辺に沿って 01999SP がある。

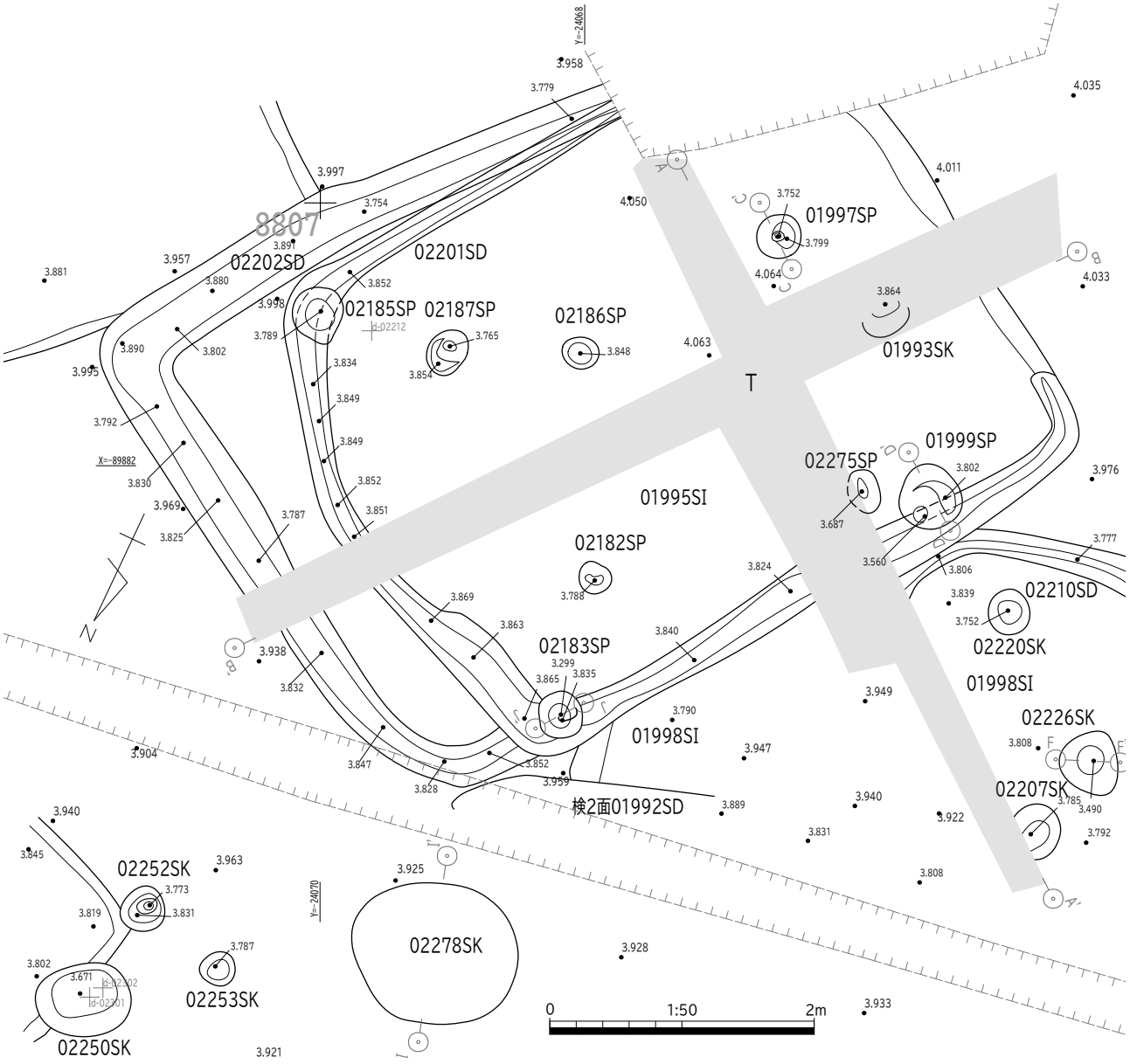
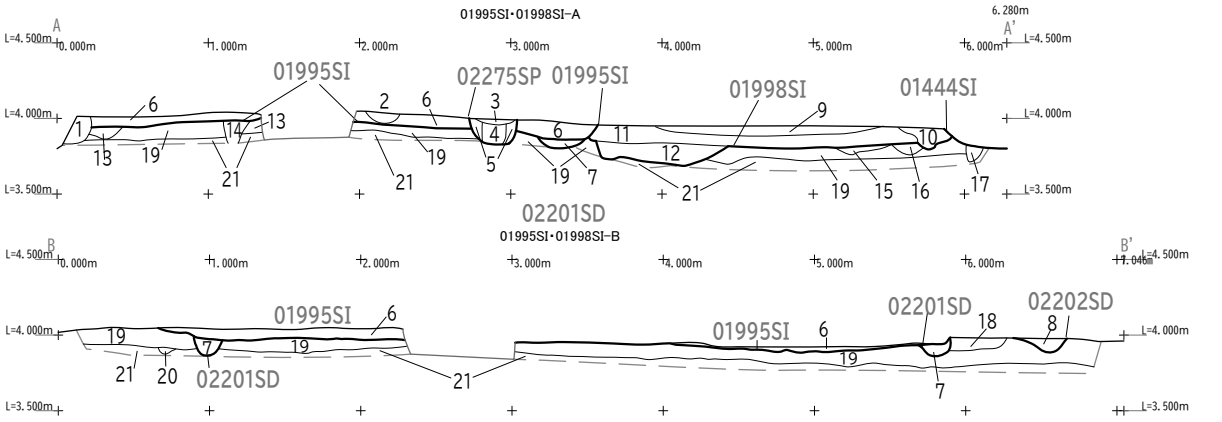
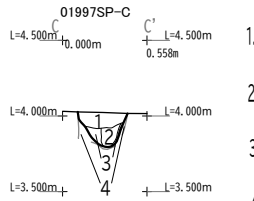


図 210　01995SI 遺構図 (1)

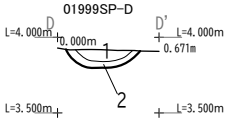


1. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層(10YR3/2黒褐色シルトブロックを含む。鉄分沈着顕著)
2. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層(10YR3/2黒褐色シルト大ブロックを少量含む)
3. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層(10YR3/2黒褐色シルトブロックを含む。02275SP)
4. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを少量含む。炭化物を極少量含む。柱痕。02275SP)
5. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂ブロックを多く含む。炭化物を極少量含む。掘方。02275SP)
6. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂大ブロックを含む。炭化物を含む。01995SI)
7. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層(10YR3/2黒褐色シルト小ブロックを含む。02201SD)
8. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層(10YR3/2黒褐色シルト小ブロックを多く含む。02202SD)
9. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂ブロックを含む。炭化物を極少量含む。鉄分少量沈着。01998SI)
10. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを少量含む。炭化物を少量含む。01998SI)
11. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂ブロックを多く含む。炭化物を極少量含む。鉄分少量沈着。01998SI)
12. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを少量含む。01998SI壁溝か)
13. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層(10YR3/2黒褐色シルトブロックを含む)
14. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂大ブロックを含む)
15. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂ブロックを含む)
16. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを含む。炭化物を極少量含む)
17. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂大ブロックを含む)
18. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層(10YR3/2黒褐色シルト大ブロックを多く含む)
19. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層(10YR3/2黒褐色シルト小ブロックを少量含む。鉄分沈着。地山)
20. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層(10YR3/2黒褐色シルト小ブロックを少量含む)
21. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層(10YR3/2黒褐色シルト小ブロックを少量含む。鉄分少量沈着。地山)

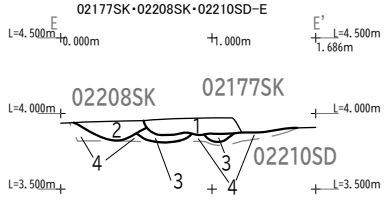
0 1:50 2m



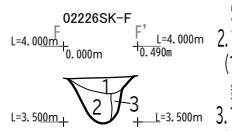
1. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層
(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを含む。鉄分沈着顕著)
2. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層
(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを含む。炭化物を少量含む。柱痕)
3. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層
(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂大ブロックを含む。掘方)
4. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層(地山)



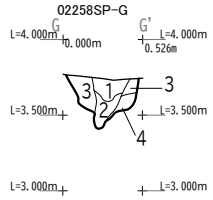
1. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層
(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂ブロックを含む。
炭化物を極少量含む)
2. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層
(炭化物を非常に多く含む)



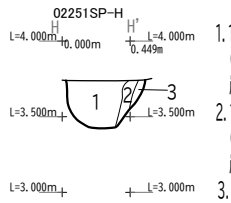
1. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層
(炭化物を多く含む。焼土を極少量含む。鉄分沈着顕著。02177SK)
2. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層
(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂ブロックを含む。鉄分沈着。02208SK)
3. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層
(10YR3/2黒褐色シルトブロックを含む。02210SD)
4. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層
(鉄分少量沈着。地山)



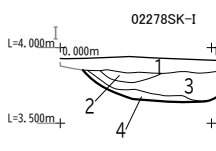
1. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層
(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂大ブロックを含む。
焼土を極少量含む)
2. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層
(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを含む。
鉄分沈着。柱痕)
3. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層
(10YR3/2黒褐色シルト小ブロックを少量含む。掘方)



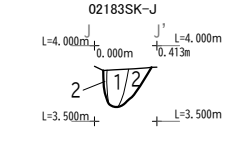
1. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層
(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを少量含む。
炭化物を多く含む。焼土を多量含む。柱痕)
2. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層
(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂ブロックを含む。
炭化物を少量含む。焼土を少量含む。柱痕)
3. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層
(10YR3/2黒褐色シルト大ブロックを含む。掘方)
4. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層
(10YR3/2黒褐色シルトブロックを含む。掘方)



1. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層
(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを少量含む。
炭化物を極少量含む。焼土を極少量含む)
2. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層
(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを少量含む。
炭化物を多く含む。焼土を少量含む)
3. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層
(10YR3/2黒褐色シルト小ブロックを少量含む。
炭化物を極少量含む。鉄分少量沈着)



1. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層
(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂ブロックを含む。鉄分沈着顕著)
2. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層
(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを少量含む)
3. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層
(10YR3/2黒褐色シルト大ブロックを多く含む)
4. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層
(10YR3/2黒褐色シルトブロックを含む)



1. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層
(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂
小ブロックを少量含む。
炭化物を極少量含む。柱痕)
2. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層
(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂
ブロックを非常に多く含む。
炭化物を極少量含む。掘方)

図 211 01995SI 遺構図 (2)

これらは位置関係からみて壁溝 02201SD と偶然重なっているとは言いがたく、構築時からセット関係にあったと考えることができる。すると北隅の柱穴は撹乱によって削平されていると推測され、まずは不明の 1 基をを加えたこれらのピットが柱穴の可能性が高い。一方、01995SI の底面では 02187SP・02182SP がある。これらは位置関係から、壁溝 02202SD のみが検出された竪穴建物跡の柱穴と考えることができる。なお、02275SP は土層断面でも明らかなように 01995SI の埋没後に掘られた（柱痕跡のある）柱穴であるから、01995SI とは無関係である。

01998SI は、01995SI とともに検 3 面で検出された竪穴建物跡である。01995SI と北西隅が重複し、01998SI の方が古いと考えられる。一方、検 2 面で検出された 01799SI との関係については先行する可能性が高いが、直接的な関係を示す記録はない。そもそも 01998SI は南半部の状況が不明瞭であり、全形は不明となっている。カマド跡は検出されず、東辺～北辺の壁溝に相当する 02210SD のみが判明している。よって長軸方向もあきらかではないが、残存部に基づくとその規模は長軸約 4.3m

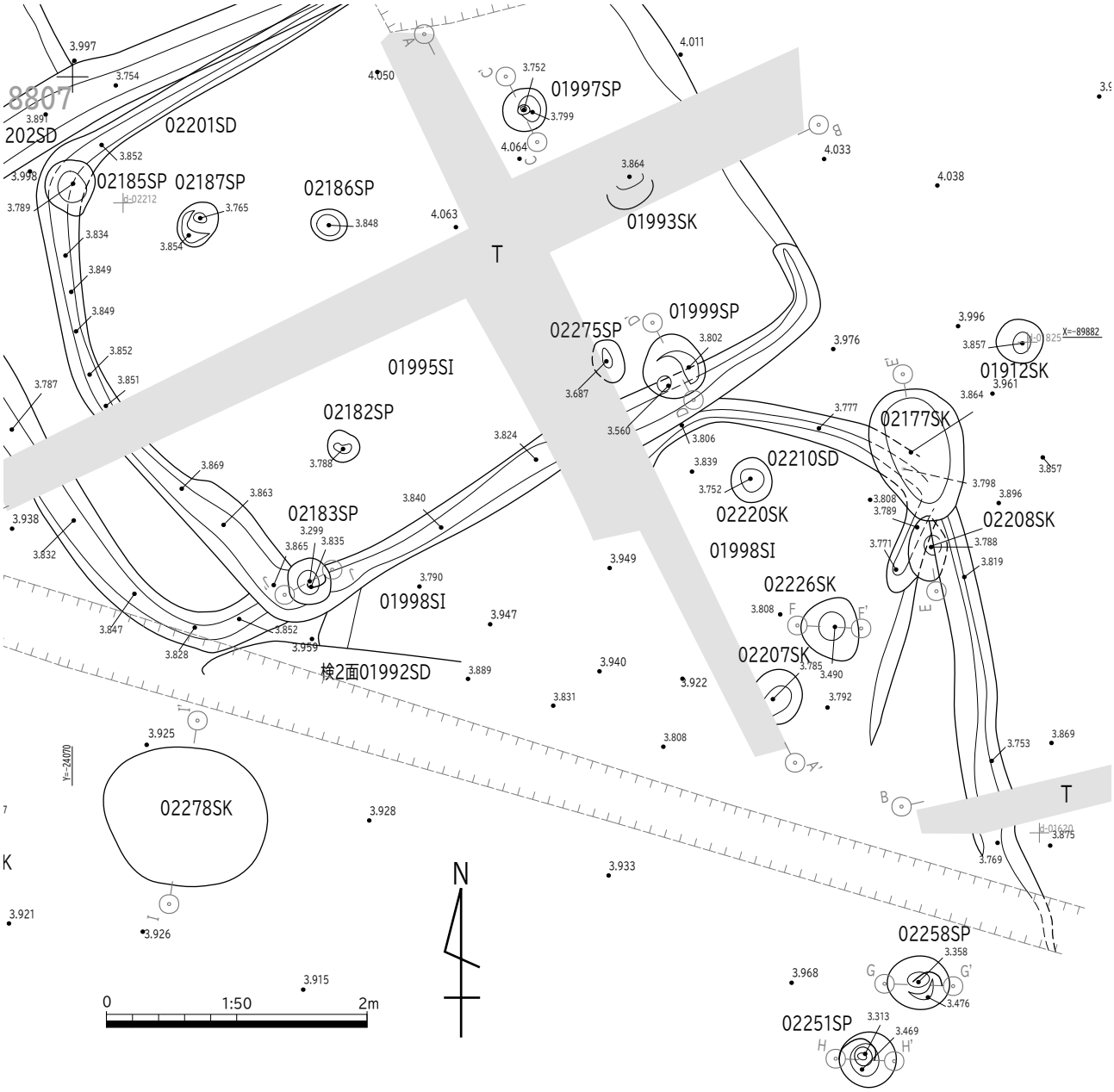


図 212 01998SI 遺構図

以上、短軸約 3.1m 以上、深さ 0.2m である。

柱穴は、底面で 0226SK などが検出されているが特定するにはいずれも根拠が弱い。

出土遺物は、01995SI から蝮ヶ池窯式期～ H-44 号窯式期の須恵器の杯身（1807）が出土している。01998SI の遺物は須恵器（1816 ～ 1818）、土師器甕（1819）だがいずれも 6 世紀代のものである。遺構の重複関係によって、両遺構が 7 世紀初頭（H-44 号窯式期）より古いことは確実なので、遺構の重複関係で最下層に位置する 01998SI は、6 世紀中葉まで遡ると想定される。

02135SX　旧河道左岸、調査範囲中央部（21Ca 区）に位置する炭化物の集積遺構である。グリッド 8408 に含まれ、01540SI など竪穴建物跡の南側に位置する長軸約 6.0m、短軸約 5.6m の不定形な範囲に深さ約 0.3m の土坑状の堆積がある。調査時にはその規模が竪穴建物跡に相当するものであったことからその可能性を考えていたが、完掘しても遺構の範囲が明確にならないので炭化物が集積する性格不明遺構とした。

出土遺物は、遺構の状況からみてここに廃棄されたものと考えられる。その内容は古墳時代中期まで遡る須

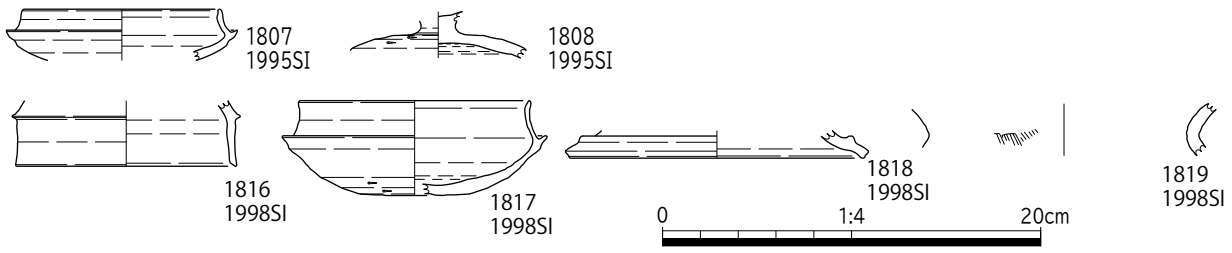


図 213　01998SI 遺構図・01995SI・01998SI 出土遺物実測図

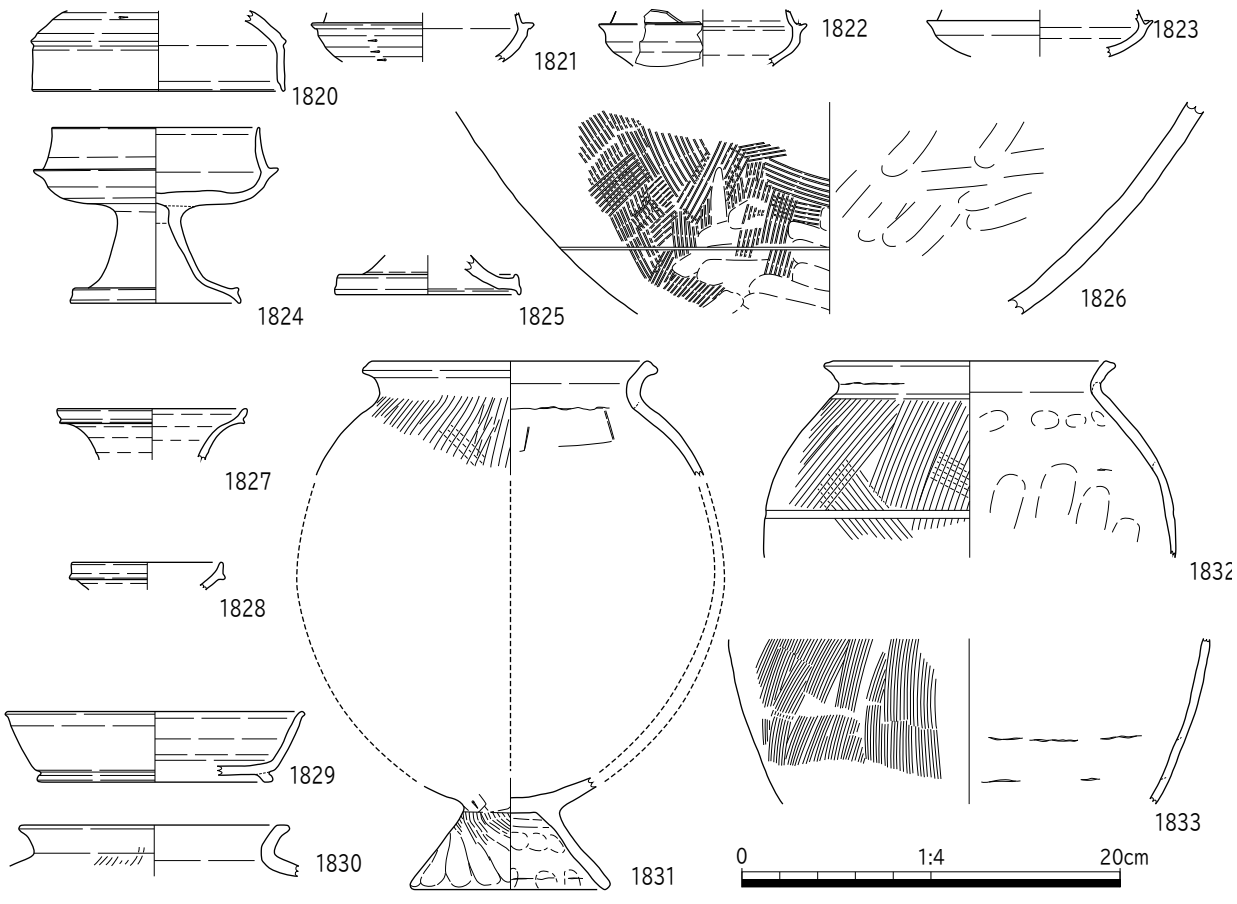


図 214　02135SX 出土遺物実測図

恵器・土師器が多く、土師器は宇田型台付甕（1830 ～ 1833）である。しかし 1823 は 7 世紀代、1829 は、I-17 号窯式期の有台杯であり、7 世紀後半代まで廃棄が続けられた場所だったことを示している。隣接する 01540SI などから廃棄された可能性が考えられる。

02175SI　旧河道左岸、調査範囲南西部（21Ba 区）に位置する竪穴建物跡である。旧河道左岸の微高地上に展開する建物群の南部に属する。その地点は、検 2 面で検出された 00340SI の下位に当たるが、両者の直接的な先後関係を示す記録はない。ちなみに 00340SI と重複関係にある 01444SI とはわずかに北辺が接する位置にあるが、これとの先後関係も検出面を異にしているため不明である。

02175SI はやや歪な方形で、北辺部はトレンチ（T21）に重複しているうえその北側で北辺は検出されていない。したがって平面形は東西方向にやや長い長方形と想定される。その規模は長軸約 3.9m、短軸約 2.8m、深さ約 0.1m である。カマド跡は検出されなかったので主軸方向は特定しがたいが、仮に南北方向に主軸があるとすれば、その方位はほぼグリッド北を指す。壁溝は平面的

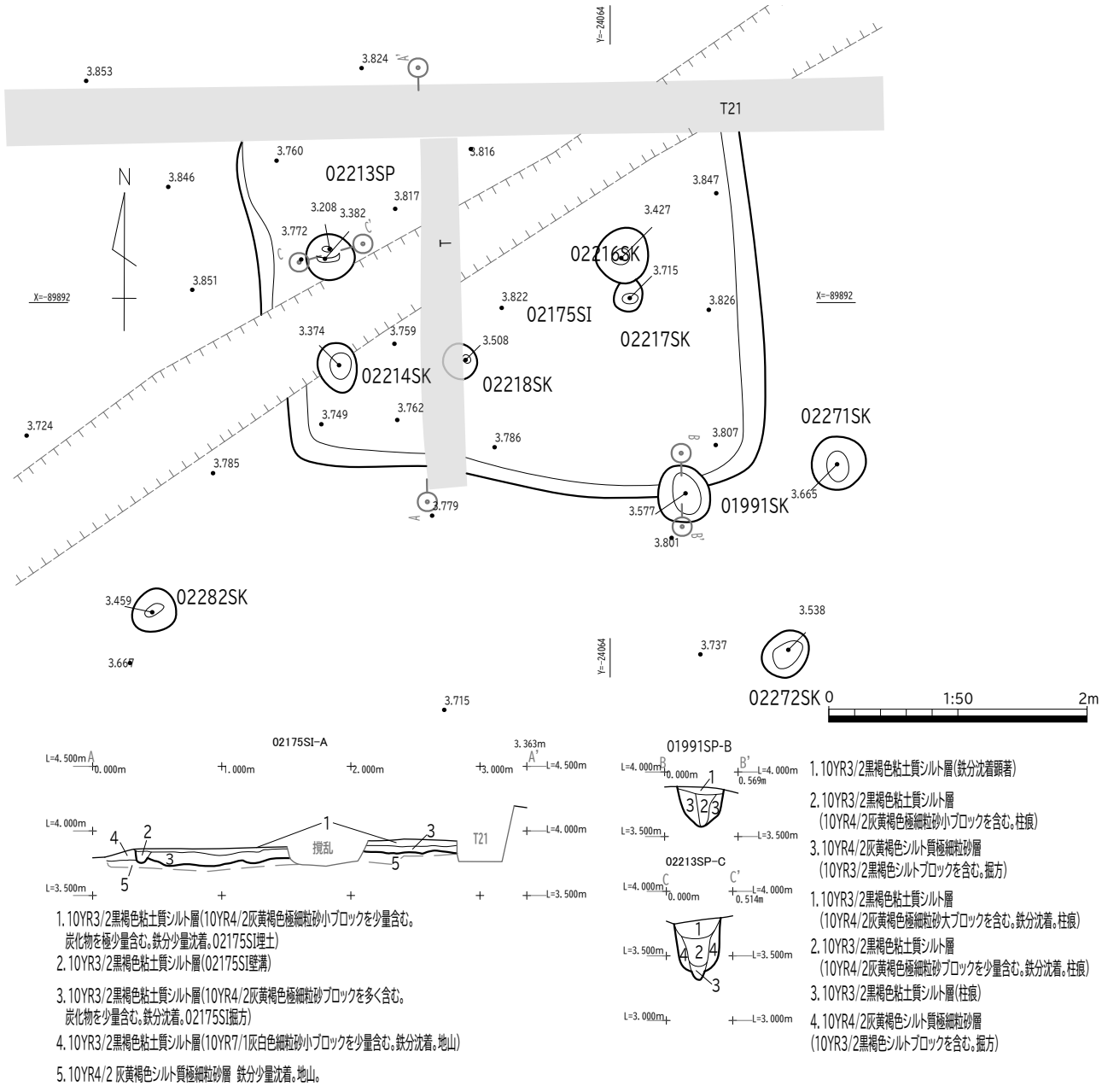


図 215　02175SI 遺構図

には検出されなかったが、土層断面（図 215、土層断面 A-A’）によれば 2 層が該当する。同層は掘り方を埋めるブロック状の土を多く含む 3 層の上面から掘り込まれている。そして、2･3 層は炭化物を含む 1 層に覆われている。このことから 3 層が貼床で 1 層は廃絶後の堆積で、ブロック状の土を含むことから埋め戻しがなされたと考えられる。

柱穴は、02175SI の底面で 5 基のピットが検出されているが、柱並びを想定できるのは西寄りの 02213SP と東寄りの 02216SK である。このうち 02213SP は土層断面の観察によれば（図 215、土層断面 C-C’）、柱痕跡が確認できるので該当するとみてよい。02216SK については不明。なお、南辺に重複する位置にある 01991SK においても柱痕跡が確認されているが（同 B-B’）、02175SI とは別の建物に関わる柱穴とみた方がよいだろう。

出土遺物は、須恵器･土師器のごく小片があるのみで、図示可能なものはない。したがって遺構の時期は特定しがたいが、遺構の重複関係から 7 世紀中葉に想定される 00340SI より先行することが明らかなので、7 世紀前葉以前という想定が可能である。

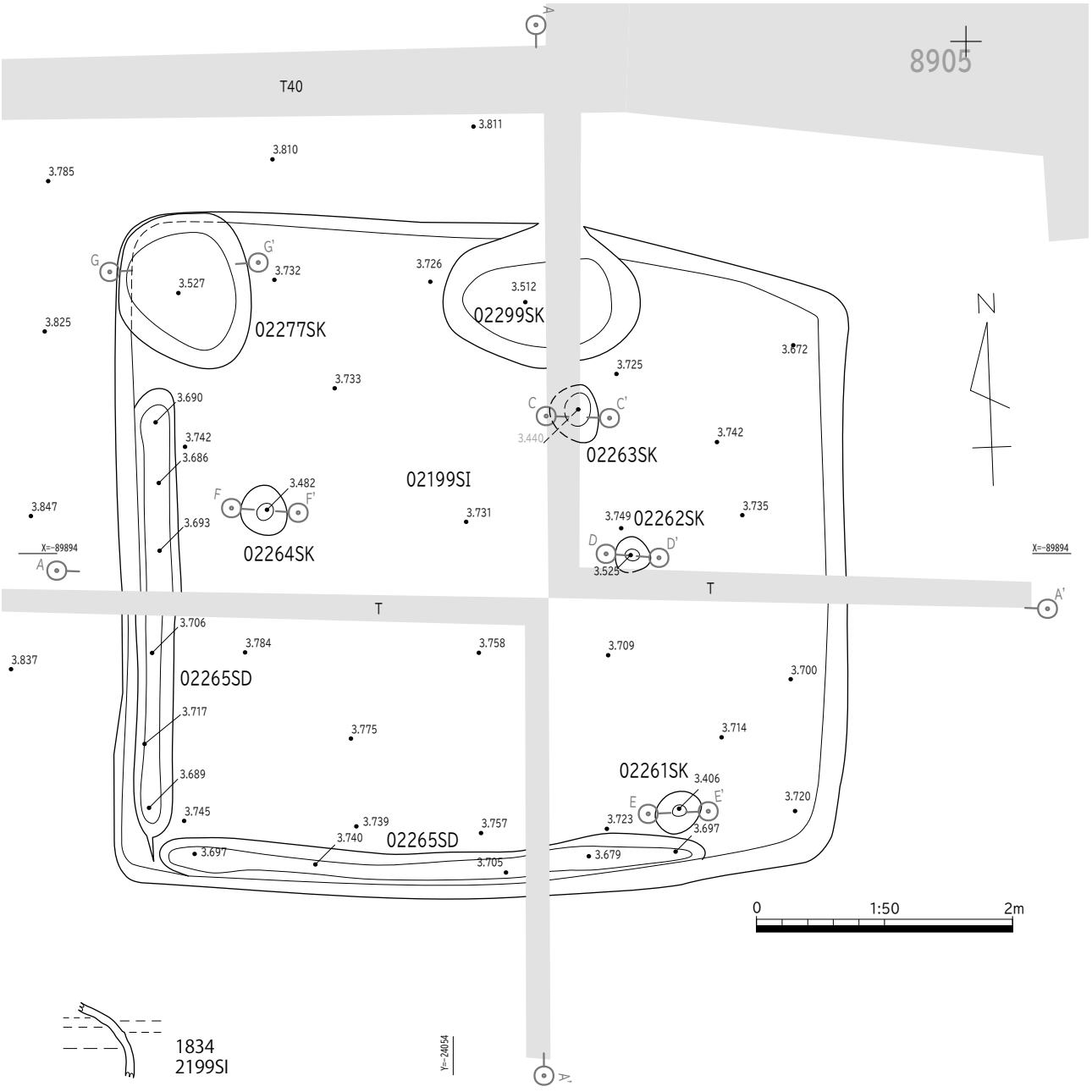


図 216 02199SI 遺構図（1）・出土遺物実測図

02199SI 旧河道左岸、調査範囲南西部（21Ba区）に位置する竪穴建物跡である。検2面で検出された竪穴建物跡01251SIの真下になる。01251SIの底面まで下げたところ、ひと回り小型の竪穴建物跡の平面形が検出され､別の遺構番号を付与したものである。その平面形は、東西方向にわずかに長い長方形で、規模は長軸約5.3m、短軸約5.2m、深さ約0.2mである。カマド跡は不明だが、南北方向に主軸を想定するとその方位はほぼグリッド北を指す。北辺には長軸約1.5m、短軸約1.1mの楕円形を呈する深さ0.3mの擂鉢状の土坑がある。カマドの位置として相応しいのであるが、炭化物の出土はほとんどなく、ブロック状の土で埋められており性格不明である（図217、土層断面B-B'）。また北西隅には壁面と同一化するように長軸約1.1m、深さ約0.3mの円形土坑がある。こちらは底面が平らで貯蔵穴の可能性がある。

壁溝は南辺と西辺の底面で検出されており、東辺の壁溝は土層断面A-A'で確認されている。東辺・西辺の壁溝01920SDは02199SIの埋土10層の上から掘り込まれており、この関係からすれば同壁溝に対して10層は貼床となる。ところが南辺の壁溝02265SDは10層の下で掘り込まれており、このことから前者と後者が同時存在でなかったことが示される。加えて西辺では01920SDの下位で02265SDの続きに相当する溝が土層断面で確認されており（土層断面A-A'の11層）、このことから02199SIは、02265SDを壁溝とする段階と01920SDを壁溝とする段階の2時期にわたる変遷があったと考えられる。ちなみに10層中にも炭化物が含まれているので、当初構築された竪穴建物は10層下面を床面として機能していた可能性が考えられる。

柱穴は柱列を特定できるほどの数が検出されていない。しかし南辺と西辺の壁溝が平面で検出された範囲(約4.0m四方）を想定すると、02264SKと02262SKが位置関係としては問題ないように思われる。このように考えると、02199SIは南辺と西辺を基準にして再構築で平面規模を拡大した可能性が考えられる。

出土遺物は須恵器長頸瓶の胴部片が出土している。時期を特定することは難しいが、最終的に7世紀半ばに廃絶する01251SIに至る変遷を想定するのが自然で、その初源が6世紀後半まで遡る可能性は高い。

02215SI 旧河道左岸、調査範囲南西部（21Ba区）に位置する竪穴建物跡である。旧河道左岸の微高地上に展開する建物群の南西隅にあり、約5m西方には、古墳時代後期～古代の集落域西側を北西から南東方向延びる溝00200SDがある。02215SIは検3面で確認された遺構で、ほぼ同じ位置の検2面における調査段階で、2基の竪穴建物跡（01213SI・01257SI）が検出されている。平面的に02215SIの西半部は01257SIと重複しさらに01213SIとも南西隅で重複関係に関係にある。しかしながらこれらの諸関係を確認できる土層断面とその記録はない。

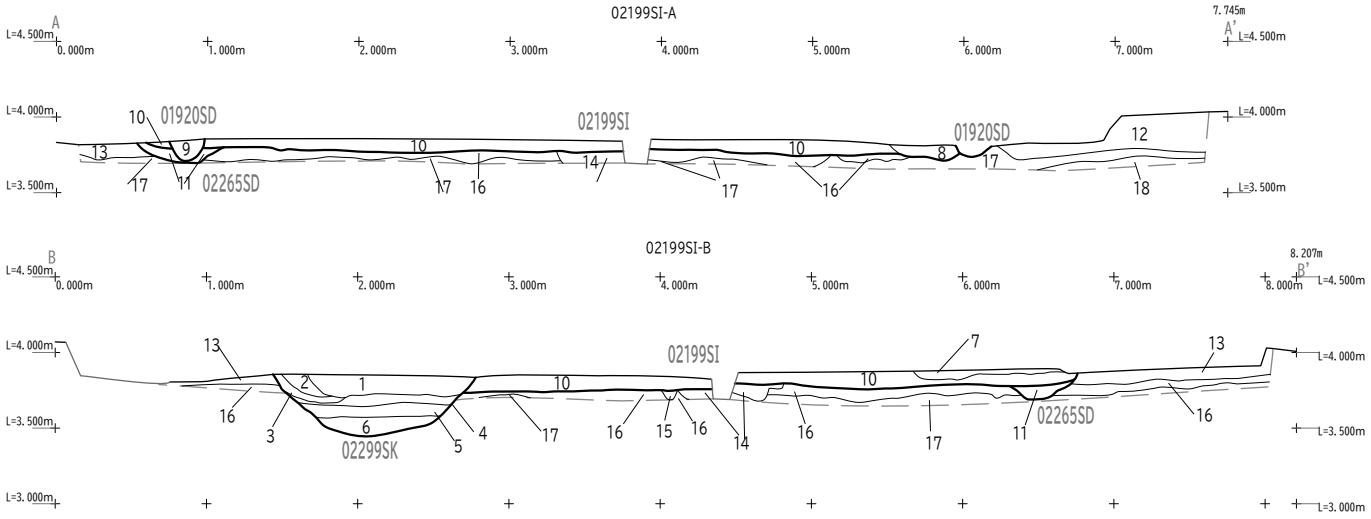
02215SIの平面形は、南西辺が01257SIで削平されているため不明瞭だが、平面形は概ね正方形になると考えられる。カマド跡は検出されなかったが北東辺の全体が残存しており、北西～南東方向を主軸とすると、その規模は長軸約3.5m、短軸約2.7m以上、深さ約0.2mである。主軸の方位はグリッド北から西へ51°振れている。

壁溝は平面的・土層断面のいずれでも検出・確認されなかった。土層断面（図217､土層断面A-A'）によれば、掘り方に対して単一の層（1層）が堆積し、小ブロック状の土が混じることから埋め立てられたものと考えられる。当該層が貼床なのかそれとも廃絶後の埋め戻しなのかは明確にしえないが、竪穴部の構築過程としてはきわめて単純な構成になっているといえる。

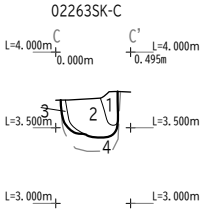
柱穴は、床面で3基の土坑が検出されているが、いずれも位置関係にばらつきがあるので柱並びを想定することができない。ただしほぼ中央に位置する02169SKは柱痕跡が確認されているので、02215SIとの直接的な関係は不明だが何らかの柱穴とすることは可能である。また西隅にある土坑02292SKは長軸約0.6mで柱穴よりひと回り大きく、また壁面に接するようにして存在することから、貯蔵穴の可能性もある。

出土遺物は須恵器小片が主体で、杯蓋（1835）はH-10号窯式期、杯身（1836～1838）はH-10号窯式期～H-44号窯式期の範囲になるだろう。また02215SIの上位にある01257SIは7世紀前葉に存在したと想定されることから、02215SIはそれをさかのぼる6世紀末～7世紀初頭の時期が想定される。

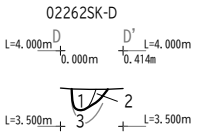
02273SI 旧河道左岸、調査範囲南西部（21Ba区）に位置する竪穴建物跡である。旧河道左岸の微高地上に展開する建物群の南部に属する。同一地点では、検2面において竪穴建物跡00338SIが検出されているが、02273SIはその下位の検3面で検出されたので、両者



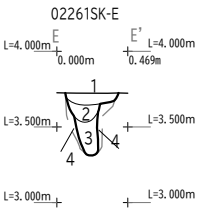
1. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂ブロックを少量含む。炭化物を含む。02299SK)
2. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂ブロックを多く含む。02299SK)
3. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを少量含む。02299SK)
4. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層(10YR4/1褐灰色極細粒砂小ブロックを少量含む。02299SK)
5. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層(10YR4/1褐灰色極細粒砂ブロックを含む。02299SK)
6. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層(10YR4/1褐灰色極細粒砂小ブロックを少量含む。炭化物を極少量含む。02299SK)
7. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを少量含む。鉄分沈着顕著。02199SI)
8. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを少量含む。炭化物を極少量含む。02199SI)
9. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを少量含む。01920SDか)
10. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂ブロックを含む。炭化物を極少量含む。鉄分沈着顕著。02199SI)
11. 10YR4/1褐灰色シルト質極細粒砂層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂ブロックを含む。鉄分少量沈着。02265SD)
12. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(鉄分沈着顕著。地山)
13. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(鉄分少量沈着。地山)
14. 10YR4/1褐灰色シルト質極細粒砂層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを少量含む)
15. 10YR4/1褐灰色シルト質極細粒砂層(10YR3/2黒褐色シルト小ブロックを少量含む)
16. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層(10YR3/2黒褐色シルト小ブロックを少量含み、褐灰色極細粒砂小ブロックを少量含む)
17. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層(鉄分沈着。地山)
18. 10YR4/1褐灰色シルト質極細粒砂層(鉄分少量沈着。地山)



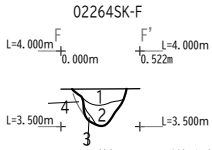
1. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂ブロックを含む)
2. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂大ブロックを含む)
3. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層(10YR3/2黒褐色シルトブロックを含む)
4. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層(地山)



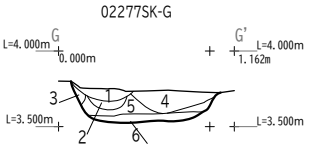
1. 10YR4/2灰黄褐色粘土質シルト層
(10YR3/2黒褐色シルトブロックを多く含む)
2. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層
(10YR3/2黒褐色シルト小ブロックを少量含む)
3. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層(地山)



1. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを少量含む)
2. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂大ブロックを含む)
3. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層(10YR3/2黒褐色シルトブロックを含む)
4. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層(地山)



1. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層
(10YR3/2黒褐色シルトブロックを含む)
2. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層
(10YR3/2黒褐色シルト小ブロックを含む)
3. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層
(10YR3/2黒褐色シルト小ブロックを少量含む)
4. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層(地山)



1. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂ブロックを含む。
炭化物を少量含む)
2. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂ブロックを含む)
3. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層(10YR3/2黒褐色シルトブロックを含む)
4. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂ブロックを含む。
炭化物を極少量含む)
5. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂大ブロックを多く含む)
6. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層(10YR3/2黒褐色シルトブロックを少量含む)

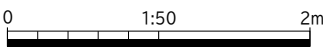
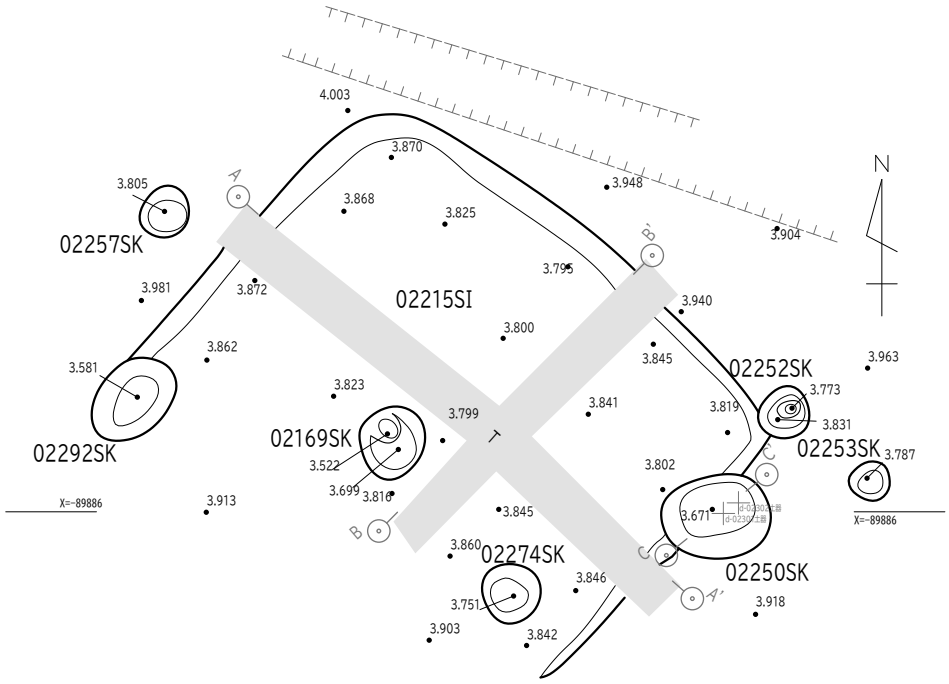
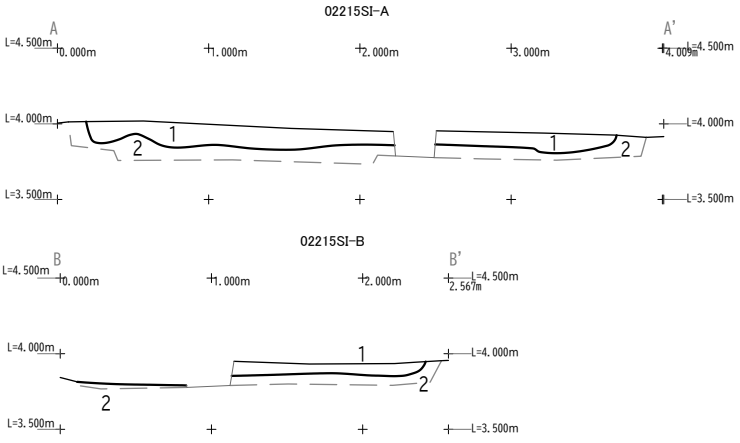
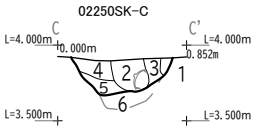


図 217 02199SI 遺構図（2）





1. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂ブロックを含む。炭化物を少量含む。02215SI)
2. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層(地山)



1. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層
(10YR3/2黒褐色シルト小ブロックを少量含む。
鉄分沈着顕著)
2. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層
(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを少量含む。
鉄分少量沈着)
3. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層
(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを少量含む)
4. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層
(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂大ブロックを多く含む)
5. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層
(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを含む。
炭化物を極少量含む)
6. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層
(10YR3/2黒褐色シルトブロックを含む)

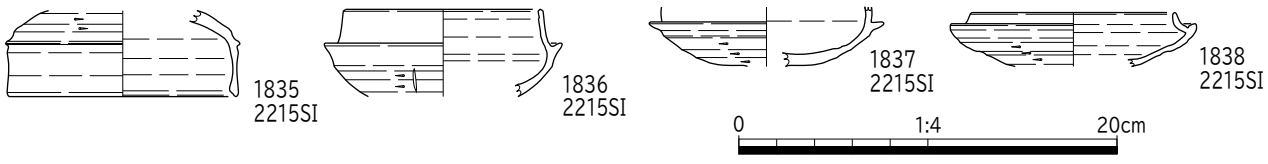
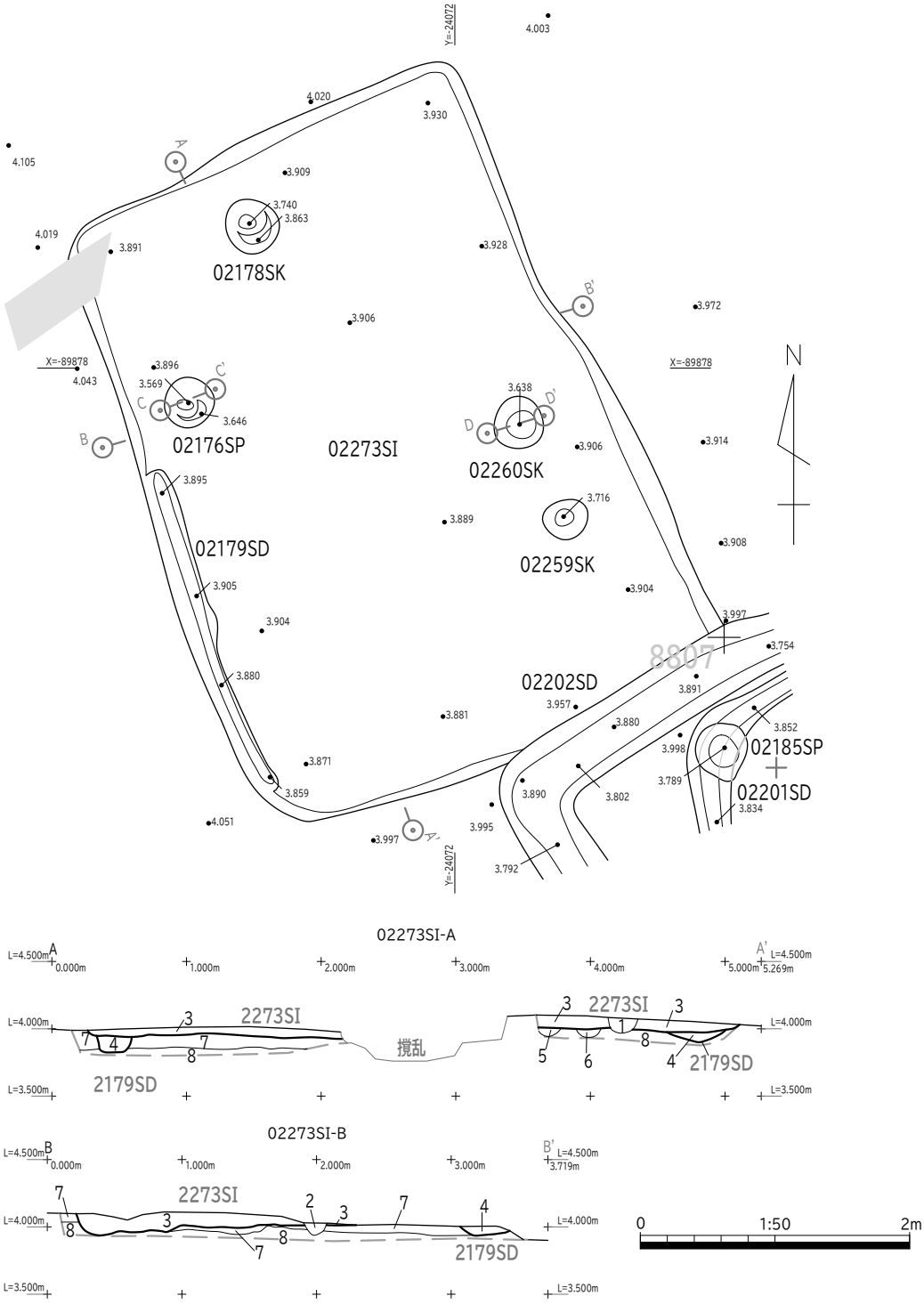


図 218 02215SI 遺構図・出土遺物実測図



1. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂ブロックを含む)
2. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを少量含む)
3. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂大ブロックを多く含む。炭化物を極少量含む。02273SI)
4. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂ブロックを少量含む。炭化物を極少量含む。02179SD)
5. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを少量含む)
6. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂ブロックを含む)
7. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層(10YR3/2黒褐色シルトブロックを含む。炭化物を極少量含む)
8. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層(地山)

図 219 02273SI 遺構図

の先後関係を示す土層断面はない。ただし 00338SI によって北東部が削平されているため、埋土も半分になっている（図 219、土層断面 A-A'）。一方、南東隅は溝 02202SD と重複し、これによって掘り込まれているが、それ以外では各辺が残存している。よって平面形は、北西～南東方向に長い長方形である。その規模は長軸約 5.0m、短軸約 3.6m、深さ約 0.2m である。カマド跡は検出されていないが、長軸方向を主軸とすると、その方位はグリッド北から西へ 24° 振れている。

壁溝（02179SD）は、南西辺の底面で検出されているが、土層断面では各辺で確認されているのでほぼ全周しているとみてよいだろう。また柱穴は、底面で 4 基のピットが検出されているが、このうち掘り方の明瞭な 02260SK と柱痕跡のある 02176SP が土層断面の観察によって柱穴の候補となる。しかし、02273SI の平面形とこれらの柱穴の組み合わせはバランスが良くないので、積極的に 02273SI の柱穴とするだけの根拠は弱い。

出土遺物は須恵器の小片に限られる。1839 ～ 1841 は概ね 6 世紀代、1842 の長頸瓶口縁部は 7 世紀まで下る可能性がある。02273SI の上位にある 00338SI からの出土遺物が、H-44 号窯式期～ I-101 号窯式期の時期幅に収まることを考慮すると、これに先行する 7 世紀前葉以前の時期が想定される。

（4）掘立柱建物跡

次に、掘立柱建物跡について記述する。これは平地式（側柱建物）または高床式（総柱建物）の建物の総称で、当時の地表面より上に存在した機能面が失われていることがほとんどであるため、柱穴が唯一の遺構と言ってよい。逆に、柱穴に相応しいピット（SP）・土坑（SK）の存在を前提として、均等・規則的な柱穴の並び（柱列・柱筋）が確認されればそれらの組み合わせを掘立柱建物跡と認定することになる。その認定は、発掘調査現場で行うこともあるが、作成された遺構図から行うこともある。本発掘調査において、前者の場合は既に通し番号の中で遺構番号が付与されているが、後者の場合は新規に 05001 以降の遺構番号を付与している。また、想定される建物の短軸を梁行、同長軸を桁行と仮定し、桁行の方向で建物を東西・南北のいずれかに区分して呼称する。なお、柱間間隔の数値は柱穴の中心間距離を指しており、梁行・桁行の全長も同様に計測したものである。

00130SB　旧河道左岸、調査範囲中部のやや西方（21Aa 区）に位置する掘立柱建物跡である。旧河道左岸の建物群の北部に属するが、とりわけその西端に近い場所である。周囲には他に建物跡はないが、集落域の西側と北西～南東方向に延びる溝 00151SD と重複してお

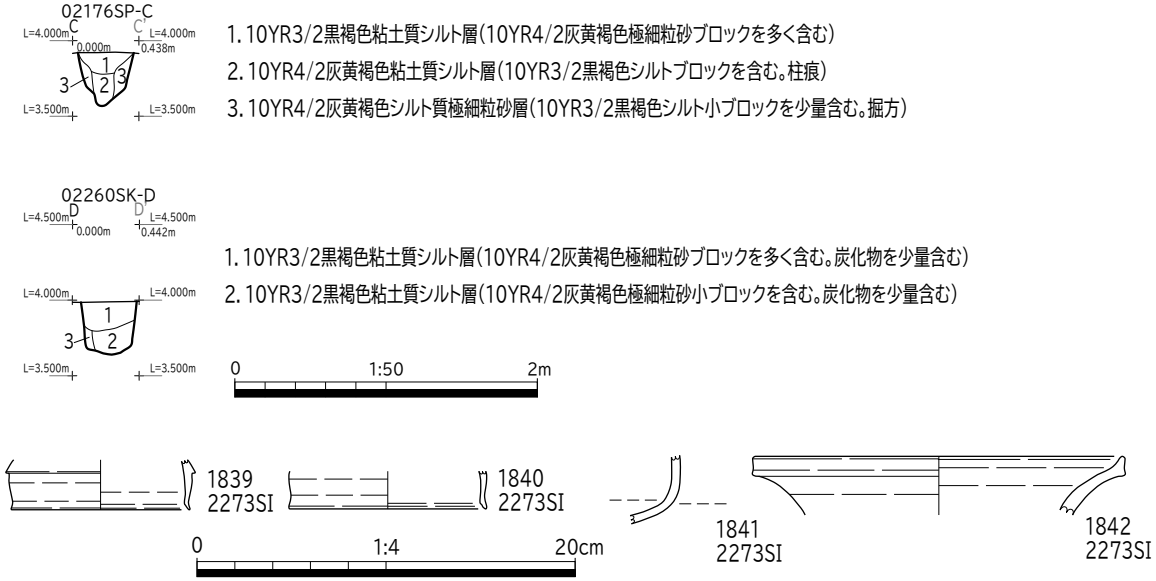
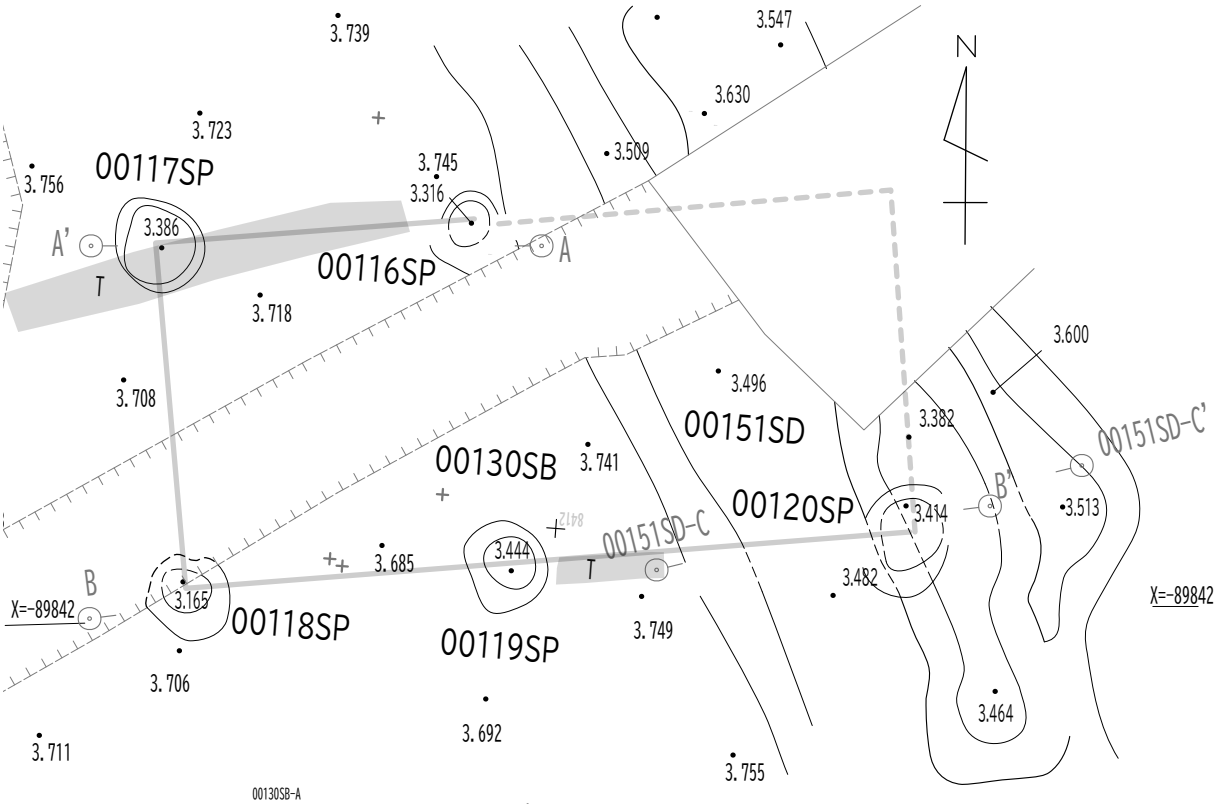
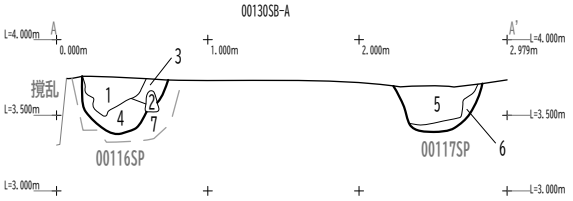
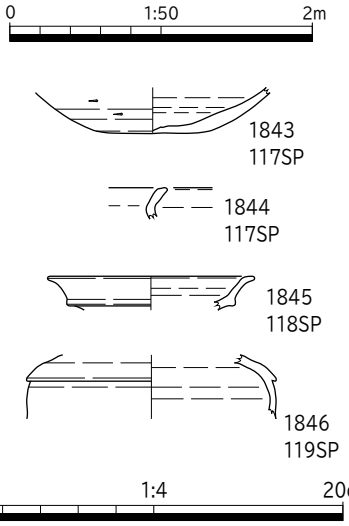


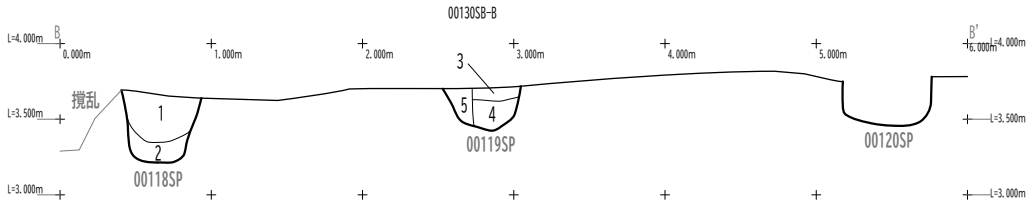
図 220　02273SI 関連（02176SP・02260SK）遺構図・出土遺物実測図







1. 10YR4/1褐灰色粘土質シルトと10YR7/3にぶい黄橙色粘土質シルトの混層
（マンガン粒含む。鉄斑あり。径1～5㎜炭化物含む。00116SP）
2. 根跡
3. 10YR7/3にぶい黄橙色砂混じりシルト層（鉄斑あり。径1mm炭化物少量含む。00116SP）
4. 10YR4/1褐灰色粘土質シルト層（鉄斑あり。径1～5mm炭化物含む。00116SP）
5. 10YR4/1褐灰色粘土質シルトと10YR7/3にぶい黄橙色粘土質シルトの混層
（マンガン粒含む。鉄斑あり。径1～5㎜炭化物含む。00117SP）
6. 10YR4/1褐灰色粘土質シルト層（鉄斑あり。径1～5mm炭化物含む。00117SP）
7. 2.5Y7/3浅黄色粘土質シルト層（マンガン粒多く含む。鉄斑多い。浅黄色細粒砂含む。
古墳時代前期～中期の堆積層か）



1. 10YR4/1褐灰色粘土質シルトと10YR7/3にぶい黄橙色粘土質シルトの混層（マンガン粒含む。鉄斑あり。径1～5㎜炭化物含む。00118SP）
2. 10YR4/1褐灰色粘土質シルト層（鉄斑あり。径1～5mm炭化物含む。00118SP）
3. 10YR4/1褐灰色極細粒砂混じりシルト層（マンガン粒多く含む。00119SP）
4. 10YR5/2灰黄褐色極細粒砂混じりシルト層（10YR4/1褐灰色粘土質シルトラミナ状に堆積。00119SP）
5. 10YR4/1褐灰色粘土質シルト層（鉄斑あり。径1～5mm炭化物含む。00119SP）

図 221　00130SB 遺構図・出土遺物実測図

り、具体的には掘立柱建物跡を構成する南東隅の柱穴 00120SP が重複関係にあり、00151SD の埋土上から掘り込まれていることが確認されている（図 241）。よって 00130SB は 00151SD 埋没後に構築された建物ということになる。

00130SB は、5 基の柱穴 00116SP ～ 00120SP で構成される掘立柱建物跡で、梁行 1 間、桁行 2 間の側柱建物である。北東隅の柱穴は撹乱と重なっており不明である。全長は梁行長約 2.3m、桁行長約 4.8m、柱間間隔は約 2.1 ～ 2.6m である。柱穴の平面形は円形でその直径は約 0.5 ～ 0.6m、深さ約 0.3 ～ 0.5m である。建物の主軸方向はグリッド北から西へ 7° 振れる。土層断面によれば柱痕跡の確認できるものはなく、埋土の最上層が掘り方の上半部を占めているものが多いことから、これらは柱を抜き取った跡と考えられる。柱穴（00117SP・00118SP）からの出土遺物は須恵器と土師器の小片で、概ね 6 世紀代のものとみられる。ただし 00151SD との先後関係が明らかであるから、建物の構築時期はその埋没時期である 6 世紀中葉以降より新しい時期になるため、その上限として 6 世紀後葉以降の時期の可能性がある。

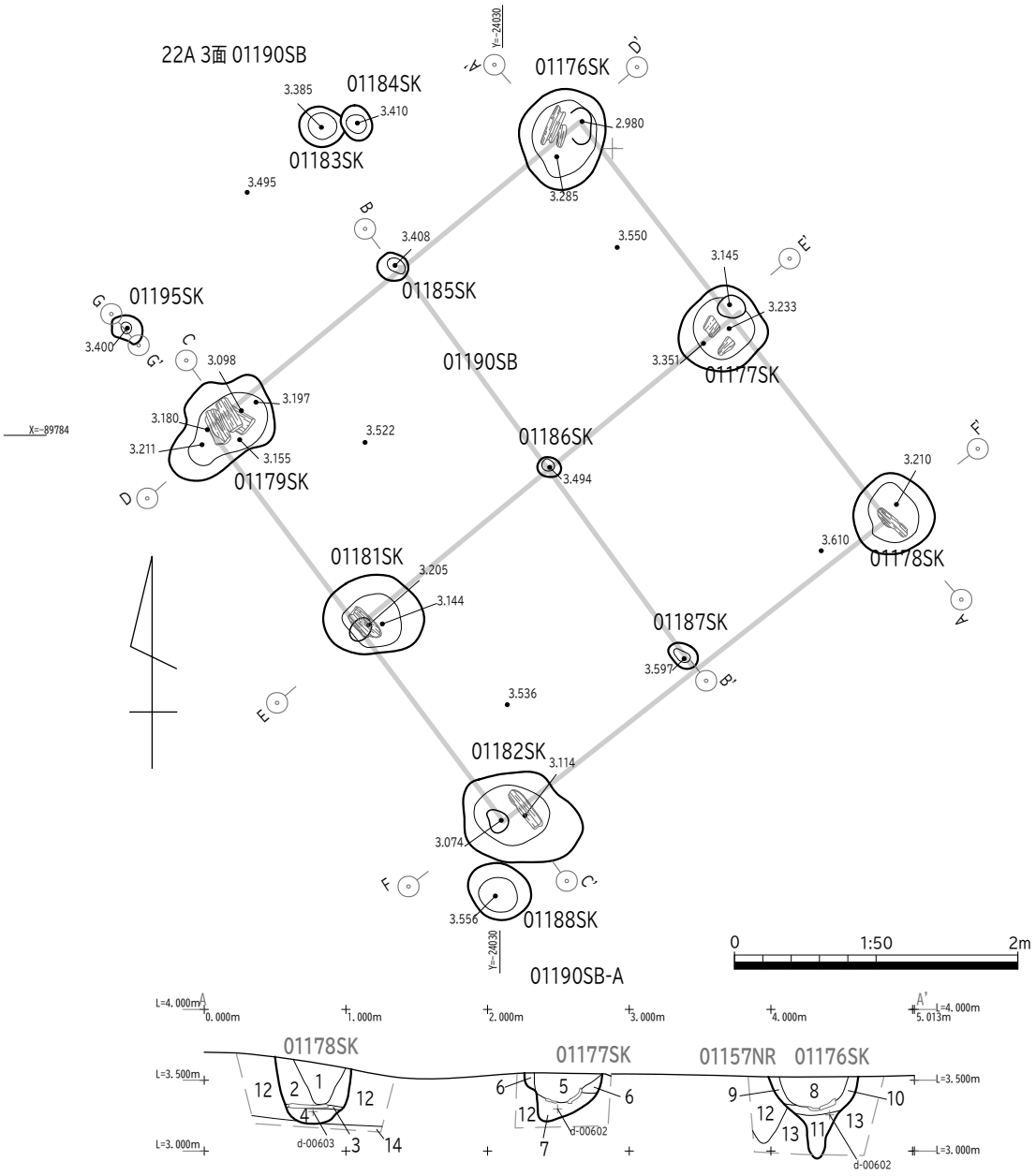
01190SB　旧河道右岸、調査範囲北東部（22A 区）に位置する掘立柱建物跡である。付近には大型竪穴建物跡 01601SI などがまばらに分布し、南東方向約 12m に位置する竪穴建物跡 01196SI が一番近い建物跡であるが主軸方位が異なる。一方、主軸方位が同じものは、南西方向に約 18 ～ 21m の距離にある総柱の掘立柱建物跡 01630SB・大型竪穴建物跡 01601SI が所在するが、これらと 01190SB との間には溝 01155SD などが横切っている。

平面形は北西～南東方向に若干長い長方形で、その規模は長軸約 3.5m、短軸約 3.2m である。大型の掘り方で構成される側柱の梁行 1 間×桁行 2 間を基礎とし、棟木の位置に小柱穴 3 基が並ぶ位置関係にある。これを柱筋に加えると 2 間× 2 間の総柱建物ということになる。桁行の柱間間隔は 1.75m、梁行の柱間間隔は約 1.6m である。主軸（桁行）の方位はグリッド北から西へ 36° 振れている。

柱穴は歪な楕円形をしており、長軸の長さ約 0.6 ～ 0.9m、深さ約 0.4 ～ 0.7m である。平面形が歪な理由は柱の抜き取りが行われたからであるが、最初の掘り方も円形～楕円形であったとみられる。また土層断面（図



図 222　旧河道右岸の掘立柱建物跡分布図



1. 10YR5/1褐灰色シルト層(10YR7/2にぶい黄橙色シルトブロック少量混入。鉄斑あり。柱抜き取り痕か。01178SK)
2. 10YR4/1褐灰色シルト層(10YR7/2にぶい黄橙色シルトブロック少量混入。鉄斑あり。01178SK)
3. 10YR5/3にぶい黄褐色細粒砂(植物質残る。礎板の痕跡か。01178SK)
4. 10YR3/2黒褐色シルトと10YR4/1褐灰色シルトの混層(10YR7/2にぶい黄橙色シルトブロック少量混入。鉄斑あり。01178SK)
5. 10YR5/1褐灰色シルト層(10YR7/2にぶい黄橙色シルトブロック混入。鉄斑あり。柱抜き取り痕か。01177SK)
6. 10YR4/1褐灰色シルト層(10YR7/2にぶい黄橙色シルトブロック混入。鉄斑あり。01177SK)
7. 10YR3/2黒褐色シルト層(10YR7/2にぶい黄橙色シルトブロック少量混入。鉄斑あり。01177SK)
8. 10YR5/1褐灰色シルト層(10YR7/2にぶい黄橙色シルトブロック混入。鉄斑あり。柱抜き取り痕か。01176SK)
9. 10YR4/1褐灰色シルト層(10YR7/2にぶい黄橙色シルトブロック少量混入。鉄斑あり。01176SK)
10. 10YR7/3にぶい黄橙色シルト層(10YR4/1褐灰色シルトブロック少量混入。鉄斑あり。01176SK)
11. 10YR3/1黒褐色粘土質シルト層(10YR7/2にぶい黄橙色シルトブロック。鉄斑あり。礎板設置以前の柱抜き取り痕か。01176SK)
12. 10YR7/2にぶい黄橙色粘土質シルト層(鉄斑あり。01157NRの堆積土の一部か)
13. 2.5GY6/1オリーブ灰色粘土質シルト層(鉄斑あり。地山)
14. 5Y6/2灰オリーブ色砂質シルト層(鉄斑あり。地山)

図 223 01190SB 遺構図 (1)

223・224、土層断面 A-A'、C-C'）によれば、01176SK や 01182SK のような漏斗形～逆円錐形の掘り方が含まれているのが特徴である。そして、掘り方の底から約 0.1 ～ 0.3m 上まで埋めた後に木製の礎板が設置されている。それによって礎板上面の高さがほぼ揃う。ちなみに本発掘調査で礎板が出土あるいはその痕跡が確認できたのは 00180SB のみで、その設置には特別な意図があったものと思われる。

以上の礎板が設置された側柱に対して、棟持柱・束柱に相当する 3 基のピットは直径約 0.1 ～ 0.2m、深さ約 0.1 ～ 0.2m と極端に小さい。このことから、一定規模の掘り方を形成して柱を立てている状態は見出しがたく、柱の下端を突き立てたように思える。あるいは側柱の 001176SK のような漏斗状掘り方の下端部が残存している可能性も考えられるが、であれば側柱に対して極端に浅い掘り方ということになる。この構築方法にも何らかの特殊な意図があったと考えておく必要がある。

礎板は腐朽が進行し、一部は土層として存在が確認されたものもある。比較的残存状況が良かったのは北西隅の柱穴 01179SK の礎板（W3）で、厚さ 4.1cm の厚板状で、長さ 32.0cm、幅 16.5cm の長方形に加工されている。樹種はヒノキである。この礎板からは試料を採取し放射性炭素年代測定を行った（測定番号 PLD-52437）。結果、2 σ暦年代較正で 406-442 cal AD（46.51%）、449-479 cal AD（17.36%）、494-536 cal AD（31.58%）という数値年代を得た。暦年代では 5 世紀初頭～ 6 世紀前葉と表示できる。ただし、当該試料には最終形成年輪が残っていないため、実際に枯死もしくは伐採された年代は、測

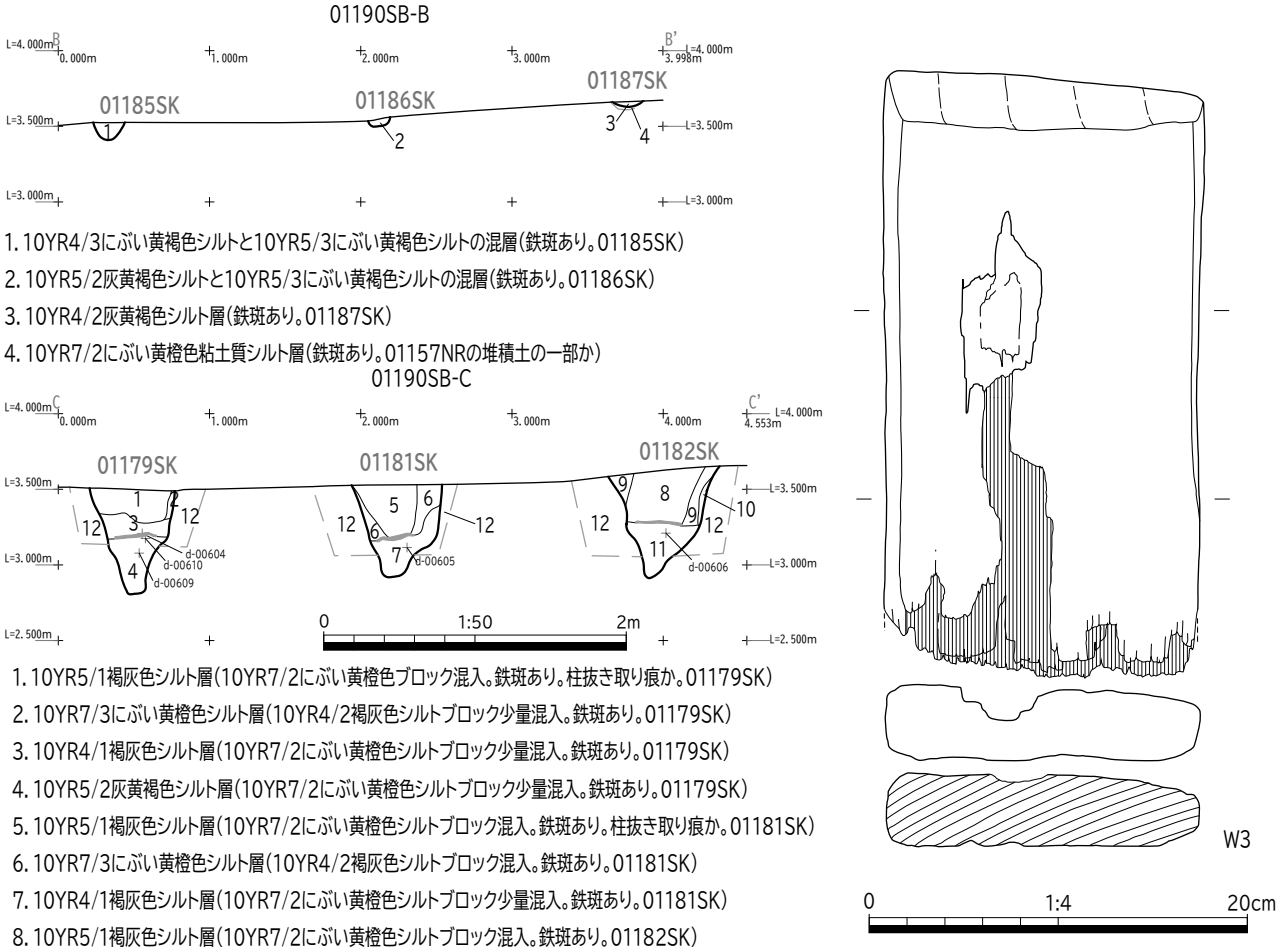


図 224　01190SB 遺構図 (2)・01179SK 出土遺物実測図

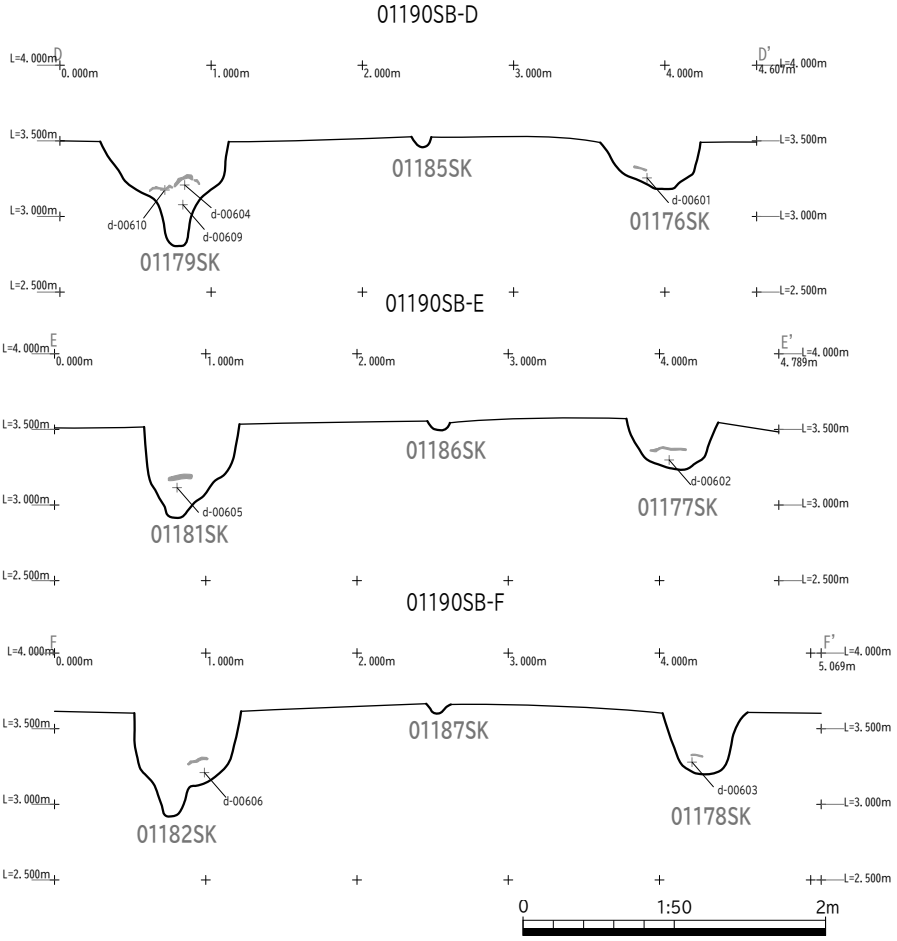


図 225 01190SB 遺構図 (3)

定結果よりも新しい年代であると考えられる。したがって掘立柱建物の構築時期として 6 世紀中葉以降も考慮すべきで、先述した 01601SI などと共存していた可能性もある。なお共存関係では、発掘調査時に竪穴建物跡の可能性がある遺構とされた幅広周溝状の溝 01010SD も注目すべきで、その形状からＬ字形に屈曲する区画溝の一端の可能性が考えられるが、その方位は 01190SB と揃っている。

00190SB の柱穴からは 01178SK から土師質土器の小片が出土しているのみで、礎板以外の遺物が極端に少ない点も注意される。このことは、00190SB が構築された前後の時期も含めて生活痕跡が希薄であったことの表れであり、そのような利用頻度の低い場所に特殊な技術で構築された掘立柱建物である点が特筆される。

01630SB　旧河道右岸、調査範囲北東部（22A 区）に位置する掘立柱建物跡である。付近には同時期の遺構が希薄で、南約 13m に大型竪穴建物跡 01601SI が存在する（図 222）。01601SI の西辺と 01630SB の西辺がほぼ同一線上にある。したがって主軸方位も同じでグリッド北から西へ 37° 振れている。この方位は東方に位置する掘立柱建物跡 01190SB ともほぼ同一（西へ 36°）である。

平面形はほぼ正方形で各辺の長さは約 2.9m である。比較的整った円形の柱穴 9 基（01621SK ～ 01629SK）があり、柱間 2 間× 2 間の総柱建物である。

各柱穴の規模は、長軸約 0.4 ～ 0.6m、短軸約 0.4 ～ 0.5m、深さ約 0.4 ～ 0.6m で極端な差はない。掘り方の断面形状は底面のあるＵ字形をしており、漏斗形～逆円錐形の 01190SB とは異なる。土層断面（図 227、土層断面 A-A’～ C-C’）によれば、掘り方を掘削後、柱を立てた後に土を入れて周囲を固めている。その際、1 ～ 2 単位に分けて土を入れる柱穴（01621SK ～ 01624SK・01626SK・01627SK）がある一方で、1 単位の土の厚さが薄く、土を入れる回数が多い柱穴（01628SK・01629SK）がある。柱を立てる順番に関わるものか興味深い。

柱痕跡は 01625SK 以外で確認できた。幅は約 0.1 ～ 0.2m である。また 01623SK・01626SK からは柱の一部と思われる木片が出土していることから柱が据えられた状態で腐朽した可能性がある。ただしその直上の層が凹地状の堆積をしていることから、柱根より上部が切断された可能性もある。

なお柱穴からの出土遺物はほとんどなく、01626SK で土器片が出土しているのみで、01190SB と同様に構築の前後の時期を含めても土器を使う活動があまりない場所であったと評価される。

01270SA　旧河道左岸、調査範囲南西部（21Ba 区）に位置する掘立柱建物跡の可能性がある柱列跡である。検 2 面で検出された。形状は、それぞれ東西方向に 3 基、南北方向に 3 ～ 4 基ずつの柱穴が並ぶ 2 つの柱列が、北西隅で直角に屈曲する逆Ｌ字形となっている。柱穴は、01260SP・01261SP・01262SP・01263SP・01264SP・01265SP（00872SK）で構成され、01262SP が北西隅の屈曲点となる。柱列のうち 01265SP（00872SK）がやや外側に外れた位置にある。01260SP より東側は竪穴建物跡 00338SI などが重複しており、ここで柱穴は検出されていないので、これ以上柱列が延びることはなく柱間は 2 間となる。これに対して南側へは、やや外れた位置の 01256SP を含めると柱間は 3 間となる。ここで柱列が東へ折れるとその先に撹乱があって柱穴が滅失していると考えることができる。以上の検討から、2 間× 3 間の掘立柱建物跡である可能性がある。それに基けば長軸（桁行）約 5.0m、短軸（梁行）約 3.0m が想定される。柱間間隔は長軸で約 1.7m、短軸で約 1.5m である。長軸を主軸とするとその方位はグリッド北から西へ 19° 振れている。

柱穴の平面形は円形で、長軸約 0.4

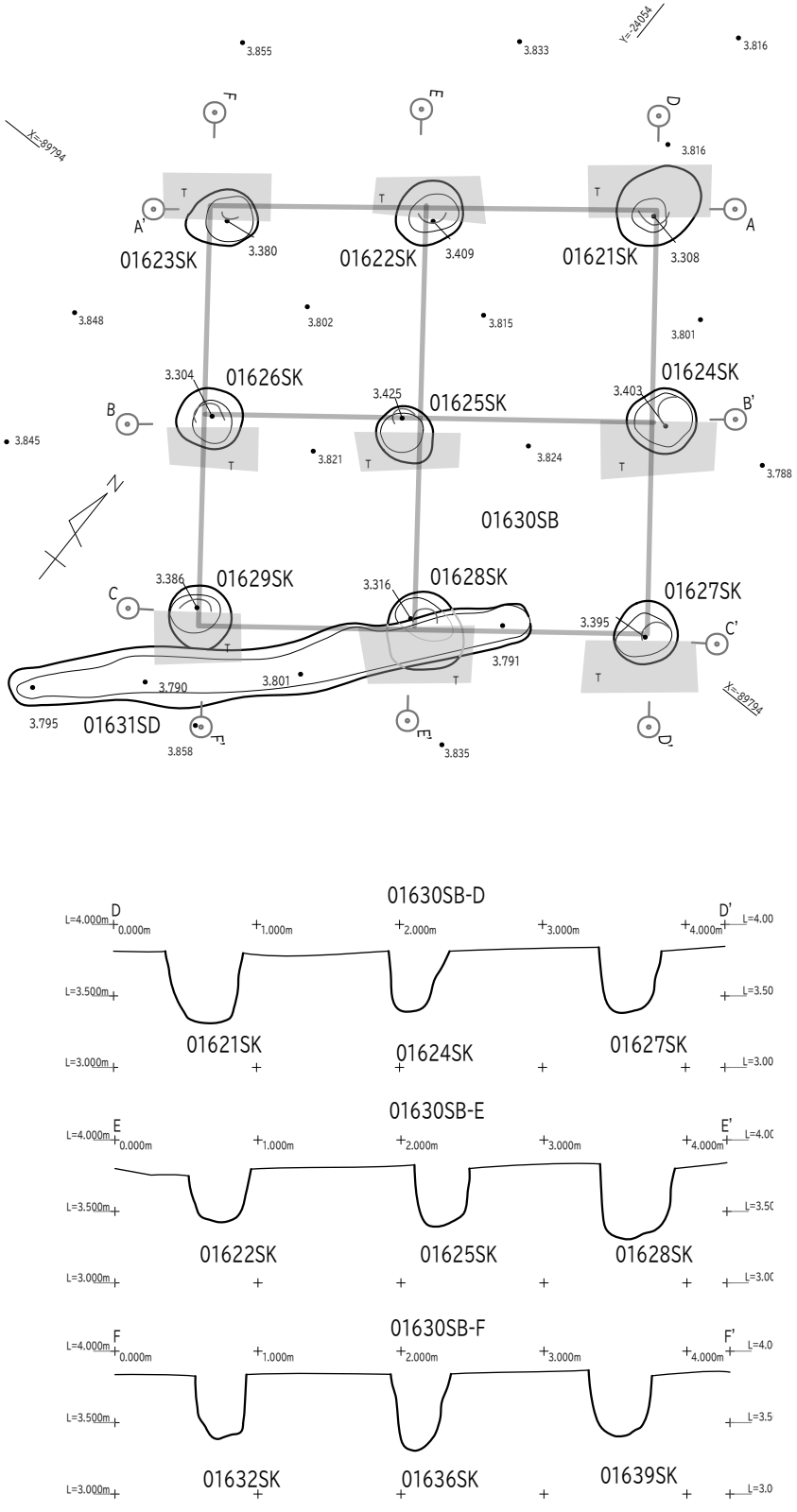
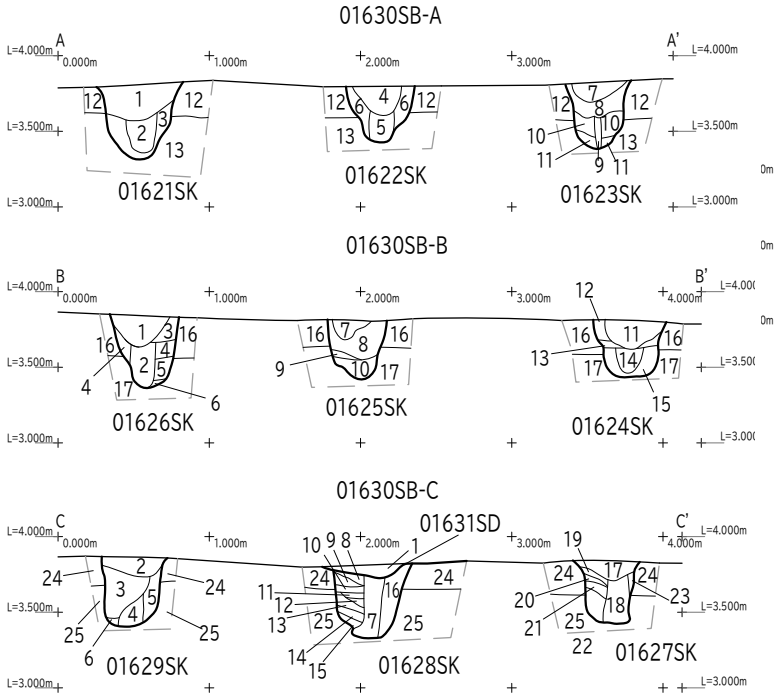


図 226　01630SB 遺構図 (1)



土層断面A-A'

1. 10YR4/3にぶい黄褐色シルト層(鉄斑あり。01621SK)
2. 10YR3/3暗褐色粘土質シルト層(鉄斑あり。01621SK柱痕)
3. 10YR5/2灰黄褐色粘土質シルト層(10YR6/3にぶい黄橙色シルトブロック混入。01621SK)
4. 10YR4/3にぶい黄褐色シルト層(鉄斑あり。01622SK)
5. 10YR3/3暗褐色粘土質シルト層(鉄斑あり。01622SK柱痕)
6. 10YR5/2灰黄褐色粘土質シルト層(10YR6/3にぶい黄橙色シルトブロック混入。01622SK)
7. 10YR4/3にぶい黄褐色シルト層(鉄斑あり。01623SK)
8. 10YR4/2灰黄褐色シルト層(10YR6/2灰黄褐色シルトブロック少量混入。鉄斑あり。01623SK)
9. 10YR3/3暗褐色粘土質シルト層(鉄斑あり。01623SK柱痕)
10. 10YR5/2灰黄褐色粘土質シルト層(10YR6/3にぶい黄橙色シルトブロック混入。鉄斑あり。01623SK)
11. 10YR4/3にぶい黄褐色粘土質シルト層(10YR6/2灰黄褐色シルトブロック混入。鉄斑あり。01623SK)
12. 2.54GY4/1暗オリーブ灰色粘土質シルト層(鉄斑あり。地山
13. 2.5GY6/1オリーブ灰色粘土質シルト層(鉄斑あり。地山)

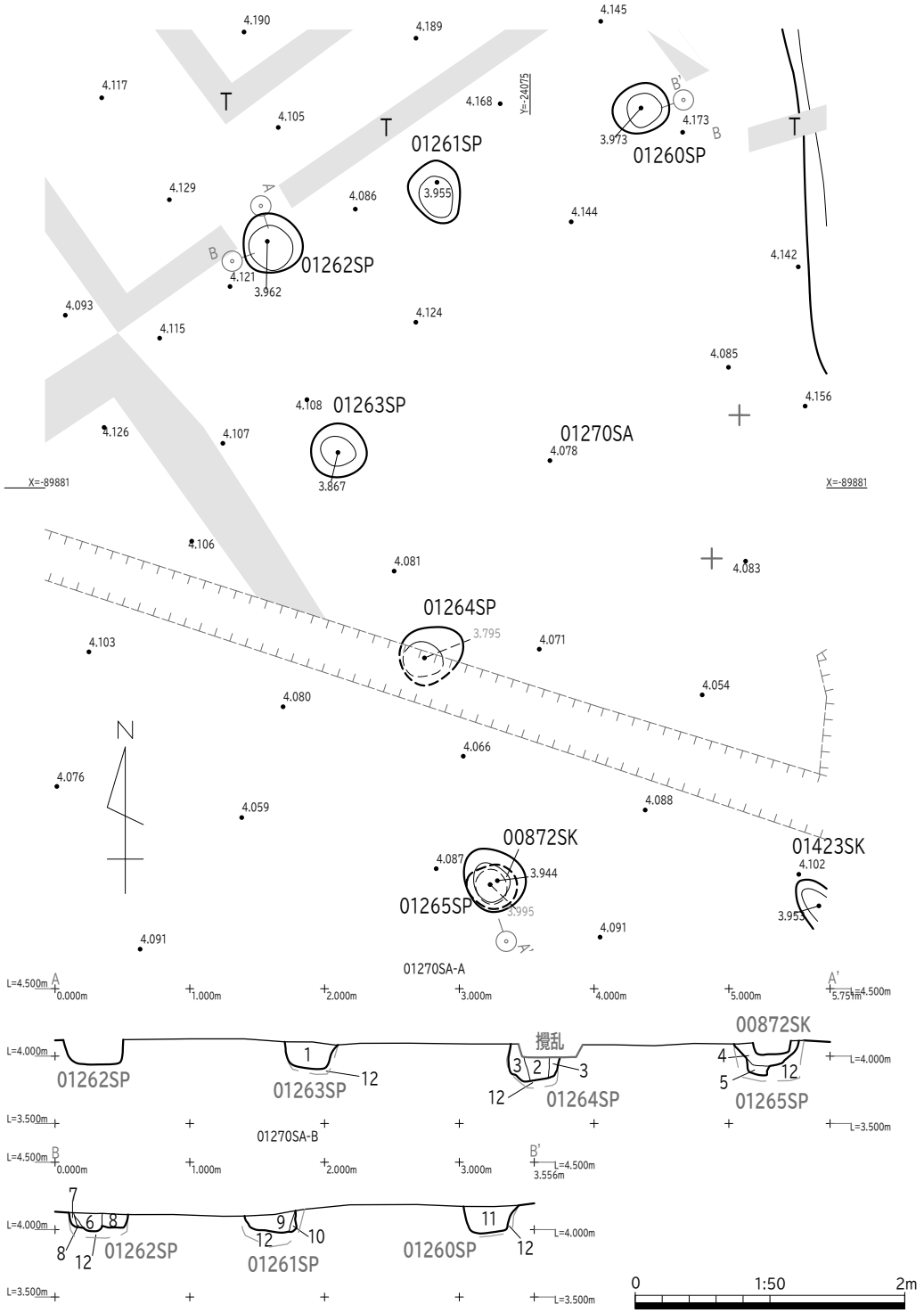
土層断面B-B'

1. 10YR4/3にぶい黄褐色シルト層(鉄斑あり。01626SK)
2. 10YR3/3暗褐色粘土質シルト層(2.5GY4/1暗オリーブ灰色粘土質シルトブロック少量混入。鉄斑あり。01626SK柱痕)
3. 10YR4/2灰黄褐色シルト層(10YR7/3にぶい黄橙色シルトブロック少量混入。鉄斑あり。01626SK)
4. 2.5GY7/1明オリーブ灰色シルト層(10YR6/2灰黄褐色シルトブロック混入。鉄斑あり。01626SK)
5. 10YR5/2灰黄褐色粘土質シルト層(10YR6/3にぶい黄橙色シルトブロック混入。01626SK)
6. 2.5GY6/1オリーブ灰色シルト層(10YR6/1褐灰色シルトブロック混入。鉄斑少ない。01626SK)
7. 10YR4/3にぶい黄褐色シルト層(鉄斑あり。01625SK)
8. 10YR4/3にぶい黄褐色シルト層(鉄斑あり。01625SK)
9. 10YR5/2灰黄褐色粘土質シルト層(10YR7/3にぶい黄橙色シルトブロック混入。鉄斑あり。01625SK)
10. 10YR6/1褐灰色シルト層(2.5GY6/1オリーブ灰色シルトブロック混入。鉄斑あり。01625SK)
11. 10YR4/3にぶい黄褐色シルト層(鉄斑あり。01624SK)
12. 10YR4/4褐色シルト層(10YR6/3にぶい黄橙色シルトブロック混入。鉄斑あり。01624SK)
13. 10YR5/3灰黄褐色シルト層(鉄斑あり。01624SK)
14. 10YR3/3暗褐色粘土質シルト層(鉄斑あり。01624SK柱痕)
15. 10YR5/2灰黄褐色粘土質シルト層(10YR6/3にぶい黄橙色シルトブロック混入。鉄斑あり。01624SK)
16. 2.54GY4/1暗オリーブ灰色粘土質シルト層(鉄斑あり。地山)
17. 2.5GY6/1オリーブ灰色粘土質シルト層(鉄斑あり。地山)

土層断面C-C'

1. 10YR4/2灰黄褐色シルト層(鉄斑あり。01631SD)
2. 10YR4/3にぶい黄褐色シルト層(鉄斑あり。01629SK)
3. 10YR5/3にぶい黄褐色シルト層(鉄斑あり。01629SK)
4. 10YR3/3暗褐色粘土質シルト層(鉄斑あり。01629SK柱痕)
5. 10YR5/2灰黄褐色粘土質シルト層(10YR6/3にぶい黄橙色シルトブロック混入。鉄斑あり。01629SK)
6. 10YR4/1褐灰色シルト層(2.5GY4/1暗オリーブ灰色シルトブロック少量混入。鉄斑あり。01629SK)
7. 10YR3/3暗褐色粘土質シルト層(鉄斑あり。01628SK柱痕)
8. 10YR4/4褐色粘土質シルト層(鉄斑少ない。01628SK)
9. 10YR4/2灰黄褐色シルト層(鉄斑少ない。01628SK)
10. 10YR3/3暗褐色シルト層(鉄斑少ない。01628SK)
11. 10YR4/3にぶい黄褐色粘土質シルト層(鉄斑少ない。0162
12. 10YR5/3にぶい黄褐色粘土質シルト層(鉄斑少ない。0162
13. 10YR3/3暗褐色粘土質シルト層(鉄斑あり。01628SK)
14. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(鉄斑あり。01628SK)
15. 10YR3/1黒褐色粘土質シルト層(鉄斑少ない。01628SK)
16. 10YR4/4褐色粘土質シルト層(鉄斑あり。016928SK)
17. 10YR4/3にぶい黄褐色シルト層(鉄斑あり。01627SK)
18. 10YR3/3暗褐色粘土質シルト層(10YR6/3にぶい黄橙色シルト層ブロック混入。鉄斑あり。01627SK)
19. 10YR4/2灰黄褐色シルト層(鉄斑あり。01627SK)
20. 10YR6/3にぶい黄橙色シルト層(鉄斑少ない。01627SK)
21. 10YR4/3にぶい黄褐色シルト層(鉄斑あり。01627SK)
22. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(鉄斑あり。01627SK)
23. 10YR4/3にぶい黄褐色粘土質シルト層(10YR6/3にぶい
シルトブロック少量混入。鉄斑あり。01627SK)
24. 2.54GY4/1暗オリーブ灰色粘土質シルト層(鉄斑あり。地山
25. 2.5GY6/1オリーブ灰色粘土質シルト層(鉄斑あり。地山)

図 227 01630SB 遺構図 (2)

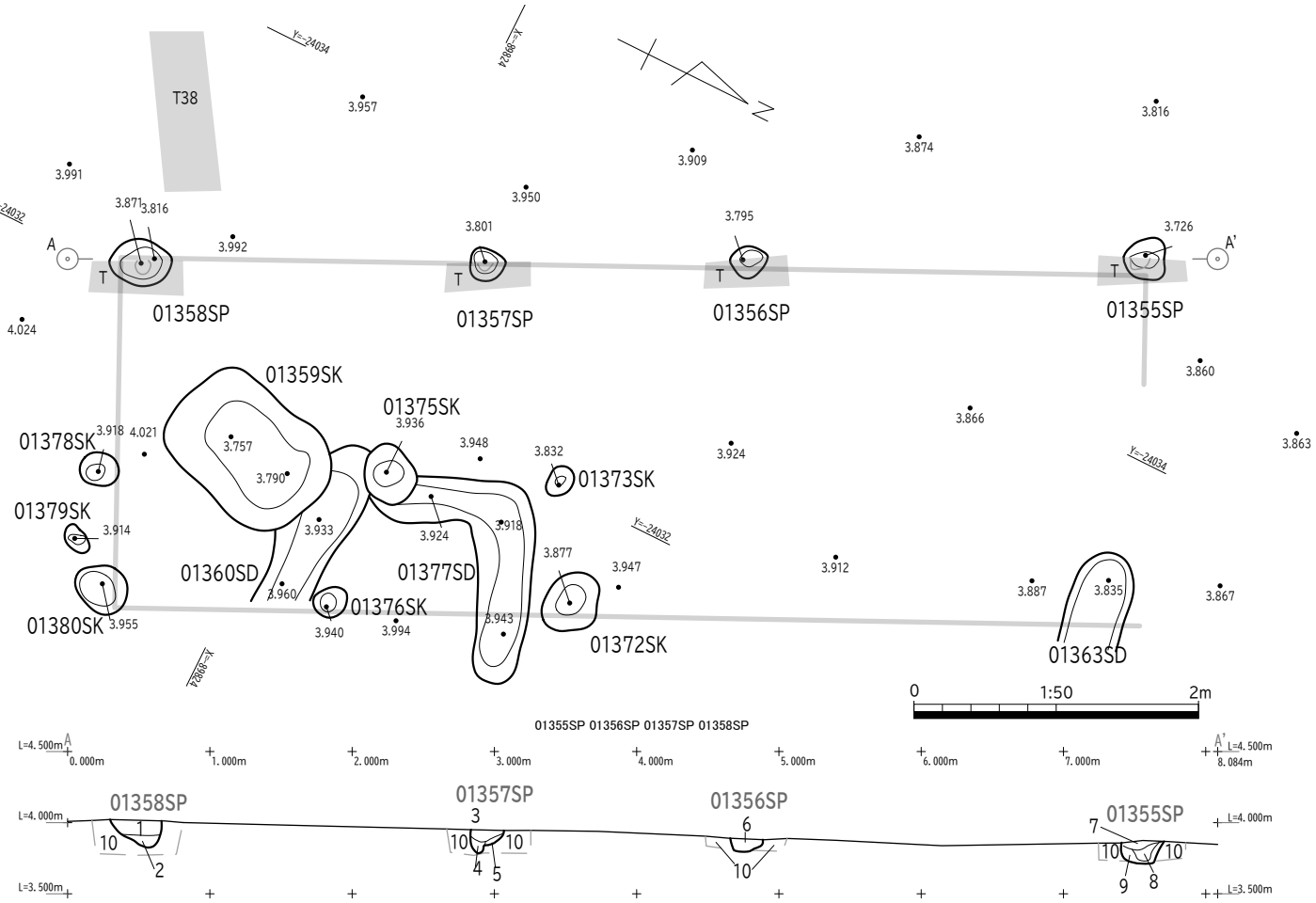


1. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを含む。炭化物を極少量含む。01263SP)
2. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂ブロックを少量含む。炭化物を少量含む。柱痕。01264SP)
3. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂ブロックを含む。掘り方。01264SP)
4. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂大ブロックを少量含む。炭化物を少量含む。01265SP)
5. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを少量含む。01265SP)
6. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを含む。炭化物を極少量含む。柱痕。01262SP)
7. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(01262SP)
8. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂ブロックを含む。掘り方。01262SP)
9. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを多く含む。01261SP)
10. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層(10YR3/2黒褐色シルトブロックを含む。01261SP)
11. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂ブロックを多く含む。炭化物を少量含む。01260SP)
12. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層(地山)

図 228 01270SA 遺構図

～ 0.5m、深さ約 0.2 ～ 0.3m である。柱痕跡があるのは 01262SP・01264SP の 2 基で、他は抜き取られたような土層断面である。なお、北西隅の 01262SP は竪穴建物跡 01750SI と重複しその埋土上から掘り込まれている。したがって 01750SI より新しい。01750SI の時期が H-44 号窯式期まで下ると考えられるので、01270SA は 7 世紀以降の可能性が高い。

05001SA　旧河道右岸、調査範囲北東部（22A 区）に位置する掘立柱建物跡の可能性がある柱列である。当該遺構の東側約 3m に大型竪穴建物跡 01600SI が所在する。長軸方向の長さは約 7.2m である。発掘調査段階では南北方向の柱列が想定されていたが遺構番号が付与されなかったものである。当初確認した柱列は 4 基のピット（01355SP ～ 01358SP）で、さらに南端の 01358SP で東へ屈曲して 1 間分のところにあるピット（01380SK）が柱穴に相当すると考えられる。しかしそこから先は、当初の柱列に対して並行する柱列（01380SK・01376SK・01372SK・01363SD）は柱間間隔がまばらで建物の柱列とするには躊躇される。よって掘立柱建物跡とは考えにくい。当初の柱列の方位はグリッド北から西へ 25° 振れている。柱間間隔は北から約 2.8m、約 1.9m、約 2.5m である。柱穴は長軸約 0.3 ～ 0.5m、深さ約 0.1 ～ 0.2m と小さく浅い。出土遺物は 01363SD から須恵器が出土したのみで、時期の特定は難しい。



1. 10YR4/1褐灰色砂質シルト層（鉄斑あり。01358SP）
2. 10YR6/2灰黄褐色砂質シルト層（鉄斑あり。01358SP）
3. 10YR4/1褐灰色砂質シルト層（鉄斑あり。01357SP）
4. 10YR6/2灰黄褐色砂質シルト層（鉄斑あり。01357SP）
5. 10YR6/1褐灰色砂質シルト層（鉄斑あり。01357SP）
6. 10YR4/1褐灰色砂質シルト層（鉄斑あり。01356SP）
7. 10YR4/1褐灰色砂質シルト層（鉄斑あり。01355SP）
8. 10YR6/2灰黄褐色砂質シルト層（鉄斑あり。01355SP）
9. 10YR6/1褐灰色砂質シルト層（鉄斑あり。01355SP）
10. 2.5GY6/1オリーブ灰色シルト層（鉄斑あり。地山）

図 229　05001SA（01355SP・01356SP・01357SP・01358SP）遺構図

05002SB　旧河道左岸､調査範囲中部(21Ba･21Ca 区)に位置する掘立柱建物跡である(図 230)。竪穴建物跡 01540SI の南辺から南へ約 1m と近接する位置にあり、柱穴の一部（01531SK・01532SK）は、これも 01540SI 南側に接するようにしてある土坑状の炭化物集積遺構 02135SX の埋土上から掘り込まれている。21Ca 区の発掘調査時は上記の 01531SK から西方向へ 5 基のピットが柱列として認識されていたが、調査後に 21Ca 区と 21Ba 区の遺構図を合わせたところ、西端の 01528SK から南方向へ続く柱筋が見出された。そこからさらに並行する南側の柱筋を検討した結果、1 基の掘立柱建物跡として再認識するに至った。以上をもって 05002SB とする。

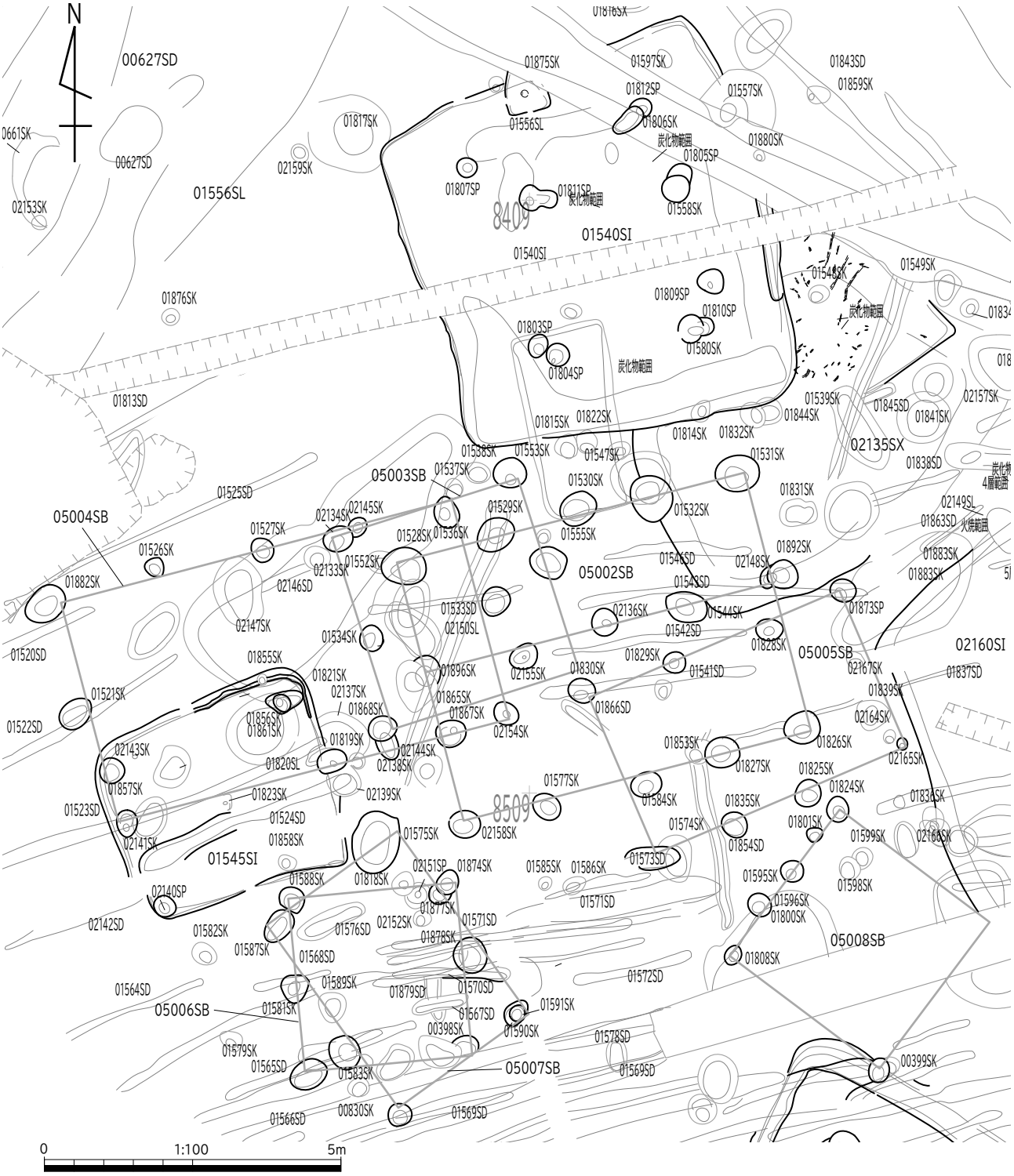
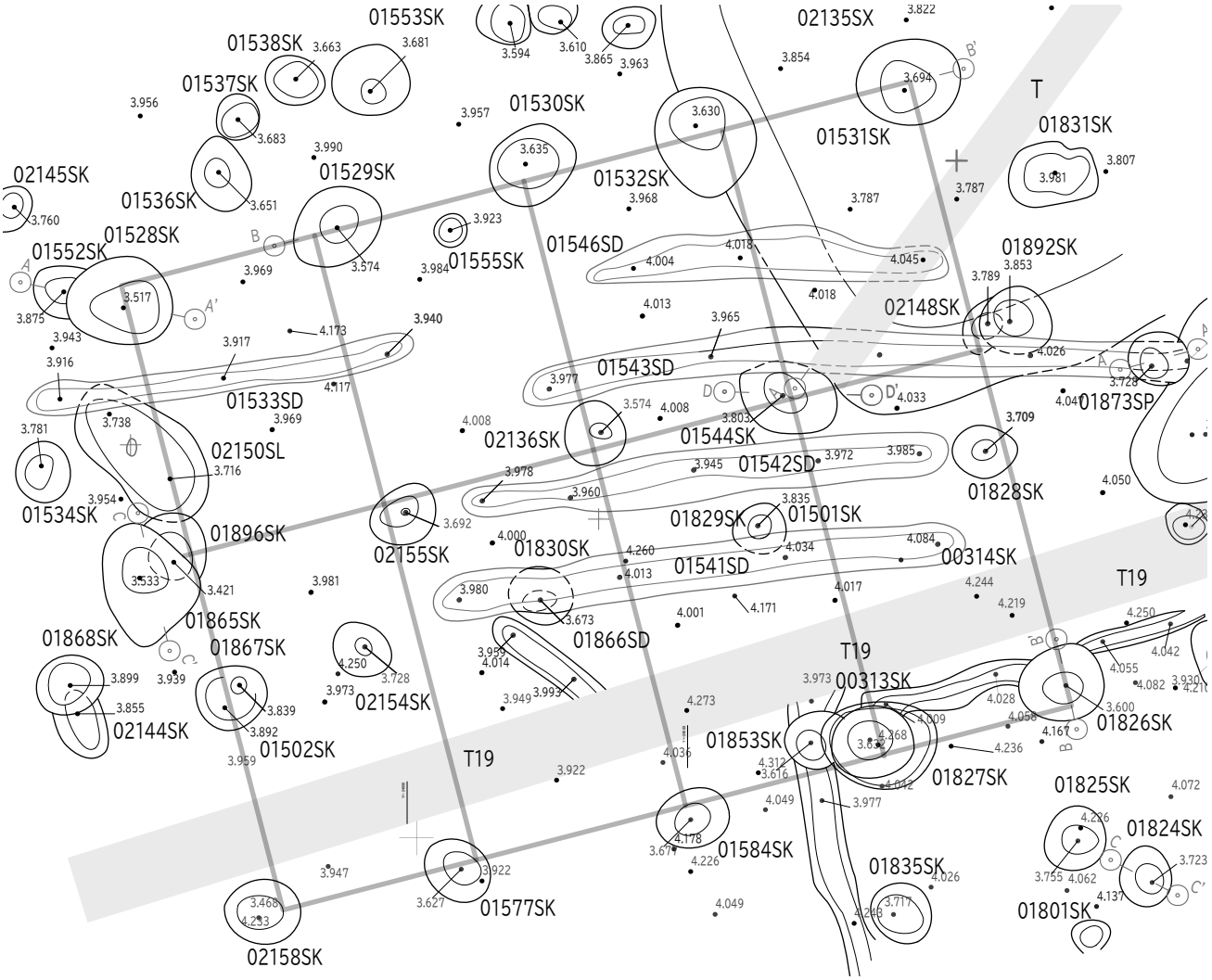
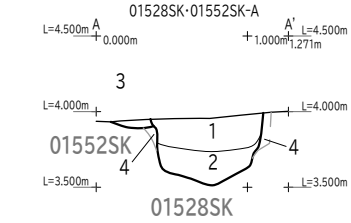
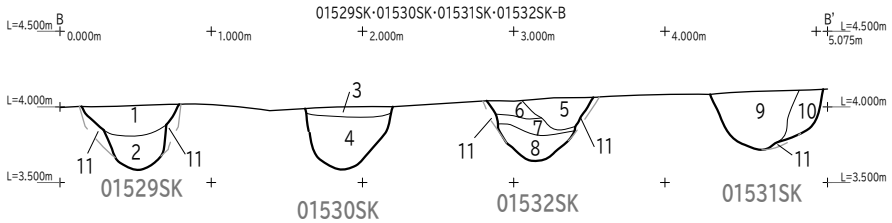


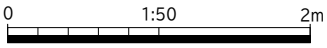
図 230　05002SB ～ 05008SB 遺構図





1. 5Y4/2灰オリーブ色粘土質シルトと2.5Y6/2灰黄色シルトの混層(鉄斑あり。炭化物少し含む。01528SK)
2. 10Y3/1オリーブ黒色粘土質シルトと2.5Y6/2灰黄色の混層(鉄斑あり。炭化物少し含む。01528SK)
3. 5Y4/1灰色シルトと2.5Y6/2灰黄色シルトの混層(鉄斑あり。01552SK)
4. 2.5Y6/2灰黄色シルト(マンガン粒含む。鉄斑あり。包含層)





1. 2.5Y5/1黄灰色粘土質シルトと2.5Y6/2灰黄色シルトの混層(マンガン粒含む。鉄斑あり。炭化物含む。焼土粒わずかに含む。01529SK)
2. 2.5Y3/1黒褐色粘土質シルトと5Y6/2砂質シルトの混層(鉄斑少ない。炭化物少し含む。01529SK)
3. 2.5Y5/1黄灰色粘土質シルトと2.5Y6/2灰黄色シルトの混層(マンガン粒含む。鉄斑あり。炭化物含む。焼土粒少し含む。01530SK)
4. 2.5Y3/1黒褐色粘土質シルトと5Y6/2砂質シルトの混層(マンガン粒少し含む。鉄斑あり。炭化物含む。焼土粒わずかに含む。01530SK)
5. 2.5Y5/1黄灰色粘土質シルトと2.5Y6/2灰黄色シルトの混層(マンガン粒含む。鉄斑あり。炭化物少し含む。01532SK)
6. 2.5Y4/1黄灰色粘土質シルト(炭化物含む。2.5Y6/2灰黄色シルトブロック少し含む。01532SK)
7. 2.5Y5/1黄灰色シルト(鉄斑あり。焼土粒わずかに含む。01532SK)
8. 2.5Y3/1黒褐色粘土質シルトと5Y6/2砂質シルトの混層(鉄斑少ない。炭化物わずかに含む。01532SK)
9. 2.5Y3/1黒褐色粘土質シルト(鉄斑あり。炭化物少し含む。2.5Y6/2灰黄色シルトブロック含む。01531SK)
10. 2.5Y6/2灰黄色シルト(マンガン粒含む。鉄斑あり。炭化物少し含む。01531SK)
11. 2.5Y6/2灰黄色シルト(マンガン粒含む。鉄斑あり。包含層)

図 231　05002SB・05002SB 関連 (01355SP・01356SP・01357SP・01358SP) 遺構図

建物の平面形は東西方向に長い長方形である。その規模は、長軸（桁行）約 5.3m、短軸（梁行）約 4.6m である。柱間は梁行 2 間×桁行 4 間で、この側柱筋に加えて 01896SK・01865SK、02155SK、02136SK、01544SK、02148SK の柱筋が東西方向の中心軸よりやや北側にある。この柱筋の柱穴は側柱の柱穴どうしを結んだ線上にあることから、05002SB は東西棟の総柱建物ということになる。その主軸の方位はグリッド北から西へ 12° 振れている。柱間間隔は、桁行は西から約 1.5m、1.6m、1.5m、1.4m、梁行は北から約 2.0m、2.6m で均等でない。

柱穴は、北側柱筋のものがやや大きめで長軸約 0.5 ～ 0.8m、深さ約 0.4 ～ 0.5m である。土層断面（図 229、B-B'）によれば、いずれも柱を抜き取り穴（01531SK）もしくは抜き取り後の再堆積（01530SK など）の状態であることから当初の掘り方より大型化している可能性がある。よっていずれも柱痕跡は不明である。

柱穴からの出土遺物は、01528SK（図 230-2045 ～ 2048）、01530SK（3704）、01532SK（3705）、01827SK（3749・3750）、01896SK（3770）にあって、他の掘立柱建物跡よりも比較的多い。しかし、いずれも 6 世紀代までさかのぼる可能性が高く、遺構の重複関係で 05002SB に先行する 02135SX などの廃棄土坑からの混入がほとんどと思われる。しかし 02135SX の出土土器には I-17 号窯式期（7 世紀後葉）の須恵器有台杯（図 214-1829）が含まれていることから、05002SB はそれよりも新しい時期と考えられる。また、近接する 01540SI においても I-17 号窯式期～ I-41 号窯式期の須恵器が出土している。05002SB が 01540SI と共存していた可能性はあるが、一方で、廃絶状態の 01540SI への廃棄行為がなされている時期に機能していたことも十分考えられ、それは 7 世紀後葉～ 8 世紀前葉と想定することができるであろう。

05003SB　調査範囲中部（21Ca 区）に位置する。掘立柱建物跡 05004SB と重複し 05004SB より新しい。主軸方位はグリッド北から西へ 15° 振れている平面形がほぼ正方形。柱穴は、北西隅から 02134SK、01533SK、01500SK、01868SK、01534SK で構成される 1 ～ 2 間× 2 間。平面規模は長軸約 3.8m、短軸約 3.5m である。

05004SB　調査範囲中部（21Ca 区）に位置する。竪穴建物跡 01545SI、掘立柱建物跡 05002SB・05003SB と重複し 05003SB より古い。主軸方位はグリッド北から西へ 15° 振れている東西棟。柱穴は、西隅から 01882SK、

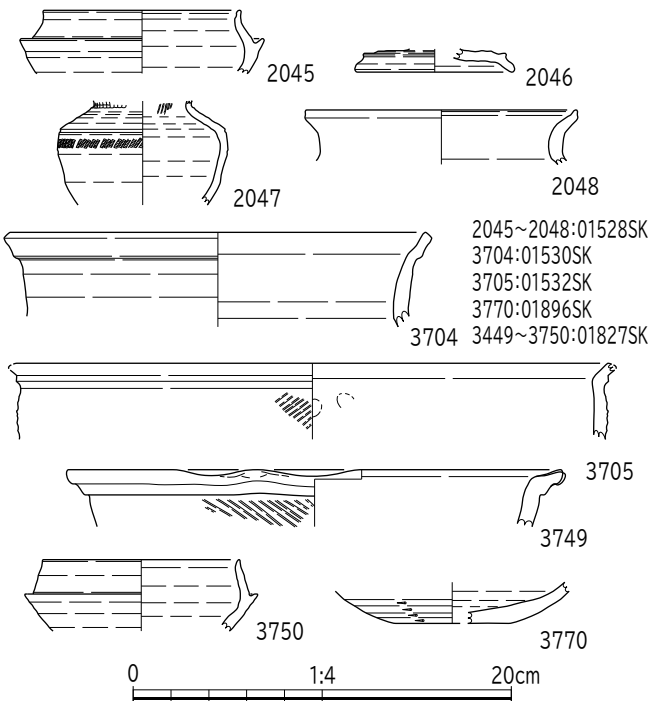


図 232　05002SB 出土遺物実測図

015260SK、015C27SK、02145SK、01536SK、01534SK、02154SK、02144SK、01820SL、01521SK で構成される 2 間× 4 間。平面規模は長軸約 4.6m、短軸約 3.8m である。

05005SB　調査範囲中部（21Ba 区）に位置する。掘立柱建物跡 05002SB と重複する。主軸方位はグリッド北から西へ 22° 振れている東西棟。柱穴は、北西隅から 01830SK、01829SK、01828SK、18371SP、02165SK、01825SK、01835SK、01573SD で構成される 1 間× 3 間。平面規模は長軸約 4.6m、短軸約 2.9m である（図 230）。

05006SB　調査範囲中部（21Ba 区）に位置する。掘立柱建物跡 05007SB と重複しこれより新しい。主軸方位はグリッド北から西へ 5° 振れている平面形がほぼ正方形。柱穴は、北西隅から 01588SK、01874SK、01878SK、00398SK、00888SK、01581SK で構成される。平面規模は長軸約 3.0m、短軸約 2.9m である（図 230）。

05007SB　調査範囲中部（21Ba 区）に位置する。掘立柱建物跡 05006SB と重複しこれより古い。主軸方位はグリッド北から西へ 35° 振れている南北棟。柱穴は、西隅から 01587SK、01575SK、01877SK、01878、01590SK・01591SK、00830SK、01583SK、0158SK で構成される。ただし柱筋が確実なのは北西辺のみ。平面規模は長軸約 3.7m、短軸約 2.7m である（図 230）。

05008SB　調査範囲中部（21Ba 区）に位置する。

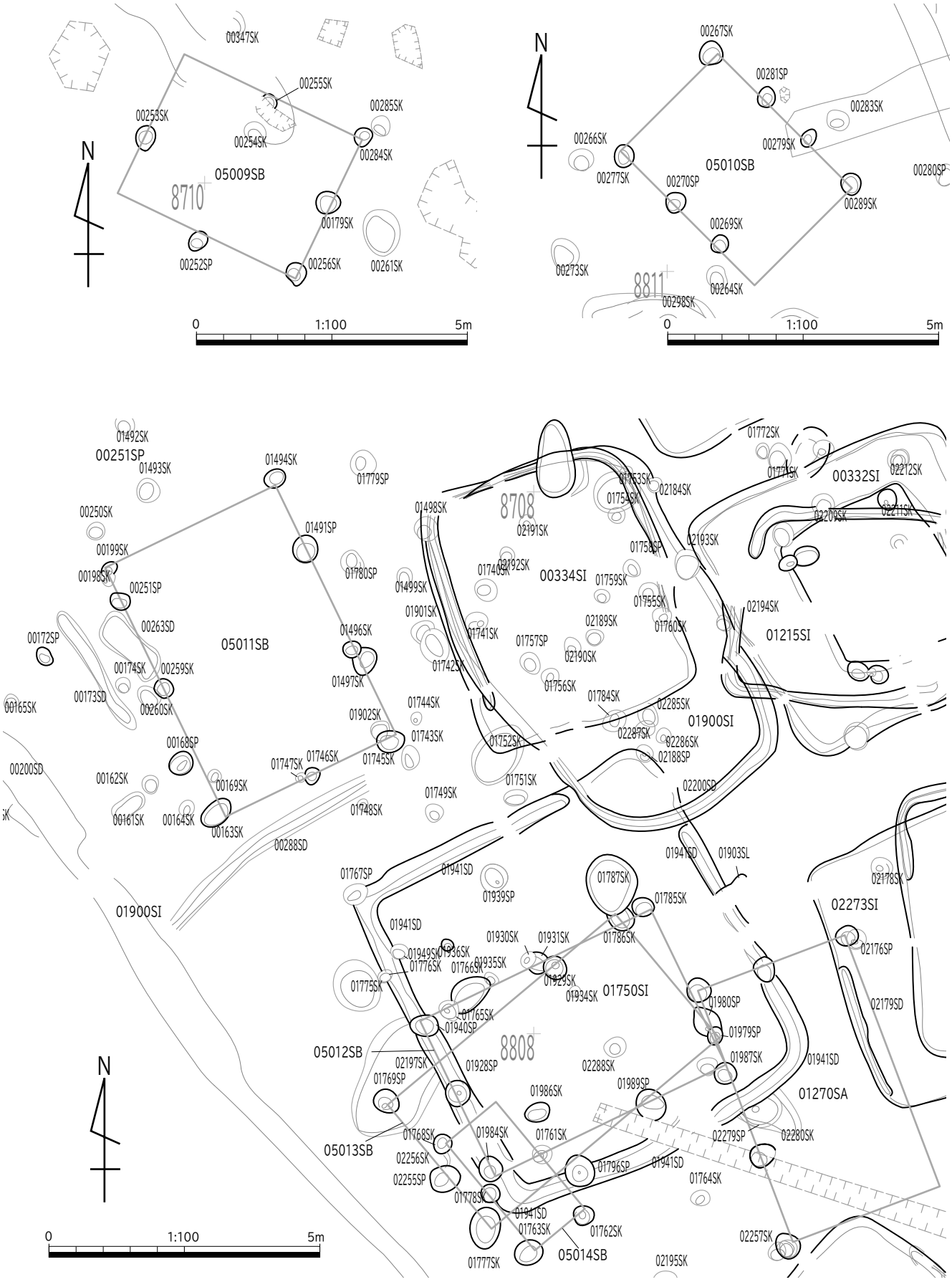


図 233 01270SA・05009SB ～ 05014SB 遺構図

南隅で竪穴建物跡 01216SI と重複しこれより新しい。主軸方位はグリッド北から東へ 38° 振れている平面形がほぼ正方形。柱穴は、西隅から 01808SK、01800SK、01595SK、10801SK、01824SK、00399SK で構成される。ただし柱筋が確実なのは北西辺のみ。平面規模は長軸約 3.2m、短軸約 3.2m である（図 230）。

05009SB　調査範囲南西部（21Ba 区）に単独で位置する。主軸方位がグリッド北から東へ 26° 振れている。柱穴は、00255SK、00285SK、00179SK、00256SK、00252SP、00253SK で構成される 2 間× 2 間。平面規模は長軸約 3.7m、短軸約 2.8m である（図 233）。

05010SB　調査範囲南西部（21Ba 区）に単独で位置する。主軸方位がグリッド北から西へ 45° 振れている。柱穴は、北隅から 00267SK、00281SP、00279SK、00289SK、00269SK、00270SP、00277SK で構成される 1 間× 3 間。平面規模は長軸約 3.5m、短軸約 2.6m である。

05011SB　調査範囲南西部（21Ba 区）、01750SI の北側に位置する。01750SI と主軸方位（グリッド北から西へ 11° 振れている）がほぼ同じの南北棟。柱穴は北西隅から、00198SK・00199SK、01494SK、01491SP、01496SK・01497SK、01745SK・01902SK、01746SK・01747SK、00163SK、00168SK、00260SK・00259SK、00251SP で構成される 2 間× 3 ～ 4 間。平面規模は長軸約 5.2m、短軸約 3.5m である（図 233）。

05012SB　調査範囲南西部（21Ba 区）、01750SI の南半部に重複するとともに 05013SB と柱穴が共有または重複関係にある。主軸方位はグリッド北から西へ 25° 振れている東西棟。柱穴は北西隅から、0940SP・01766SK・01765SK、01931SK・01930SK・01785SK、01987SK・01989SP・01984SK・01928SP で構成される 2 間× 3 間。平面規模は長軸約 4.8m、短軸約 3.2 である（図 233）。

05013SB　調査範囲南西部（21Ba 区）、01750SI の南半部に重複するとともに 05012SB と柱穴が共有または重複関係にある。01750SI と主軸方位（グリッド北から西へ 39° 振れている）がほぼ同じ東西棟。柱穴は北西隅から、01769SP・01929SK・01786SK、01979SP、01989SP・01796SP、01777SP・02255SP で構成される 2 間× 3 間。平面規模は長軸約 5.5m、短軸約 3.1m。

05014SB　調査範囲南西部（21Ba 区）、01750SI 南西隅に重複する。主軸方位はグリッド北から西へ 40° 振れている南北棟。柱穴は北西隅から、01768SK、01761SK、01762SK、01763SK、01778SK で構成される 1 間× 2 間。平面規模は長軸約 2.6m、短軸約 1.2m である。

05015SB　調査範囲北東部（22A 区）に位置する。主軸方位はグリッド北から西へ 9° 振れている東西棟。柱穴は北西隅から、01312SK、01059SK、01057SK、01050SK、01046SK、01033SK、01031SK、01002SK、01023SK、01310SK で構成される 2 間× 4 間。平面規模は長軸約 5.2m、短軸約 4.3m である（図 234）。

05016SB　調査範囲北東部（22A 区）に位置する。主軸方位はグリッド北から西へ 5° 振れている東西棟。柱穴は北西隅から、00313SK、01056SK、01049SK、01047SK、01045SK、01040SK、01032SK、01306SK、01307SK、01309SK・01021SK、01022SK、01025SK、01311SK で構成される 2 間× 3 ～ 6 間。平面規模は長軸約 7.8m、短軸約 4.4m である（図 234）。

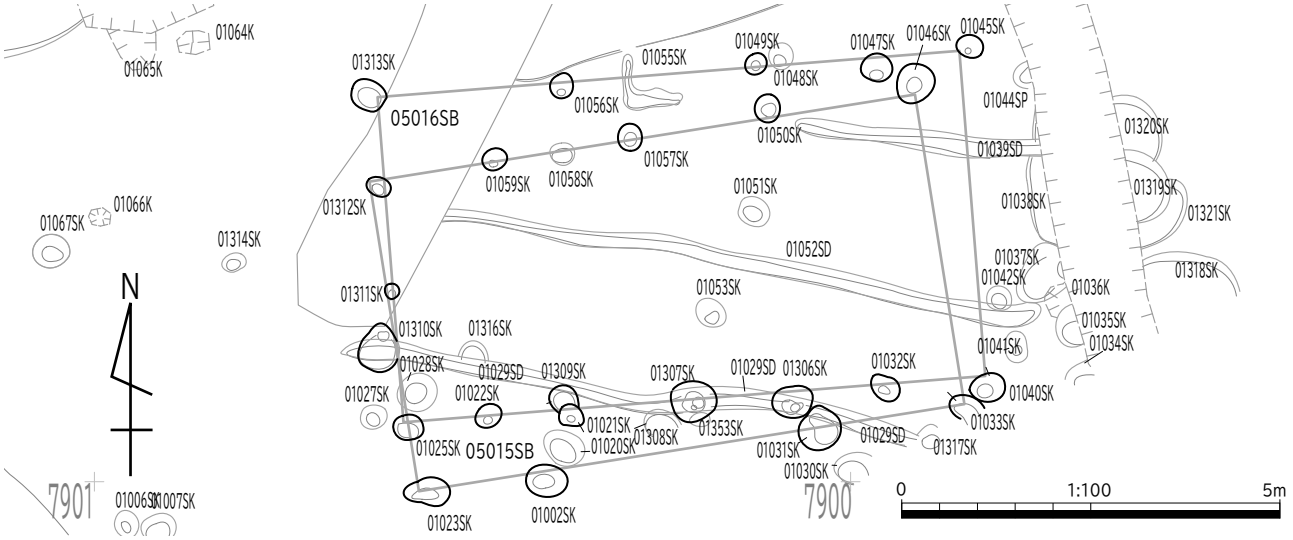
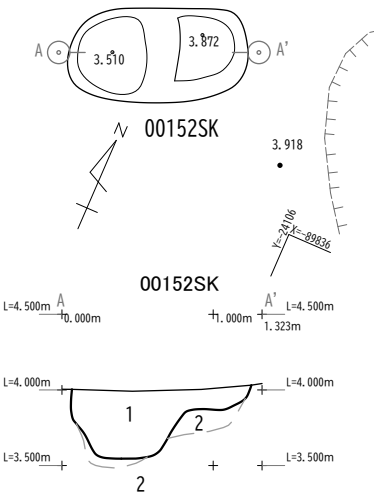
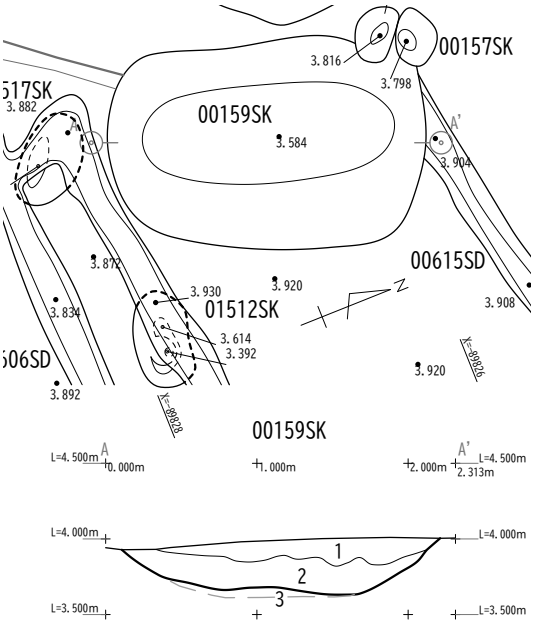


図 234　05015・0516SB 遺構図



1. 10YR4/2灰黄褐色粘土質シルトと
10YR7/3にぶい黄橙色極細粒砂～
細礫の混層(径5㎜～1㎝炭化物
少量含む)

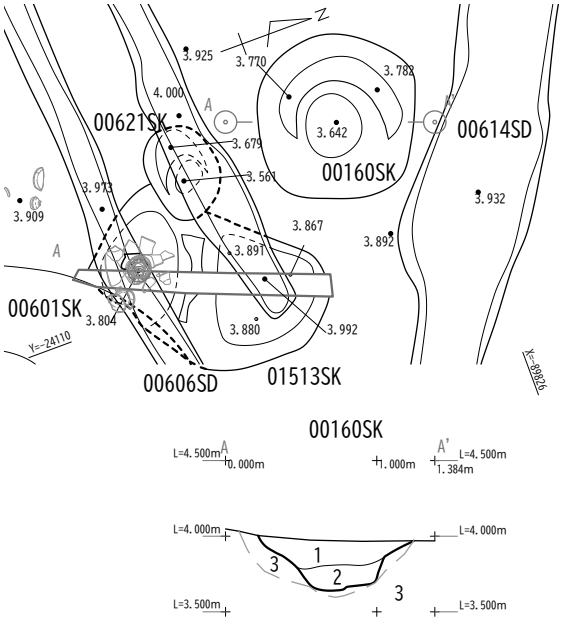
2. 2.5Y7/3浅黄色粘土質シルト層
(マンガン粒多く含む。鉄斑多い。
浅黄色細粒砂含む。
古墳時代前期～中期の堆積層か)



1. 10YR4/3にぶい黄褐色細粒砂混じり
シルト層

2. 10YR5/2灰黄褐色粘土質シルトと
10YR5/6黄褐色細粒砂の混層
(径1～5mm炭化物少量含む)

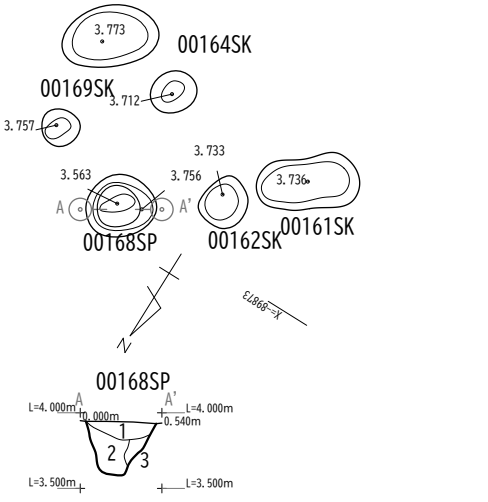
3. 2.5Y7/3浅黄色粘土質シルト層
(マンガン粒多く含む。鉄斑多い。
浅黄色細粒砂含む。
古墳時代前期～中期の堆積層か)



1. 10YR4/3にぶい黄褐色細粒砂混じり
シルト層

2. 10YR5/2灰黄褐色粘土質シルトと
10YR5/6黄褐色細粒砂の混層
(径1～5mm炭化物少量含む)

3. 2.5Y7/3浅黄色粘土質シルト層
(マンガン粒多く含む。鉄斑多い。
浅黄色細粒砂含む。
古墳時代前期～中期の堆積層か)



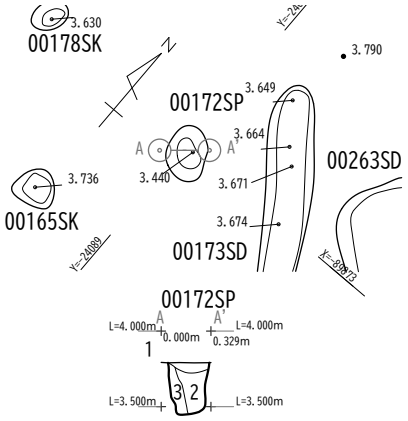
1. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層
(灰黄褐色シルト小ブロックを含む。)

2. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層
(灰黄褐色シルト小ブロックを少量含む。
炭化物を極少量含む。柱痕。)

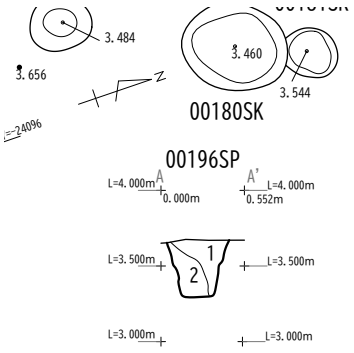
3. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層
(灰黄褐色シルト大ブロック
を多く含む。掘り方。)

0 1:50 2m

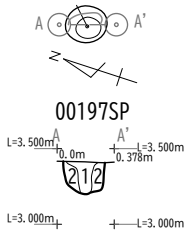
図 235 00152SK・00159SK・00160SK・00168SP 遺構図



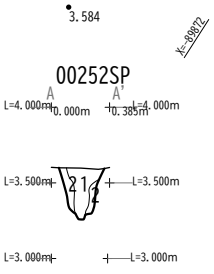
1. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層
（炭化物を少量含む。）
2. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層
（灰黄褐色シルト小ブロックを
少量含む。柱痕。）
3. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層
（灰黄褐色シルト大ブロックを
非常に多く含む。掘り方。）



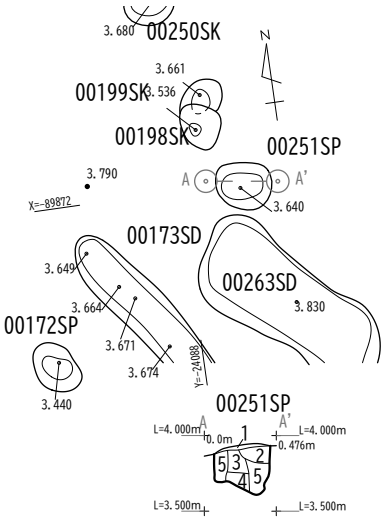
1. 10YR2/2黒褐色粘土質シルト層
（灰黄褐色シルトブロックを含む。
炭化物を少量含む。柱痕）
2. 10YR2/2黒褐色粘土質シルト層
（灰黄褐色シルト大ブロックを
多く含む。掘り方）



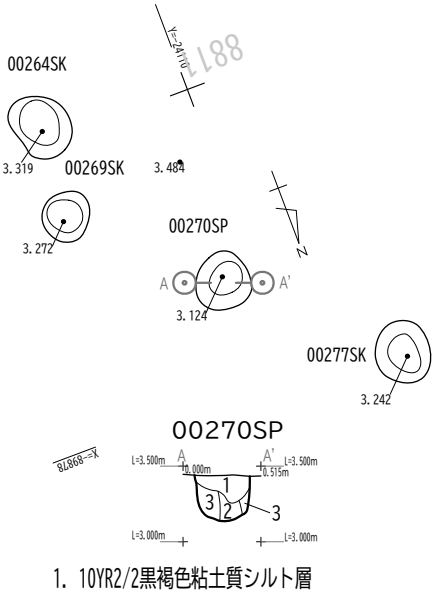
1. 10YR2/2黒褐色粘土質
シルト層（灰黄褐色シルト
小ブロックを少量含む。
炭化物を極少量含む。柱痕）
2. 10YR2/2黒褐色粘土質
シルト層
（灰黄褐色シルト大ブロック
を多く含む。掘り方）



1. 10YR2/2黒褐色粘土質シルト層
（灰黄褐色シルト小ブロックを含む。
炭化物を極少量含む。柱痕）
2. 10YR4/2灰黄褐色粘土質シルト層
（黒褐色シルトブロックを少量含み、
灰白色細粒砂ブロックを少量含む。
掘り方）



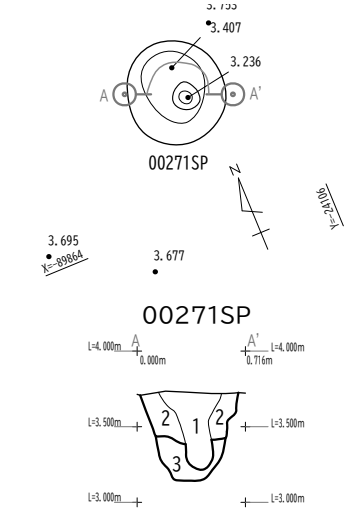
1. 10YR2/2黒褐色粘土質シルト層
（暗褐色シルト小ブロックを少量含む）
2. 10YR4/2灰黄褐色粘土質シルト層
（黒褐色シルトブロックを含む。
炭化物を極少量含む）
3. 10YR2/2黒褐色粘土質シルト層
（灰黄褐色シルトブロックを少量含む。
炭化物を極少量含む。柱痕）
4. 10YR5/1褐灰色細粒砂層
（黒褐色シルトブロックを含む。
柱痕）
5. 10YR2/2黒褐色粘土質シルト層
（灰黄褐色シルトブロックを多く含む。
炭化物を極少量含む。掘り方）



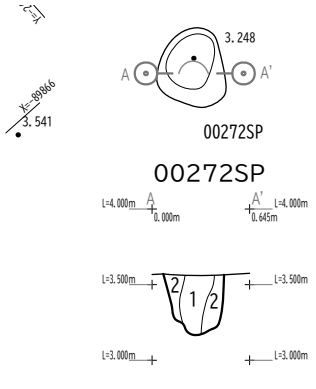
1. 10YR2/2黒褐色粘土質シルト層
（灰白色細粒砂大ブロックを含む）
2. 10YR2/2黒褐色粘土質シルト層
（灰黄褐色シルト小ブロックを
少量含む。炭化物を極少量含む。
柱痕）
3. 10YR2/2黒褐色粘土質シルト層
（灰黄褐色シルト大ブロックを
非常に多く含む。
炭化物を少量含む。掘り方）

0 1:50 2m

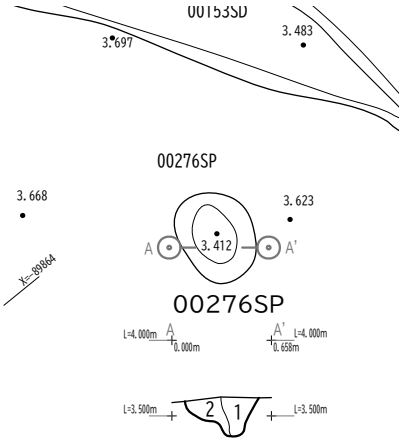
図 236 00172SP・00196SP・00197SP・00251SP・00252SP・00270SP 遺構図



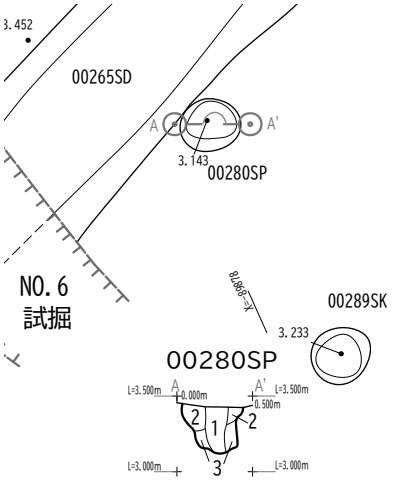
1. 10YR2/2黒褐色粘土質シルト層
（灰黄褐色シルトブロックを少量含む。
炭化物を極少量含む。柱痕）
2. 10YR4/2灰黄褐色粘土質シルト層
（黒褐色シルト大ブロックを多く含む。
掘り方）
3. 10YR4/1褐灰色粘土質シルト層



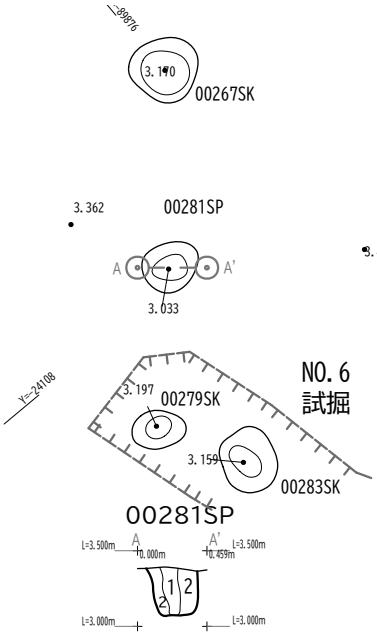
1. 10YR2/2 黒褐色粘土質シルト層
（灰黄褐色シルト小ブロックを含む。
炭化物を極少量含む。柱痕）
2. 10YR4/2灰黄褐色粘土質シルト層
（黒褐色シルト小ブロックを含む。
炭化物を極少量含む。掘り方）



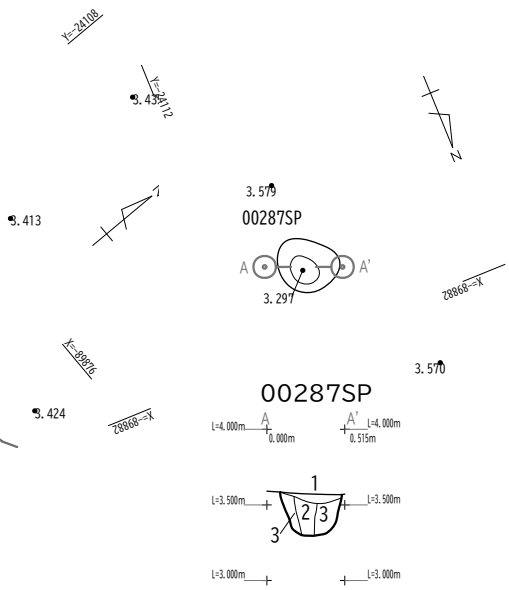
1. 10YR2/2黒褐色粘土質シルト層
（灰黄褐色シルトブロックを含む。
炭化物を極少量含む。柱痕）
2. 10YR2/2黒褐色粘土質シルト層
（鉄分少量沈着。掘り方）



1. 10YR4/2灰黄褐色粘土質シルト層
（黒褐色シルト小ブロックを少量含む。
柱痕）
2. 10YR2/2黒褐色粘土質シルト層
（灰黄褐色シルト小ブロックを少量含む。
掘り方）
3. 10YR4/2灰黄褐色極細粒砂層
（黒褐色シルト小ブロックを少量含む。
掘り方）



1. 10YR2/2黒褐色粘土質シルト層
（暗褐色シルト小ブロックを含む。柱痕）
2. 10YR2/2黒褐色粘土質シルト層
（暗褐色細粒砂ブロックを含む。掘り方）



1. 10YR4/2灰黄褐色粘土質シルト層
（灰白色細粒砂大ブロックを多く含む）
2. 10YR4/2灰黄褐色粘土質シルト層
（灰白色細粒砂小ブロックを少量含む。
柱痕）
3. 10YR4/2灰黄褐色粘土質シルト層
（灰白色細粒砂ブロックを多く含む。
掘り方）

0 1:50 2m

図 237 00271SP・00272SP・00276SP・00280SP・00281SP・00287SP 遺構図

(5) 集落にともなう溝

概観　以上で示したように名城公園遺跡における古墳古代後期～古代の集落は旧河道両岸に展開している。その建物群に関連する複数の溝が旧河道と並行に伸びている。その溝は①建物群とその外側を区画するような位置にあって竪穴建物跡との重複関係がないものと、②一時的に竪穴建物跡と重複関係を有するが、集落における何らかの機能を果たしていたと考えられるもの、③集落内の特定範囲を区画する可能性の考えられる溝の 3 つに分類される。以下、調査区ごとに別の遺構番号が付与されているが、一連の遺構と考えられる溝を集合して提示する (図 238)。

①に該当する溝として、西から 4 条ある (遺構番号は北西から順)。溝① A は 00086SD・00154SD・00150SD・00265SD・01457SD (SK)・01458SD (SK)、溝① B は 00151SD・00153SD・00200SD・00811SD、溝① C は 00698SD・01665SD・1846SD・00899SD で以上が旧河道左岸に位置する。旧河道右岸では、溝① D は 01326SD・01328SD・01155SD・01652SD・01151SD・01014SD がある。

②に該当する溝として、旧河道右岸に 1 条ある。01156SD・01160SD・00785SD が該当し、このうち 01160SD が大型竪穴建物跡 01600SI の後から掘り込まれ、同 01601SI より前に埋没している。

③に該当する溝として、旧河道右岸に 2 条ある。溝③ A は 01334SD で、01601SI や総柱建物跡 01190SB の

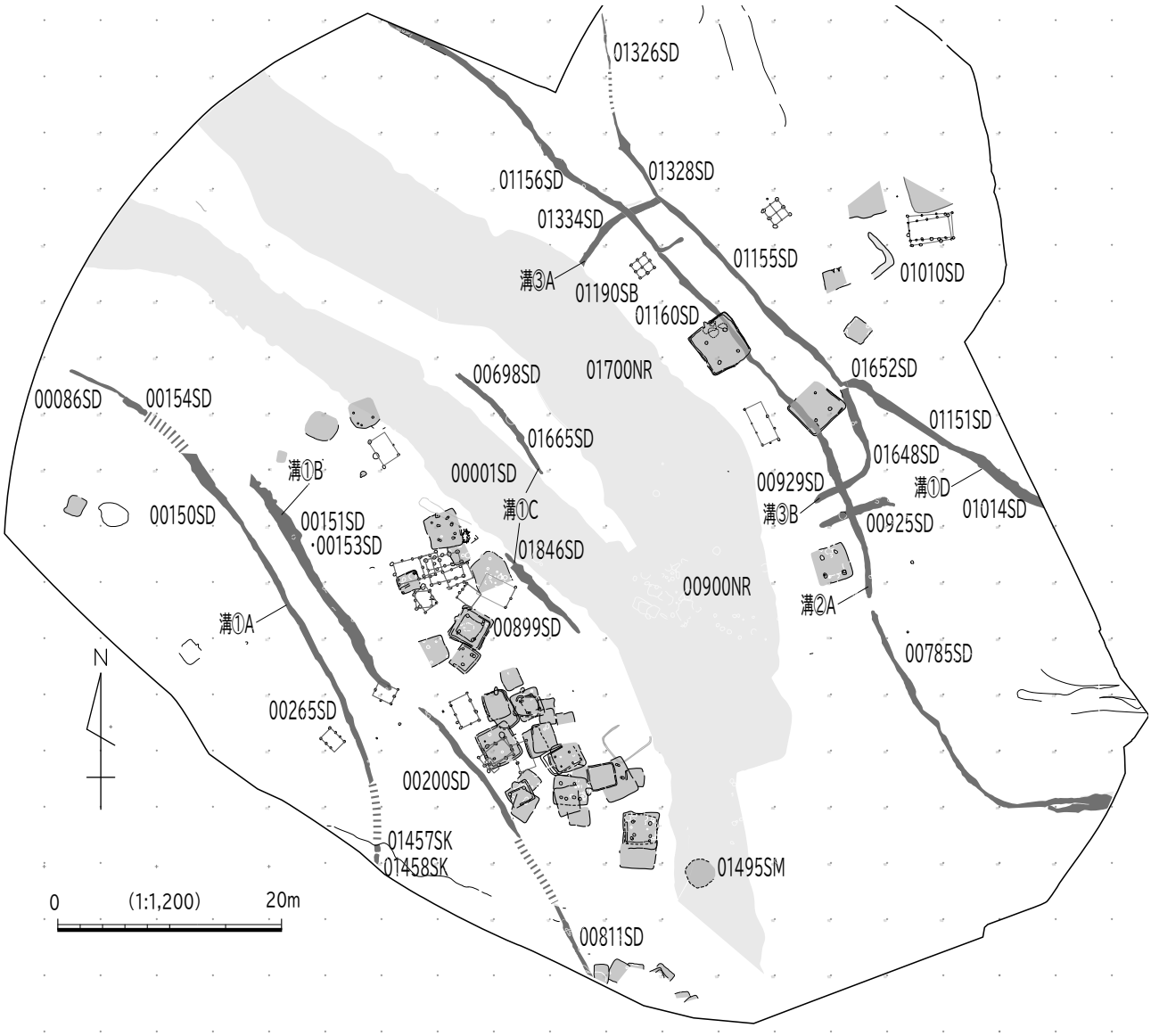
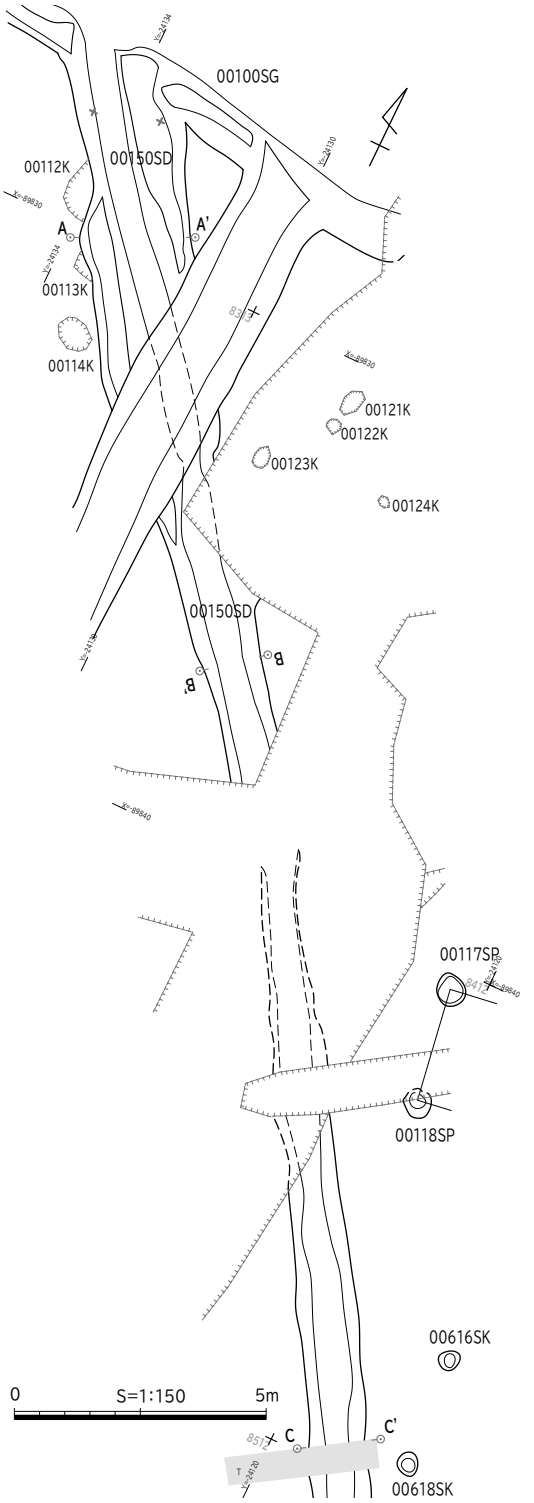
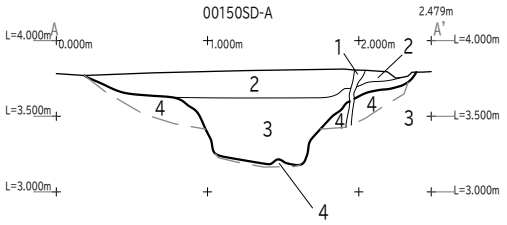


図 238　古墳時代後期～古代の集落に関わる溝の分布図

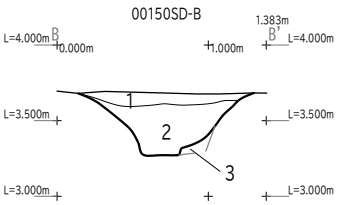
北側に位置し東端で 01155SD と直交する。溝③ B は 00929SD・01648SD で、01600SI の南側に位置し東端で 1155SD に合流する。

溝① A 調査範囲南西部（21Aa・21Ba 区）に位置する。緩い弧線状で北西から南東方向へ伸びている。21Aa 区の 00086SD が調査区西壁付近に北西端があり、それに続く 00154SD と 00150SD との間にある近世の池 00100SG で途切れている。00150SD は 21Ba 区の 00265SD に続くが、近世の大溝 00175SD と交差して途切れる。しかしその延長に位置する調査区南西端の 01457SK・01458SK に続くと考えられる。01458SK は調査区南壁から外部に続くことから、溝① A は全長は約 83m 以上あるとみられる。溝

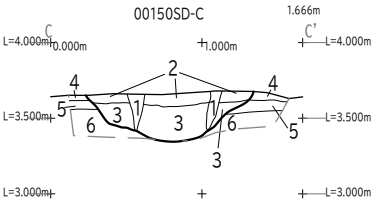




1. 噴砂跡
2. 10YR4/3にぶい黄橙色粘土質シルト層
（10YR4/1褐灰色粘土質シルト含む。
マンガン粒少量含む。鉄斑多い。径1mm炭化物・焼土含む）
3. 10YR4/1褐灰色粘土質シルト層
（10YR6/2灰白色極細粒砂含む。鉄斑あり）
4. 2.5Y7/3浅黄色粘土質シルト層（マンガン粒多く含む。鉄斑多い。
浅黄色細粒砂含む。古墳時代前期～中期の堆積層か）



1. 10YR4/3にぶい黄橙色粘土質シルト層
（10YR4/1褐灰色粘土質シルト含む。
マンガン粒少量含む。鉄斑多い。径1mm炭化物・焼土含む）
2. 10YR4/1褐灰色粘土質シルト層
（10YR6/2灰白色極細粒砂含む。鉄斑あり）
3. 2.5Y7/3浅黄色粘土質シルト層（マンガン粒多く含む。
鉄斑多い。浅黄色細粒砂含む。古墳時代前期～中期の堆積層か）



1. 樹痕
2. 10YR4/2灰黄褐色粘土質シルト（マンガン粒含む。鉄斑少ない。）
3. 10YR4/1褐灰色粘土質シルト（鉄斑あり。炭化物少し含む。）
4. 10YR6/2灰黄褐色粘土質シルト（マンガン粒少し含む。鉄斑あり。）
5. 10YR6/3にぶい黄橙色粘土質シルト（マンガン粒少し含む。鉄斑あり。）
6. 2.5Y5/1黄灰色粘土質シルト（鉄斑あり。）

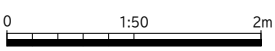


図 239 00150SD 遺構図

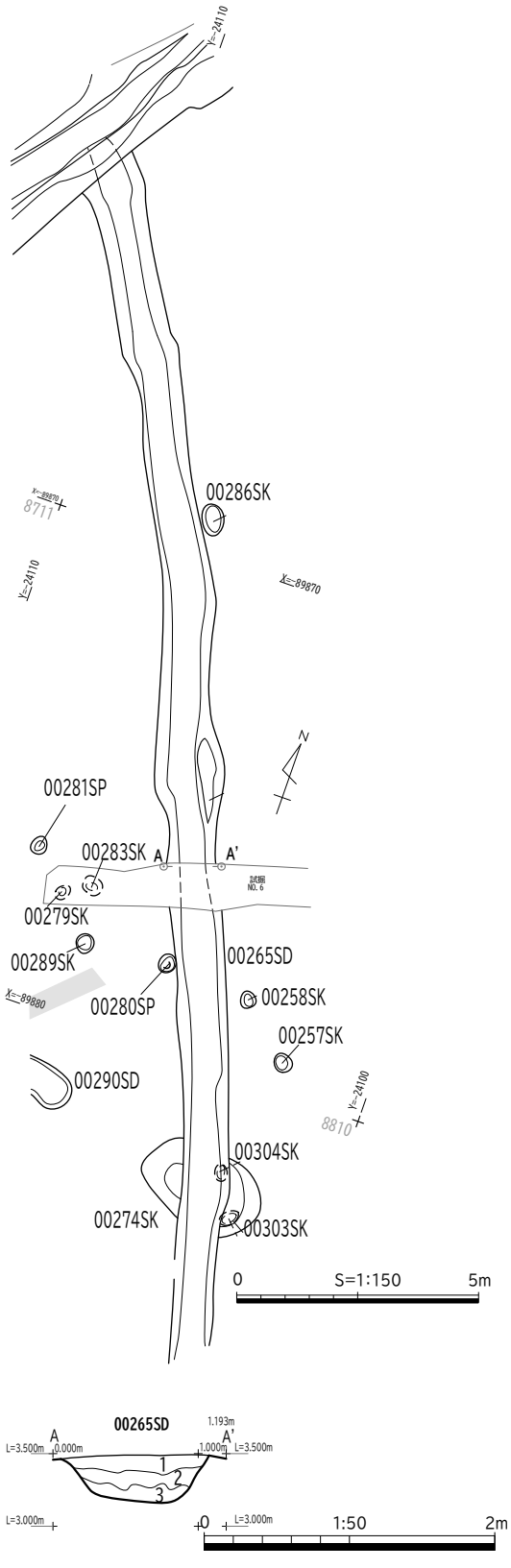
の断面は 00150SD の下層（図 239、土層断面 A-A’ の 2 層など）や 00265SD（図 240）で逆台形を呈しているが、00150SD の上層では後の掘り返しによって浅く幅広な断面に変わっていることがわかる。比較的整った 00265SD では上幅約 1.5m、深さ約 0.3m である。

出土遺物は 6 世紀代の須恵器が中心で（図 243）、土師器は宇田型台付甕（1858）のみである。特殊なものとして糸紡ぎの道具である陶製紡錘車（1857）がある。7 世紀代に下るものがほとんどみられないことから、溝の開削から機能した時期は古く、集落の初期段階に遡ると考えられる。

溝①B 調査範囲南西部（21Aa 区・21Ba 区）に位置する。溝① A とほぼ並行関係にあり、若干の屈曲はあるが概ね直線的に伸びている。00151SD の北西端は撹乱で不明となっている。00151SD とほぼ同じ位置の掘り返しでできた 00153SD の方が新しい（図 241、土層断面 A-A’）。また掘立柱建物跡 00130SB は 00153SD よりさらに新しい。00153SD は掘立柱建物跡 05009SB と重複する地点に端部があり、そこから南東に約 5m 離れたところに 00200SD の北西端部がある。00151SD・00153SD の断面形は浅く皿状であるのに対して、00200SD は逆台形で一連の溝とするには違和感がある。しかし 00200SD の上層（図 242、土層断面 A-A’ の 1 ～ 3 層）のように掘り返しで生じた断面形は皿状である。このことから、当初 00200SD が開削され、その再掘削にともなって 00151SD 次いで 00153SD が開削された変遷も想定できる。

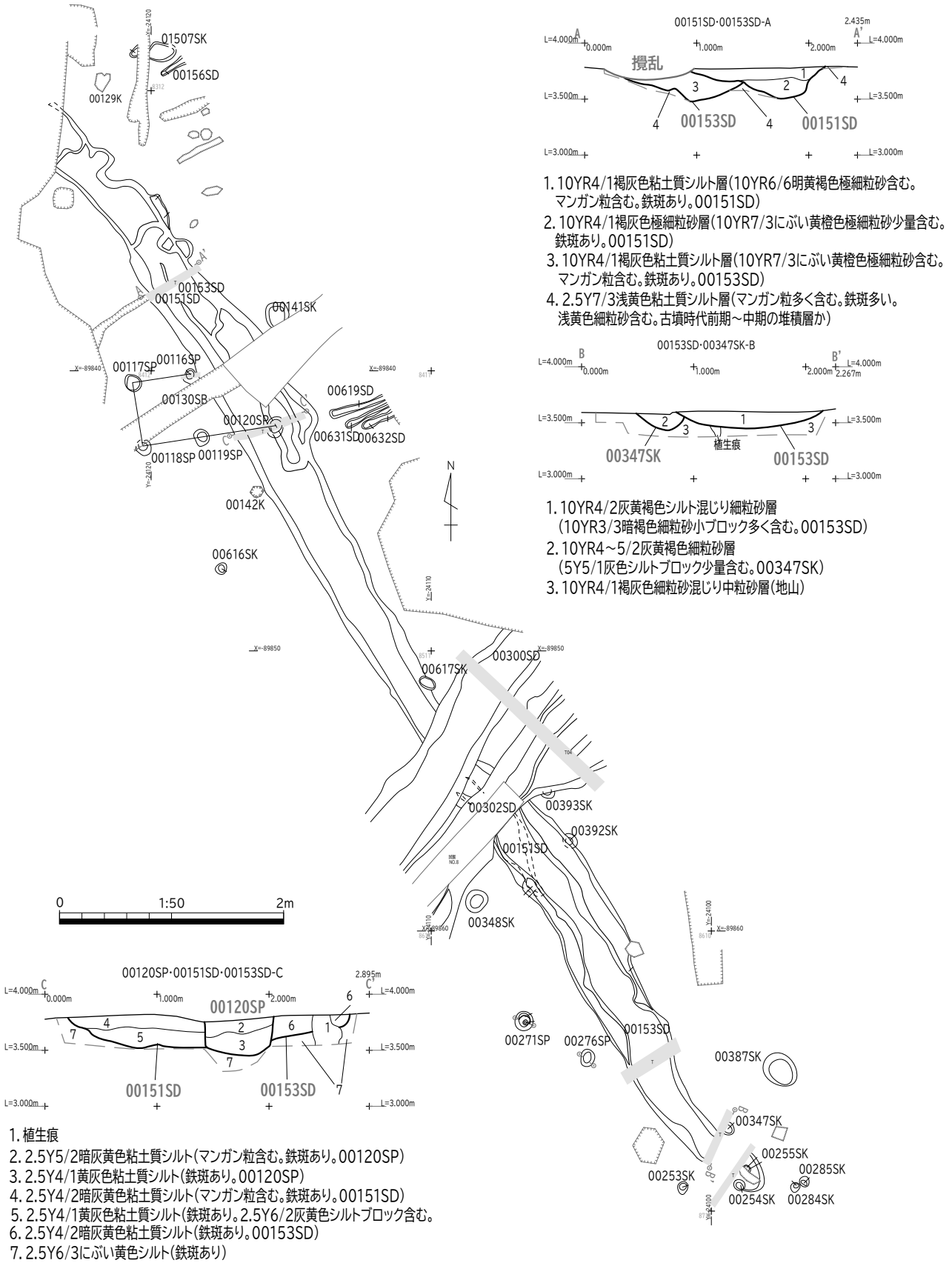
出土遺物は溝① A と同じく 6 世紀代が中心で、開削時期はそこまでさかのぼる可能性が高い。一方、7 世紀代の須恵器高杯脚部(1875)や 6 世紀後半以降の土器(1888・1891）が含まれていることから、溝① A よりも新しい時期まで機能していた可能性高い。建物群の西縁を延びていることから溝① A と溝① B は似通った性格が考えられるので、造り替えによって両者が併存していた可能性は低いと思われる。

溝①C 溝① C は、調査範囲中部（21Ba 区・21Ca 区・21Cb 区）に位置する。旧河道跡 00900NR と古代の大溝 00001SD の開削によって生じた中洲状地形の頂部で、全長約 23.8m の溝 01665SD が検出されている（ 北端部は 00698SD)。01665SD の南端は 00001SD の右岸で途切れているが、00001SD 開削前はさらに南東方向へ延びている可能性が高い。これと同じ関係にあるのが 00899SD（北



1. 10YR4/2灰黄褐色粘土質シルト層（黒褐色シルト小ブロックを少量含む）
2. 10YR2/2黒褐色粘土質シルト層（灰黄褐色シルトブロックを含む）
3. 10YR4/2灰黄褐色粘土質シルト層（灰白色細粒砂小ブロックを少量含み、灰黄褐色シルト小ブロックを少量含む）

図 240 00265SD 遺構図

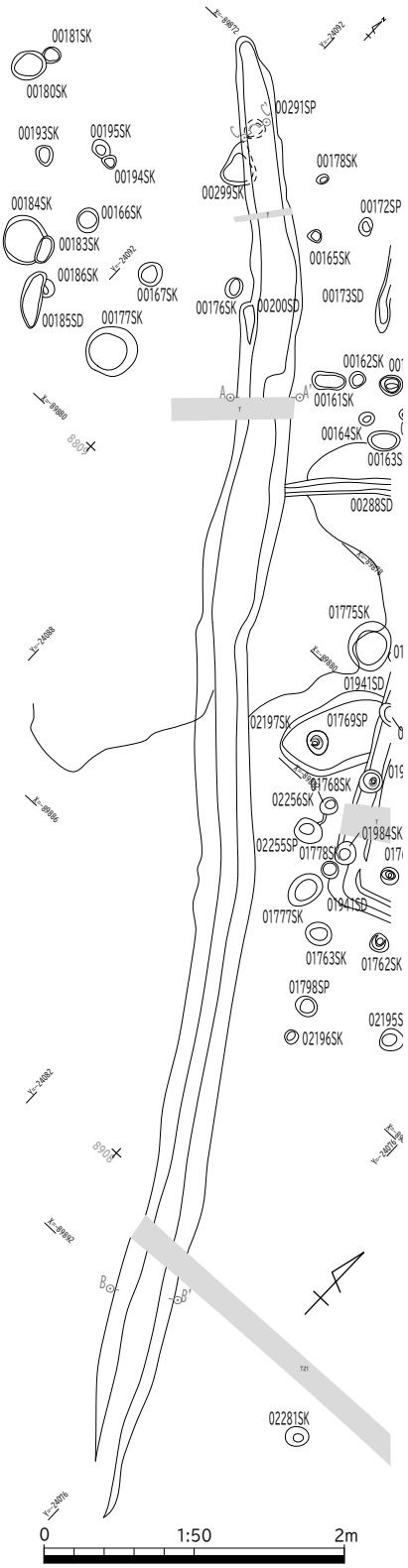


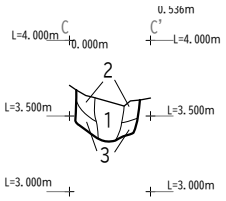
1. 10YR4/1褐灰色粘土質シルト層(10YR6/6明黄褐色極細粒砂含む。マンガン粒含む。鉄斑あり。00151SD)
2. 10YR4/1褐灰色極細粒砂層(10YR7/3にぶい黄橙色極細粒砂少量含む。鉄斑あり。00151SD)
3. 10YR4/1褐灰色粘土質シルト層(10YR7/3にぶい黄橙色極細粒砂含む。マンガン粒含む。鉄斑あり。00153SD)
4. 2.5Y7/3浅黄色粘土質シルト層(マンガン粒多く含む。鉄斑多い。浅黄色細粒砂含む。古墳時代前期～中期の堆積層か)

1. 10YR4/2灰黄褐色シルト混じり細粒砂層(10YR3/3暗褐色細粒砂小ブロック多く含む。00153SD)
2. 10YR4～5/2灰黄褐色細粒砂層(5Y5/1灰色シルトブロック少量含む。00347SK)
3. 10YR4/1褐灰色細粒砂混じり中粒砂層(地山)

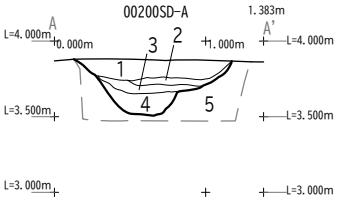
1. 植生痕
2. 2.5Y5/2暗灰黄色粘土質シルト(マンガン粒含む。鉄斑あり。00120SP)
3. 2.5Y4/1黄灰色粘土質シルト(鉄斑あり。00120SP)
4. 2.5Y4/2暗灰黄色粘土質シルト(マンガン粒含む。鉄斑あり。00151SD)
5. 2.5Y4/1黄灰色粘土質シルト(鉄斑あり。2.5Y6/2灰黄色シルトブロック含む。
6. 2.5Y4/2暗灰黄色粘土質シルト(鉄斑あり。00153SD)
7. 2.5Y6/3にぶい黄色シルト(鉄斑あり)

図 241 00151SD・00153SD 遺構図

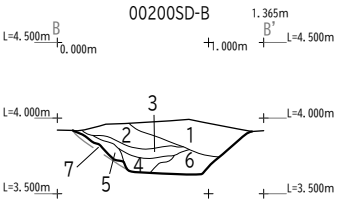




1. 10YR2/2黒褐色粘土質シルト層(灰黄褐色シルト小ブロックを少量含む。炭化物を含む。柱痕)
2. 10YR2/2黒褐色粘土質シルト層(灰黄褐色シルトブロックを含む。炭化物を極少量含む。掘り方)
3. 10YR2/2黒褐色粘土質シルト層(灰白色細粒砂大ブロックを多く含み、灰黄褐色シルト小ブロックを少量含む。掘り方)



1. 10YR2/2黒褐色粘土質シルト層(灰黄褐色シルト小ブロックを多く含み、灰白色細粒砂小ブロックを含む)
2. 10YR7/1灰白色極細粒砂質細粒砂層(黒褐色シルト大ブロックを非常に多く含む)
3. 10YR2/2黒褐色粘土質シルト層(灰黄褐色シルトブロックを含む)
4. 10YR2/2黒褐色粘土質シルト層(灰黄褐色シルト大ブロックを多く含む)
5. 10YR4/2灰黄褐色極細粒砂質シルト層 (地山)



1. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを少量含み、10YR7/1灰白色細粒砂小ブロックを少量含む。炭化物を極少量含む。鉄分沈着顕著)
2. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR7/1灰白色細粒砂小ブロックを少量含む。炭化物を極少量含む)
3. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR7/1灰白色細粒砂ブロックを含む)
4. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂ブロックを含む)
5. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂大ブロックを多く含む)
6. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層(10YR3/2黒褐色シルト小ブロックを少量含む)
7. 10YR4/2 灰黄褐色シルト質極細粒砂層 (地山)

0 1:50 2m

図 242 00200SD 遺構図

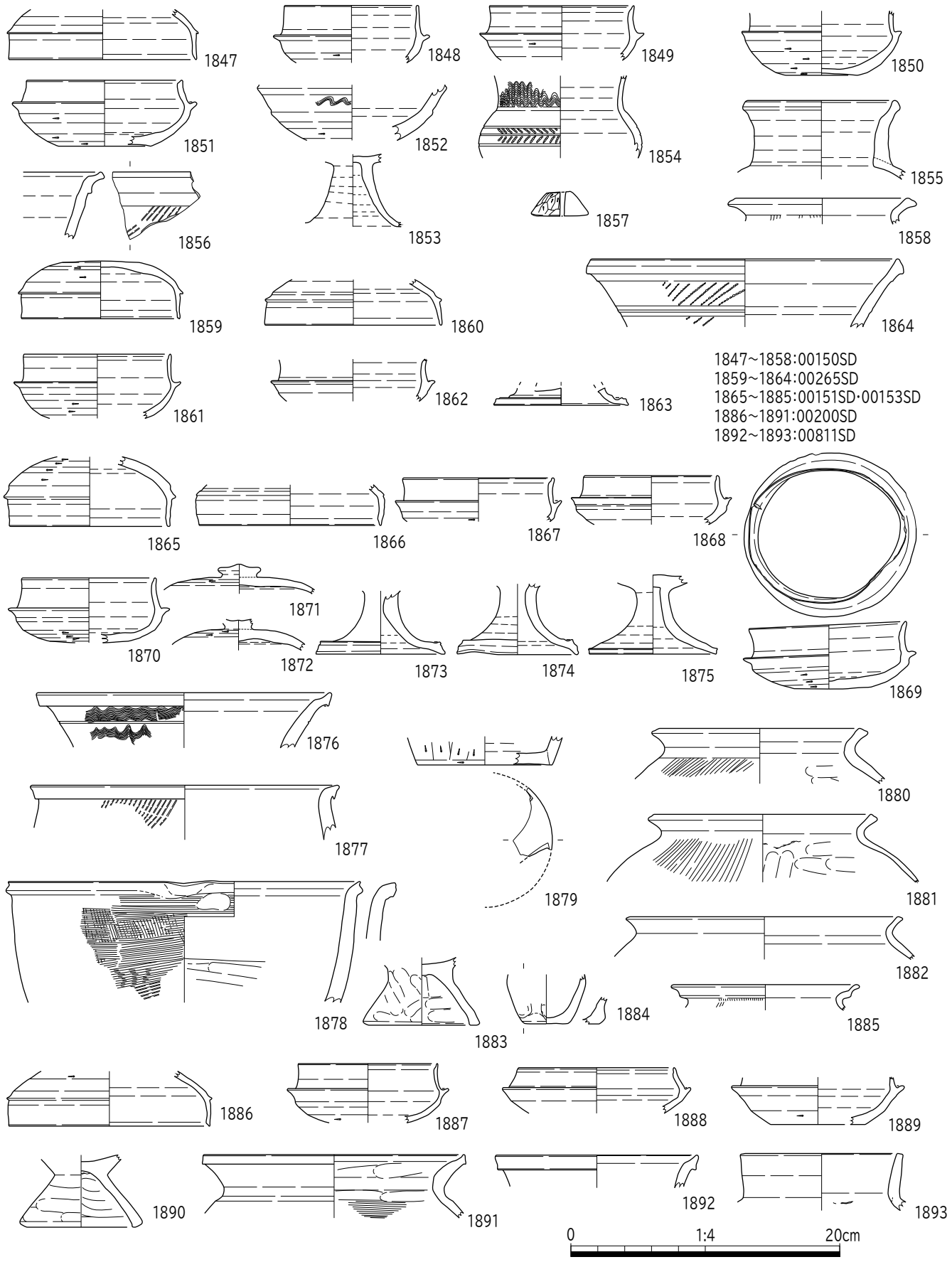


図 243 00150SD・00151SD・00153SD・00200SD・00265SD 出土遺物実測図

端は 01846SD）で、00001SD の左岸際で両端は途切れている。01665SD と 00899SD は位置的にみて両者が直結する可能性は低いが、溝① A と溝① B のように造り替えによる先後関係にあった可能性は考えられる。

00899SD の出土遺物は、須恵器の小片が主体となっているが（図 244）、6 世紀を上限としつつ 1897 や 1899 のように H-44 号窯式期まで下るとみられるものが含まれている。さらに 1905 は有台杯で 7 世紀後葉～ 8 世紀初頭とみられる。このことから 01665SD より機能していた時期が新しい可能性がある。

01665SD の出土遺物は（図 245）、H-61 号窯式期の須恵器杯蓋（1910）と杯身（1911）があり、丸底の碗（1914 のような土師器に近い器形もある。高杯の脚部（1913）は長脚で、以上は 6 世紀中～後葉の特徴である。一方で比較的残存状況の良い須恵器の甑（1917）と土師器長胴甕（1918）はカマドでセットにして使用されたと考えられる。特に土師器甕は丸底形から平底形へ主流が変わる過渡期にある型式で時期は 7 世紀後葉～末である。

溝① D 調査範囲北東部から東部（22A 区・21Bb 区）に位置する。小さな屈曲がいくつかみられるが概ね直線的に延びる北西～南東方向の溝である。最北端になる 01326SD は調査区北東壁から外部に続く。01326SD の南端は撹乱などで約 6m 分が途切れて 01328SD へと続く。01328SD は 01334SD との交差点（後述）から 01155SD となり竪穴建物跡 01600SI の東側で 01648SD と分岐する（後述）。01155SD の区間がほぼ直線である。そこからやや東方へ向きを変えて 01151SD・01014SD としてこれも直線で調査区東壁から外部へと続いている。

以上に示した溝の全長は約 110m を超える。しかし 01328SD と 01155SD の境でもある 01334SD との交差点には、ちょうど江戸時代の土坑 01305SK が重複しており溝群の最終的な状況は不明となっている。しかしその下位において 01328SD 南端と 01155SD 南端がそれぞれ反り合い、溝として不連続になっていることが確認された（図 246）。このことから 01155SD の開削時は、交差点から西へ延びる 01334SD の方へ曲がることが意図されていたと考えられ、01328SD の開削時期はこれらとは異なっていた可能性がある。そこで溝の断面形と土層を比較する。01328SD は幅約 0.9m、深さ 0.5m で比較的窄まった V 字形をしている（図 246、土層断面 A-A’）。これに対して 01155SD は遺構検出面での幅は約 1.6m と 01328SD の 2 倍近くもあるが、その下部は約 0.6m 以下にまで窄まっており、断面形では 01328SD に似ている（図 247）。例えば土層断面 D-D’ でみると、再掘削でできた上層（1 層）の断面形は幅広になっている。これは 01328SD の上層（図 246、土層断面 A-A’）と同じ状況であり、再掘削

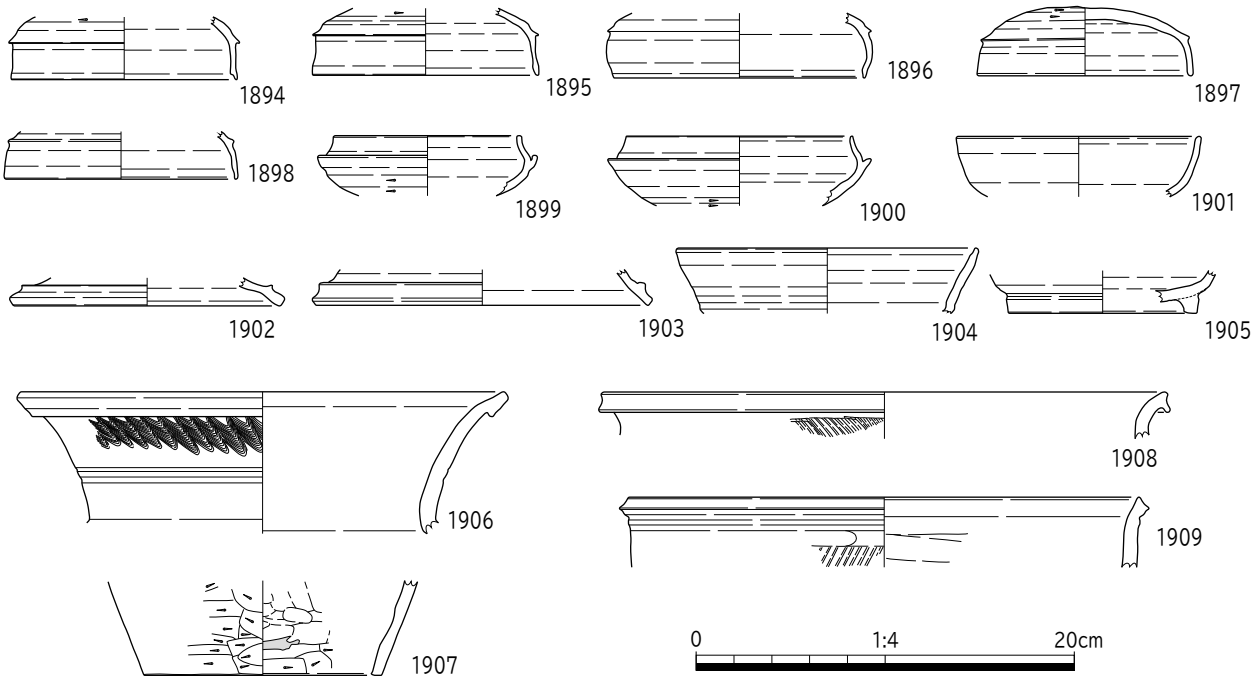


図 244 00899SD 出土遺物実測図

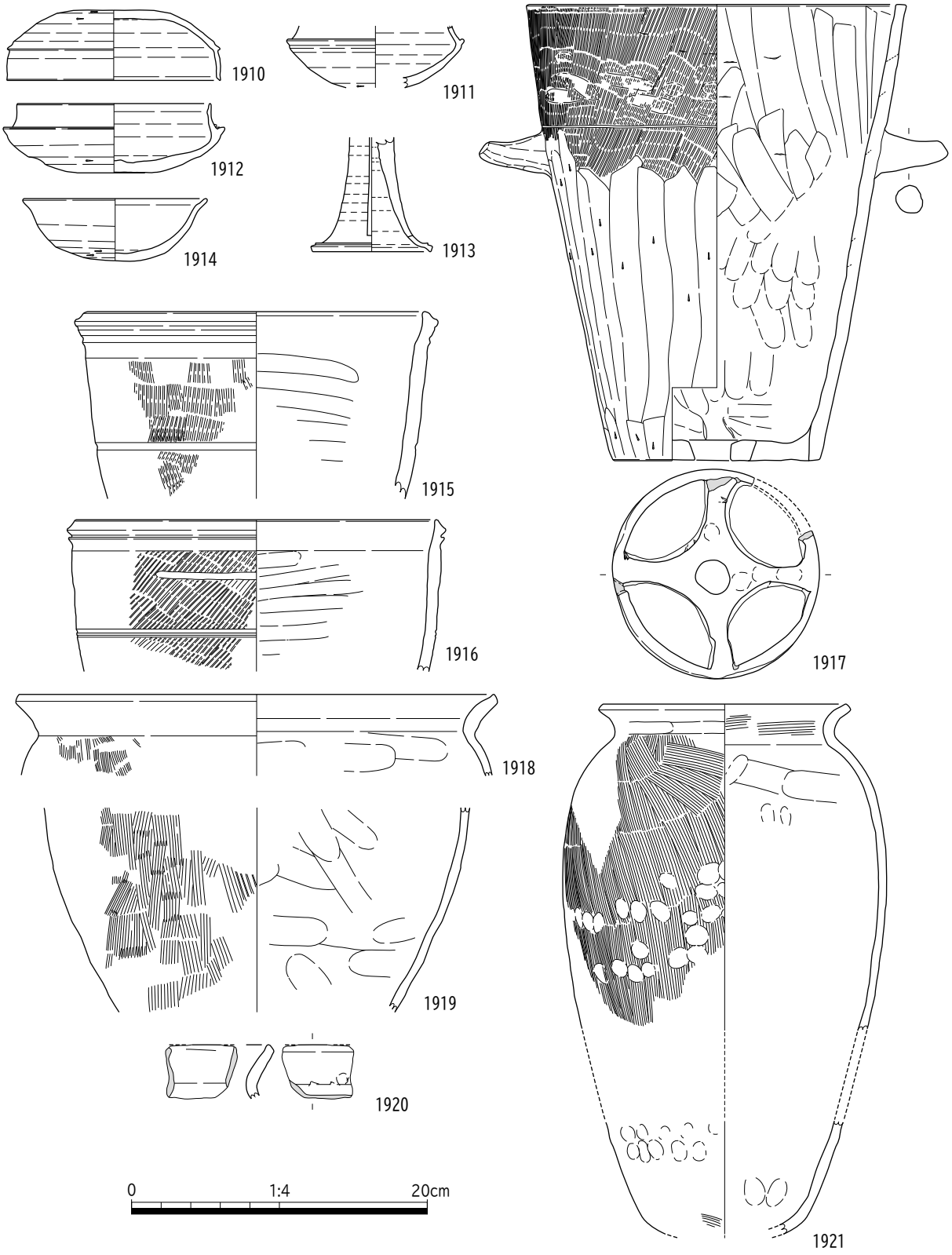


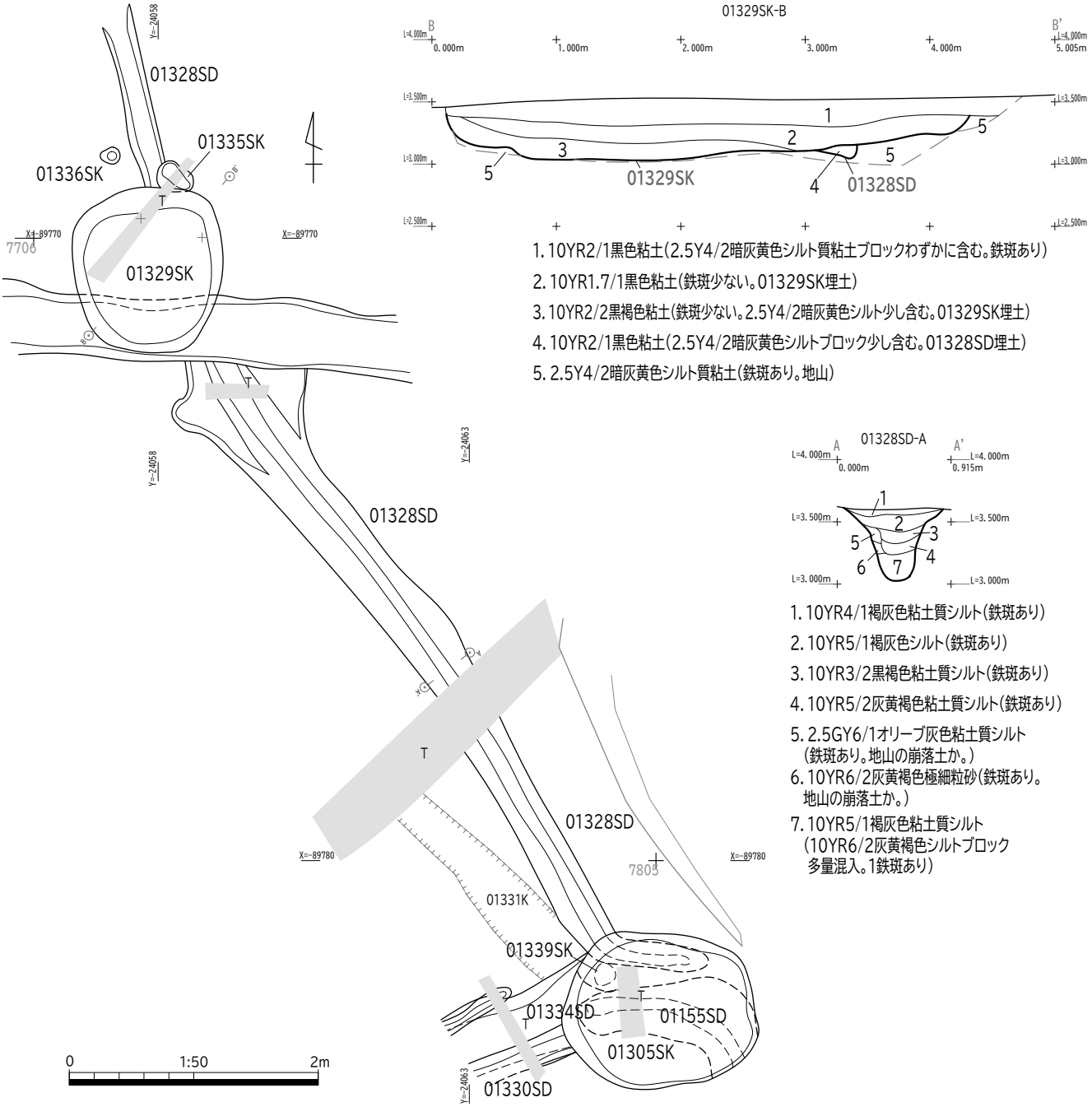
図 245 01665SD 出土遺物実測図

の段階では両者は一連のものとして扱われていた可能性が高い。

一方、01155SD と 01652SD の接続および 01648SD との交差点は、残存状況が良くないのでわかりにくい（図 247、土層断面 F-F'）。しかし遺構面でみると 01155SD から 01652SD へは屈曲をともなっているのに対し、そのまま南西方向へ進むと 01648SD に至る。この状況から、開削時の溝は 01155SD の両端から旧河道のある西方へ曲がって、区画溝として成立した可能性が高い。しがって、溝①Dとした状況はそれ以降に生じたものと考えられる。

次に、出土遺物を提示する。その前に先に竪穴建物跡の一部と考えられた遺構 01010SD の遺物を提示する（図 249）。01010SD は 01155SD の北東側に位置し、掘立柱建物跡にともなう区画溝の可能性が高い。須恵器杯蓋（1922・1923）はH-15号窯式期で7世紀前葉、広口壺（1924）も同じ時期であろう。

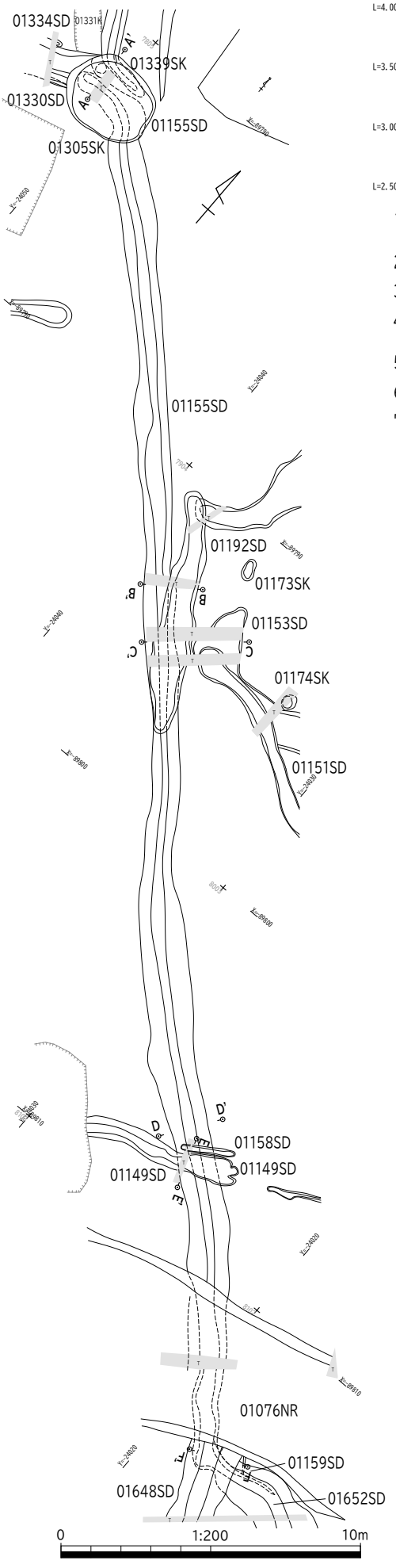
01652SD からは須恵器杯蓋（1925）や杯身（1926・

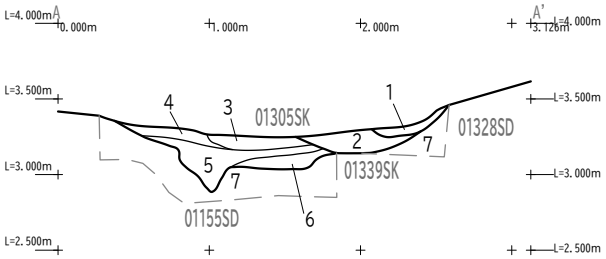


1. 10YR2/1黒色粘土(2.5Y4/2暗灰黄色シルト質粘土ブロックわずかに含む。鉄斑あり)
2. 10YR1.7/1黒色粘土(鉄斑少ない。01329SK埋土)
3. 10YR2/2黒褐色粘土(鉄斑少ない。2.5Y4/2暗灰黄色シルト少し含む。01329SK埋土)
4. 10YR2/1黒色粘土(2.5Y4/2暗灰黄色シルトブロック少し含む。01328SD埋土)
5. 2.5Y4/2暗灰黄色シルト質粘土(鉄斑あり。地山)

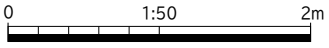
1. 10YR4/1褐灰色粘土質シルト(鉄斑あり)
2. 10YR5/1褐灰色シルト(鉄斑あり)
3. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト(鉄斑あり)
4. 10YR5/2灰黄褐色粘土質シルト(鉄斑あり)
5. 2.5GY6/1オリーブ灰色粘土質シルト(鉄斑あり。地山の崩落土か。)
6. 10YR6/2灰黄褐色極細粒砂(鉄斑あり。地山の崩落土か。)
7. 10YR5/1褐灰色粘土質シルト(10YR6/2灰黄褐色シルトブロック多量混入。1鉄斑あり)

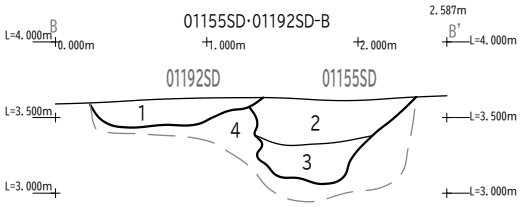
図 246　01328SD・1329SX 遺構図



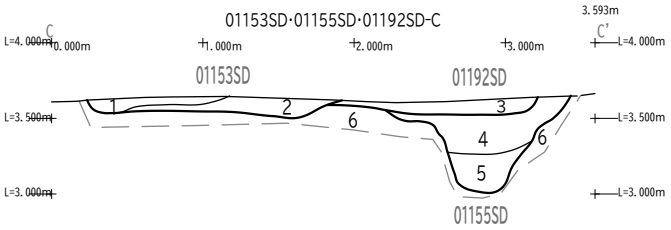


1. 10YR4/1褐灰色シルト
（10YR7/4灰白色シルトブロック少量混入。鉄斑あり。01328SD）
2. 10YR6/1褐灰色シルト(鉄斑あり。01339SK)
3. 10YR4/2灰黄褐色シルト(鉄斑あり。01155SD)
4. 10YR4/1褐灰色粘土質シルト
（10YR7/6明黄色中粒砂ブロック含む。鉄斑あり。01155SD）
5. 10YR3/1黒褐色粘土質シルト(鉄斑あり。01155SD)
6. 10Y6/2灰褐色シルト(鉄斑あり。01155SD)
7. 2.5GY6/1オリーブ灰色粘土質シルト(鉄斑あり。地山)

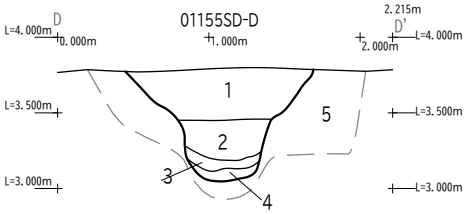




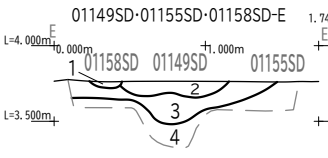
1. 10YR3/2黒褐色シルト層
（10YR7/4にぶい黄橙色中粒砂ブロック少量混入。鉄斑あり。01192SD）
2. 10YR4/2灰黄褐色シルト(鉄斑あり。01155SD)
3. 10YR4/4褐色細粒砂(10YR4/2灰黄褐色シルトブロックを非常に多く混入。
鉄斑あり。01155SD)
4. 10YR3/3暗褐色シルト(鉄斑あり。地山)



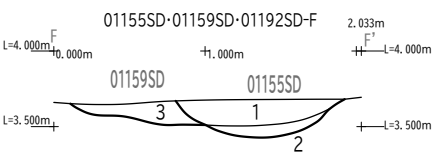
1. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(鉄斑あり。01153SD)
2. 10YR4/3にぶい黄褐色シルト層(鉄斑あり。01153SD)



1. 10YR4/2灰黄褐色シルト(鉄斑あり)
2. 10YR4/4褐色細粒砂(10YR4/2灰黄褐色シルトブロックを非常に多く含む。鉄斑あり)
3. 10YR7/3にぶい黄橙色極細粒砂(鉄斑あり)
4. 10YR4/3にぶい黄褐色シルト(鉄斑あり)
5. 10YR3/3暗褐色シルト(鉄斑あり。地山)

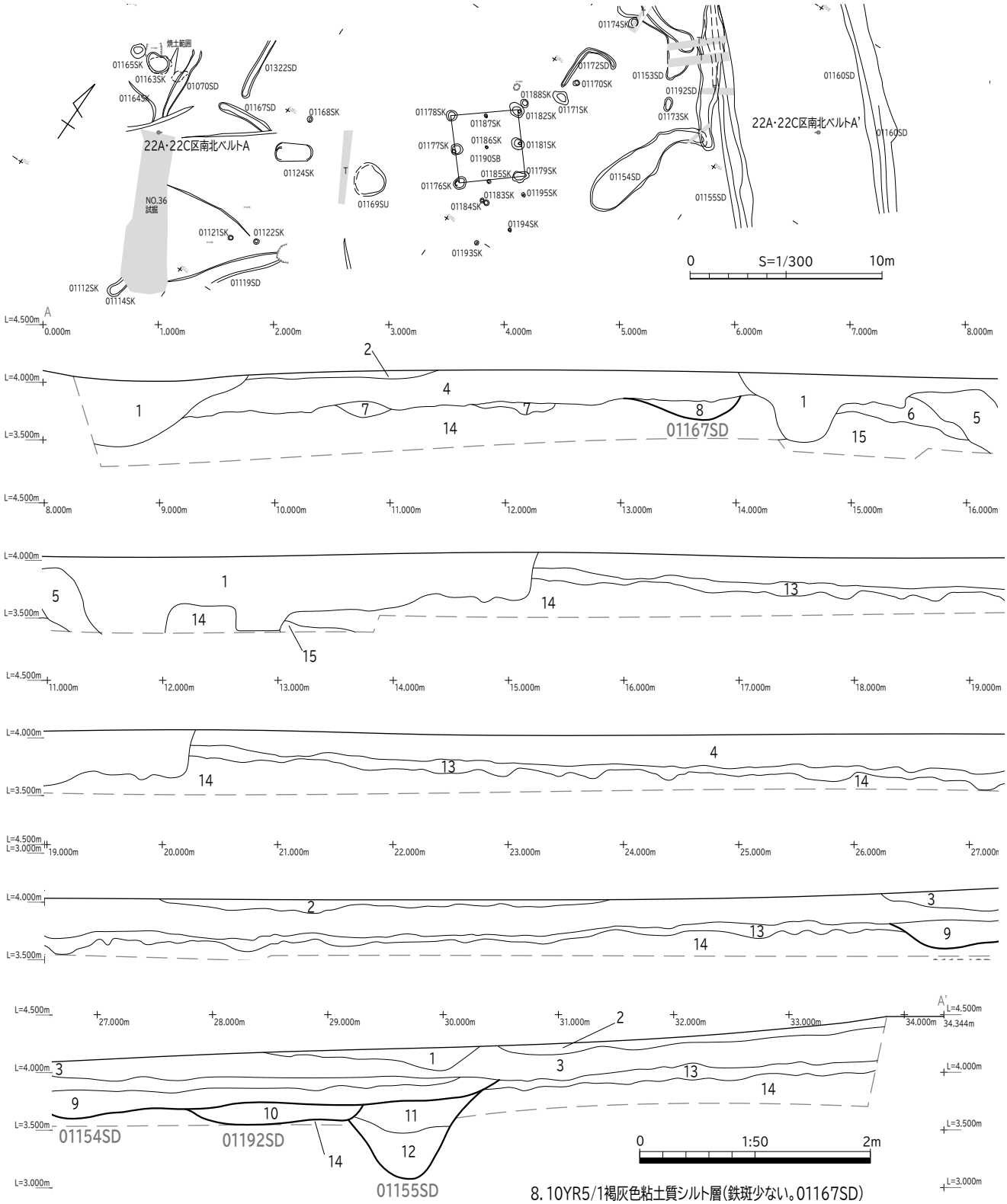


1. 10YR4/4褐色粘土質シルト(鉄斑あり。01158SD)
2. 10YR3/2黒褐色砂質シルト(鉄斑あり。01149SD)
3. 10YR4/2灰黄褐色シルト(鉄斑あり。01155SD)
4. 10YR3/3暗褐色シルト(鉄斑あり。地山)



1. 10YR4/2灰黄褐色シルト(鉄斑あり。01155SD)
2. 10YR5/2灰黄褐色砂質シルト(鉄斑あり。01155SD)
3. 10YR6/1褐灰色シルト(鉄斑あり。01159SD)

図 247 01155SD 遺構図



1. 撹乱
2. 10YR5/2灰黄褐色砂質シルト層(細礫少量含む。鉄斑あり)
3. 7.5YR5/3にぶい褐色粘土質シルト層(炭化物少量含む。細礫少量含む。鉄斑あり)
4. 10YR4/2灰黄褐色シルトと10YR5/1褐灰色シルトの混層(鉄斑あり)
5. 10YR5/2灰黄褐色シルトと10YR6/1褐灰色シルトの混層(鉄斑あり)
6. 10YR6/2灰黄褐色粘土質シルト層(鉄斑あり)
7. 10YR6/3にぶい黄橙色シルト層(鉄斑あり)
8. 10YR5/1褐灰色粘土質シルト層(鉄斑少ない。01167SD)
9. 10YR4/2灰黄褐色シルトと10YR3/3暗褐色細粒砂の混層(鉄斑少ない。01154SD)
10. 10YR3/2黒褐色シルト層(10YR7/6明黄褐色中粒砂ブロック少量混入。鉄斑あり。01192SD)
11. 10YR4/2灰黄褐色シルト層(鉄斑あり。01155SD)
12. 10YR4/4褐色細粒砂(10YR4/2灰黄褐色シルトブロックを非常に多く混入。鉄斑あり。01155SD)
13. 10YR3/1黒褐色粘土質シルト層(鉄斑少ない)
14. 10YR3/3暗褐色シルト層(鉄斑あり。地山)
15. 5Y4/2灰オリーブ色粘土質シルト層(鉄斑あり。地山)

図248 01154SD・01155SD・01167SD・01192SD 土層断面図

1927）が H-15 号窯式期、1925 の頂部外面に布目の圧痕がある。製作時に付いたものであるが消そうとした跡はないことから、何らかの意図があるのかもしれない。1929 ～ 1932 は土師器で 1929 は高杯、1930 は太い脚部で上部は杯部接合時の接合用粘土が詰まっている。1931・1932 は S 字状口縁台付甕。1933 は須恵器鍋、1934 は須恵器甑でともに把手は丸棒形である。甑は器高に対して口径が大きく横に広い器形が特徴的である。

出土遺物は、01155SD を中心に区画状に延びる溝の出土のものも含める。これらは区画内にある大型竪穴建物跡 01600SI・01601SI や総柱の掘立柱建物跡 01630SB に関わる可能性がある。須恵器は杯蓋（1935・1936）は H-15 号窯式期～ I-101 号窯式期、杯身（1937）は H-10 号窯式期、高杯（1938 ～ 1943）は 7 世紀代で 1941 ～ 1943 のように無蓋のものが主体であろう。特にこの 3 点は杯部の高さが高く（6.7 ～ 7.0cm）、口径が大きい（15.9 ～ 17.0cm）ことから大型に分類される。このような大型のものは使用者

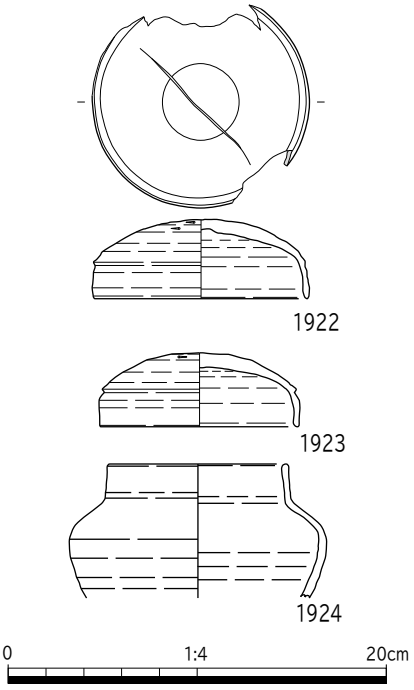


図249 01010SD 出土遺物実測図

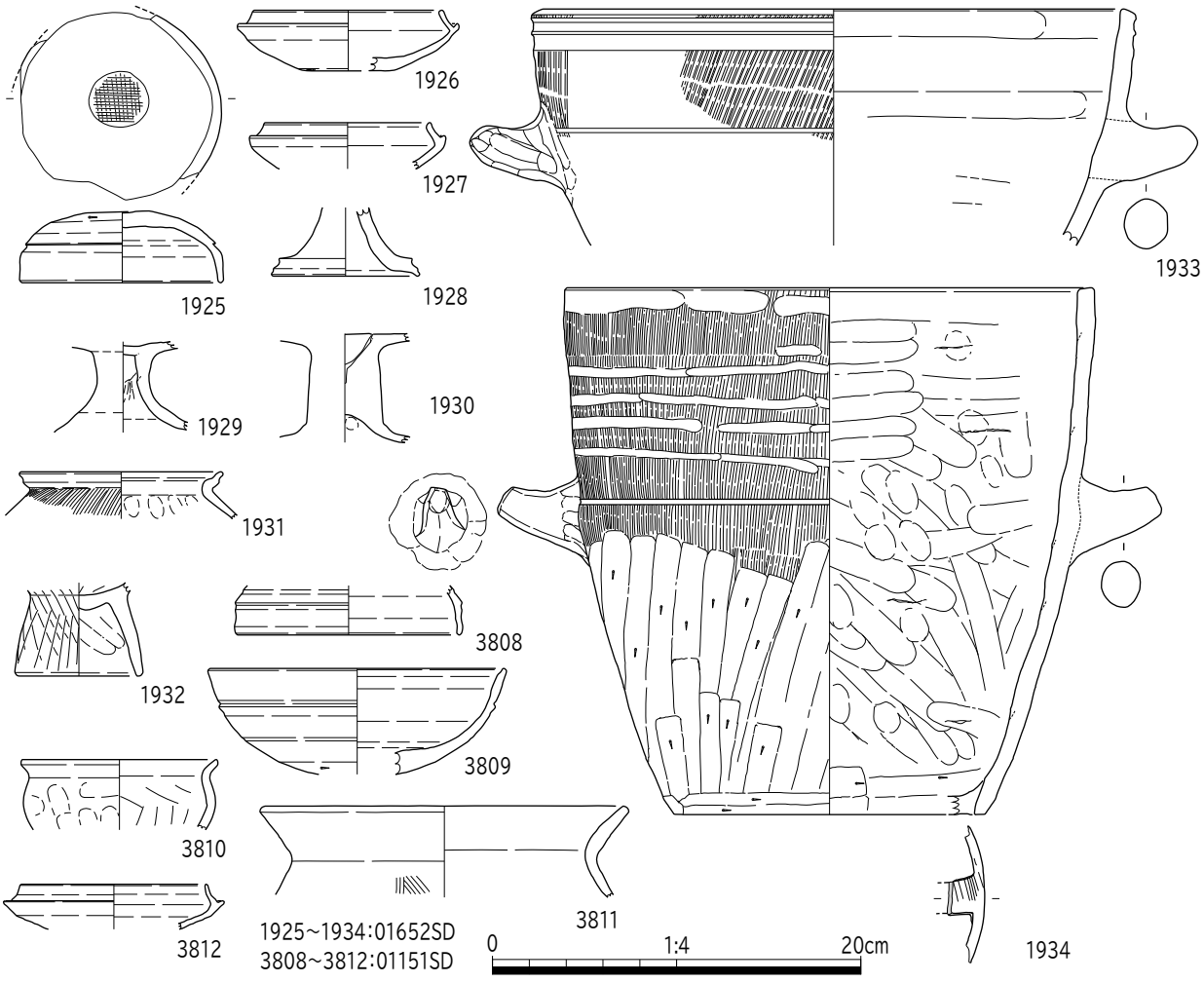


図250 01652SD 出土遺物実測図

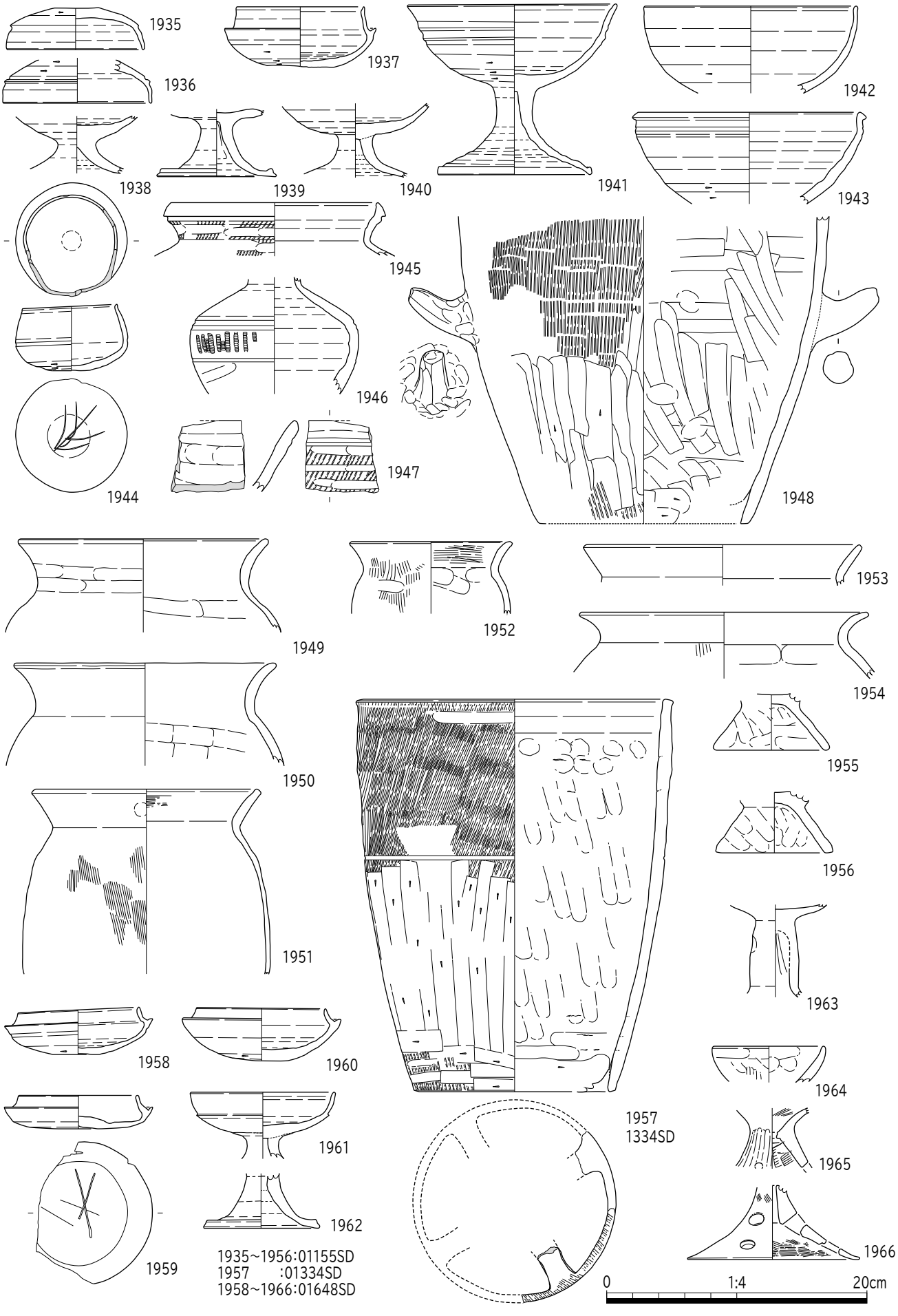


図 251 01155SD・01648SD・01334SD 出土遺物実測図

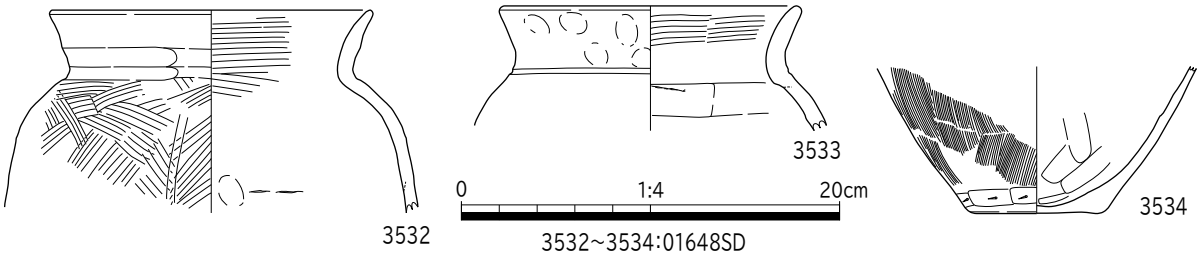


図 252 01648SD 出土遺物実測図

の階層やその使用場所に関わるものか。1944 は口縁が内湾する金属器を模したと思われる小型鉢。底部外面に葉脈状の線刻がある。1945 は甕、1947 は鍋の口縁部、1948 は甑である。土師器は長胴甕（1949 ～ 1951）と小型甕で、前者は端部の摘み上げがない大きく外反する口縁部が特徴である。特に 1949・1951 は器壁が薄く作られており、同様の型式は 7 世紀後半の三河地域でみられる。8 ～ 9 世紀の「三河型」に先行する型式に位置付けられる（愛知県埋蔵文化財センター 2015『加原遺跡』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第 194 集）。

01334SD からは須恵器甑が 1 点出土、把手とその接合部が欠損していた。

011648SD からは須恵器杯身（1958 ～ 1960）、須恵器無蓋高杯（1961）があり、時期は H-15 号窯式期～ I-101 号窯式期である。土師器甕（3532 ～ 3534）のうち 3534 は平底であるが、付着炭化物を試料に放射性炭素年代測定を行った（測定番号 PLD-54970）。2 σ暦年代較正で 580-647 cal AD（95.45%）という数値年代が得られた。6 世紀後葉～ 7 世紀半ばとなる。1963 は古墳時代前期後葉～中期の屈折脚高杯、1964 ～ 1966 は古墳時代前期の器台である。

溝② 調査範囲北部（22A 区･22B 区）から東部（21Bb 区）にかけて蛇行しながら延びる溝である。連続・重複する複数の溝群であるが、本体となるのは北部の 01160SD と南部の 00785SD である。北端部では 01160SD の上位に 01156SD が部分的に重複しつつ調査区北壁から外部へ抜け、南端部では 00785SD は 00725SD や 00726SD などが上位に重複した状態で調査区東壁から外部へ抜けている。本発掘調査で確認された全長は約 177m であるから、それ以上の規模と推定される。

北部の 01156SD と 01160SD の関係は土層断面によれば（図 253、土層断面 A-A’、B-B’）、01156SD は 01160SD の掘り返しではなく、ほぼ同じ位置で新たに掘り込まれた浅い溝である。その埋土は中粒砂が多く、01160SD のシルト主体の埋土とは異なる。その南端は掘立柱建物 01630SB 付近でほ東方へ直角に屈曲しそこから約 4m の地点で端部となっている。しかし、01160SD とちょうど重なるように合わせた屈曲で示されるように、何らかの理由で 01160SD と同じルートの溝を必要とした意図があり、両者の時期差は不明であるが、広い意味での再利用と評価できる。

01160SD の断面形は逆台形で幅約 1.4m、深さ約 0.6m である。断面形が大きく崩れていないので、顕著な掘り返しはなかったと考えられる。また、掘立柱建物 01630SB 付近での土層断面によれば（図 253、土層断面 A-A’）、埋土の大半（2･3 層）でブロック状の土が多く、しかも西側から流れ込んだような傾斜の堆積となっていることから、長期に使われることなく埋め戻されたことを示している。これは、01600SI の廃絶後に掘削されながら 01601SI の構築にともなって埋め戻された経過に関連するであろう。

01160SD の南端は 01635SK がに重なっている。そこから南側の 21Bb 区では 00785SD となる。幅は 01160SD とほぼ同じで約 1.5m だが、深さ約 1.4m と深い（図 254、土層断面 E-E’）。途中、中・近世の土坑 00789SK と重なる所を通過して南東方向に直線的に延びる。この南半部になると溝は浅くなるが、溝底の標高は約 3.3m で変化がない。この溝底の標高は北部の 01160SD も同様で、一部が凹地になって水が溜まることを避けたと思われる。00785SD は土層断面 C-C’ 付近から同 A-A’ 付近までは上位に 00769SD・00798NR が重複した状態となる。上位の遺構はいずれも旧河道と並行し、断面形が浅く幅広であることから、旧河道にともなって生じた自然流路と考えられる。そして 00785SD は東方へ外れていく。

00785SD の出土遺物は下位の遺構面（検４面）に由来するものを除くとごくわずかとなる。1967 は須恵器の

かえり付蓋で I-17 号窯式期、1968 は須恵器の器種は特定しがたいが横方向に大きく開く口縁部が特徴である。1969 は須恵器瓶類の口縁部、1970 は須恵器こね鉢、1971・1972 は須恵器鍋、1973 は古墳時代前期のナデ調整甕 1974 は管状土錘だが検４面でまとまって出土することから古墳時代前期。1975 ～ 1978 も同じ時期。以上から、1967 が 01160SD の掘削・埋め戻しの時期に最も近いと考えられる。

01160SD の出土遺物は 1979 は須恵器こね鉢、1981 は土師器で平底の長胴甕で底面に線刻がある。1984 は知

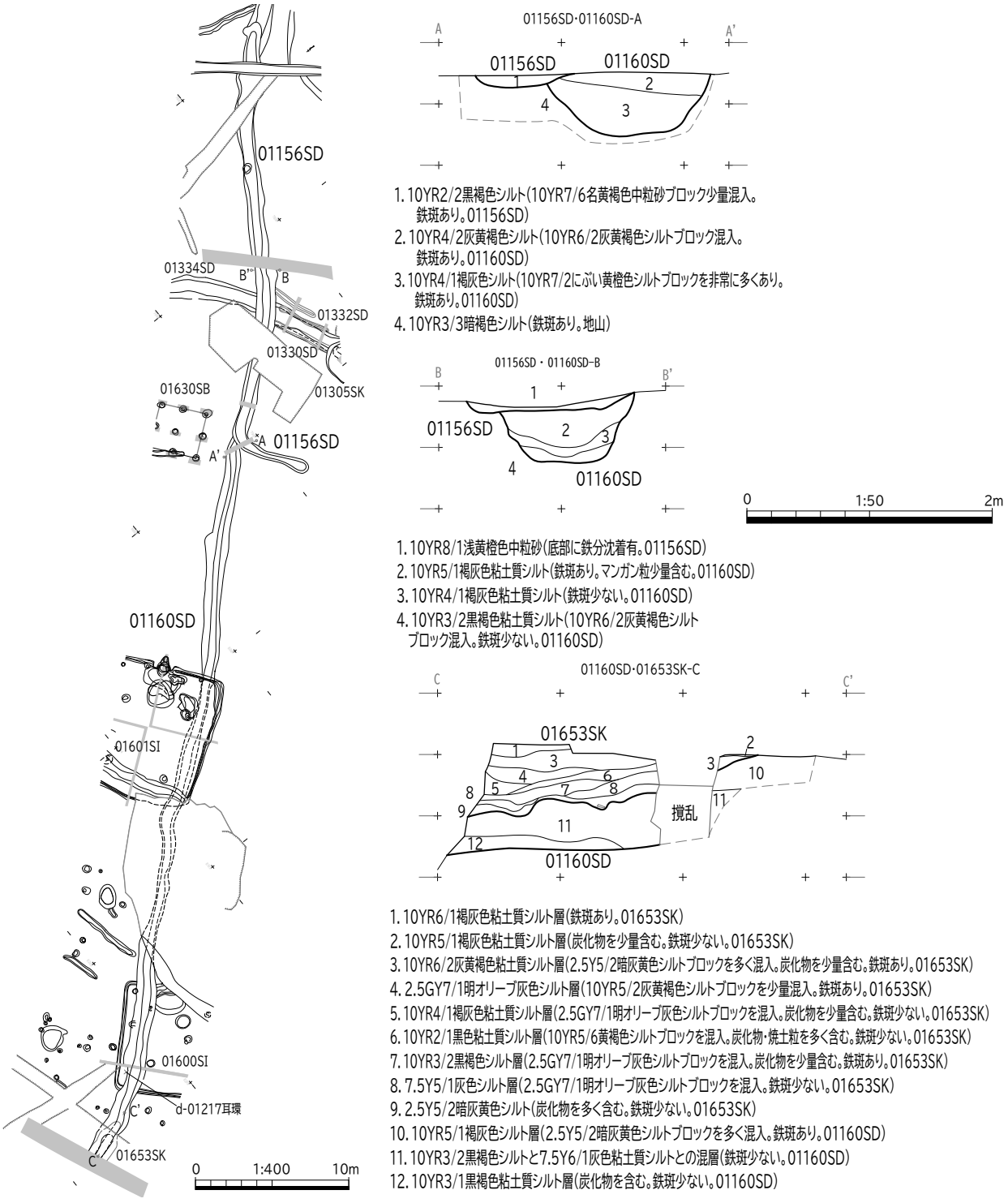
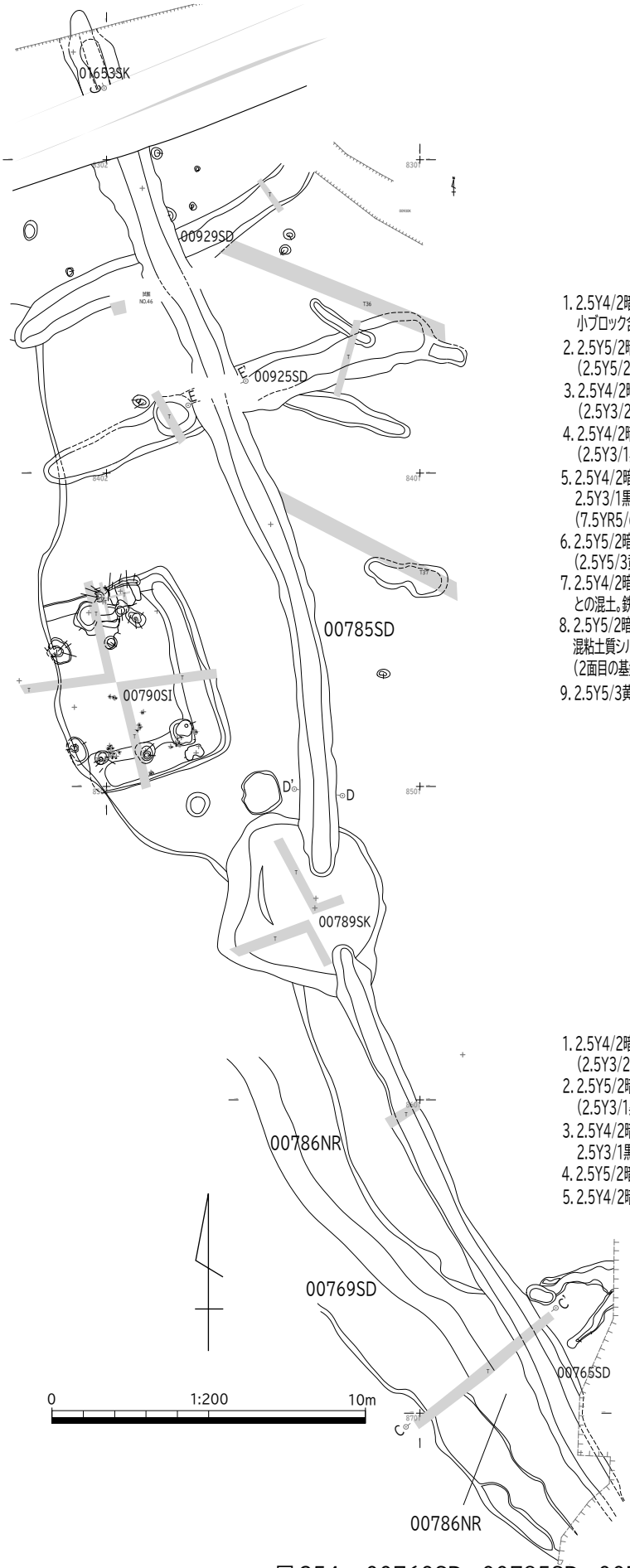
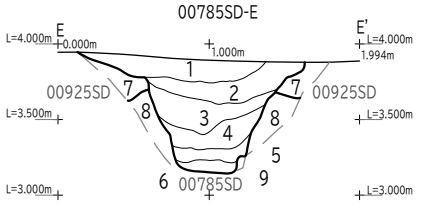
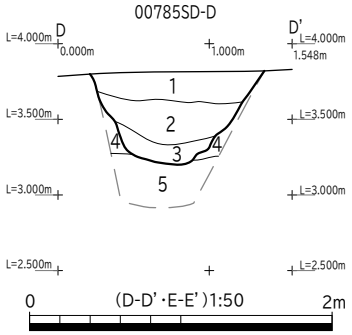


図 253　01156SD・01160SD 遺構図





1. 2.5Y4/2暗灰黄色極細粒砂～中粒砂混じるシルト層(2.5Y5/2暗灰黄色極細粒砂質シルト小ブロック含む。鉄斑あり。00785SD)
2. 2.5Y5/2暗灰黄色極細粒砂質シルトと2.5Y4/2暗灰黄色シルトの混層(2.5Y5/2暗灰黄色シルト質中粒砂小ブロック含む。B-B'の1層相当。鉄斑あり。00785SD)
3. 2.5Y4/2暗灰黄色シルトと2.5Y5/2暗灰黄色極細粒砂質シルトの混層(2.5Y3/2黒褐色粘土質シルト小～中ブロック層状に多く含む。B-B'の2層相当。鉄斑あり。00785SD)
4. 2.5Y4/2暗灰黄色シルト質極細粒砂と2.5Y5/2暗灰黄色極細粒砂質シルトの混層(2.5Y3/1黒褐色粘土質シルト中ブロック少し含む。B-B'の3層相当。鉄斑あり。00785SD)
5. 2.5Y4/2暗灰黄色シルト質極細粒砂と2.5Y5/2暗灰黄色極細粒砂質シルトと2.5Y3/1黒褐色粘土質シルトの混層(7.5YR5/6明褐色中粒砂小ブロック含む。B-B'の3層相当。鉄斑あり。00785SD)
6. 2.5Y5/2暗灰黄色極細粒砂質シルトと2.5Y4/2暗灰黄色シルト質極細粒砂の混層(2.5Y5/3黄褐色中粒砂小ブロック少し含む。鉄斑あり。00785SD)
7. 2.5Y4/2暗灰黄色粘土質シルト～シルト層(下部は2.5Y5/2暗灰黄色極細粒砂質シルトとの混土。鉄斑あり。00925SD)
8. 2.5Y5/2暗灰黄色極細粒砂質シルト層(上部)・2.5Y4/2暗灰黄色極細粒砂～中粒砂混粘土質シルト層(下部)(2面目の基盤層。B-B'の4・5層相当。鉄斑あり)
9. 2.5Y5/3黄褐色中粒砂(2面目の基盤層)



1. 2.5Y4/2暗灰黄色シルトと2.5Y5/2暗灰黄色極細粒砂質シルトの混層(2.5Y3/2黒褐色粘土質シルト小～中ブロック含む。C-C'の2層相当。鉄斑あり。00785SD)
2. 2.5Y5/2暗灰黄色極細粒砂質シルトと2.5Y4/2暗灰黄色シルトの混層(2.5Y3/1黒褐色粘土質シルト小ブロックを層状に含む。C-C'の3層相当。鉄斑あり。00785SD)
3. 2.5Y4/2暗灰黄色シルト質極細粒砂層(2.5Y5/2暗灰黄色極細粒砂質シルト・2.5Y3/1黒褐色粘土質シルト小ブロック含む。C-C'の4層相当。鉄斑あり。00785SD)
4. 2.5Y5/2暗灰黄色シルト層(2面目の基盤層。C-C'の8層上部相当。鉄斑あり)
5. 2.5Y4/2暗灰黄色粘土質シルト層(2面目の基盤層。C-C'の8層下部相当。鉄斑あり)

図 254　00769SD・00785SD・00786NR 遺構図 (1)

多式製塩土器の杯部の破片で 7 世紀代。内湾気味の端部が被熱で赤色化している。

M12 は耳環で、直径 1.8cm、太さ 0.4cm で純銅の芯に鍍金が施されている。00785SD 出土ではあるがもとは竪穴建物跡 01600SI の埋土中にあった可能性が高い。

00769SD・00786NR もごく小片に限られる（図 256）。このうち須恵器有台杯（1991）が最も新しく、I-17 号窯式期である。

溝③A・B　溝③A・B は溝①D で示したように、溝①D に接続しそれぞれ区画の北辺と南辺を意図して掘られたものと考えられる。溝③A（01334SD）は幅約 1.6m、深さ約 0.3m で、長さは 17m 以上である。若干弧線状ではあるが位置関係から掘立柱建物跡 01630SB の北側を囲う意図があるとみられる。溝③B（1648SD）は幅約 1.8m、深さ約 0.6m で、長さは 11.6m 以上である。トレンチと調査区境を経て 21Bb 区の 00929SD に続く。溝③A・B と溝①D の接続については先述したとおりで、当初から区画溝として開削された可能性が高い。それを改変して建物群全体を囲う溝へと変遷したと考えられ、こういった状況は旧河道左岸ではみられない。

その開削時期は、区画内にある竪穴建物跡 01600SI の埋土を掘り込む溝②（01160SD・00785SD）が溝③B（00929SD）も分断し、さらに区画北辺の溝③A（01334SD）も分断している（図 253）。したがって、溝③A・B と 01600SI →溝②は確実である。ところが、溝②が埋められた後にもう 1 基の竪穴建物跡 01601SI が構築されてい

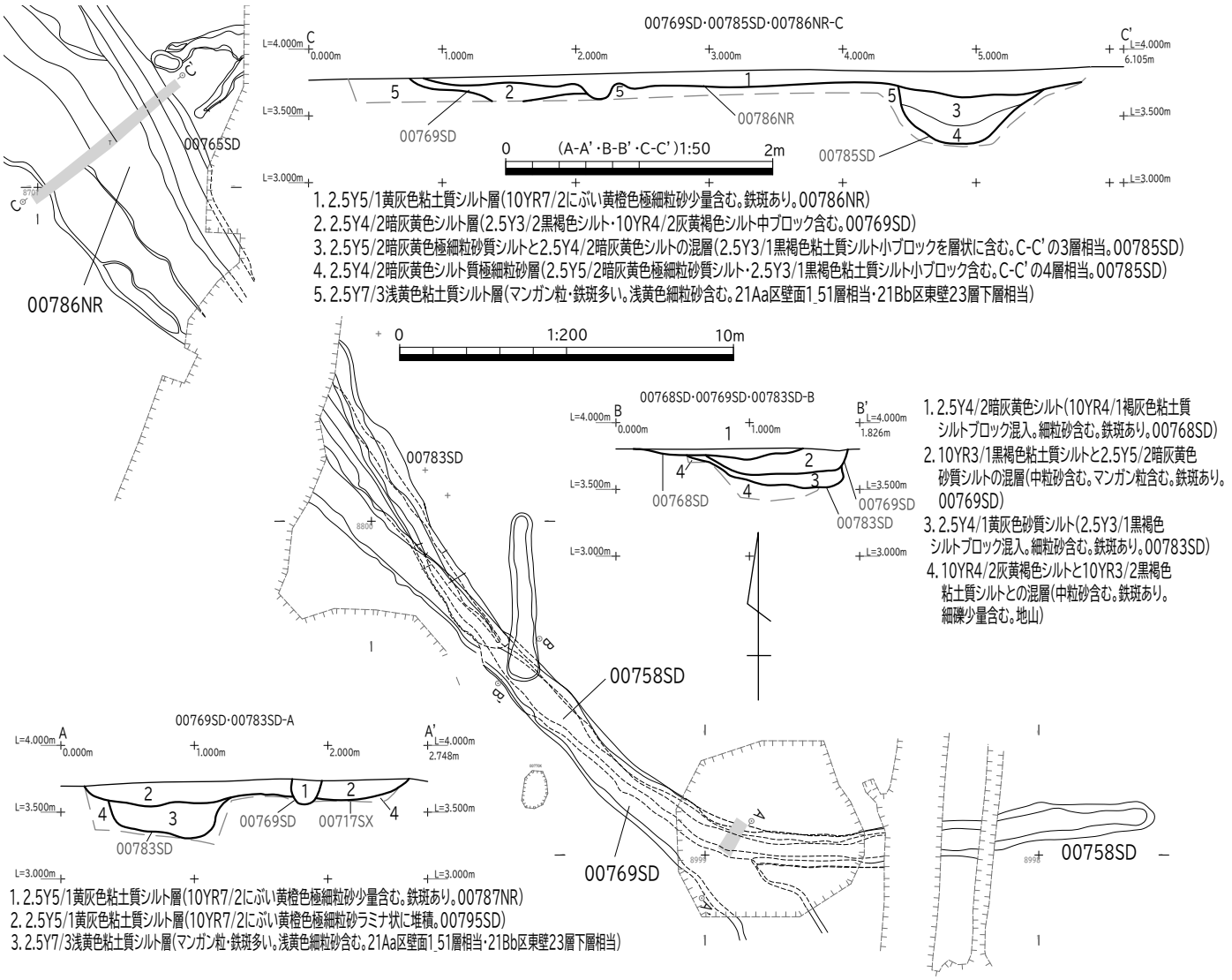


図 255　00769SD・00785SD・00786NR 遺構図（2）

る。この段階では区画溝は埋没しているので、01601SI と共存するのは溝①D ということになる。以下、暦年代で示すと、01600SI の機能～廃絶時期は 7 世紀前葉～中葉で、溝②からは I-17 号窯式期の須恵器（図 256-1967）が出土しているので 7 世紀後葉、01601SI は 7 世紀後半と考えられる溝②との関係から 7 世紀後葉以降となる。01601SI は再構築の痕跡もあることから、その終焉は 8 世紀初頭まで下ると考えられる。その段階には旧河道右岸の微高地は、河道と溝①D に挟まれた細長い空間が占有されていたとみられる。

（6） 集落内外の土坑など

微高地上の集落域では、建物や溝以外にも関連する土坑が確認されている。一部は古墳時代中期までさかのぼりうるものが含まれるが、以下には遺物の時期が古墳時代後期～古代に該当するものを提示する。

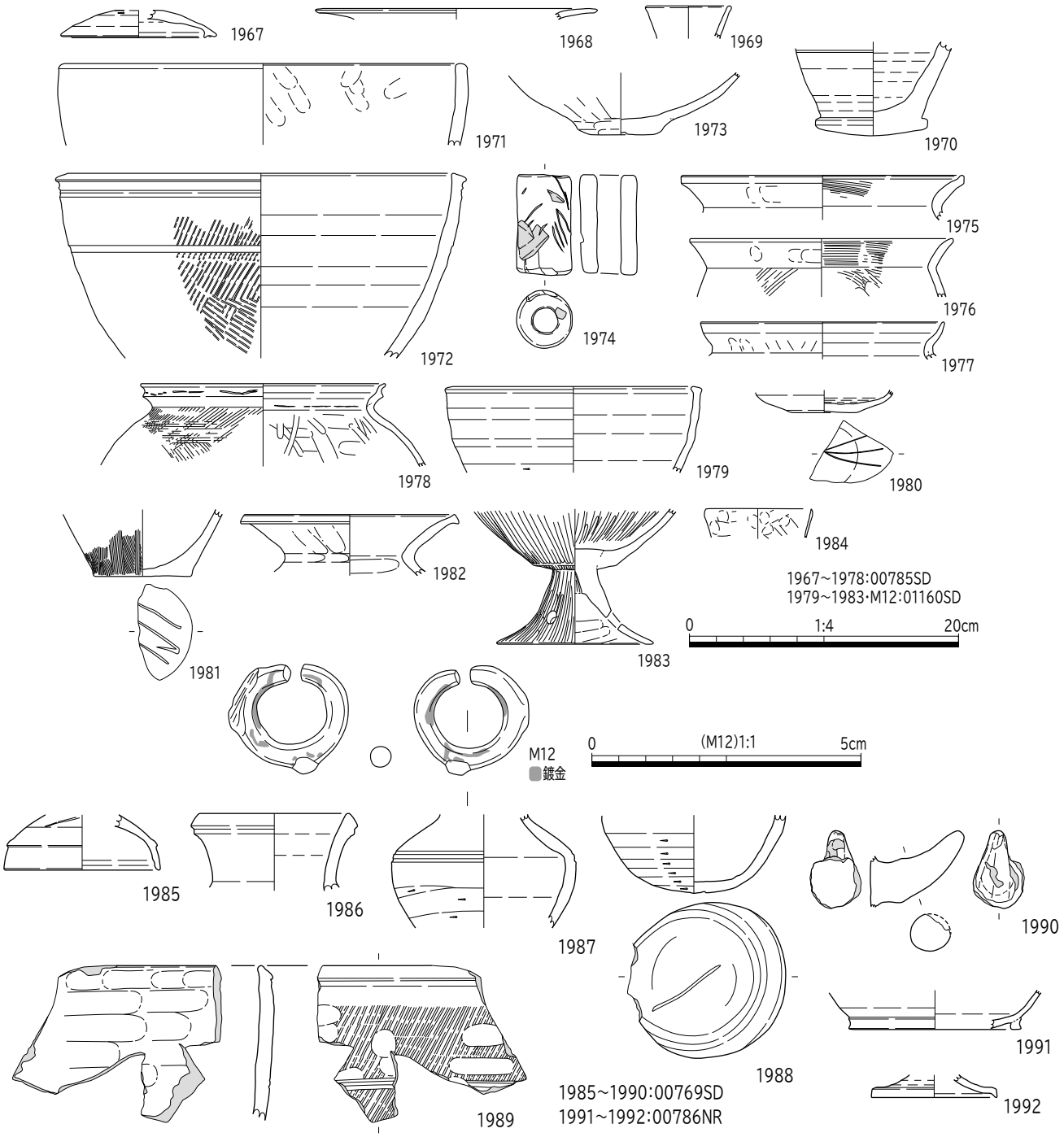
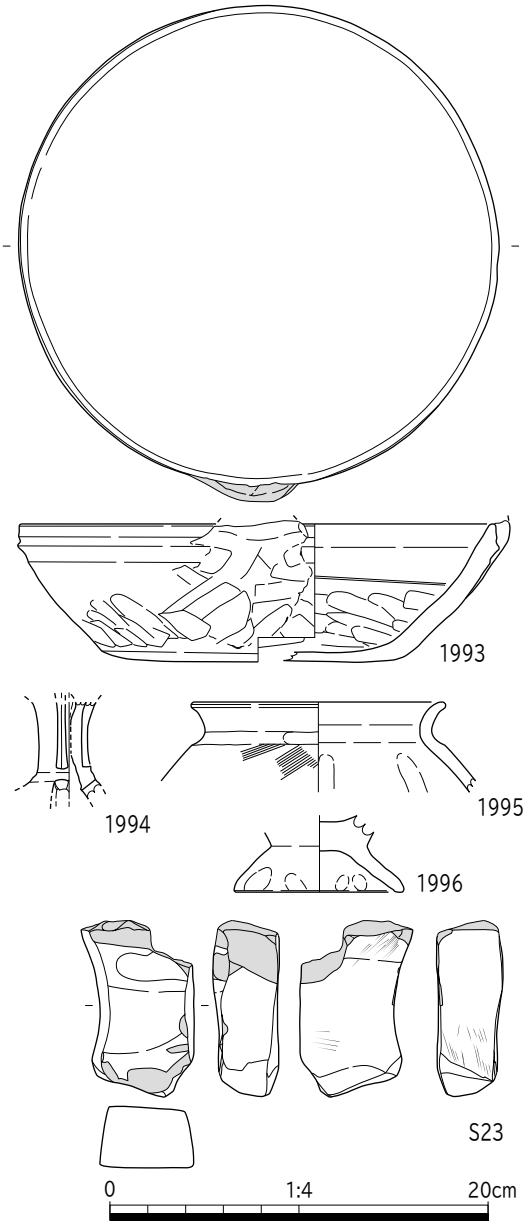


図 256 00769SD・00785SD・00786NR・01160SD 出土遺物実測図

00995SX・00097SD・00110SX　旧河道左岸、調査範囲の西端（21Aa 区）に位置する土坑群で、単独の竪穴建物跡 00115SI に近接する。不定形な土坑（00095SX、長軸約 3.8m、深さ約 0.4m）に南北方向の溝（00094SD、長さ約 9.0m、幅約 1.3m）が上から掘り込まれる。その東隣に土坑状の性格不明遺構 00110SX があり、00110SX から北東方向へ向かう溝（00097SD、長さ 9.7m、幅 1.3m）が延びている。00095SX からは須恵器や砥石（S23、石材は凝灰岩）が出土している。1993 の須恵器把手付鉢は内外面を指ナデで仕上げている。焼成は軟質で灰白色となっている。1994 は長脚 2 段透かしの高杯である。



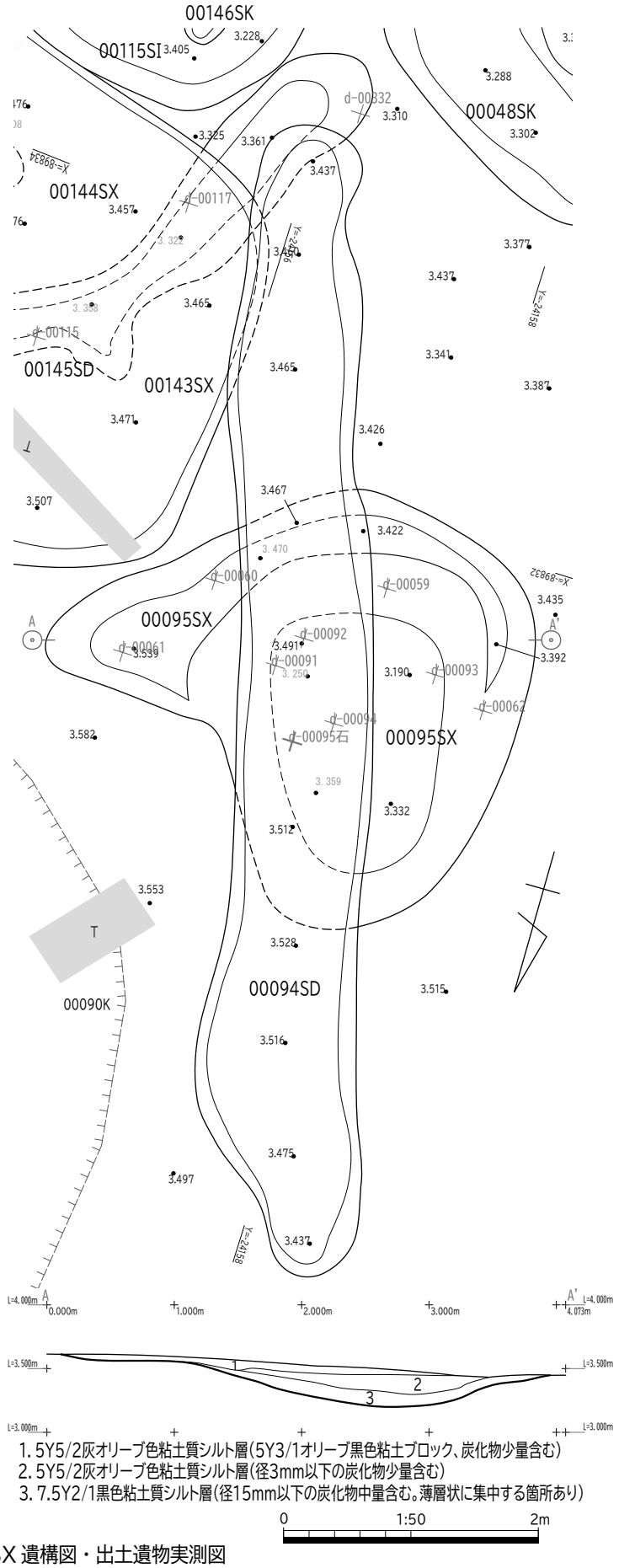
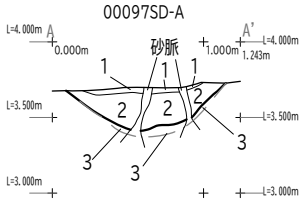


図 257　00095SX 遺構図・出土遺物実測図

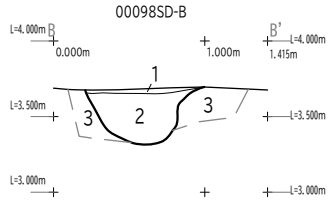
00097SD の出土遺物は須恵器杯蓋（1997）・杯身（1998）で、6 世紀後葉。これに加え透かしが円形の高杯脚部がある。本発掘調査で唯一の出土例である。短脚に類型され、明灰色で透明な降灰釉が掛かっており、3 方に円形透かしがある。円形透かしは近隣では春日井市の下原古窯址群で生産されている（春日井市教育委員会 2007『下原古窯址群』 ）。

00098SD も 00097SD と概ね同時期の須恵器が出土しているが、古墳時代前期までさかのぼる土師器の鼓形器台も含まれる。

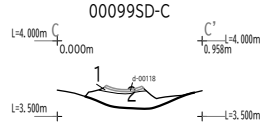
00099SD では、須恵器大甕（2020・2021）が破砕されて溝の底部から並んで出土している。破片は胴部を中心に残存しているが全形までは復元できない。内面は丁寧な横指ナデが施される。



1. 10YR5/2粘土質シルト層(中粒砂少量含む。鉄斑多い。径5mm以下の炭化物微量含む)
2. 10YR4/1褐灰色粘土層(鉄斑あり)
3. 2.5Y5/1黄灰色粘土質シルト層(鉄斑あり)



1. 10YR4/2粘土質シルト層(中粒砂少量含む。マンガン粒含む。砂鉄斑多い)
2. 10YR4/1褐灰色粘土層(2.5Y6/2灰黄色粘土質シルトブロック少量含む。マンガン粒少量含む。鉄斑少ない)
3. 2.5Y5/1黄灰色粘土質シルト層(鉄斑あり)



1. 2.5Y5/2暗灰黄色粘土質シルト層(中粒砂少量含む)
2. 10YR4/1褐灰色粘土層(鉄斑あり)

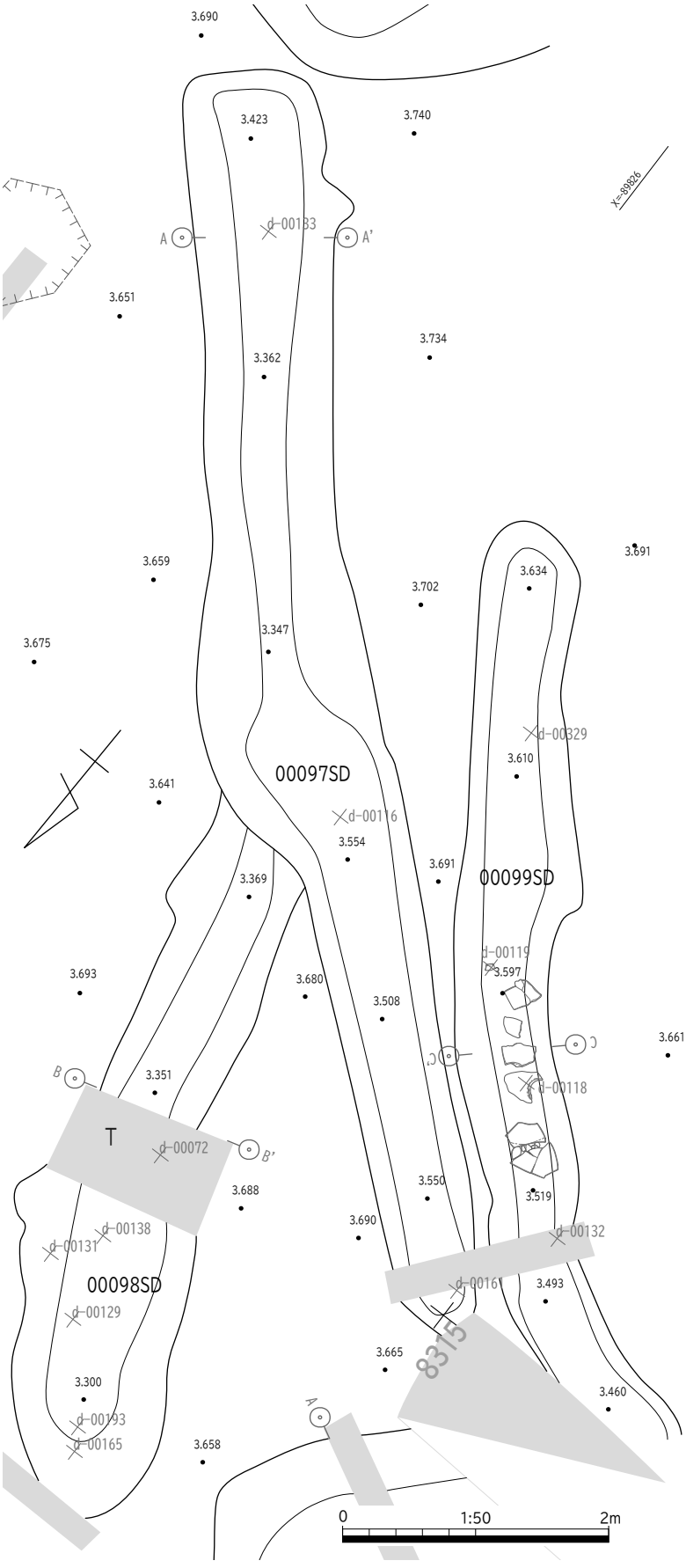


図 258　00097SD・00098SD 遺構図

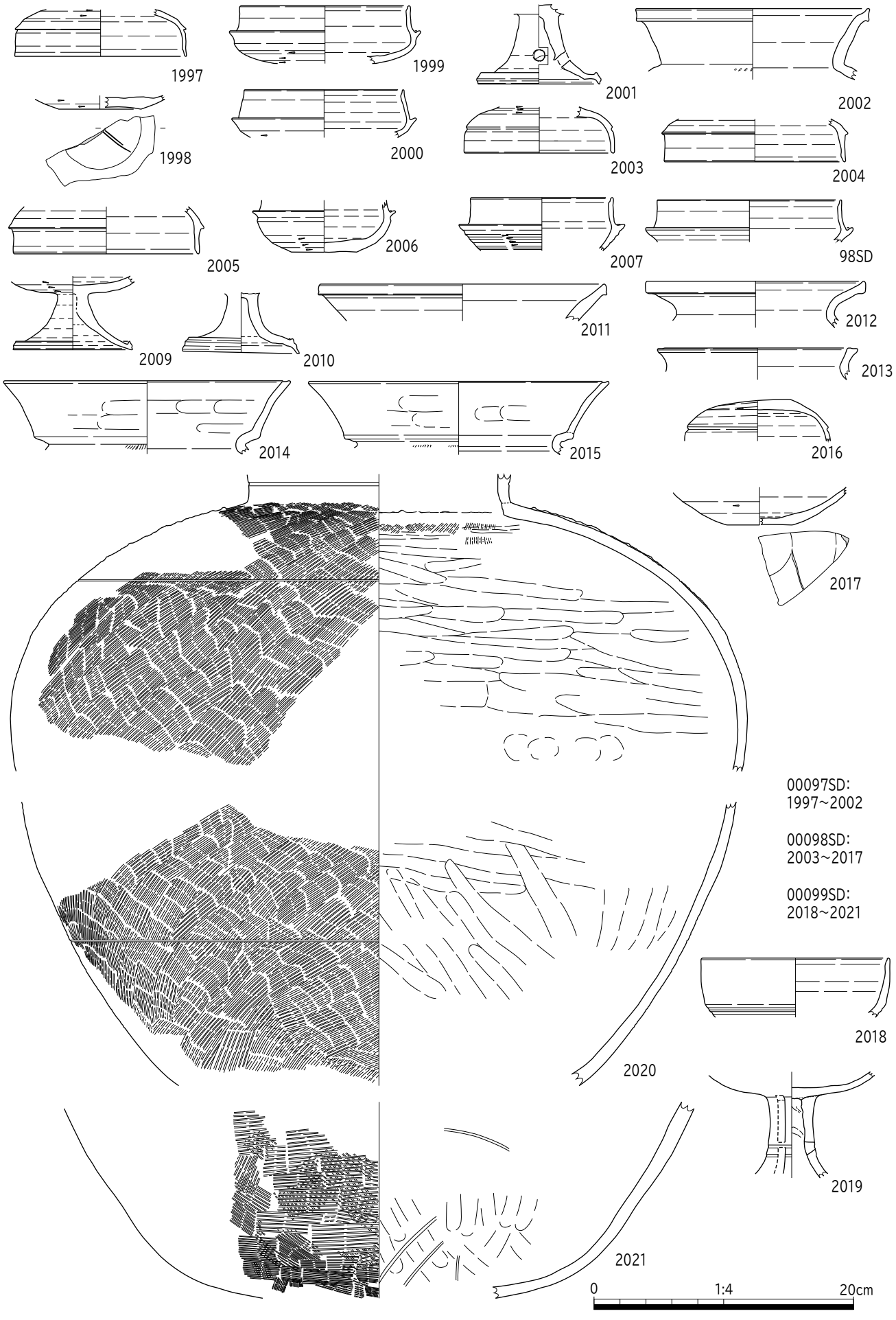


図 259　00097SD・00098SD・00099SD 出土遺物実測図

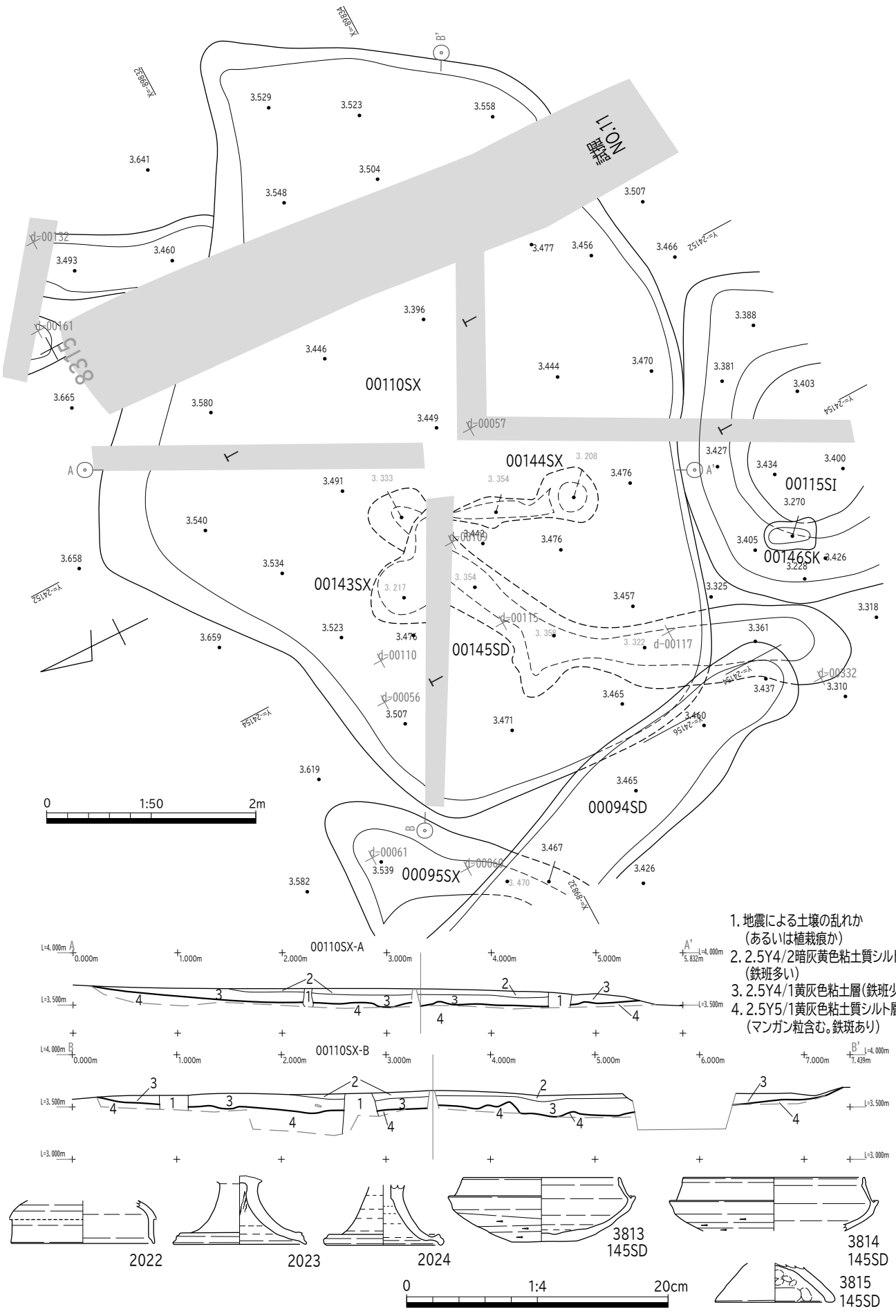


図 260 00110SX 遺構図・出土遺物実測図

00110SX・00145SD　旧河道左岸、調査範囲の西端（21Aa 区）に位置する土坑群に含まれる。単独の竪穴建物跡 00115SI に近接、それより規模が大きい。平面形は歪みの大きな楕円形で、長軸約 7.4m、短軸 5.6m、深さ約 0.3m である。底面は比較的平らに掘り込まれているが、竪穴建物跡とするには壁面の立ち上がりが緩い。出土遺物の量は、近接する 00095SX や 00097SD などに比べて少なく、出土した須恵器は杯蓋（2022）・高杯（2023・2024）から、概ね 6 世紀代である。

00145SD は 00110SX と重複しその下位にある溝状遺構である。不規則に屈曲して一部は枝分かれしているので、樹木の根の跡である可能性もあろう。しかしそこから土器が出土しており、付近で土器を使う活動があったことになる。出土遺物は、須恵器杯身（3813・284）が H-61 号窯式期で 6 世紀中葉である。

00640SK・00745SD・00845SD・01076NR　00640SK は旧河道左岸、調査範囲中部（21Ca 区）に位置する土坑である。検 2 面で検出されたが重複関係から見て検 1 面の可能性が高い。しかし出土遺物は須恵器・土師器に限られ、付近の 01540SI などに関わるものであろう。遺構の規模は長軸約 5.9m、短軸約 2.2m、深さ約 0.1m と浅い。出土遺物（図 261-2025・2026）は須恵器の有台杯で C-2 号窯式期とみられる。

00745SD は旧河道右岸、調査範囲南東部（21Bb 区）に位置する溝である。先述した溝②（00785SD）の北側に並行する。幅約 1.1m、深さ約 0.4m、長さ約 8.9m 以上で調査区東壁から外部へ伸びていると思われる一方で西側の延長や 00785SD との関係は不明である。出土遺物（図 261-2027 ～ 2031）は須恵器の瓶・甕類に限られ、フラスコ形瓶（2031）も本遺跡内では希少な存在である。時期は 7 世紀後葉～末であろう。

00845SD は、旧河道左岸、調査範囲中部（21Ba 区）に位置する小溝群（図 173）の 1 つで、竪穴建物跡 02160SI の埋土に掘り込まれている。小溝群の性格は耕作の畝溝と考えられるが、出土した須恵器（図 261-2032 ～ 2034）は 6 世紀代の杯蓋（2032・2033）は 02160SI に関係すると思われる一方、C-2 号窯式期の蓋（2034）は西側に位置する掘立柱建物跡（05002SB）に関わるとみられる。

01076NR は、旧河道右岸、調査範囲東部（22A 区）に位置する不定形な溝状の落ち込みである。他遺構との重複関係は、溝③ B とした 01648SD や竪穴建物跡 01600SI の上位に位置する。両端は撹乱で不明となっている。規模は、幅約 5.9m、深さ 0.5m で、確認された長さは約 23.0m である。土層断面（図 256）では断面形状は不定形ながら何度も掘り返されたとみられる堆積状況である

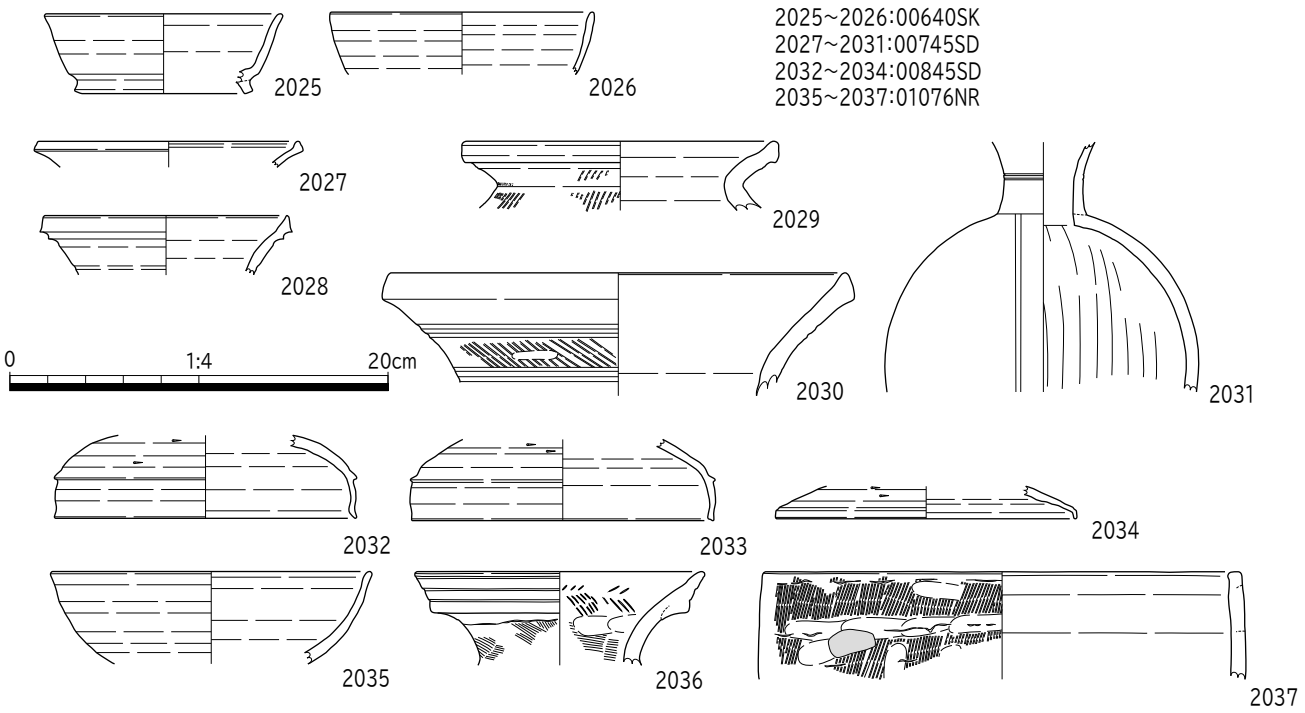
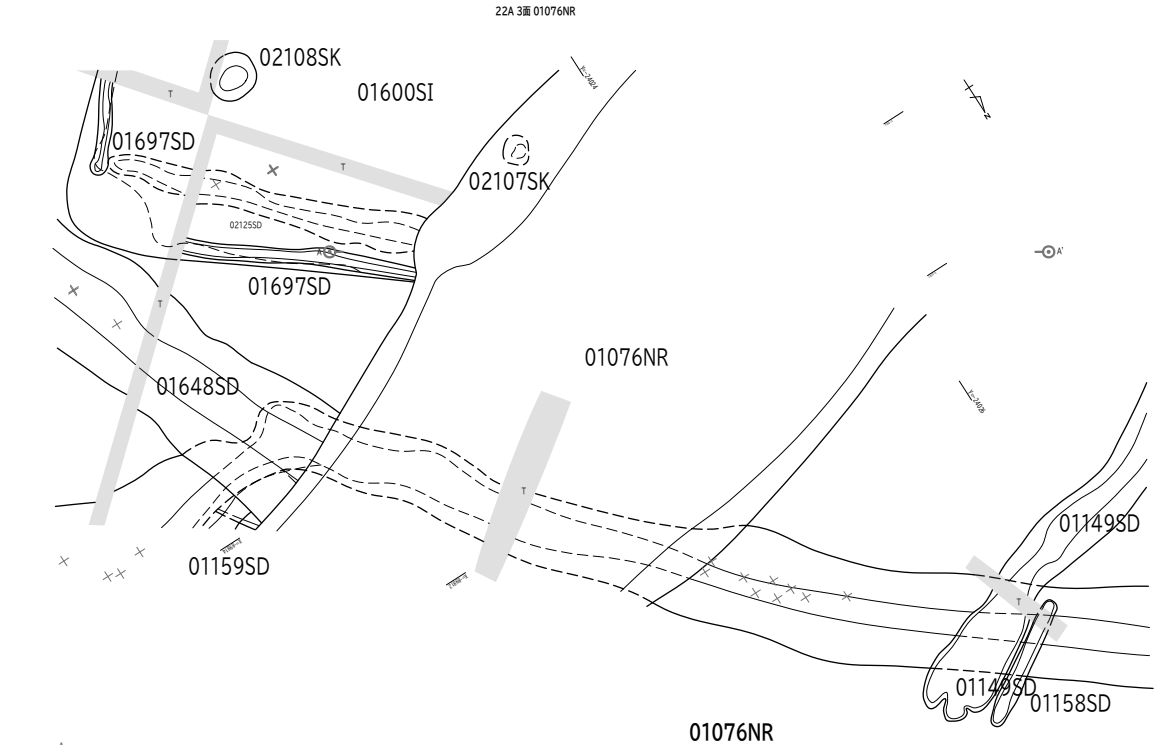
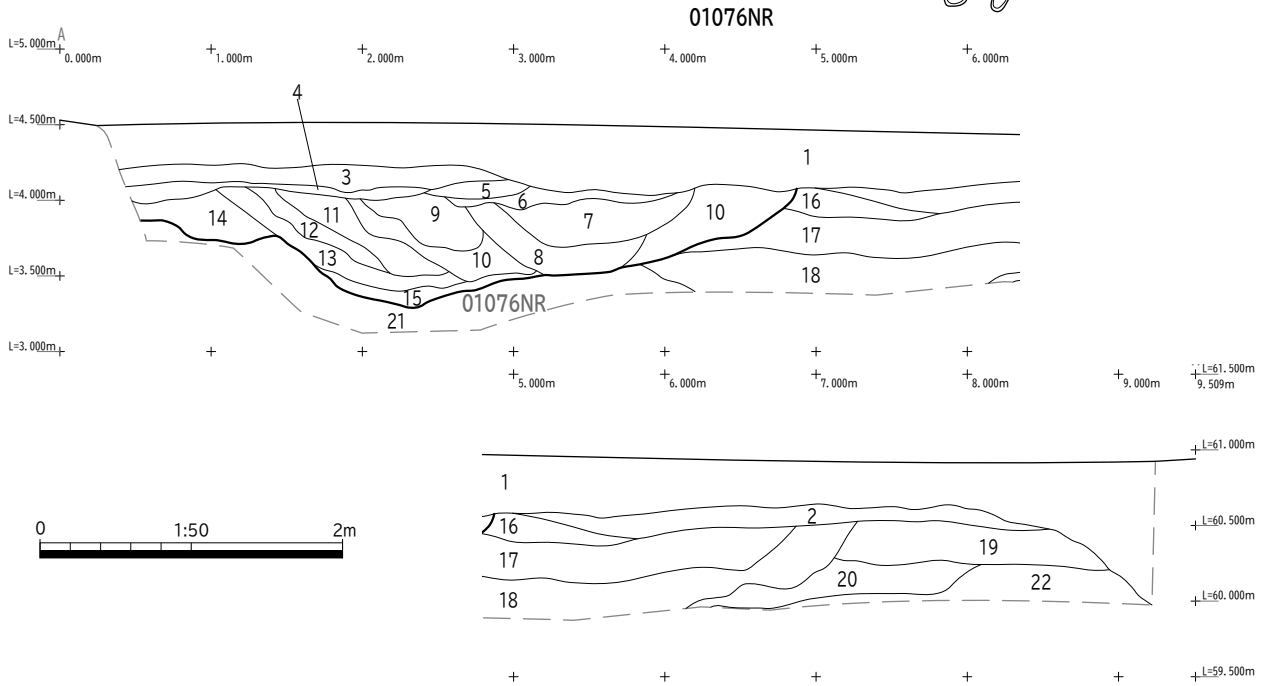


図 261　00640SX・00745SD・00845SD・01076NR 出土遺物実測図





1. 2.5Y4/2暗灰黄色砂質シルトと10YR3/1黒褐色粘土質シルトの混層(細礫少量含む。炭化物を少量含む。鉄斑あり)
2. 10YR4/2灰黄褐色シルト層(細礫少量含む。炭化物を少量含む。鉄斑少ない)
3. 10YR4/2灰黄褐色シルト層(2.5Y4/1黄灰色砂質シルトブロック混入。細礫少量含む。炭化物を少量含む。鉄斑少ない)
4. 10YR4/2灰黄褐色シルト層(2.5Y4/1黄灰色砂質シルトブロック混入。細礫少量含む。鉄斑多い)
5. 10YR4/2灰黄褐色シルト層(2.5Y4/1黄灰色砂質シルトブロック混入。細礫少量含む。鉄斑少ない)
6. 10YR4/2灰黄褐色シルトと2.5Y4/2暗灰黄色砂質シルトの混層(細礫少量含む。鉄斑少ない)
7. 2.5Y4/1黄灰色粘土質シルト層(細礫少量含む。炭化物を少量含む。鉄斑あり)
8. 2.5Y4/1黄灰色シルト層(2.5Y4/1黄灰色砂質シルトブロック混入。細礫少量含む。炭化物を少量含む。鉄斑少ない)
9. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(2.5Y4/1黄灰色砂質シルトブロック混入。細礫少量含む。炭化物を少量含む。鉄斑あり)
10. 10YR3/2黒褐色粘土質シルトと10YR4/2灰黄褐色シルトの混層(細礫少量含む。炭化物を少量含む。鉄斑少ない)
11. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(2.5Y4/2暗灰黄色シルトブロック混入。細礫少量含む。炭化物を少量含む。鉄斑少ない)
12. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(2.5Y4/2暗灰黄色シルトブロック混入。細礫少量含む。炭化物を少量含む。鉄斑少ない)
13. 10YR4/2灰黄褐色シルトと10YR3/2黒褐色粘土質シルトの混層(細礫少量含む。炭化物を少量含む。鉄斑少ない)
14. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(炭化物を少量含む。鉄斑少ない。)
15. 10YR3/1黒褐色粘土質シルトと2.5Y4/1黄灰色シルトの混層(炭化物を少量含む。鉄斑多い)
16. 10YR4/2灰黄褐色シルト層(10YR4/2灰黄褐色砂質シルトブロック混入。細礫少量含む。炭化物を少量含む。鉄斑少ない)
17. 2.5Y5/1黄灰色シルト層(10YR3/1黒褐色粘土質シルトブロック混入。細礫少量含む。炭化物・マンガン粒を少量含む。鉄斑少ない)
18. 2.5Y5/1黄灰色シルト層(7.5YR3/2黒褐色シルトブロック混入。炭化物・マンガン粒を少量含む。鉄斑少ない)
19. 10YR3/1黒褐色粘土質シルトと2.5Y5/2暗灰黄色シルトの混層(細礫少量含む。炭化物を少量含む。鉄斑少ない)
20. 10YR3/1黒褐色粘土質シルト層(2.5Y5/2暗灰黄色粘土質シルトブロック混入。炭化物を少量含む。鉄斑少ない)
21. 2.5Y5/1黄灰色シルトと10YR4/1褐灰色粘土質シルトの混層(炭化物・マンガン粒を少量含む。鉄斑あり)
22. 2.5Y5/2暗灰黄色シルト層(10YR3/1黒褐色粘土質シルトブロック混入。炭化物・マンガン粒を少量含む。鉄斑少ない)

図 262 01076NR 遺構図

ことから、人為的な溝の可能性もある。ただし部分的な残存であるためその意図は不明である。出土遺物は、大型の無蓋高杯（2035）が溝①D（01155SD）に関わるものであろう。古墳時代前期の土師器壺（2036）は二重口縁壺。2037 は須恵器の甑。

01210SK　旧河道左岸、調査範囲南西部（21Ba 区）に位置する土坑である。竪穴建物跡 01213SI・01257SI と重複し、その埋土上から掘り込まれている。平面形は楕円形で、長軸約 1.4m、短軸約 0.9m、深さ 0.2m で断面形は擂鉢形である。掘削時期は特定できないが、出土遺物が須恵器（図 263-2038 ～ 2042）と凹み石という組み合わせが特徴的である。前者は杯蓋・杯身ともに稜線が消失する過程のもので H-15 号窯式期であろう。これは 01213SI の出土須恵器（図 169）とも齟齬がない。しかし凹み石（S18）は年代不詳で、可能性としては下層（検 4 面）の弥生時代後期の竪穴建物跡 2231SI などに関係するかもしれない。長軸 27.1cm、短軸 19.1cm、厚さ 6.5cm、重さ 6.2kg を測り、石材は濃飛流紋岩である。中央に摩滅をともなう凹みがあり別に一部側縁も含めて複数の擦り面が分布している。顕著な敲打痕はみられなかった。当該遺構からは凹み石のほかに砥石状の石材（濃飛流紋岩）も出土している。

01442SD　旧河道左岸に位置する竪穴建物跡 00332SI の幅広周溝状の掘り方である。出土位置から当該建物の機能時期の上限を示すものである。いずれも須恵器の小片で 2043 は時期特定は難しく、2044 は H-61 号窯式期であろう。以上から 00332SI の構築時期が 6 世紀中葉以降にと推測される。

01616SD　旧河道右岸、調査範囲

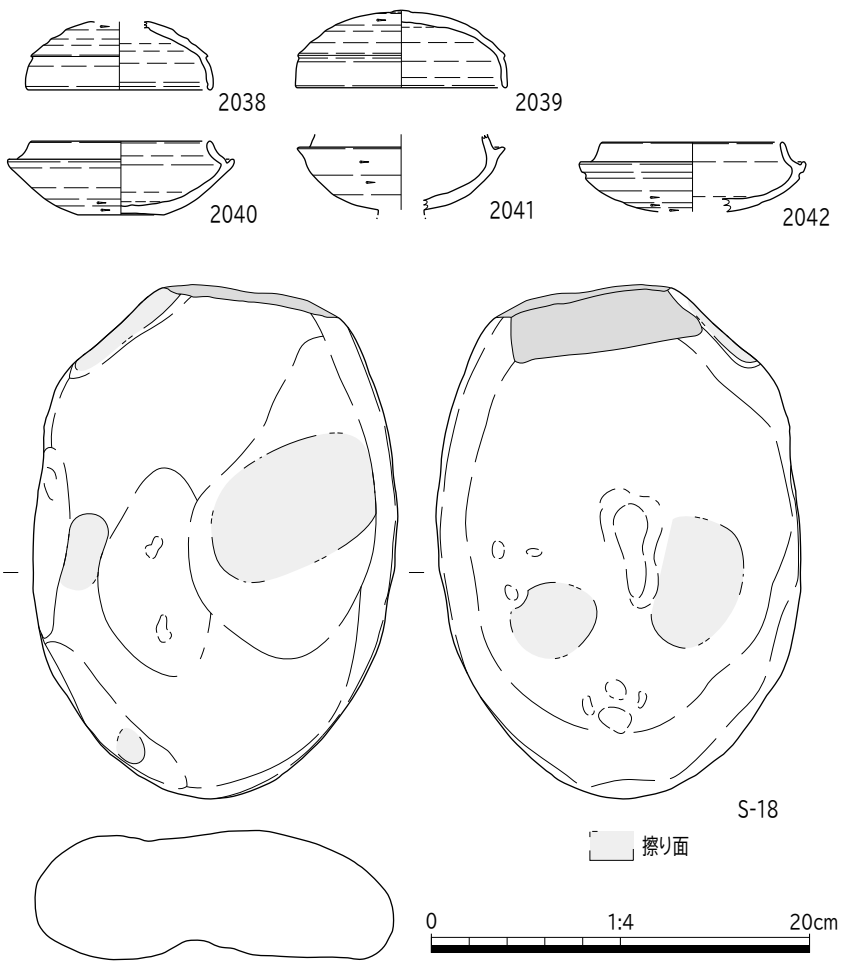


図 263　01210SK 出土遺物実測図

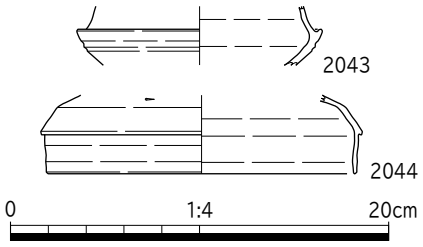


図 264　01442SD 出土遺物実測図

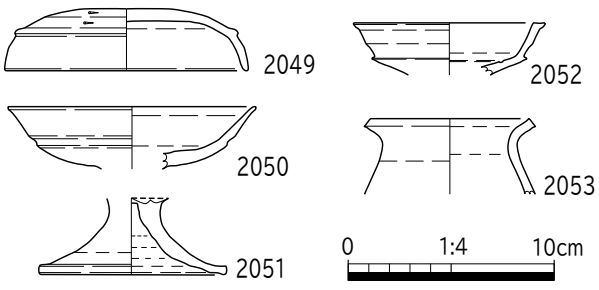


図 265　01616SD 出土遺物実測図

北東部（22A 区・22B 区）に位置する幅約 1m 長さ 15m 以上の溝である。竪穴建物跡 01601SI の上位にある土坑である。出土遺物は 7 世紀代の須恵器である。

01653SK　先述した溝②の 01160SD や 00785SD の上に重なる土坑で長軸約 2.6m、短軸約 1.4m、深さ 0.5m である。須恵器の杯蓋（図 266-2054・2055）は稜線が全くない丸みの強い器形で壺の蓋か。

01663SK　先述した溝①C（1665SD）の上に重なる土坑である。ほぼ 01665SD に含まれる位置にある。須恵器は 7 世紀前葉以前を主体とする。土師器長胴甕の胴部（2062）は摘み上げ口縁の型式のものとみられ、6 世紀後半～ 7 世紀。

01800SK　旧河道左岸、調査範囲中部に位置する土坑である。掘立柱建物群の南側、竪穴建物跡 01216SI に近接する。規模は長軸約 2.3m、短軸約 1.1m、深さ 0.3m である。掘立柱建物 05008SB の柱穴 01596SK はこの埋土上で検出されている。須恵器杯身（図 268-2063）は H-44 号窯式期～ H-5 号窯式期、2064 は古墳時代中期の土師器小型丸底壺、2065 は土師器の摘み上げ口縁の甕、2066・2067 は口径の復元が難しいが須恵器の甑で口縁部が緩く外反する。

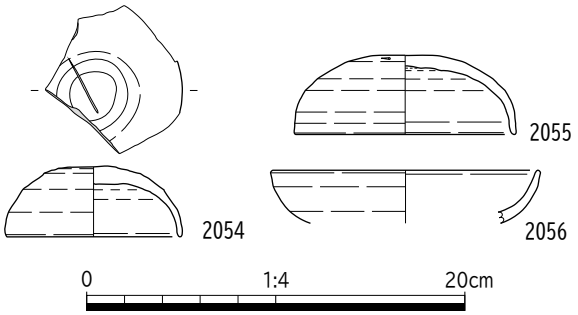


図 266　01653SK 出土遺物実測図

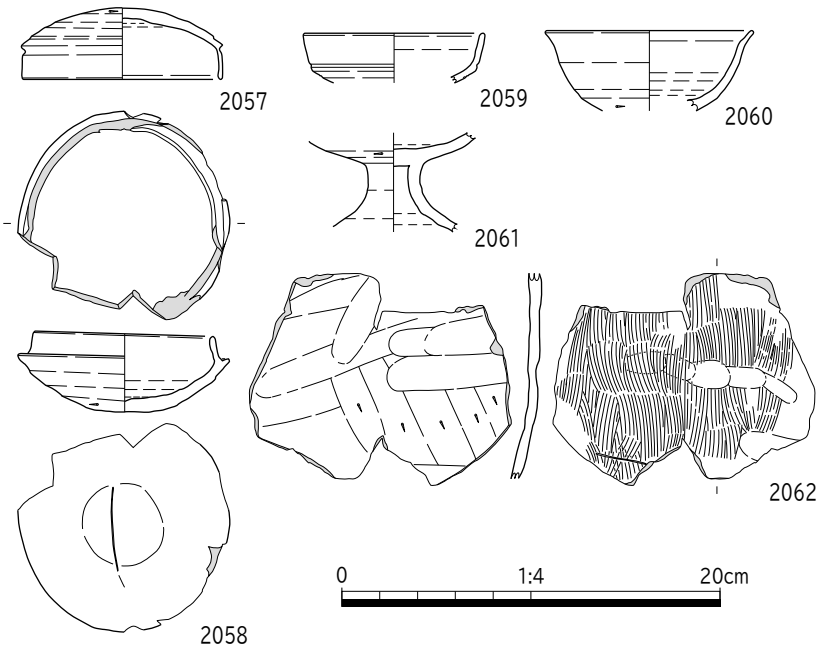


図 267　01663SK 出土遺物実測図

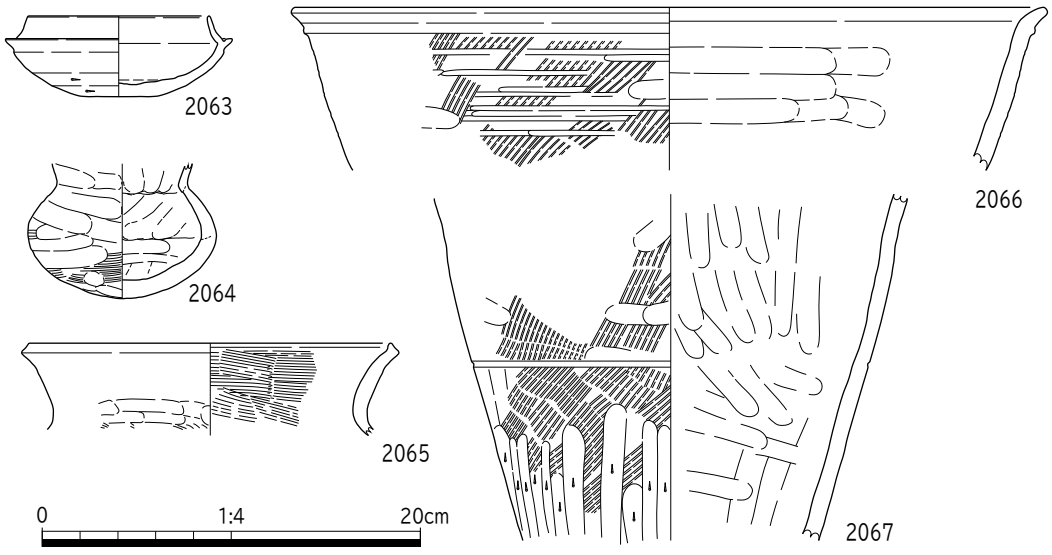


図 268　01800SK 出土遺物実測図

01813SD・01832SK・01860SK・01883SK　旧河道左岸、調査範囲中部（21Ca 区）に位置する遺構群である。個々の遺構について特徴的な点はなく、また相互の関係性についても不明であるが、須恵器を中心に出土遺物の時期が特定できる（図 269）。01813SD 出土の須恵器杯（2027）は腰部に明瞭な屈曲がある 8 世紀代でも後半の可能性がある。01860SK 出土の須恵器蓋（2073・2074）は平頂な器形に端部の顕著な折り曲げが特徴的で、C-2 号窯式期新段階～ I-25 号窯式期とみられる。01883SK からは、H-61 号窯式期の須恵器杯蓋（2077）もあり、遺物の時期は 6 ～ 7 世紀の幅があるが、01860SK と同様に 8 世紀初頭から前葉の須恵器蓋（2078 ～ 2080）が含まれる。土師器の長胴甕（2088）は口縁が大きく外反しているので、それに近い時期かもしれない。

　ここに示した以外にも、古墳時代後期～古代の時期に相当する土器が単体で出土した遺構が多数ある。これについては第 2 分冊で提示する。

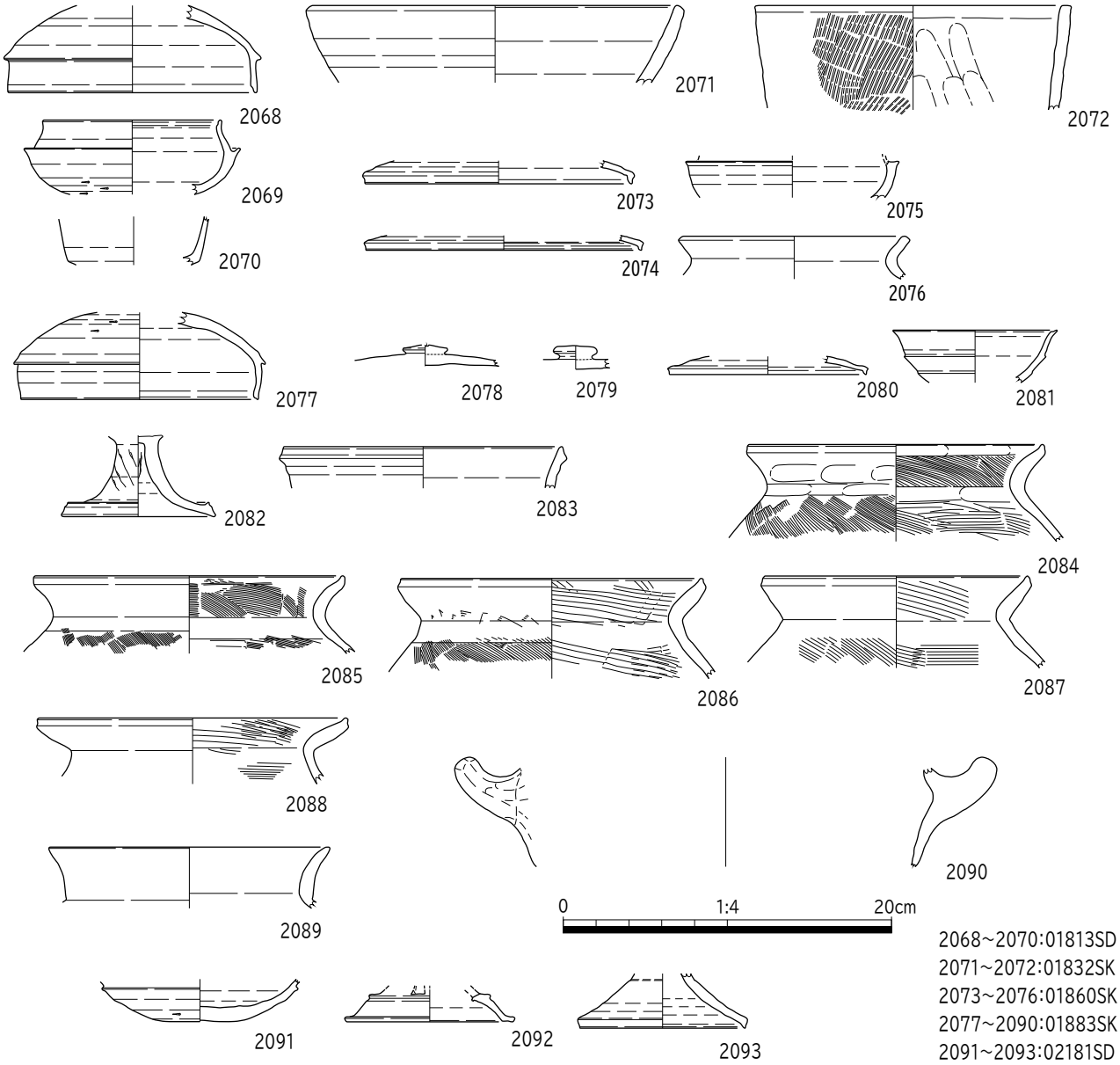


図 269　01813SD・01832SK・01860SK・01883SK・02181SD 出土遺物実測図

第 3 節　古墳時代後期～古代の旧河道跡と出土遺物

(1) 概要

本節では、古墳時代後期～古代における旧河道（跡）の状況とその出土遺物について提示する。旧河道とその堆積状況については第 3 章 第 1 節で述べたように、発掘調査範囲のほぼ全域で確認できるほど広範囲に及んでおり、言い換えると変動を繰り返す旧河道堆積の上に遺跡が立地していることになる。しかし以下に示す旧河道跡は遺構としての位置づけであり、すなわち人間の活動との密接な関連を前提としている。

そこで、遺構としての旧河道の捉え方を整理しておく。旧河道は現河道ではない埋没した過去の河道のことであるが、その変遷を段階で区分する。第 1 段階は周囲に人間活動がない段階であり、河道の状況を問わず遺構はもちろん堆積層中からの出土遺物がない状態を指す。第 2 段階は、河道として水が流れている状態（砂の堆積と削剥が繰り返す状態）で周囲に人間の活動があるもの（堆積層から遺物が出土）、第 3 段階は河道として水が流れる機能が低下し、湿地化した状態（シルトや粘土が堆積）で周囲に人間の活動があるもの（堆積層から遺物が出土）である。このうち遺構として旧河道跡と認識するのは第 2・3 段階である。そして第 2・3 段階には、それぞれ河道に対して人間の関与（築堤・改修・水制・築・廃棄など）が（遺構として）ある状態（A）とない状態（B）がある。

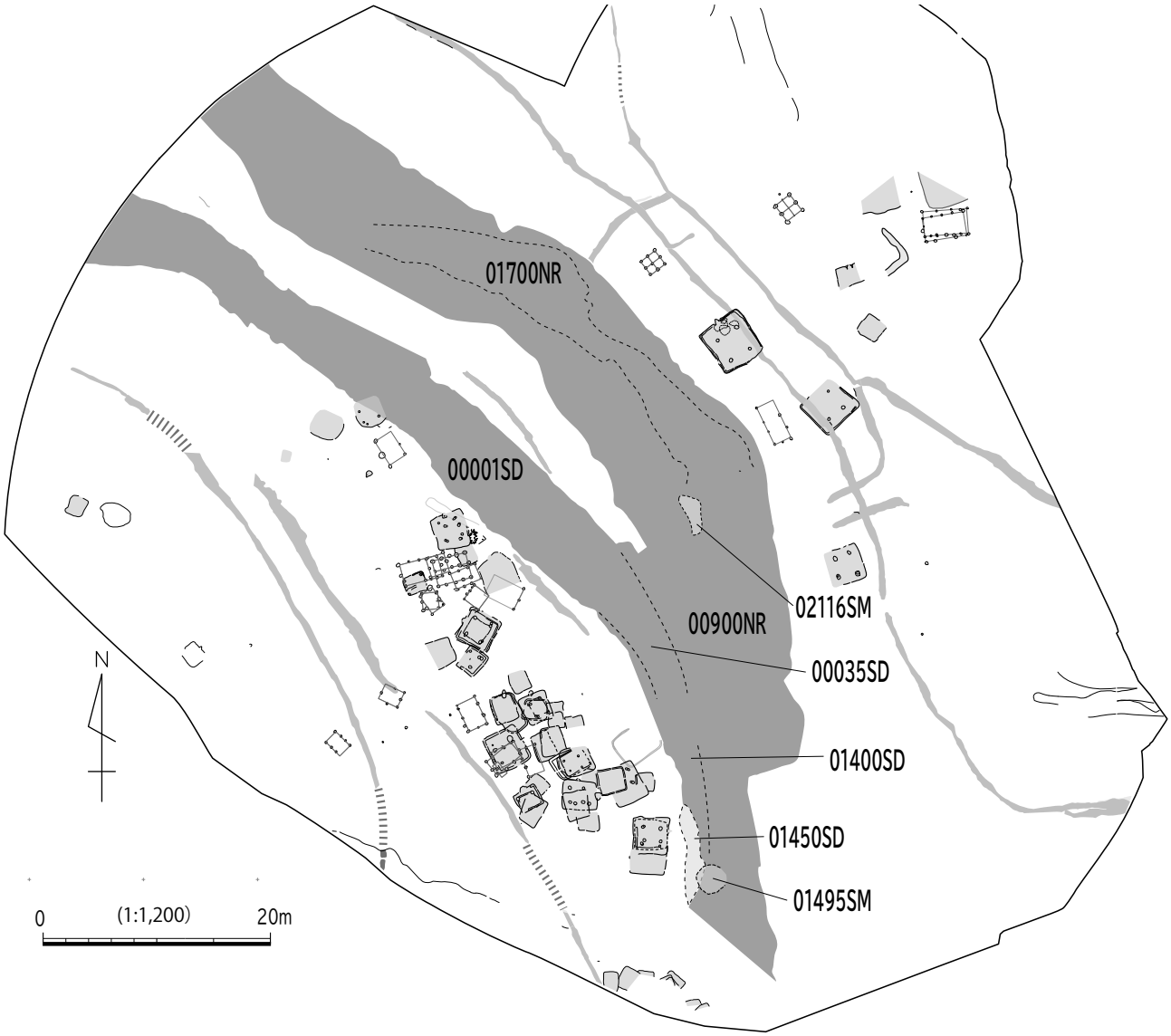


図 270　旧河道跡 00900NR と関連遺構の分布図

以上の段階を名城公園遺跡の旧河道の堆積に当てはめると、第 1・2 段階が存在することになる。本発掘調査では、第 2 段階に該当する部分を遺構（旧河道跡 00900NR）と認識する。00900NR は調査範囲内ではその南端（21Ba 区）から北西端（22B 区）に向かって弧線状に約 111m 延びる。その幅や深さは一定ではないが、幅約 25m、最深部の深さ約 2.9m である。もちろんこれは周囲に人間の活動（特に古墳時代後期～古代の集落）が存在した時点での規模であり、それ以前の第 1 段階旧河道の規模はさらにこの倍近くであったと想像される。

00900NR には人間が関与した痕跡として、改修または運河の開削と考えられる大溝状遺構 00035SD（本章第 2 節の (1) で提示）・1400SD・01450SD と、貝殻など食生活の残滓の廃棄層 01495SM・02116SM が含まれる。一方、人間の関与がない河道変動の痕跡 01700NR もある。これに大溝 00001SD（本章第 2 節の (1) で提示）を加えた旧河道に関わる遺構群の総面積は約 5,400 ㎡に及び、調査範囲の総面積 27,000 ㎡の約 20％に達する。仮にこの範囲全体を平均約 2m の深さで掘削すれば土量は約 10,000 ㎥を超えることになる。

（2）大溝状遺構

本発掘調査では、第 1 章第 3 節で述べたように掘削土量の多い旧河道跡については重機を使った掘り下げを行った。したがって、旧河道跡 00900NR の堆積層中に形成された遺構については土層断面で確認されるのみで、平面的な規模については部分的な把握しかできていない。例えば先述した旧河道内の大溝 00035SD は調査範囲南端まで続いている可能性はあるが、00900NR の堆積層に対して行われた掘り込みへの再堆積と土器の廃棄から規模を推定するしかない。同様に T21 では 00035SD の下層に位置する 01450SD の存在を確認した際に 00035SD の掘り方形状の一部を見出しており、幅約 2m 以上、深さ約 1.5m 以上の規模と推定されるが、旧河道右岸側の上端については検出できておらず不明である（図 272）。

01450SD　これは 01450SD についても同じで、00900NR の緩やかな傾斜の堆積に対して、より勾配のついた掘り方に炭化物などが多く混じるシルトが流れ込んでいる（図 271、土層断面 Ba-Ba’ の 1 ～ 3 層）。00900NR の堆積段階においてもブロック状のシルトの流れ込みがあるので、すでに人間活動が間近にあったことが明らかではあるが、より多くの廃棄がなされるようになった点で、01450SD の開削は画期となる。そして 01450SD は場所によっては 00900NR だけでなく基盤層（ただし旧河道堆積由来）を掘り込んでいる（図 271・272）。土層断面によれば、76・78 層のようなラミナ堆積の段階とその間にブロック状のシルト堆積（77 層）やその下層（79・80 層）でシルト堆積がある。一方で、上層には焼土・炭化物を多く含む層（75 層）が交互にみられる点が特徴である。すなわち掘り方の直上にラミナ状の堆積がないことから、01450SD の開削が必ずしも水流をともなうものではなかったと推測される。炭化物や土器を含む一定の廃棄物の流れ込みがなされた後に水流が発生しているが、それは一時的なものでしかない。

01450SD からは多量の土器が出土している（図 274 ～ 279）。須恵器は各器種がある。杯蓋（図 274-2094 ～ 2108）は、口径 10 ～ 11cm のものが主体で、2102・2107 が 12cm を超える（いずれも推定値）。2094 ～ 2099 のように稜線を残すものもあるが端部に段がみられないことから、H-44 号窯式期を中心とする 6 世紀末～ 7 世紀初頭の時期である。これに対して稜線が不明瞭になる 2100 ～ 2107 は、H-15 号窯式期で 7 世紀前葉と考えられる。また杯身（2109 ～ 2139）は、2111 が口径 13.0cm と推定される以外はいずれも口径 9 ～ 10cm で概ね杯蓋とのセット関係にあると考えられる。ただし 2136 ～ 2139 のように小型化が進み、口縁部の形状も矮小化がみられるものは I-101 号窯式期まで下るであろう。杯蓋に比べて杯身の点数の方が（実測可能な状態に限られるが）多い点も留意すると、この段階には蓋と身のセット関係が密接ではなくなり、杯身のみでの使用になっていたと考えられる。

高杯（2140 ～ 2183）は有蓋のもの（2140 ～ 2144）が 6 世紀代で、無蓋のもの(2145 ～ 2146)が 7 世紀代である。杯部がやや大型のものは 2154・2156 くらいで突出して大型のものはない。それらの脚部に着目すると、2173・2174 のような 2 段透かしが古相のもので 7 世紀前半までの時期であろう。供膳具では有台杯（2184）が 1 点あり、I-17 号窯式期で 01450SD の須恵器群の中では一番時期が新しい。

2186・2187 は鼈、2188 ～ 2195 は広口壺。2196 ～ 2198 は長頸瓶で I-101 号窯式期以前である。甕（2201 ～ 2209）は比較的少ない印象があり、特に大甕は 2201・

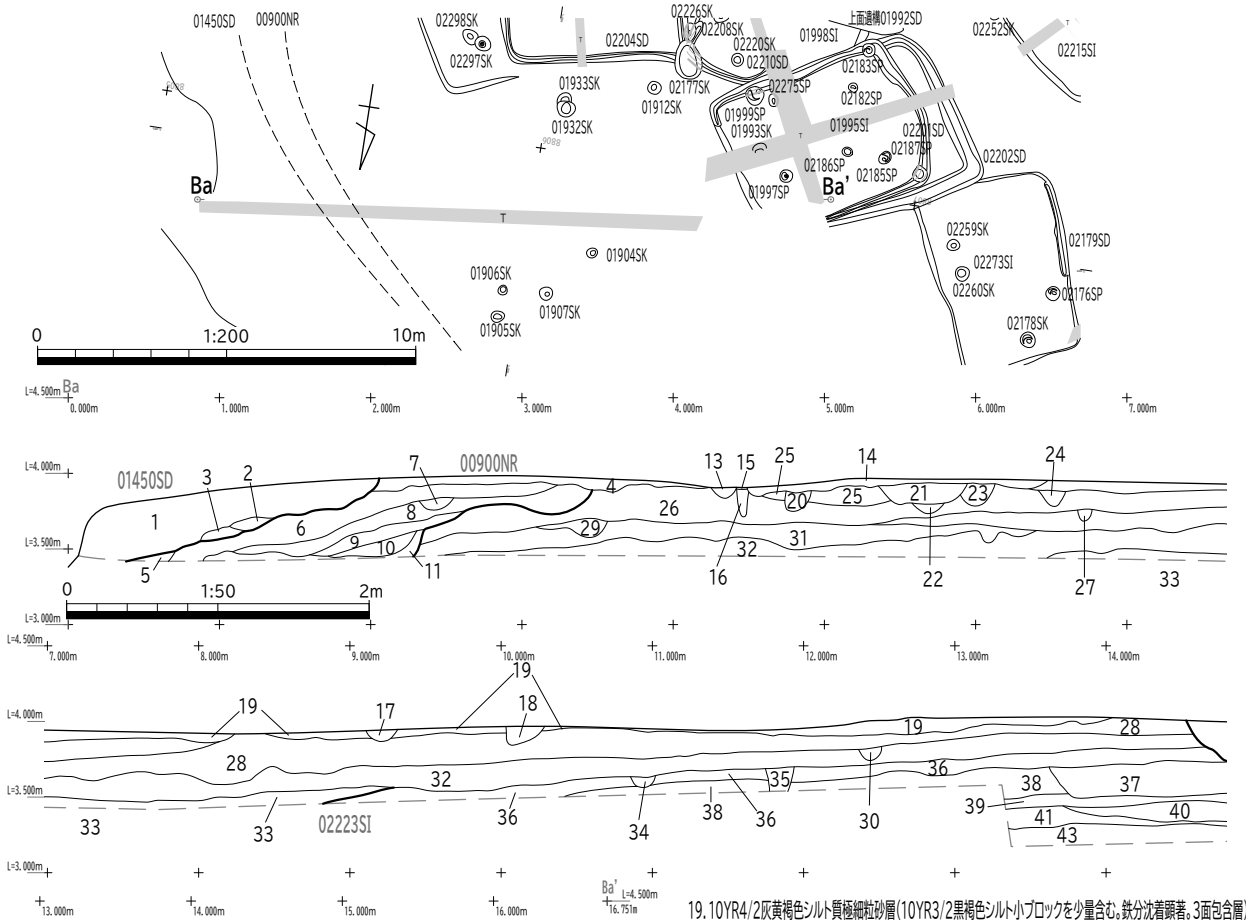


図 271　21Ba 区東西トレンチ（00900NR・01450SD）土層断面図

1. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(2.5Y5/1黄灰色細粒砂ブロックを含む。炭化物を極少量含む。01450SD)
2. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(01450SD)
3. 10YR4/1褐灰色シルト質極細粒砂層(10YR3/2黒褐色シルト大ブロックを多く含む。01450SD)
4. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(鉄分沈着。3面包含層)
5. 10YR4/1褐灰色シルト質極細粒砂層(10YR7/1灰白色細粒砂小ブロックを含む。00900NR)
6. 10YR4/1褐灰色シルト質極細粒砂層(10YR3/2黒褐色シルト小ブロックを非常に多く含む。鉄分沈着顕著。00900NR)
7. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(00900NR)
8. 10YR4/1褐灰色シルト質極細粒砂層(10YR3/2黒褐色シルト小ブロックを非常に多く含む。鉄分沈着少量。00900NR)
9. 10YR4/1褐灰色シルト質極細粒砂層(10YR3/2黒褐色シルト小ブロックを含む。00900NR)
10. 10YR4/1褐灰色シルト質極細粒砂層(10YR3/2黒褐色シルト小ブロックを少量含む。鉄分少量沈着。00900NR)
11. 10YR4/1褐灰色シルト質極細粒砂層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂ブロックを含む。00900NR)
12. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂大ブロックを含む。炭化物を含む。01995SI)
13. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/1褐灰色極細粒砂小ブロックを少量含む。鉄分沈着顕著)
14. 10YR4/1褐灰色シルト質極細粒砂層(10YR3/2黒褐色シルト小ブロックを少量含む。鉄分沈着顕著。3面包含層)
15. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/1褐灰色極細粒砂小ブロックを少量含む。鉄分少量沈着)
16. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/1褐灰色極細粒砂小ブロックを多く含む。炭化物を極少量含む)
17. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを少量含む。鉄分沈着)
18. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂ブロックを含む。鉄分少量沈着)
19. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層(10YR3/2黒褐色シルト小ブロックを少量含む。鉄分沈着顕著。3面包含層)
20. 10YR4/1褐灰色シルト質極細粒砂層(10YR3/2黒褐色シルト小ブロックを多く含む)
21. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂大ブロックを多く含む。鉄分少量沈着)
22. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層(10YR3/2黒褐色シルト小ブロックを少量含む)
23. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層(10YR4/1褐灰色極細粒砂小ブロックを含む)
24. 10YR4/1褐灰色シルト質極細粒砂層(10YR3/2黒褐色シルト小ブロックを少量含む)
25. 10YR4/1褐灰色シルト質極細粒砂層(10YR3/2黒褐色シルトブロックを含む。炭化物を極少量含む)
26. 10YR4/1褐灰色極細粒砂質シルト層(鉄分沈着。3面地山)
27. 10YR4/1褐灰色極細粒砂質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを少量含む)
28. 10YR4/1褐灰色極細粒砂質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを少量含む。鉄分少量沈着。3面地山)
29. 10YR4/1褐灰色極細粒砂質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを含む)
30. 10YR4/1褐灰色極細粒砂質シルト層(10YR3/2黒褐色シルト小ブロックを少量含む)
31. 10YR4/2灰黄褐色極細粒砂質シルト層(10YR4/1褐灰色極細粒砂ブロックを含む。4面包含層)
32. 10YR4/1褐灰色極細粒砂質シルト層(10YR4/1灰黄褐色極細粒砂小ブロックを少量含む。鉄分少量沈着。4面包含層)
33. 10YR3/3暗褐色粘土質シルト層(10YR4/3にぶい黄褐色シルト小ブロックを含む。炭化物を極少量含む。02223SI)
34. 10YR4/1褐灰色極細粒砂質シルト層(10YR4/2灰黄褐色シルト小ブロックを少量含む)
35. 10YR4/1褐灰色極細粒砂質シルト層(10YR4/2灰黄褐色シルト小ブロックを含む。炭化物を極少量含む)
36. 10YR3/3暗褐色粘土質シルト層(4面地山)
37. 10YR4/1褐灰色極細粒砂質シルト層(10YR3/3暗褐色シルトブロックを多く含む。炭化物を極少量含む)
38. 10YR4/1褐灰色極細粒砂質シルト層(鉄分沈着。包含層か)
39. 2.5Y4/1黄灰色粘土質シルト層(10YR3/3暗褐色シルトブロックを少量含む。包含層か)
40. 2.5Y4/1黄灰色粘土質シルト層(10YR3/3暗褐色シルトブロックを含む。炭化物を少量含む。包含層か)
41. 10YR4/2灰黄褐色粘土質シルト層(炭化物を極少量含む。鉄分少量沈着。包含層か)
42. 2.5Y4/1黄灰色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色シルトブロックを含む。炭化物を少量含む。包含層か)
43. 2.5Y4/1黄灰色粘土質シルト層(鉄分沈着顕著。包含層か)

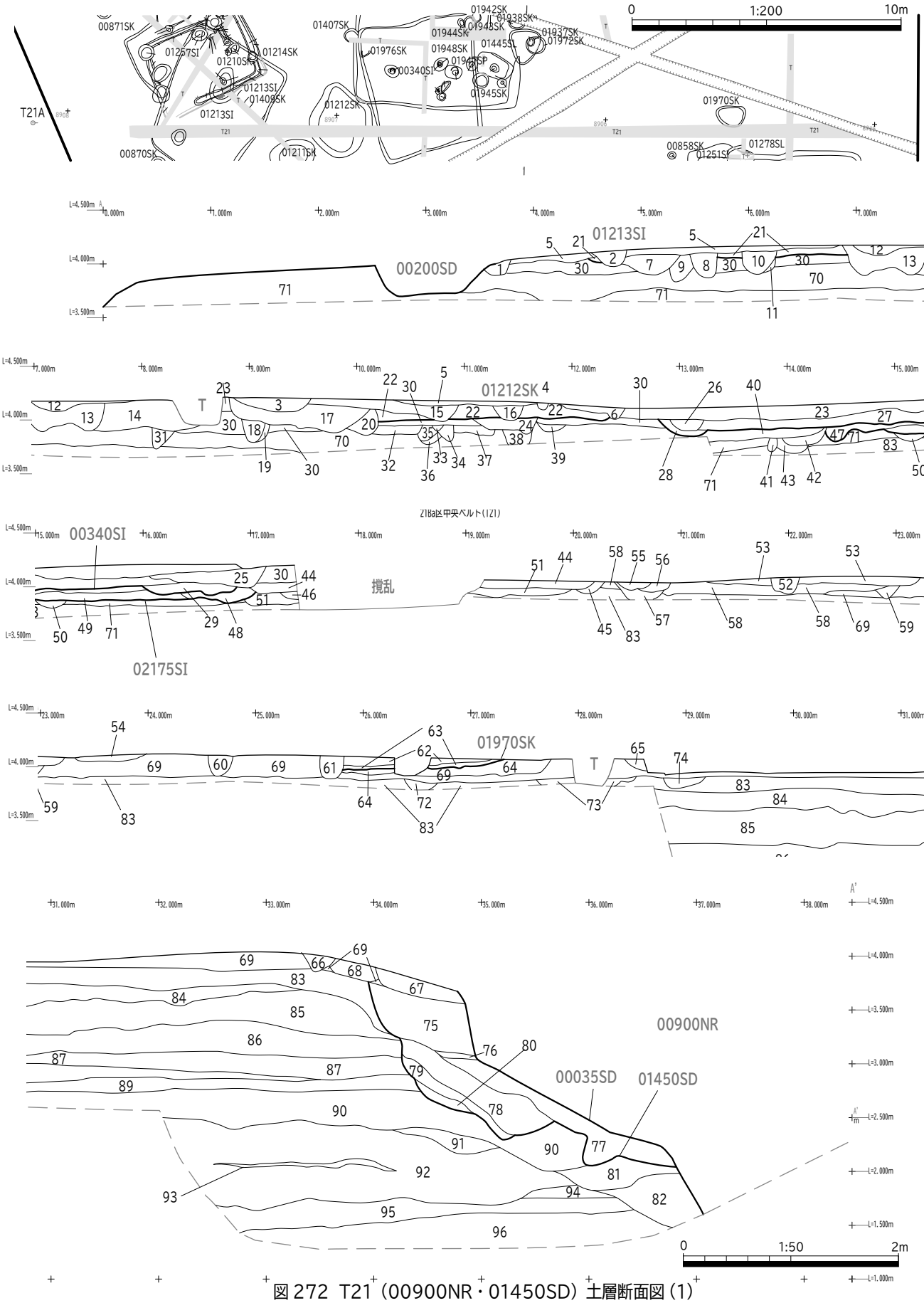


図 272 T21（00900NR・01450SD）土層断面図 (1)

1. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層
2. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層
3. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂ブロックを含む。鉄分沈着)
4. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(焼土を極少量含む)
5. 10YR2/2黒褐色粘土質シルト層(10YR7/1灰白色細粒砂ブロックを含む。炭化物を極少量含む。鉄分沈着。2面包含層か)
6. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを多く含む。炭化物を少量含む。焼土を極少量含む)
7. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂ブロックを多く含む。鉄分少量沈着)
8. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂ブロックを含む)
9. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層(10YR3/2黒褐色シルトブロックを含む)
10. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(炭化物を極少量含む。焼土を少量含む)
11. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層(10YR3/2黒褐色シルト小ブロックを少量含む)
12. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR7/1灰白色細粒砂小ブロックを少量含む。炭化物を極少量含む。土坑か)
13. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを少量含む。土坑か)
14. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂ブロックを含む。土坑か)
15. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂ブロックを非常に多く含む。炭化物を含む)
16. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂ブロックを多く含む。炭化物を少量含む。鉄分少量沈着)
17. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを少量含む。炭化物を含む。土坑か)
18. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層(10YR3/2黒褐色シルトブロックを少量含む)
19. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層(10YR3/2黒褐色シルト小ブロックを少量含む)
20. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂ブロックを含む。炭化物を極少量含む)
21. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを少量含む。炭化物を極少量含む。01213SI)
22. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂ブロックを含む。
炭化物を含む。焼土を極少量含む。鉄分少量沈着。01212SK)
23. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを多く含む。炭化物を多く含む。鉄分沈着。2面包含層か)
24. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(炭化物を多く含む。焼土を多量含む)
25. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR7/1灰白色細粒砂小ブロックを少量含み、
10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを少量含む。炭化物を少量含む。焼土を極少量含む。鉄分沈着)
26. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂大ブロックを少量含む。炭化物を極少量含む。00340SI壁溝か)
27. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを含む。炭化物を少量含む。00340SI)
28. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂ブロックを多く含む。炭化物を少量含む。鉄分少量沈着。00340SI壁溝か)
29. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを少量含む。炭化物を少量含む。00340SI掘方か)
30. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを少量含み、
10YR7/1灰白色細粒砂小ブロックを少量含む。炭化物を極少量含む。鉄分沈着顕著。2面基盤層)
31. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを少量含む)
32. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層(10YR3/2黒褐色シルト小ブロックを少量含む。
炭化物を少量含む。鉄分少量沈着。竪穴建物か)
33. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂ブロックを少量含む)
34. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂ブロックを含む)
35. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層(10YR3/2黒褐色シルトブロックを多く含む)
36. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層(10YR3/2黒褐色シルト大ブロックを多く含む)
37. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂ブロックを含む。炭化物を少量含む)
38. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂ブロックを含む)
39. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを含む)
40. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを少量含む。炭化物を少量含む)
41. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(炭化物を極少量含む)
42. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層(10YR3/2黒褐色シルト大ブロックを少量含む。焼土を極少量含む)
43. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層(10YR3/2黒褐色シルトブロックを含む)
44. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを少量含む。炭化物を極少量含む。鉄分少量沈着)
45. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを少量含む)
46. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層
47. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを多く含む。炭化物を極少量含む。02175SI)
49. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層(10YR3/2黒褐色シルトブロックを含む。炭化物を少量含む。02175SI掘方か)
50. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層(10YR3/2黒褐色シルト小ブロックを少量含む)
51. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(炭化物を極少量含む。鉄分沈着)
52. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを少量含む)
53. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを少量含み、
10YR7/1灰白色細粒砂小ブロックを少量含む。2面包含層か)
54. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを少量含み、
10YR7/1灰白色細粒砂小ブロックを少量含む。2面包含層か)
55. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層
56. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂ブロックを多く含む)
57. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層(10YR3/2黒褐色シルトブロックを含む)
58. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂ブロックを非常に多く含む。鉄分沈着。2面基盤層)
59. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを少量含む)
60. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを少量含む)
61. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを少量含む)
62. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを含む。炭化物を極少量含む。
焼土を極少量含む。鉄分少量沈着。01970SK)
63. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(炭化物・灰を多く含む。焼土を極少量含む。01970SK)
64. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを少量含む。炭化物を極少量含む)
65. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層
66. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層
67. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層
68. 10YR3/1黒褐色粘土質シルト層
69. 10YR4/2灰黄褐色粘土質シルト層(鉄分沈着。2面基盤層)
70. 10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂層(鉄分少量沈着。3面包含層か)
71. 10YR4/1褐灰色シルト質極細粒砂層(鉄分沈着。3面基盤層)
72. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを含む。鉄分少量沈着。土坑か)
73. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(10YR4/2灰黄褐色極細粒砂小ブロックを少量含む。炭化物を極少量含む。鉄分少量沈着。土坑か)
74. 10YR4/2灰黄褐色極細粒砂質シルト層
75. 10YR3/2黒褐色極細粒砂質シルト層(炭化物を多く含む。焼土を含む。01450SD)
76. 10YR3/2黒褐色極細粒砂質シルトと10YR5/3にぶい黄褐色中粒砂のラミナ層(01450SD)
77. 10YR5/3にぶい黄褐色細粒砂質中粒砂層(2.5Y4/1黄灰色シルト大ブロックを含む。01450SD)
78. 2.5Y4/1黄灰色極細粒砂質シルトと10YR7/6明黄褐色中粒砂質細粒砂のラミナ層(01450SD)
79. 10YR3/1黒褐色粘土質シルト層(01450SD)
80. 2.5Y4/2暗灰黄色粘土質シルト層(01450SD)
81. 10YR4/1褐灰色極細粒砂質シルト層(10YR7/4にぶい黄橙色中～粗粒砂ブロックを含む)
82. 10YR4/2灰黄褐色極細粒砂質シルトと10YR7/4にぶい黄橙色中粒砂～細礫のラミナ層
83. 10YR5/2灰黄褐色粘土質シルト層(3面基盤層)
84. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層(地山)
85. 10YR4/2灰黄褐色粘土質シルト層(地山)
86. 10YR3/1黒褐色粘土質シルト層(地山)
87. 2.5Y4/2暗灰黄色粘土質シルト層(地山)
88. 10YR5/3にぶい黄褐色粘土質シルト層(地山)
89. 10YR4/3にぶい黄褐色極細粒砂質シルト層(地山)
90. 2.5Y3/2黒褐色粘土質シルト層(地山)
91. 2.5Y5/2暗灰黄色極細粒砂質シルト層
92. 10YR5/1褐灰色粘土質シルト層(部分的にグライ化のため5BG6/1青灰色。93層より下位は中粒砂質細粒砂が主体。鉄分沈着。地山)
93. 5Y5/1灰色極細粒砂質細粒砂層(5YR7/3にぶい橙色火山灰ブロックを含む)
94. 7.5YR5/1褐灰色粘土質シルト層(地山)
95. 2.5Y2/1黒色シルト質粘土層(上位に2.5Y4/1黄灰色細粒砂質シルト含む。地山)
96. 2.5Y4/1黄灰色シルト質粘土層(2.5Y2/1黒色粘土大ブロック非常に多く含む。地山)

図 273 T21（00900NR・01450SD）土層断面図（2、土層解説）

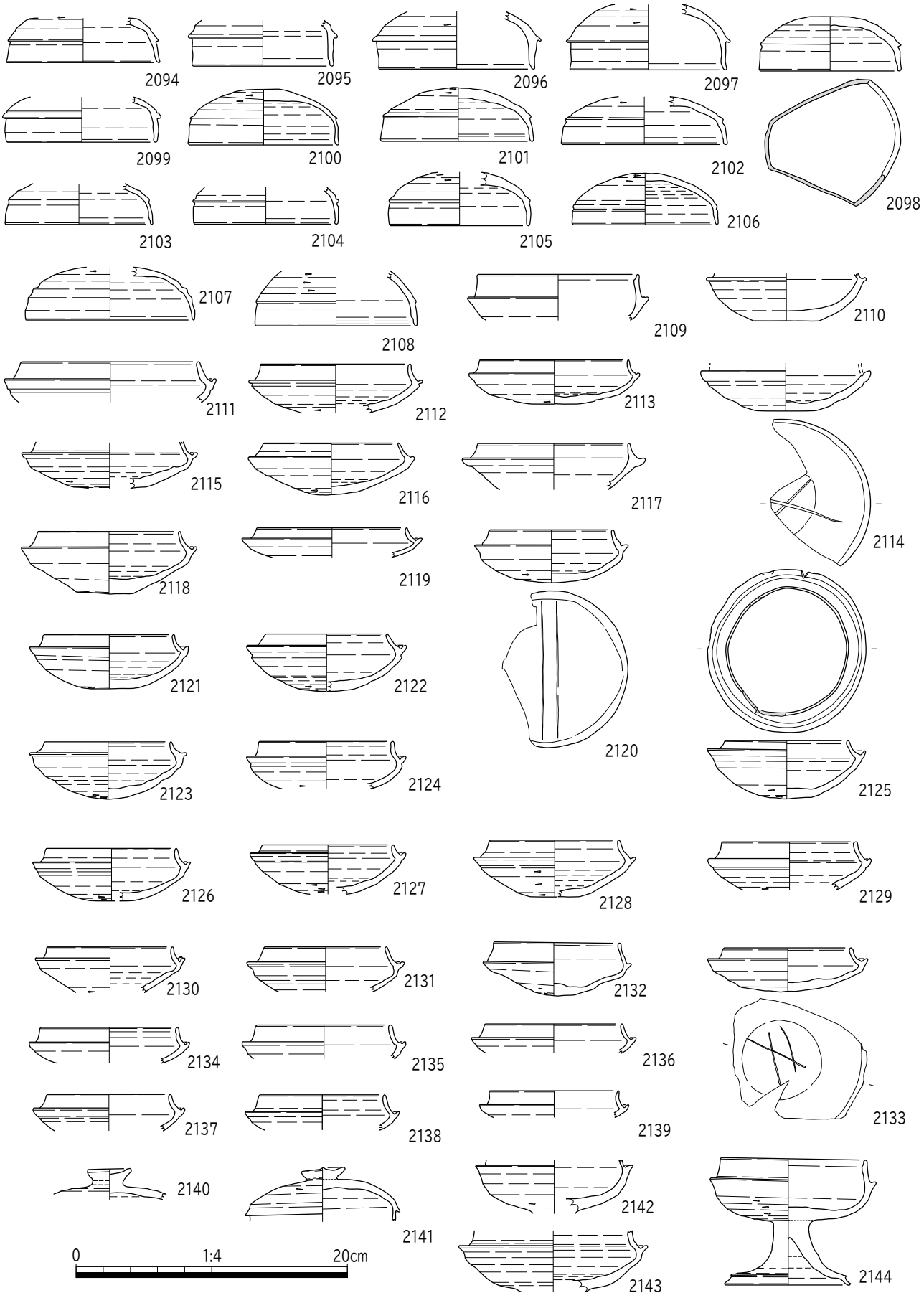


図 274 01450SD 出土遺物実測図 (1)

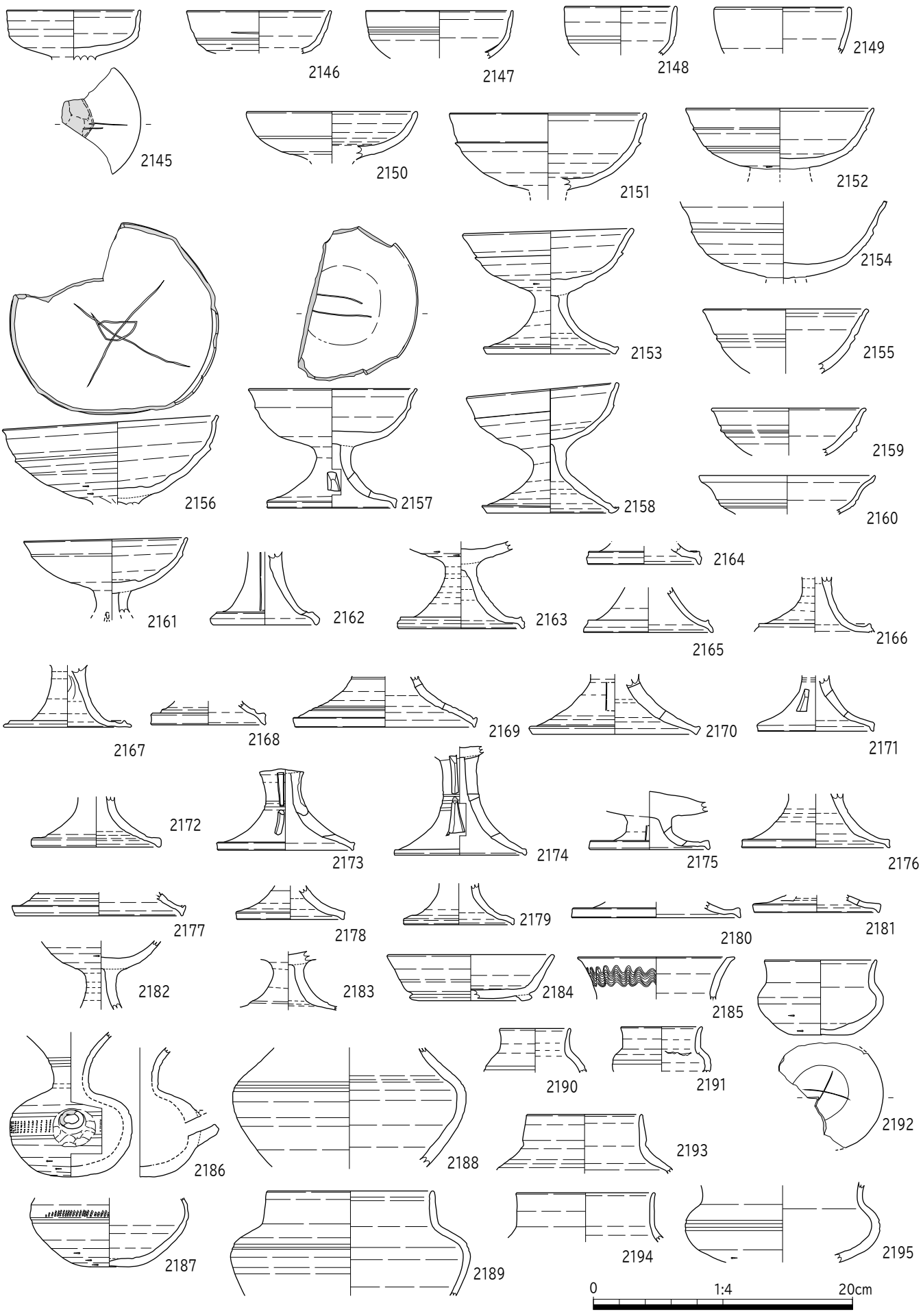


図 275 01450SD 出土遺物実測図 (2)

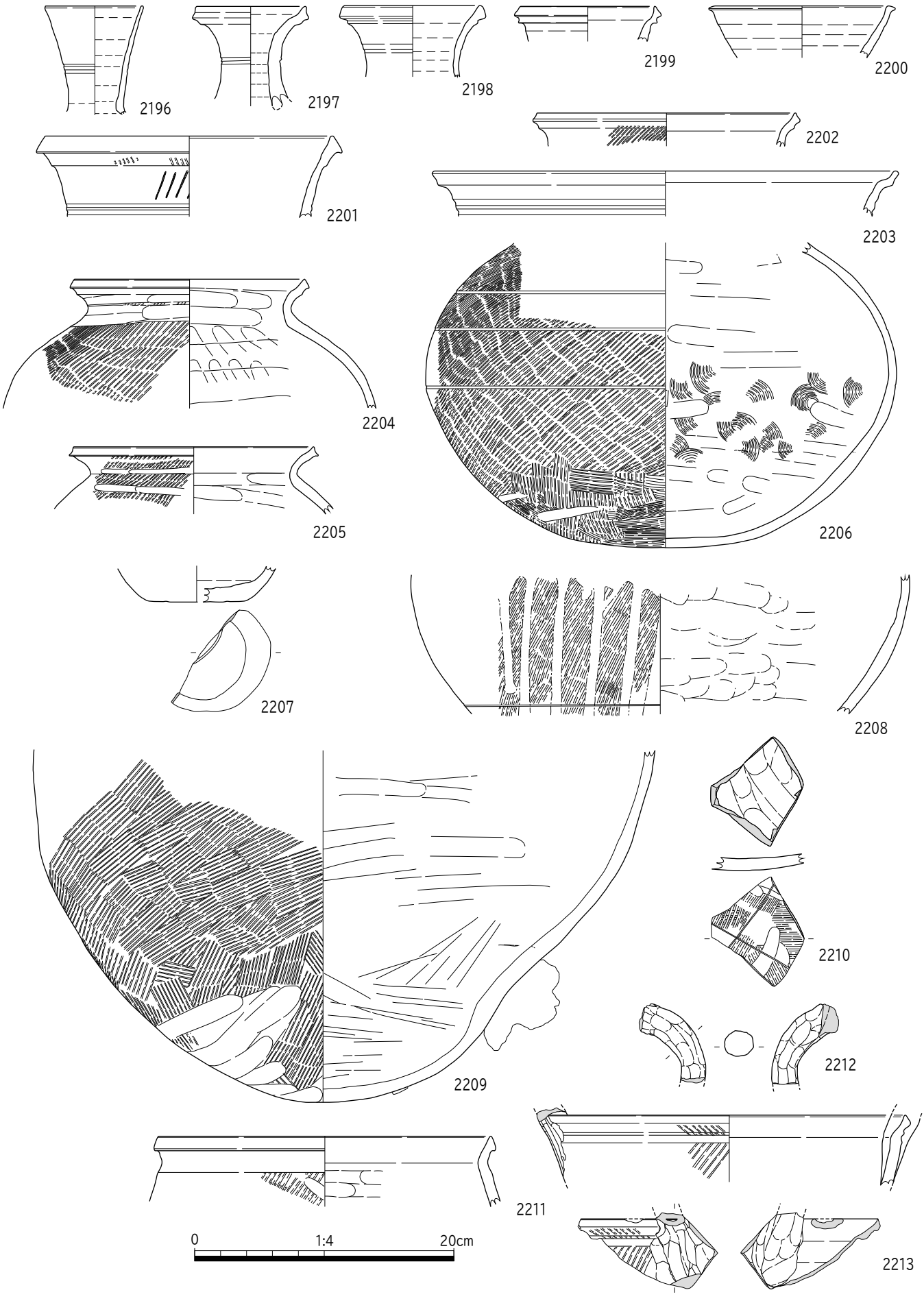


図 276 01450SD 出土遺物実測図 (3)

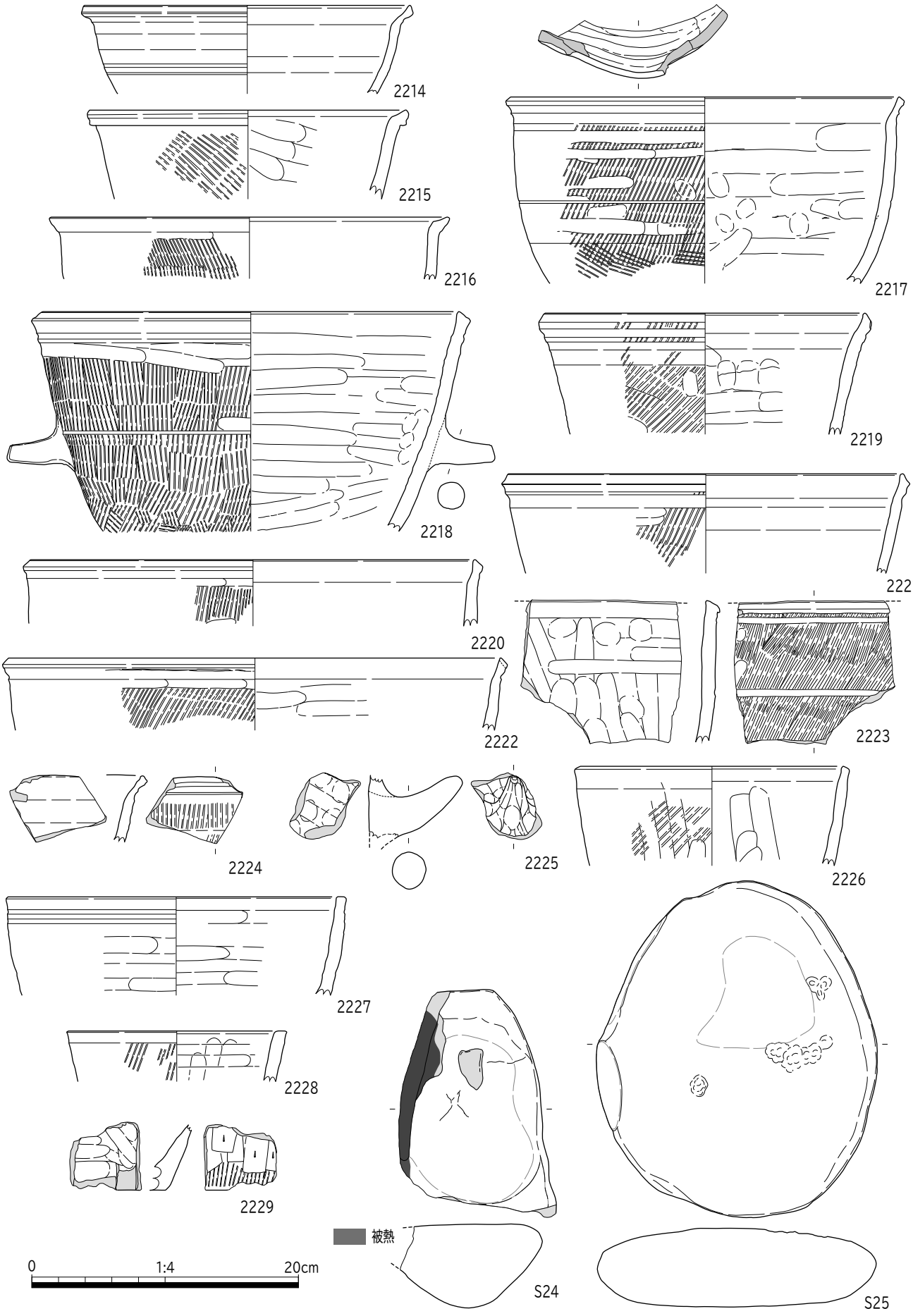


図 277 01450SD 出土遺物実測図 (4)

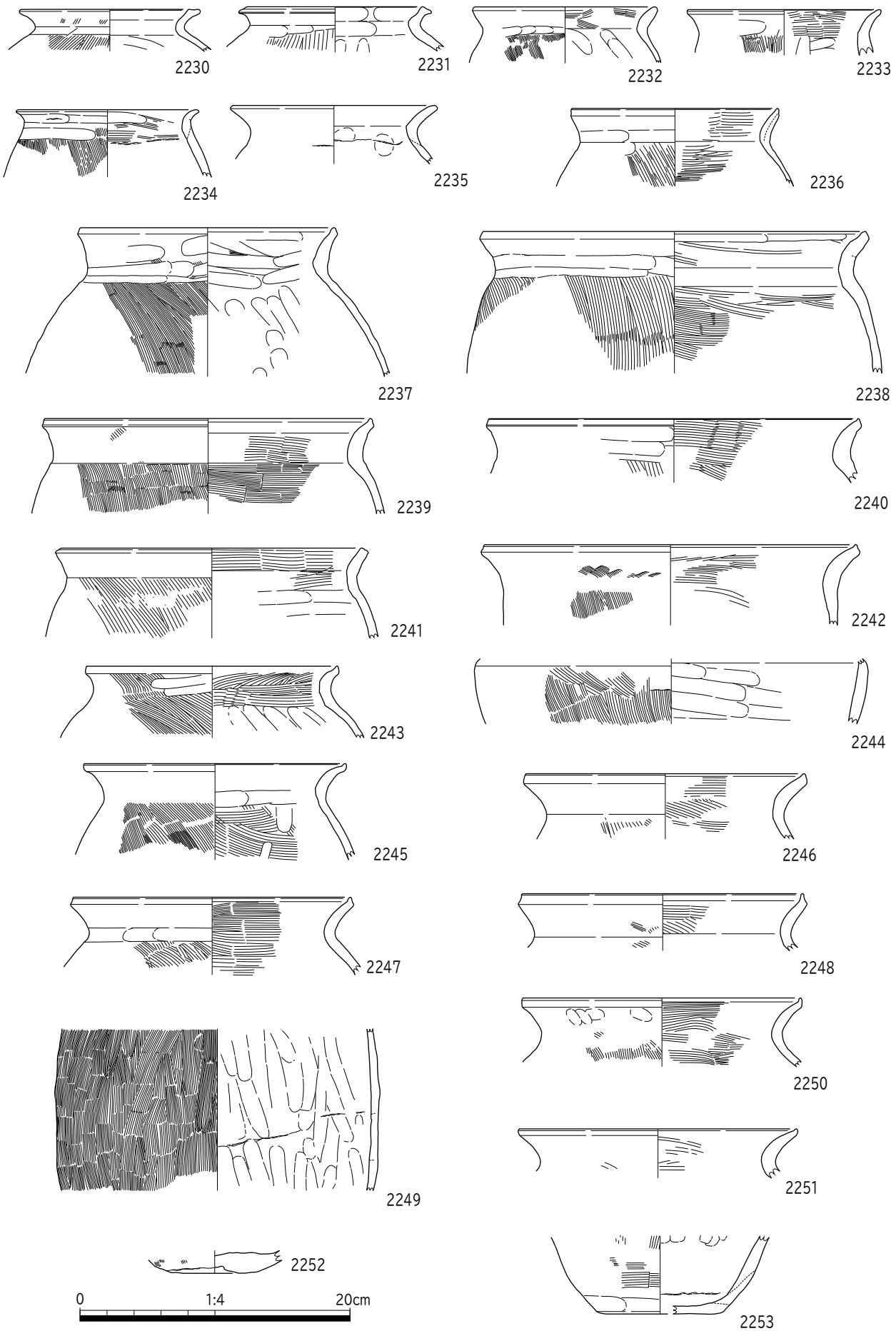


図 278　01450SD 出土遺物実測図 (5)

2208・2209 くらいで 2209 のように焼台が貼り付いたものがあり、実用可能ではあるが良品かどうか疑わしいものもある。2212・2213 は口縁部の把手が付く鍋。それ以外の鍋（2214 ～ 2222）は 6 ～ 7 世紀、2223 ～ 2229 は甑でいずれも小片である。

土師器甕は小片が多い。6 世紀前葉以前の宇田型台付甕（2230・2231）がさらに少数であることから 01450SD の開削がそれ以降であると見通せるであろう。須恵器との共伴関係からすれば主体は 7 世紀前半で一部 6 世紀後半となろう。口縁を摘み上げる型式がほとんどで、大口径は長胴甕、小口径は小型甕と推定される。胴部の張り出しがやや下方にある 2237・2260 は 6 世紀後半。2238 は把手（2272・2274）の存在から鍋の可能性がある。同様に 2273 は土師器の甑で内外面はハケ目調整痕がある。この時期の鍋・甑は須恵器と土師器の両方があり興味深い。土師器甕の口縁部に注目すれば外反し端部が尖る型式は平底（2252・2253）のものとともに 7 世紀後半まで下る比較的新しい時期のものである。

以上に概観した遺物の時期は 7 世紀前半中心であり、01450SD の機能した時期とともにこれらを廃棄した主体（集落）の機能した時期を示している。加えて 01450SD の埋土を掘り込む 00035SD はこれより新しい時期（7 世紀後半以降）と推測され、逆に下層に位置する貝層 01495SM は 7 世紀初頭以前になる推測が可能となる。

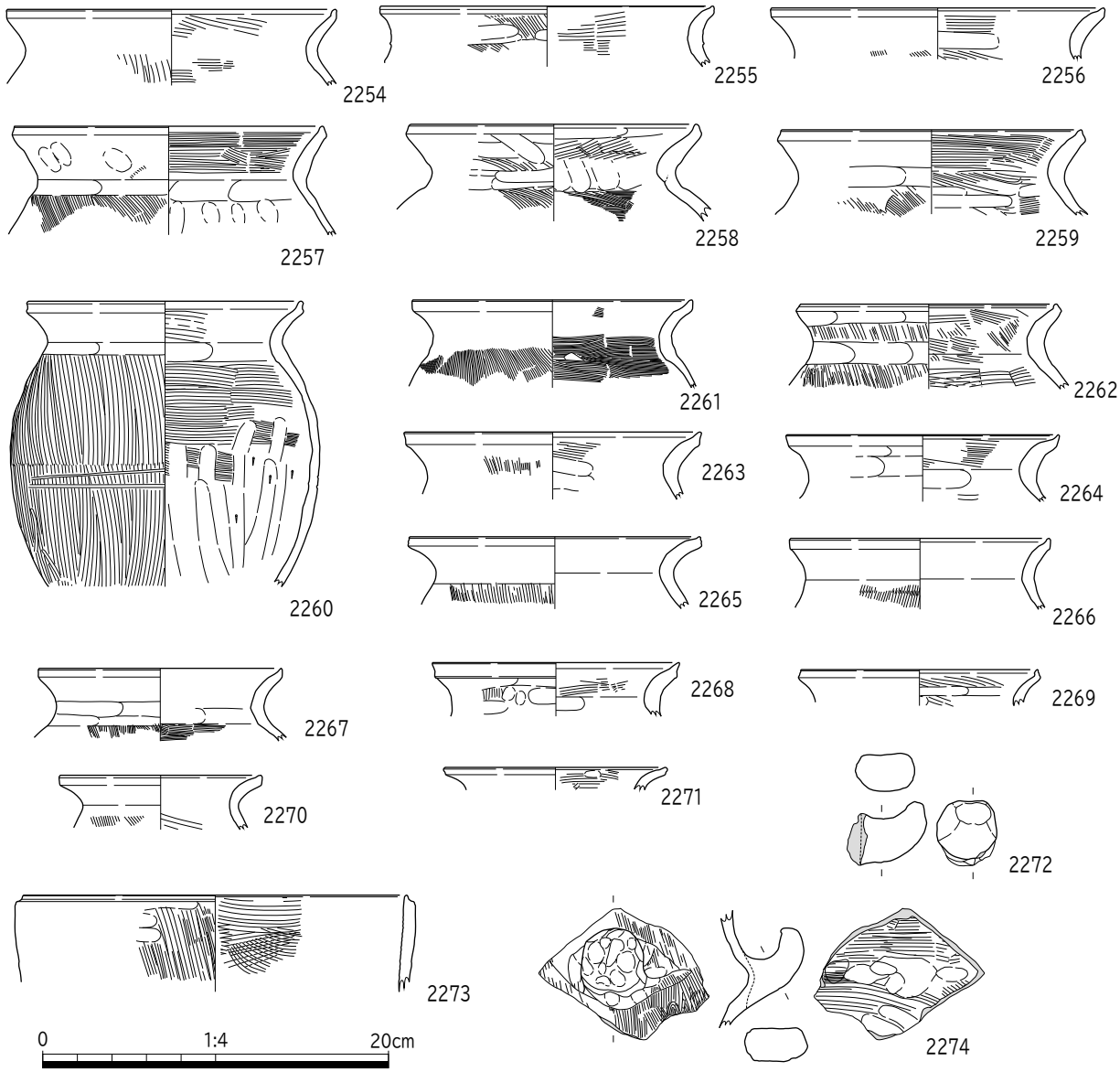


図 279 01450SD 出土遺物実測図（6）

（3）貝層

00900NR の堆積層中に 2 か所の貝層がある。互いに約 32m 離れた位置にあることから、それぞれの形成された経緯は異なるとみられる。

01495SM　調査範囲南西部（21Ba 区）、旧河道跡 00900NR の左岸に形成された土器・木製品を含む貝層である。長軸約 5.0m、短軸約 4.3m の南北に若干長い円形の遺構である（図 280）。調査で完掘した結果、擂鉢形の凹みに形成されていたことが判明したが、意図的に掘り下げた痕跡はなかった。逆に検出時は約 0.1m の盛り上がった状態で貝類の分布が確認されている（図 281、土層断面 A-A’ の 4 層）。当該遺構の上層には大溝状遺構 01450SD が掘り込まれており、その堆積の一部とみることも可能である。しかしその範囲は溝状でないことから、別遺構と認識すべきである。

土層断面（図 281）によれば、上・下層に大別できる。下層は木片が多いラミナ堆積、上層は 1 つの単位がやや細かくシルト堆積とラミナ堆積が交互にみられる。貝は上・下層ともに分布する。

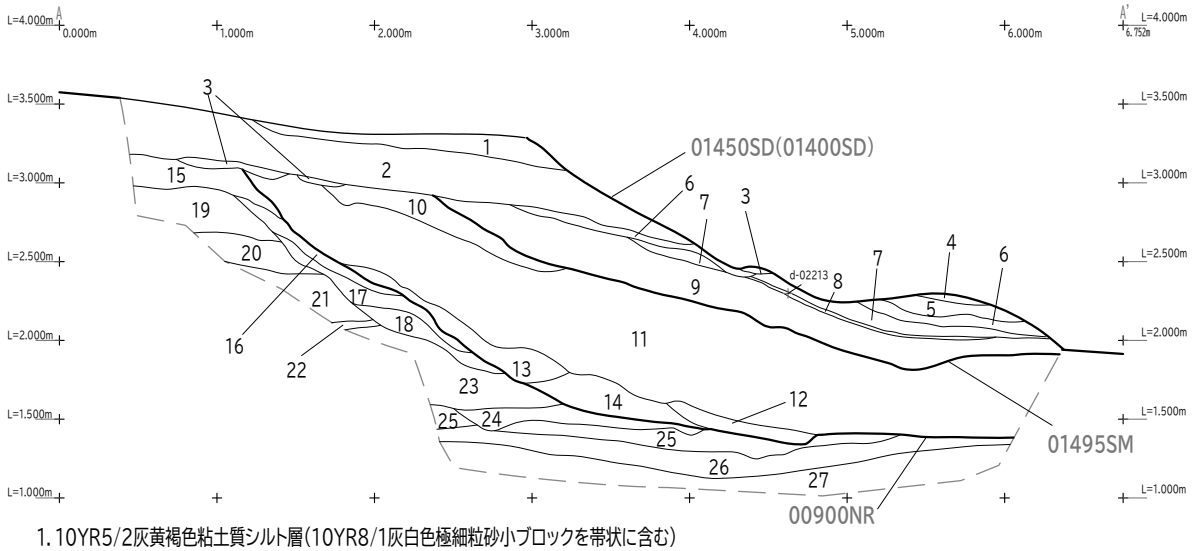
埋土はサンプリングした総量約 0.8 ㎥（約 450kg）の土壌洗別を行い、その結果得られた試料を分類し貝類などを集計した（表 4）。個体識別が可能だったのはマガキ 8 点（いずれも左）とハマグリ 4 点でフジツボも含ま



図 280　01495SM 遺構図 (1)

れる。重量で比較するとマガキが 249.2g で圧倒的に多いことも確認された。また種実は、発掘現場で採取したモモ核 17 点に土壌洗別で採取した 1 点を加えた計 18 点をはじめ、ブドウ属、サンショウ、ヤナギタデ、サクラ節、クリ、コナラ属、アメガシワ、ホタルイ属、イネ、ノブドウ、サナエタデ－オオイヌタデ、アカザ属が少量検出された。このうち湿地性のホタルイ属とヤナギタデ、乾燥地性のサナエタデ－オオイヌタデとアカザ属は周辺の植生を示すが、それ以外は食用を中心に利用可能なものである。このことから貝類とともに集落内での食生活の残滓を廃棄していたことがわかる。

出土土器は須恵器の各器種と土師器甕・鍋がある。須恵器杯蓋・杯身（2275 ～ 2295）はいずれも稜線のある器形で H-61 号窯式期～ H-44 号窯式期。高杯は無蓋のものに限られ、2306 は長脚 2 段透かしで大型に分類される。2315 は横瓶、2319 や 2320 の鍋は口縁を曲げて片口としたもの。甑はタタキ痕のあるもの（2321・2322）とハケ目調整痕のあるもの（2331）があり口縁端部の違いにも着目したい。土師質の 2334 は移動式カマドの破片。土師器甕は摘み上げ口縁と丸底が特徴である。特に 2342 はほぼ完形で、底部に焼成前線刻の「×」が大きくなされている。胴部の張りがやや下半にあることから 6 世紀



1. 10YR5/2灰黄褐色粘土質シルト層(10YR8/1灰白色極細粒砂小ブロックを帯状に含む)
2. 10YR4/1褐灰色粘土質シルト層(炭化物を少量含む。しまり強い)
3. 10YR4/1褐灰色極細粒砂質シルト層(貝を含む。01495SM上層)
4. 2.5Y5/1黄灰色細～中粒砂層(貝を非常に多く含む。01495SM上層)
5. 2.5Y5/1黄灰色極細粒砂質シルトと10YR7/4にぶい黄橙色中粒砂のラミナ層(炭化物を含む。01495SM上層)
6. 2.5Y3/1黒褐色極細粒砂質シルト層(01495SM上層)
7. 2.5Y5/1黄灰色中粒砂質細粒砂と2.5Y3/1黒褐色シルトのラミナ層(01495SM上層)
8. 10YR3/1黒褐色粘土質シルト層(炭化物が一面を覆い層を成す。腐植を含む。01495SM上層)
9. 10YR3/1黒褐色粘土質シルトと10YR5/1褐灰色砂質シルトと10YR7/4にぶい黄橙色中粒砂のラミナ層
(混貝土大ブロックを含む。遺物を多く含み、炭化物を多く含む。木質を非常に多く含む。01495SM下層)
10. 10YR6/1褐灰色極細粒砂質シルトと10YR7/4にぶい黄橙色中粒砂のラミナ層(00900NR)
11. 10YR5/1褐灰色極細粒砂質シルトと10YR7/4にぶい黄橙色中粒砂～極粗粒砂のラミナ層(小礫含む。00900NR)
12. 10YR7/6明黄褐色中粒砂～中礫層(鉄分沈着顕著。00900NR)
13. 2.5Y4/2暗灰黄色極細粒砂質シルト層(部分的に10YR7/4にぶい黄橙色中粒砂とのラミナ堆積あり。00900NR)
14. 2.5Y4/2暗灰黄色極細粒砂質シルトと10YR7/4にぶい黄橙色中～粗粒砂のラミナ層(00900NR)
15. 10YR3/2黒褐色粘土質シルト層
16. 10YR4/2灰黄褐色粘土質シルト層
17. 10YR3/1黒褐色粘土質シルト層
18. 10YR4/1褐灰色極細粒粘土質シルト層
19. 2.5Y5/2暗灰黄色極細粒砂質シルト層(火山灰ブロックを含む。鉄分沈着顕著)
20. 10YR4/1褐灰色粘土質シルト層
21. 10YR4/2灰黄褐色細粒砂質極細粒砂層
22. 2.5Y6/1黄灰色細粒砂質極細粒砂層(5YR7/3にぶい橙色火山灰ブロックを帯状に含む)
23. 2.5Y5/1黄灰色細粒砂質シルトと10YR7/4にぶい黄橙色中～粗粒砂のラミナ層
24. 10YR3/2黒褐色極細粒砂質シルト層(10YR7/6明黄褐色粗粒砂ブロックを少量含む)
25. 10YR3/2黒褐色細粒砂質シルト層(部分的に10YR7/4にぶい黄橙色中粒砂とのラミナ堆積あり。
腐植を多く含む。炭化物を少量含む)
26. 2.5Y2/1黒色粘土質シルト層(腐植を含む)
27. 2.5Y3/1黒褐色粘土層(2.5Y4/1黄灰色粘土ブロックを多く含む)

図 281 01495SM 遺構図 (2)

表 4 01495SM 出土貝類集計表
※大型植物遺体を除く

種別	個数	重さ(g)
マガキ	8	249.2
ハマグリ	4	7.3
フジツボ	－	1.1
不明	－	2.3
その他貝	－	14.4
残貝	－	72.4
種実	－	0.1
植物	－	6.1
土器/石	－	5.7
軽石	1	0.4

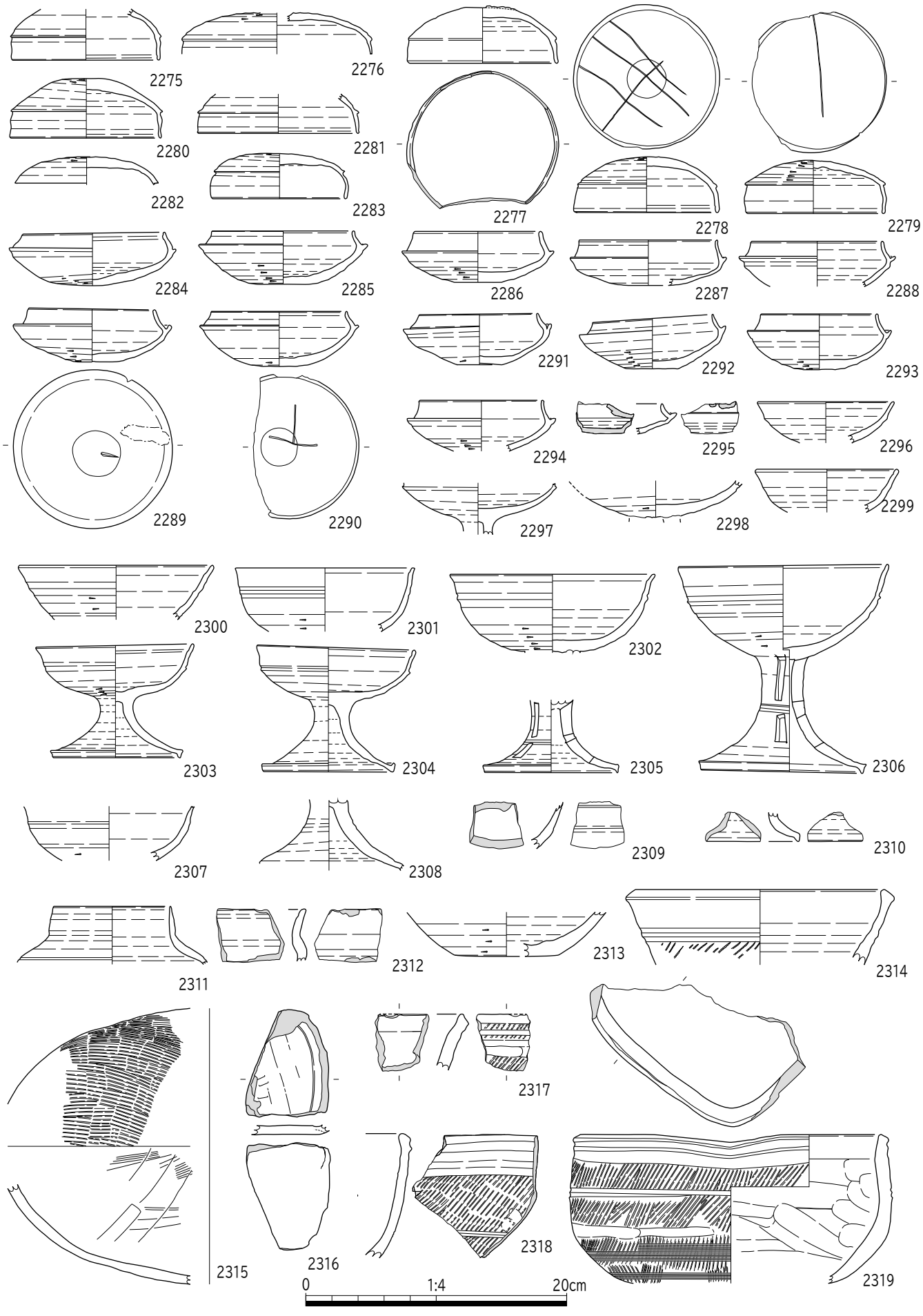


図 282 01495SM 出土遺物実測図 (1)

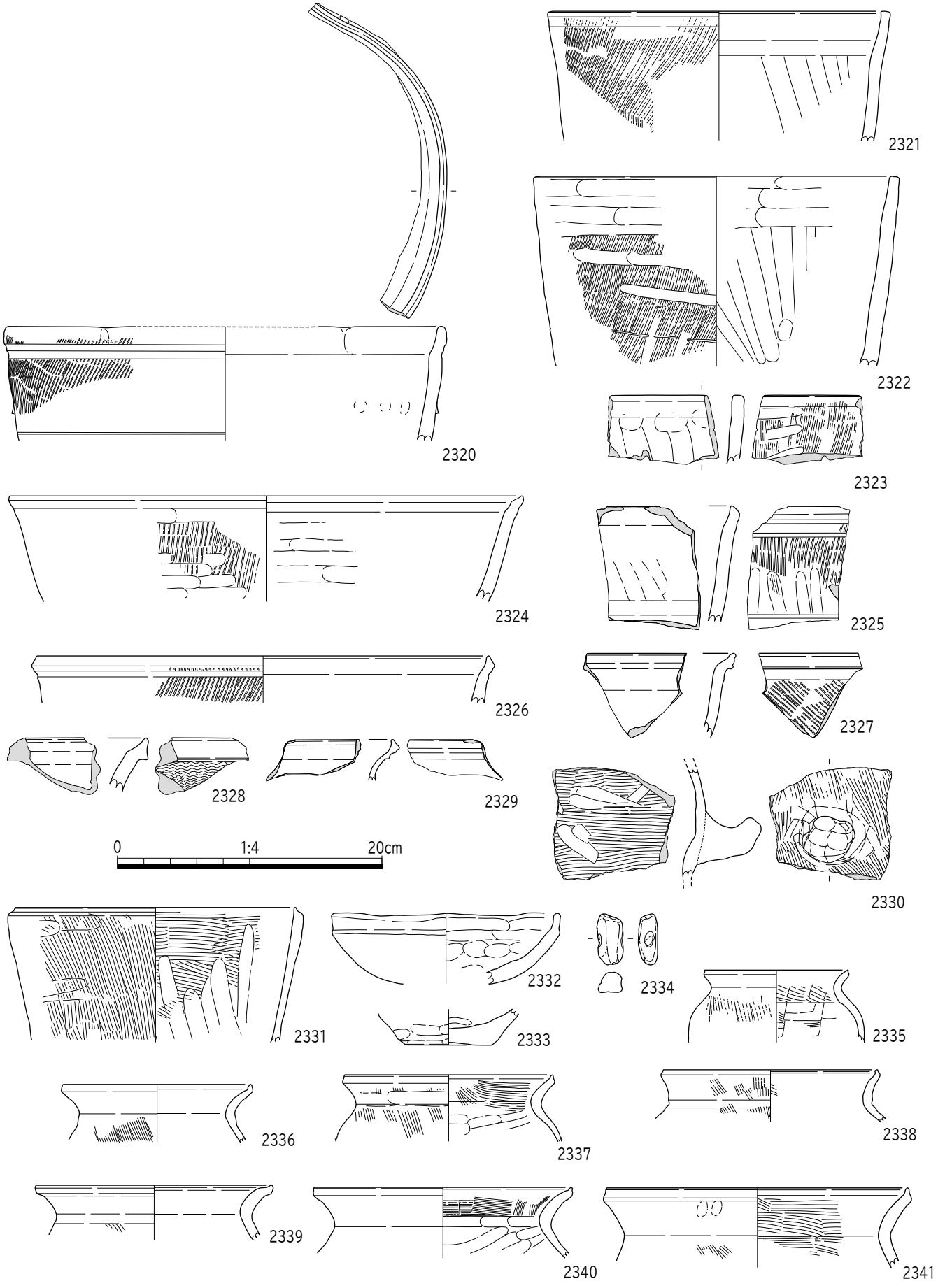


図 283 01495SM 出土遺物実測図 (2)

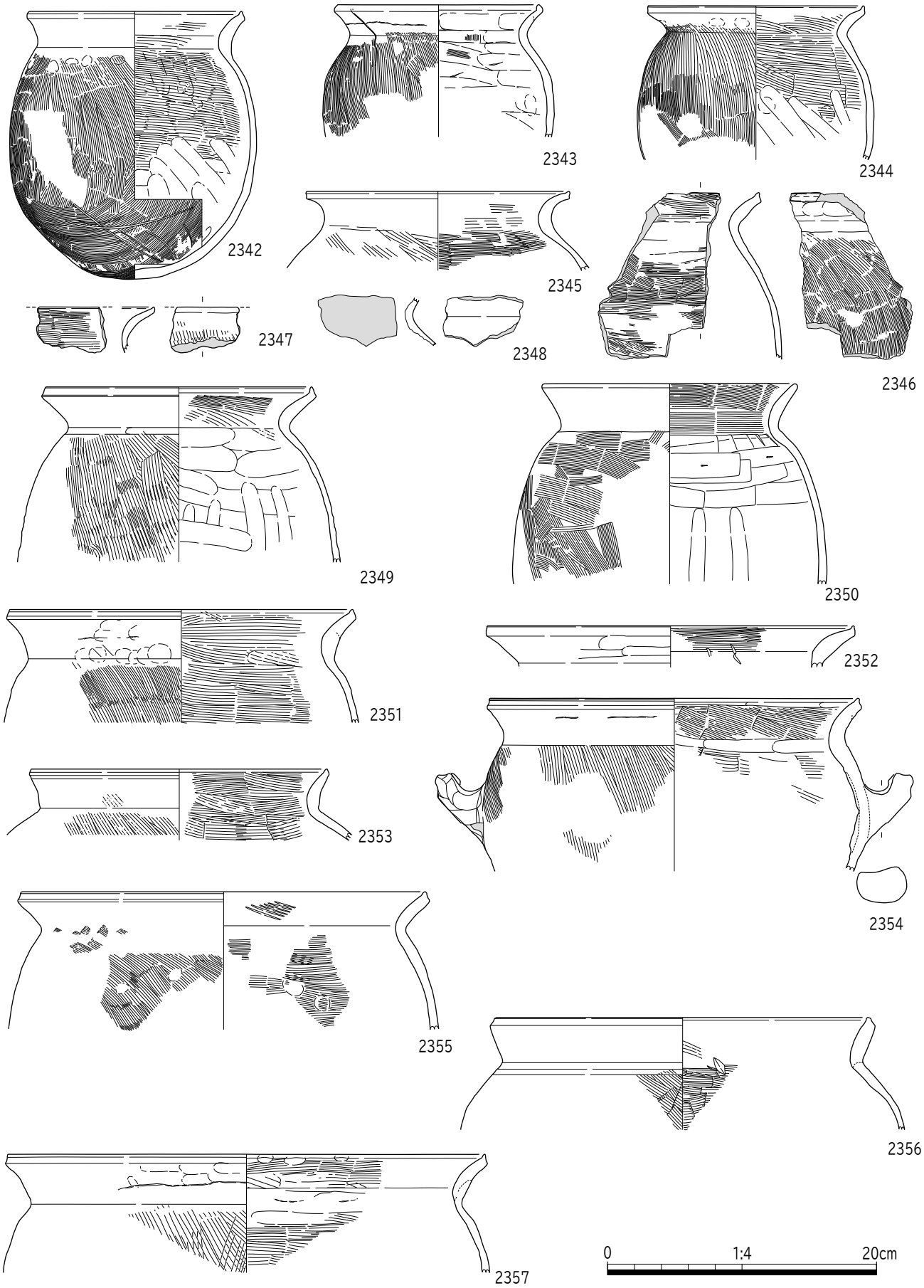


図 284 01495SM 出土遺物実測図 (3)

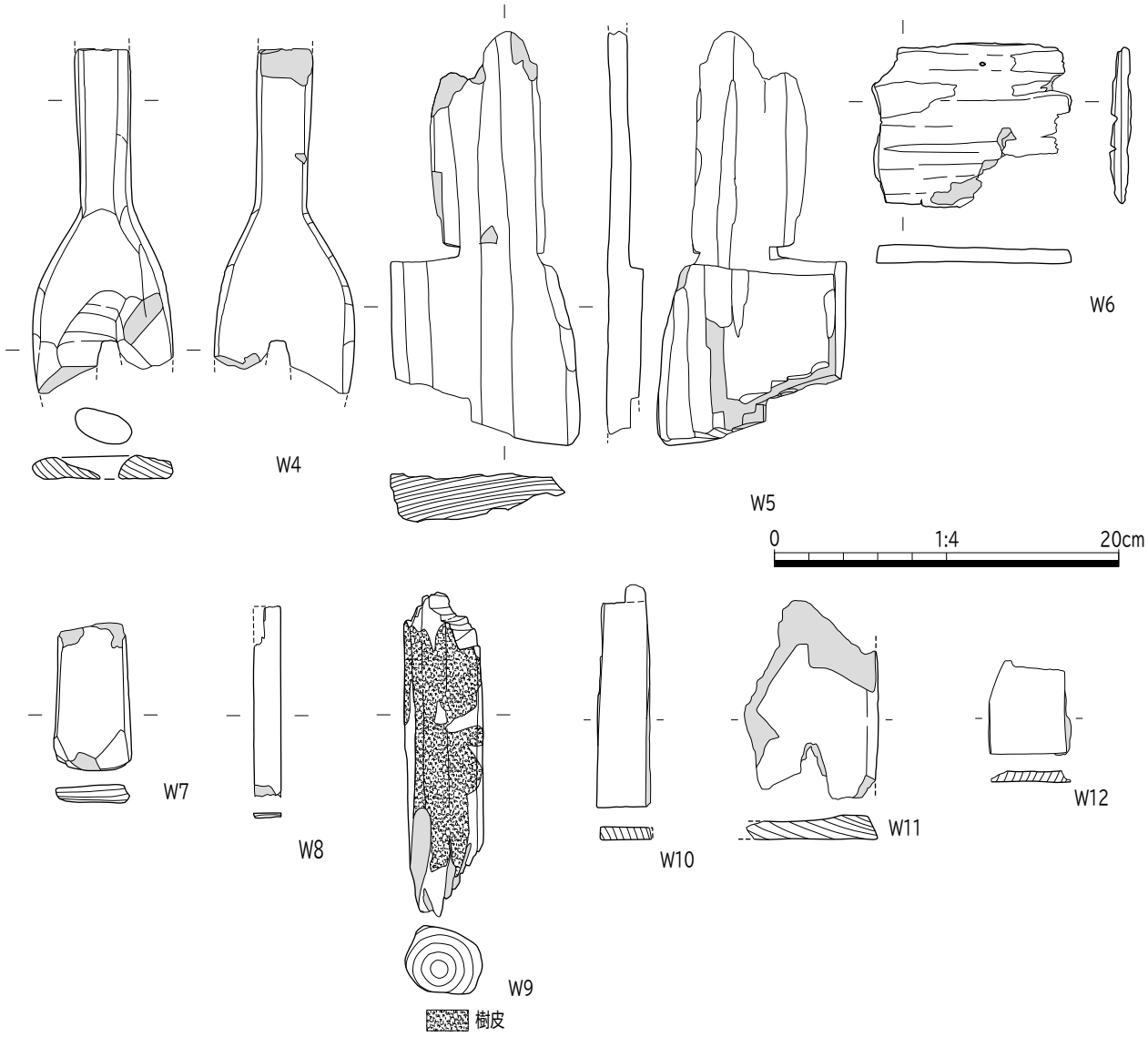


図 285 01495SM 出土遺物実測図 (4)

後半とみられる。2355 は大口径と推定されるので鍋である。口縁端部を上方に摘み上げるのが特徴の型式で、胴部内外面の細かいハケ目調整痕とともに、尾張地域では伊勢型土師器甕として位置づけられている。当該土器の付着炭化物を試料として放射性炭素年代測定を行った(測定番号 PLD-52448)。2 σ暦年代較正で、549-607 cal AD (89.12%) と 623-637 cal AD (6.33%) という数値年代が得られた。概ね 6 世紀後半～ 7 世紀初頭および 7 世紀前葉となる。

木製品は器種が判別可能なものは少なく、不明か端材が主体である。W4 は曲柄二又鍬の破片 (幅 10.6cm、樹種:コナラ属アカガシ亜属)、W5･6 は板状不明品 (樹種:マツ属複維管束亜属)、W7 は端部を面取したヘラ状不明品(樹種:コナラ属アカガシ亜属)、W9 は樹皮の残る杭(直径 4.5cm、樹種：コナラ属アカガシ亜属)。W8・10・11・12 の細板状不明品も何らかの容器や掘削具の破片の可能性がある。また貝層の周縁で編み籠 (W25、d-01992) が出土している。網代編みで四つ目籠をそのまま廃棄したものか。

02116SM 調査範囲北部 (22B 区) の 00900NR 左岸の法面で検出された貝層である。00900NR の埋土を重機掘削中に、黒褐色シルト層中に貝類の散布が確認された。平面形は河道の方向に長軸となる歪な楕円形で、長軸約 6.6m、短軸約 3.3m の範囲である。一方厚さはほとんど

なく 5cm 以下で、おそらく 00900NR の水流に面していたために削剥されたもの考えられる。

02116SM についても貝類を含む土をサンプリングして土壌洗別の後に貝類の集計を行った（表 5）。土は遺構の規模が小さいので約 2.0kg である。01495SM と同じく 1mm メッシュの篩掛けで洗別で得られた試料である。それによれば、個体の判別ができたものはマガキ 2 点（12.6g）、ハマグリ 89 点（208.7g）、ヤマトシジミ 16 点（34.3g）が目立ち、それ以外に少量ずつではあるがサルボウ、オオノガイ、シオフキガイ、フジツボ、アカニシガイ、ウミニナ、スガイと多種が確認できた。これらは干潟で採取される貝類で、名城公園遺跡の位置から西方に河川を下った近隣にこのような環境があったと考えられる。また、貝類の多種性は 01495SM とは対照的で、02116SM の貝層を形成した主体（集落の住人）とは食生活環境が異なっていたことをうかがわせる。特に後者は商品として流通していたものの可能性もあるが、古墳時代における貝類採取の状況について他の事例と比較する必要がある。

先述のような遺構の検出状況なので、02116SM の貝層中から出土した遺物はない。しかし遺構検出時に遺構面に存在した土器は関連が強いと考えられる。3804 は須恵器の高杯脚部でおそらく長脚 2 段透かし、3806 も須恵器で広口壺。ややなで肩の器形と肩部の凹線が型式的な古さを示している。これらは H-15 号窯式期で 7 世紀前葉とみられる。

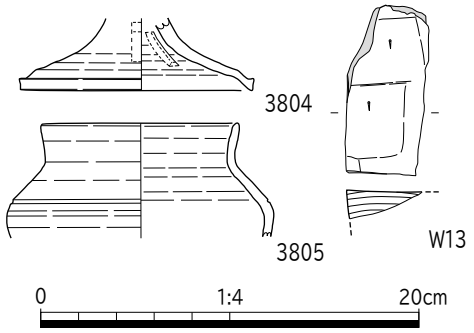


図 286 02116SM 出土遺物実測図

木製品は付近の 00900NR や 01700NR 内から大型のものが出土しており、厚みのある板材（W13）もむしろそちらに関連するものかもしれない。須恵器と同様に検出面で出土している。手斧による加工痕がある。樹種はヒノキと考えられる。

01700NR　調査範囲の中央部（21Ba 区と 21Ca 区の境）で奈良時代以降に開削された 00001SD が 00900NR から分岐する。00001SD は幅約 10m 以上の規模であるから、河道が 2 つに分離したような景観となる。その間は、取り残された基盤層が中洲状に伸び、その上面は幅約 10m に満たない狭い範囲で遺構が検出されている。大半は 00001SD 開削前の 6 ～ 7 世紀とみられる。その基盤層は、調査範囲南部（21Ba 区）とは異なり、粘土質の強い黒褐色シルトである。先述した 02116SM も同層中から上面

表 5 02116SM 出土貝類集計表 ※大型植物遺体を除く

種別	総個数	総重量(g)	左 個数	左 重さ(g)	右 個数	右 重さ(g)	その他 個数	その他 重さ(g)	残り 重さ(g)
マガキ	2	12.6	2	1.0	-	-	-	-	11.6
ハマグリ	89	208.7	21	21.4	42	36.3	26	3.8	147.2
ヤマトシジミ	16	34.3	6	4.5	10	9.8	-	-	20.0
サルボウ	1	0.7	-	-	1	0.6	-	-	0.1
オオノガイ	1	0.3	-	-	1	0.3	-	-	-
シオフキガイ	3	1.9	1	0.2	2	1.7	-	-	-
フジツボ	1	0.1	-	-	-	-	-	-	-
アカニシガイ	1	0.3	-	-	-	-	-	-	-
ウミニナ	4	3.4	-	-	-	-	-	-	-
スガイ	1	0.1	-	-	-	-	-	-	-
その他貝	-	1.8	-	-	-	-	-	-	-
残貝	-	-	-	-	-	-	-	-	-
種実	-	0.8	-	-	-	-	-	-	-
植物	-	2.9	-	-	-	-	-	-	-
土器/石	-	491.6	-	-	-	-	-	-	-
土器	-	42.8	-	-	-	-	-	-	-
軽石	-	-	-	-	-	-	-	-	-

に形成された遺構であるが、出土遺物の時期から 7 世紀前葉段階には当該地点が河岸になっていたと考えられる。

そして調査範囲南部と異なる状況が、多量の礫の堆積である。土層断面（図 288）によれば、7・10 層で 15㎜～ 25㎜ の中礫が多量に含まれており、調査範囲南部の 00900NR でシルトが主体的になっているのとは対照的である。そこで本発掘調査では、00001SD が分岐した後の 00900NR の層中で直径 15 ～ 25㎜ の中礫を多く含む層に着目して、その分布域を 22B 区の T01 までの範囲で検出した。すると 00900NR の面積のうち約半分を占める礫層の分布が確認できた。またその分布は、時折 00900NR の右岸側に張り出すような箇所があることもわかった。このような礫の分布やその張り出しの範囲を 01700NR として 00900NR とは区別する。

01700NR の成因は、河道の曲線部においてその外側に向かって遠心力が働き、それによって水流が強まってシルトや砂は押し流され、結果的に重量物である礫が取り残されて溜まっていくためである。このことは、先述の礫層（7・10 層）が河道曲線部の外側で厚くなっていることからも認められ、自然現象の痕跡として理解される。

出土遺物は、比較的完形に近い須恵器の杯蓋・杯身に混じって同じく残存状況の良い甕もみられる。また木製品も比較的大きな板や柱が出土しており、激しい水流によって上流から流れ着いた可能性もあろう（図 289 ～ 293）。なお、00900NR の出土遺物として第 6 章で報告する大型木製槽（田舟）については、平面的には礫分布域に該当するが、出土状況が礫層より下層であることから 01700NR での出土状況とは一線を画する。

須恵器杯蓋（2358 ～ 2363）は稜線の明瞭な器形や大口径（2361 ～ 2363）であるから H-61 号窯式期～ H-44 号窯式期となる。2364 は高杯の蓋で、外面に条線状と

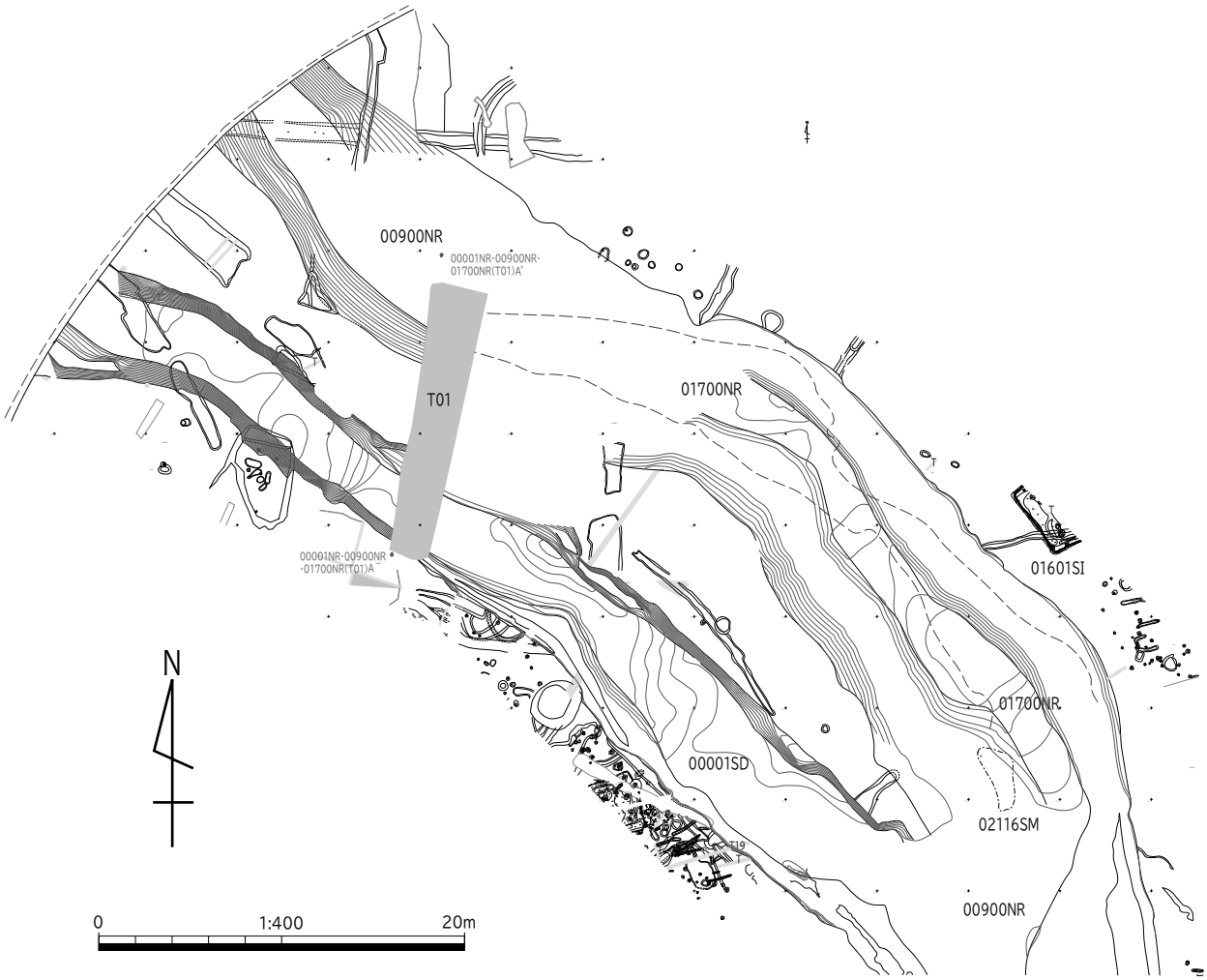
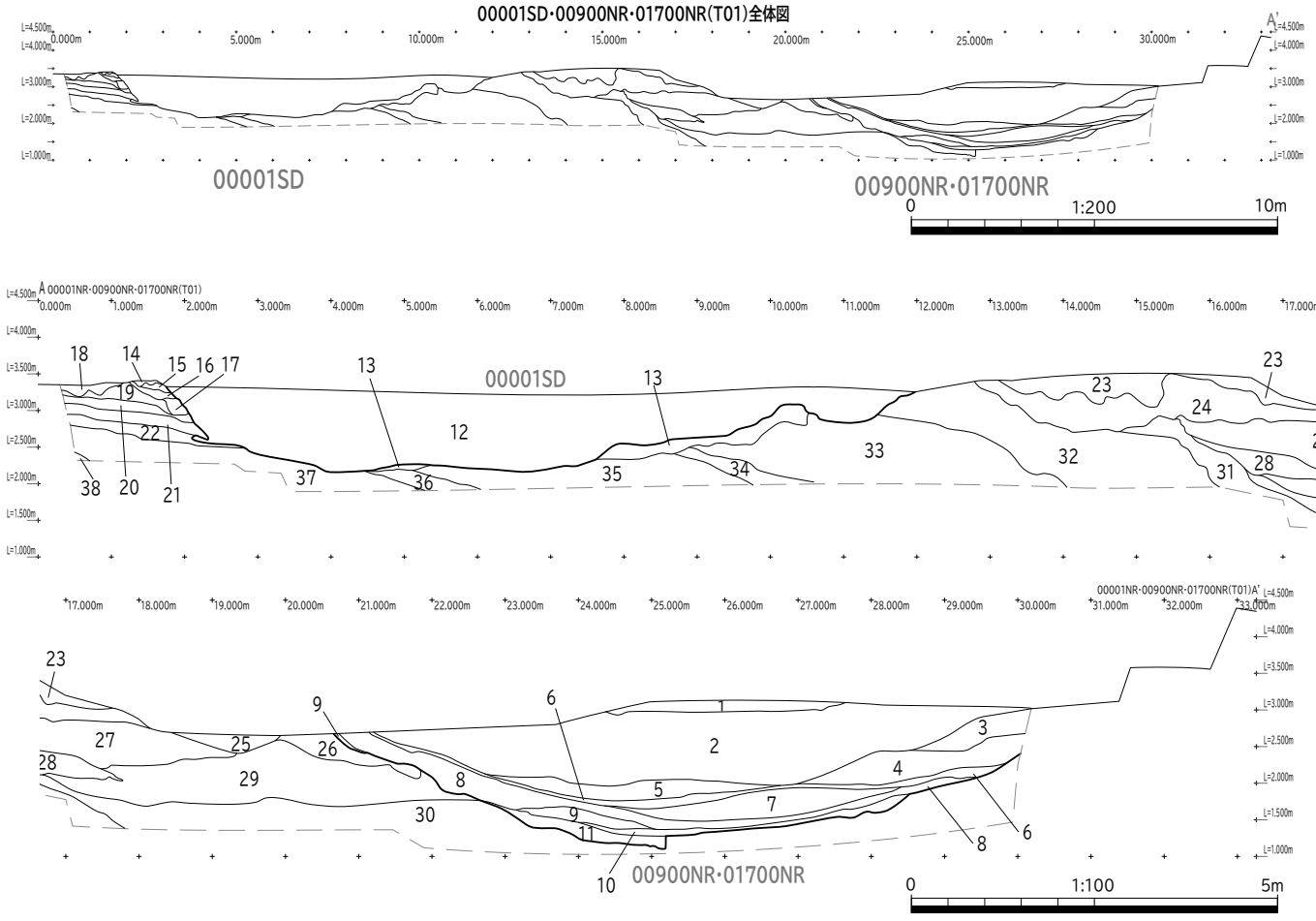


図 287 00900NR・01700NR 遺構図



1. 2.5Y5/2暗灰黄色粘土質シルト(中粒～粗粒砂含む。00900NR・01700NR)
2. 5Y8/1灰白色極細粒砂～φ15mm以下礫(級化構造。葉層・薄層あり。00900NR・01700NR)
3. 5Y8/1灰白色極細粒砂～φ10mm以下礫(級化構造。葉層・薄層あり。00900NR・01700NR)
4. 5Y8/1灰白色シルト～極細粒砂(級化構造。葉層・薄層あり。00900NR・01700NR)
5. 2.5Y8/2灰白色極細粒砂(00900NR・01700NR)
6. 2.5Y3/2黒褐色砂質シルト(2.5Y7/2灰黄色極細粒砂を帯状に含む。00900NR・01700NR)
7. 2.5Y8/2灰白色シルト～極粗粒砂(級化構造。葉層・薄層あり。極粗粒砂の葉層にφ15mm以下の礫を含む。00900NR・01700NR)
8. 2.5Y3/1黒褐色粘土質シルト(砂脈あり。2.5Y8/1灰白色極細粒砂を少し含む。00900NR・01700NR)
9. 7.5Y5/2灰オリーブ色砂質シルト(00900NR・01700NR)
10. 2.5Y8/1灰白色粗粒砂～φ25mm以下礫(上部に酸化鉄の沈着あり。00900NR・01700NR)
11. 7.5Y3/1オリーブ黒色粘土質シルト(00900NR・01700NR)
12. 5Y8/1灰白色細粒砂～φ12mm以下礫(級化構造。葉層・薄層あり。酸化鉄の沈着が部分的にあり。00001SD)
13. 5Y4/1灰色粘土と12層の混層(00001SD)
14. 2.5Y8/1灰色砂質シルト
15. 5Y4/1灰色粘土(鉄斑少ない)
16. 5Y5/2灰オリーブ色シルト(鉄斑少ない)
17. 5Y5/1灰色シルト(鉄斑あり)
18. 5Y5/1灰色シルトと7.5Y6/2灰オリーブ色シルトの混層(鉄斑あり)
19. 7.5Y6/2灰オリーブ色シルト(鉄斑あり)
20. 5Y5/2灰オリーブ色シルト(鉄斑あり)
21. 5Y5/1灰色シルト(鉄斑あり。炭化物少し含む)
22. 5Y5/3灰オリーブ色砂質シルト(鉄斑あり)
23. 5Y8/1灰白色細粒砂～φ10mm以下礫(級化構造。葉層・薄層あり。7.5Y6/2灰オリーブ色シルトブロック含む)
24. 5Y5/2灰オリーブ色シルト(鉄斑あり。5Y7/3浅黄色極細粒砂含む)
25. 10Y5/1灰色シルト(鉄斑少ない)
26. 5Y7/2灰白色細粒砂と7.5Y5/1灰色シルトの互層(葉層あり。酸化鉄の沈着あり)
27. 2.5Y8/2灰白色細粒～中粒砂と10Y5/1灰色シルトの互層(酸化鉄の沈着あり)
28. 2.5Y8/2灰白色細粒～中粒砂と7.5Y6/1灰色シルトの互層(酸化鉄の沈着あり)
29. 5Y8/1灰白色細粒～φ8mm以下礫(級化構造。葉層・薄層あり)
30. 7.5Y8/1灰白色中粒砂～φ25mm以下礫(級化構造。葉層・薄層あり)
31. 2.5Y8/2灰白色極細粒砂(葉層あり。5Y5/2灰オリーブ色シルトを互層に少し含む)
32. 5Y7/2灰白色極細粒砂と5Y5/2灰オリーブ色砂質シルトの互層(葉層あり)
33. 5Y7/2灰白色極細粒砂と5Y5/2灰オリーブ色砂質シルトの互層(葉層あり)
34. 5Y7/2灰白色極細粒砂(炭化物少し含む)
35. 7.5Y5/1灰色シルトと5Y7/2灰白色細粒砂の互層(級化構造。葉層・薄層あり)
36. 5Y7/2灰白色極細粒砂と5Y5/2灰オリーブ色砂質シルトの互層(葉層あり)
37. 7.5Y5/1灰色シルトと5Y7/2灰白色細粒砂の互層(級化構造。葉層・薄層あり)
38. 5Y4/1灰色シルトと5Y7/2灰白色極細粒砂の互層

図 288　T1（00900NR・01700NR）土層断面図

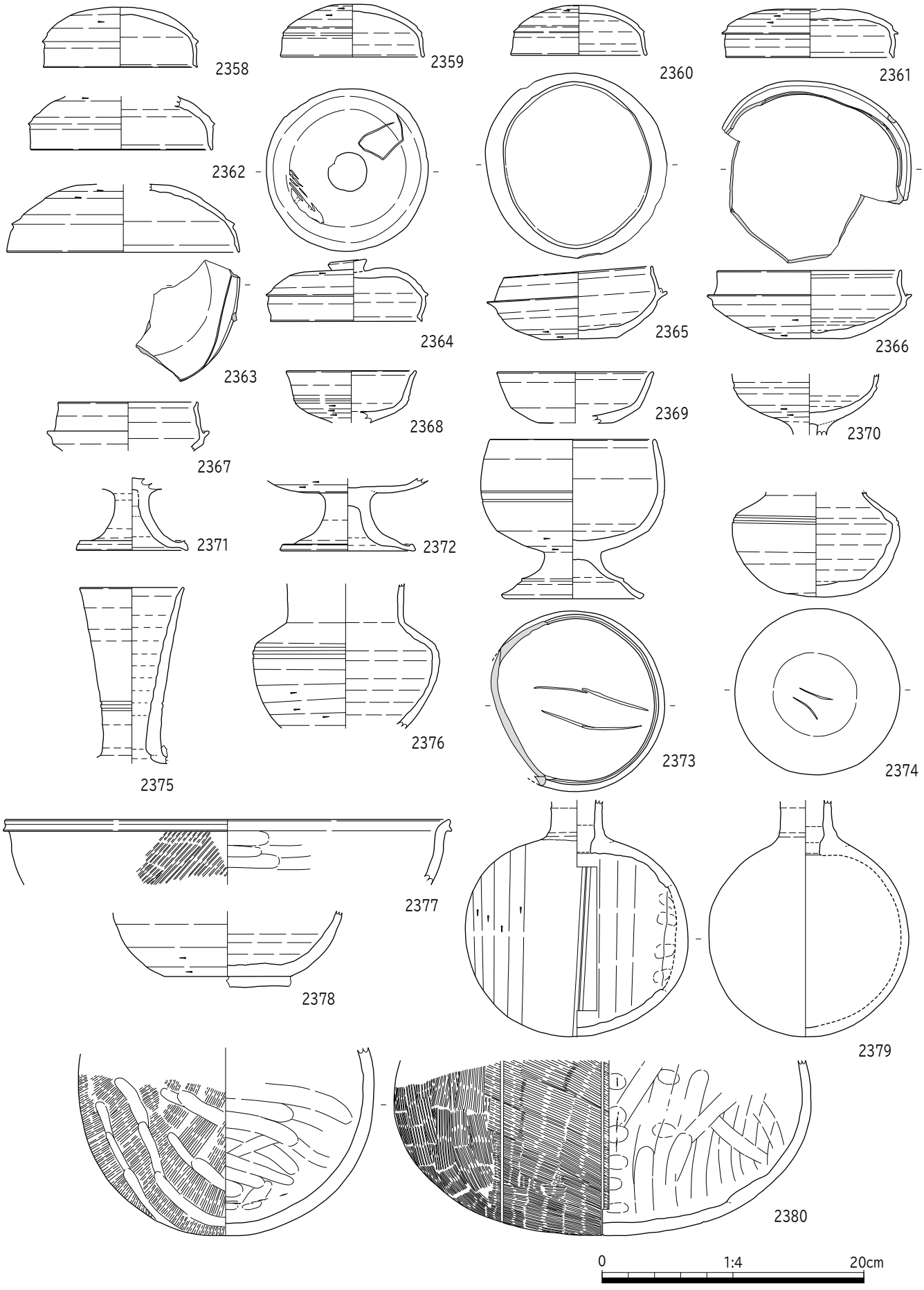


図 289 01700NR 出土遺物実測図 (1)

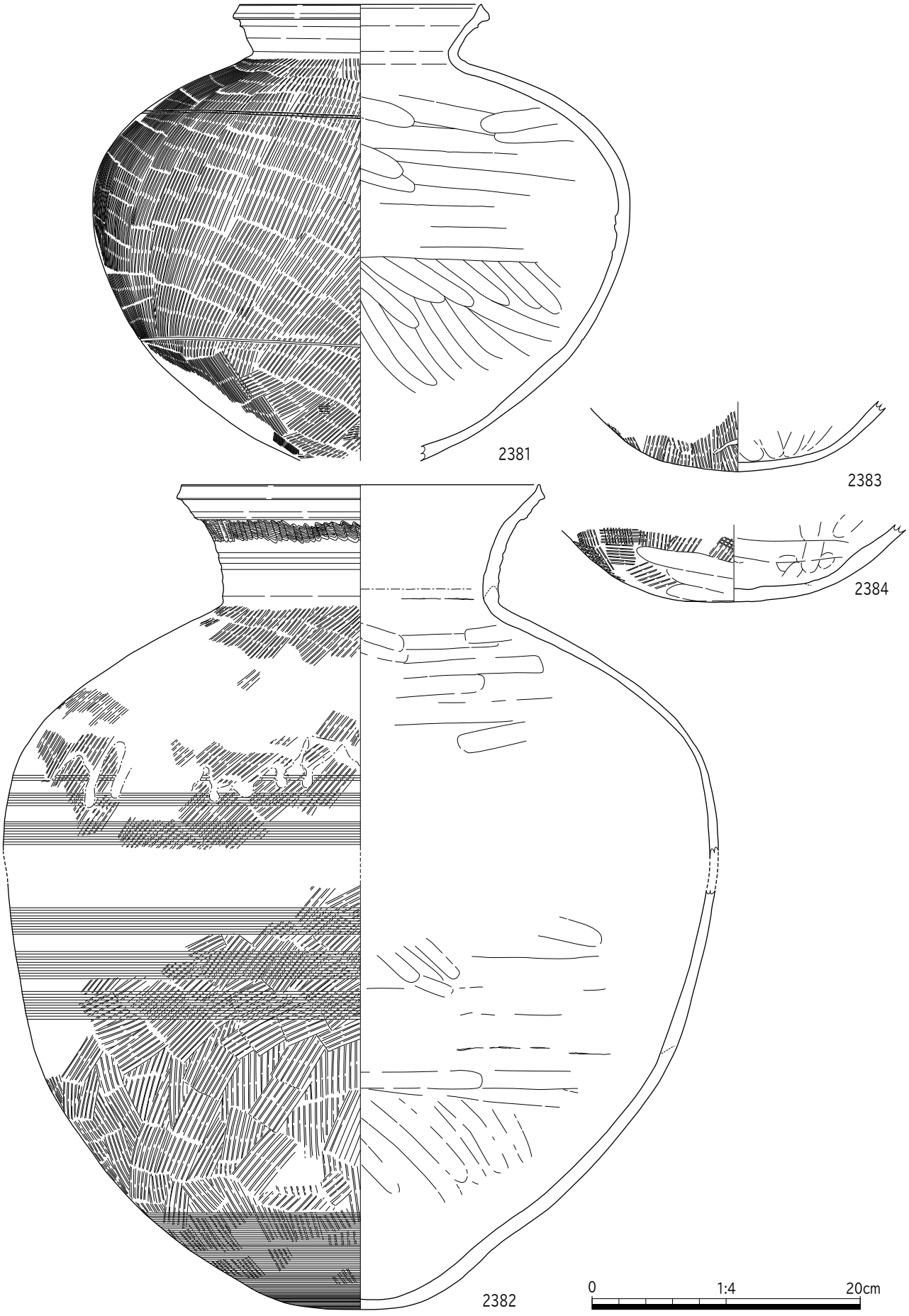


図 290　01700NR 出土遺物実測図 (2)

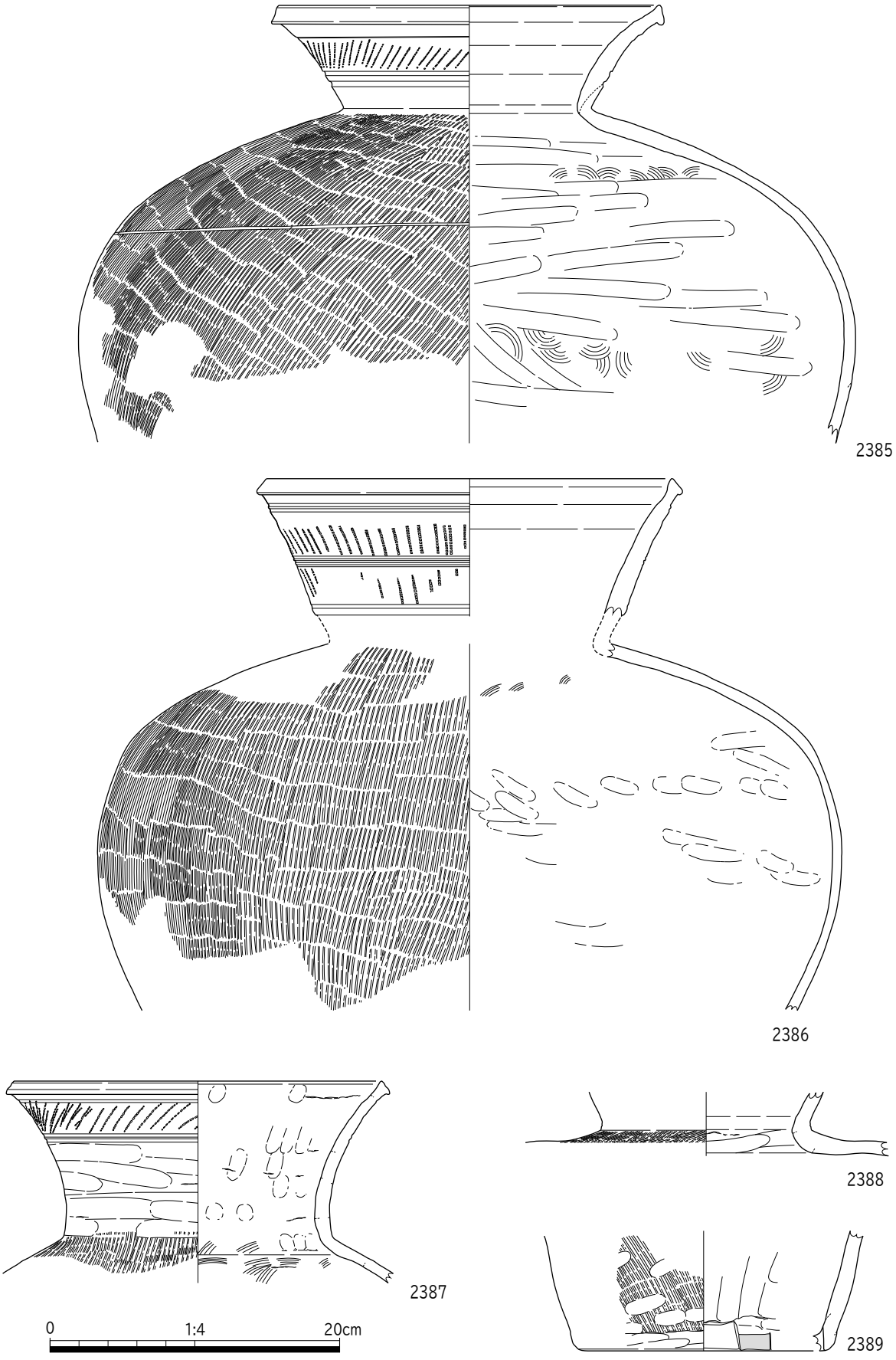


図 291 01700NR 出土遺物実測図 (3)

口の字形の線刻が焼成前になされている。正位置で視認できる場所であるから、高杯の用途に関わる何らかの図象とも考えられる。2365 ～ 2367 は杯身で、上から見ると 2365 は楕円形、2366 は隅丸正方形になるように焼成段階で変形させている。2368 ～ 2372 は高杯で無蓋(2369)も含まれる。このことから 7 世紀まで時期幅があることになる。2373 は内湾形の鉢部に台が付いた台付鉢である。内面に 2 本の線を 2 回に分けて線刻されている。2378 は焼台が釉着したものか。2379 はフラスコ形瓶で 7 世紀後半、2380 は横瓶である。2375 は瓶類の口縁部だが、器高が高く凹線 2 条が廻る。2381 は底部を上にしてシルト・砂層に対して逆位となって出土している。内面は鉄分が多いシルト・砂が付着して赤錆色に染まっている。2382 は上・下それぞれの破片の間で接合点は見出せなかったものの、超特大とでも呼べそうな、型式である。口縁部に波状文、胴部に櫛歯状工具で横方向に施文した条線が多数廻る。2385 ～ 2387 も大甕であるが直線的に外反する長い口縁部は概ね 7 世紀代とみられる、このように大甕が目立つが、甕だけが流されて溜まる理由はないので、付近に大甕を比較的よく使う場所が

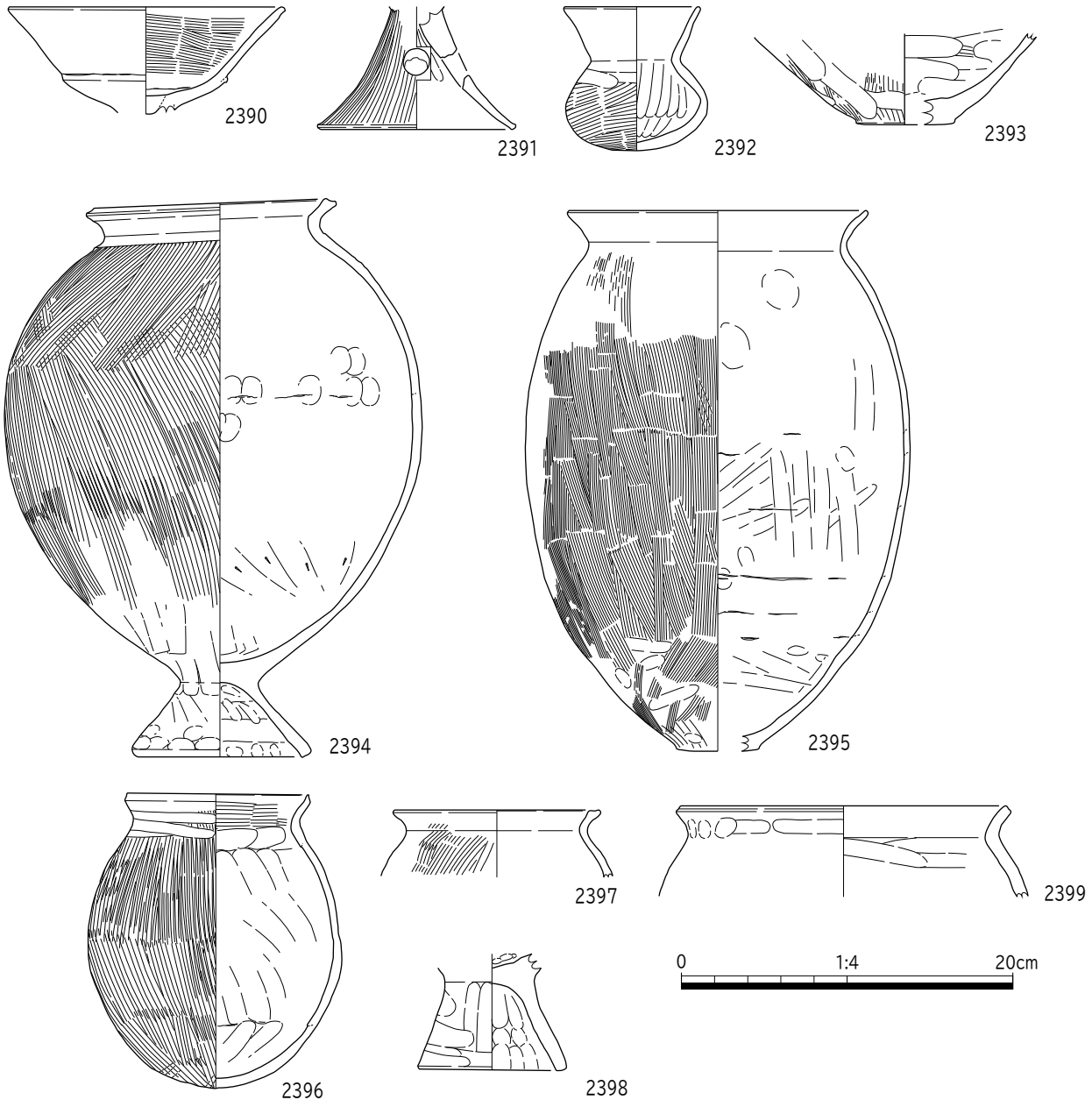


図 292　01700NR 出土遺物実測図 (4)

あったのかもしれない。その視点で周囲の微高地上を概観すると、00900NR 右岸には区画溝をともなう大型竪穴建物跡 01601SI が立地している。また総柱の掘立柱建物跡 01190SB も近接する。こういった特異な建物や施設で使用されたものが廃棄された可能性も考える必要がある。したがって、他に遺構では比較的よく出土する甑は 01700NR からは 1 点のみである。

2390 は古墳時代前期の屈折脚高杯の脚部で杯部内面は横方向のハケ目調整痕がある。2392 は小型丸底壺で 2390 と同じ時期か。2393 は土師器平底甕の底部。2394 は宇田型台付甕、2395 が平底の長胴甕であるが口縁はくの字屈曲で直線気味に外反し、胴部半ばに最大径のある胴張り形である。器壁の厚さは宇田型甕より若干薄く、ハケ目調整痕の 1 単位が小さく、向きもばらつきがある。2396 は丸底の小型甕で、上部に摘み上げられた口縁部が特徴。外面のハケ目と内面の指ナデがともに一定方向で長さも揃っていて製作に手慣れた感がある。

2394 と 2395 は外面に付着する炭化物を試料として放射性炭素年代測定を行った。2394（測定番号 PLD-54960）は 2 σ暦年代較正で、435-465 cal AD(12.52%)、475-501 cal AD（14.92%)、506-517 cal AD（2.32%)、529-594 cal AD（65.69%）という数値年代、2395（測定番号 PLD-54961）は 2 σ暦年代較正で、424-541 cal AD（95.45%）という数値年代をそれぞれ得られた。2395 は 5 世紀中葉～ 6 世紀半ばであり、特徴に乏しい平底で胴張り形のハケ目調整甕であるが、古墳時代中期と位置づけられるようである。

木製品は、02116SM より北側の黒褐色粘土質シルトに食い込むようにして出土している。W10 は底板が楕円形の容器。側板を固定する樹皮が残存している。底板の全長は 68.5cm、推定幅 19.4cm、厚さ 1.2cm で、両端に推定幅 9.2cm の方形突出部がある。位置的に把手を思わせる。樹種はヒノキ。 W11 は残存長 80.4cm、同幅 17.1cm、厚さ 2.9cm の板材である。全体的に腐朽が進んでおり、表面の加工痕は不明である。樹種はマツ属複維管束亜属である。W12 は残存長 146.4cm、直径 8.3cm の円柱で樹皮は残存していない。片方の端部は平らに加工されている以外は顕著な加工痕はない。樹種はヒノキ。W13 はもとは直径 9.0cm の柱根端部とみられ、下部の円錐形に面取りした部分が本来の形状で、上部は柱を切断したものであろう。W14 は幅 10.9cm、厚さ 2.6cm の板材の一部で、建築部材だったものを矢板に転用したものかもしれない。

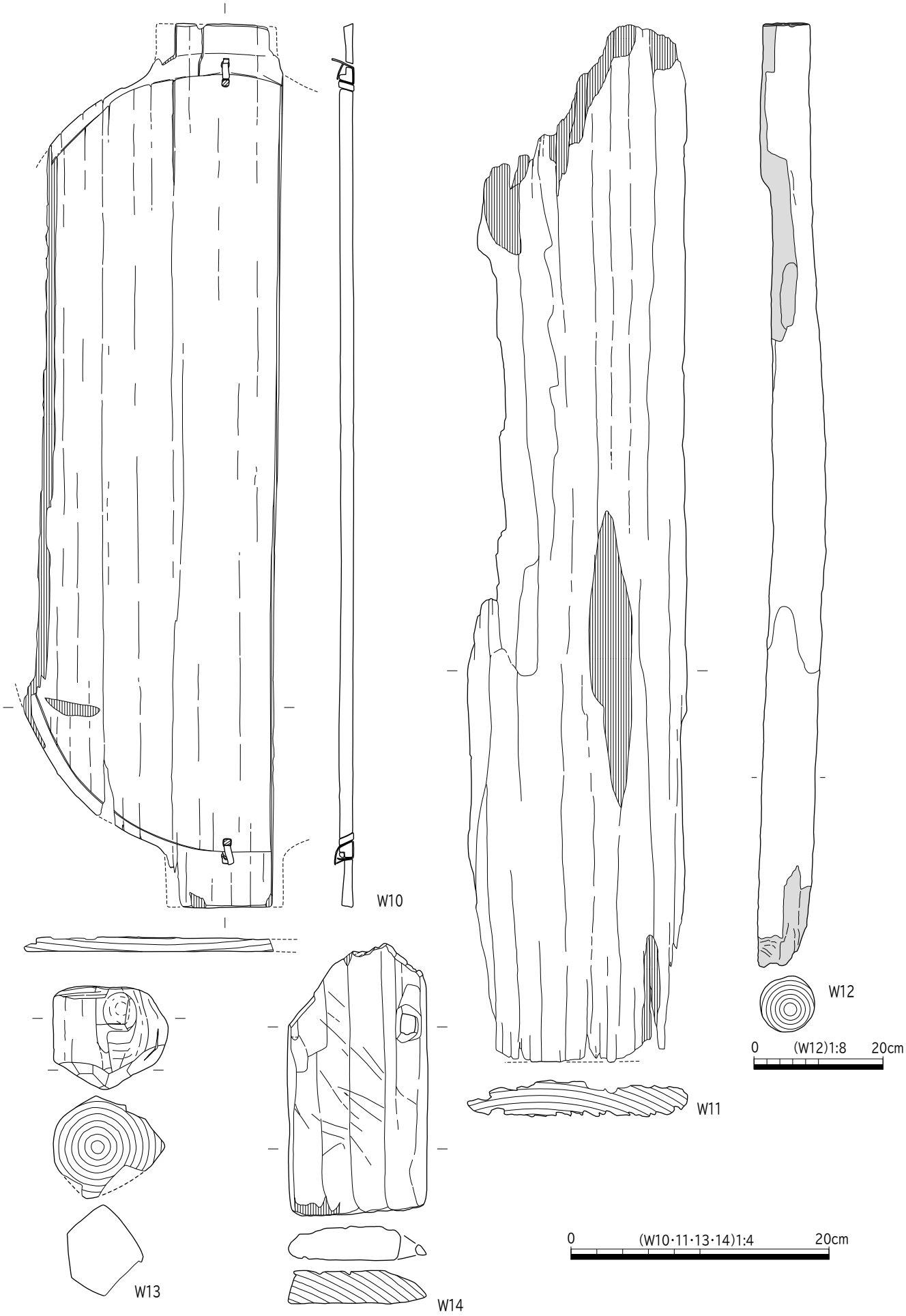


図 293 01700NR 出土遺物実測図 (5)